

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

①校舎棟解体工事			②ポンプ室解体工事			③プール棟解体工事			④屋内運動場棟復旧工事		
T- 00	表紙・図面リスト	G-101	外構図	A-201	ポンプ・電気室棟 構造図	A-301	仕様書	CS-10	建築改修工事仕様書 その1	M-401	屋外配管図（撤去）
CS- 1	解体工事仕様書 その1	G-102	外構図（撤去後）			A-302	仕上表	CS-11	建築改修工事仕様書 その2	M-402	屋外配管図（改修）
CS- 2	解体工事仕様書 その2	G-103	仮設計計画図	S-201	ポンプ・電気室棟 構造図	A-303	平面図	CS-12	建築改修工事仕様書 その3	M-403	1階平面図
						A-304	ﾌｰﾙ本体 平面図	CS-13	建築改修工事仕様書 その4		
						A-305	ﾌｰﾙサイト 平面図 断面図	CS-14	建築工事仕様書 その1		
A-101	案内図・配置図	M-101	工事仕様書（機械設備）1	M-201	給排水衛生設備 詳細図	A-306	断面図	CS-15	建築工事仕様書 その2	E-401	配置図
A-102	仕上表	M-102	工事仕様書（機械設備）2			A-307	立面図・建具表	CS-16	建築工事仕様書 その3	E-402	撤去 照明設備 1階平面図
A-103	1階平面図	M-103	工事仕様書（機械設備）3			A-308	矩計図・ﾀｯｶｳﾝﾀｰ図	CS-17	建築工事仕様書 その4	E-403	改修後 照明設備 1階平面図
A-104	2階平面図	M-104	空調設備 機器表	E-201	撤去 電気設備	A-309	平面詳細図①	CS-18	建築工事仕様書 その5	E-404	撤去・改修後 照明設備 2階平面図
A-105	3階平面図	M-105	空調設備 1階平面図（配管）	E-202	撤去 キュービクル単線結線図・盤結線図	A-310	平面詳細図②・断面詳細図	CS-19	建築工事仕様書 その6	E-405	撤去 弱電設備 1階平面図
A-106	立面図 1	M-106	空調設備 2階平面図（配管）	E-203	ポンプ室 撤去 動力設備 平面図	A-311	平面詳細図③・断面図	A-401	1F平面図（改修前・後）	E-406	撤去 弱電設備 2階平面図
A-107	立面図 2	M-107	空調設備 3階平面図（配管）	E-204	ポンプ室 撤去 動力制御盤	A-312	詳細図①	A-402	2F平面図（改修前・後）	E-407	撤去 防災設備 1階平面図
A-108	断面図	M-108	空調設備 1階平面図（配線）			A-313	詳細図②	A-403	立面図 1	E-408	改修後 防災設備 1階平面図
A-109	矩計図	M-109	空調設備 2階平面図（配線）			A-314	基礎伏図	A-404	立面図 2	E-409	撤去 防災設備 2階平面図
A-110	矩計図 断面詳細図	M-110	空調設備 3階平面図（配線）			A-315	管理棟 基礎伏図・断面詳細図	A-405	平面詳細図（便所）	E-410	改修後 防災設備 2階平面図
A-111	階段 詳細図 1	M-111	給排水衛生設備 配置図					A-406	便所 展開図（改修前）		
A-112	階段 詳細図 2	M-112	器具表、機器一覧表					A-407	便所 展開図（改修後）		
A-113	昇降口 断面詳細図	M-113	給排水衛生設備 系統図			S-301	配筋基準図	A-408	建具表		
A-114	昇降口 平面詳細図	M-114	給排水衛生設備 1階平面図					A-409	全体平面図		
A-115	便所 詳細図・展開図	M-115	給排水衛生設備 2階平面図					A-410	平面図・仕上表		
A-116	保健室、更衣室、用務員室 平面詳細図・展開図	M-116	給排水衛生設備 3階平面図			M-301	給排水衛生設備図	A-411	立面図		
A-117	応接室、職員室 平面詳細図・展開図	M-117	給排水衛生設備 詳細図（1）					A-412	断面図		
A-118	普通教室 平面詳細図・展開図	M-118	給排水衛生設備 詳細図（2）					A-413	屋根伏図・天井伏図		
A-119	厨房付属室廻り 平面詳細図・展開図	M-119	浄化槽設備 詳細図（1）			E-301	プール 撤去 電気設備	A-414	建具・家具リスト図		
A-120	厨房 平面詳細図・展開図	M-120	浄化槽設備 詳細図（2）			E-302	プール 撤去 照明器具姿図	A-415	展開図		
A-121	生徒会室、ｽﾀｼﾞｵ、放送室 平面詳細図・展開図	M-121	浄化槽設備 詳細図（3）					A-416	外構図		
A-122	図書室 平面詳細図・展開図	M-122	暖房・換気設備 1階平面図								
A-123	理科室及び準備室 平面詳細図・展開図	M-123	暖房・換気設備 2階平面図								
A-124	家庭科教室 平面詳細図・展開図	M-124	暖房・換気設備 3階平面図 機器一覧表								
A-125	音楽室及び準備室 平面詳細図・展開図	M-125	暖房・換気設備 詳細図 系統図					S-401	構造設計標準仕様		
A-126	図工室及び準備室 平面詳細図・展開図	M-126	暖房・換気設備 貯油槽詳細図					S-402	鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔1〕		
A-127	天井伏図							S-403	鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕		
A-128	各部詳細図							S-404	鉄骨造標準図〔1〕		
A-129	各部詳細図	E-101	工事仕様書（電気設備）1					S-405	鉄骨造標準図〔2〕		
A-130	エキスパンジョイント詳細	E-102	工事仕様書（電気設備）2					S-406	鉄骨造標準図〔3〕		
A-131	建具 キープラン	E-103	工事仕様書（電気設備）3					S-407	Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準		
A-132	建具表 1	E-104	配置図					S-408	構造図〔1〕		
A-133	建具表 2	E-105	撤去 壁結線図 1					S-409	構造図〔2〕		
A-134	建具表 3	E-106	撤去 壁結線図 2					S-410	構造図〔3〕		
A-135	1階備品配置図	E-107	撤去 壁結線図 3								
A-136	2階備品配置図	E-108	撤去 幹線結線図								
A-137	3階備品配置図	E-109	撤去 幹線・動力・コンセント設備 1階平面図								
A-138	備品リスト 1	E-110	撤去 幹線・動力・コンセント設備 2階平面図								
A-139	備品リスト 2	E-111	撤去 幹線・動力・コンセント設備 3階平面図								
A-140	備品リスト 3	E-112	照明器具姿図								
A-141	備品リスト 4	E-113	撤去 照明設備 1階平面図								
A-142	備品リスト 5	E-114	撤去 照明設備 2階平面図								
		E-115	撤去 照明設備 3階平面図								
		E-116	弱電設備 系統図								
S-101	基礎・地中梁伏図 地中梁リスト他	E-117	撤去 弱電設備 機器姿図								
S-102	基礎・スラブリスト 他	E-118	撤去 弱電設備 1階平面図								
S-103	F L 配筋・芯関係図	E-119	撤去 弱電設備 2階平面図								
S-104	2～R階梁伏図	E-120	撤去 弱電設備 3階平面図								
S-105	各通り軸組図(X方向)	E-121	火災報知器 系統図								
S-106	各通り軸組図(Y方向)	E-122	撤去 火災報知器 1階平面図								
S-107	柱・梁・桁・ブレース・スラブリスト	E-123	撤去 火災報知器 2階平面図								
S-108	梁継手リスト 溶接工作基準図	E-124	撤去 火災報知器 3階平面図								
S-109	C´・7 通り鉄骨詳細図										
S-110	T 梁鉄骨詳細図 他										
S-111	8´・B 通り鉄骨詳細図 他										

監修

輪島市教育委員会教育総務課

年 月 日



株式会社 **MAC**建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE

2025. 12

■担当/CHECK

T. NAKAMURA

■製図/DRAWER

T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

表 紙

■縮尺/SCALE

No scale

■図番/No.

T ー 00

解体工事仕様書		最終改訂 令和7年10月1日
I 工事概要		
1 工事名	旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	
2 工事場所	鶴島市 横地町 地内	
3 工事種目	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■校舎棟（S造3階建）・ポンプ室棟（C造1階建）・プール棟（C造1階建）：延床面積3,101.18m²</p> <p>■建物の解体、機械設備（関連設備含む）の解体、電気設備（関連設備含む）の解体</p> <p>■残置物撤去、ピアノ等移設</p> <p>■付帯・外構</p> <p>■建物廻り土間・舗装、階段一式など</p> </div>	
4 完成期日	令和 年 月 日 (余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。)	
5 別契約関連工事		
II 工事仕様		
<p>1. 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書」（令和4年版）（以下「解体体共仕」という。）により、解体体共に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書」（令和4年版）（以下「改修標仕」という。）及び国土交通大臣官房官営繕部監修「公共建築工事標準仕様書」（令和4年版）（以下「標仕」という。）による。</p> <p>2. 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（ ）図、機械設備工事の工事仕様書は（ ）図による。</p> <p>3. 解体部と既存部との取合工事の仕様は、別紙「建築改修工事仕様書」による。</p> <p>4. 本工事は、この仕様書（解体工事）に基づきほか、下記の関連法令等に基づき施工する。</p> <p>1）建設業法</p> <p>2）建築基準法</p> <p>3）労働安全衛生法</p> <p>4）廃棄物の処理及び清掃に関する法律</p> <p>5）建設に係る資源の再資源化に関する法律（建設リサイクル法）</p> <p>6）建築工事安全施工技術指針（国土交通省大臣官房官営繕部）</p> <p>7）建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン（国土交通省住宅局長ほか）</p> <p>8）特記製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）</p> <p>9）特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）</p> <p>10）国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）</p> <p>5. 特記事項</p> <p>1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。</p> <p>2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。</p> <p>3）特記事項に記載の＜ ＞内表示番号は、「解体体共仕」の該当項目を示す。</p> <p>4）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「標仕」の該当項目・図・表を示す。</p> <p>5）特記事項に記載の[]内表示番号は「改修標仕」の当該項目・図・表を示す。</p> <p>6）斜線で消去した章は適用しない。</p>		

1 章 一 般 共 通 事 項	
項	目
①	適用範囲 この仕様書は解体工事に適用する。
②	適用基準等 ・営繕工事写真撮影要領（令和3年版）（国土交通大臣官房官庁営繕部）
③	工事実績情報の登録 ※ 登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。） [1.1.4] <1.1.4>
④	施工の立会い等 請負契約款第14条第2項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。 ・吹付石綿材等「特別管理産業廃棄物」の除去及び最終処理 <1.6.5> ・内装の解体 ・躯体の解体 その他監督員等の指示するもの
⑤	発生材の処理 1) 産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により搬送し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。 また、処分の際には産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。 2) 発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調査を添えて監督員に引き渡す。 [1.3.12] <1.3.10> イ) 引渡しを要するもの及び引渡し場所 ・引渡を要するもの ・引渡し場所 ロ) 特別管理産業廃棄物の有無 ・有 ・無 ハ) 特別管理産業廃棄物の処理方法 ※図面 番 図参照 3) 発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは下記による。 ・現場で再利用を図るもの ・ ・再資源化を図るもの ・ 4) セットボードの処理（有害物質非含有のものに限る） [1.3.12] ・最終処分 ・再資源化 5) PCB含有シーリング材 [1.3.12] 分析調査 ・する ※しない 6) 建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無 ・有 ・無
⑥	施工条件 ① 安全対策 [1.3.5] <1.3.5> イ) 交通安全施設の設置 ・設置する ロ) 交通整理員の配置 ・配置する ハ) 施工時間帯の制限 ※打合せによる ・ 時～ 時 ホ) 鉄道、ガス、電気、電話、水道等の施設と近接する工事での施工方法、施工時間、安全対策措置 ・施工方法 ・施工時間 ・安全対策 ヘ) その他の安全対策 ・施設利用者の安全に配慮した対策をとること
⑦	保険 ① 請負契約約款第49条に定める火災保険等は、次のものとする。 ※建設工事保険又は相立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く） ② その他の保険 ・賠償責任保険 ③ 加入期間 引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

工事写真等の記録

1) 工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和3年版）(国土交通省大臣官庁官庁営繕部)により整備し、下記により提出する。また、本仕様書の「第1章20電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各区分の写真は、A4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

区 分	分 類	大 き さ	撮 影 枚 数	部 数
着 工 前	※カラー	※100×148程度	※ 景以上	※ 1部
工 事 中	※カラー	※85×115程度	※解体工程毎 景以上	※ 1部
完 成 時	※カラー	※100×148程度	※ 景以上	※ 1部

2) 写真はスクラップブック（A4版）に順序よく、説明事項を記入のうえ、所定の部数を提出する。
3) 監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

工事報告書

工事の進捗度表、作業員の出席報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末末に提出する。

敷地状況の確認

着工に先立ち、地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がないか関係機関の協力を得て確認し、報告すると共に事故を未然に防ぐよう留意する。

隣接建物または工作物の調査

※行方不明 行わない

工事現場の揭示板

工事現場には、下記揭示板を設置する。（記入例）

90cm

工 事 名	
工 期 自 年 月 日 ～ 至 年 月 日	
発注者	石 川 県 土 木 部 営 繕 課
(監 修)	(設 計)
設 計	監 理
監 理	施 工 解 体（業者名を記入する）
施 工	電 気（業者名を記入する）
	給排水（業者名を記入する）
この工事は、週休2日に取り組んでいます	

60cm (75cm)

(注意事項)
①（監 修）内は、監修を委託した場合。
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
③工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

名札の着帯

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（但し、請求額1,000万円以上の工事）

17mm

10mm

10mm

18mm

○建設（株）社員証

氏 名	△ △ 太 郎
発行日	令和〇年〇月〇日

代表者 □ □ 建 一

代表印

(顔写真)

カラー写真

貼 付

2mm

13mm

42mm

2mm

30mm

2mm

91mm

7mm

40mm

8mm

(注意事項)
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（カラー写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

創意工夫等

工事施工において、自ら立案した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

公共事業労働調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労働調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
1) 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
2) 調査票等を提出した事業所が発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
3) 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
4) 対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。
・本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。

施工体制台帳の作成等

当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げておくこと。

排出ガス対策型建設機械

次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。
1) バックホウ
2) トラクターショベル
3) 発動発電機
4) 空気圧縮機
5) ローラ類
6) ホイールクレーン

騒音振動の防止

低騒音（G）、低振動型建設機械を使用する。

保険の付与及び事故の補償

1) 受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。
2) 受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）
3) 受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結1ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

電子納品

※行う（「電子納品仕様書」による。）
・行わない
電子納品仕様書
1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名 称
営繕工事電子納品要領（令和3年版）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和3年版）

基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuid/gobuid_tk2_000017.html
2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBR-Dで一部納品する。
3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
4 発注者が行うCALS/EC電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

電気保安技術者

・適用する
[1.3.3] <1.3.3>

公衆災害防止等

建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）及び建設副産物適正処理推進要綱等関係規定を遵守して災害の防止に努める。
<1.3.6~7>

関連する設備等

関連する設備については適正に処置を行う。

○給水	○電気	○排水	○電話	○雨水	○ガス
・その他	・	・	・	・	・

<3.2.1>

総合評価時における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出のうえ、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。
[1.7.2] <1.6.2>

技能士等

※ 技能士

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	○とび作業

ダンプトラック等による過積載等の防止

1 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2 さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3 過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けること等、過積載を助長することのないようすること。
4 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5 建設発土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようすること。
6 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
7 1から6につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

2章 仮 設 工 事

特 記 事 項

工事用水

構内既存の施設
○利用できる（※有償・無償） ※利用できない

工事用電力

構内既存の施設
・利用できる（※有償・無償） ※利用できない

工事用道路

工事用道路（敷地内外）は良好なる維持管理を行い、使用後は請負者において速やかに原形に復旧すること。

仮設計画

1 総合仮設計画
工事に先立ち事前調査を行い、その結果に基づき、総合仮設及び安全に対する施工計画を立て、監督員の承諾を得ること。
<1.2.2>
2 安全対策
周辺環境及び第三者に対する配慮並びに飛散、倒壊等による事故・災害の防止策等の安全対策を講じること。
<1.3.6~8>
3 解体中の騒音対策（設置範囲及び高さは図示による）
イ）市街地 ※防音パネル ・防音シート
ロ）一般地 ・防音シート
<2.2.1>
4 解体作業中に発生する粉塵は、散水等の方法で拡散を防止すること。

指定仮設等

1 工事現場の状況に応じて、次の指定仮設を設置し、安全対策を講じるものとする。
イ）仮囲い
・市街地 ※鋼板製 ・高さ m 延長 m
○一般地 ○鋼板製 ・亜鉛波型鉄板製 ・防音シート
○高さ m 延長 m
ロ）仮設通路 ・鋼板敷き ・幅 m 延長 m
ハ）出入口 ・パネルゲート ○
ニ）その他 ・
<2.2.2>

足場その他

1 外部足場
[2.2.1]
(1) 種別 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種
(2) 足場の種類
※枠組本足場（手すり先行足場）
・くさび緊結式足場（手すり先行足場）
足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン」について（厚生労働省平成21年4月）の「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の2）手すり据置又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。
(3) 建枠・布枠

建 枠	・1,200枠	○300枠	・600枠
布 枠	・500布枠×2枚	※500+240布枠 ・500布枠×1枚	・500布枠×1枚

(4) 防護シート等による養生 ○要 ・不要
・ネット ○シート
2 内部足場
種別 ・
※きやつた、足場板等
[2.2.1]
3 材料、撤去材の運搬方法
・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種
[2.2.1]

監督員事務所

※設ける ・既存建物の一部を使用 ○設けない
監督員事務所規模（㎡）

種 別	・1号	・2号	・3号	・4号	・5号
面 積	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督職員事務所に設ける備品等
※保護盾 ※安全帯 ※長靴 ※合羽 ※机 ※椅子 ※懐中電灯
※原図大及びA3縮小の設計図面製本各々2部 ・書棚 ・黒板
・寒暖計
[2.4.1]

快適トイレ

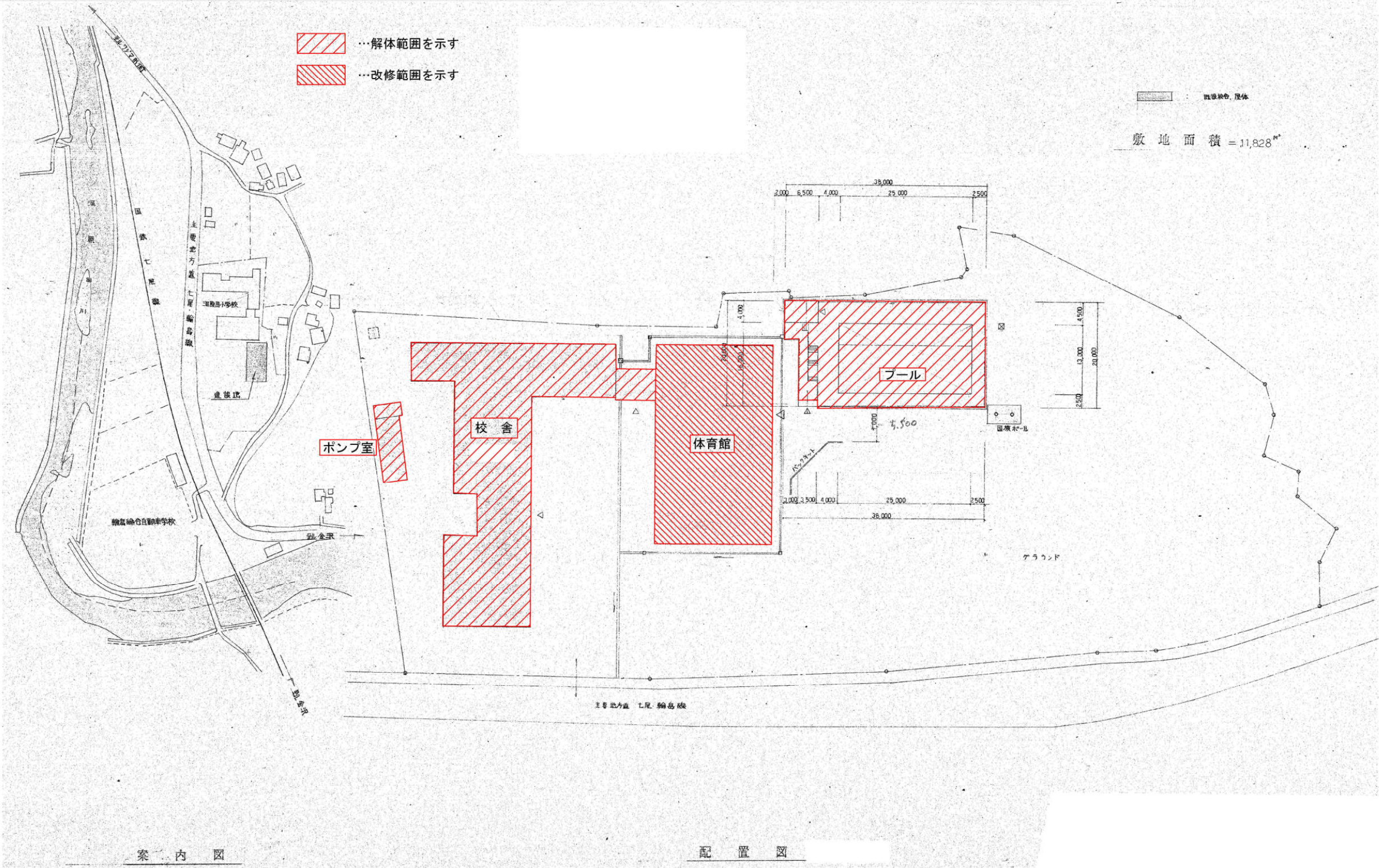
・快適トイレを設置すること
※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる
快適トイレを設置した場合は設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

3章 解 体 施 工			
項 目		特 記 事 項	
①	一般事項	1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び建設工事に係る資源の再資源化に関する法律等関係法令を遵守する。 <1.1.13><1.3.6><1.3.9> 2) 解体にあたっては、低騒音低振動型、排出ガス対策型の解体機材を使用する。 3) 解体工事に先立ち、工事現場及び周辺状況を調査し、工事中の安全対策、解体工法、解体手順等を明示した施工計画書を提出し、監督員の承諾を得ること。 <1.2.2>	
②	施工調査	1) 事前調査を実施 ※する <1.4.1><1.5.1><3.1.3><4.1.3><5.1.2><7.1.3> イ) 構造体（種類、規模、形状、主要部材断面等） ロ) 強度試験の実施 ・ 試しはつり ・ コア抜き ハ) 仕上げ等（特別管理産業廃棄物、発泡ウレタン等） ニ) 設備機器等（設備機器、配線、配管等）	
③	解体範囲	○既設庇一部撤去 ○基礎 ○杭 ○引抜き工法（校舎棟）・破砕による解体（ ） <3.9.2> ○ピット内等地下埋設物： <3.12.1>	
④	解体工法	1) 解体工法の選定 <3.1.2> イ) 破砕解体（圧搾機使用） ロ) 破砕解体（大型ブレーカ使用） ・ 転倒解体 ・ 部材解体	
⑤	解体手順	解体工事の手順は次による。 <3.3.1> 1. 吹付け石綿の除去 2. 建築照明設備の取外し 照明器具、暖房機、ボイラー、ポンプ、高架水槽、キュービクル、エレベーター等（配管類保温材は配管・ダクト等により分類する） 3. 内装材その他の建築物の部分の取外し 床・壁・天井仕上材（断熱・保温材は分離）、間仕切、内装下地材、建具、ガラス、造作家具等の取外し 4. 屋根葺き材の取外し 5. 外装材及び構造躯体の取壊し 6. 基礎及び基礎杭の取壊し 7. 廃棄物の処理 8. 埋戻し及び整地	
⑥	有価物の処理	鉄類、銅類、アルミニウム類の売却 ○できる ・できない	
⑦	整地	種別 ※A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ○敷地内の土を利用 (3.2.3) (表3.2.1) ※埋戻し・盛土にあたっては各層30cm毎に締め固めること。 <3.13.1>	
4章 建 設 廃 棄 物 の 処 理			
項 目		特 記 事 項	
①	再資源化等	<4.4.1(2)> 建設廃棄物の種類 中間処理施設または再資源化施設の名称等 所在地 ○コンクリート ○金沢市内 ○コンクリート及び鉄から成る建設資材 ○金沢市内 ○アスファルト、コンクリート ○金沢市内 ○木材 ○金沢市内 ○金属類 ○金沢市内 ・小型二次電池 (注) 施設の名称については、受注者が別に選定することを妨げるものではない。 <4.4.1(3)> 建設廃棄物の種類 再資源化 再資源化施設の名称等 所在地 ○蛍光ランプ ・する ○金沢市内 ○HIDランプ ・しない ○金沢市内 ・硬質塩化ビニル管継手 ・する ・しない ○ガラス ・する ○金沢市内 ・しない (注) 施設の名称については、受注者が別に選定することを妨げるものではない。 現場利用する再資源化された建設廃棄物 <4.4.1(6)> 種 類 利用する場所（箇所）等 	

③	処分に注意を要する建設廃棄物	<4.5.1>			8章 そ の 他																																																																																																																			
		種 類	受入施設の名称等	所在地	項 目	特 記 事 項																																																																																																																		
・CCA処理木材				①	いしかわ週休2日工事																																																																																																																			
・ヒ素・カドミウム含有せっこうボード					工事現場において週休2日に取り組む「いしかわ週休2日工事」（以下、「週休2日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休2日工事の定義（様式）等については、輪島市監理課ＨＰの「輪島市週休2日工事実施要領」を参照すること。																																																																																																																			
・せっこうボード（有害物質非含有）					（１）当初設計において、週単位の週休2日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休2日に満たない場合は、月単位の週休2日（4週8休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休2日（4週8休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休2日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。																																																																																																																			
（注）施設の名称については、受注者が別に選定することを妨げるものではない。																																																																																																																								
5章 特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 の 処 理					2	余裕期間制度 試行工事																																																																																																																		
項 目	特 記 事 項																																																																																																																							
①	廃石棉等	「改修標準」9章第1節及び「解体共仕」6章によるほか。下記「6章アスベスト含有建材の除去及び処理」による。 <5.4.1>			③	イメージアップ 看板																																																																																																																		
②	廃PCB等	PCB含有物の旨、保管年月日をペンキで記入した堅固な容器に密封し、保管台帳を添えて、県に提出する。 <5.4.1>																																																																																																																						
③	PCB含有シーリング材	分析調査 ・する ※しない																																																																																																																						
6章 石綿含有建材の除去及び処理																																																																																																																								
項 目	特 記 事 項			④			情報共有システム																																																																																																																	
①	石綿含有建材の処理	<1.4.1> ① 事前調査 目視及び貸与する設計図書等により石綿含有建材の有無について調査する。 調査範囲 ・ 図示 貸与資料 ・ ② 分析による石綿含有建材の調査 ・行う ○行わない 分析方法 <table><tr><td rowspan="2">材 料 名</td><td colspan="2">定性分析方法</td><td>定量分析方法</td></tr><tr><td colspan="2">・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2</td><td>・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td colspan="2">・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> ③ 石綿粉じん濃度測定 ○行う（下表による） ・行わない 測定室（ ） <table><tr><td>適用</td><td>測定名称</td><td>測定時期</td><td>測定場所</td><td>測定点（各施工箇所ごと）</td></tr><tr><td>・ 測定1</td><td rowspan="4">処理作業中</td><td rowspan="4">処理作業前</td><td>処理作業室内</td><td>・各2点 ・各3点（注1）</td></tr><tr><td>・ 測定2</td><td>施工区画周辺又は敷地境界</td><td>・各2点（大気）</td></tr><tr><td>・ 測定3</td><td>処理作業室内</td><td>・各2点</td></tr><tr><td>※ 測定4</td><td>セキュリティゾーン入口</td><td>・各1点</td></tr><tr><td>※ 測定5</td><td rowspan="6"></td><td rowspan="9"></td><td>負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）</td><td>出口吹出し風速1m/sec 以下の位置 ・各1点</td></tr><tr><td>・ 測定6</td><td>施工区画周辺又は敷地境界</td><td>・4方向各1点</td></tr><tr><td>※ 測定7</td><td>処理作業室内</td><td>・各2点</td></tr><tr><td>・ 測定8</td><td>施工区画周辺又は敷地境界（隔離シート撤去前）</td><td>・4方向各1点（大気）</td></tr><tr><td colspan="4">（注1）各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。</td></tr><tr><td colspan="4">測定方法 ・自動測定機による測定</td></tr><tr><td>測定名称</td><td colspan="3">測 定 方 法</td></tr><tr><td>・測定4 ・測定5</td><td colspan="3">粉じん相対湿度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定</td></tr><tr><td colspan="4">・JIS K 3850-1に基づいた測定</td></tr><tr><td>測定名称</td><td>ろアレル径（mm）</td><td>試料の吸引流量（L/min）</td><td>試料の吸引時間（min）</td></tr><tr><td>・測定4 ・測定5 ・</td><td rowspan="10">25</td><td rowspan="18">5</td><td>・30 ・120</td></tr><tr><td>・測定 ・</td><td>・120</td></tr><tr><td>・測定 ・</td><td>・240</td></tr><tr><td>・測定 ・</td><td></td></tr><tr><td>・測定 ・</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">7章 特 殊 な 建 設 副 産 物 の 処 理</td></tr><tr><td>項 目</td><td colspan="3">特 記 事 項</td></tr><tr><td>①</td><td>フロン類の処理</td><td colspan="3">フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1）業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 イ）「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ロ）「フロン類回収証明書」を提出 ハ）フロン類の破壊 ・する ※しない 2）家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 イ）「特定家庭用機器廃棄物管理票」の写しを提出</td></tr></table> <table><tr><td rowspan="2">設 計</td><td rowspan="2">改訂履歴</td><td rowspan="2">工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事</td><td>図面名</td><td>解体工事仕様書 その2</td><td>図面番号</td><td>CS-02</td></tr><tr><td colspan="4">輪 島 市 教 育 総 務 課</td></tr></table>						材 料 名	定性分析方法		定量分析方法	・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2		・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4		・ 箇所		・ 箇所		・ 箇所		・ 箇所		・ 箇所		・ 箇所	適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）	・ 測定1	処理作業中	処理作業前	処理作業室内	・各2点 ・各3点（注1）	・ 測定2	施工区画周辺又は敷地境界	・各2点（大気）	・ 測定3	処理作業室内	・各2点	※ 測定4	セキュリティゾーン入口	・各1点	※ 測定5			負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速1m/sec 以下の位置 ・各1点	・ 測定6	施工区画周辺又は敷地境界	・4方向各1点	※ 測定7	処理作業室内	・各2点	・ 測定8	施工区画周辺又は敷地境界（隔離シート撤去前）	・4方向各1点（大気）	（注1）各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。				測定方法 ・自動測定機による測定				測定名称	測 定 方 法			・測定4 ・測定5	粉じん相対湿度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定			・JIS K 3850-1に基づいた測定				測定名称	ろアレル径（mm）	試料の吸引流量（L/min）	試料の吸引時間（min）	・測定4 ・測定5 ・	25	5	・30 ・120	・測定 ・	・120	・測定 ・	・240	・測定 ・		・測定 ・		7章 特 殊 な 建 設 副 産 物 の 処 理				項 目	特 記 事 項			①	フロン類の処理	フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1）業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 イ）「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ロ）「フロン類回収証明書」を提出 ハ）フロン類の破壊 ・する ※しない 2）家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 イ）「特定家庭用機器廃棄物管理票」の写しを提出			設 計	改訂履歴	工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	図面名	解体工事仕様書 その2	図面番号	CS-02	輪 島 市 教 育 総 務 課				
材 料 名	定性分析方法		定量分析方法																																																																																																																					
	・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2		・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4																																																																																																																					
	・ 箇所		・ 箇所																																																																																																																					
	・ 箇所		・ 箇所																																																																																																																					
	・ 箇所		・ 箇所																																																																																																																					
適用	測定名称	測定時期	測定場所					測定点（各施工箇所ごと）																																																																																																																
・ 測定1	処理作業中	処理作業前	処理作業室内					・各2点 ・各3点（注1）																																																																																																																
・ 測定2			施工区画周辺又は敷地境界					・各2点（大気）																																																																																																																
・ 測定3			処理作業室内					・各2点																																																																																																																
※ 測定4			セキュリティゾーン入口					・各1点																																																																																																																
※ 測定5			負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）					出口吹出し風速1m/sec 以下の位置 ・各1点																																																																																																																
・ 測定6			施工区画周辺又は敷地境界					・4方向各1点																																																																																																																
※ 測定7			処理作業室内					・各2点																																																																																																																
・ 測定8			施工区画周辺又は敷地境界（隔離シート撤去前）					・4方向各1点（大気）																																																																																																																
（注1）各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。 300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。																																																																																																																								
測定方法 ・自動測定機による測定																																																																																																																								
測定名称	測 定 方 法																																																																																																																							
・測定4 ・測定5	粉じん相対湿度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定																																																																																																																							
・JIS K 3850-1に基づいた測定																																																																																																																								
測定名称	ろアレル径（mm）	試料の吸引流量（L/min）	試料の吸引時間（min）																																																																																																																					
・測定4 ・測定5 ・	25	5	・30 ・120																																																																																																																					
・測定 ・			・120																																																																																																																					
・測定 ・			・240																																																																																																																					
・測定 ・																																																																																																																								
・測定 ・																																																																																																																								
7章 特 殊 な 建 設 副 産 物 の 処 理																																																																																																																								
項 目			特 記 事 項																																																																																																																					
①			フロン類の処理	フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1）業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 イ）「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ロ）「フロン類回収証明書」を提出 ハ）フロン類の破壊 ・する ※しない 2）家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 イ）「特定家庭用機器廃棄物管理票」の写しを提出																																																																																																																				
設 計			改訂履歴	工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	図面名	解体工事仕様書 その2	図面番号	CS-02																																																																																																																
					輪 島 市 教 育 総 務 課																																																																																																																			

工事概要		
【解体】	【災害復旧】	【新築・改修】
建築	建築	建築
・ 校舎、屋内運動場（玄関部分のみ）、ポンプ室、プール、外構及び遊具の解体撤去	・ 屋内運動場等の災害復旧	・ 屋内運動場（玄関部分のみ）の新築、WWC・MWCの改修
・ 解体建物は地中埋設物（基礎・杭等）を含め撤去とする	・ コートアリーナ部の床撤去・新設	・ S造平屋建 9.9㎡
・ 解体建物外周部の土間、外構等は一部を除き撤去とする（外構図参照）	・ 便所の床を乾式化	機械設備
機械設備	機械設備	・ 給水管路の変更、公共桧へ排水接続。排水申請
・ 解体建物に付随する機械設備機器及び、配線、配管、ダクト類は全て撤去とする	・ 体育館への給水、排水の供給配管改修	電気設備
・ 敷地内の樹等は全て撤去とする	・ 便所改修に伴う衛生器具の取外再取付け	・ 便所の照明はLEDが かつaitに更新しセンサー制御とする。
電気設備	電気設備	・ 玄関部分の新設に伴い照明器具を新設する。
・ 解体建物に付随する電気設備機器及び、配線、配管類は全て撤去とする	・ アリーナ部のHID灯（一部）はLED灯に更新とする。その他照明器具をLED灯に更新とする。	
・ 敷地内の樹等は全て撤去とする	・ 時計、スピーカー、テレビ端子は撤去とする。	
共通	・ 自動火災設備はすべて撤去し、非常警報設備を新設する。	
・ アスベスト含有建材について、適正な処理対応を行うこと	・ 電気引込を高圧引込から低圧引込に変更するにあたり引込ルートを新設する。	
※事前調査対象に該当しないものが見つかった場合は着手前に確認し適切な処理対応を行うこと		

面積表					
敷地面積	11827.885㎡	(工事部分は約5.983㎡)			
延床面積	4074.20㎡				
床面積	校舎等	ポンプ室	屋内運動場	プール	計
	S造3階建	CB造平屋建	S造2階建	CB造平屋建	
	3F	664.27			
	2F	664.27	114.97		
	1F	989.01	62.63	858.05	721.00
	計	2317.55	62.63	973.02	721.00
					4074.20



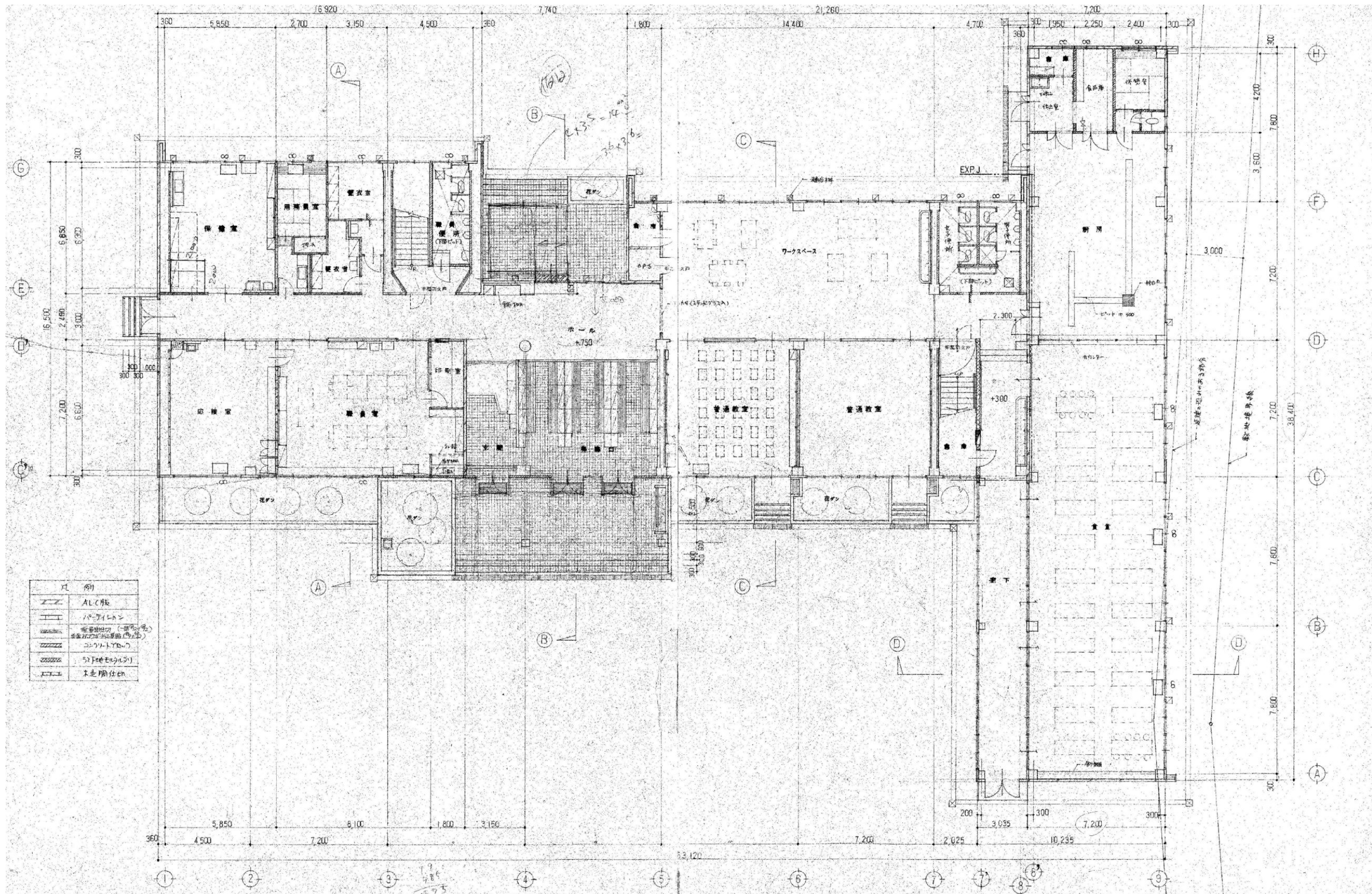
参考図

一塗材に含有

[illegible]

アスベスト含有建材を示す (レベル3)

参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

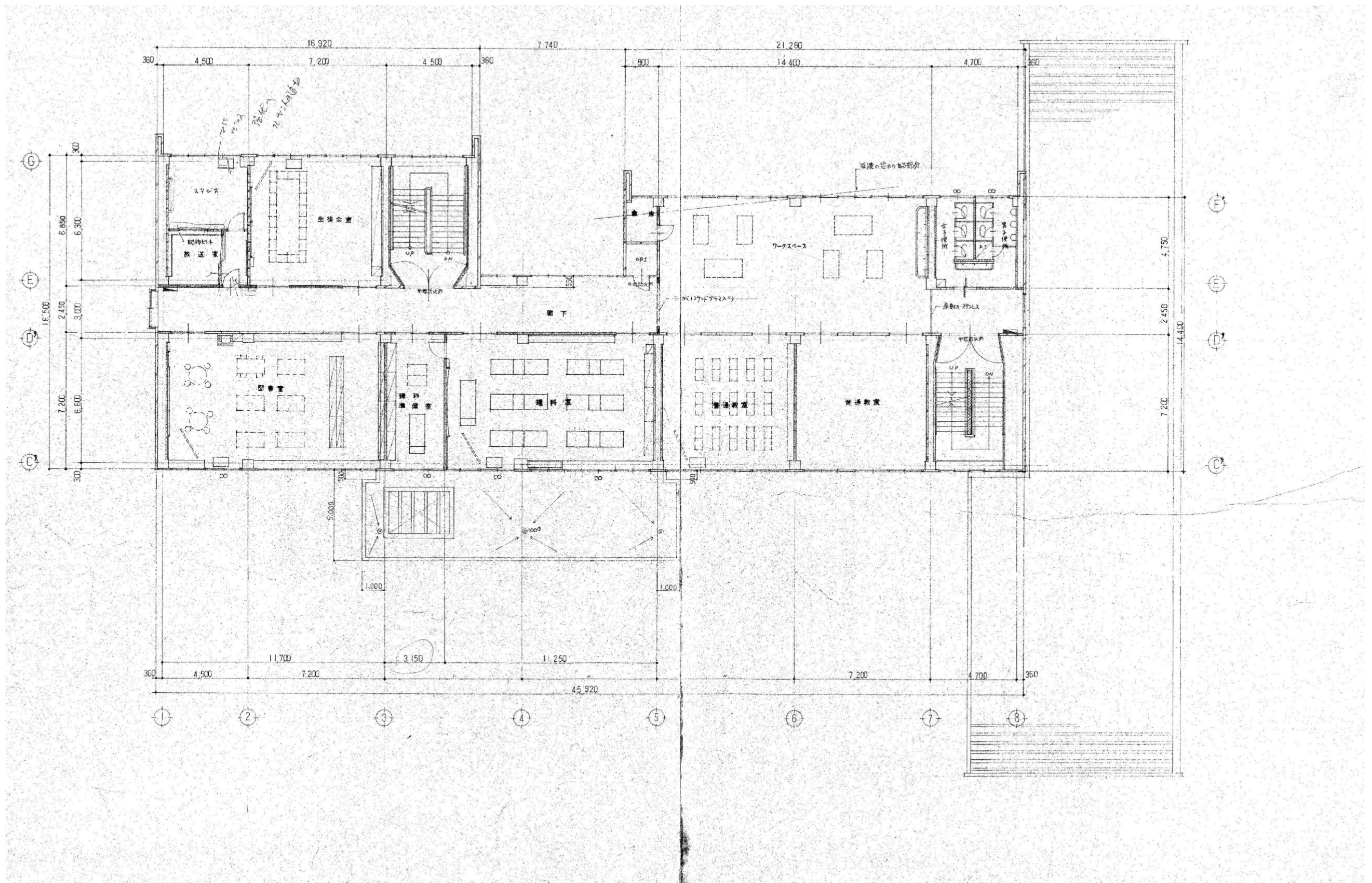
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
1階平面図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 103



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER

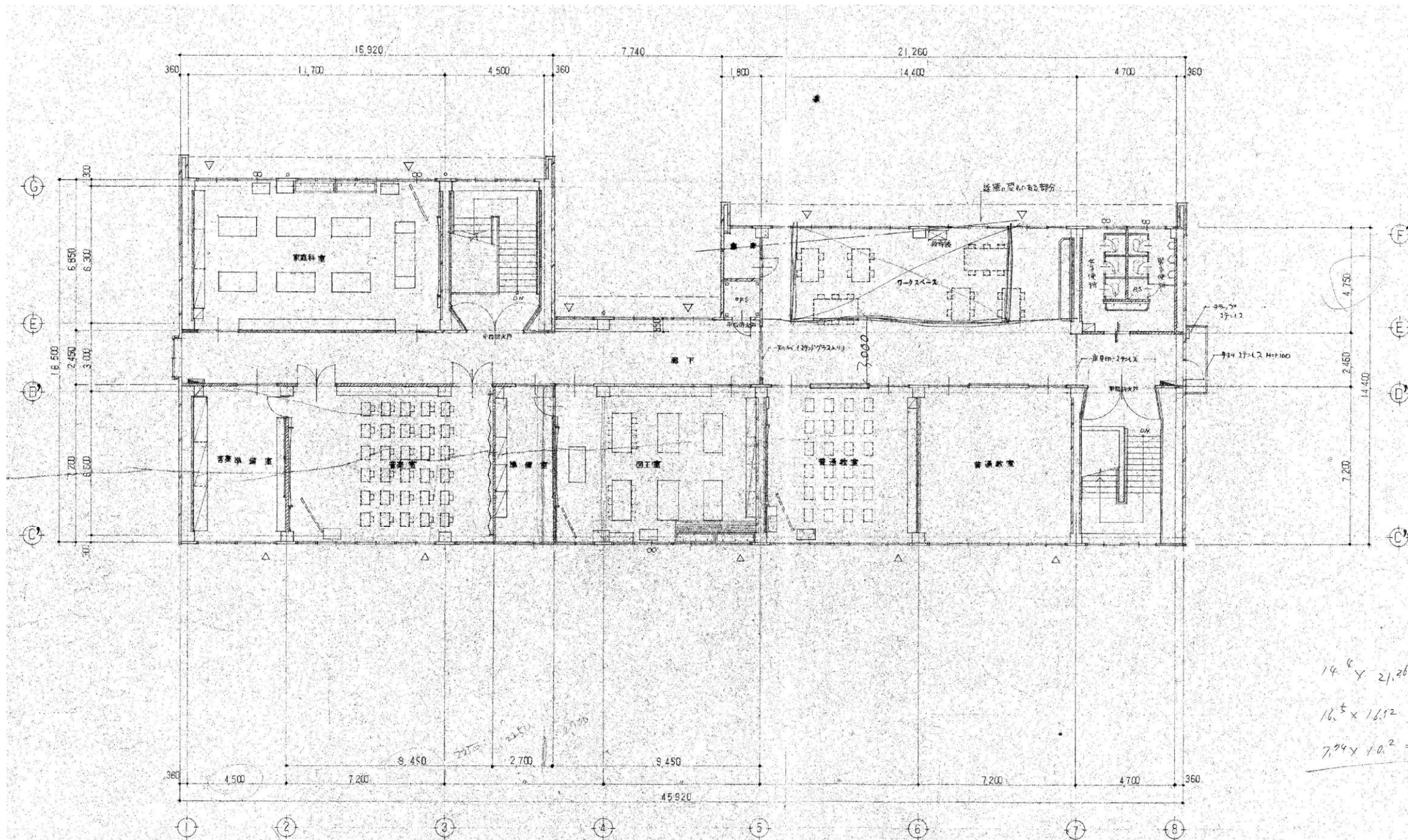
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
2階平面図

■縮尺/SCALE
No scale

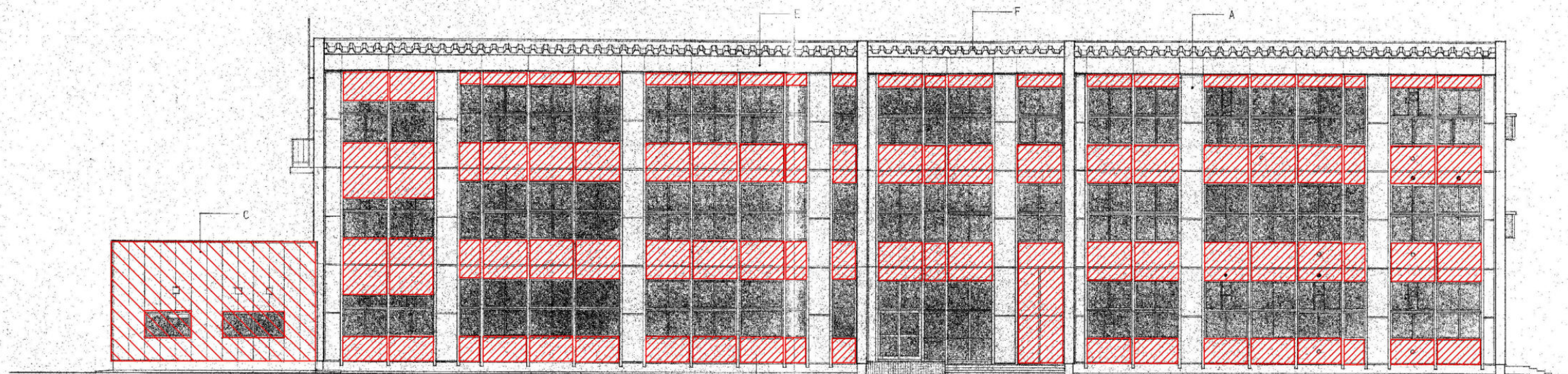
■図番/No.
A — 104



$14.6 \times 21.26 = 306.7 \text{ m}^2$
 $16.5 \times 16.52 = 272.6 \text{ m}^2$
 $7.94 \times 10.2 = 80.9 \text{ m}^2$

 664 m^2

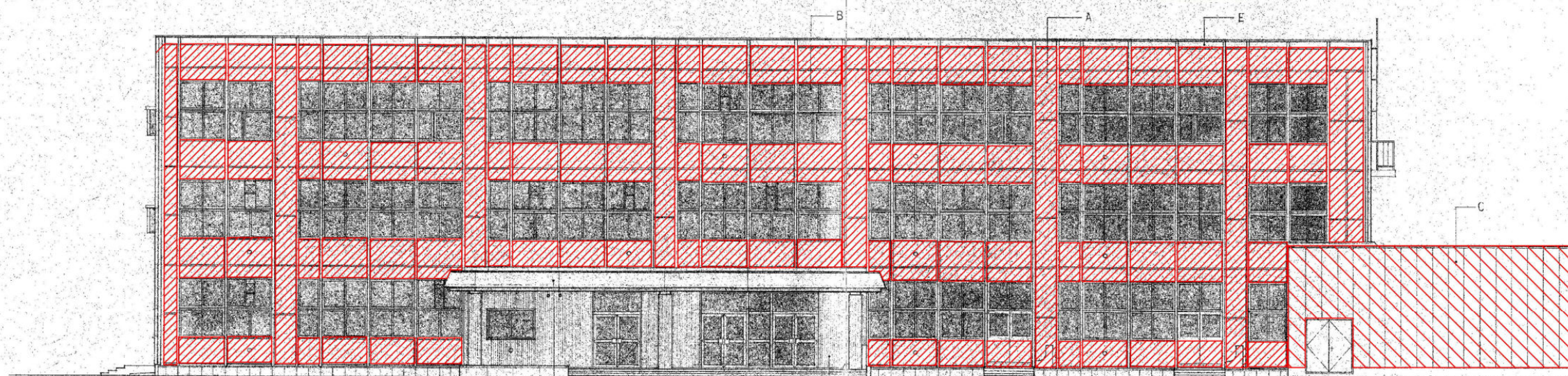
(凡例)
△ 非常用出入口=バリアフリー入り口



北面立面図 1:100

- アスベスト含有建材
鋼製パネル(焼付塗装)の範囲を图示
- アスベスト含有建材
ALC版(弾性アクリル系樹脂タイル)の範囲を图示

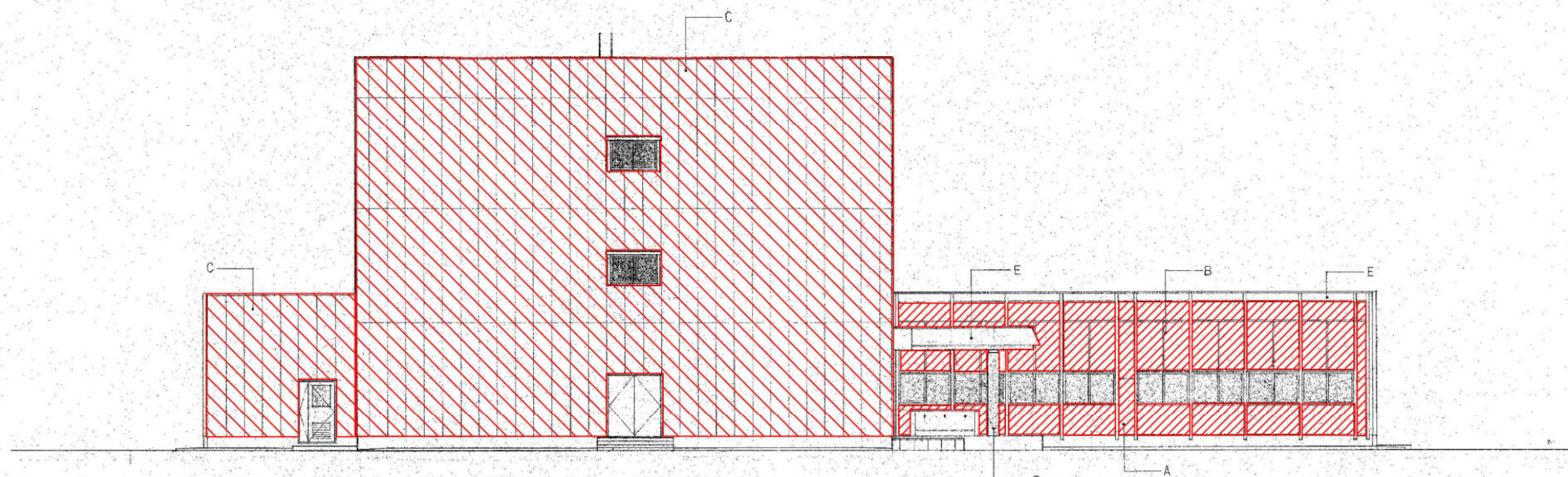
● ハンドキャップ
○ ハンドキャップ
△ ハンドキャップ



南面立面図 1:100

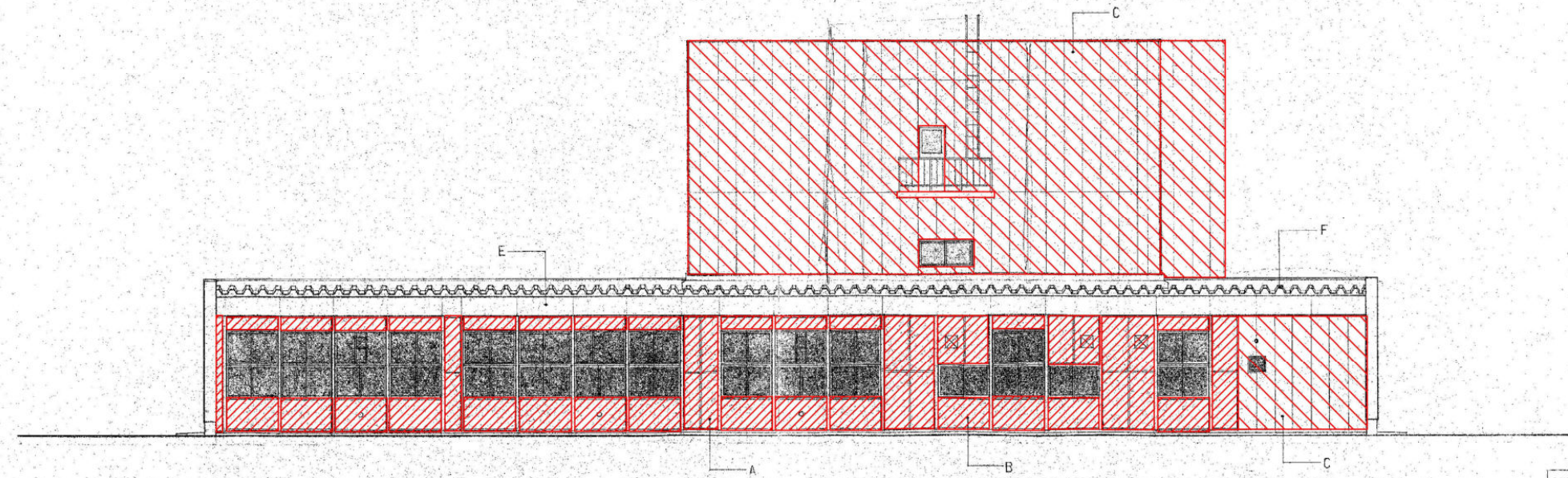
凡例	
A	鋼製パネル 焼付塗装
B	窓付 鋼製パネル
C	T=125 ALC版 弾性アクリル系樹脂タイル貼付
D	ボーズタイル貼り
E	SAR-12 焼付塗装
F	T=100 片面カラー珪藻土(丸窓)

参考図



西面立面图 1:100

- 7スレ 含有建材
鋼製パネル(焼付塗装)の範囲を図示
- 7スレ 含有建材
ALC版(弾性アクリル系樹脂タイル)の範囲を図示



東面立面图 1:100

凡 例	
A	鋼製パネル(焼付塗装)
B	窓付 鋼製パネル
C	T-125 ALC版(弾性アクリル系樹脂タイル焼付)
D	ガラスタイル(貼付)
E	SAR-1.2 窓付塗装
F	T-0.8 片面カラー新築書(貼付)

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

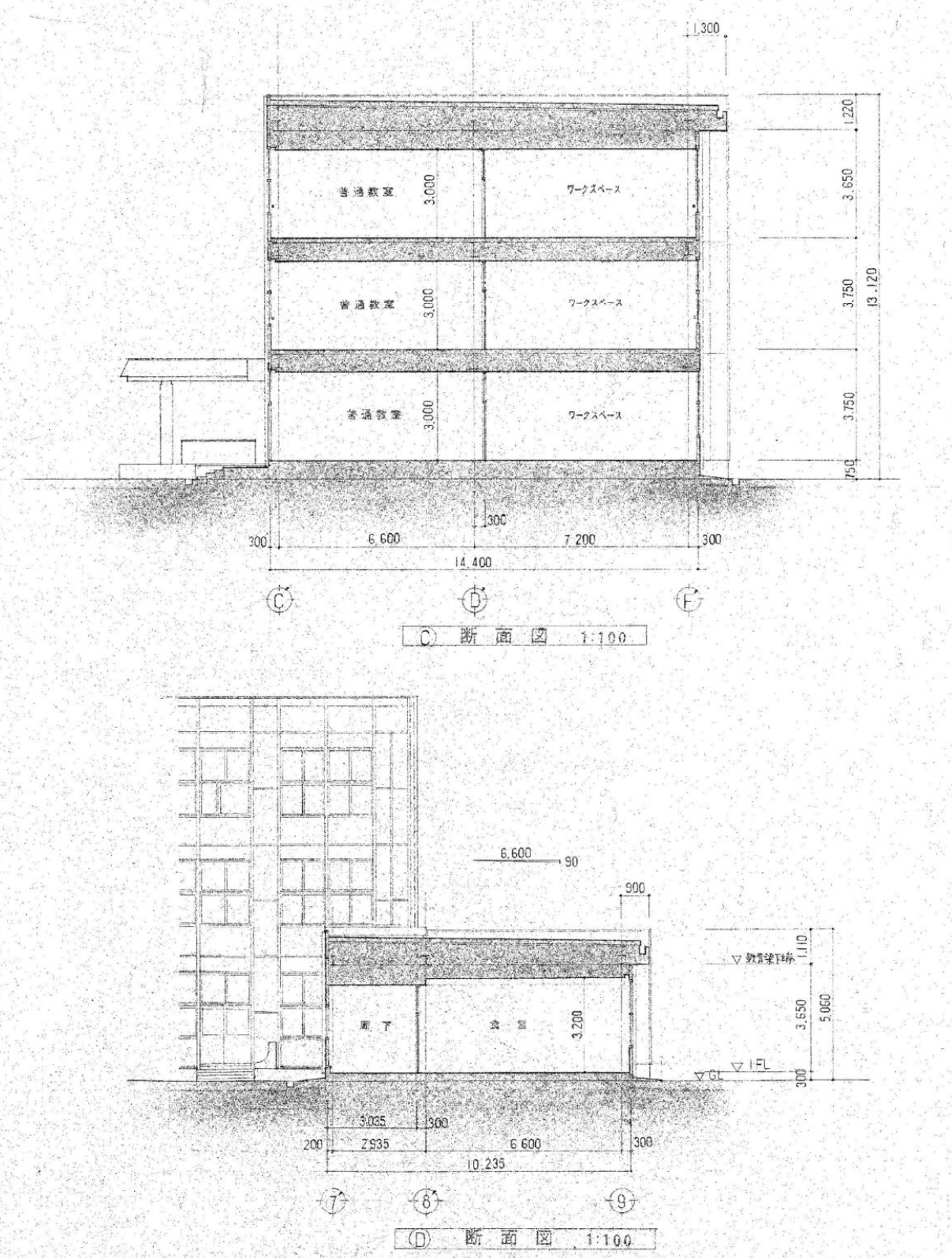
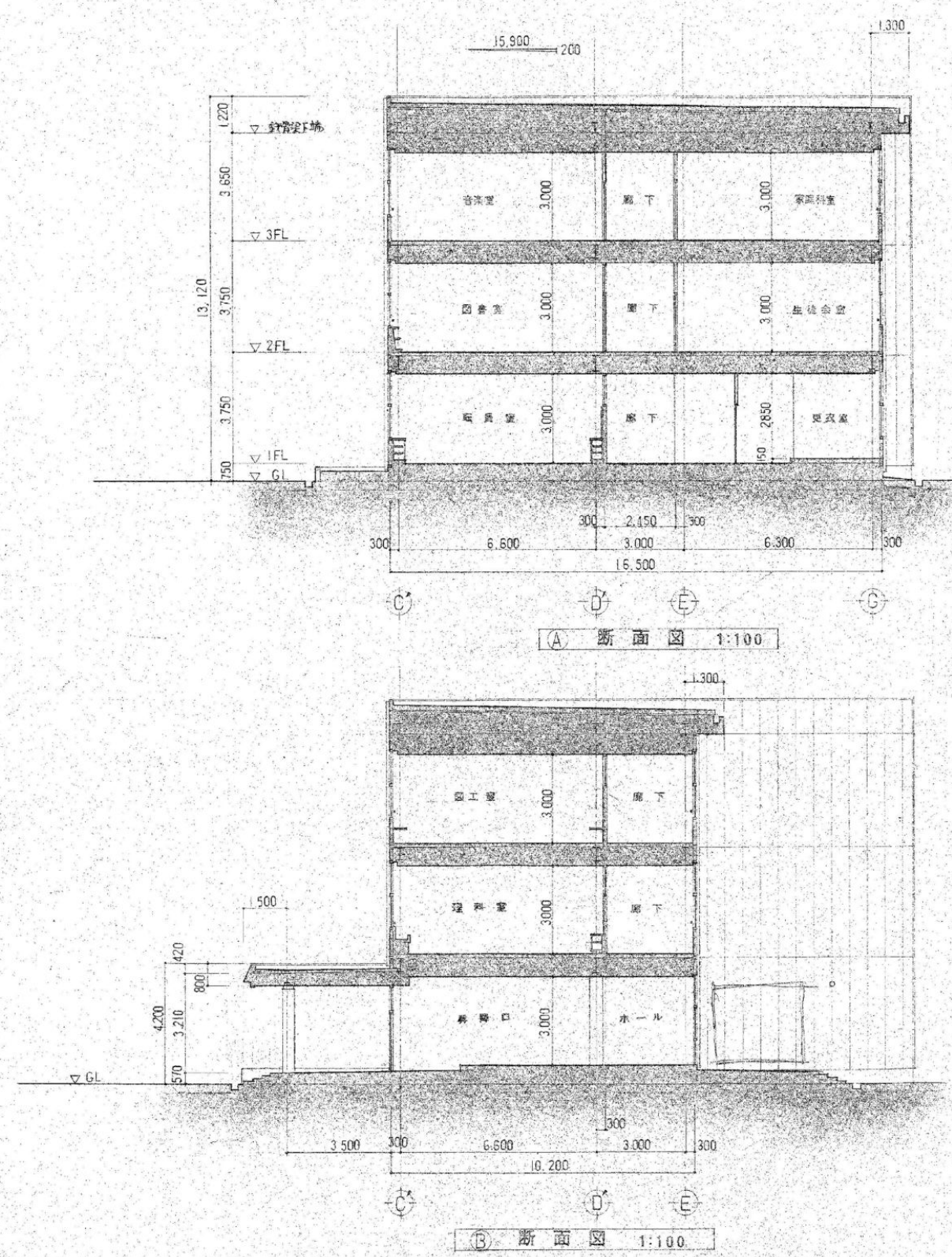
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

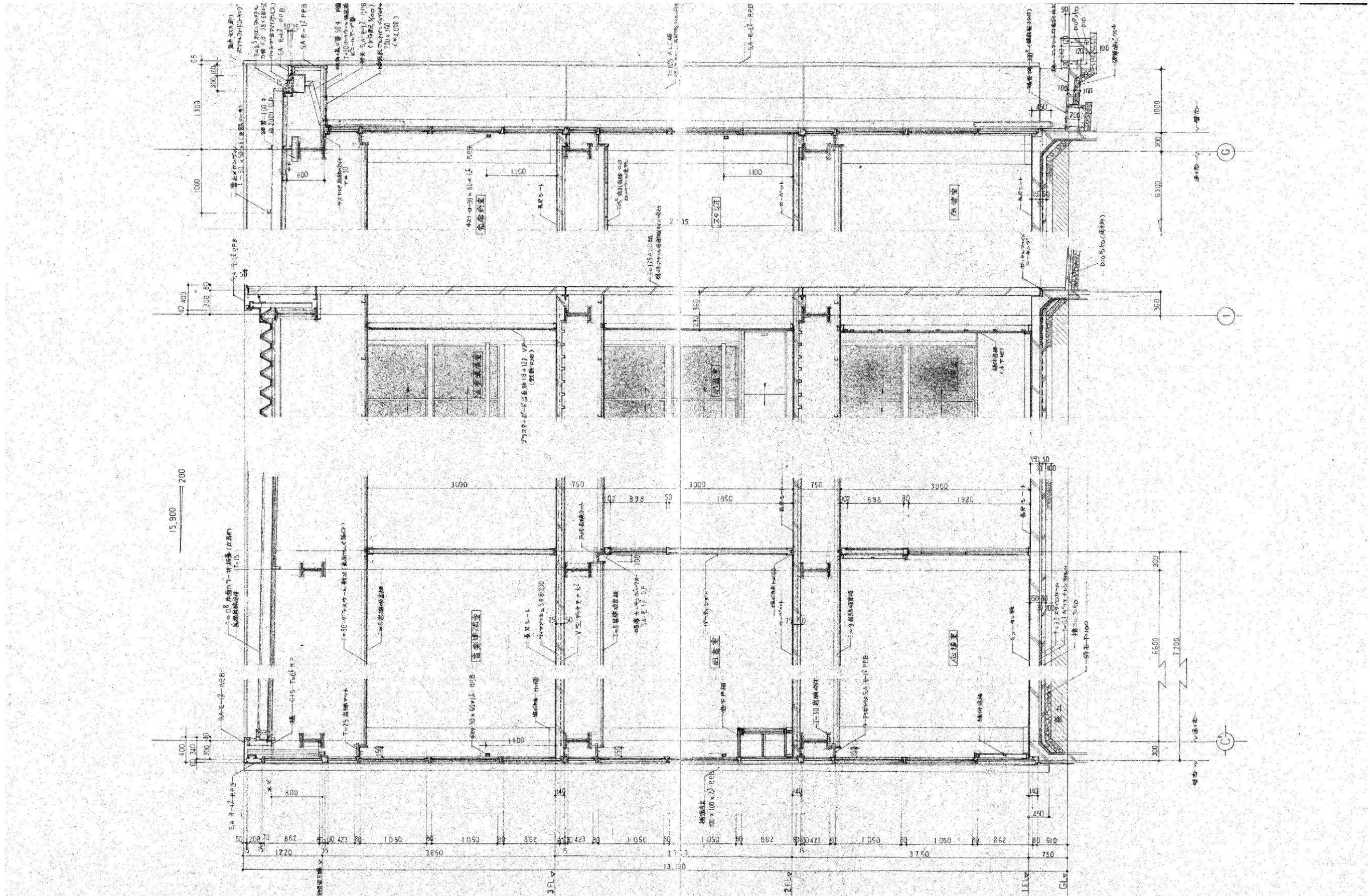
■図面名称/DRAWING-TITLE
立面図2

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 107



参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

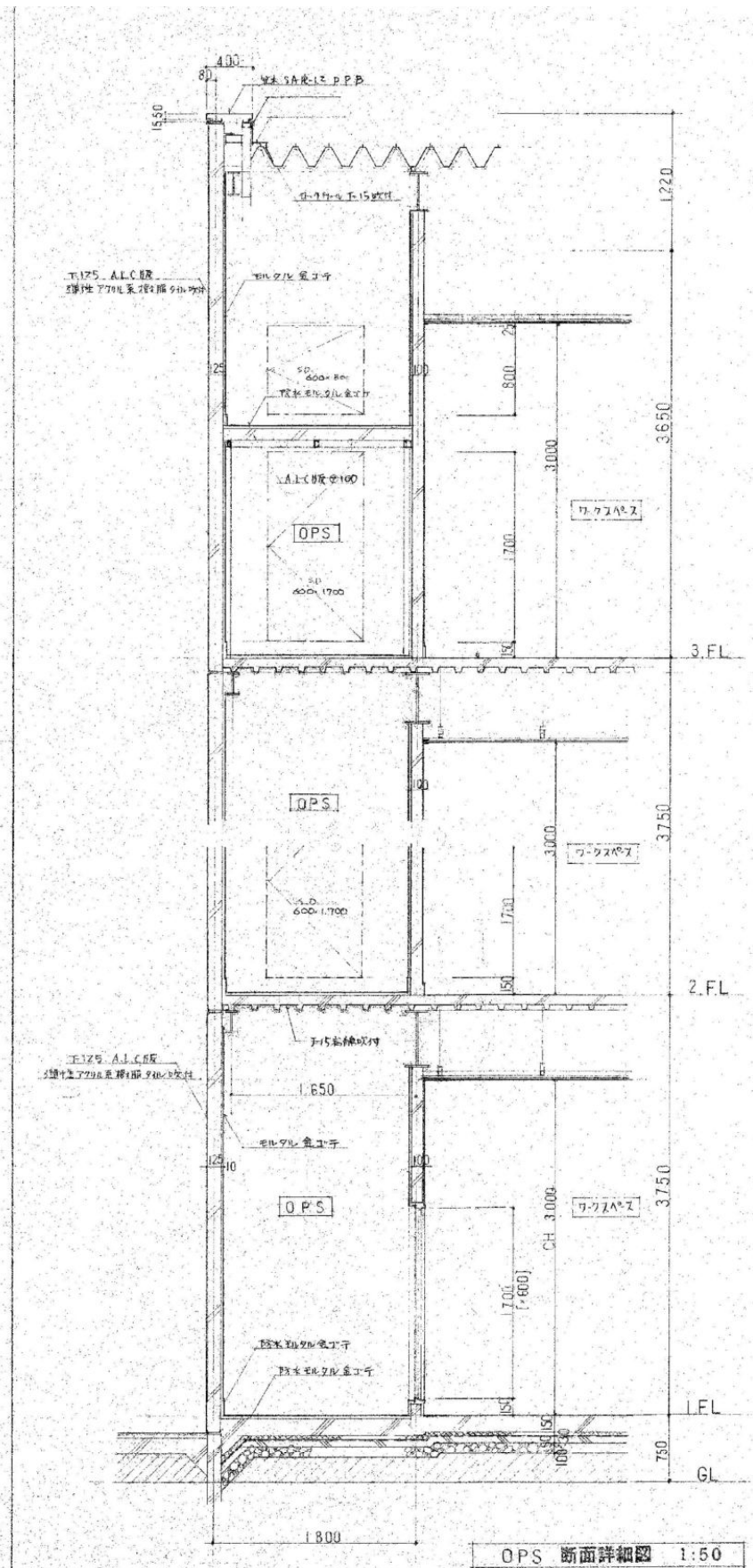
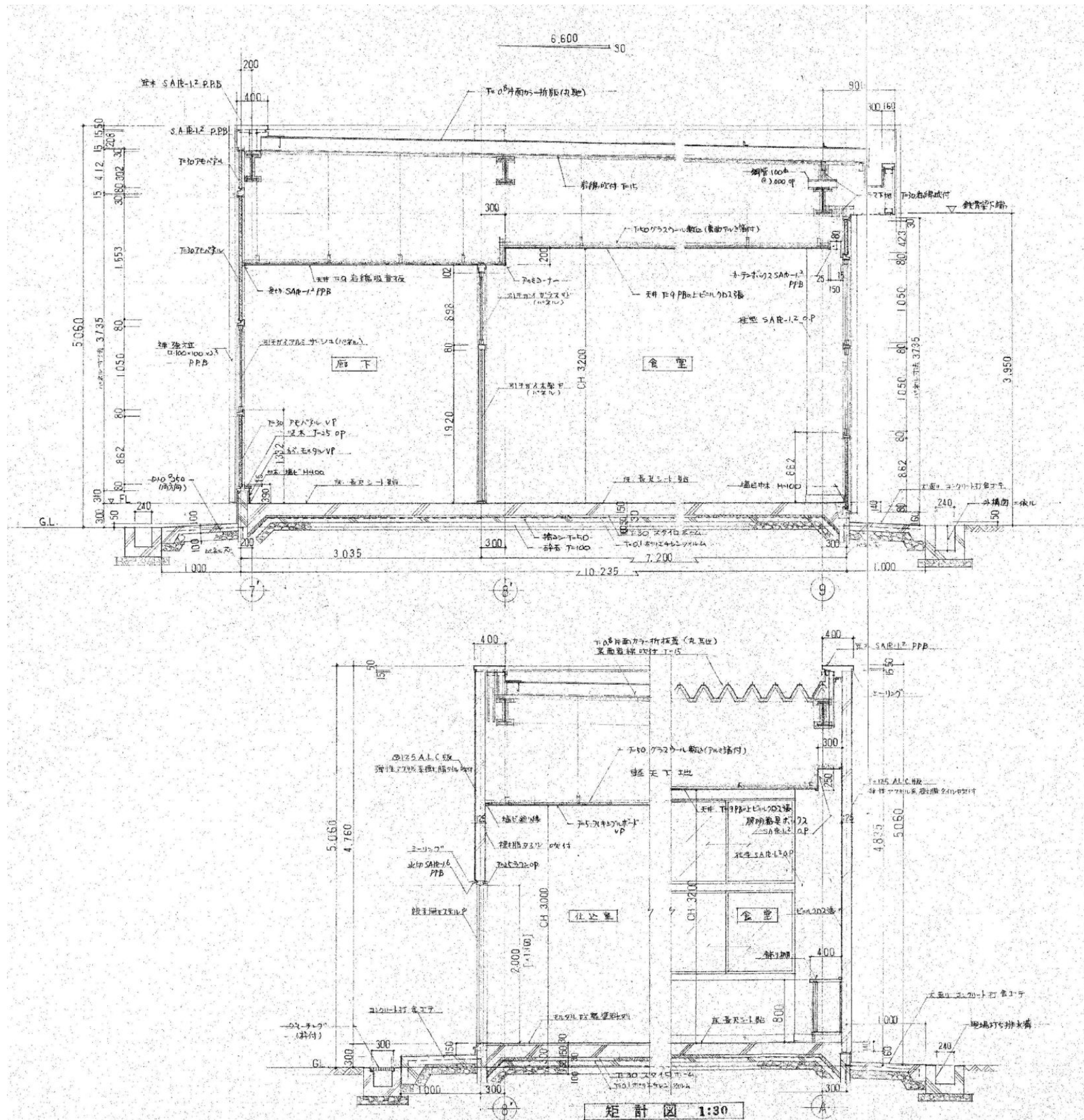
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
矩計図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 109



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

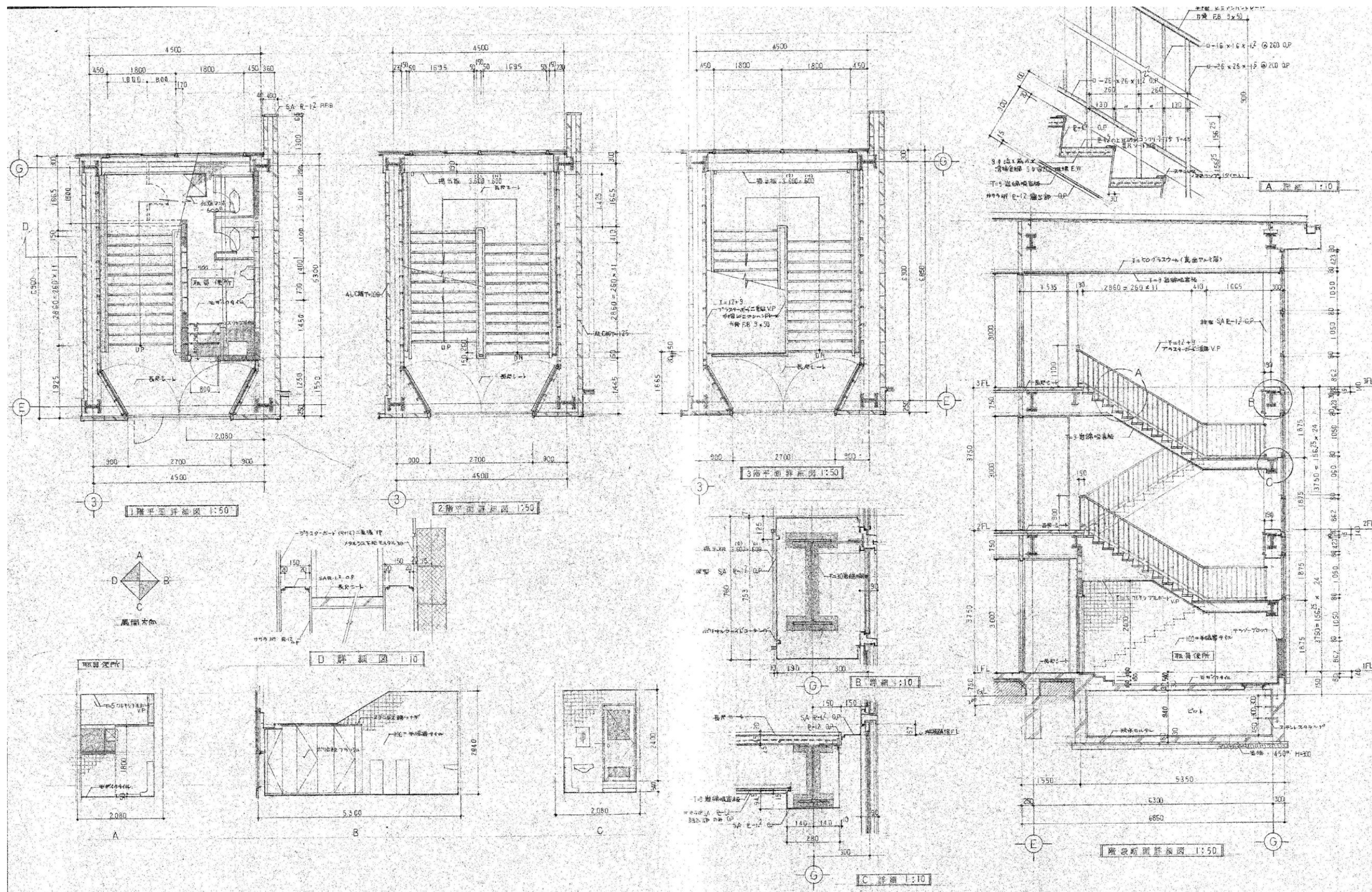
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

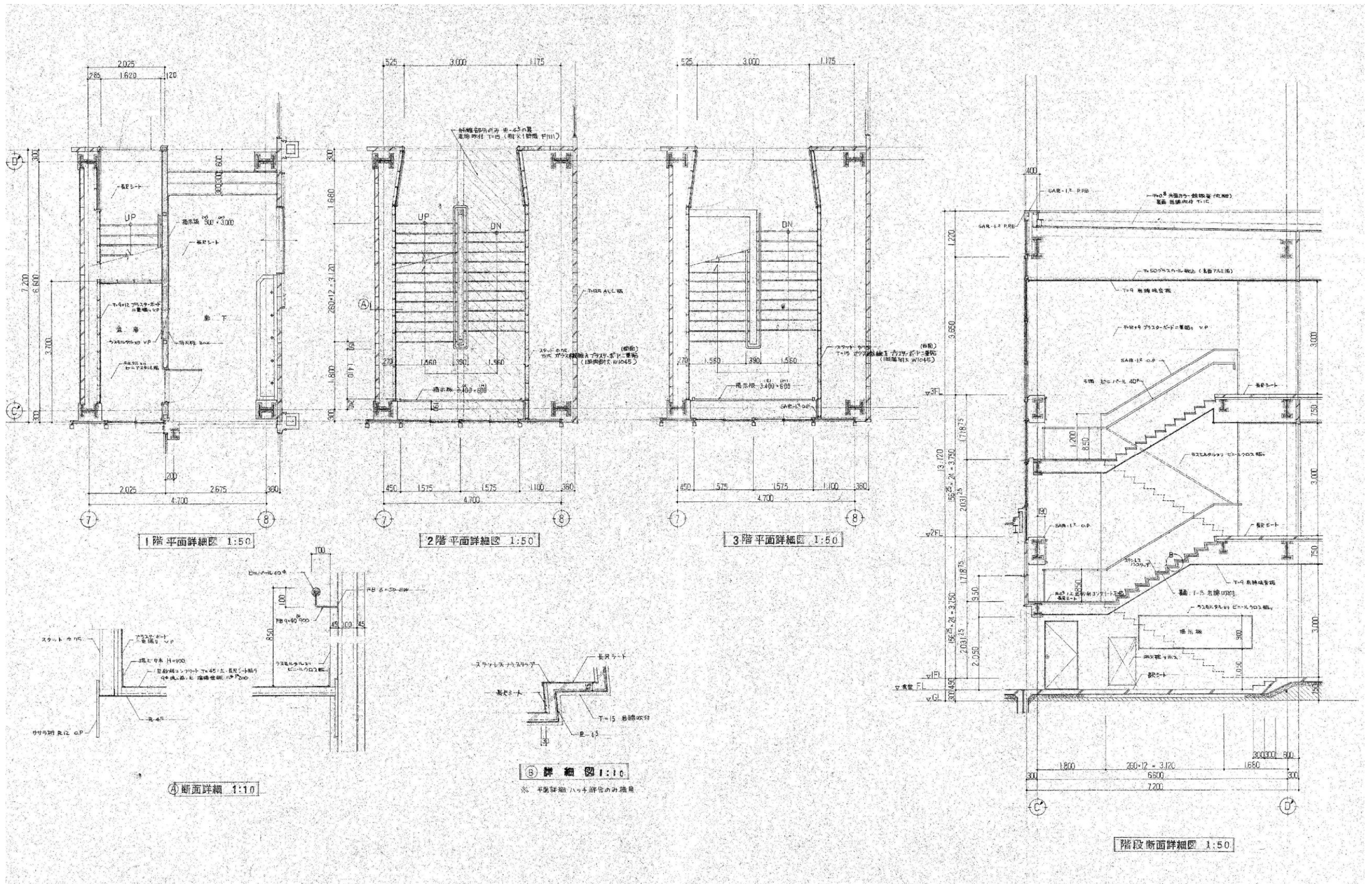
■図面名称/DRAWING-TITLE
矩計図 断面詳細図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 110



参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

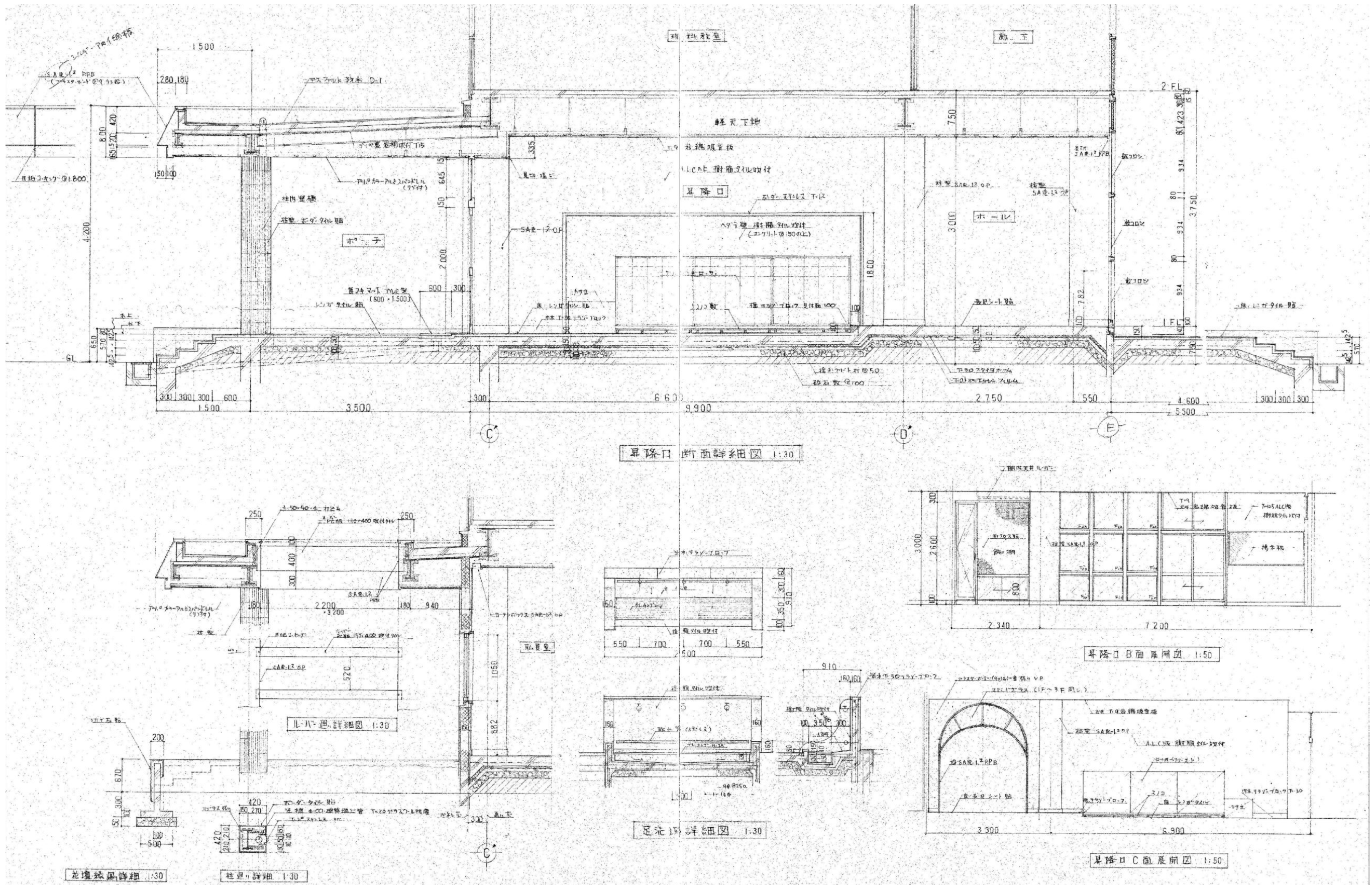
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
階段 詳細図2

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 112



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

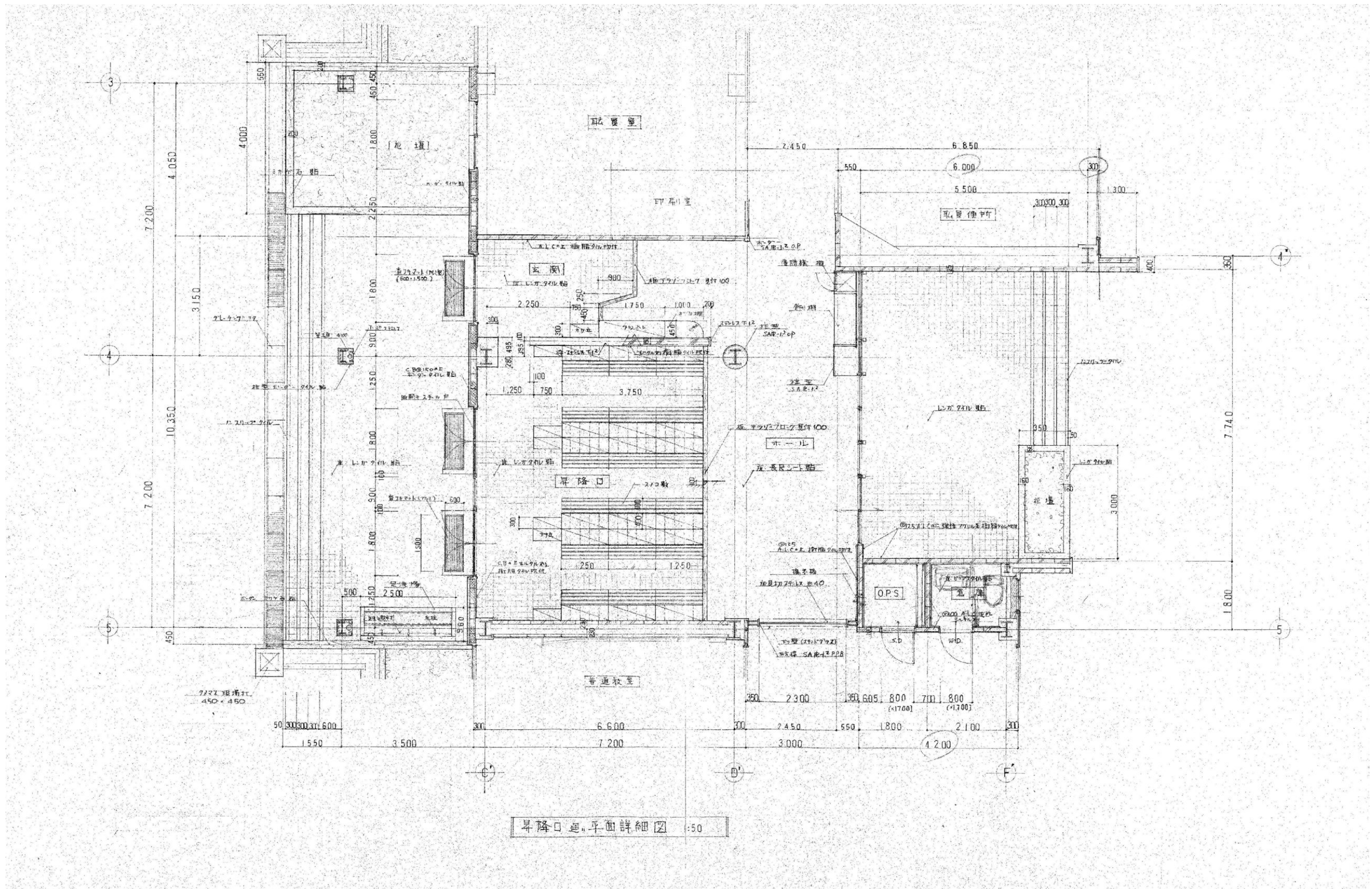
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
昇降口 断面詳細図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 113



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士/一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

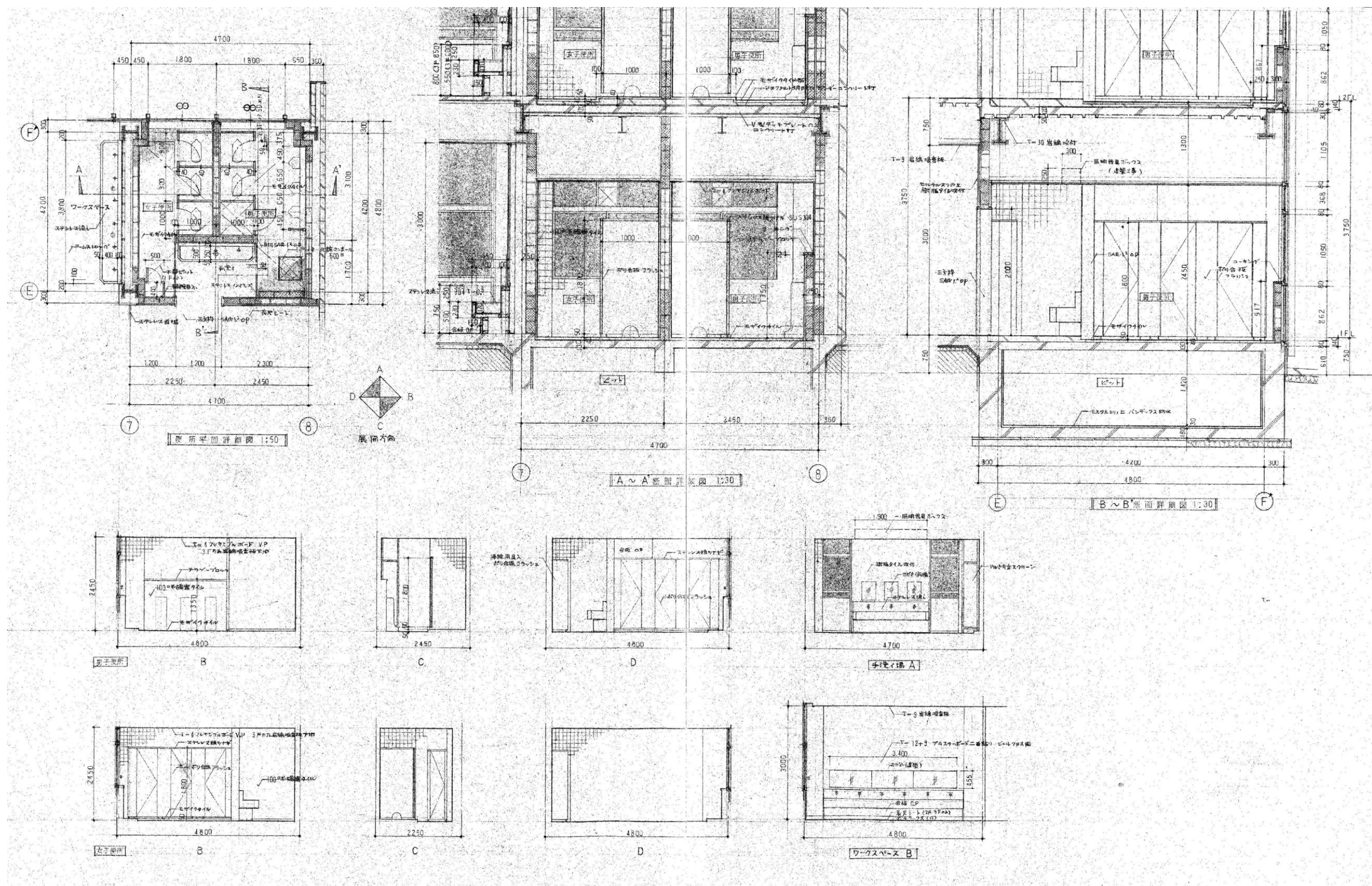
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

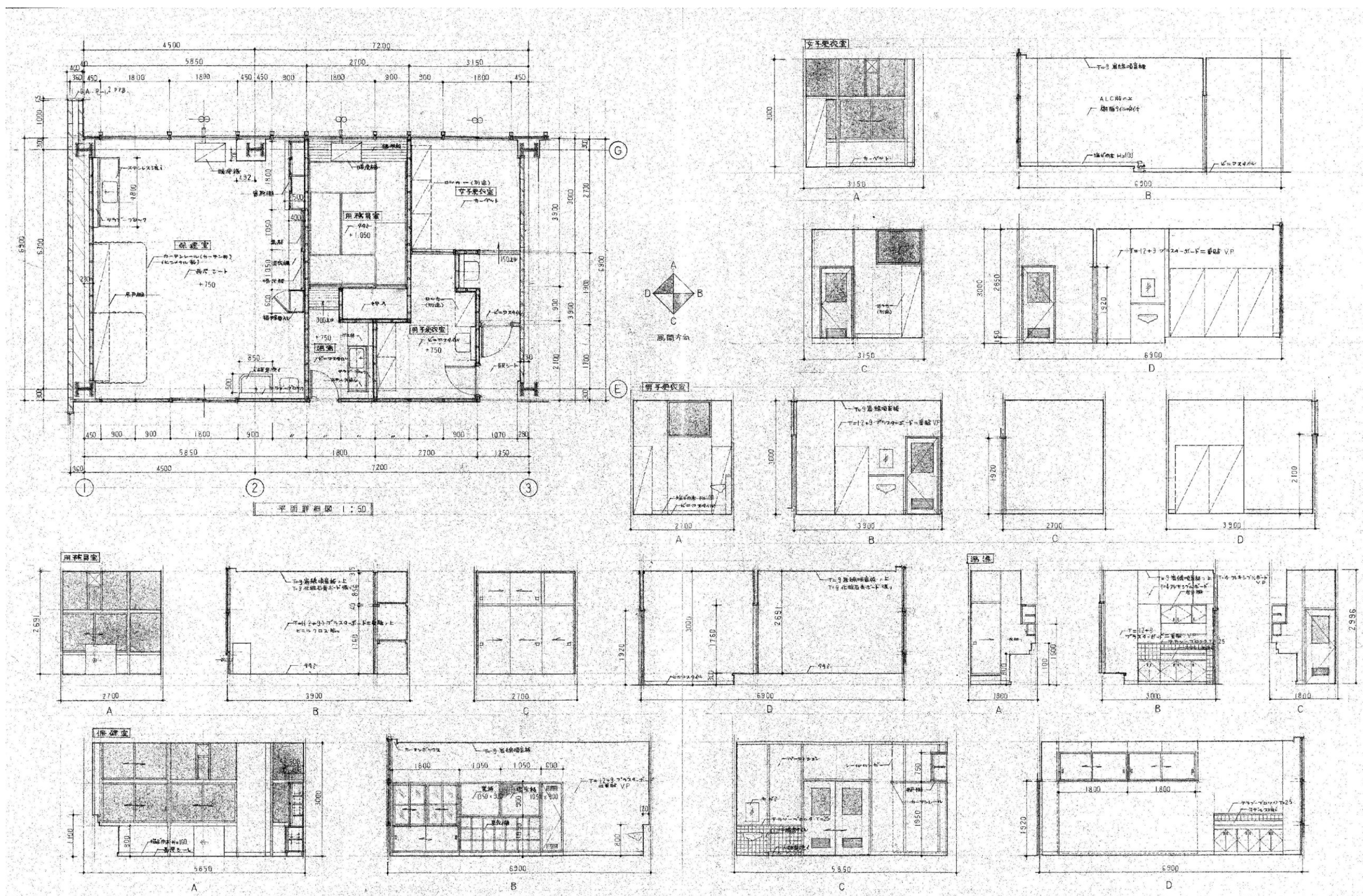
■図面名称/DRAWING-TITLE
昇降口 平面詳細図

■縮尺/SCALE
No scale

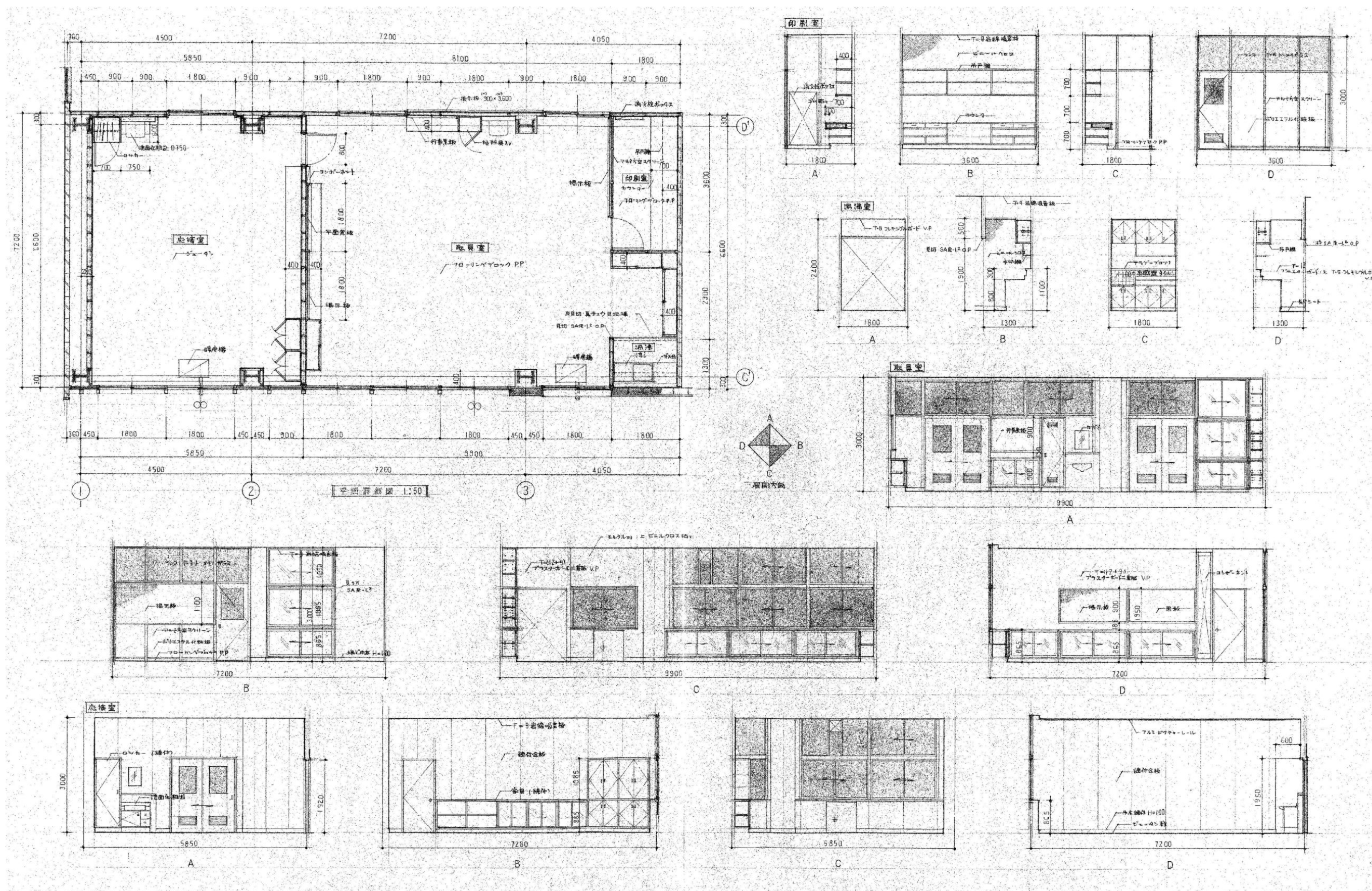
■図番/No.
A - 114



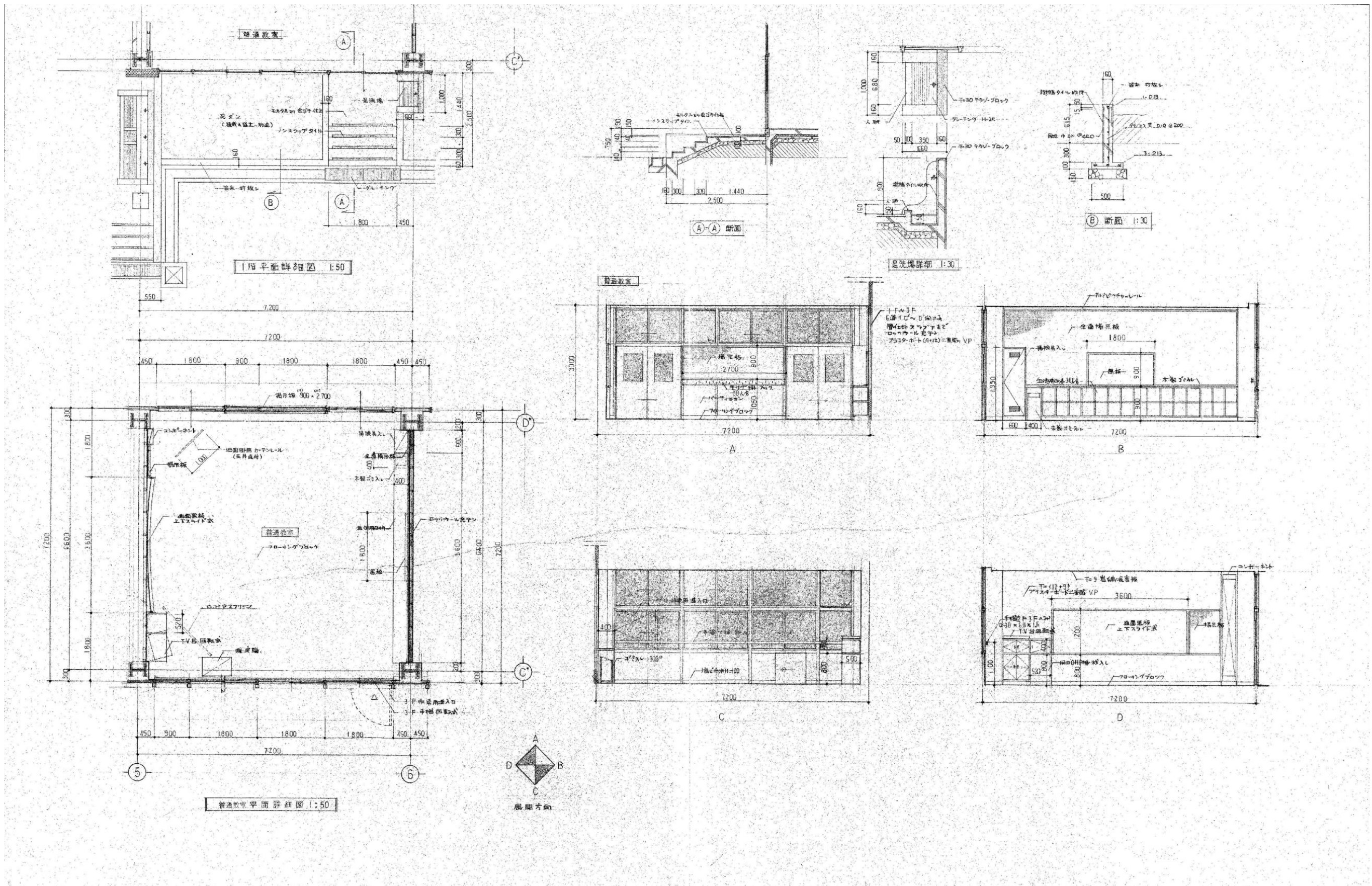
参考図



参考図



参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

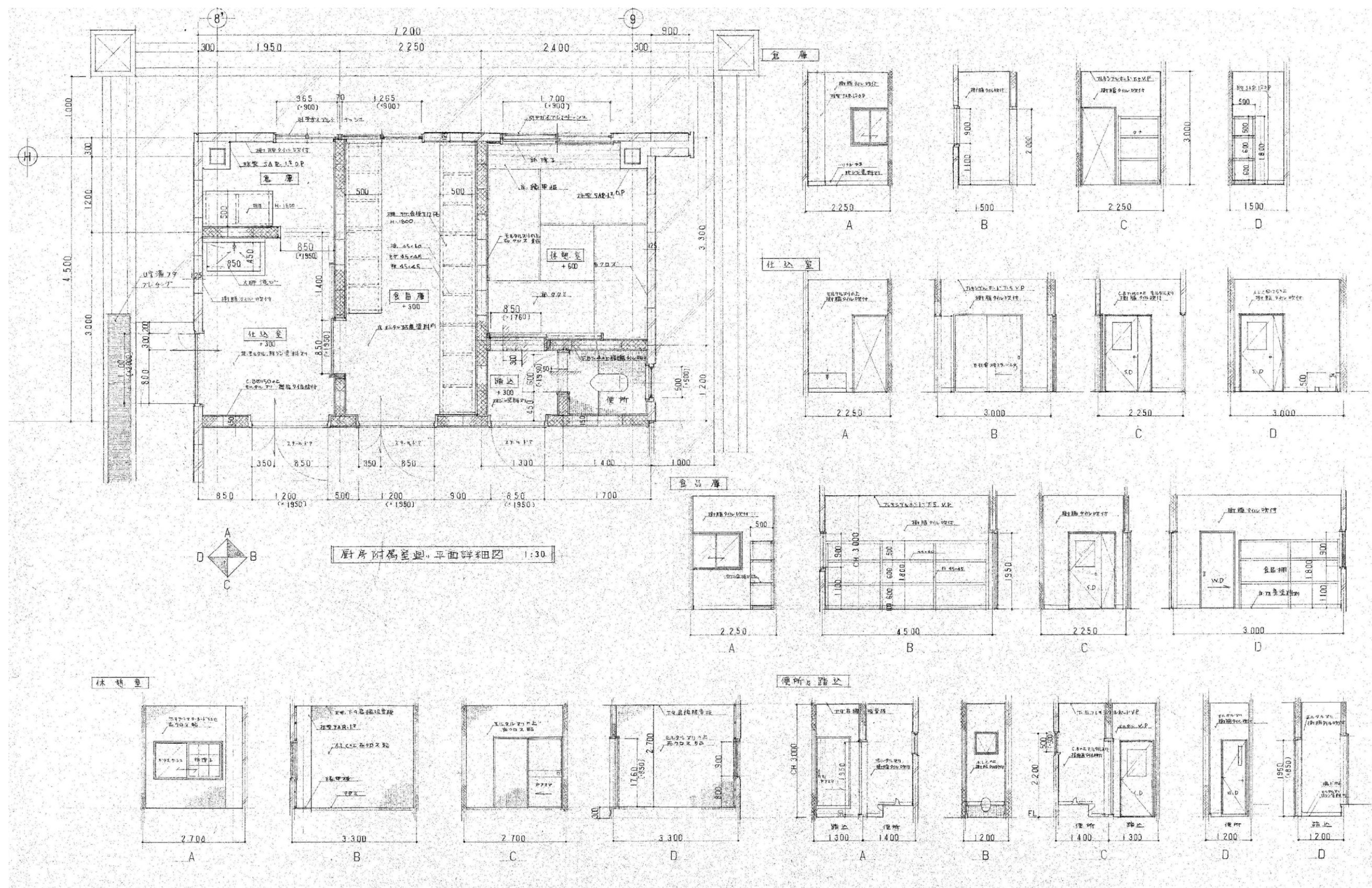
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

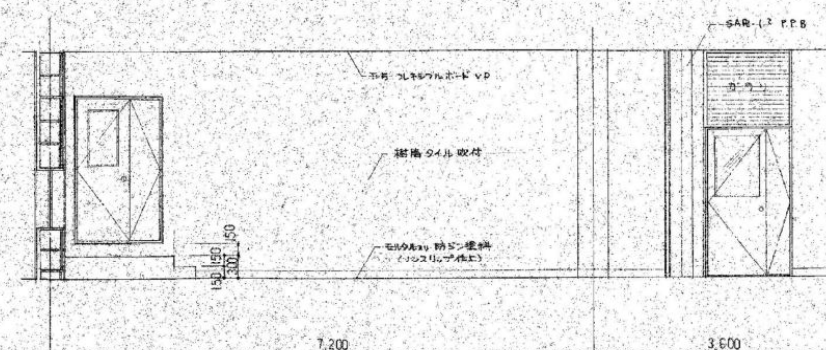
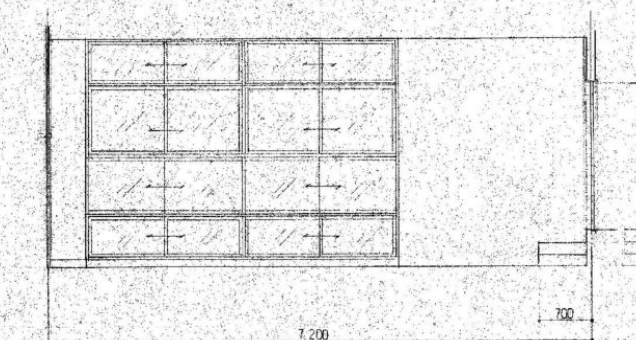
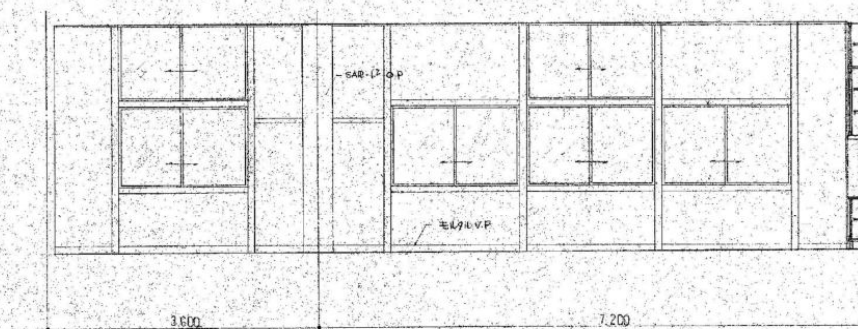
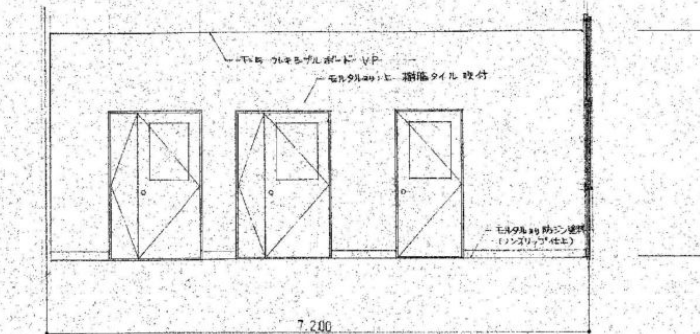
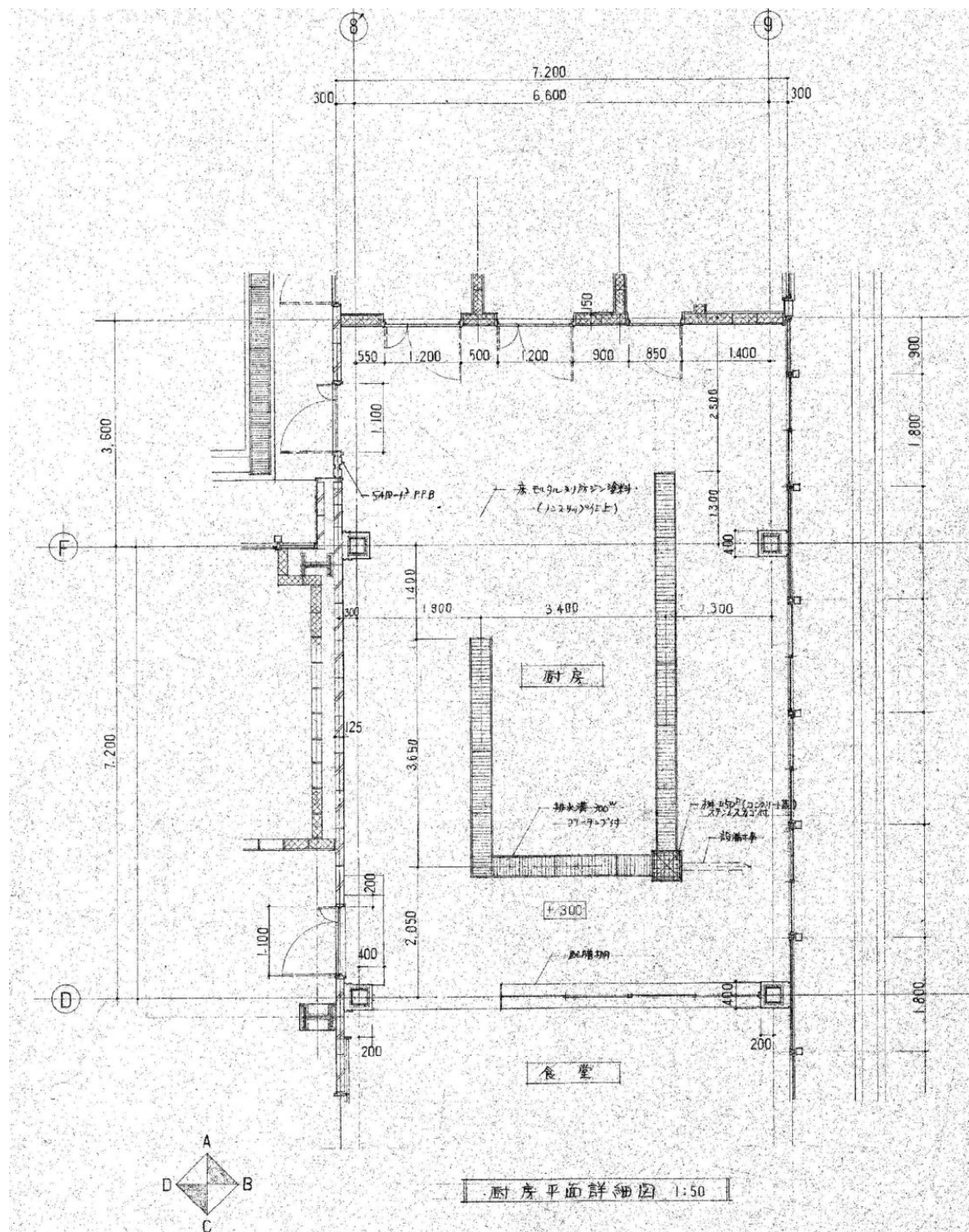
普通教室 平面詳細図・展開図

■縮尺/SCALE
No scale

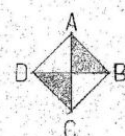
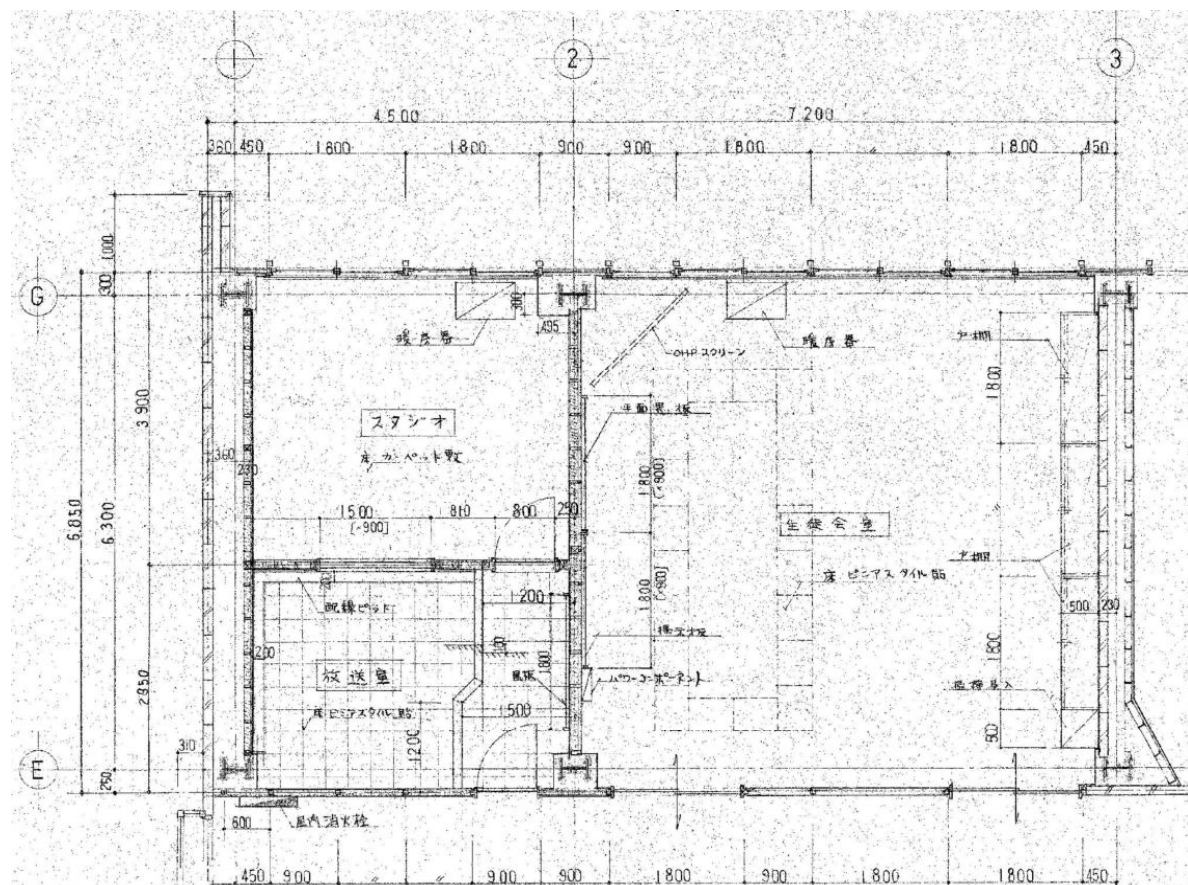
■図番/No.
A — 118



参考図

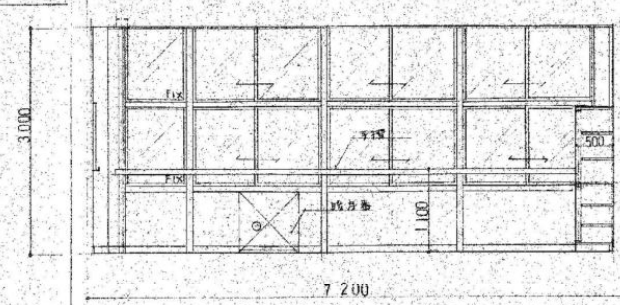


参考図

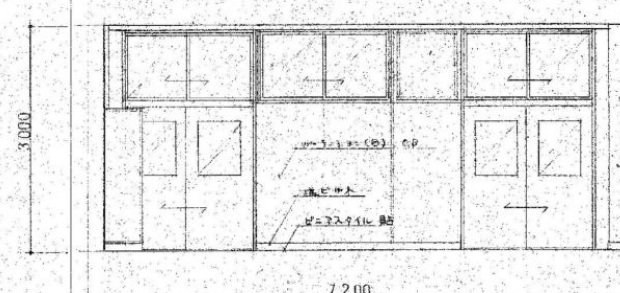


生徒会室 スタジオ 放送室 平面詳細図 1/50

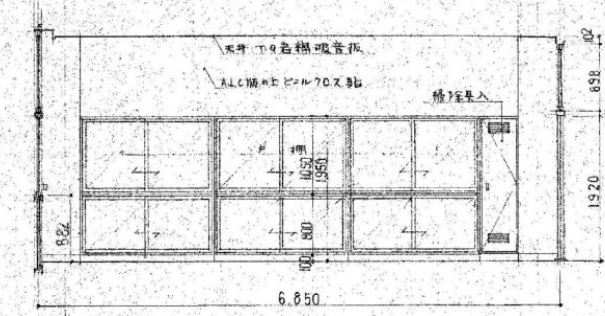
生徒会室



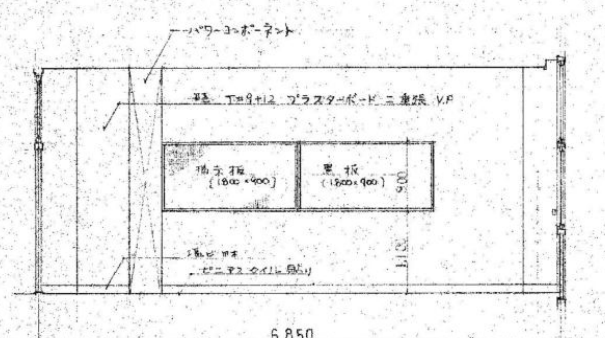
A



C

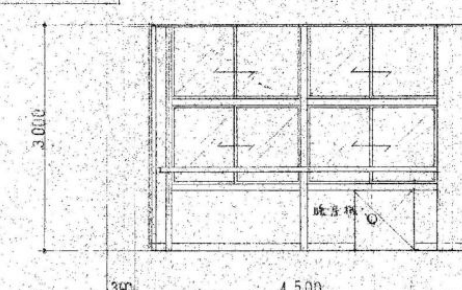


B

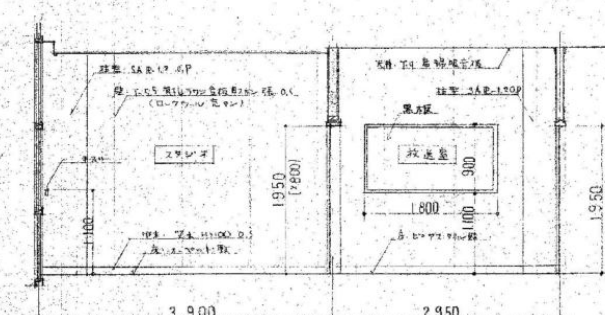


D

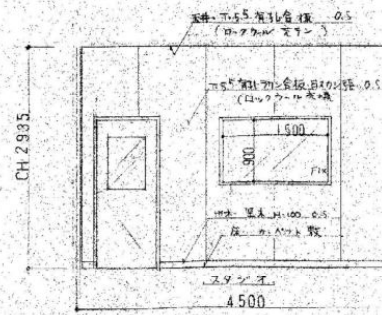
スタジオ 放送室



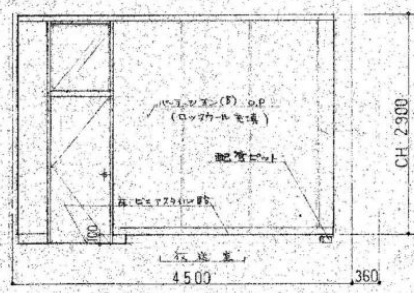
A



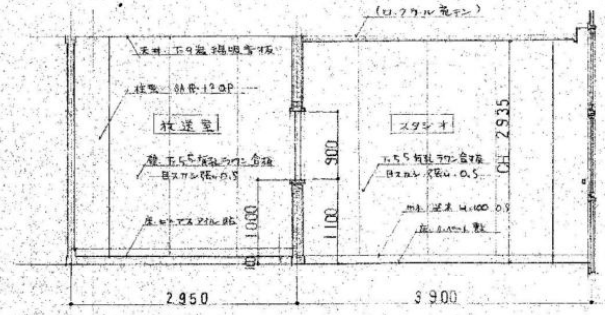
B



C



D



E

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

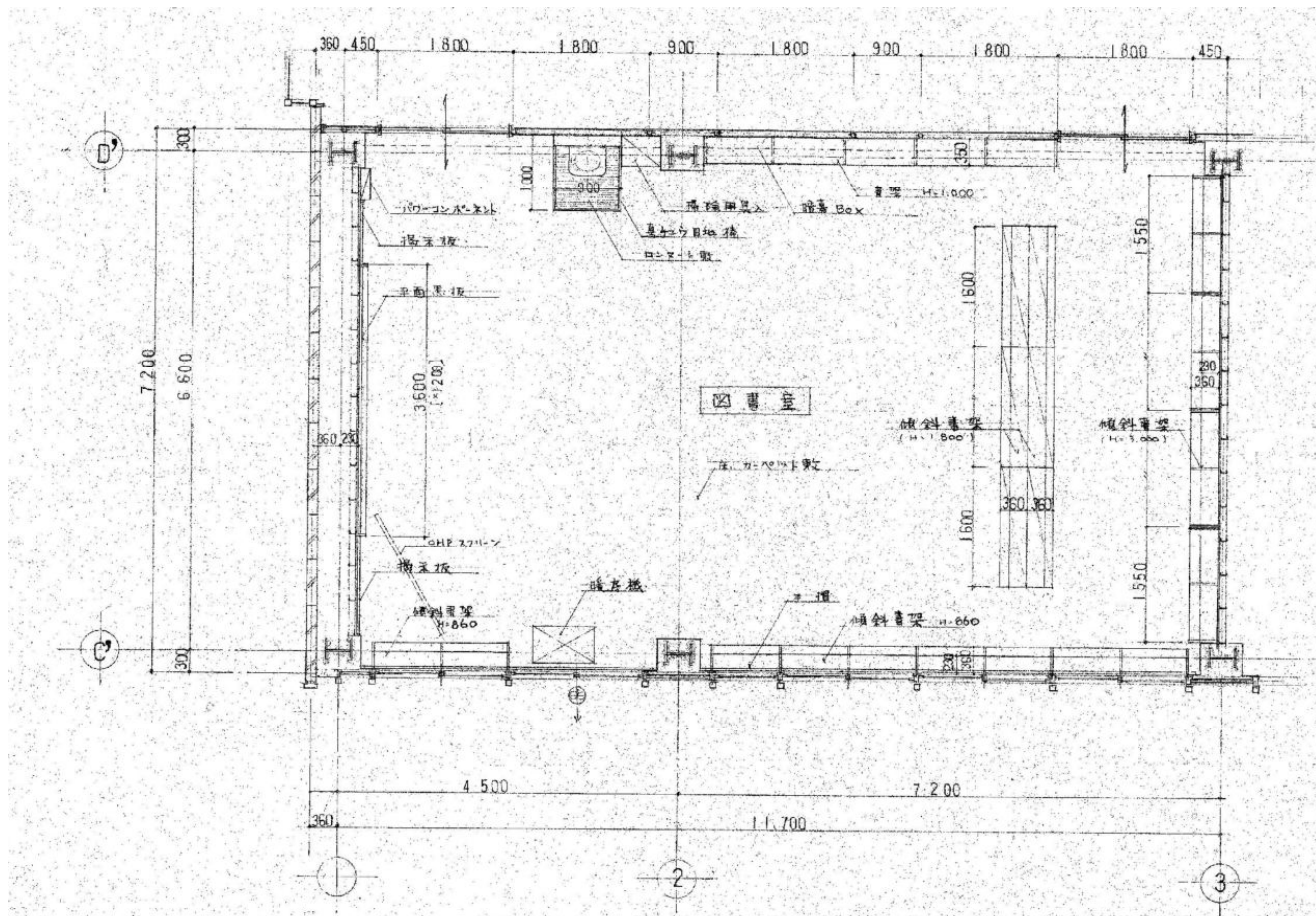
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
生徒会室、スタジオ、放送室 平面詳細図・展開図

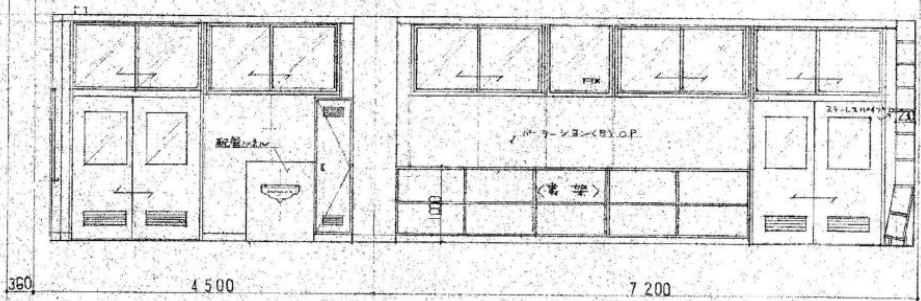
■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 121

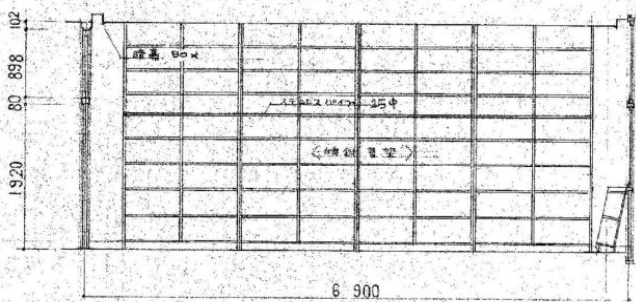


図書室 平面詳細図 1:50

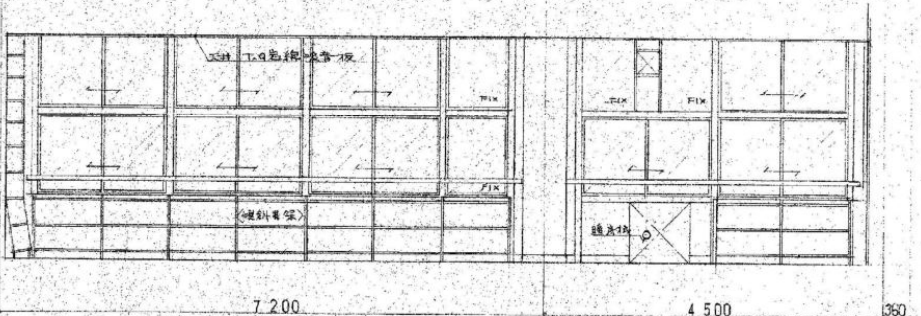
図書室



A



B



C



D

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

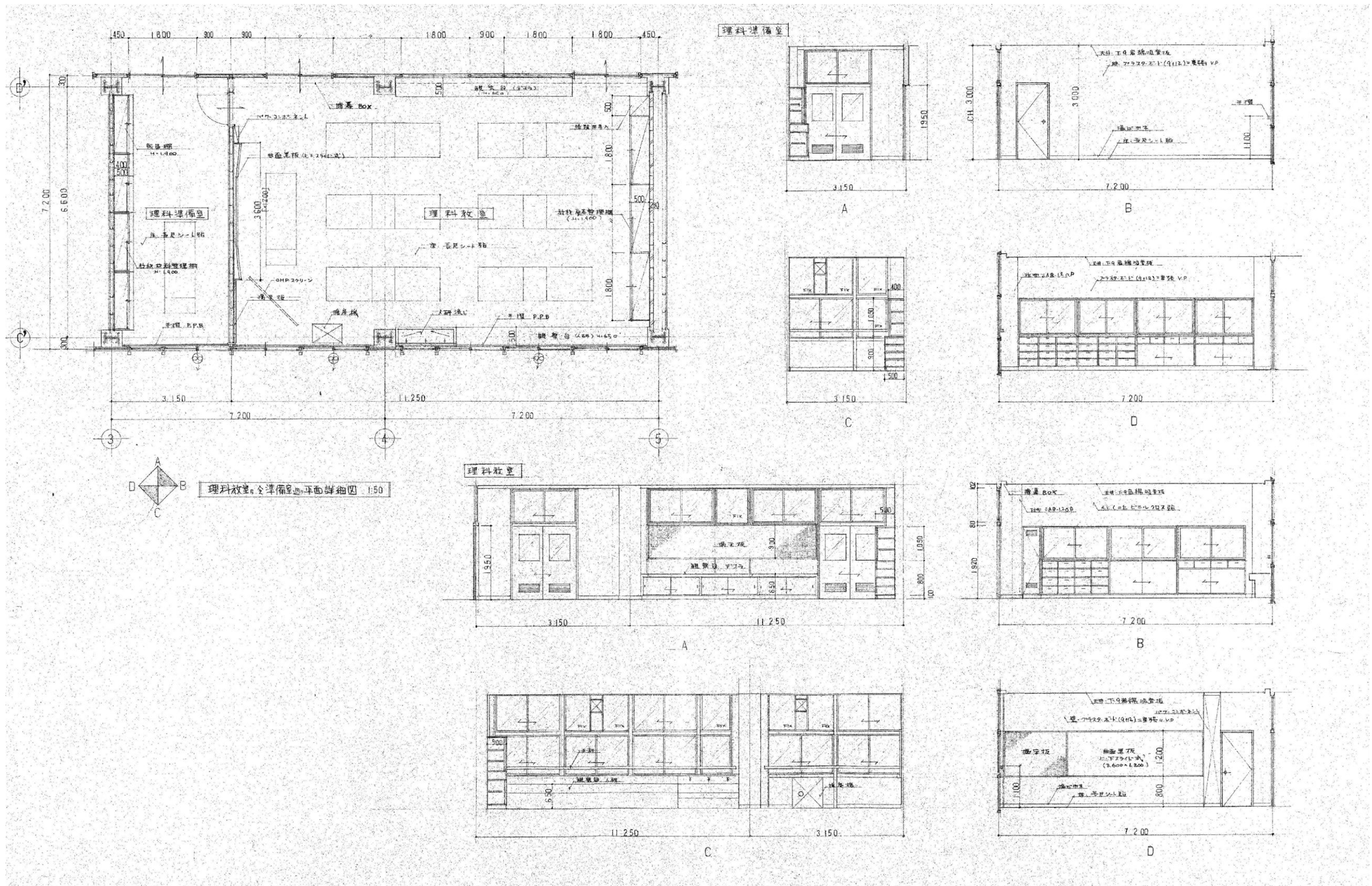
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
図書室 平面詳細図・展開図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 122



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

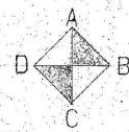
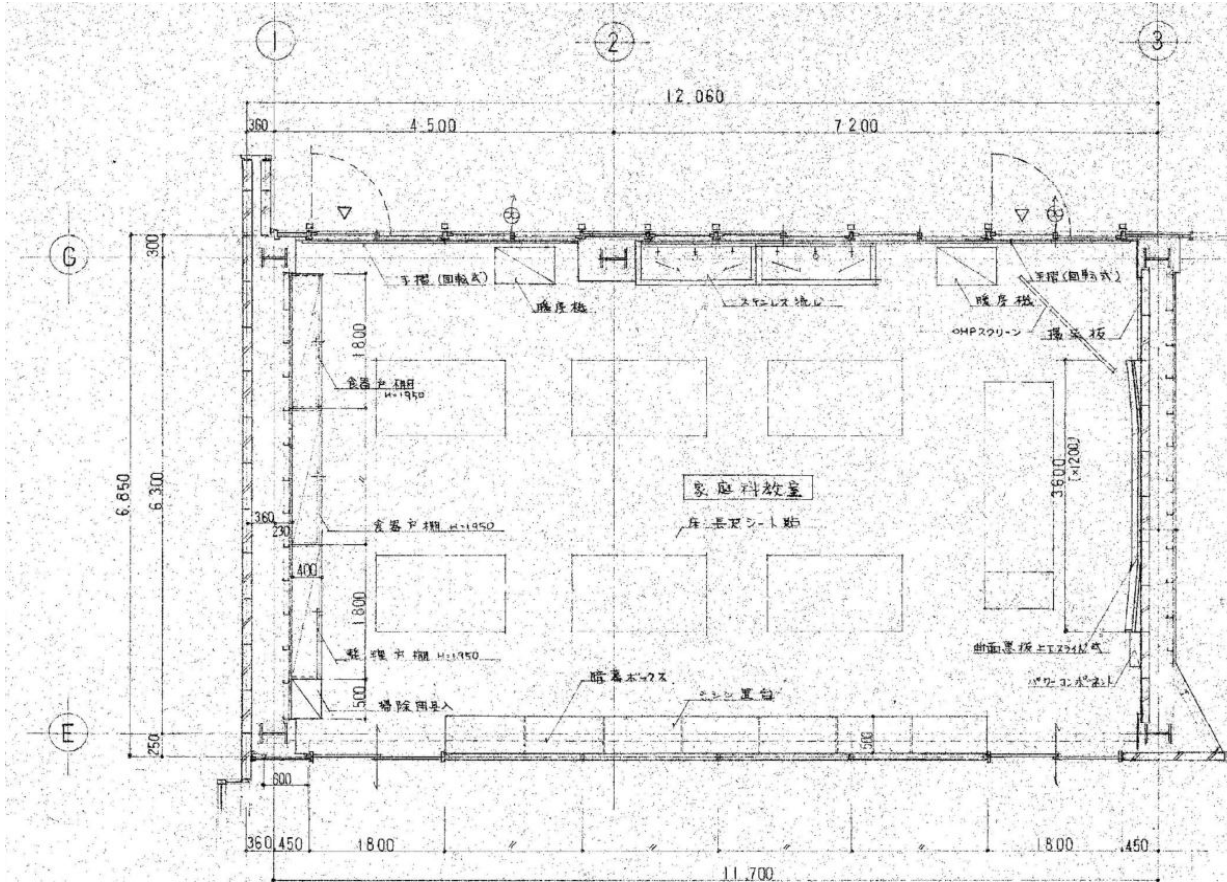
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
理科室及び準備室 平面詳細図・展開図

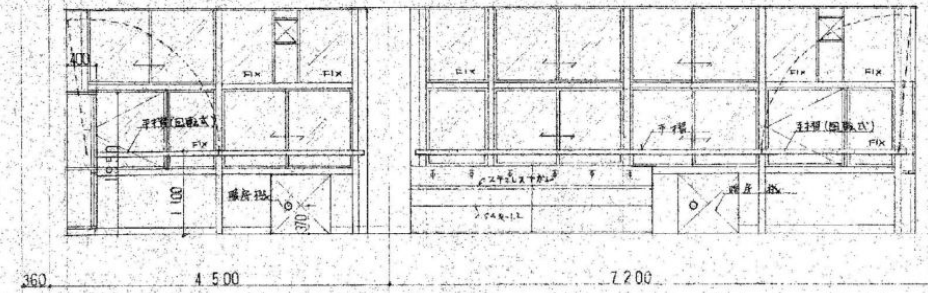
■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 123

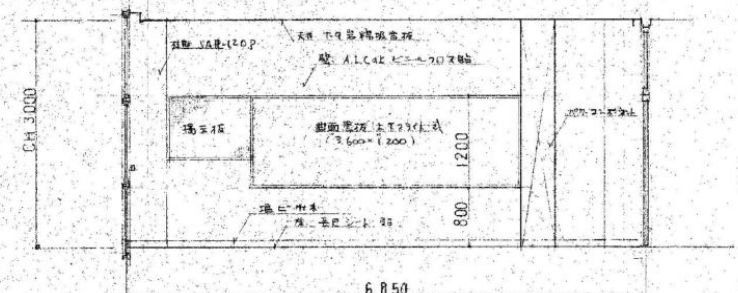


家庭科教室平面詳細図 1:50

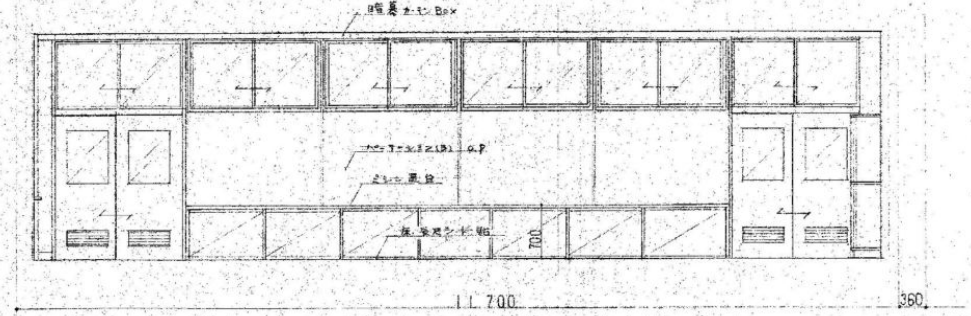
家庭科教室



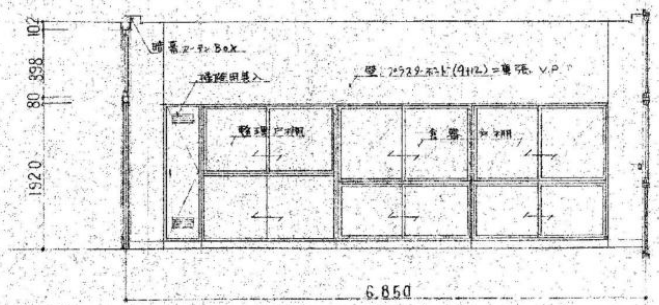
A



B

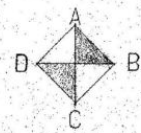
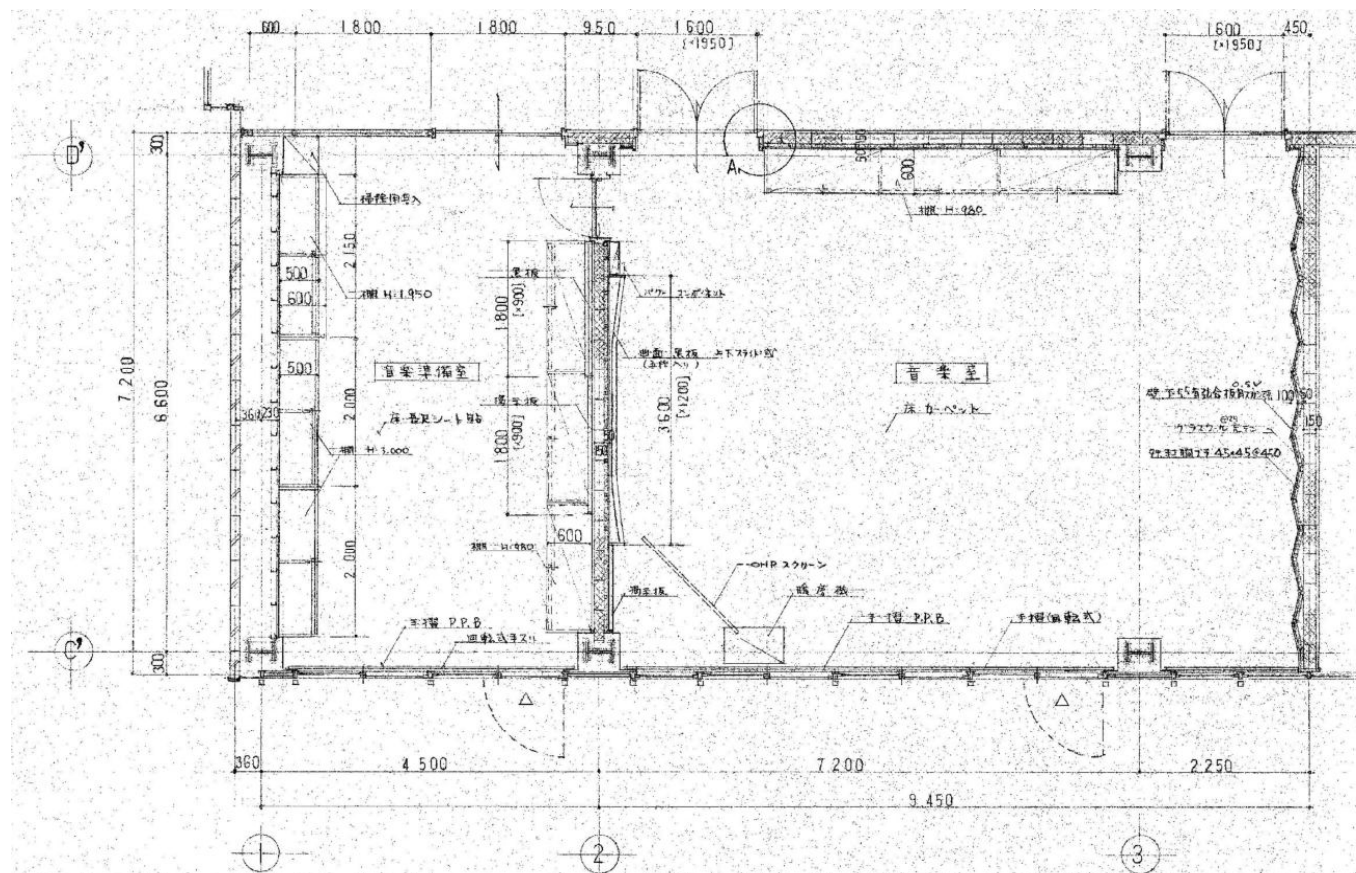


C

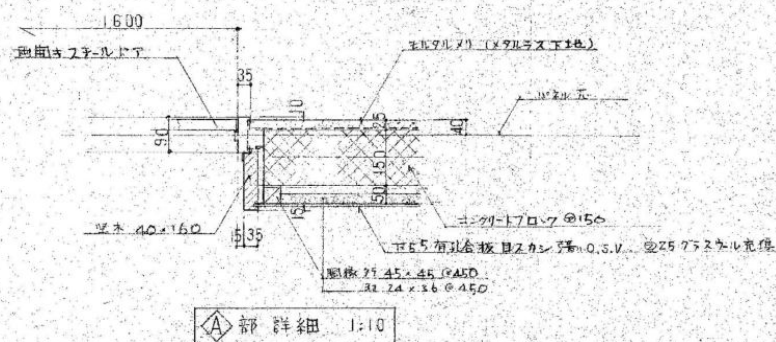


D

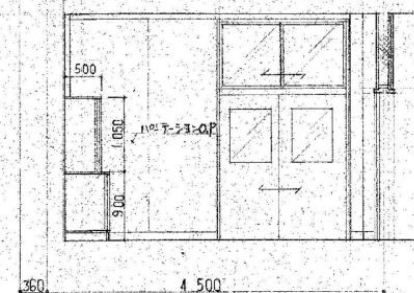
参考図



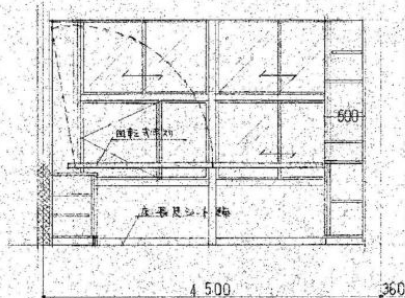
音楽室・全準備室平面詳細図 1:50



音楽準備室

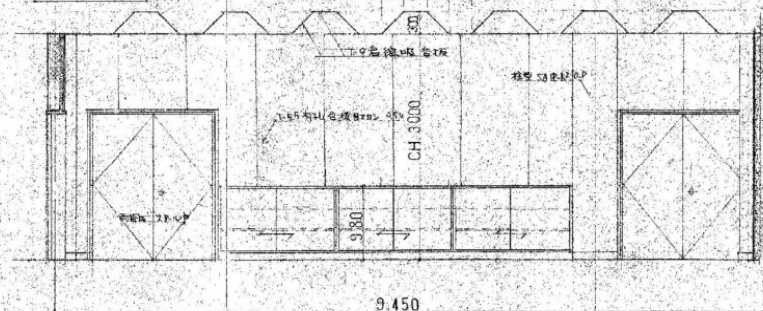


A

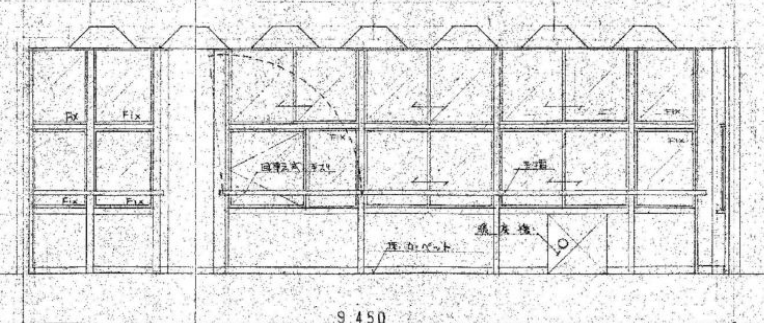


C

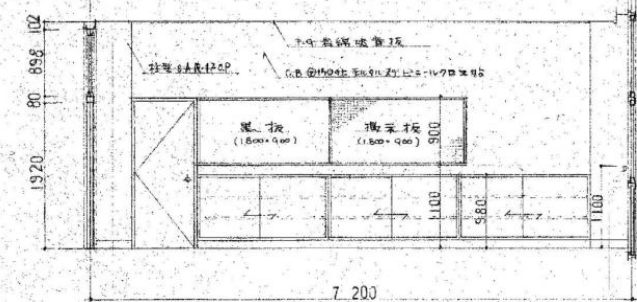
音楽室



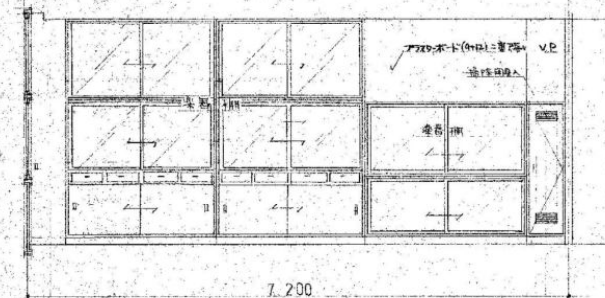
A



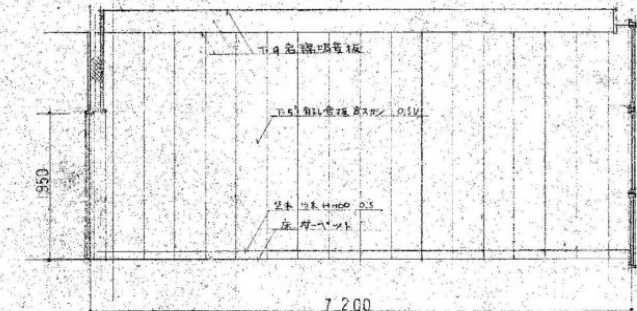
C



B



D



B



D

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

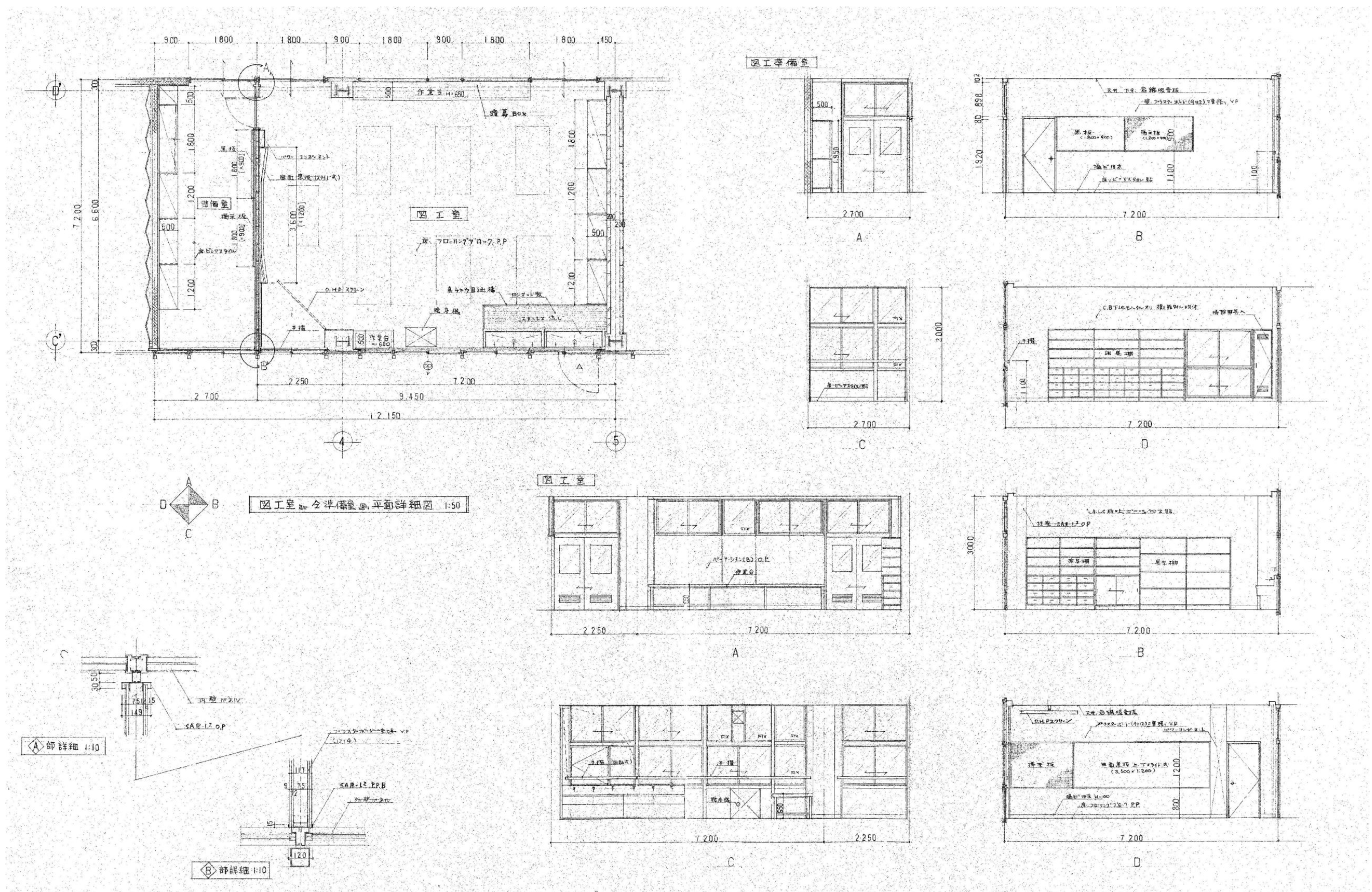
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

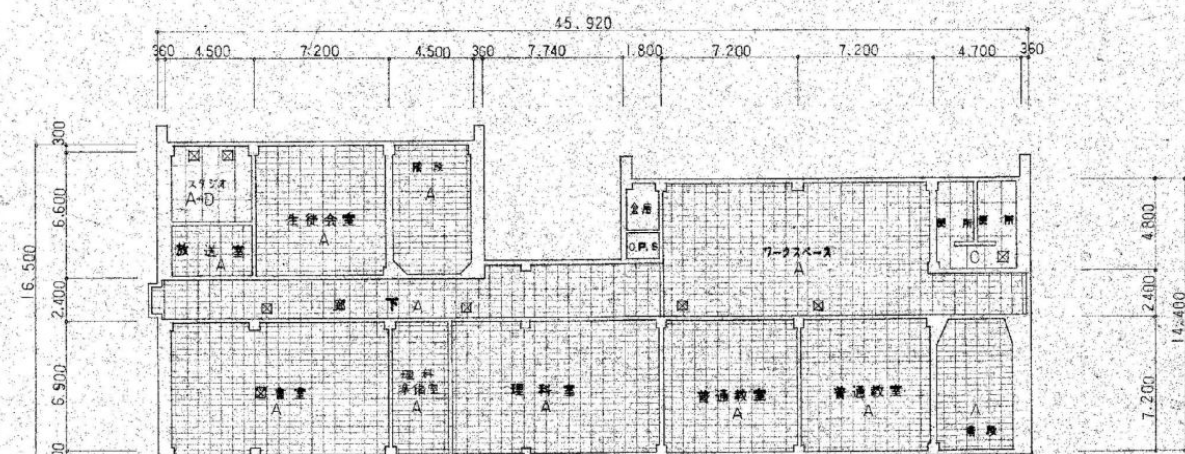
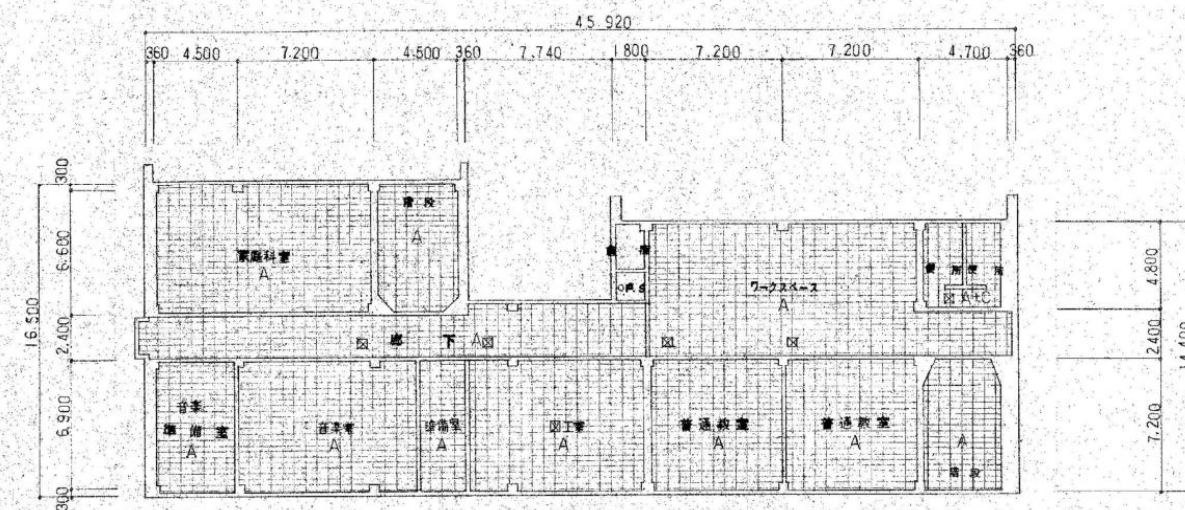
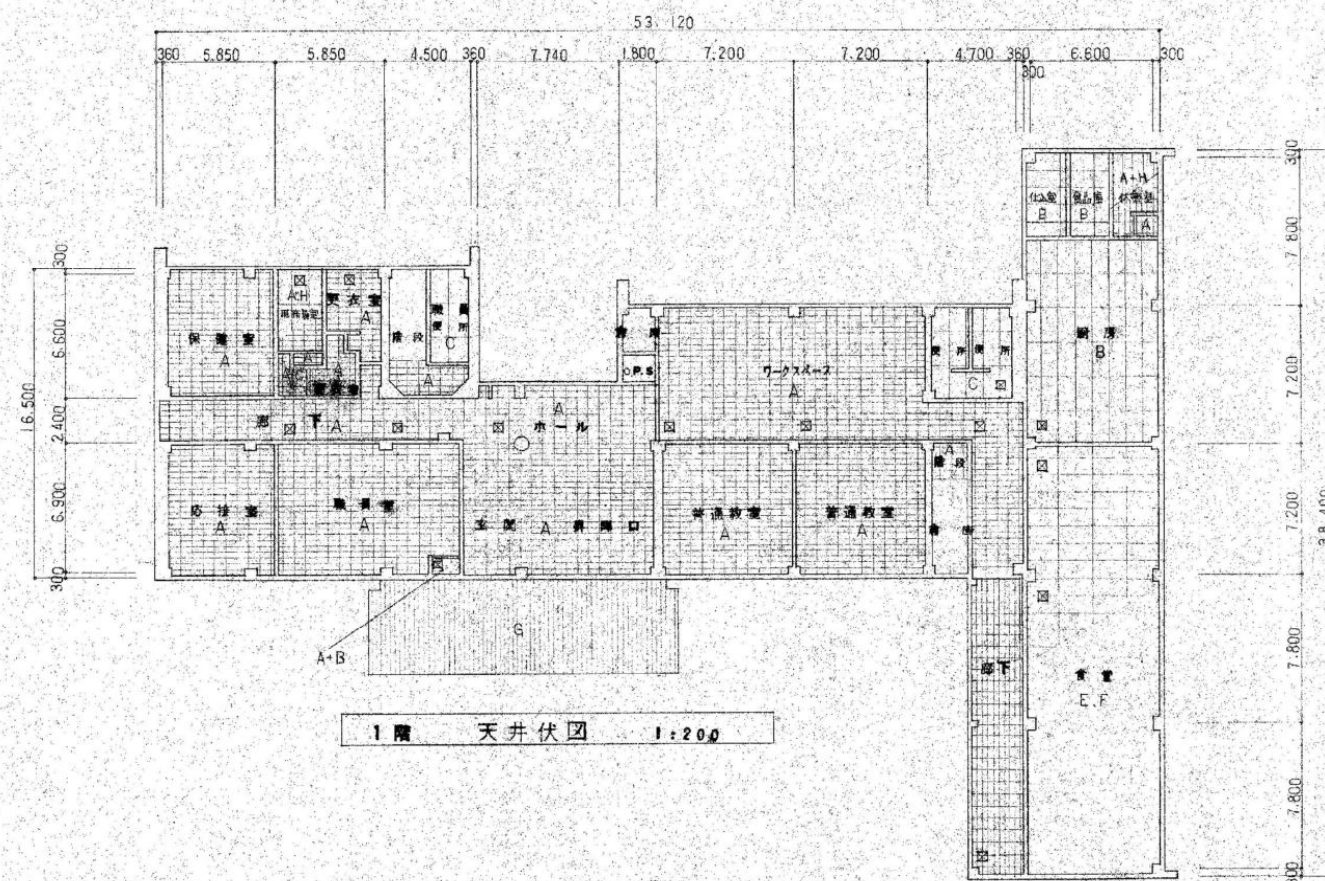
音楽室及び準備室 平面詳細図・展開図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 125

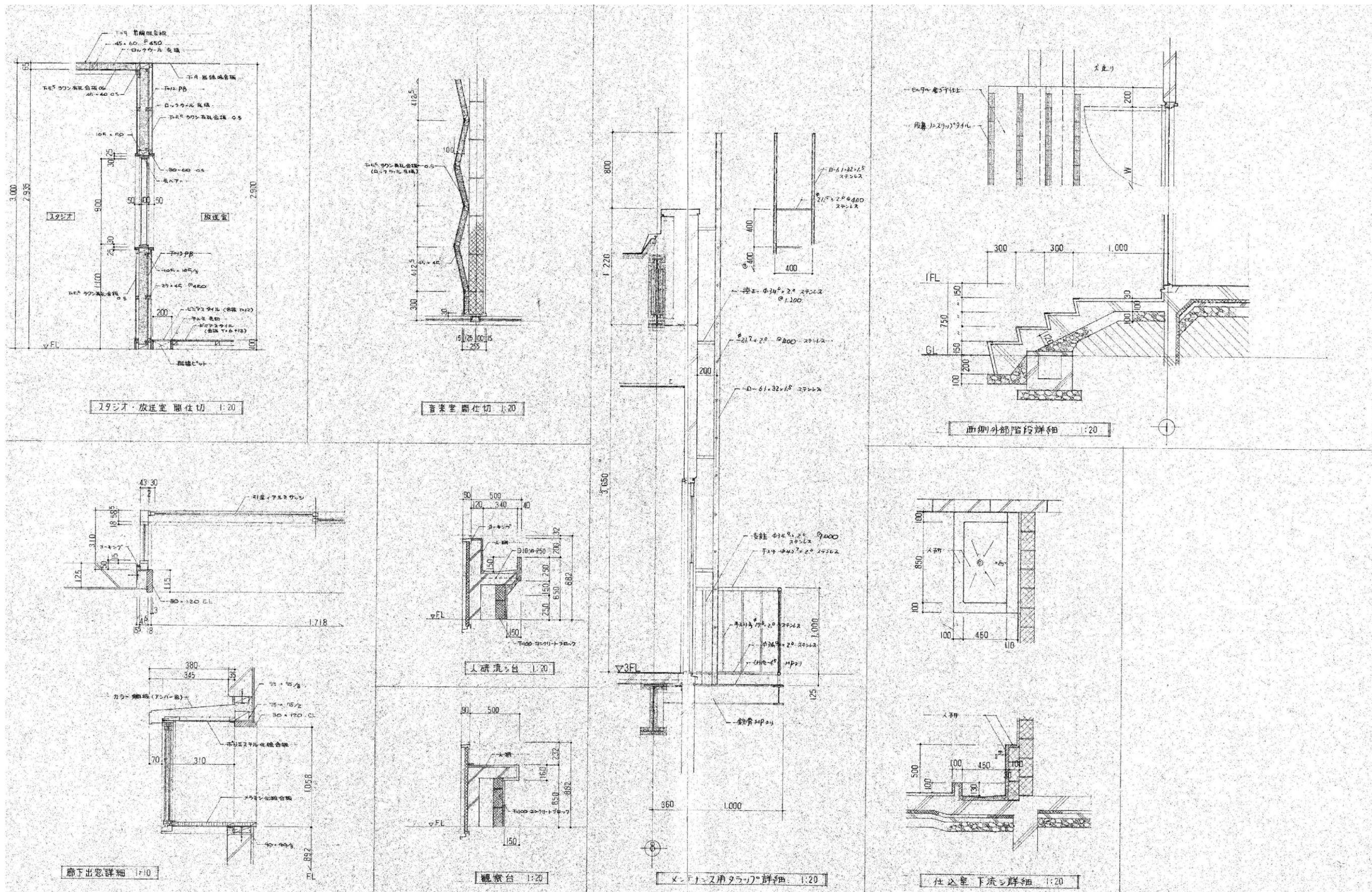


参考図



7スベ' 仕含有建材を示す(レベル3): 岩綿吸音板	
記号	仕 様
A	T=9 岩綿吸音板
B	T=5 フレキシブルボード
C	T=4
D	T=55 角型合板 (ロウワール系)
E	T=9 アクリルボード
F	ビニールクロス張り
G	T=10 ガラスミスパンドレル (リフ付)
H	T=9 化粧石膏ボード
図	天井改メロ 4500

参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

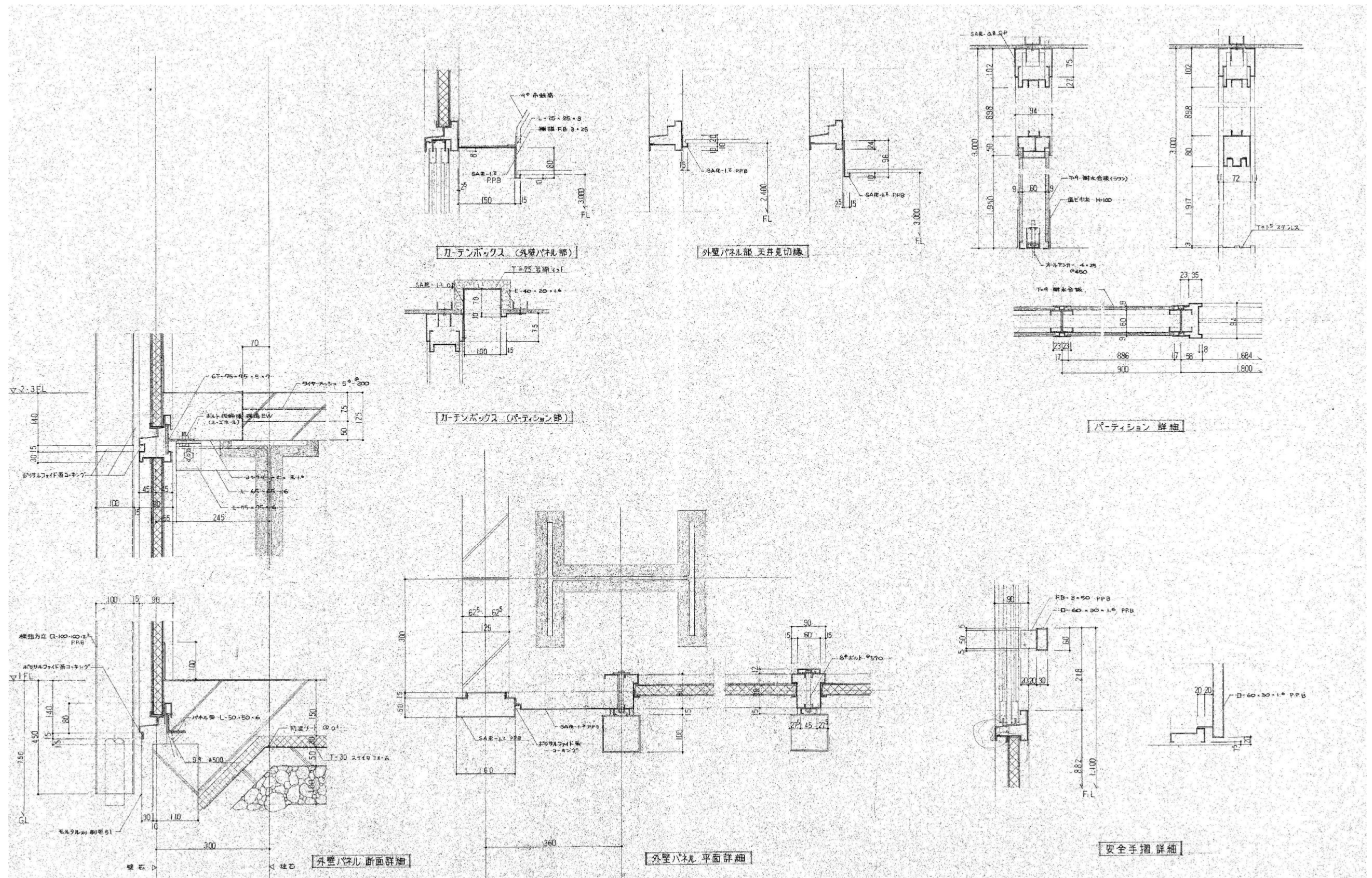
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

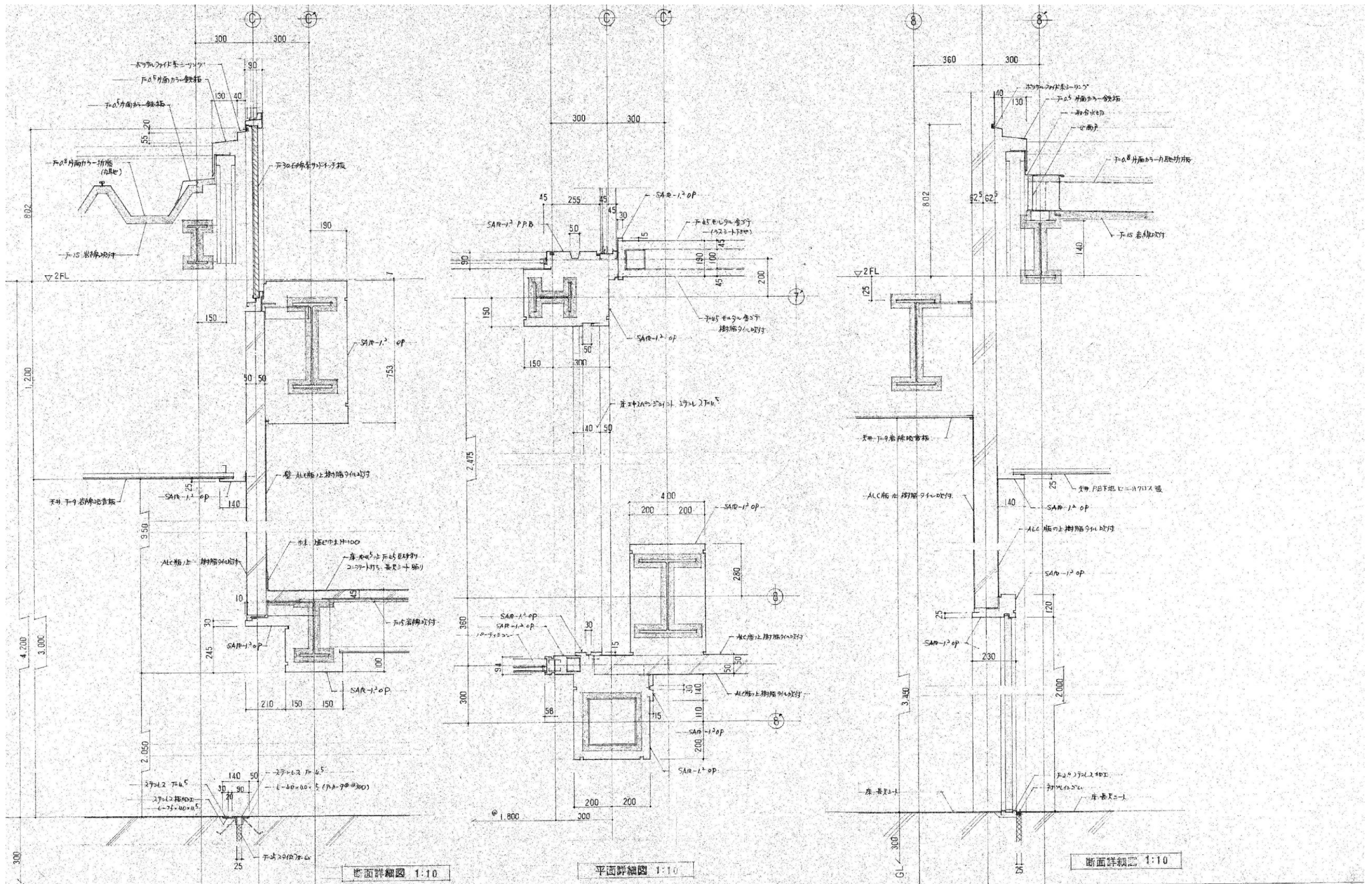
■図面名称/DRAWING-TITLE
各部詳細図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 128



参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

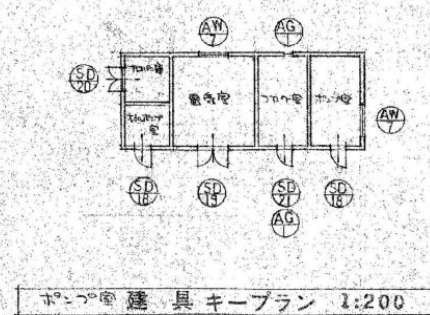
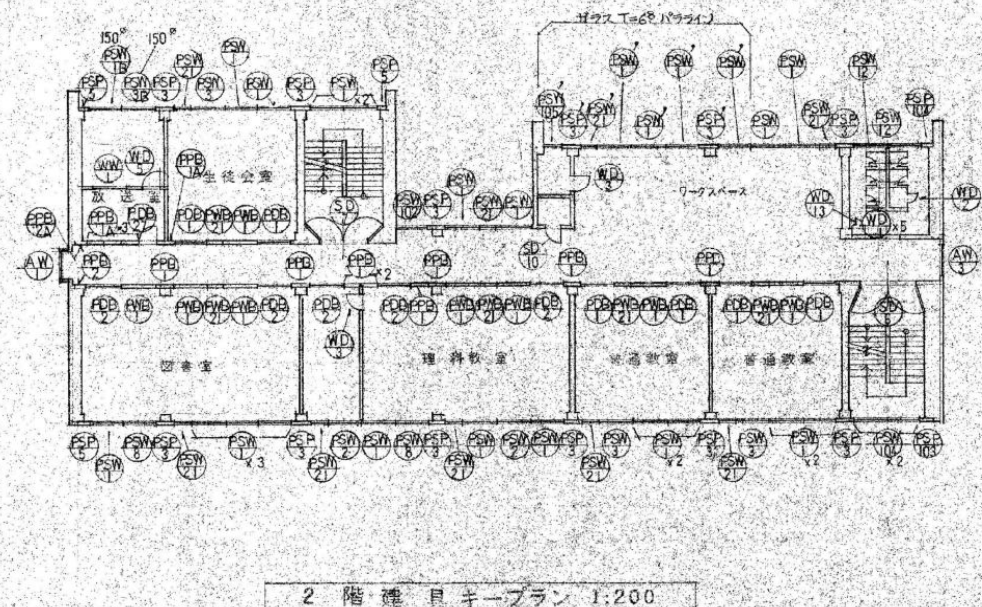
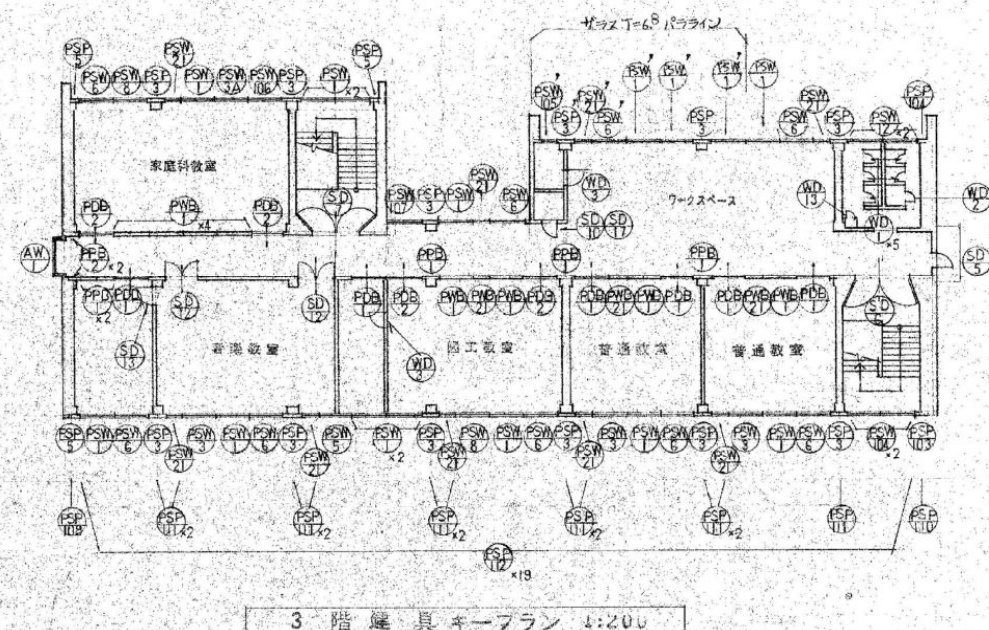
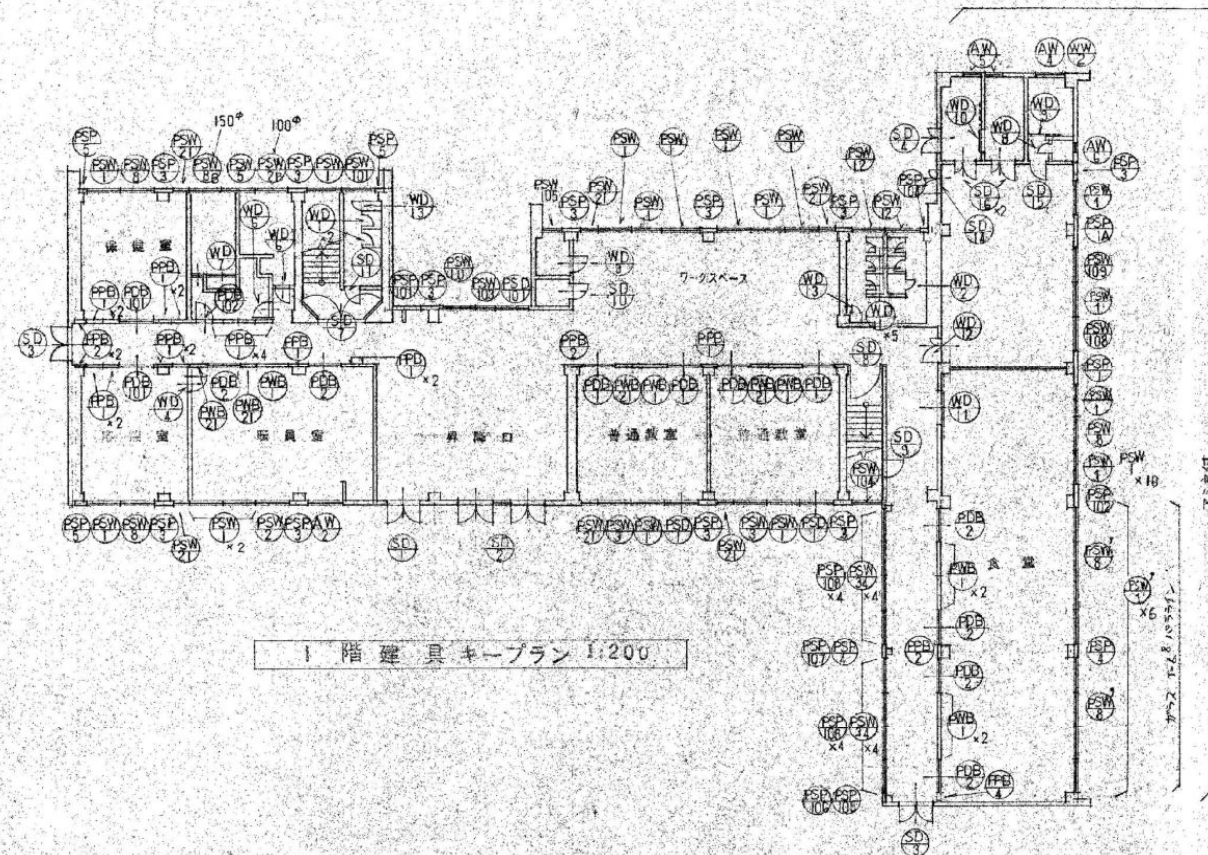
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
エキスパンジョイント詳細

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 130



参考図

記号	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル
形状									
見通寸法	1800	900	600	450	1740	1200 (1100)	650	300	80
網子種類	1	1	1	1	1	1	1	1	1
耐震強度	1	1	1	1	1	1	1	1	1
記号	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	無窓パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル
形状									
見通寸法	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800 (1740)	1800	1800
網子種類	1	1	1	1	1	1	1	1	1
耐震強度	1	1	1	1	1	1	1	1	1
記号	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル
形状									
見通寸法	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800
網子種類	1	1	1	1	1	1	1	1	1
耐震強度	1	1	1	1	1	1	1	1	1
記号	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル	窓付パネル
形状									
見通寸法	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800	1800
網子種類	1	1	1	1	1	1	1	1	1
耐震強度	1	1	1	1	1	1	1	1	1

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
建具表1

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 132

記号	⑤① ランマ付両開きドア	⑤② ランマ付両開きドア	⑤③ 両開きドア	⑤④ 両開き親子ドア	⑤⑤ 片開きドア	⑤⑥ 両開きドア (ランマ付)	⑤⑦ 両開きドア (ランマ付)	⑤⑧ 片開きドア (ランマ付)
形状								
見込寸法 材 質	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装	枠 90 スチール 焼付塗装
開子種類	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付
開閉方向	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付
記号	⑤⑨ 片開きドア	⑤⑩ 片開きドア	⑤⑪ 片開きドア	⑤⑫ 両開きドア	⑤⑬ 片開きドア	⑤⑭ ランマ付両開き親子ドア	⑤⑮ 片開きドア	⑤⑯ 両開き親子ドア
形状								
見込寸法 材 質	スチール OP	スチール OP	スチール OP	スチール OP	スチール OP	スチール OP	スチール OP	スチール OP
開子種類	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付
開閉方向	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付
記号	⑤⑰ 片開きドア	⑤⑱ 両開きドア	⑤⑲ 両開き金網ドア	⑤⑳ 片開きドア				
形状								
見込寸法 材 質	スチール 焼付塗装	スチール 焼付塗装	スチール 焼付塗装	スチール 焼付塗装				
開子種類	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付				
開閉方向	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付	ランマ付ランマ付ランマ付ランマ付				

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

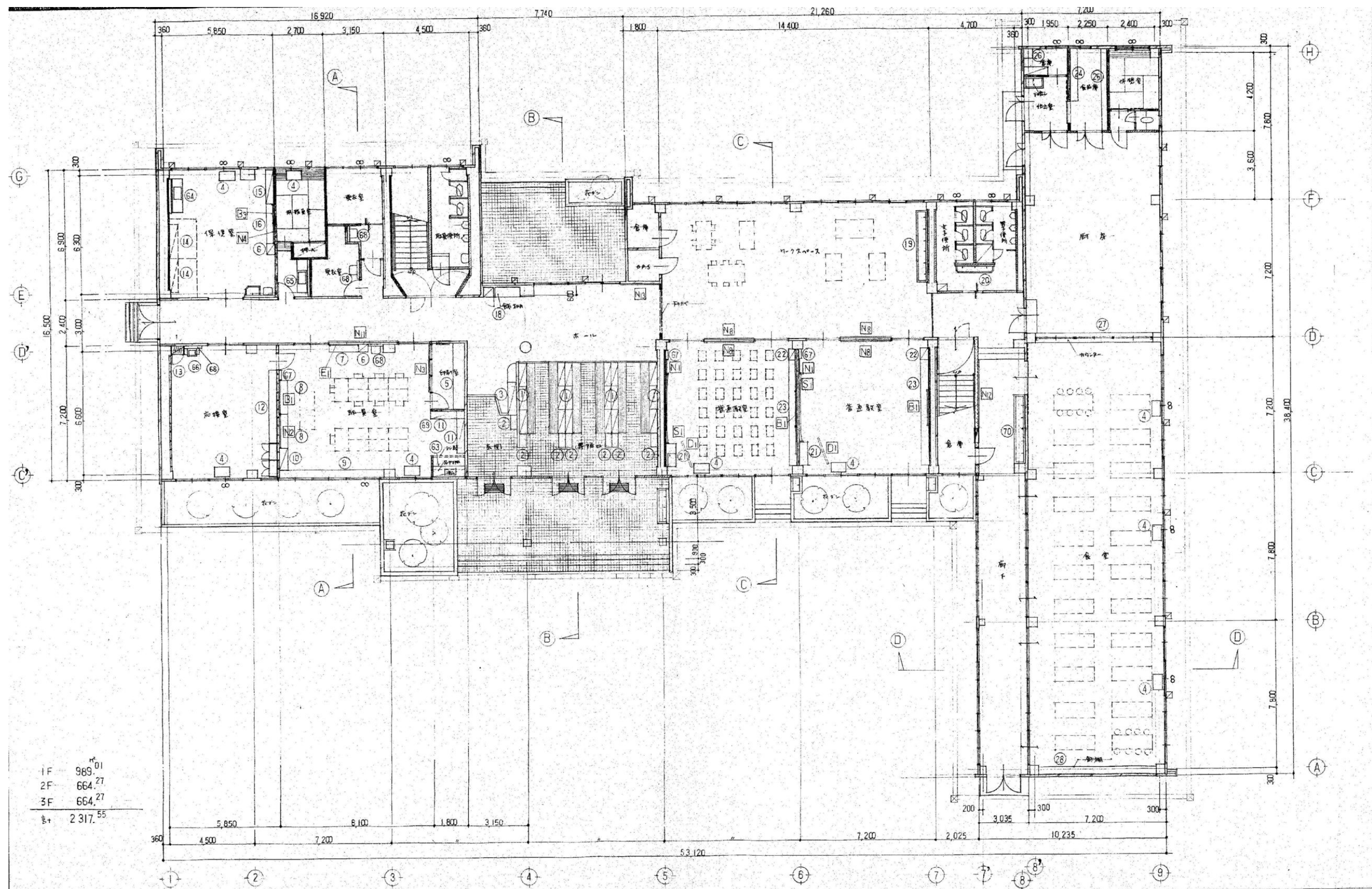
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
建具表3

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 134



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

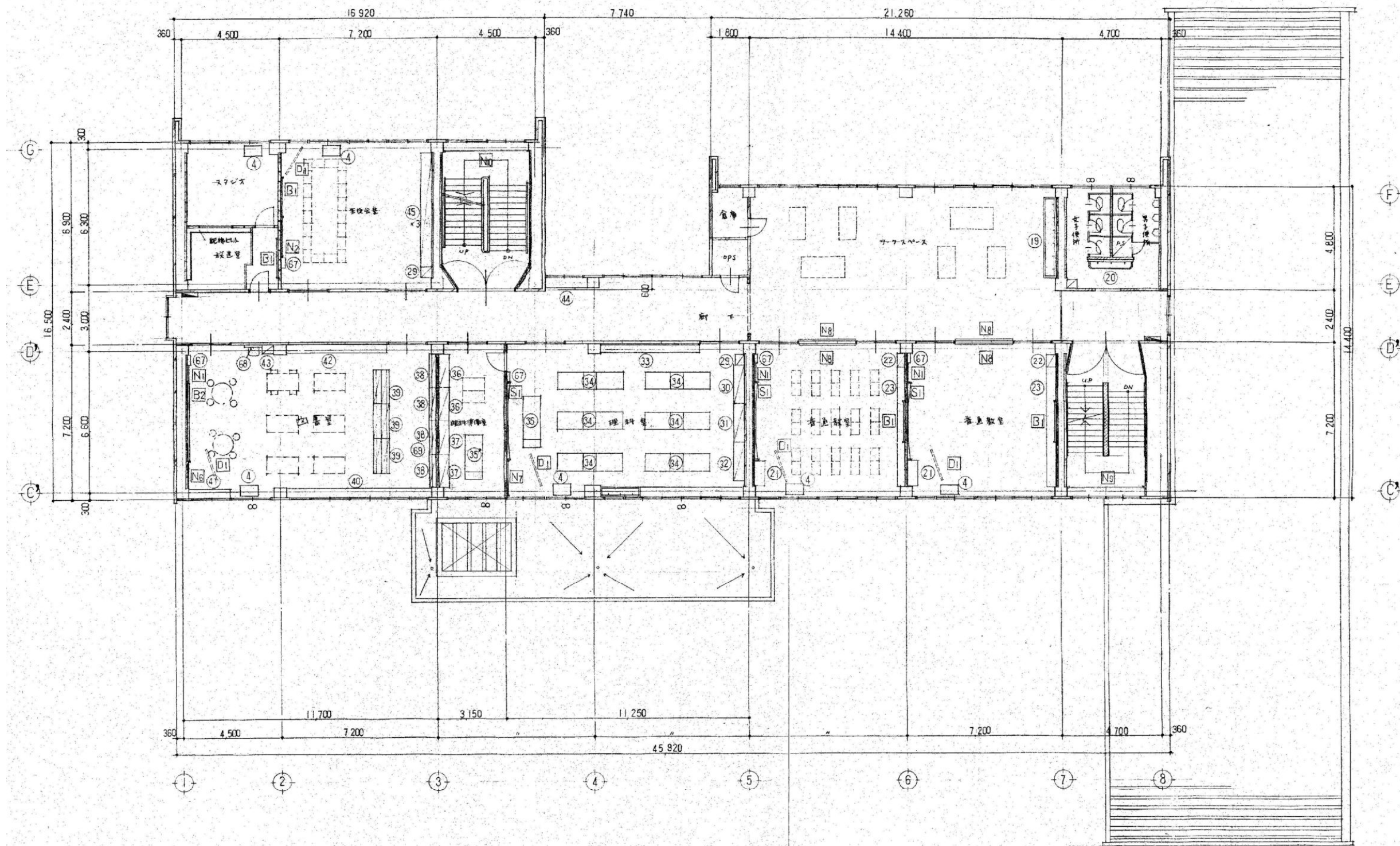
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
1階備品配置図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 135



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

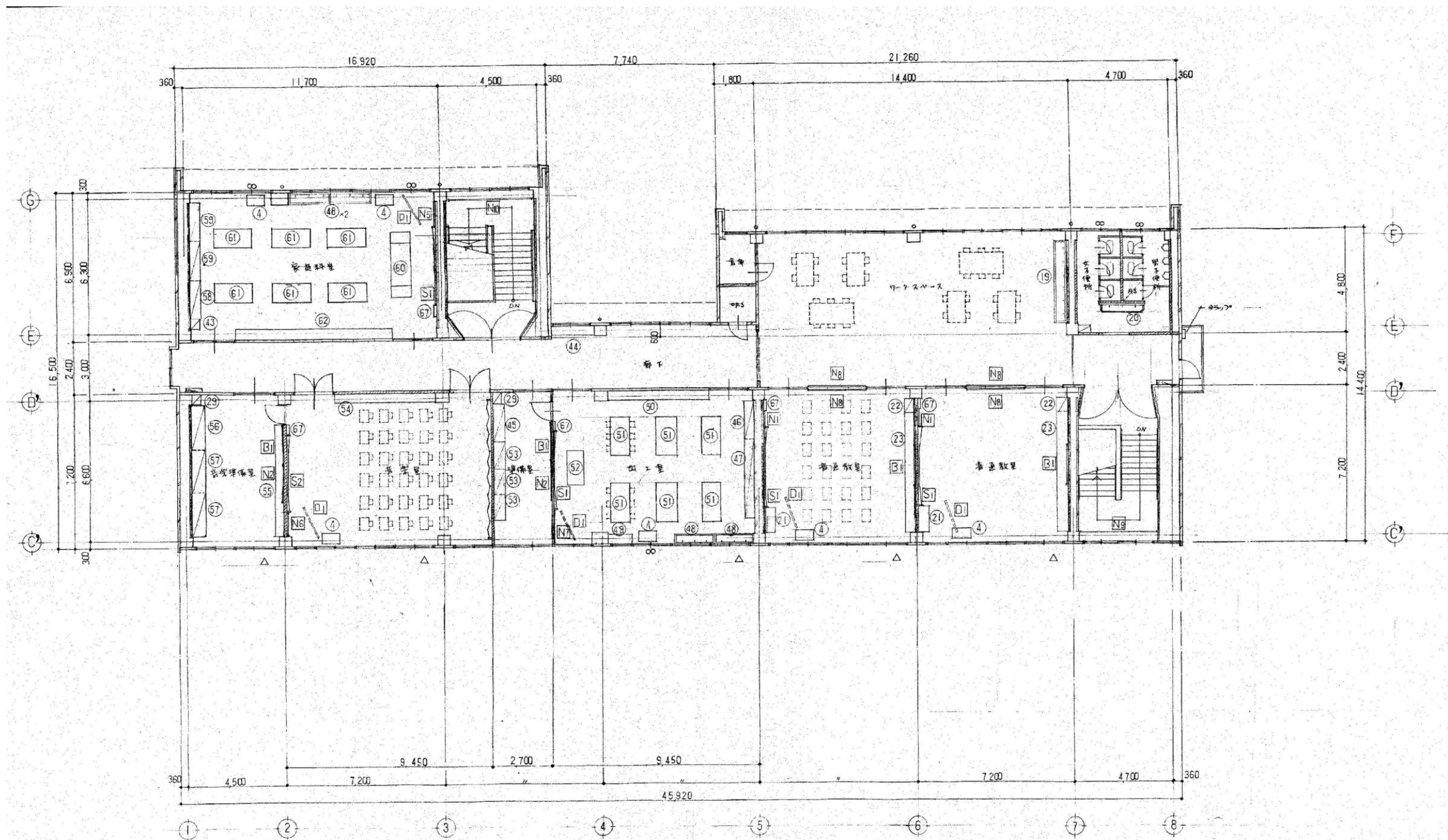
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
2階備品配置図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 136



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
3階備品配置図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 137

記号	① 生体熱不足補	② 市井立	③ 雨風下突入	④ 強制吸排気式右油スト-7"
図				
数量	18 層降口	7 式油 昇降口	1 式油	21
材料	スチール 使用	スチール 既製品	化粧壁板 T1ラワンベニヤ @ 4' @ 12'	化粧板 BFS-15A
器具			水引金網 クラッシュ	
金物			ステンレス鋼 マイナットキャッチ ナムフーレド ヴィンゲット(24時 ステンレス)	
備考			外部 市井金網板 内部 O.S.L.M.	1階 市井 排気能力5-14 (SUS 304)
記号	⑤ 印刷台 吊戸棚	⑥ ②② ②③ ④③ 掃除機	⑦ ⑧ 整理棚	⑨ 整理棚
図				
数量	1 印刷台	3 掃除機	3 整理棚	1 整理棚
材料	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ
器具		ベニヤラワンベニヤ O.P. 外部 市井金網板	T1ラワンベニヤ O.P. 内部 市井金網板	T1ラワンベニヤ O.P. 内部 市井金網板
金物	引手	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼
備考		外部 市井金網板 内部 市井金網板	外部 市井金網板 内部 市井金網板	外部 市井金網板 内部 市井金網板
記号	⑩ 整理棚	⑪ 整理棚	⑫ 印刷台	⑬ ロッカー
図				
数量	1 整理棚	1 整理棚	1 印刷台	1 ロッカー
材料	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ
器具	T1ラワンベニヤ O.P. ステンレス鋼	T1ラワンベニヤ O.P. ステンレス鋼	T1ラワンベニヤ O.P. ステンレス鋼	T1ラワンベニヤ O.P. ステンレス鋼
金物	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼
備考	外部 市井金網板 内部 市井金網板	外部 市井金網板 内部 市井金網板	外部 市井金網板 内部 市井金網板	外部 市井金網板 内部 市井金網板
記号	⑭ 吊戸棚	⑮ 整理棚	⑯ 印刷台	⑰ ロッカー (既製)
図				
数量	2 保健室	1 保健室	1 保健室	5
材料	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ	化粧壁板 T1ラワンベニヤ
器具	ベニヤラワンベニヤ O.P.	ベニヤラワンベニヤ O.P.	ベニヤラワンベニヤ O.P.	ベニヤラワンベニヤ O.P.
金物	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼	ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼 ステンレス鋼
備考	外部 O.P. 内部 市井金網板	外部 O.P. 内部 市井金網板	外部 O.P. 内部 市井金網板	外部 O.P. 内部 市井金網板

参考図

<p>図 18 鉄骨柱</p>	<p>図 19 鉄骨梁</p>	<p>図 20 鉄骨梁</p>	<p>図 21 TV台</p>
<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>
<p>図 22 普通鉄骨柱</p>	<p>図 23 普通鉄骨梁</p>	<p>図 24 普通鉄骨梁</p>	<p>図 25 普通鉄骨柱</p>
<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>
<p>図 26 鉄骨柱</p>	<p>図 27 鉄骨梁</p>	<p>図 28 鉄骨梁</p>	<p>図 29 鉄骨柱</p>
<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>
<p>図 30 鉄骨柱</p>	<p>図 31 鉄骨梁</p>	<p>図 32 鉄骨梁</p>	<p>図 33 鉄骨柱</p>
<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨梁 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>	<p>数量 1 材料 鉄骨柱 T=5.5 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 金物 スチールパイプ 100×100 (70×70) 備考 1/2 内外板 1/2 内外板</p>

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
備品リスト2

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 139

図面	③⑥ 製本機	③⑦ 教員材料整理棚	③⑧ 縦割書架	③⑨ 横割書架
数量	2 理科準備室	2 理科準備室	4 図書室	3 図書室
材料	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ ラワン	③⑥ に準ず	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ
建具	引手付ガラス戸 (トーマス社) アルミフレーム	〃	アルミ製角スチールパイプ 25.9	〃
金物	ビス・鉄線・パイロン戸車 引手 取手 ステンレスパイプ 50	〃	内付鉄 OP	内付鉄 OP
備考	内付鉄 SL 仕上げ	〃	〃	〃
記号	④⑩ 横割書架	④⑪ 横割書架	④⑫ 書架	④⑬ 窓下戸棚
図面				
数量	1 図書室	1 図書室	1 図書室	2 廊下
材料	③⑨ に準ず	③⑨ に準ず	③⑨ に準ず	化粧 壁木 ラワンベニヤ アルミパイプ ラワン
建具	〃	〃	〃	アルミパイプ アルミパイプ OP
金物	〃	〃	〃	ビス・鉄線・パイロン戸車 引手 取手
備考	〃	〃	〃	内付鉄 OP 内部 表地
記号	④⑤ ④⑤ 整理棚	④⑤ 用器棚	④⑦ 用器棚・作品展示棚	④⑧ ステンレス機上
図面				
数量	④⑤-2 生徒用 ④⑤-1 図工準備室	1 図工室	1 図工室	2 図工室 2 美術教室
材料	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ T2 横板	化粧 壁木 T2 横板 T2 ラワンベニヤ	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ	化粧 壁木 T2 ラワンベニヤ
建具	ガラス戸 (トーマス社) アルミフレーム	〃	アルミパイプ アルミパイプ SL	アルミパイプ アルミパイプ SL
金物	ビス・鉄線・パイロン戸車 引手 取手	ホームプレート	ビス・鉄線・パイロン戸車 引手 取手 ステンレスパイプ 50	ビス・鉄線・パイロン戸車 引手 取手
備考	内付鉄 SL 内部 仕上げ	外付鉄 SL 内部 SL 仕上げ ③⑥ に準ず	内付鉄 SL	内付鉄 OP
記号	④⑨ ⑤①	⑤① 工作台	⑤② 収納用工作台	⑤③ 工作棚
図面				
数量	④⑨ ⑤① 各1	6 図工室	1 図工室	3 図工準備室
材料	化粧 壁木 (トーマス社) ナラ	天板 壁木 本工カワ材	天板 壁木 本工カワ材	④⑨ に準ず
建具	〃	〃	〃	〃
金物	〃	〃	〃	〃
備考	〃	高さ寸法に準ず (本工カワ材を参照)	〃	〃

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
備品リスト3

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 140

記号	54 戸棚	55 戸棚	56 洗面台	57 洗面台
立面				
位置	1 洗面室	1 洗面室	1 洗面室	2 洗面室
材料	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ
器具	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ
金物	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス
備考	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5
記号	58 洗面台	59 洗面台	60 洗面台	61 洗面台
立面				
位置	1 洗面室	2 洗面室	1 洗面室	5 洗面室
材料	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ
器具	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ
金物	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス
備考	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5
記号	62 ミシン置台	63 流し・ガス給・戸棚	64 流し	65 流し・ガス給・戸棚
立面				
位置	1 洗面室	1 洗面室	1 洗面室	1 洗面室
材料	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ
器具	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ
金物	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス
備考	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5
記号	66 洗面化粧台	67 パネル化粧台	68 洗面化粧台	69 パネル化粧台
立面				
位置	1 洗面室	1 洗面室	1 洗面室	1 洗面室
材料	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ	化粧 壁紙、メラミンベニヤ
器具	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ	メラミンベニヤ
金物	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス	ビス、ビス、ビス、ビス
備考	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5	外壁 0.5 内装 0.5

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

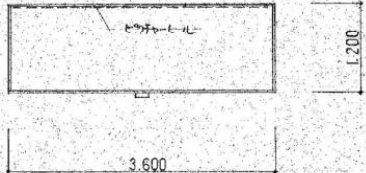
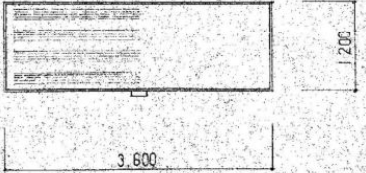
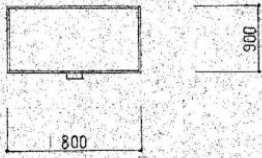
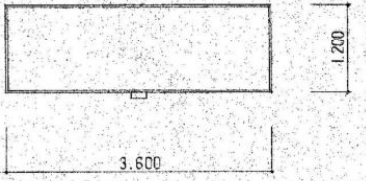
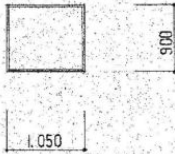
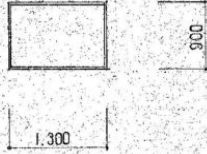
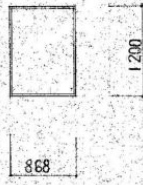
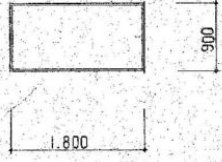
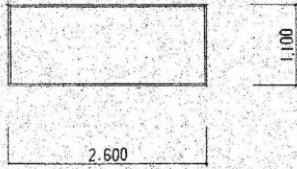
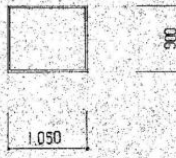
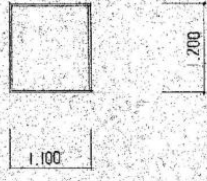

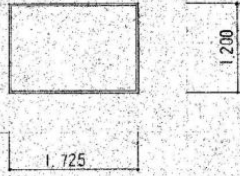
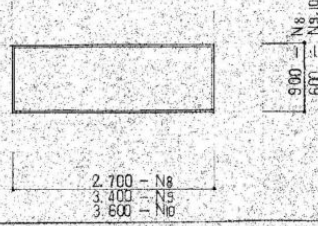
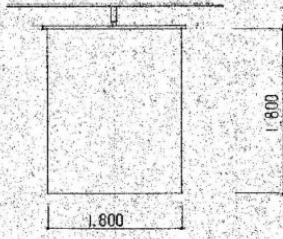

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
備品リスト4

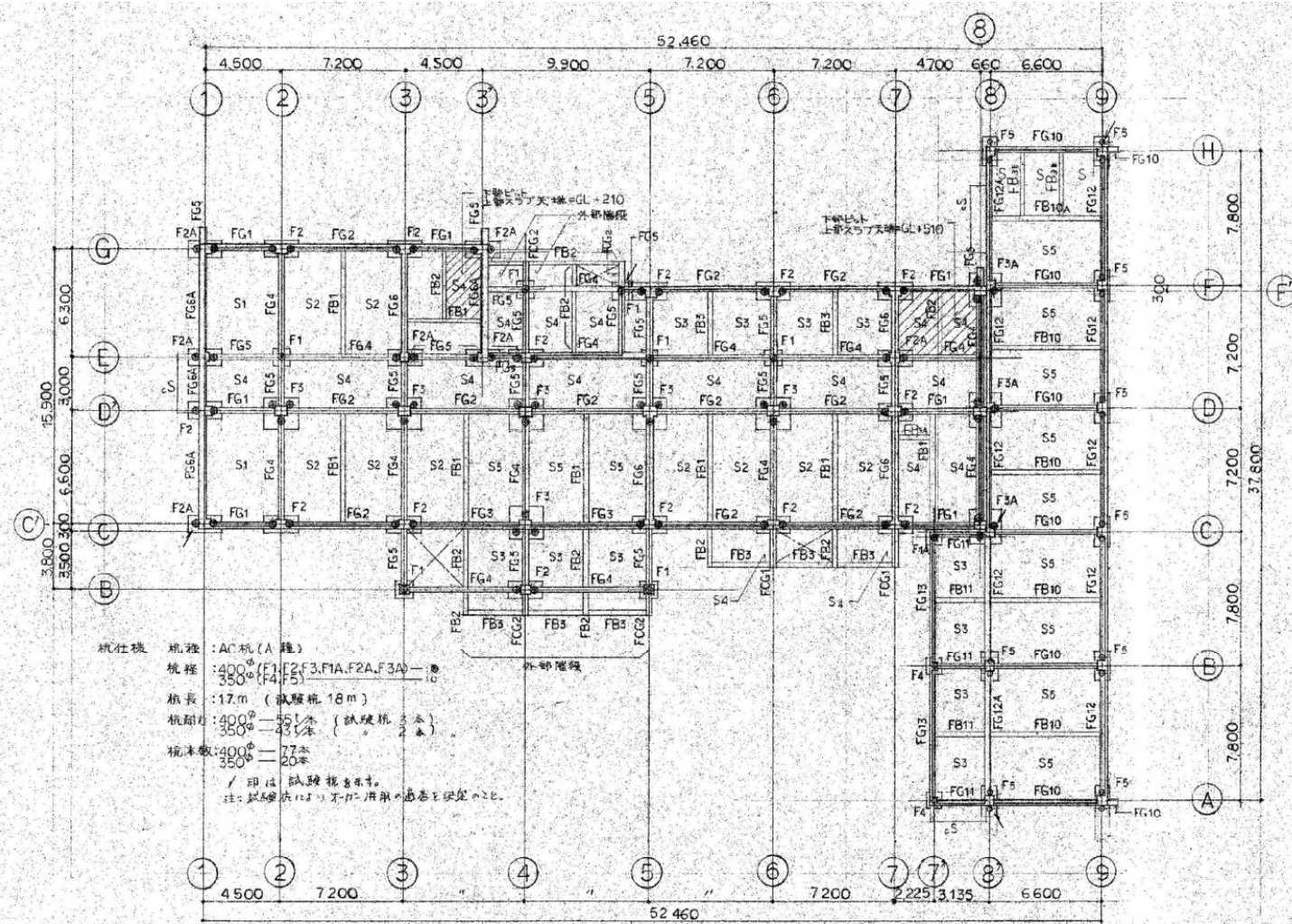
■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A - 141

記号	S1	上下スライド 曲面黑板	S2	五線入上下スライド 曲面黑板	B1	平面黑板	B2	平面黑板
型 状								
数 量	9		1		11		1	
材 質	アルミ棒 アルミホーロー仕上板		アルミ棒 アルミホーロー仕上板 (五線入り)		木棒 アルミホーロー仕上板		木棒 アルミホーロー仕上板	
備 考	ピッチャー・レーン、チョークボックス(W)付		チョークボックス(W)		チョークボックス付 (普通教室可降下)		チョークボックス付(W)	
記号	G3	平面黑板	E1	行事掲示板	N1	掲示板	N2	掲示板
型 状								
数 量	1		1		7		4	
材 質	木棒 アルミホーロー仕上板		木棒 アルミホーロー仕上板 (行事予定入り)		木棒 コルックス張り		木棒 コルックス張り	
備 考								
記号	N3	掲示板	N4	掲示板	N5	掲示板	N6	掲示板
型 状								
数 量	1		1		1		2	
材 質	木棒 コルックス張り		木棒 コルックス張り		木棒 コルックス張り		木棒 コルックス張り	
備 考								
記号	N7	掲示板	N8 N9 N10	掲示板	D1	OHP用スクリーン	N11 N12 N13	掲示板
型 状								
数 量	2		N8 - 12, N9 - 2, N10 - 2		12		N11 - 1, N12 - 1, N13 - 1	
材 質	木棒 コルックス張り		木棒 コルックス張り		デイトライト・スクリーン		木棒 コルックス張り	
附屬金物					操作用フック付 5ヶ所取り付け金具			
備 考								

参考図





基礎・地中梁試 図 S=1/200

地中梁リスト S=1/30 特記なし限り、スラーブ D10@200、梁筋 2-D10、巾止×筋 D10@1000

符 号	FG10, FG11	FG12	FG12A	FG13
位 置	全断面	端部	中央	端部
断 面				
上 端 筋	3-D22	3-D22	3-D22	5-D22
下 端 筋	3(4)-D22	3-D22	4-D22	3-D22
スラーブ				
梁 筋				
符 号	FB10, FB11	外部階段配筋		
位 置	端部	中央		
断 面				
上 端 筋	3-D22	3-D22		
下 端 筋	3-D22	4(5)-D22		
スラーブ				
梁 筋				

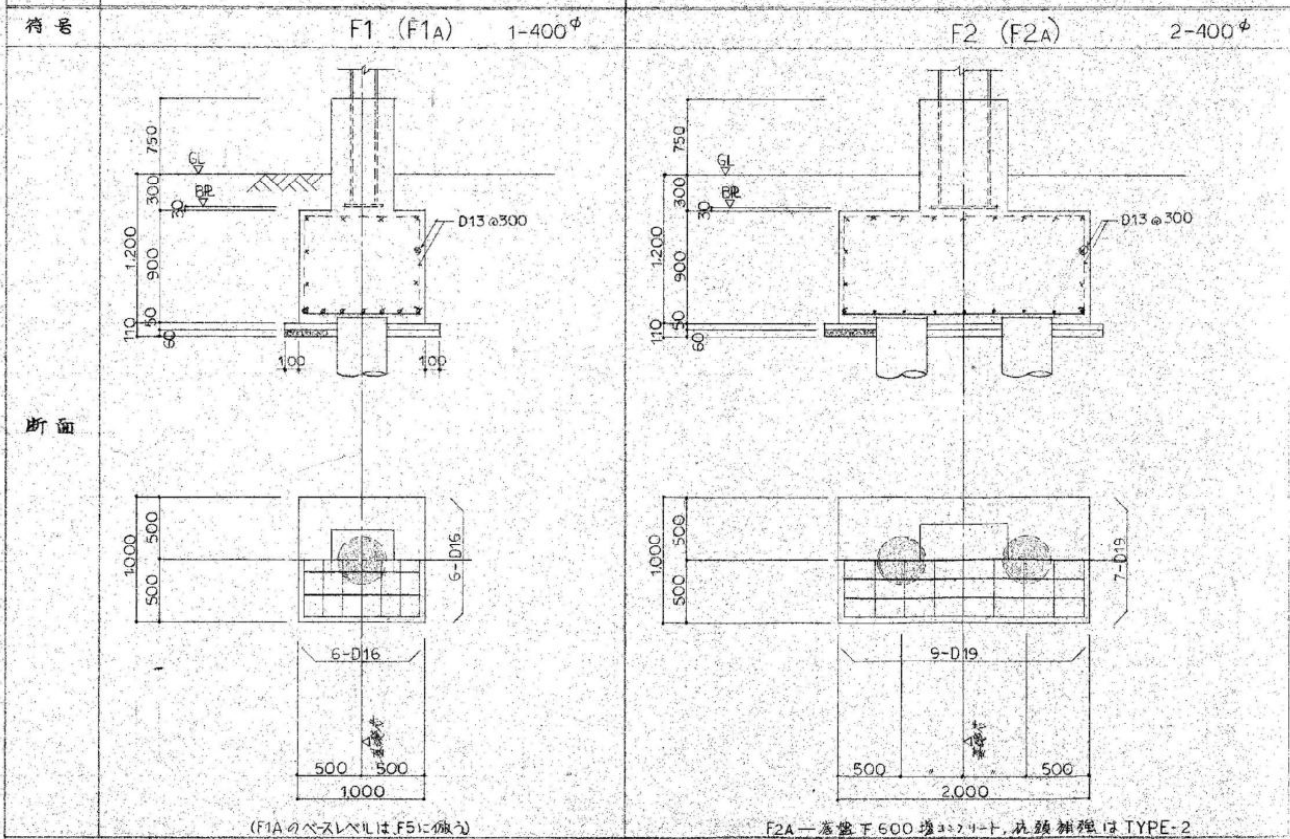
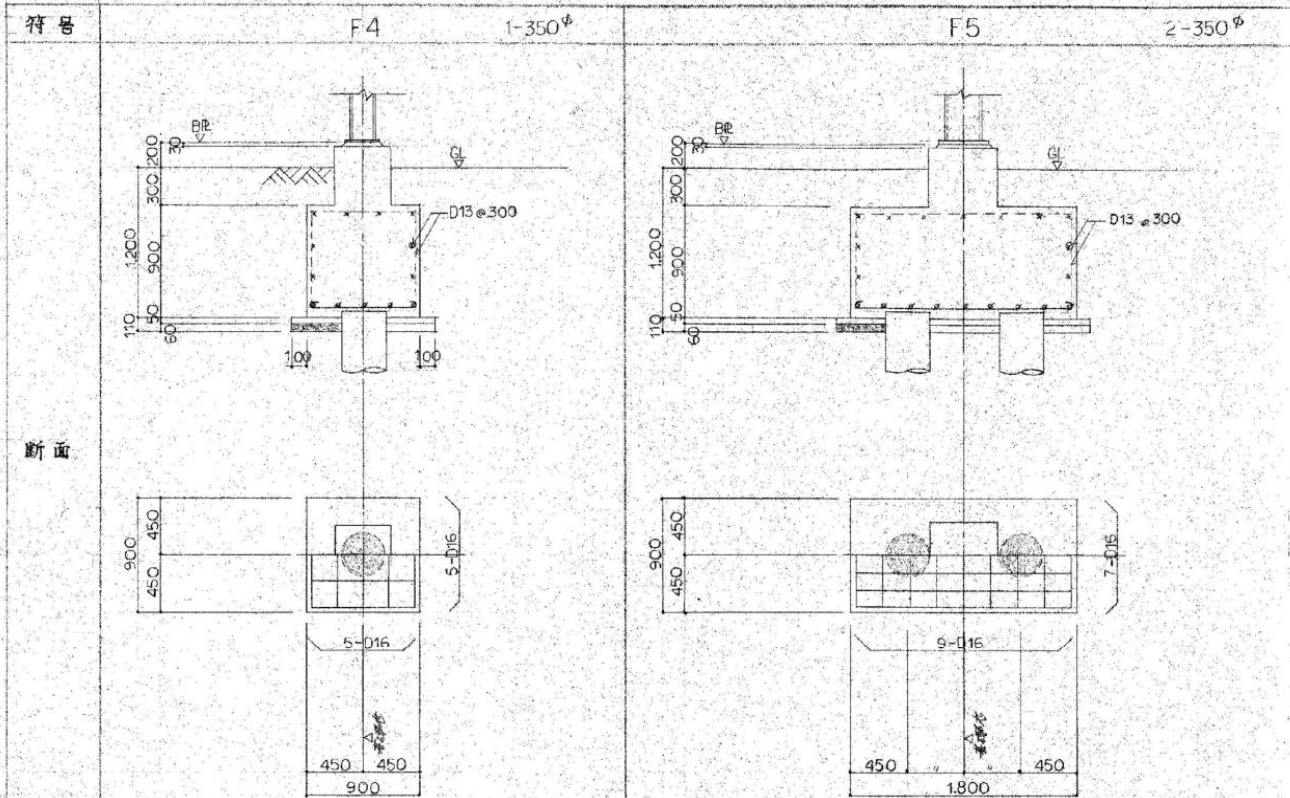
地中梁リスト S=1/30 特記なし限り、スラーブ D10@150、梁筋 2-D10、巾止×筋 D10@1000

符 号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5, FG12	FG6	FB1, (FB2)	FB3(A, D)	FG6A 形状
位 置	端部	中央	端部	中央	全断面	端部	中央	全断面	
断 面									
上 端 筋	6-D22	4-D22	6(7)-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	3-D19
下 端 筋	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	4-D22	3-D22	5-D22	3-D19
スラーブ	D13 @200		D13 @200						D10 @200
梁 筋									

1. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
2. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
3. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
4. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
5. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
6. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
7. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
8. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
9. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。
10. 図面の縮尺は、図面に示す通りとする。

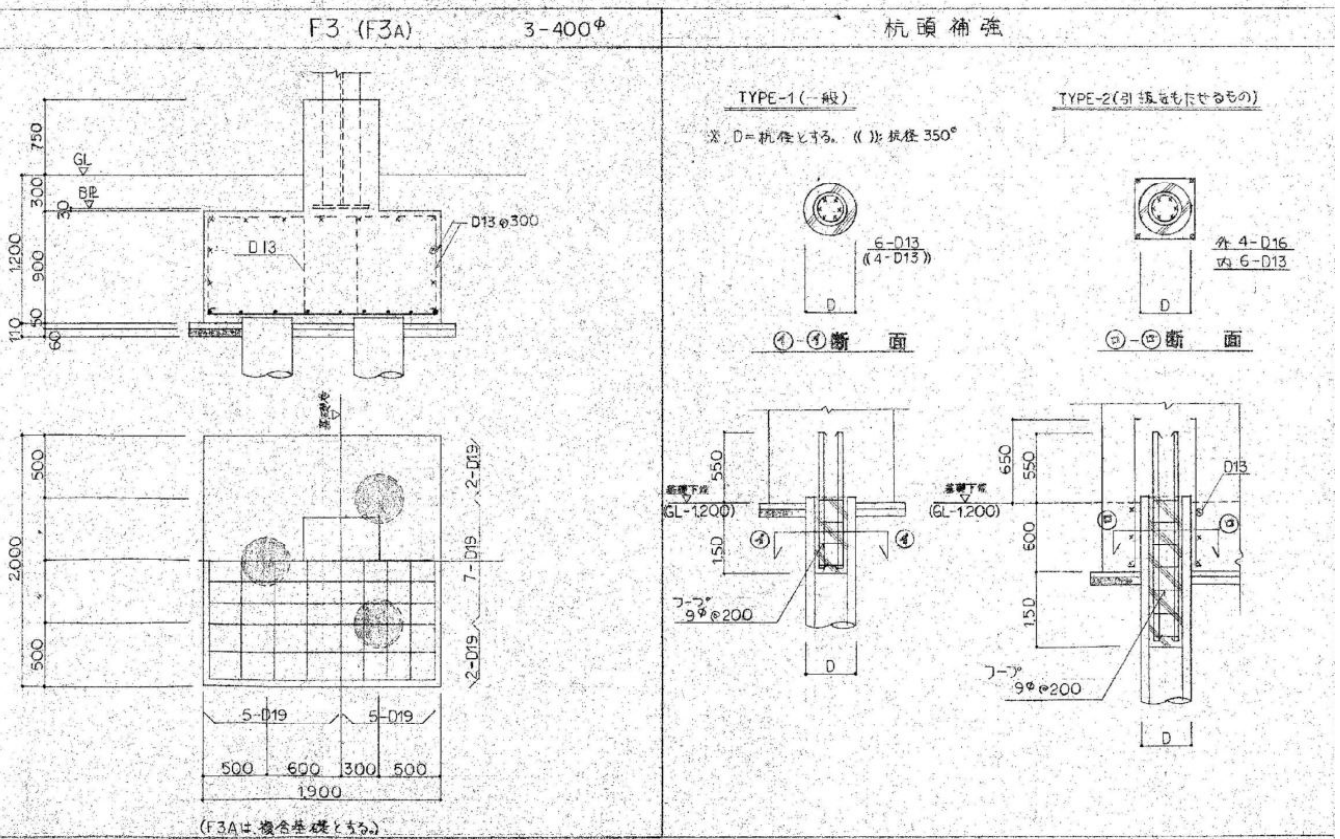
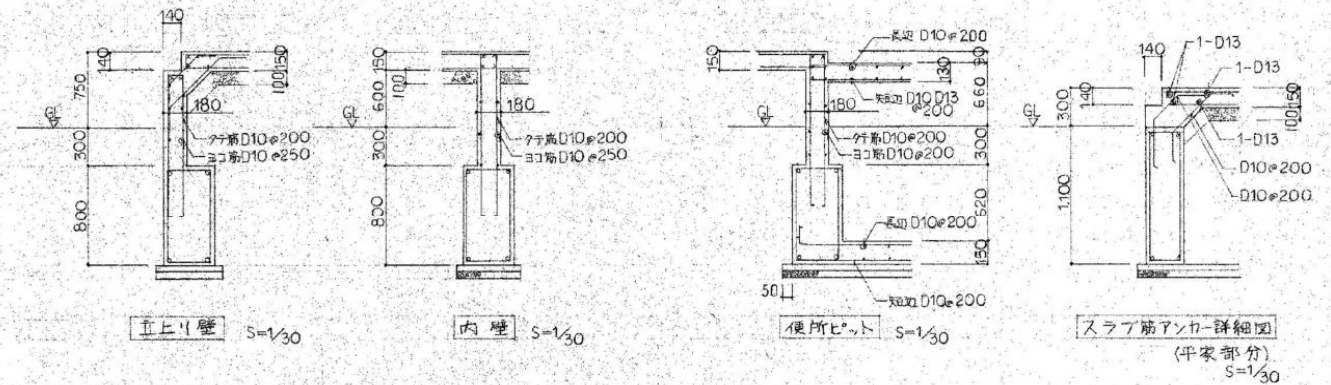
参考図

基礎リスト S=1/30



スラブリスト

符 号	厚 さ	位 置	短 辺 方 向				長 辺 方 向				備 考
			端 部		中 央		端 部		中 央		
S1	150	上端筋	D13 @200	D13 @400	D10 @200	D10 D13 @200	D13 @400	D10 @200	D10 @200		
		下端筋	D10 D13 @200	D10 D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @400	D10 @200		
S2	150	上端筋	D10 D13 @200	D13 @400	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200		
		下端筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @400	D10 @200	D10 @200	D10 @200		
S3	150	上端筋		D10 D13 @200			D10 @200				モチアミ
		下端筋		D10 @200			D10 @200				
S4	150 cS 130	上端筋		D10 D13 @200			D10 @200				モチアミ
		下端筋		D10 @200			D10 @200				
S5	150	上端筋		D10 D13 @200			D10 @200				モチアミ
		下端筋		D10 D13 @200			D10 @200				
cS	150	上端筋		D10 D13 @200			D10 @250				モチアミ
		下端筋		D10 @200			D10 @250				



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

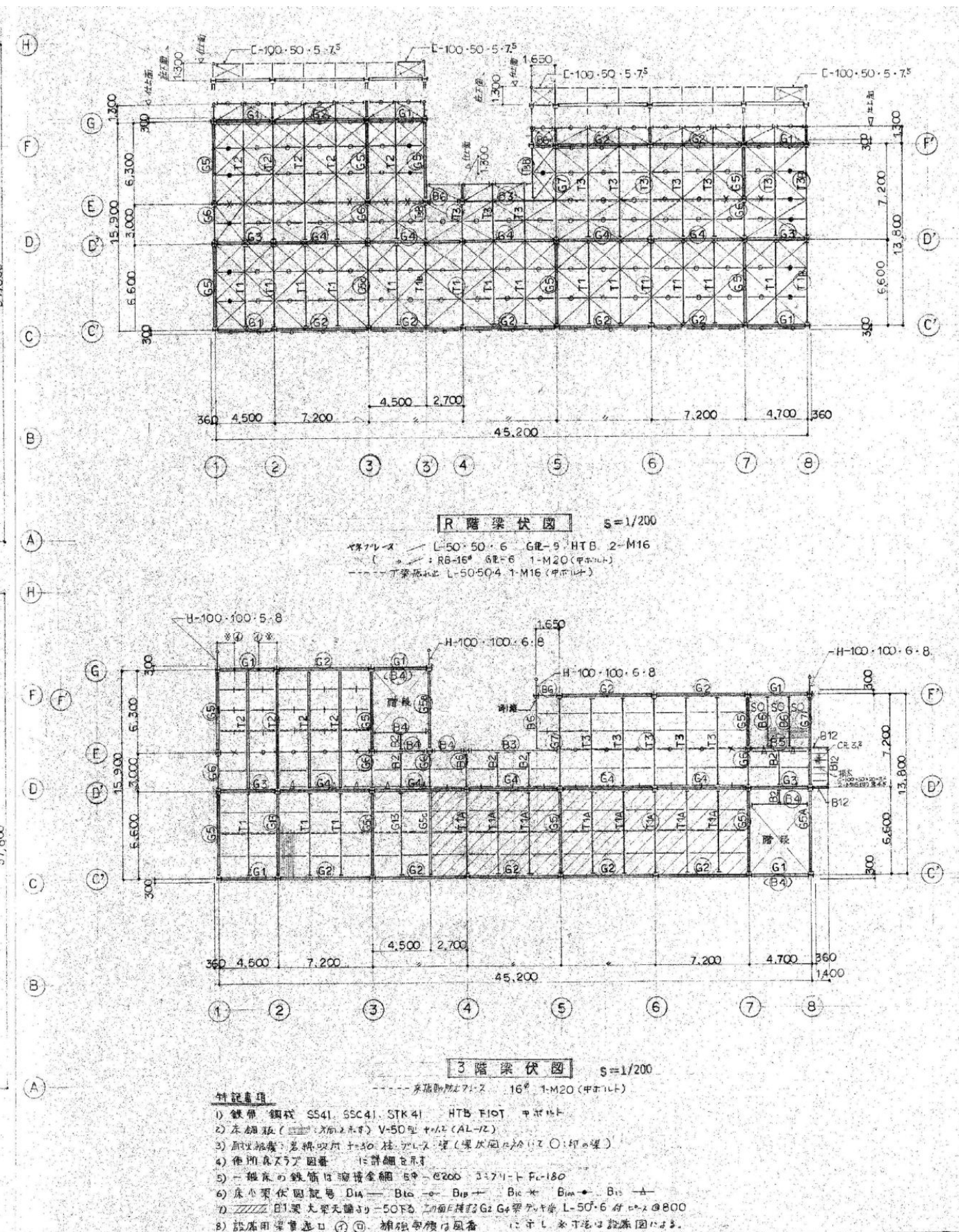
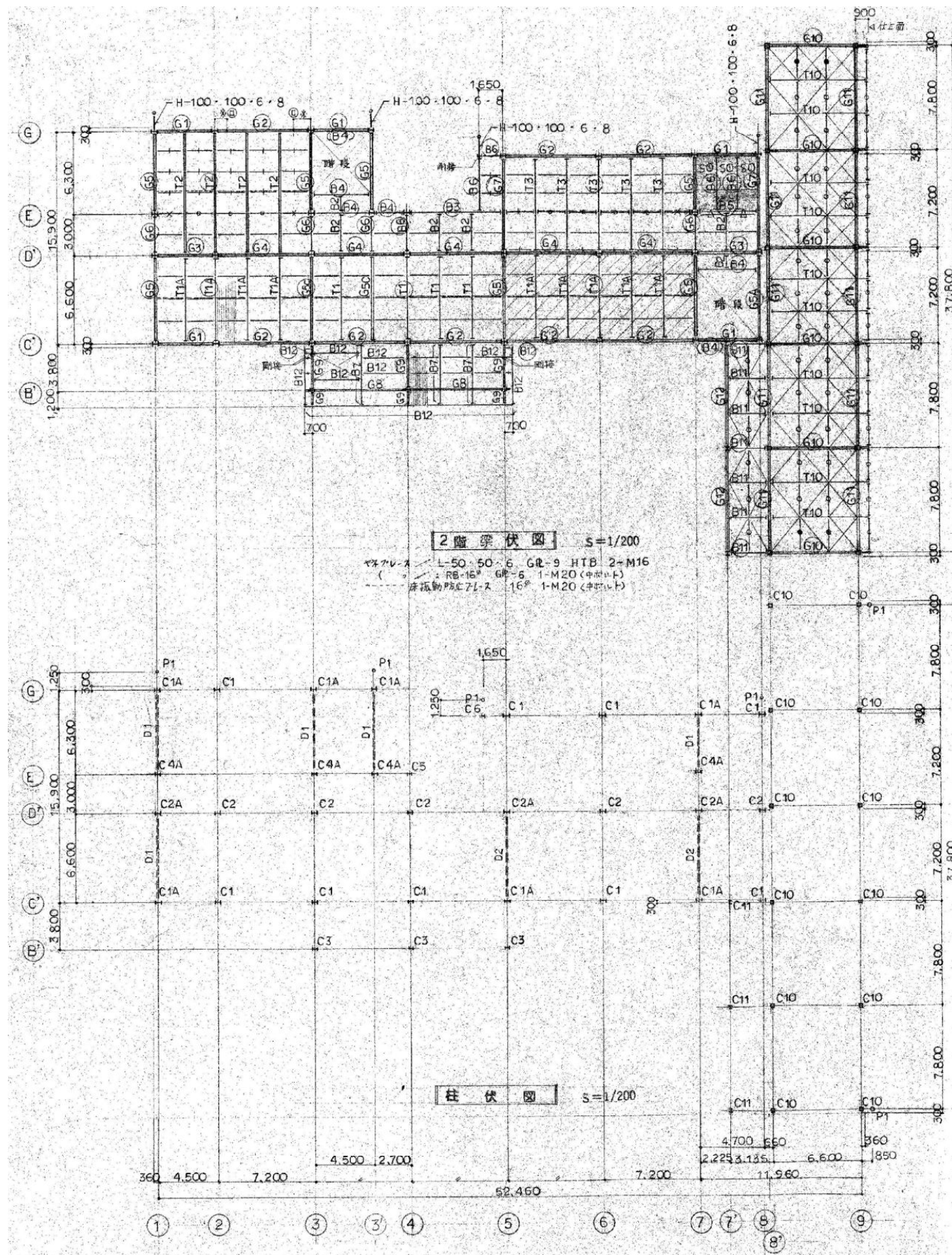
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

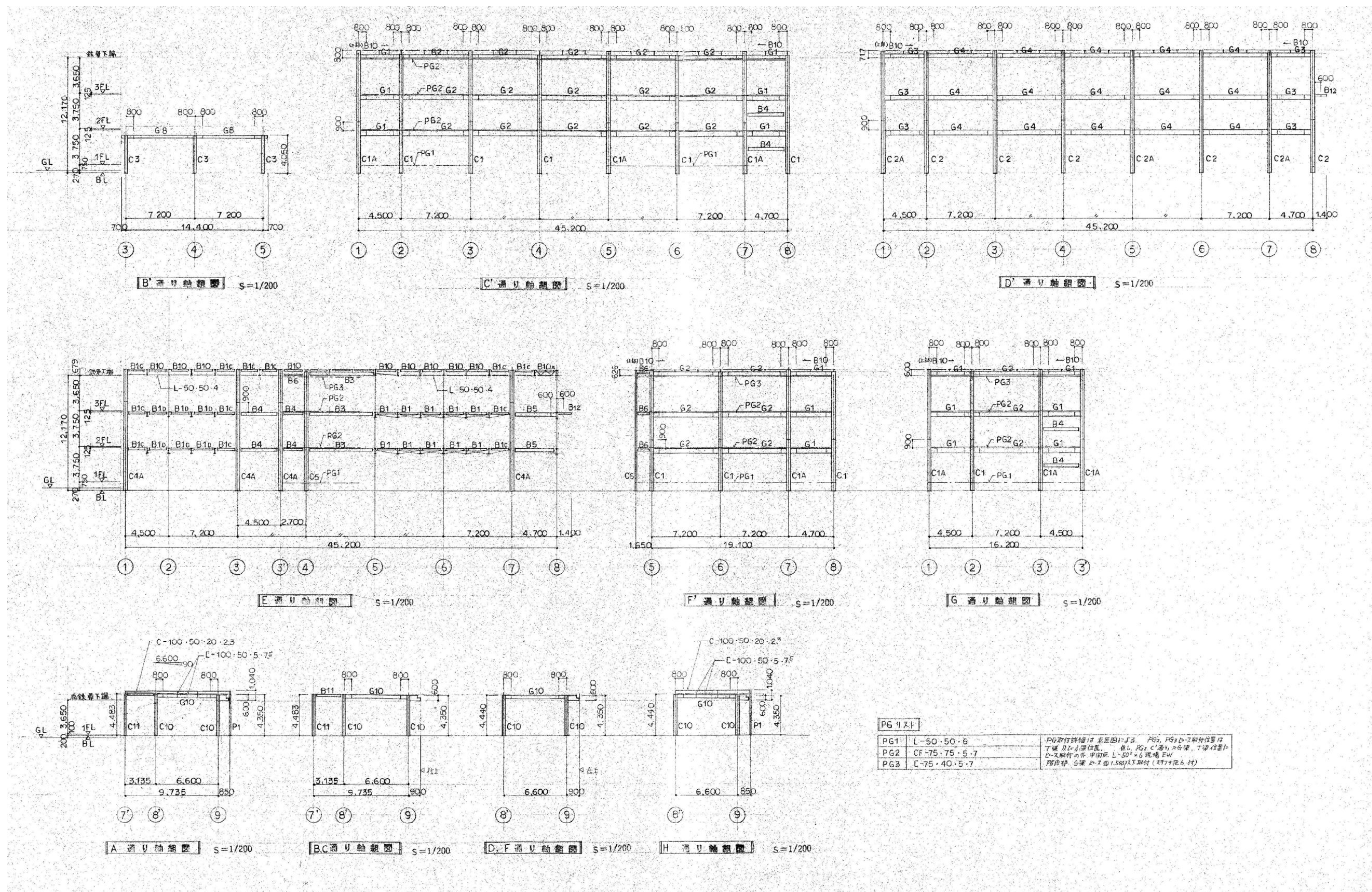
■図面名称/DRAWING-TITLE
基礎・スラブリスト 他

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
S - 102

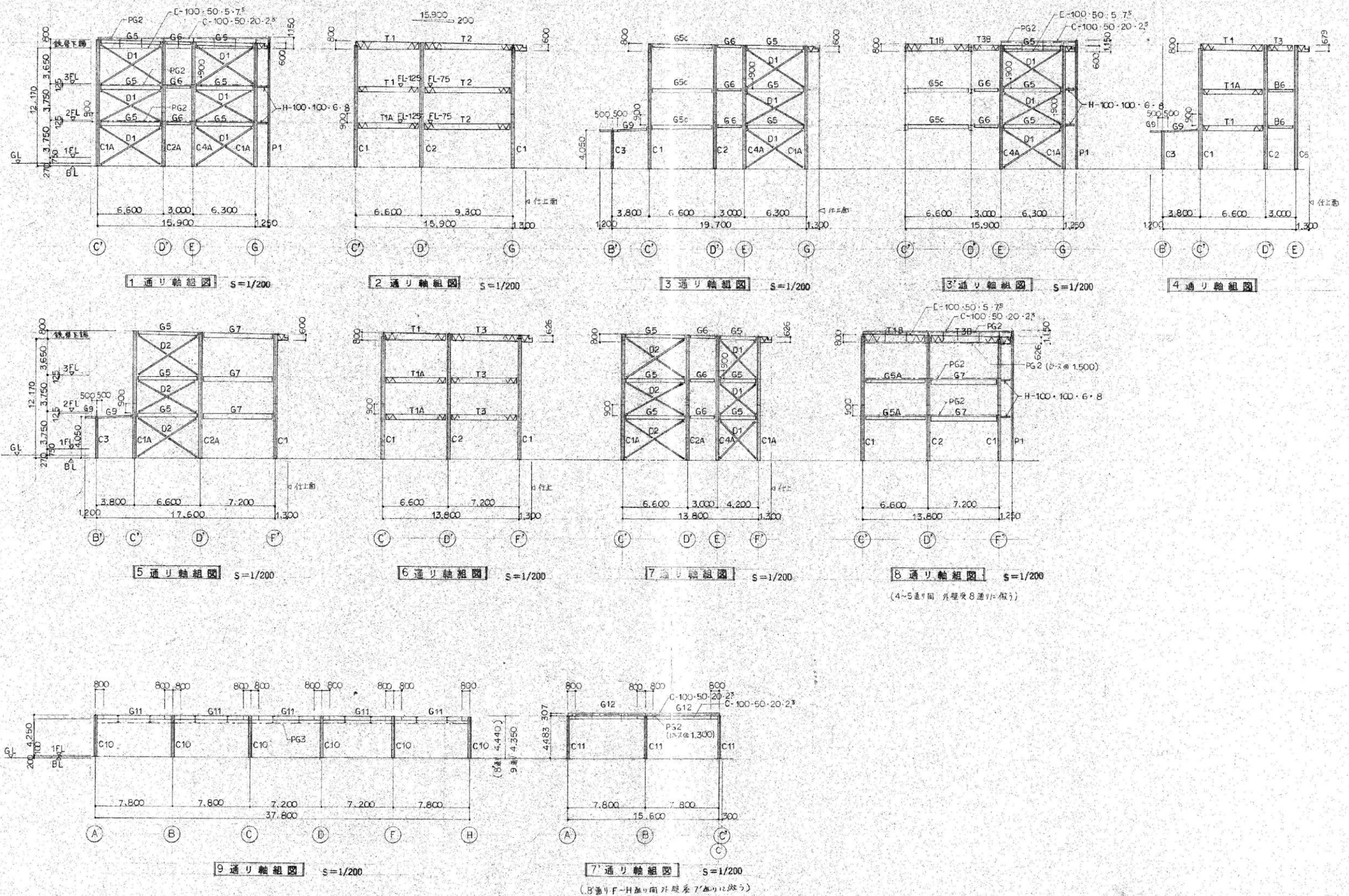


参考図



参考図



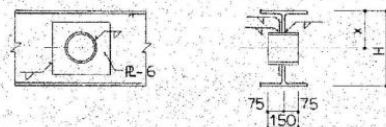


参考図

梁継手リスト S=1/20

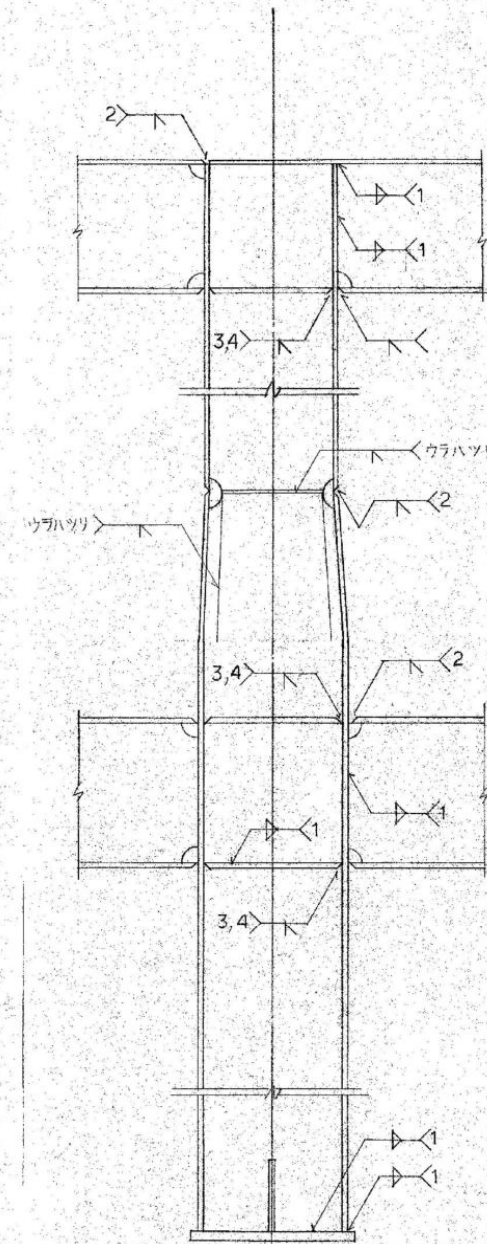
SIZE	H-250・125・6・9	HTB	H-300・150・6 ⁵ ・9	HTB	H-346・174・6・9	HTD
FL	2R-9		FL 2R-9		FL 2R-6	
WEB	2R-6		WEB 2R-6		WEB 2R-6	
SIZE	H-350・175・7・11	HTB	H-396・199・7・11	HTB	H-446・199・8・12	HTB
FL	2R-9		FL 2R-9		FL 2R-9	
WEB	2R-6		WEB 2R-6		WEB 2R-6	
SIZE	H-496・199・9・14	HTB	H-500・200・10・16	HTB	H-488・300・11・18	HTB
FL	2R-9		FL 2R-12		FL 外R-12 内R-16	
WEB	2R-9		WEB 2R-9		WEB 2R-9	
SIZE	H-194・150・6・9	HTB	H-200・100・5 ⁵ ・8	HTB		
FL	2R-9		FL R9			
WEB	2R-9		WEB 2R6			

設備用梁貫通孔補強等図



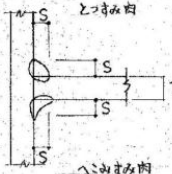
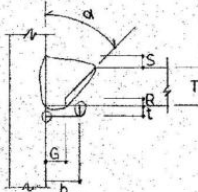
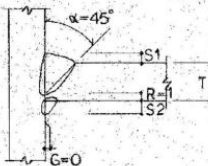
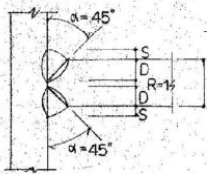
梁貫通孔リスト

記号	補強パイプ	X
①	φ165.2×4.5	H/2
②	φ190.7×5.3	H/2



溶接工作標準図

溶接標準図

1	すみ肉溶接	<table><tr><td>T</td><td>S</td></tr><tr><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>9</td><td>6</td></tr><tr><td>12</td><td>8</td></tr><tr><td>14</td><td>10</td></tr><tr><td>16</td><td>12</td></tr><tr><td>19</td><td>12</td></tr><tr><td>22</td><td>12</td></tr></table> 	T	S	6	6	9	6	12	8	14	10	16	12	19	12	22	12								
T	S																									
6	6																									
9	6																									
12	8																									
14	10																									
16	12																									
19	12																									
22	12																									
2	レ型突合せ溶接	<table><tr><td>T</td><td>≤18</td><td>≥19</td></tr><tr><td>a</td><td>45</td><td>35</td></tr><tr><td>R</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>G</td><td>6</td><td>9</td></tr><tr><td>t</td><td>6</td><td>9</td></tr><tr><td>b</td><td>25</td><td>25</td></tr></table> <p>* $S \geq \frac{1}{4} t$ と 6.0 6.0 ≤ 10mm と 6.0 25 ≤ 10mm と 6.0</p> 	T	≤18	≥19	a	45	35	R	2	2	G	6	9	t	6	9	b	25	25						
T	≤18	≥19																								
a	45	35																								
R	2	2																								
G	6	9																								
t	6	9																								
b	25	25																								
3		<table><tr><td>T</td><td>S1</td><td>S2</td></tr><tr><td>6</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>9</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>12</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>14</td><td>4</td><td>6</td></tr><tr><td>16</td><td>4</td><td>6</td></tr></table> 	T	S1	S2	6	4	4	9	4	6	12	4	6	14	4	6	16	4	6						
T	S1	S2																								
6	4	4																								
9	4	6																								
12	4	6																								
14	4	6																								
16	4	6																								
4		<table><tr><td>T</td><td>D</td><td>S</td></tr><tr><td>16</td><td>7⁵</td><td>4</td></tr><tr><td>19</td><td>9</td><td>6</td></tr><tr><td>22</td><td>10⁵</td><td>6</td></tr><tr><td>25</td><td>12</td><td>8</td></tr><tr><td>28</td><td>13⁵</td><td>8</td></tr><tr><td>32</td><td>15⁵</td><td>8</td></tr><tr><td>36</td><td>17⁵</td><td>10</td></tr></table> 	T	D	S	16	7 ⁵	4	19	9	6	22	10 ⁵	6	25	12	8	28	13 ⁵	8	32	15 ⁵	8	36	17 ⁵	10
T	D	S																								
16	7 ⁵	4																								
19	9	6																								
22	10 ⁵	6																								
25	12	8																								
28	13 ⁵	8																								
32	15 ⁵	8																								
36	17 ⁵	10																								

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

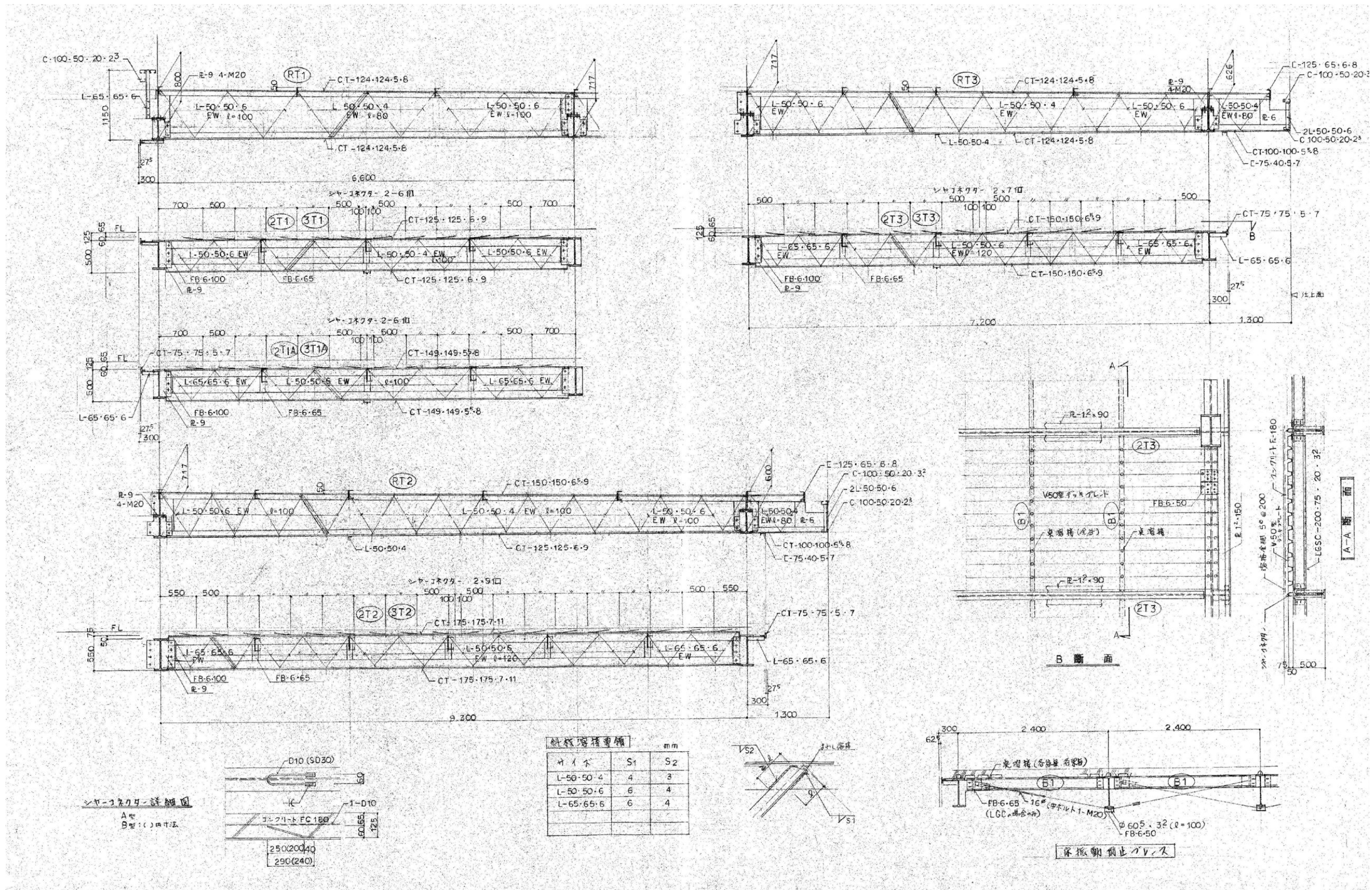
■図面名称/DRAWING-TITLE

梁継手リスト 溶接工作標準図

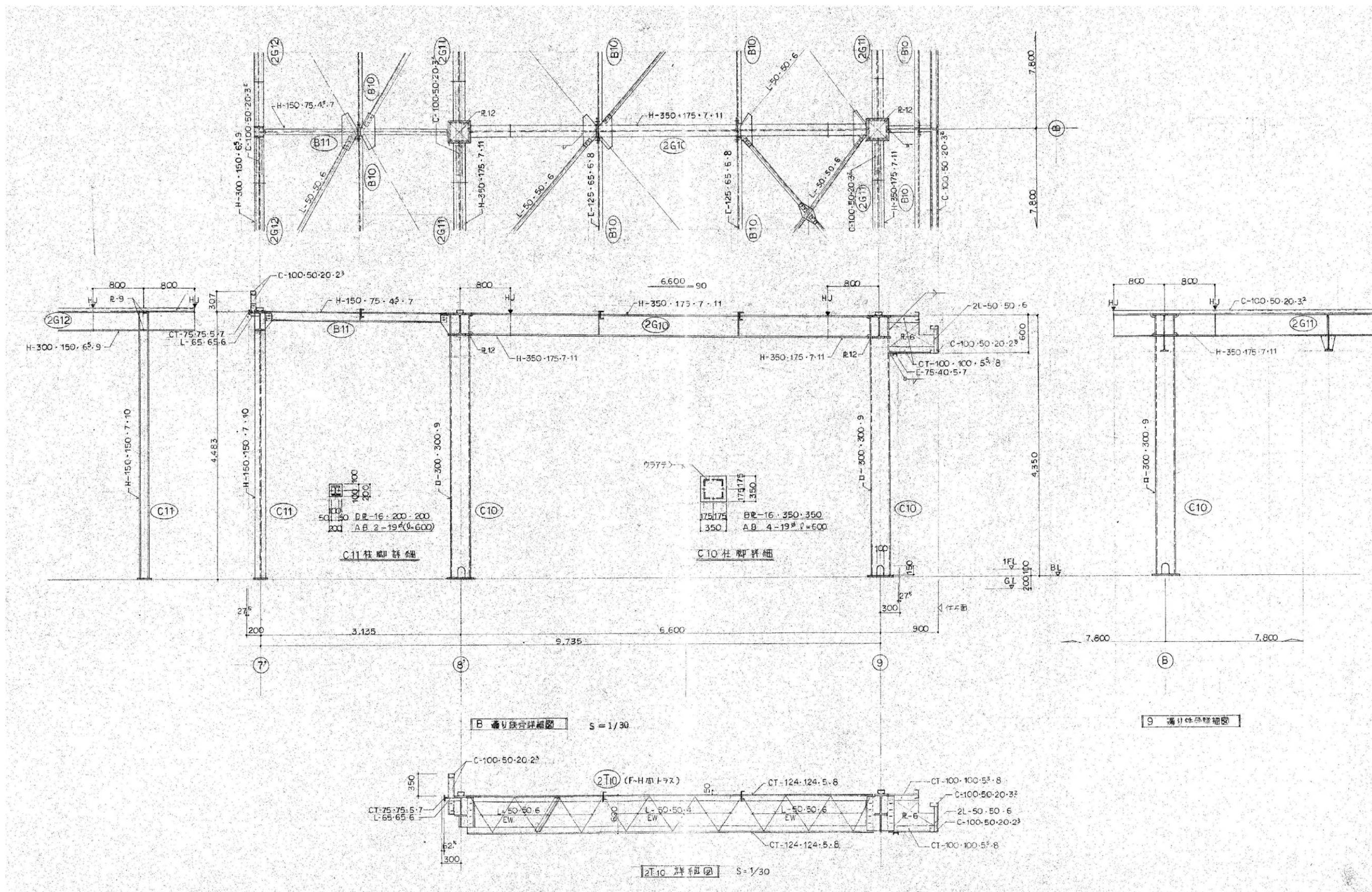
■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
S - 108

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	---



参考図



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

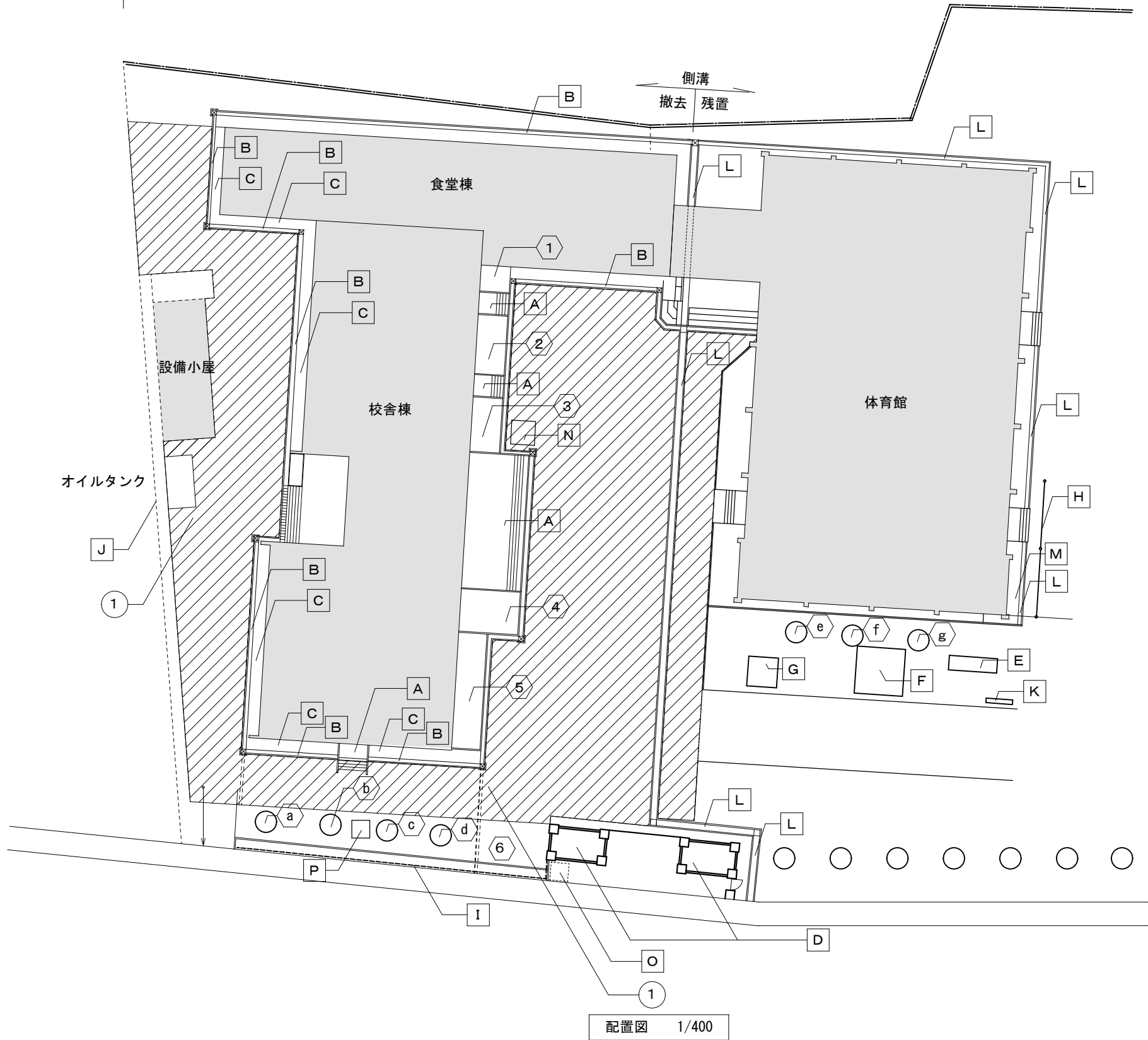
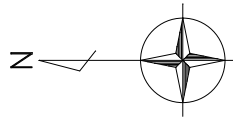
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
8'・B通り鉄骨詳細図 他

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
S - 111



■ 構造物凡例

符号	部位	内容	仕様
A	外部階段	【撤去】	校舎棟：南側 5.0㎡×2箇所 西側 6.5㎡×1箇所(厚150mm)
B	側溝	【撤去】	長さ：200m (W240) 樹：13か所
C	犬走り	【撤去】	校舎棟： 65.0㎡(厚100mm)
D	門	【残置】	門柱：550×550×1,200×8箇所、550×550×750×1箇所 立上り：3,900×200×500×4箇所、1,900×200×500×4箇所 門扉(スチール製)：1,000×900×1箇所
E	遊具-1	【撤去】	スチール製 2,500×2,500×2,500
F	遊具-2	【撤去】	スチール製 6,500×3,000×2,000
G	遊具-3	【撤去】	スチール製 3,500×1,000×800
H	防球ネット	【撤去】	H=7000 支柱@6000 3本
I	フェンス-1	【残置】	H900 支柱@2000
J	フェンス-2	【残置】	H900 支柱@2000
K	掲示板	【移設】	W1800 H1800 移設場所未定(敷地内)
L	側溝	【残置】	
M	犬走り	【残置】	補修①：クラック 巾1.5mm、長さ1.3m 補修②：土間沈下 W=2.0m D=0.8m T=0.05m【撤去、新設】
N	銅像	【撤去】	
O	電話ボックス	【残置】	
P	モニュメント	【撤去】	

■ 舗装凡例

符号	仕様	数量
①	アスファルト舗装t50	1,196.5 m2

※特記無きは土若しくは草地とする。

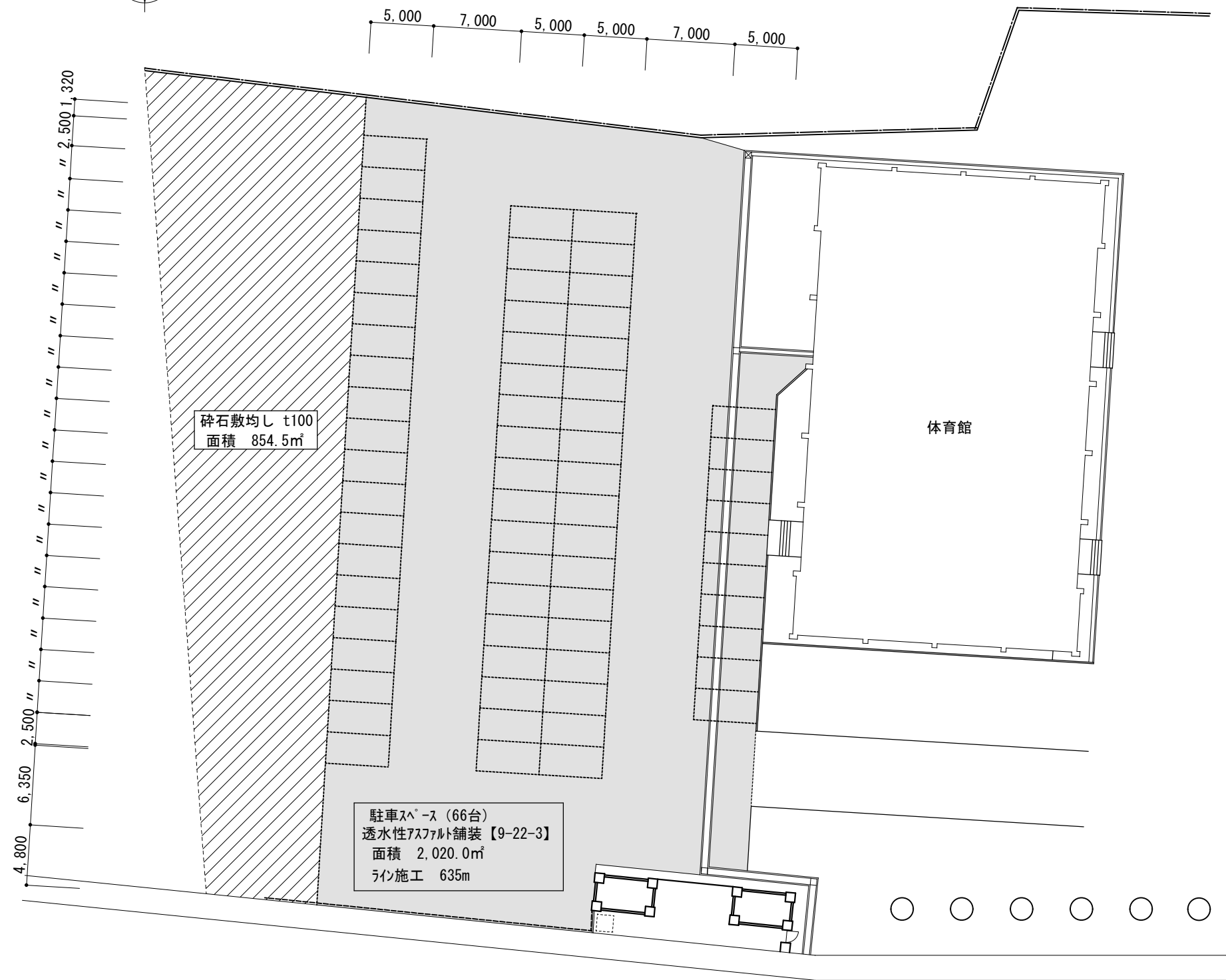
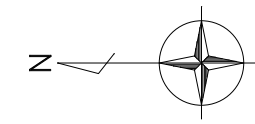
■ 樹木凡例

符号	幹径(mm)	樹高(mm)	数量(本)
a	φ200	H=7,000	1
b	φ200	H=7,000	1
c	φ200	H=7,000	1
d	φ200	H=7,000	1
e	φ300	H=10,000	1
f	φ200	H=6,000	1
g	φ200	H=6,000	1

■ 植込み凡例

符号	面積(m2)	樹高(mm)
①	5.39	H=1,000 ~1,200
②	12.25	H=1,000 ~1,200
③	11.27	H=1,000 ~1,200
④	17.64	H=1,000 ~1,200
⑤	23.05	H=1,000 ~1,200
⑥	28.80	H=1,000 ~1,200
⑦		
計	98.4	

※全て抜根のうえ撤去処分とする。

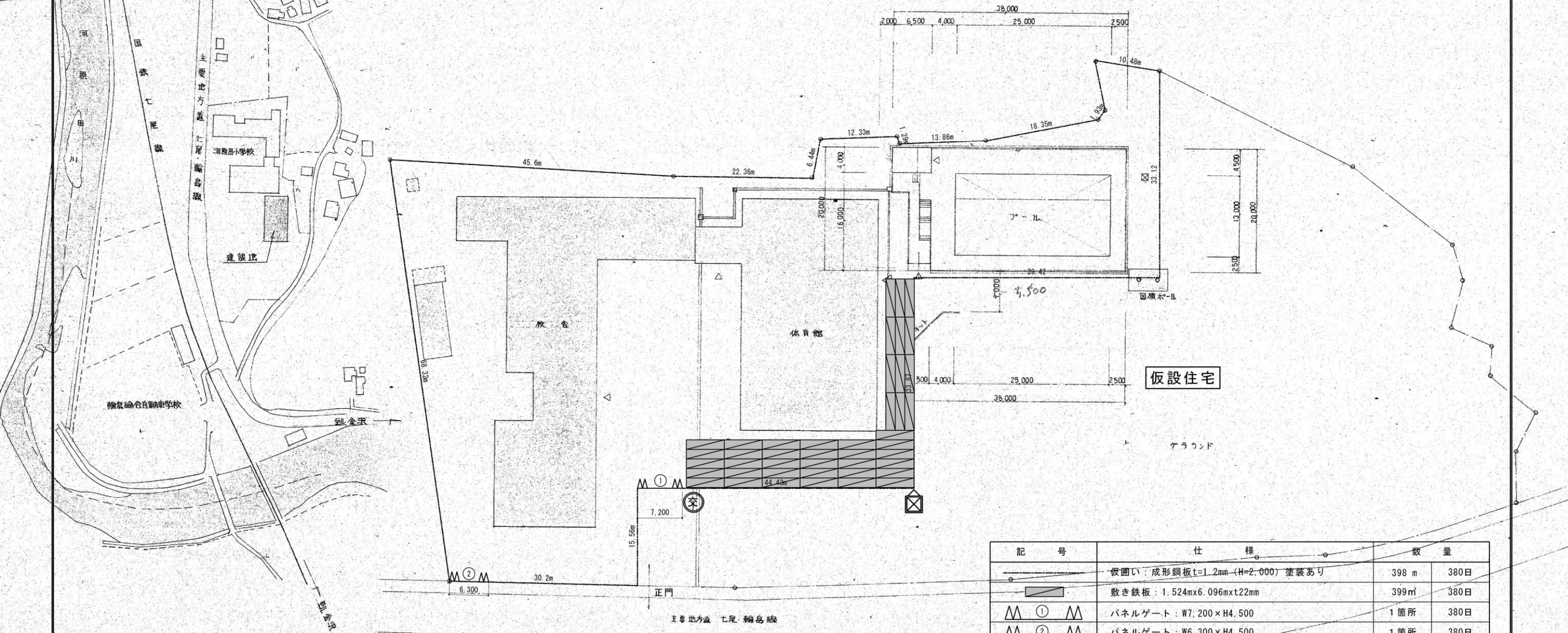


配置図 1/400

既設建物床面積 (M ²)				
	1F	2F	3F	延
校舎	989.01	664.27	664.27	2,317.55
風見体育館	858.045	114.975		973.02
計	1,847.055	779.245	664.27	3,290.57
新設プール管理棟				
	26.00			26.00

既設校舎、屋体

敷地面積 = 11,828 M²



記 号	仕 様	数 量	
—	仮囲い：成形銅板t=1.2mm-(H=2,000) 塗装あり	398 m	380日
■	敷き鉄板：1,524mx6,096mxt22mm	399㎡	380日
①	パネルゲート：W7,200×H4,500	1箇所	380日
②	パネルゲート：W6,300×H4,500	1箇所	380日
交	交通誘導員B 1人 4週8休	264人／日	
騒	騒音振動計	1箇所	380日

本仮設計画図(参考図)は、入札参加者の適正かつ迅速な見積に資するための資料である。

施工にあたっては、受注者は施工条件、周辺状況等を十分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等工事目的物を敷設するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとし

本図と異なる場合は監督職員と協議のうえ、変更等の措置を講ずる場合がある。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025.09

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
仮設計画図

■縮尺/SCALE
A1:1/300
A3:1/600

■図番/No.
G — 103

工 事 仕 様 書 （機 械 設 備）

I. 工事概要

1. 工事名称 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

2. 工事場所 輪島市 横地町 地内

3. 完 成 期 日 令和 年 月 日 (余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。)

指定部分 ・ 無 ・ 有 (指定期日: 令和 年 月 日) 対象部分 ()

概成工期 ・ 無 ・ 有 (令和 年 月 日) (積算工期 : か月) (1.2.1(6))

4. 建物概要

建築物名称	構造	階数	延面積 (㎡)	消防令別表第一	備考
校舎棟	S造	3階建(地階 階.塔屋 階)	2,010		解体
ポンプ棟	C.B造	1階建(地階 階.塔屋 階)	62		解体
ブル	C.B造	1階建(地階 階.塔屋 階)	26		解体
屋内運動場棟	S造	2階建(地階 階.塔屋 階)	5,983	15項	改修

5. 別契約の関連工事

・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 給排水衛生設備工事 ・ 空気調和設備工事 ・ 構内交換設備工事
・ 昇降機設備工事 ・ 自家発電設備工事 ・ 厨房機器設備工事 ・ 屋外付帯工事 ・ 植栽工事

6. 工事内容

本工事は旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事に伴う、機械設備改修工事一式を行う。

1. 校舎棟	・建物解体に伴い機械設備一式の撤去工事を行う。
2. ポンプ室	・建物解体に伴い機械設備一式の撤去工事を行う。
3. プール	・建物解体に伴い機械設備一式の撤去工事を行う。
4. 屋内運動場棟	・屋内消火栓の撤去を行う。 ・トイレ改修に伴い、衛生器具の取外再取付を行う。 ・既設引込配管より、給水配管の接続を行う。 ・排水を公共桝へ接続を行う。

II. 工事仕様

1. 一般仕様

1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。

2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

2. 特記仕様

章は●印の付いたものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。

○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 事 項	① 工事実績情報	請負金額５，０００千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。(1.1.4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。(1.1.5(3))
	③ 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－１によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合わせる。(1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月１５日及び月末ごとに提出する。(1.2.4)
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ・ 改修工事（・ 執務並行改修 ・ 全館無人改修） ----- ・ 工事用車両の駐車場等は図示による。 ----- ・ ----- (1.3.3) (改1.3.3)
	⑥ 発生材の処理等	・ 引渡しを要するもの（・ 特別管理産業廃棄物（・ 廃石綿（エルボ保温、パッキン） ・ 現場で再利用を図るもの（・ ・ 再資源化を図るもの（・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材 ・) (1.3.9(2))
	⑦ 再使用機材	○ 取外し後再使用するものは図示による。(改1.4.3)

章	項 目	特 記 事 項																				
一般	⑧ 事前調査	石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない (改1.5.2)																				
	⑨ 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。(改3.1.1) 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。(改3.2.1)																				
	⑩ 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 冷媒 ・ 吸収液 ① 廃油 (改4.1.1(3)) 2) 石綿の撤去は、図示による。(改4.1.2(4)) 3) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。(改4.2.4)																				
	⑪ 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。(1.4.1(1)) ・ 吸収冷温水機 ・ 水蓄熱式空調機器 ・ 送風機 ・ ポンプ ・ ガスエンジンヒートポンプ式空調和機 ・ 下塗用塗料（重防食） ・ 大便器 ・ 自動洗浄装置及びその組込み小便器 ・ 自動車栓 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。(1.4.1(2)) ① JIS又はJASのF☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用																				
	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。(1.4.2(1)) ただし、仮設に使用する機材は新品に限らない。 2) 機器類の能力、容量等は図示された数値以上とする。 3) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として図示された数値以下とする。 4) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。																				
		<table><tr><th colspan="4">機 材 名 称</th></tr><tr><td>ボイラー</td><td>空気調和機</td><td>ポンプ類</td><td>タンク</td></tr><tr><td>温水発生機</td><td>空気清浄装置</td><td>ダクト付属品</td><td>消火装置</td></tr><tr><td>冷凍機</td><td>全熱交換器</td><td>自動制御</td><td>厨房機器</td></tr><tr><td>冷却塔</td><td>送風機類</td><td>衛生器具ユニット</td><td>鉄製製ふた</td></tr></table>	機 材 名 称				ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄製製ふた
	機 材 名 称																					
	ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク																		
	温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置																		
	冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器																		
	冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鉄製製ふた																		
	⑬ 一般技能士の適用	① 配管（建築配管） ・ 建築板金（ダクト製作及び取付け） (1.5.2(1)) ・ 熱絶縁施工（保温保冷工事） ・ 厨房設備施工（厨房機器据付け及び整備） ・ 冷凍空気調和機器施工（冷凍機、パッケージ形空気調和機据付け、整備及び冷暖配管）																				
⑭ 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。(1.5.7)																					
15 化学物質の濃度測定	建築物の室内空气中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない (1.5.8)																					
16 中間検査	測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。 中間検査の実施 ・ 無 ・ 有（時期 ・ 天井地下地完了時 ・ ） (1.6.2)																					
⑰ 完成図	原因及び製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）提出する。(1.7.2)																					
18 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。(1.7.3) ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書（主要機器一覧表とも） ③機器性能試験成績書（総合試運転調整報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm																					
19 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。(改2.2.1)																					
⑳ 工事用水等	・ 既存施設に量水器等を設けて使用できる（有償） ・ 水道局引込み等 (改2.2.2)																					
21 仮設間仕切り扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。(改2.2.3)																					
● 共通事項	1 総合試運転調整 下記の項目の測定報告書（測定箇所は監督員の指示による）を提出する。(1.3.3) ・ 風量調整 ・ 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・ 騒音の測定 ・ 振動の測定 ・ 飲料水の水質測定（・ 11項目 箇所 ・ 16項目 箇所） ・ 雑用水の水質測定（建築物環境衛生管理基準による。）																					

章	項 目	特 記 事 項													
●	② 配管等	1) 仕切弁はJIS又はJV（ ・ 5K ・ 10K（水道直結等の図示部分） ）とする。（2.2.1） 2) 絶縁継手の取付け箇所は、図示による。（2.2.12） 3) 建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。（2.4.1(3)） 標準図（ ・ (a)フレキシブルジョイント ・ (b) ・ (c) ）による。（2.5.7(1)） 4) 呼び径60Su以下のステンレス鋼管は、（ ・ プレス ・ 拡張 ・ ）接合とする。 5) ポリエチレン管の接合方法は、（ ・ 電気融着 ・ メカニカル）とする。（2.5.10(2)） 6) 溶接部の非破壊検査を ・ 行う ・ 行わない（2.5.15.12(9)） 7) 地中埋設標の設置箇所は、図示による。（2.7.1(8)） 8) 埋設表示用テープ（倍折）を土被り150mm程度の深さに埋設する。（2.7.1(9)） 9) 埋設深さは、図示が無い場合、車両道路（ ・ 60cm ・ ）、（2.7.2） その他（ ・ 30cm ・ ）以上とする。													
	3 防凍保温	屋外露出部（給水管、消火管、膨張管、冷温水管、弁類を含む）は 防凍保温を行い、保温材の厚さは配管の呼び径25mm以下のものは50mm以上、それ以外は40mm以上とする。（3.1.6）													
	4 塗装	下記の垂鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。（3.2.1.1） ○ 機械室（エレベーター機械室） ○ 電気室（自家発電室） ○ 倉庫 ・													
	5 吊り及び支持金物の防錆	多湿トレンチ内等の吊り金物、支持金物類は溶融亜鉛めっき処理又はステンレス鋼製とする。（3.2.2.1）													
	6 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕 2) 監督員事務所に設ける備品等（4.1.1(4)） ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ ・													
	7 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）	3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。 ・ 快適トイレを設置する ・ 快適トイレを設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。													
	8 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。（記入例）（4.1.1(9)） <div><div>上段の地色は白色 文字は青色</div><div><div>工 事 名</div><div>工 期 自 年 月 日～至 年 月 日</div><div>発注者 石川県土木部営繕課</div><div>設 計 （建築・設備委託業者名を記入）</div><div>監 理 （建築・設備委託業者名を記入）</div><div>施 工 建 築 （施工業者名を記入）</div><div>電 気 （施工業者名を記入）</div><div>機 械 （施工業者名を記入）</div><div>この工事は、週休2日に取り組んでいます</div></div><div>60cm ～75cm</div><div>90cm</div></div>													
	通	設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。													
	事	⑨ 埋め戻し土	※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂） ・ 山砂（4.2.1(4)）												
		⑩ 建設発生土の処理	○ 現場内で処理（4.2.1(4)） ・ 構内指示の場所に堆積 ○ 構内指示の場所に敷き均し ・ 場外搬出適正処理 （「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先 受入場所： 受入時間帯： 時 分～ 時 分 仮置き等：												
⑪ はつり		1) 放射線透過検査を ・ 行う ※ 行わない（但し、鉄筋探査は行う。）（改4.1.2） 2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。（改4.1.3） 3) 既設基礎の解体、撤去後の床補修は、図示による。（改4.1.5）													
12 あと施工アンカー		1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。（改5.2.1） 2) 施工後確認試験（引張試験）を ・ 行う（ 箇所） ・ 行わない（改5.2.3）													
項	13 県内産材料	石川県建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第6条の2第7項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。													
	14 材料検査	請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・ 熱源機器 ・ 空調機器 ・ ポンプ類 ・ ダクト及び付属品 ・ 衛生器具 ・ タンク類 ・ 消火機器 ・ 合併処理槽 ・ 厨房機器 ・													
	15 工事写真等の記録	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和3年改定）」による。													
<table><tr><td>工事名</td><td>旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事</td><td>番号</td><td>1</td></tr><tr><td>図面名</td><td>工事仕様書（機械設備）</td><td>3 枚組</td><td>縮尺</td><td>_____</td></tr><tr><td>設 計</td><td colspan="3"></td></tr></table>			工事名	旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	番号	1	図面名	工事仕様書（機械設備）	3 枚組	縮尺	_____	設 計			
工事名	旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	番号	1												
図面名	工事仕様書（機械設備）	3 枚組	縮尺	_____											
設 計															

最終改訂 R7. 10. 1

輪島市教育総務課

章	項	目	特	記	事	項								
●	共	通	●	25	公共事業労務費調査の協力	2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＤ－Ｒで１部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。 受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。 受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）								
						26	事故の補償	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンバーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース
						屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース						
						屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
						○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース
						屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース						
						屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
						○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース
						屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース						
						屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。 <table><tr><td>屋内露出</td><td>・ 合成樹脂製カバー</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr><tr><td>屋外露出</td><td>・ ステンレス鋼板</td><td>・ 保温化粧ケース</td></tr></table> 11 冷媒（フロン類）の回収 1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器（改2.4.3） ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用エアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）」の写しを提出する。	屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース	屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース						
屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース												
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース												
○	空気	1 煙道 ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。（1.1.2） 2 冷媒 パッケージ形空調機等の冷媒の種類は、図示による。（1.7.5.15） 3 ダクト 1) 低圧ダクト ・ アングルフランジ工法 ・ スパイラルダクト（1.14.3.1～2） ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ ・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。（1.14.3.5） 消音内貼りを施すチャンパーは、図示による。（1.14.6.(1)） 4 チャンパー 取り付け位置は、図示による。（2.2.5.5） 5 風量測定口 防振基礎は、図示による。（2.1.1(3)） 6 基礎 7 配管材料 1) 冷温水管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白） ・ （2-2.1.2.1） 2) 冷却水管 ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB） ・ 3) 蒸気管 給気管 ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ※ 配管用炭素鋼鋼管（黒）（2-2.1.2.2） 還管 ※ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒） ・ 4) 油管 屋内 ・ 配管用炭素鋼鋼管（黒） 地中 ・ ポリエチレン被覆鋼管（PLS（PE1H）） 屋外露出、暗渠 ・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管（PLV） 5) 冷媒配管 ※ 断熱材被覆鋼管 ・ 銅管（2-2.1.2.4） 6) 空調用ドレン管 ・ 配管用炭素鋼鋼管（白）（2-2.1.2.6） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）（屋内露出を除く） 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管（白）とする。 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。（2-2.2.7.1） 8 伸縮管継手 ・ 着脱形 ・ 固定形 を設ける。（2-2.3.8） 9 瞬間流量計 10 保温 1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。（2-3.1.4） 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボ												

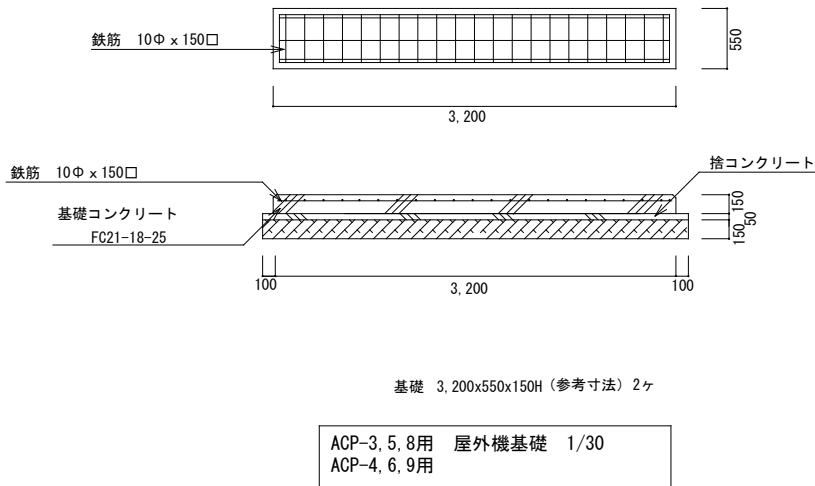
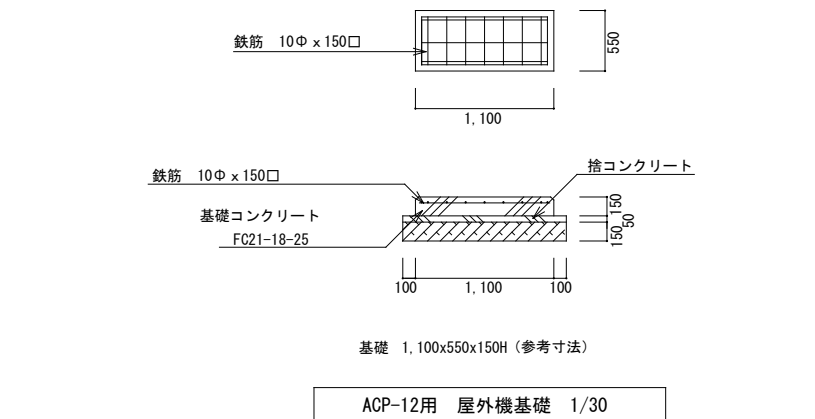
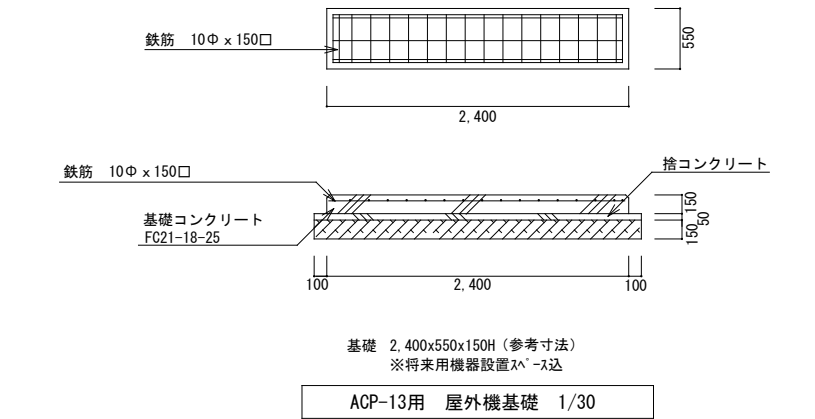
章 項 目		特 記 事 項						
●その他	① 輪島市週休 2 日工事	工事現場において週休 2 日に取り組む「輪島市週休 2 日工事」（以下、「週休 2 日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休 2 日の工事の定義(様式)等については、輪島市監理課ＨＰの「輪島市週休 2 日工事実施要領」を参照すること。 (１) 当初設計において、週単位の週休 2 日にかかる補正係数を乗じている。 (２) 受注者は、工事現場に週休 2 日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 (３) 受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 (４) 受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 (５) 受注者は、工期最終日までに、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 (６) 分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて 1 日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 (７) 発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休 2 日に満たない場合は、月単位の週休 2 日（4 週 8 休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休 2 日（4 週 8 休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休 2 日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。						
	2 余裕期間制度 試行工事	1) 適用 ・ 対象 ※ 対象外 2) 余裕期間制度対象工事の内容 (１) 本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 (２) 受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 (３) 受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 (４) 工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 (５) 受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 (６) 受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 (７) 受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 (８) 受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 (９) 余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 (１０) その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 (着工日の期限) 契約締結日から起算して〇ヶ月以内						
	③ イメージアップ 看板	・ 設置する ・ 設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <table><tr><td>野立型（大） H1400×W1100</td><td>野立型（小） H1400×W550</td><td>壁掛型 H750×W900</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> (注) 看板のデザインは監督員に確認すること		野立型（大） H1400×W1100	野立型（小） H1400×W550	壁掛型 H750×W900		
野立型（大） H1400×W1100	野立型（小） H1400×W550	壁掛型 H750×W900						
④ 情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・ 利用する（発注者指定型） ※ 現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）							

章 項 目		特 記 事 項	

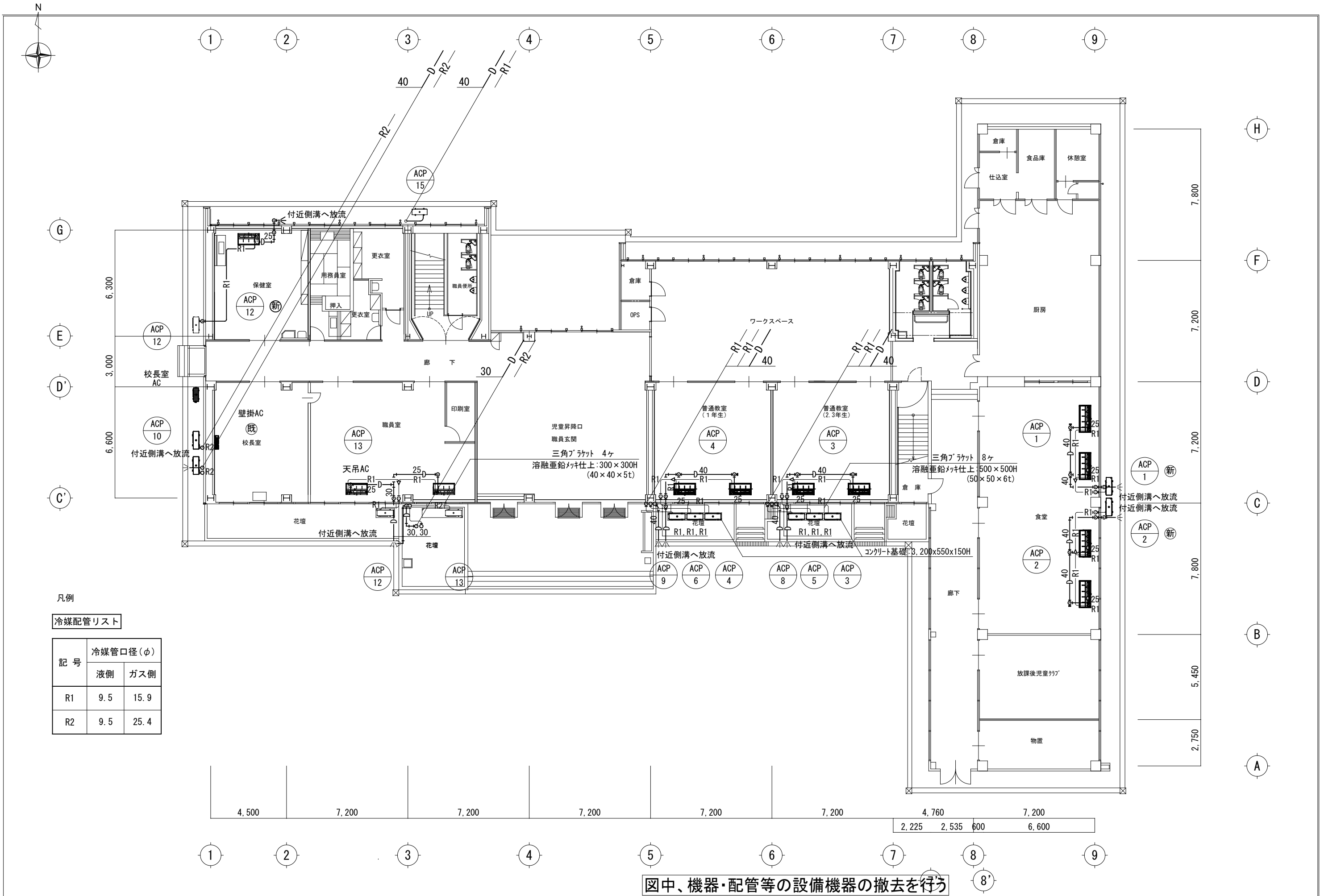
工事名	旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	番号	3
図面名	工事仕様書（機械設備）	3 / 3	縮尺
設 計	輪島市教育総務課		

最終改訂 R 7 . 1 0 . 1

空冷式パッケージエアコン											
記 号	型 式	設 置 場 所		数 量	冷房能力 kW	暖房能力 kW	圧縮機 kW	送風機 kW	電 源 φ-V	付属品・その他	参考型番
ACP-1	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	食堂	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-2	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	食堂	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-3	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	普通教室(2,3年)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-4	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	普通教室(1年)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-5	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	学習室(けかち)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-6	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	普通教室(5,6年)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-7	天吊形	屋外機	屋外	1	20.0	22.4	4.60	0.30	3-200		PUZT-ERP224KA11
	(冷暖同時トリプル)	室内機	図書室	3	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-8	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	学習室(なかよし)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-9	天吊形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(冷暖同時ツイン)	室内機	普通教室(4年)	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-10	天吊形	屋外機	屋外	1	20.0	22.4	4.60	0.30	3-200		PUZT-ERP224KA11
	(冷暖同時トリプル)	室内機	音楽室	3	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-12	天吊露出形	屋外機	屋外	1	7.1	8.0	1.60	0.15	3-200		PUZ-ERMP80HA6
		室内機	保健室	1	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
RC-1	集中リモコン	—	職員室	1	—	—	—	—	1-200	個別運転/停止、一括運転/停止、 温度設定、スケジュール運転、デマンド制御	AE-200J
ACP-13	天吊露出形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.70	0.12	3-200		PUZ-ERMP160LA6
	(同時ツイン)	室内機	職員室	2	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-14	天吊露出形	屋外機	屋外	1	20.0	22.4	4.60	0.30	3-200		PUZT-ERP224KA11
	(同時トリプル)	室内機	理科室	3	7.1	8.0	—	0.095	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP80KA14
ACP-15	天吊露出形	屋外機	屋外	1	14.0	16.0	3.30	0.06x2	3-200		PUZ-ZRMP160KA6
		室内機	コンピューター室	1	14.0	16.0		0.16	1-200	ドレンアップ、ワイヤードリモコン	PC-RP160KA14



図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う

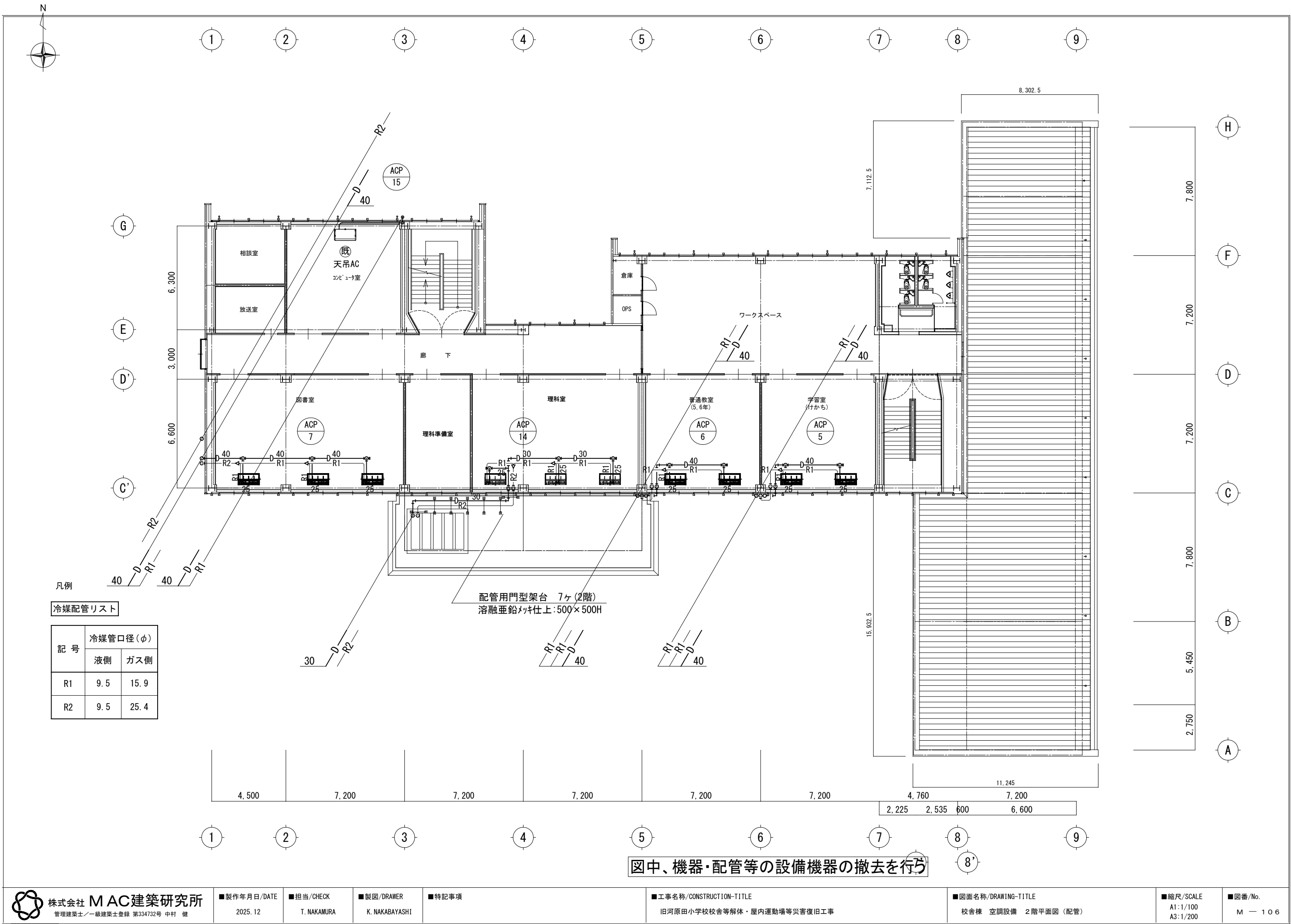


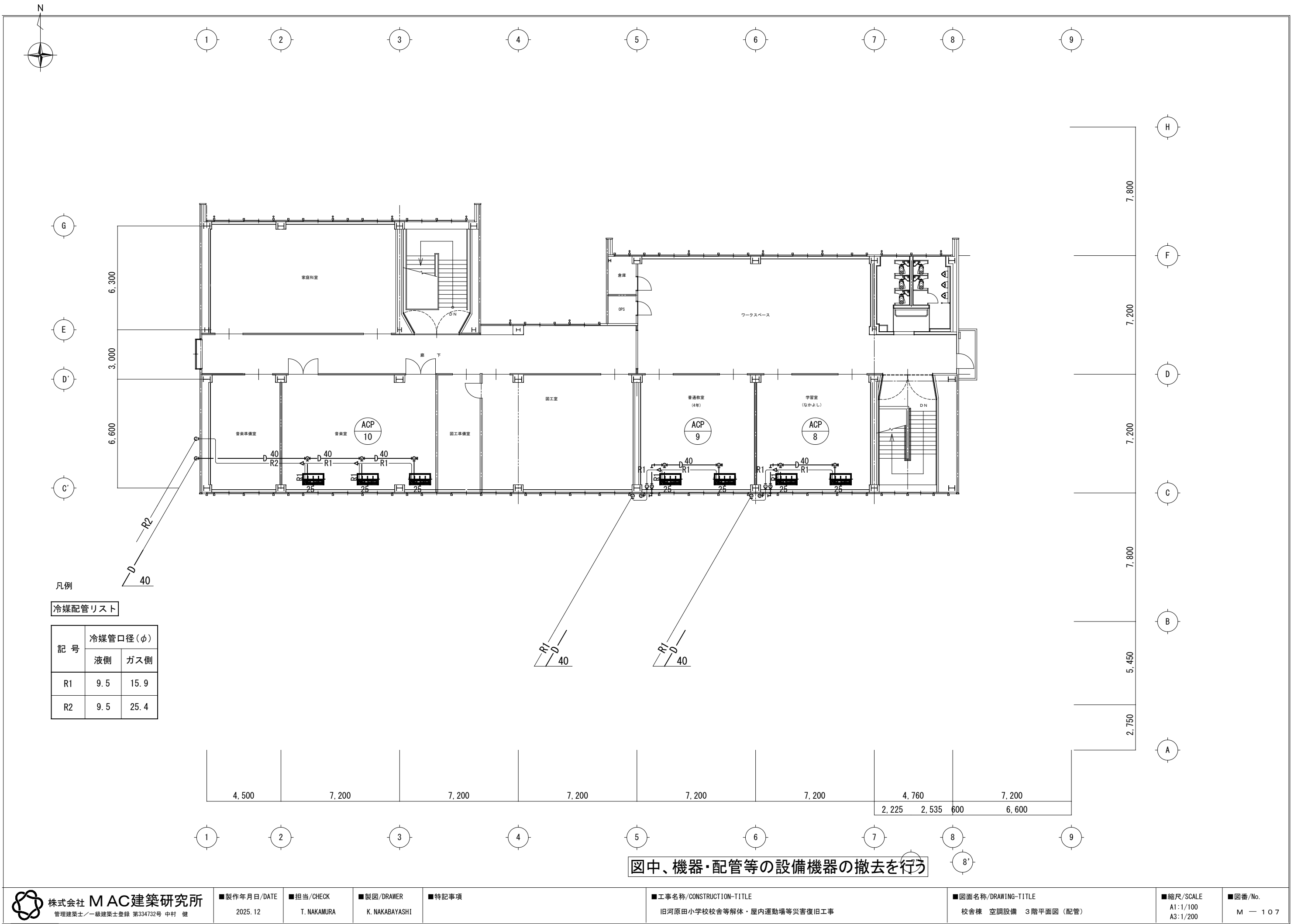
凡例

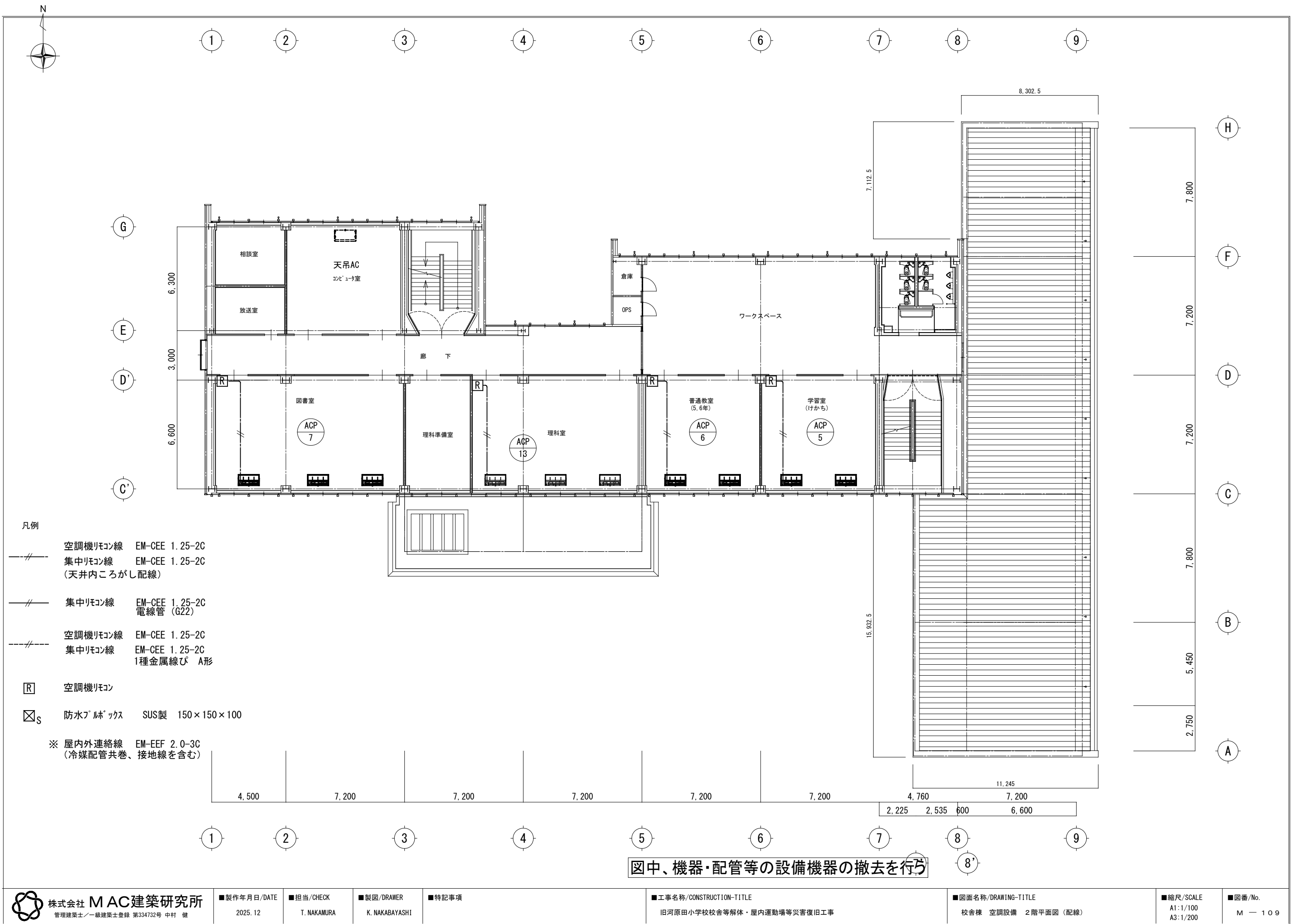
冷媒配管リスト

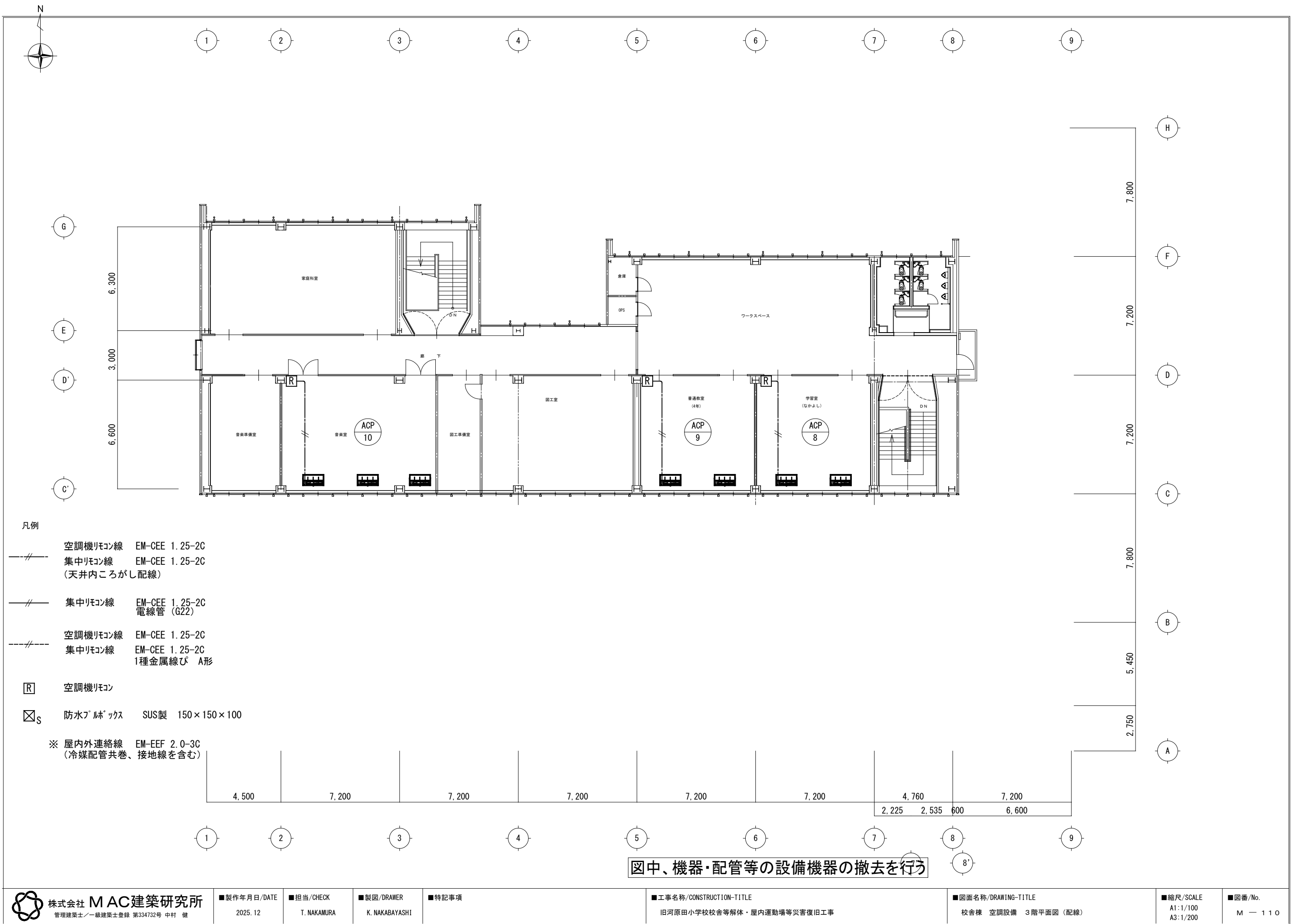
記 号	冷媒管口径(φ)	
	液側	ガス側
R1	9.5	15.9
R2	9.5	25.4

図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う









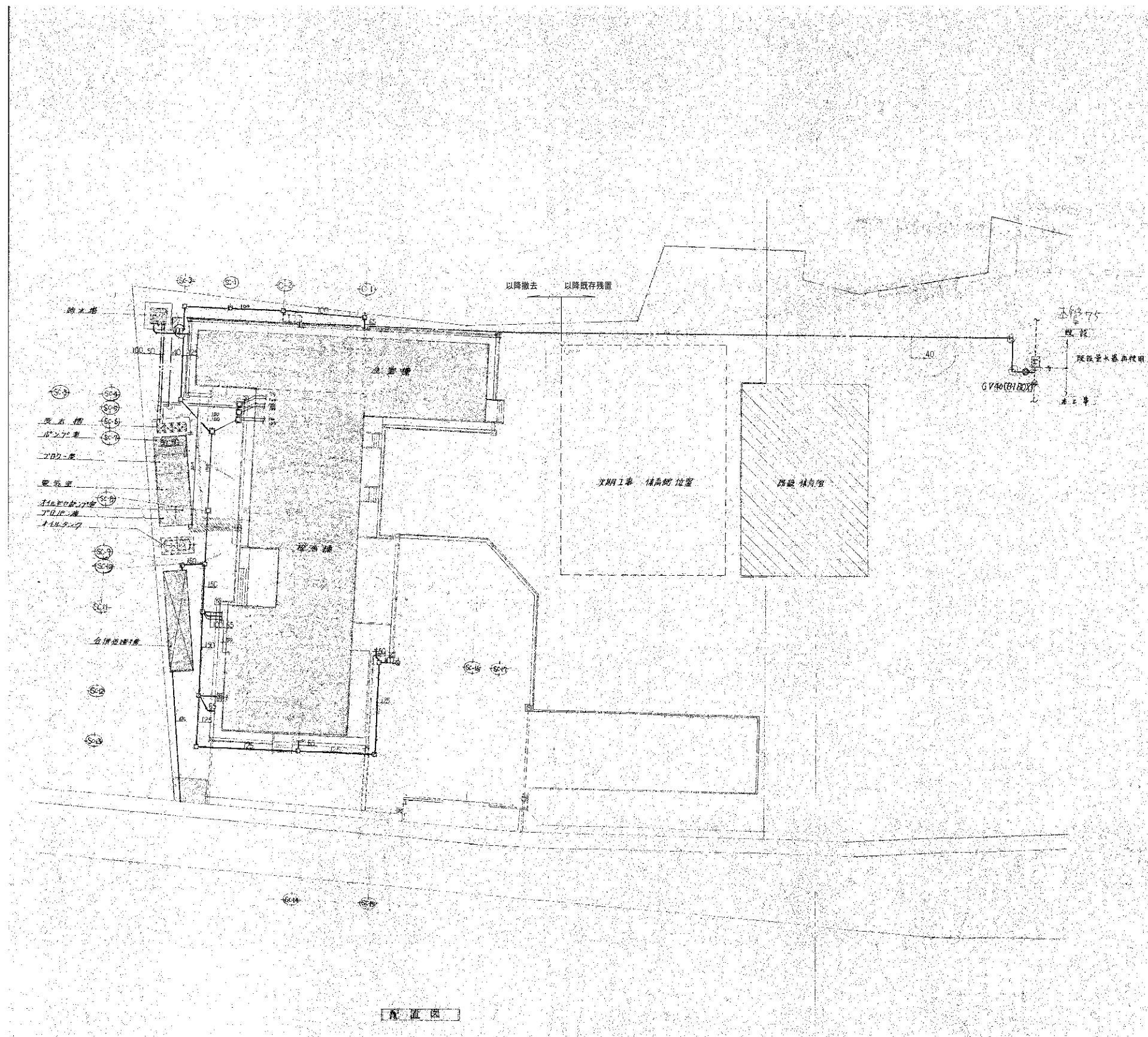
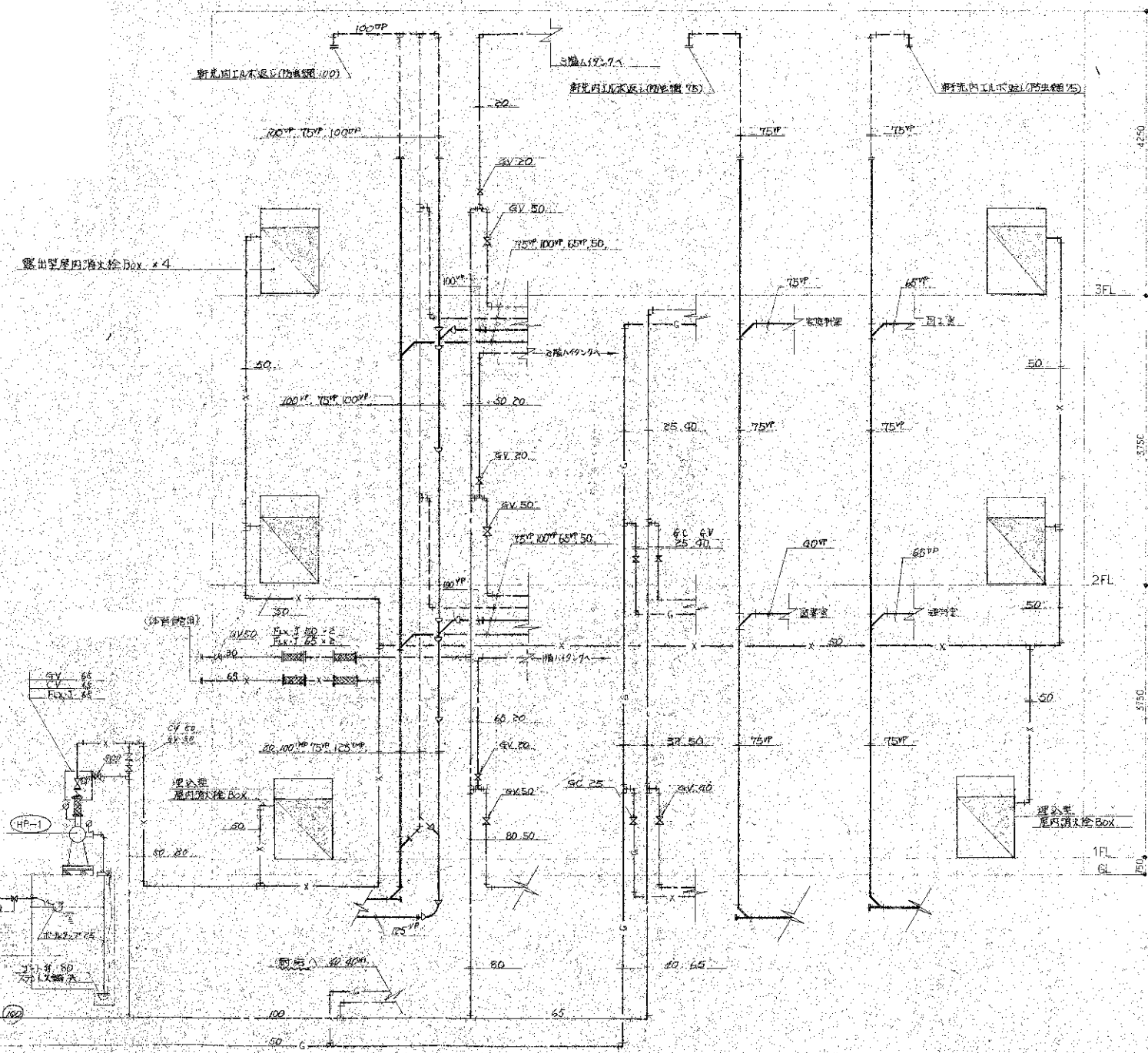
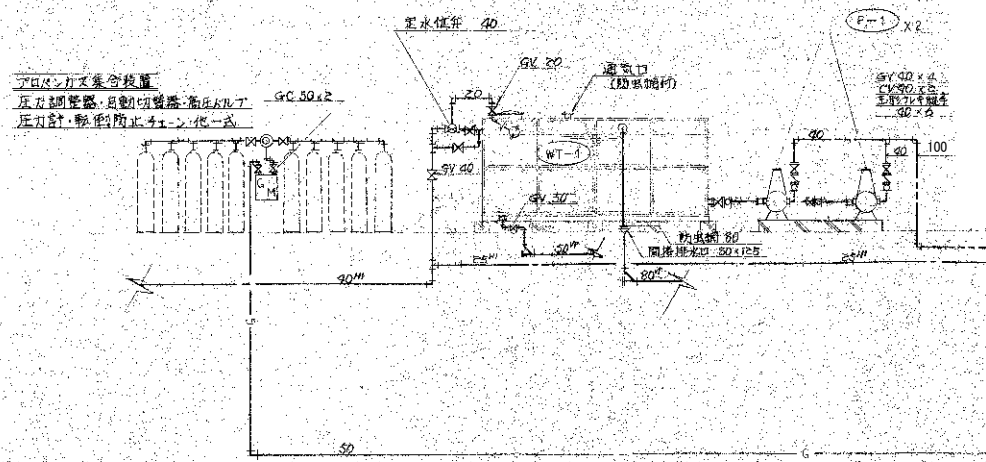


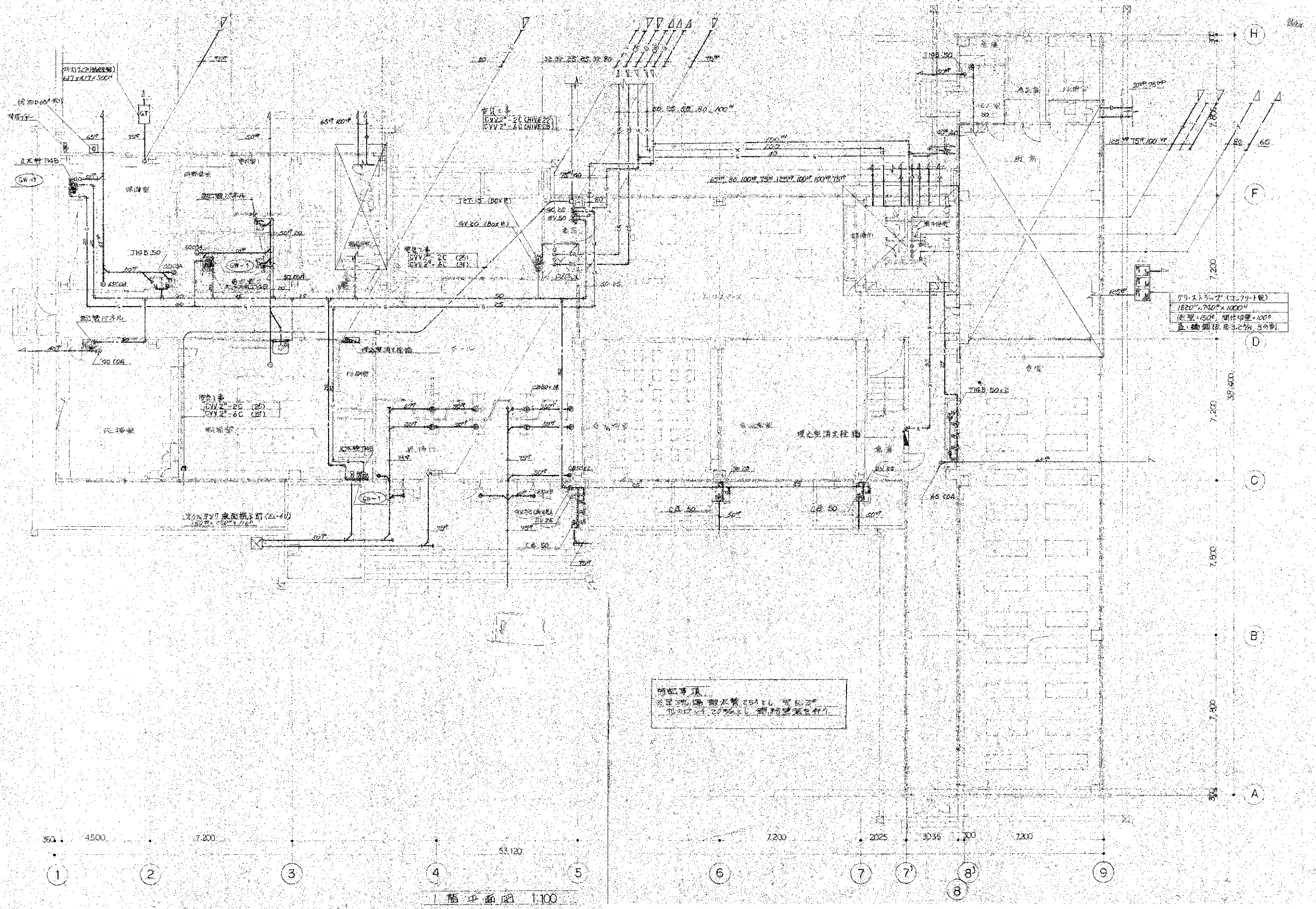
図 設備表

N.O.	種 別	寸 法	品 名	厚 さ	備 考
C-1	排水機	450×450	MHB-450	500	
C-2		450×450	MHB-450	610	
SC-1	排水機	600×600	MHA-600	790	
SC-2		600×600	MHA-600	870	
SC-3		600×600	MHA-600	1050	
SC-4		450×450	MHA-450	1000	
SC-5		600×600	MHA-600	1050	
SC-6		600×600	MHA-600	1100	
SC-7		600×600	MHA-600	1150	
SC-8		900 ^φ	MHA-600	1400	ガラス付
SC-9		900 ^φ	MHA-600	1600	
SC-10		900 ^φ	MHA-600	1790	
SC-11		900 ^φ	MHA-600	1490	
SC-12	排水機	900 ^φ	MHA-800	1400	ガラス付
SC-13		900 ^φ	MHA-600	1350	
SC-14		900 ^φ	MHA-600	1300	
SC-15		900 ^φ	MHA-600	1200	
SC-16		600×600	MHA-600	1050	
SC-17	排水機	600×600	MHA-600	960	

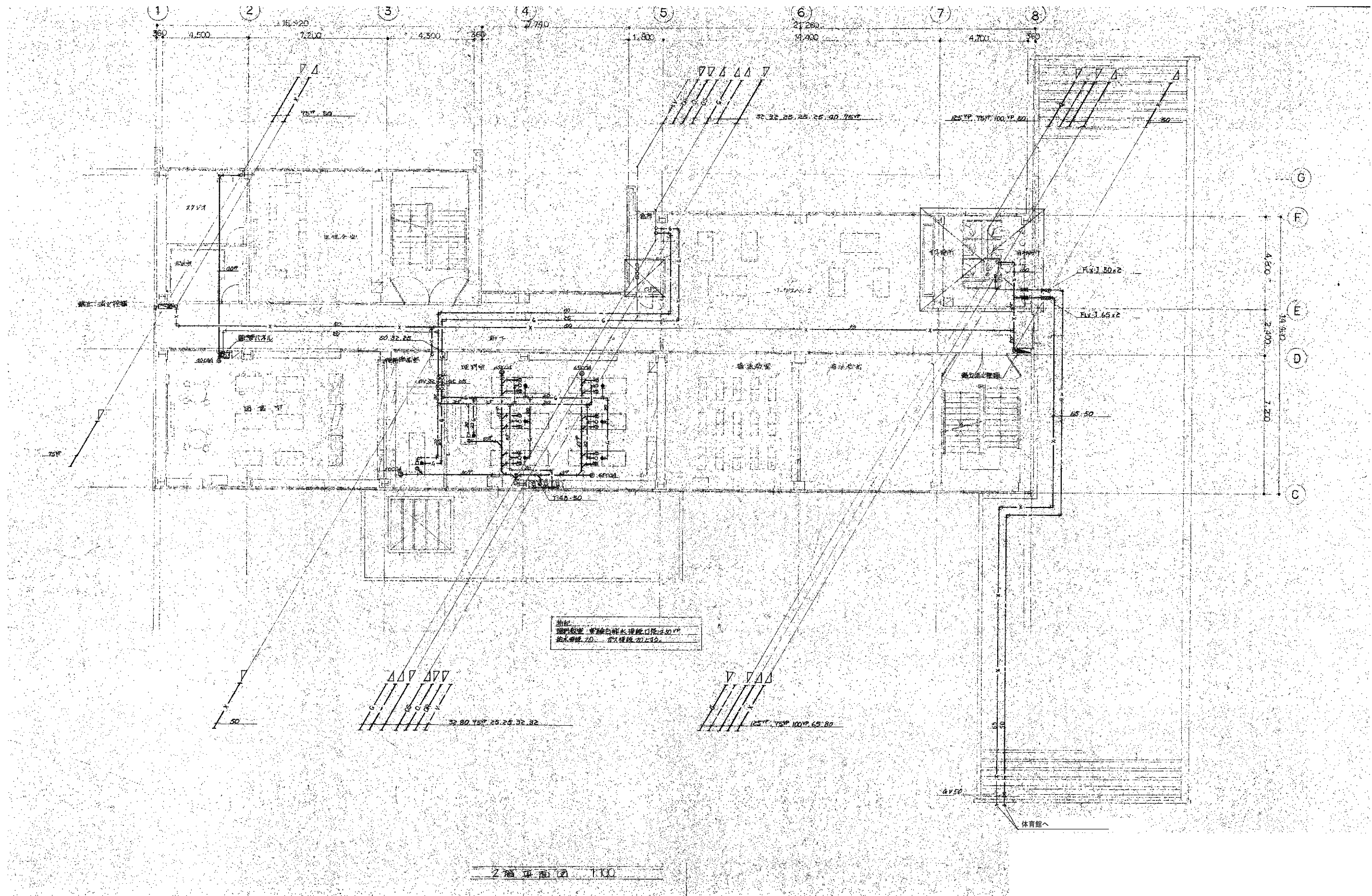
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



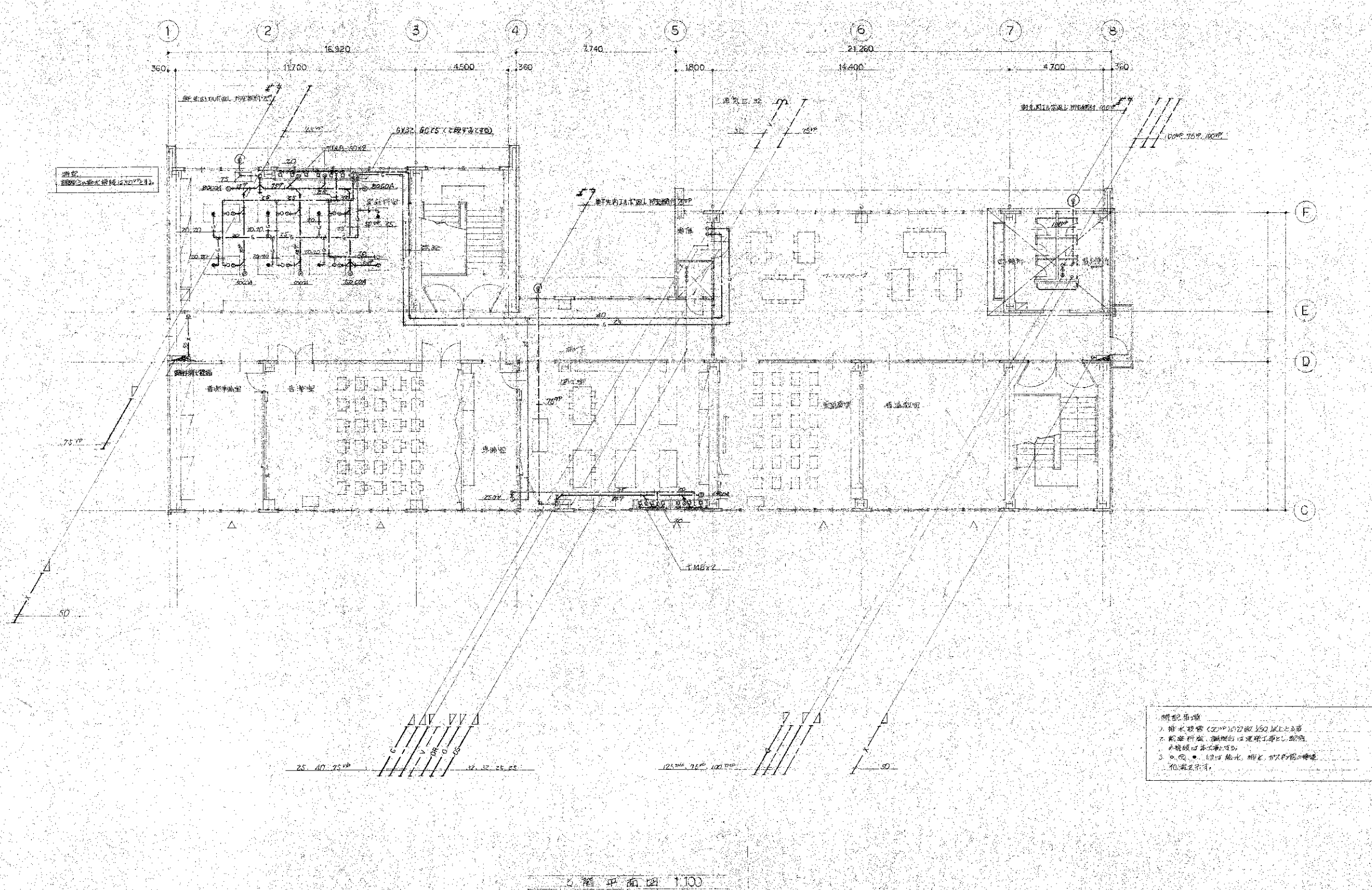
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



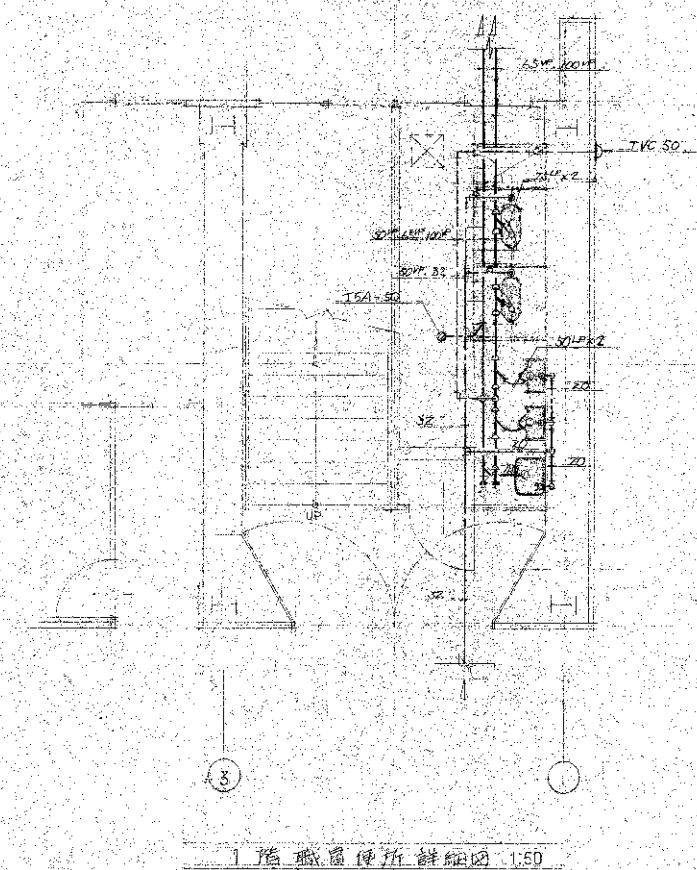
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



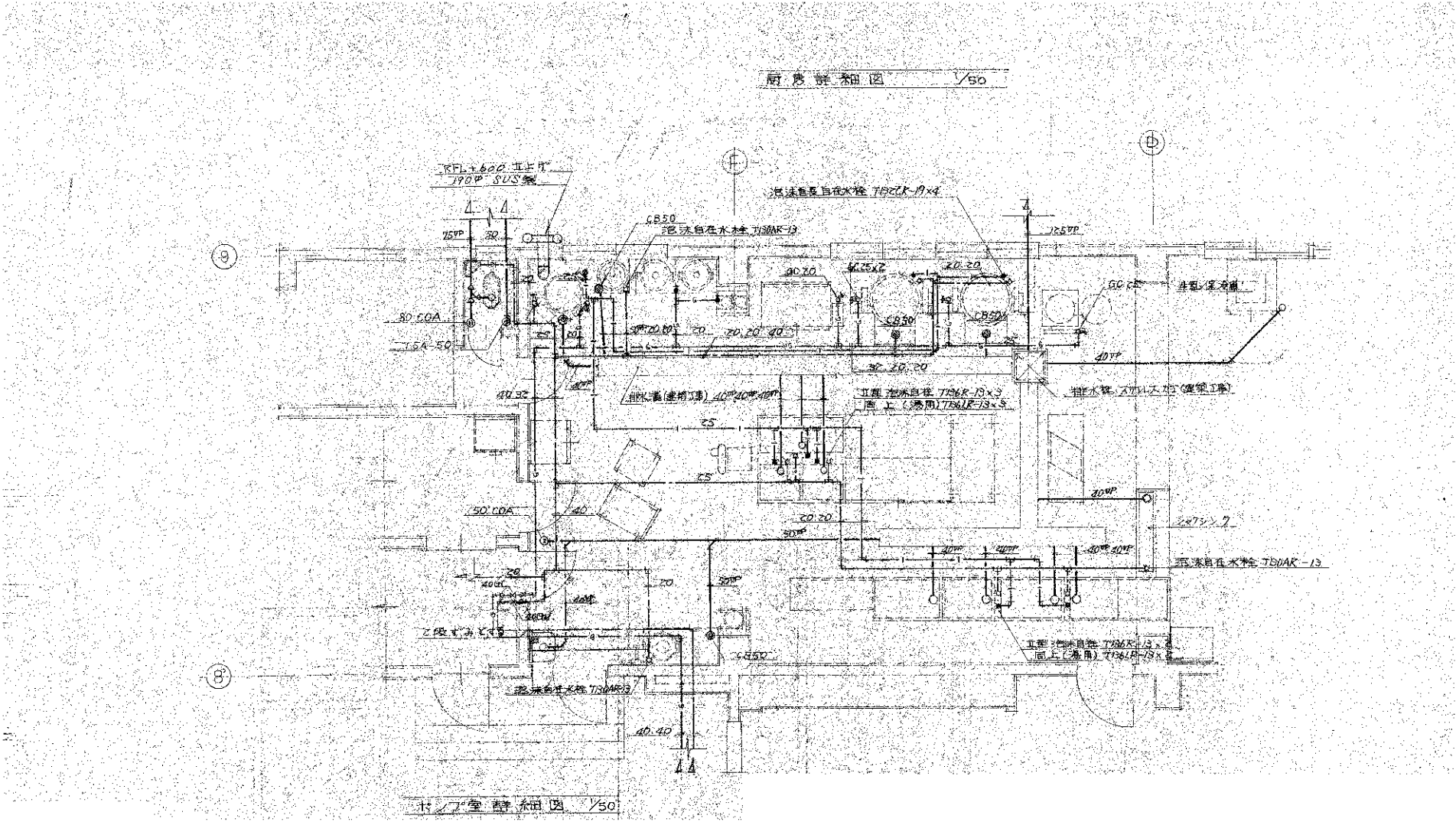
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



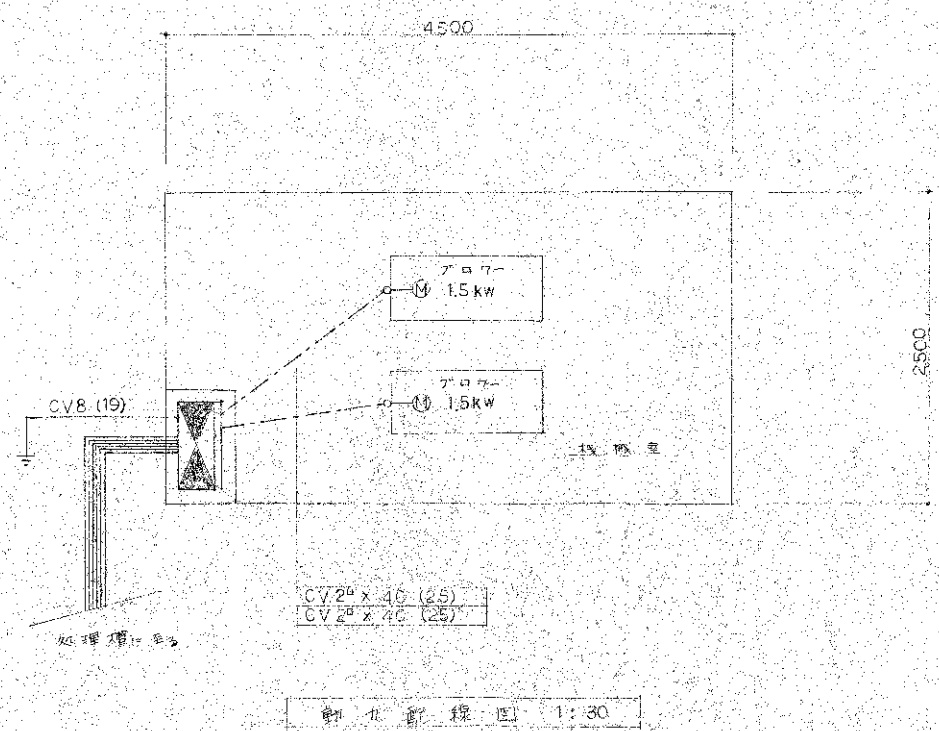
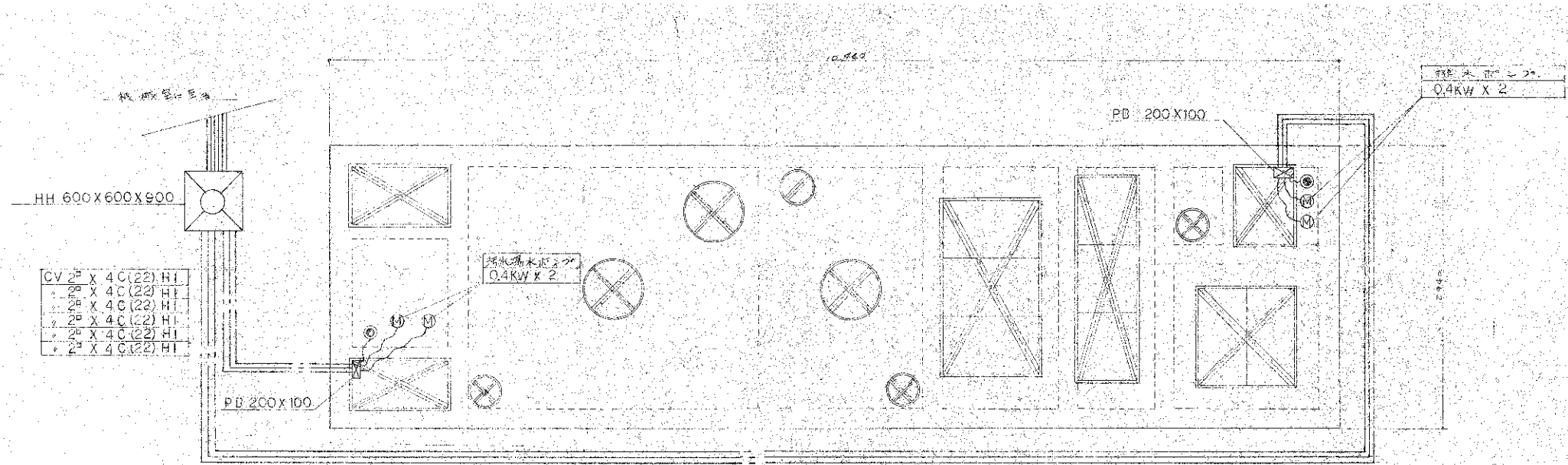
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



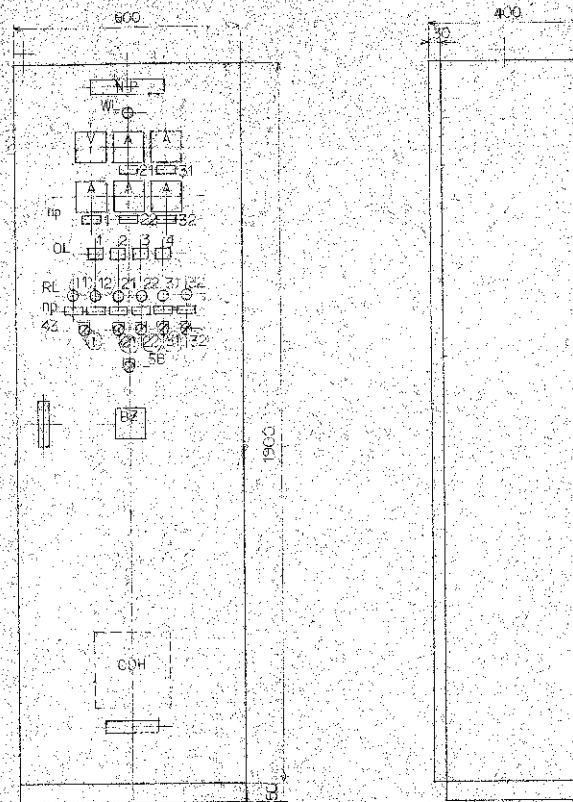
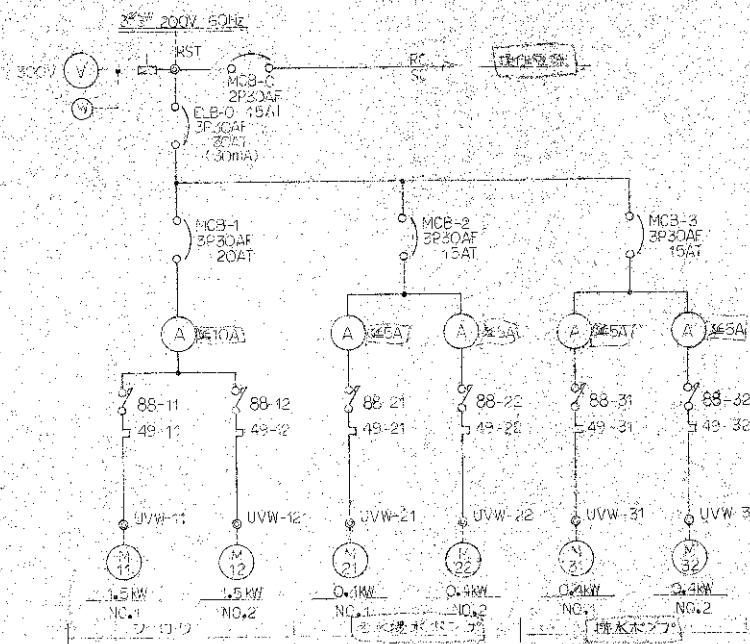
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



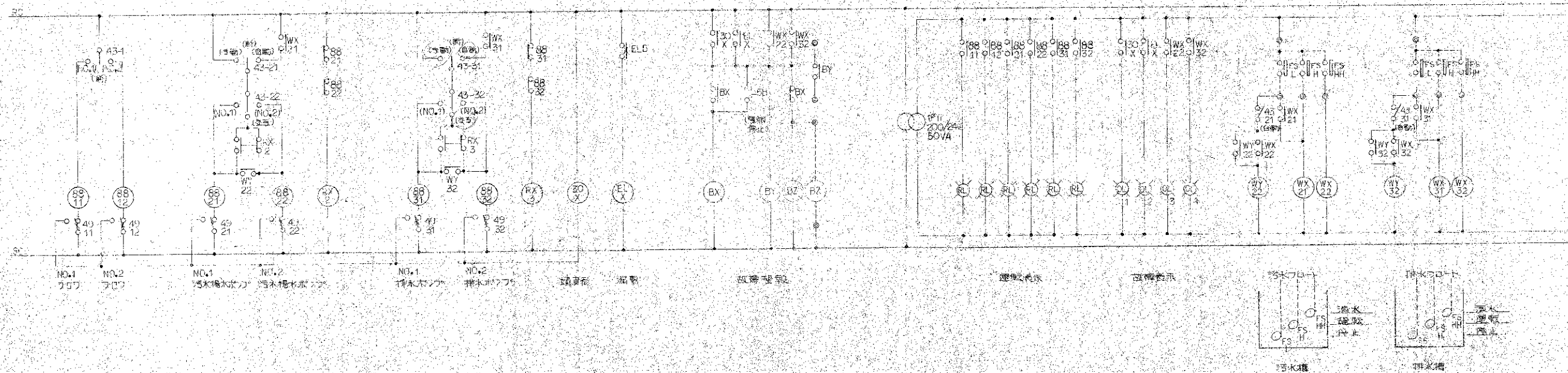
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



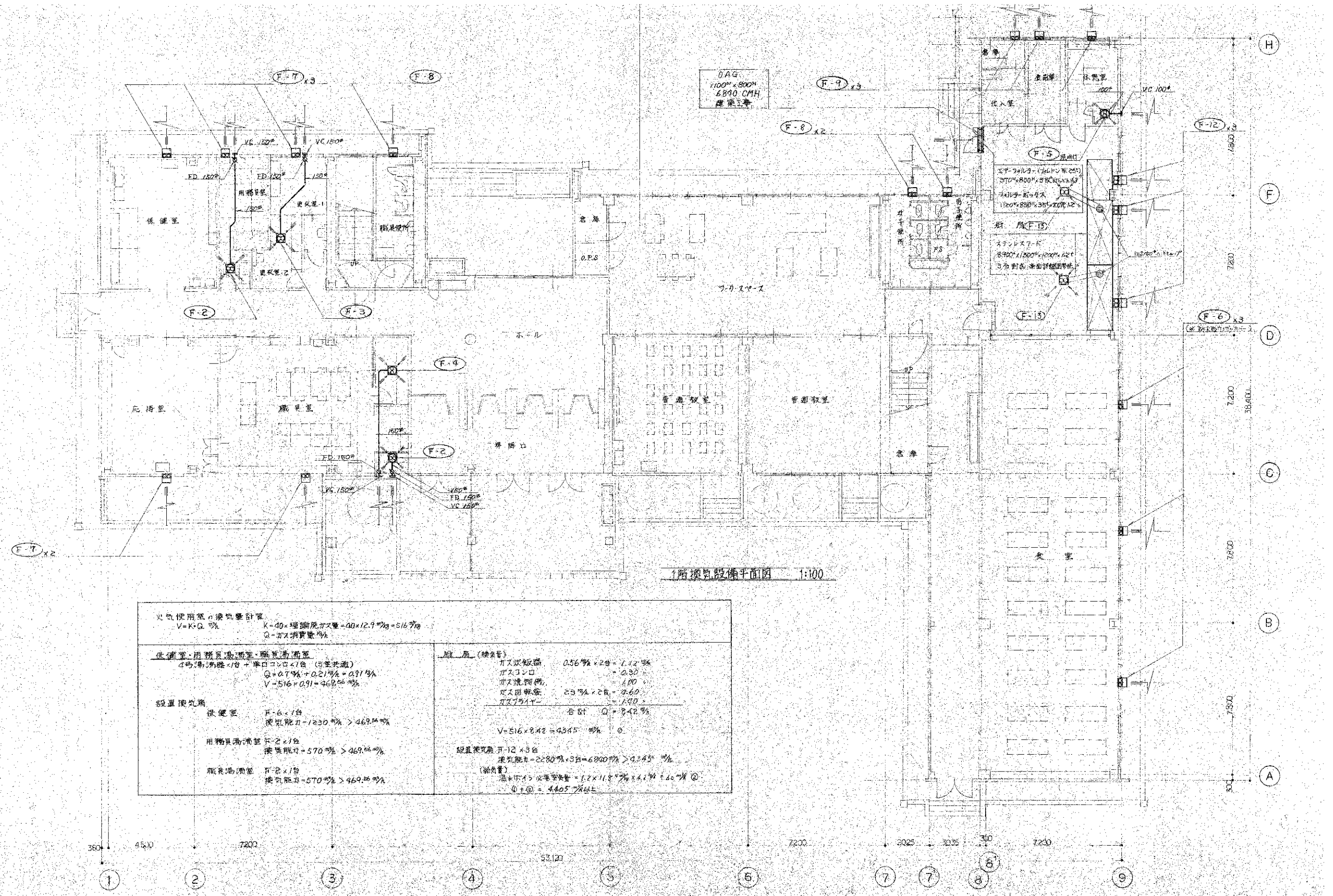
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



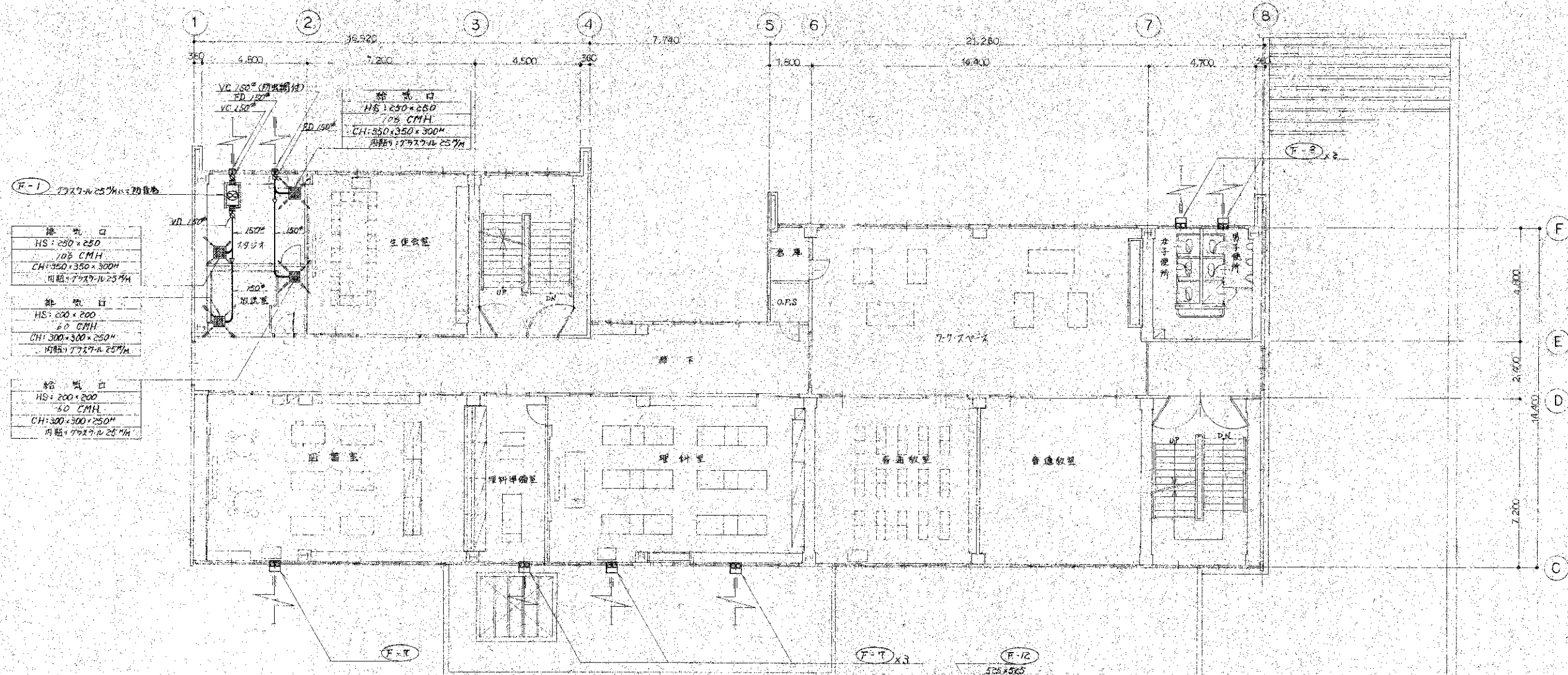
図面 - 変更	
NO.1	汚水処理機付機
NO.2	汚水処理機付機
NO.3	汚水処理機付機
NO.4	汚水処理機付機
NO.5	汚水処理機付機
NO.6	汚水処理機付機
NO.7	汚水処理機付機
NO.8	汚水処理機付機
NO.9	汚水処理機付機
NO.10	汚水処理機付機
NO.11	汚水処理機付機
NO.12	汚水処理機付機
NO.13	汚水処理機付機
NO.14	汚水処理機付機
NO.15	汚水処理機付機
NO.16	汚水処理機付機
NO.17	汚水処理機付機
NO.18	汚水処理機付機
NO.19	汚水処理機付機
NO.20	汚水処理機付機
NO.21	汚水処理機付機
NO.22	汚水処理機付機
NO.23	汚水処理機付機
NO.24	汚水処理機付機
NO.25	汚水処理機付機
NO.26	汚水処理機付機
NO.27	汚水処理機付機
NO.28	汚水処理機付機
NO.29	汚水処理機付機
NO.30	汚水処理機付機
NO.31	汚水処理機付機
NO.32	汚水処理機付機
NO.33	汚水処理機付機
NO.34	汚水処理機付機
NO.35	汚水処理機付機
NO.36	汚水処理機付機
NO.37	汚水処理機付機
NO.38	汚水処理機付機
NO.39	汚水処理機付機
NO.40	汚水処理機付機
NO.41	汚水処理機付機
NO.42	汚水処理機付機
NO.43	汚水処理機付機
NO.44	汚水処理機付機
NO.45	汚水処理機付機
NO.46	汚水処理機付機
NO.47	汚水処理機付機
NO.48	汚水処理機付機
NO.49	汚水処理機付機
NO.50	汚水処理機付機
NO.51	汚水処理機付機
NO.52	汚水処理機付機
NO.53	汚水処理機付機
NO.54	汚水処理機付機
NO.55	汚水処理機付機
NO.56	汚水処理機付機
NO.57	汚水処理機付機
NO.58	汚水処理機付機
NO.59	汚水処理機付機
NO.60	汚水処理機付機
NO.61	汚水処理機付機
NO.62	汚水処理機付機
NO.63	汚水処理機付機
NO.64	汚水処理機付機
NO.65	汚水処理機付機
NO.66	汚水処理機付機
NO.67	汚水処理機付機
NO.68	汚水処理機付機
NO.69	汚水処理機付機
NO.70	汚水処理機付機
NO.71	汚水処理機付機
NO.72	汚水処理機付機
NO.73	汚水処理機付機
NO.74	汚水処理機付機
NO.75	汚水処理機付機
NO.76	汚水処理機付機
NO.77	汚水処理機付機
NO.78	汚水処理機付機
NO.79	汚水処理機付機
NO.80	汚水処理機付機
NO.81	汚水処理機付機
NO.82	汚水処理機付機
NO.83	汚水処理機付機
NO.84	汚水処理機付機
NO.85	汚水処理機付機
NO.86	汚水処理機付機
NO.87	汚水処理機付機
NO.88	汚水処理機付機
NO.89	汚水処理機付機
NO.90	汚水処理機付機
NO.91	汚水処理機付機
NO.92	汚水処理機付機
NO.93	汚水処理機付機
NO.94	汚水処理機付機
NO.95	汚水処理機付機
NO.96	汚水処理機付機
NO.97	汚水処理機付機
NO.98	汚水処理機付機
NO.99	汚水処理機付機
NO.100	汚水処理機付機



図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う

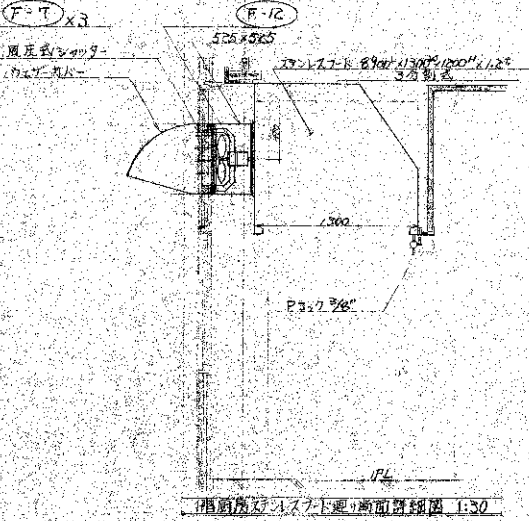


図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う

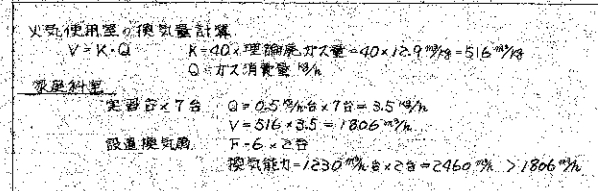


火気使用部の換気量計算	
$V = K \cdot Q$ ㎡/h	$K = 40 \times \text{理論燃ガス量} = 40 \times 12.9 \text{ ㎡/h} = 516 \text{ ㎡/h}$ $Q = \text{ガス消費量 ㎡/h}$
理科室	
実験台 × 7台	$Q = 0.2 \text{ ㎡/台} \times 7 \text{ 台} = 1.4 \text{ ㎡/h}$ $V = K \cdot Q = 516 \times 1.4 = 722.4 \text{ ㎡/h}$
設置換気扇	F-6 × 2台 換気能力 = 1230 ㎡/h × 2台 = 2460 ㎡/h > 722.4 ㎡/h
理科準備室	
実験台 × 1台	$Q = 0.2 \text{ ㎡/台}$ $V = K \cdot Q = 516 \times 0.2 = 103.2 \text{ ㎡/h}$
設置換気扇	F-6 × 1台 換気能力 = 1230 ㎡/h > 103.2 ㎡/h
放送室	
$V = 20 \text{ AS/N ㎡}$ $= 20 \times 3 \times 4 / 4 = 60 \text{ ㎡/h} \rightarrow \text{㊸}$	
スタジオ	
$V = 20 \text{ AS/N ㎡}$ $= 20 \times 4 \times 4 / 3 = 106 \text{ ㎡/h} \rightarrow \text{㊹}$	
㊸ + ㊹ = 166 ㎡/h F-1 × 1台 換気能力 = 420 ㎡/h > 166 ㎡/h	

2階換気設備平面図 1:100

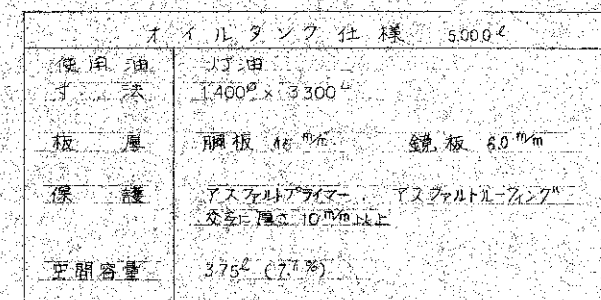


図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う

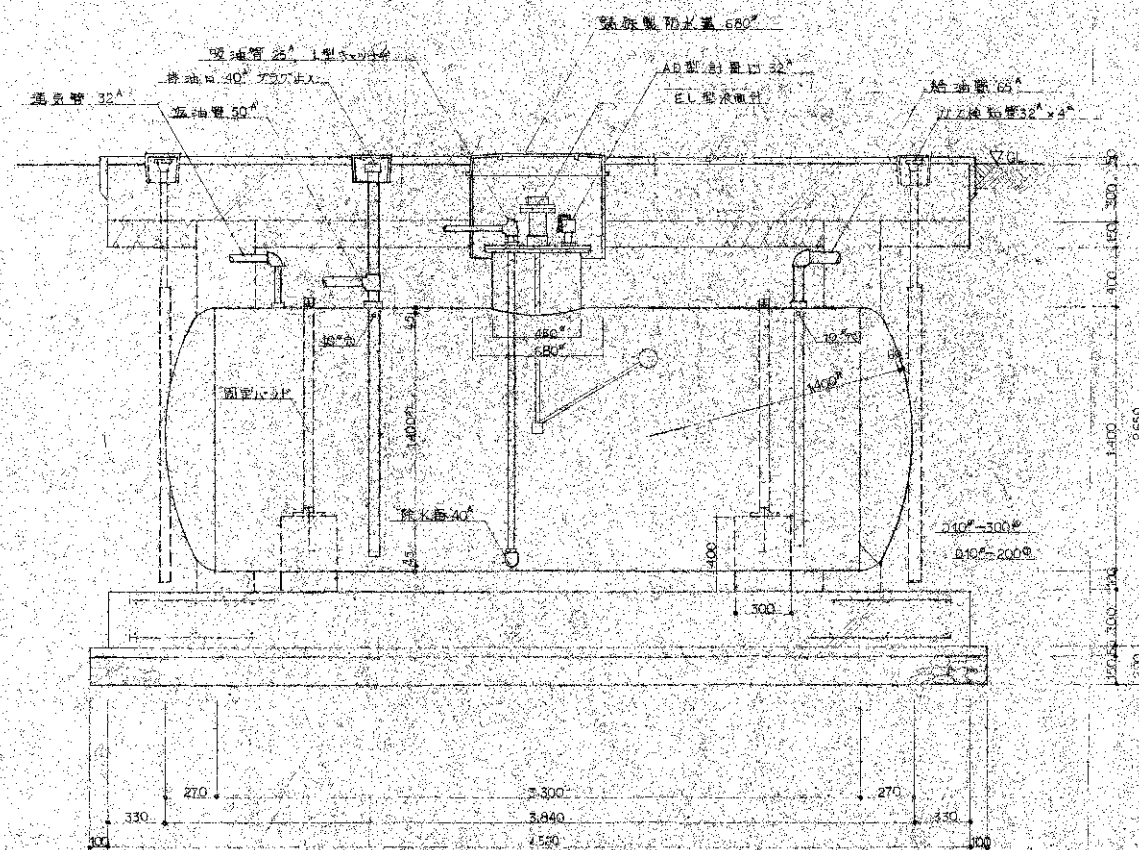


換氣設備機器表

図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



平面圖 120



1. A~A 断面图 1:20

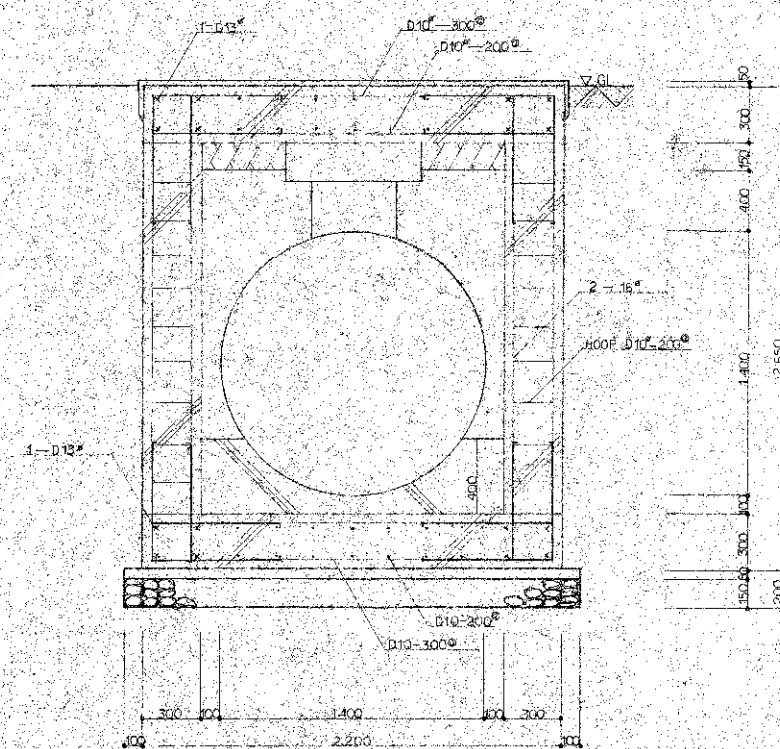


图 1-20


 株式会社 **MAC建築研究所**
 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
K. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舍等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■ 図面名称/DRAWING-TITLE

校舎棟 暖房・換気設備 貯油槽詳細図

■縮尺/SCALE
A1:1/20
A3:1/40

■図番/No.
M — 126

工 事 仕 様 書（電気設備）																																		
Ⅰ. 工 事 概 要																																		
1. 工 事 名 称 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事																																		
2. 工 事 場 所 輪島市 横地町 地内																																		
3. 完 成 期 日 令和 年 月 日（余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。） 指定部分 ○ 無 ・ 有（指定期日：令和 年 月 日） 対象部分（ ） 概成工期 ○ 無 ・ 有（令和 年 月 日）（積算工期：○〇か月）（1.2.1(6)）																																		
4. 建 物 概 要																																		
<table><tr><th>建 物 名 称</th><th>構 造</th><th>階 数</th><th>延面積（㎡）</th><th>消防令別表第一</th><th>備 考</th></tr><tr><td>屋内運動場棟</td><td>S造</td><td>2階建(地階 階.塔屋 階)</td><td>5,983</td><td>15項</td><td>改修</td></tr><tr><td>校舎棟</td><td>S造</td><td>3階建(地階 階.塔屋 階)</td><td>2,010</td><td></td><td>解体</td></tr><tr><td>ポンプ室</td><td>CB造</td><td>1階建(地階 階.塔屋 階)</td><td>62</td><td></td><td>解体</td></tr><tr><td>プール</td><td>CB造</td><td>1階建(地階 階.塔屋 階)</td><td>26</td><td></td><td>解体</td></tr></table>					建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備 考	屋内運動場棟	S造	2階建(地階 階.塔屋 階)	5,983	15項	改修	校舎棟	S造	3階建(地階 階.塔屋 階)	2,010		解体	ポンプ室	CB造	1階建(地階 階.塔屋 階)	62		解体	プール	CB造	1階建(地階 階.塔屋 階)	26		解体
建 物 名 称	構 造	階 数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備 考																													
屋内運動場棟	S造	2階建(地階 階.塔屋 階)	5,983	15項	改修																													
校舎棟	S造	3階建(地階 階.塔屋 階)	2,010		解体																													
ポンプ室	CB造	1階建(地階 階.塔屋 階)	62		解体																													
プール	CB造	1階建(地階 階.塔屋 階)	26		解体																													
5. 別契約の関連工事																																		
・ 建築工事 ・ 電気設備工事 ・ 給排水衛生設備工事 ・ 空調調和設備工事 ・ 構内交換設備工事																																		
・ 昇降機設備工事 ・ 自家発電設備工事 ・ 厨房機器設備工事 ・ 屋外付帯工事 ・ 植栽工事																																		
6. 工 事 内 容																																		
本工事は旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事に伴う、電気設備改修工事一式を行う。																																		
1. 屋内運動場棟 ・ 既設照明器具を撤去し、LED照明器具へ更新する。																																		
・ 校舎棟解体に伴い、テレビ・拡声・時計を撤去とする。																																		
・ 自動火災報知設備を撤去し、非常警報設備を新設する。																																		
・ 構内配電線路工事で新たに引込工事を行う。																																		
2. 校舎棟 ・ 建物解体に伴い電気設備一式の撤去工事を行う。																																		
3. ポンプ室 ・ 建物解体に伴い電気設備一式の撤去工事を行う。																																		
4. プール ・ 建物解体に伴い電気設備一式の撤去工事を行う。																																		
Ⅱ. 工 事 仕 様																																		
1. 一 般 仕 様																																		
1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和4年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。																																		
2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。																																		
2. 特 記 仕 様																																		
章は●印のものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。																																		
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。																																		
○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。																																		
章	項 目	特 記 事 項																																
●	① 工事実績情報	請負金額5,000千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。（1.1.4）																																
	② 施工体制台帳の作成等	下請員に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。（1.1.5(3)）																																
	③ 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－1によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。（1.1.7）																																
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末ごとに提出する。（1.2.4）																																
	⑤ 施工条件	・ 新築工事 ○ 改修工事（・ 執務並行改修 ○ 全館無人改修）（1.3.3） ・ 機器納期、作業不可期間、週休2日工事であることを考慮し、工事工程表を作成する事。（改1.3.3） ・ ・																																
	⑥ 発生材の処理等	・ 引渡しを要するもの（・ ）（1.3.9(2)） ・ 特別管理産業廃棄物（・ PCB使用機器 ・ 廃石綿 ・ ）（ ） ・ 現場で再利用を図るもの（・ ） ・ 再資源化を図るもの（・ 蛍光ランプ ・ コンクリート ・ アスファルト ・ 木材 ・ ）（ ）																																
	⑦ 再使用機材	・ 取外し後再使用するものは図示による。（改1.4.3）																																
	章	項 目	特 記 事 項																															
	●	⑧ 事前調査	PCB含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない（改1.5.2） 石綿含有分析調査を ・ 行う（図示 箇所） ・ 行わない																															
		⑨ 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。（改1.7.1） 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。（改1.7.2）																															
⑩ 撤去等		1) 回収を要する機器及び配管の内容物 ・ 燃料 ・ （改1.8.1） 2) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。（改1.8.6）																																
⑪ 環境への配慮		1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。（1.4.1(1)） ・ 照明制御システム ・ 変圧器 ・ 下塗用塗料（重防食） ・ 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。（1.4.1(2)） ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用																																
⑫ 機材の品質等		1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設に使用する機材は、新品に限らない。（1.4.2(1)） 2) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。																																
⑬ 工事の創意工夫等		受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。（1.5.6）																																
⑭ 化学物質の濃度測定		建築物の室内空気中の濃度測定を ・ 行う ・ 行わない（1.5.7） 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。																																
15 中間検査		中間検査の実施 ・ 無 ・ 有（時期 ・ 天井下地完了時 ・ ）（1.6.2）																																
⑯ 完成図		原因及び製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）提出する。（1.7.2）																																
⑰ 保全に関する資料		保全に関する資料は次のとおり、 2 部提出する。 ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書(主要機器一覧表とも) ③機器性能試験成績書（総合試運転報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm 内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																
⑰ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
●	⑰ 仮設間仕切・扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。（改2.2.3）																																
	⑳ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																
	㉑ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																
	㉒ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																
	⑳ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																
	㉑ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																
	㉒ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																
	㉓ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																
	㉔ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																
	㉕ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																
㉖ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㉗ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㉘ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㉙ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㉚ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㉛ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㉜ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㉝ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㉞ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㉟ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊱ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊲ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊳ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊴ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊵ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊶ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊷ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊸ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊹ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊺ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊻ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊼ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊽ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊾ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 1 部、A3縮小 2 部）し、監督員事務所等に置く。																																	
㊿ 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。（改2.2.2）																																	
㊿ 仮設備	仮設備を ・ 設ける（図示による） ・ 設けない（改2.14.1）																																	
㊿ 工事用電力等	・ 既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償） ・ 発電機又は北陸電力引込み等（改2.2.4）																																	
㊿ 監督員事務所等	1) 監督員事務所を ※ 設けない ・ 設ける〔 ・ 1号（10㎡程度） ・ 2号（20㎡程度） 〕（改2.1.1(4)） 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・ 保護帽 ・ 墜落制止用器具 ・ 長靴 ・ 合羽 ・ 机 ・ 椅子 ・ 懐中電灯 ・ 書棚 ・ 黒板 ・ 寒暖計 ・ （改2.1.1(4)） 																																	

●

一

般

共

通

事

項

35

耐震施工

次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」による。

(2-2.1.13(2)～(4))

1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。

設置場所	耐震安全性の分類（重要機器・一般機器共通）	
	特定の施設	一般の施設
	○ 耐震クラス S	・ 耐震クラス A
上層階、屋上及び塔屋	2. 0	1. 5 < 2. 0 >
中間階	1. 5	1. 0 < 1. 5 >
一階及び地下階	1. 0（1. 5）	1. 0

注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。

注2 上層階は、2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

注3（）内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、< > 内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。

2) 地域係数は1. 0とする。

3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1／2とし水平地震力と同時に働くものとする。

4) 1 kN以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらずともよい。

36

電気工事士

500kW以上の自家用電気工作物においては第一種電気工事士により施工を行うように努める。

37

電線本数・管路等

分電盤、制御盤、端子盤等の二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は機能を優先し、図面と多少相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督員の承諾を受ける。また、機械室の露出配線は、金属管にて施工し、全長にわたって接地線を設ける。

38

名札の義務

請負金額10,000千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。

55mm

17mm

13mm

2mm

13mm

42mm

2mm

30mm

2mm

91mm

〇〇建設株式会社証

氏名 △△太郎

発行日 令和 年 月 日

代表者 □□建一

（顔写真）

カラー写真貼付

39

退職金共済制度

受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後1ヵ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。

40

過積載等の防止

1) 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

2) さし柵装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

3) 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。

4) 取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし柵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。

5) 過積載車両の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。

6) 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年8月2日法律第131号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。

7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。

41

景観への配慮

本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。

・ 重点事業

・ 一般事業

42

総合評価方式における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。

43

電子納品

※ 行う（「電子納品仕様書」による。）

電子納品仕様書

1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。

ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名 称
営繕工事電子納品要領（令和3年改定）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和4年改定）

基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBD-Rで1部納品する。

3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。

工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。

・ 行わない

章	項 目	特 記 事 項
● 一 般 共 通 事 項	④④ 公共事業労務費 調査の協力	受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。
	④⑤ 事故の補償	受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）
● 電 力 設 備	1 照明用ポール	内蔵する開閉器 ※ なし（取付板のみ） ・ 配線用遮断器 ・ カットアウトスイッチ (1. 4. 2(14))
	② 分電盤等	1) キャビネット材質、仕上げ ㊦ 銅板製指定色塗装 ・ 銅板製溶融亜鉛めっき (1. 7. 3) ・ ステンレス銅板製指定色塗装 ・ 2) 電力量計 ・ 検定付 ・ 無検定 (1. 7. 6)
	3 電気自動車用 充電装置	・ 急速充電装置 ・ 普通充電装置（定格電圧 ・ 100V ・ 200V） (1. 14. 1)
	4 電線の接続	・ 高圧ケーブルの端末処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す。 (2. 1. 1)
	5 配管引込部	地盤変位への対応 ※ 小規模 ・ 中規模 ・ 大規模 (2. 1. 13(5))
	⑥ 導入線	長さ 1 m 以上の通線しない配管には 1. 2mm 以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。 (2. 2. 9(3))
	⑦ 管の埋設深さ	埋設深さは原則として、構内道路、高圧ケーブル、幹線ケーブルは (㊦ 60cm ・ cm)、その他は (・ 30cm ・ cm) とする。 (2. 12. 2)
	⑧ 標識シート等	1) 地中配線に標識シート（倍折）を敷設する。 (2. 12. 4) 2) 埋設標（・ コンクリート製 ・ 樹脂製 ・ 鉄製）・要（図示箇所） ・ 不要 (2. 12. 5) ・ 板状 ・ 垂直 ・ 水平 ・ 環状 ・ 網状 ・ 構造体利用 (2. 17. 4)
	9 雷保護接地極	
	⑩ 施工の試験	1) 構造体利用等の接地極における接地抵抗測定の時期及び回数（ ） (2. 18. 2) 2) 一般照明の照度測定を ・ 行う（改修は対象室の改修前後） ・ 行わない (改2. 1. 1)
○ 受 変 電 設 備	1 キュービクル式 配電盤等	1) キャビネット材質、仕上げ及び電力量計は、電力設備の分電盤等による。 (1. 1. 3) (1. 1. 5) 2) 温度上昇性能試験を ・ 行う ※ 行わない (1. 9. 1)
	2 交流遮断器	操作方式 ・ 手動ばね操作方式 ・ 電気操作方式 (1. 1. 6(1))
	3 高圧進相 コンデンサ等	1) 進相コンデンサ絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド ・ ガス（ＳＦ6を除く） (1. 1. 6(3)) 2) 直列リアクトル絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド (1. 1. 6(4))
○ 電 力 貯 蔵 設 備	1 交流無停電 電源装置	・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式 ・ 常時商用給電方式 (2. 2. 1) 停電補償時間 分 (2. 2. 7)
	2 電力平準化用 蓄電装置	1) 機能（電力平準機能、電力補償機能及び放電停止機能）は図示による。 (2. 3. 1(2)) 2) 蓄電池 ※ リチウム二次電池 ・ 鉛蓄電池 (2. 3. 5(1)) 3) 蓄電池の容量、期待寿命、充放電回数及び放電時間は図示による。 (2. 3. 5(2))
	○ 発 電 設 備	1 ディーゼル 発電装置
○ 通 信 ・ 情 報 設 備	2 太陽光発電装置	1) 自立運転を ・ 行う ・ 行わない (1. 7. 1(3)) 2) 太陽電池アレイの公称出力は、図示による。 (1. 7. 2(2))
	3 その他	1) 燃料油の種別及び配管等材料は、図示による。 (1. 1. 7. 1) (1. 1. 8) 2) 系統連系を ・ する ・ しない (1. 4. 1(㊦))等
	○ 中 央 監 視 制 御 設 備	1 端子盤等
○ 中 央 監 視 制 御 設 備	2 機器仕様	詳細機器仕様は、図示による。 (1. 5. 1)等
	3 標識シート等	標識シート等は、電力設備の標識シート等による。 (2. 11. 3) (2. 11. 4)
	4 テレビ 共同受信設備	受信調査を ・ 行う（ チャンネル） ・ 行わない (2. 19. 3)
	1 警報盤	信号の伝送方式は、図示による。 (1. 2. 1)
○ 中 央 監 視 制 御 設 備	2 記録装置	印字方式は、図示による。 (1. 4. 4)

●

そ

の

他

章 項 目		特 記 事 項			
●	① 接地極	接地極の材料は下記による。なお接地棒EB(14φ)の長さは 1,500mm以上とし、10φは、 W=30 L=900mm以上、14φはW=40 L=1,200mm以上 としてもよい。			
		接 地 の 種 類	記 号	接地抵抗値	接 地 極
	・ 共 同 接 地	E _A E _B E _C E _D	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 組 ・ EP-900 × 1	
	・ 共 同 接 地	E _A E _C E _D	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 組 ・ EP-900 × 1	
	・ A 種	E _A	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 2 組 ・ EP-900 × 1	
	・ B 種	E _B	Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 2 組 ・ EP-900 × 1	
	・ C 種	E _C	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 組 ・ EP-900 × 1	
	⊙ D 種	E _D	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	
	⊙ D種 EL08用	E _D E _L C B	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	
	・ 高圧避雷器	E _{LH}	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 2 組 ・ EP-900 × 1	
	・ 低圧避雷器	E _{LL}	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 2 組 ・ EP-900 × 1	
	・ 雷保護設備	E _L	50 Ω 以下	・ EB (14φ) × 2 連一 2 組 ・ EP-600 × 2	
	・ 構造体接地				
	・ 交換機用	E _t	Ω 以下	EB (14φ) × 3 連一 組	
	・ 通 信 用	E _{At}	10 Ω 以下	・ EB (14φ) × 3 連一 2 組 ・ EP-900 × 1	
	・ 通 信 用	E _{Dr} E _{Da}	100 Ω 以下	EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	
	・ 測 定 用	E ₀		EB (10φ) × 1 (L=1,000mm)	

(別表－1) 他工事との取り扱い

工 事 内 容			電気	機械	建築	備 考
開 口 部	はり、床、壁の貫通部（RC造）	補 強 筋			●	建築図面に図示
		スリーブ、仮枠、穴埋共	●			S造は建築
	埋込形分電盤、端子盤、ブルボックス	補 強 筋			●	建築図面に図示
		仮 枠	●			
		天井、壁ボード類の軽量鉄骨下地補強 (埋込形照明器具用)	下 地 補 強 ボ ー ド 類 切 込 み	●		●
軽量鉄骨へのボックス取付金具及びその取付			●			
既成間仕切りへの位置ボックス及びその取付					●	
発電機、配電盤及び制御盤等の基礎					●	建築図面に図示
避雷針、TVアンテナの屋上コンクリート基礎（自立型の場合）					●	建築図面に図示
配管ビット及びびふた					●	
床、壁、天井の点検口					●	建築図面に図示
自動扉、電動シャッター、防火ドア等制御盤の一次側配管配線			●			※ 1
実験台付属コンセント等への配管配線及び配線接続（直接接続のみ）			●			
機械設備機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●			一次側
機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線(接地共)				●		二次側
制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●			
機械設備機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●			天吊FCU、換気扇等
※ 1 二次側配線、配管及びシャッター、防火ドア、自動扉は建築工事						

番 号

E－102

図面名

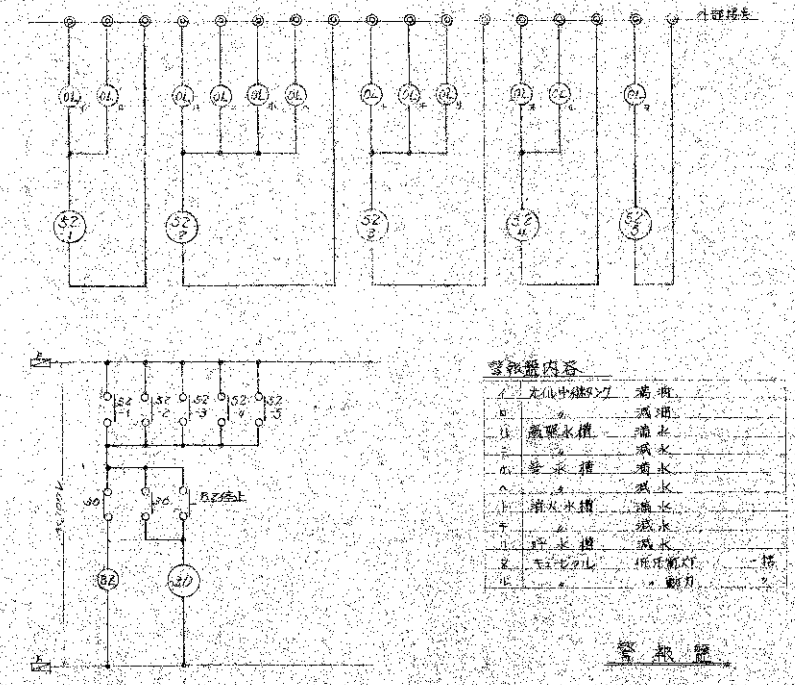
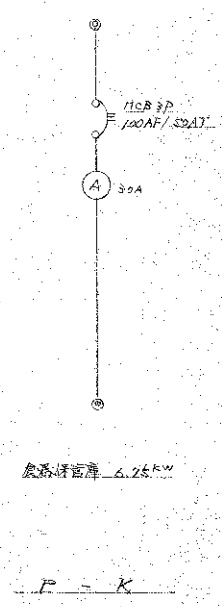
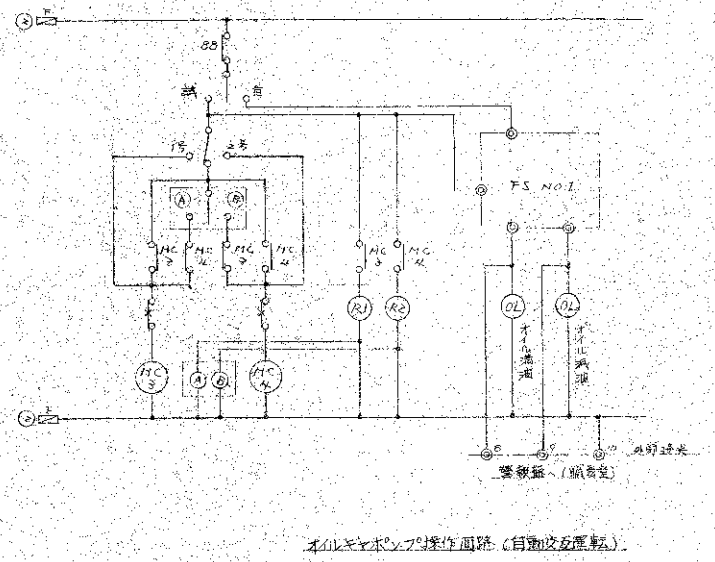
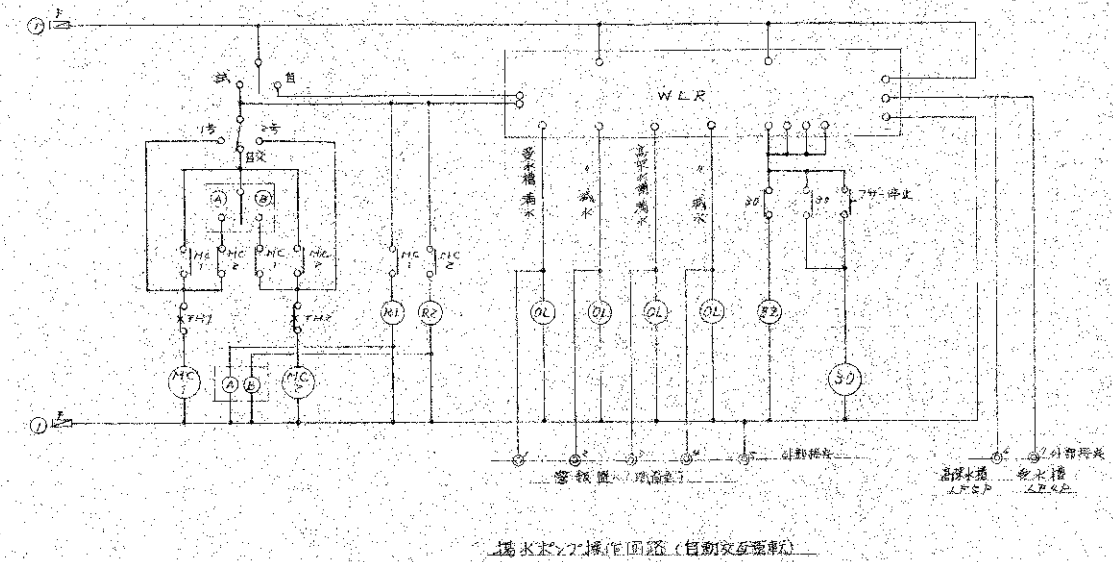
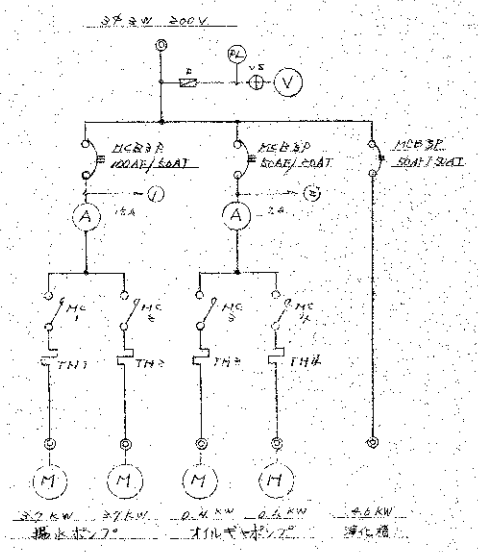
工事仕様書（電気設備）2/3

設 計

輪島市教育総務課

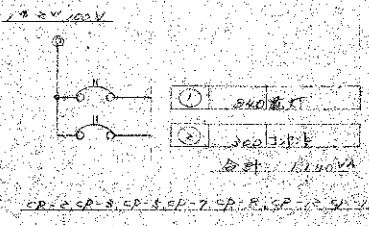
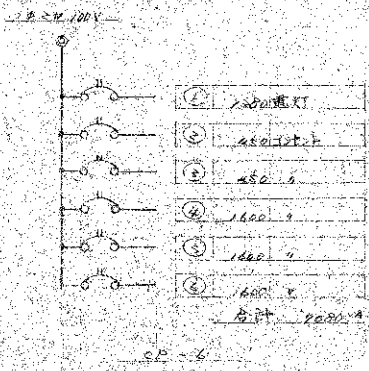
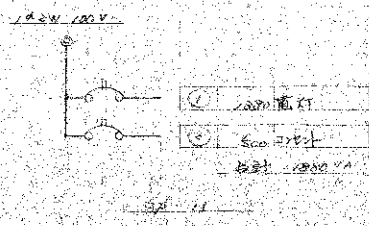
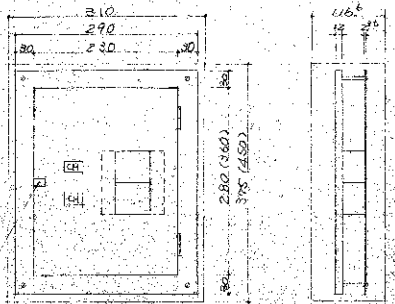
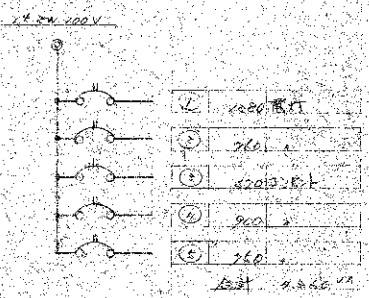
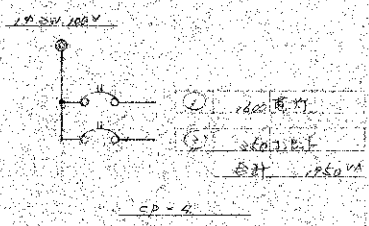
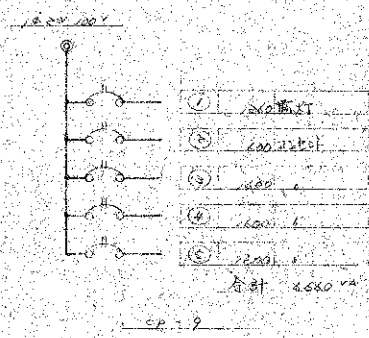
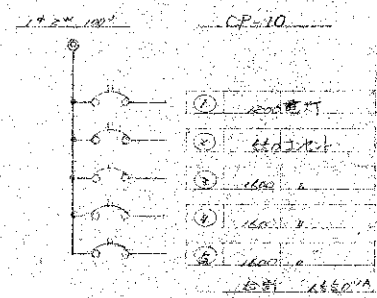
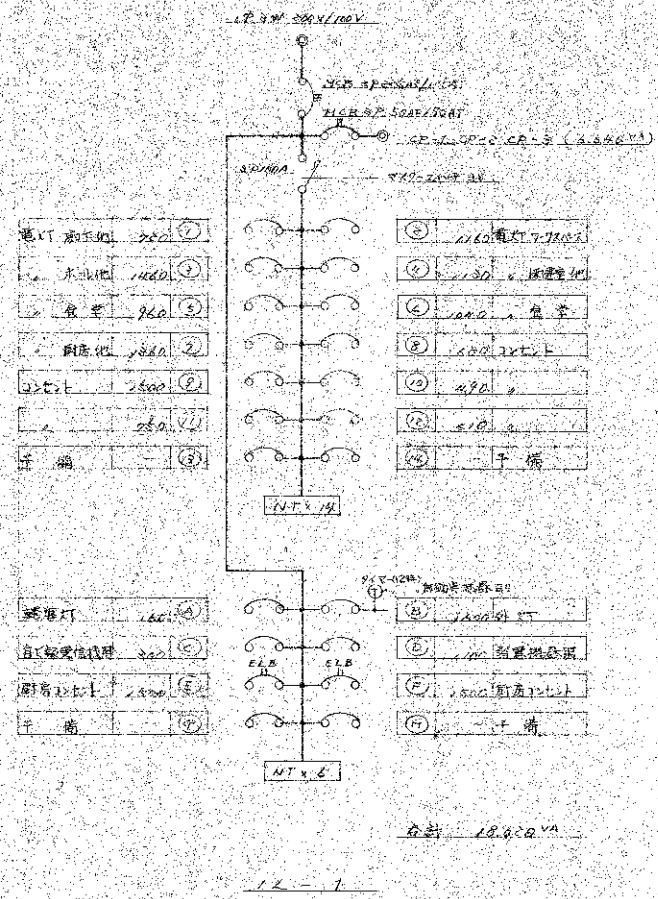
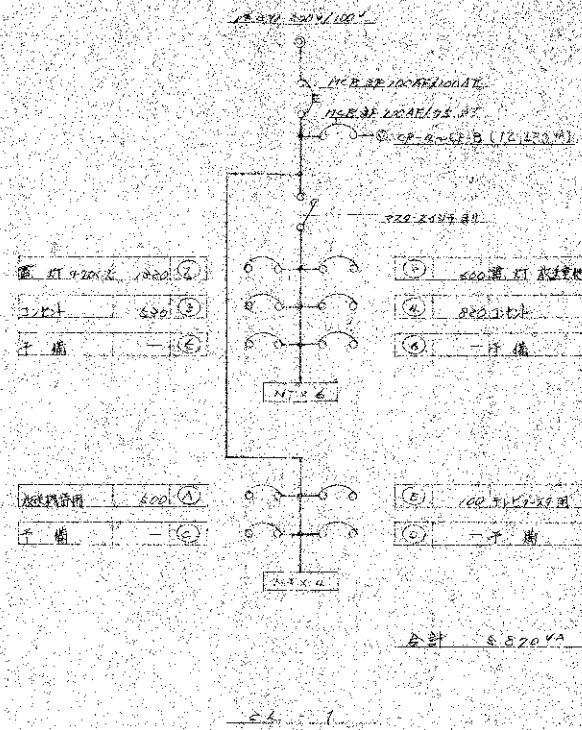
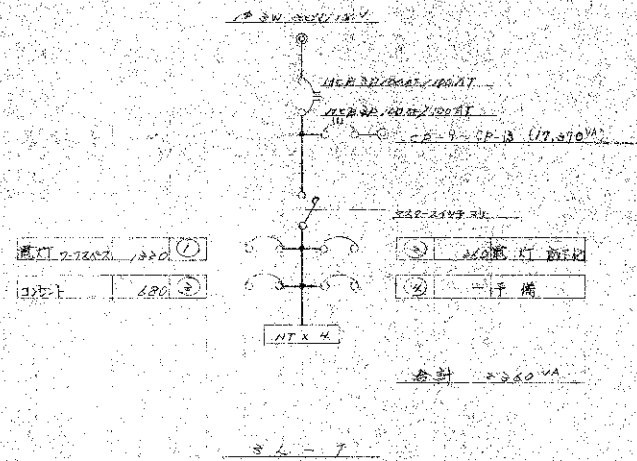
章	項 目	特 記 事 項	章	項 目	特 記 事 項
●その他	① 輪島市週休2日工事	工事現場において週休2日に取り組む「輪島市週休2日工事」（以下、「週休2日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休2日の工事の定義(様式)等については、輪島市監理課ＨＰの「輪島市週休2日工事実施要領」を参照すること。 （１）当初設計において、週単位の週休2日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休2日に満たない場合は月単位の週休2日（4週8休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休2日（4週8休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休2日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。			
	2 余裕期間制度 試行工事	1）適用 ・ 対象 ※ 対象外 2）余裕期間制度対象工事の内容 （１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （１０）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限） 契約締結日から起算して〇ヶ月以内			
	③ イメージアップ 看板	・ 設置する ・ 設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <div><div><div>野立型（大） H1400×W1100</div><div><div>未来への原 「石川をつくる」</div><div><div>未来への原「石川をつくる」 みんなでつくろう石川</div></div></div></div><div><div>野立型（小） H1400×W550</div><div><div>未来への原 「石川をつくる」</div><div><div>みんなで つくろう 石川</div></div></div><div><div>壁掛型 H750×W900</div><div><div>未来への原「石川をつくる」 みんなでつくろう石川</div></div></div><div>（注）看板のデザインは監督員に確認すること</div></div></div>			
	④ 情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・ 利用する（発注者指定型） ※ 現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）			

工事名	旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	番号	E－103
図面名	工事仕様書（電気設備）	縮尺	_____
設 計	輪島市教育総務課		



配線内容		
1	大仏中継ポンプ	高圧
2	高圧水櫃	高圧
3	高圧水櫃	高圧
4	高圧水櫃	高圧
5	高圧水櫃	高圧
6	高圧水櫃	高圧
7	高圧水櫃	高圧
8	高圧水櫃	高圧
9	高圧水櫃	高圧
10	高圧水櫃	高圧
11	高圧水櫃	高圧
12	高圧水櫃	高圧
13	高圧水櫃	高圧
14	高圧水櫃	高圧
15	高圧水櫃	高圧

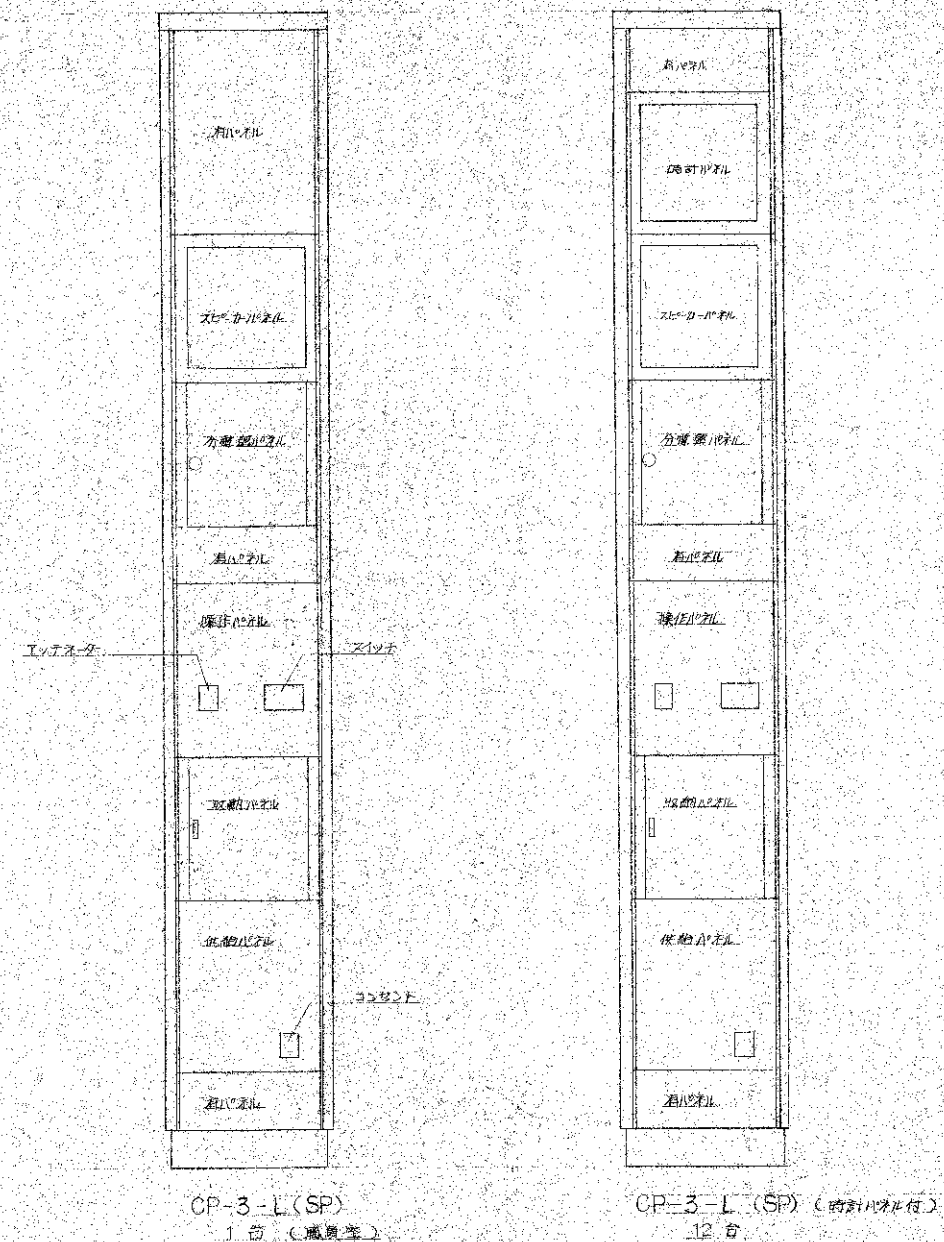
注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



11-1 図 4 分電盤 (2~6 回路) 寸法
(単位: mm)

図 4 分電盤寸法は下記とする
 ① ELB 2P 30A/20A
 ② MCB 3P 50A/20A
 ③ MCB 1P 50A/20A

注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



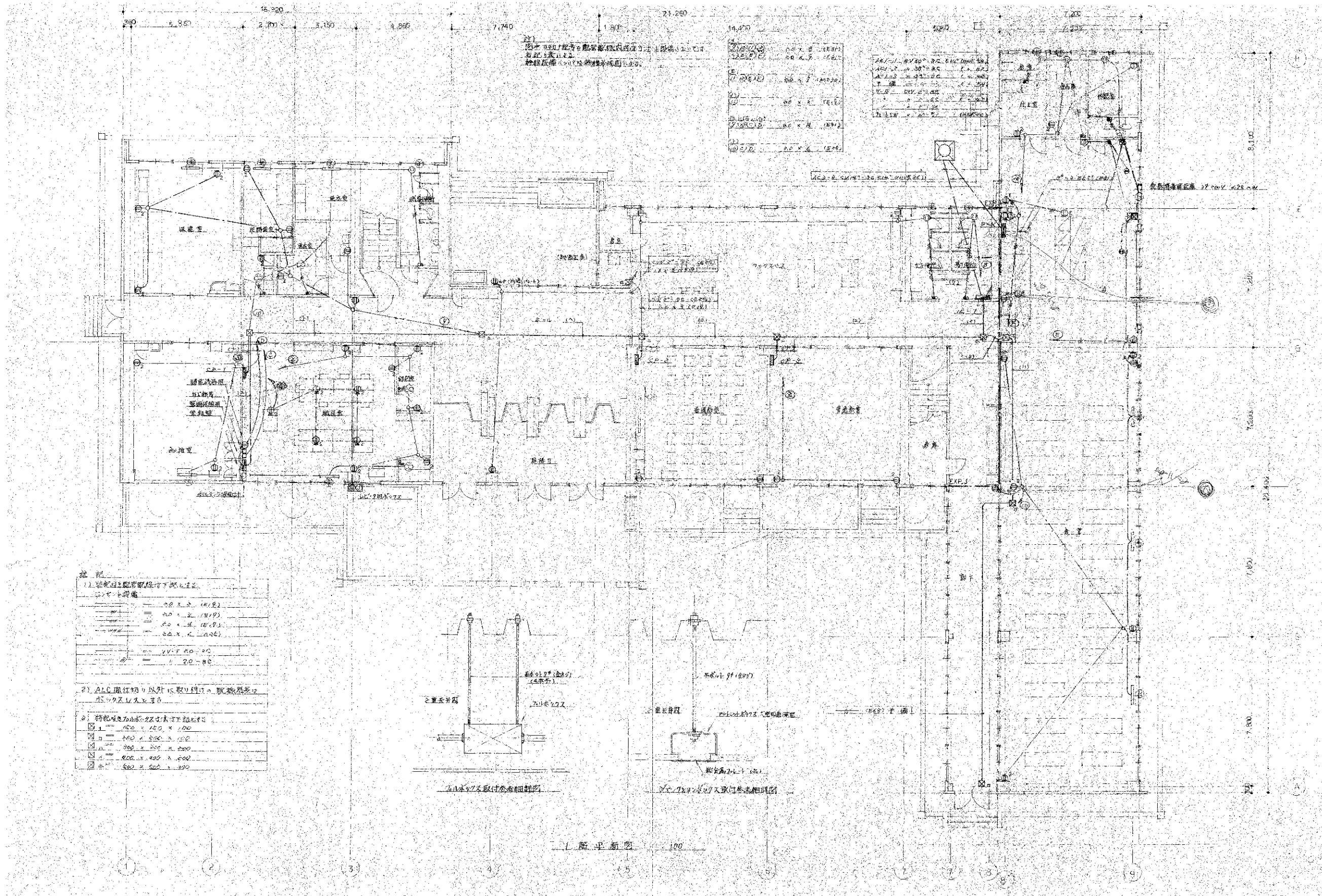
(註記)

1. 一、二ホ、ホト木林の建築、空箱管とし、取付は木工要とする。
2. テラチタ、スリッパ、ゴキヨウ、スチール、時計等の取付は断熱は木工要とする。
3. 二ホ、三ホ等、パイプにブレンダック等、処置する事。
4. 有エボネツ内、直線管、断熱、列国、壁断熱、断熱、等。

[illegible]

■図番/No.

E — 107



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月/DATE
2025.12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

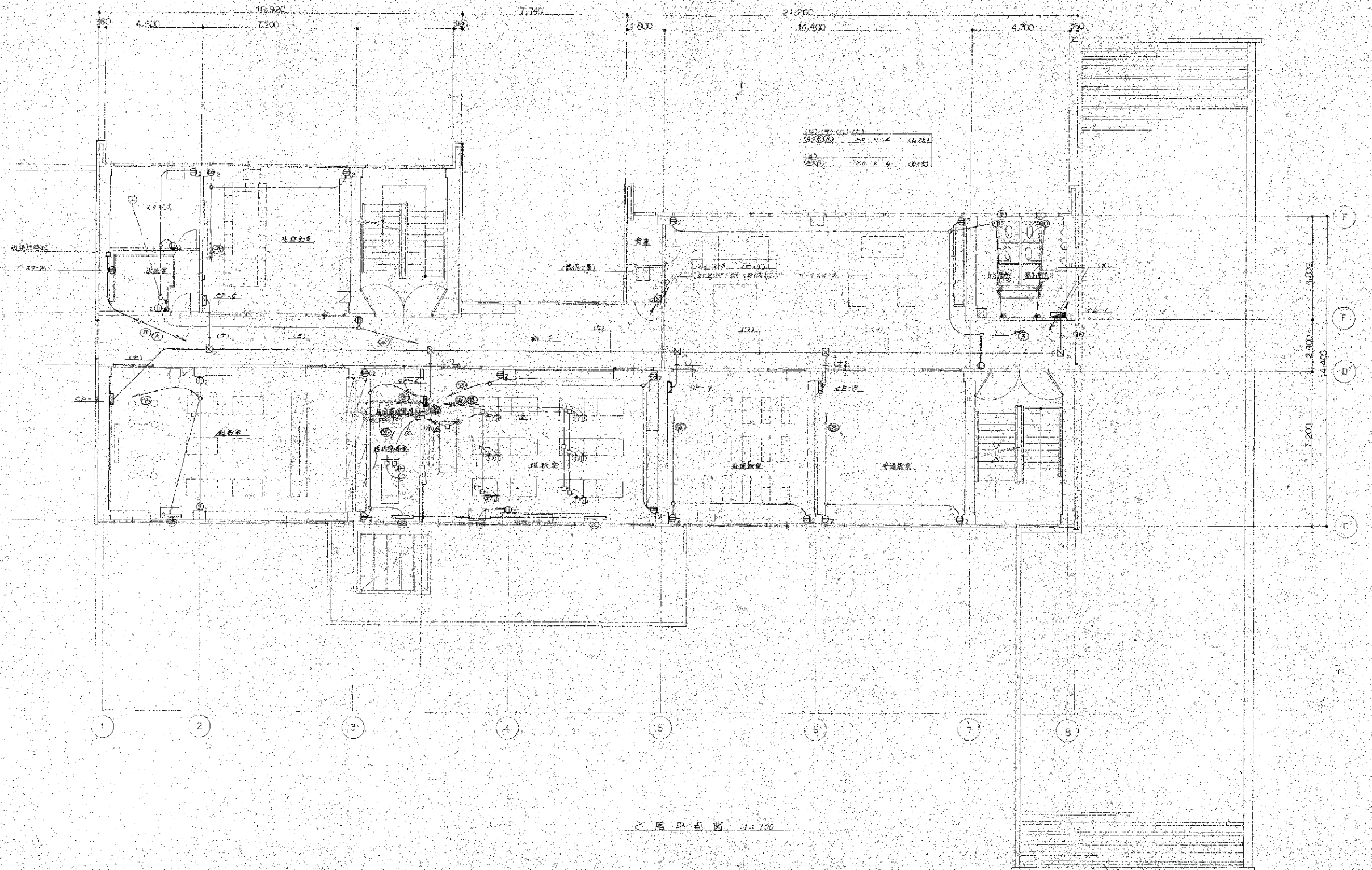
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

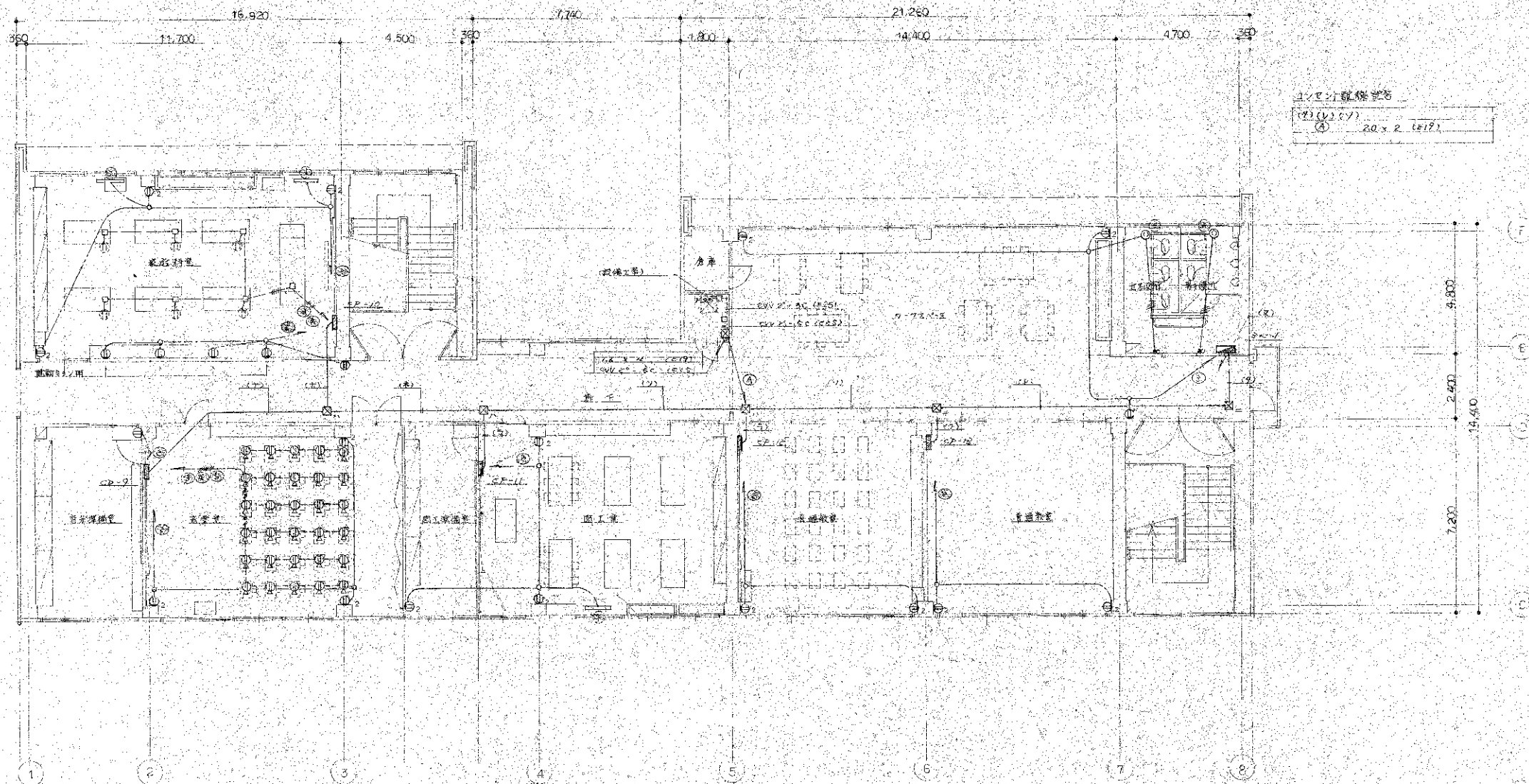
■図面名称/DRAWING-TITLE
校舎棟 撤去 幹線・動力・コンセント設備 1階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E - 109



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

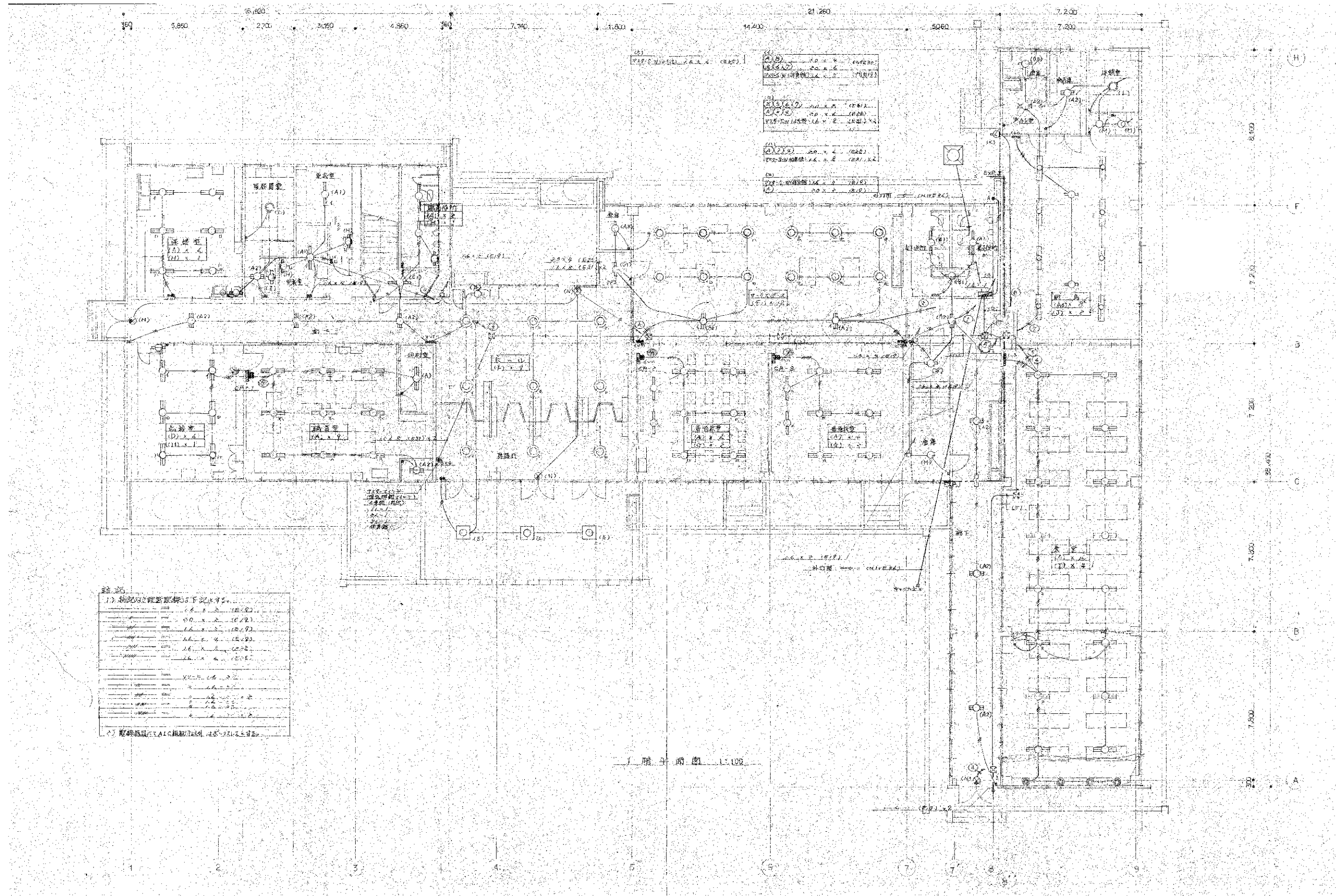


3 階平面図 1:100

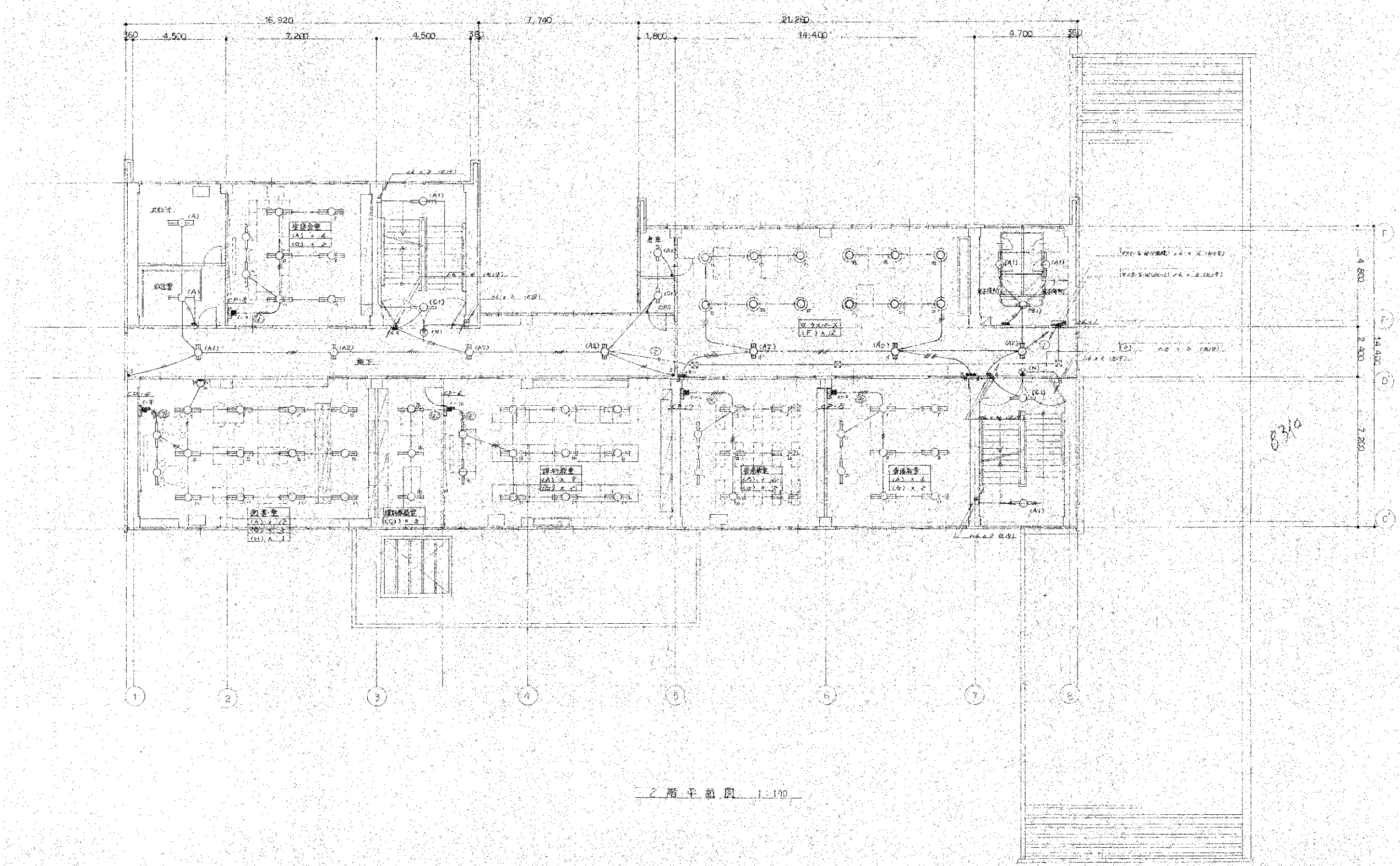
注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

照明器具図									
A	FL40 ^W ×2 1) FL40 ^W ×1 2) FL20 ^W ×2 3) FL20 ^W ×1 4) FL40 ^W ×2 (防水型)	B	FL20 ^W ×1 1) FL40 ^W ×1	C	FL40 ^W ×2 1) FL40 ^W ×1 2) FL20 ^W ×1	D	FL40 ^W ×2 埋込タイプ付(直)	E	FL30 ^W ×1 埋込タイプ付(角)
F	FL40 ^W ×1 埋込タイプ付(直)	G	FL40 ^W ×1 風板付、パイプ吊	H	FL20 ^W ×1 ミラースリ	I	FL20 ^W ×1 網下灯	J	FL15 ^W ×1 鏡面灯
K	FL20 ^W ×1 ウェアラブル	L	FL30 ^W ×1 和風コード	M	FL40 ^W ×1	N	FL20 ^W ×1 鏡面灯(直型)	O	FL40 ^W ×2 反射型 1) FL40 ^W ×1 2) FL40 ^W ×2 3) FL20 ^W ×2
P	IL60 ^W 安全増肉爆型	Q	FL15 ^W ×1	R	FL20 ^W ×1	S	FL20 ^W ×1	T	IL50 ^W

注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

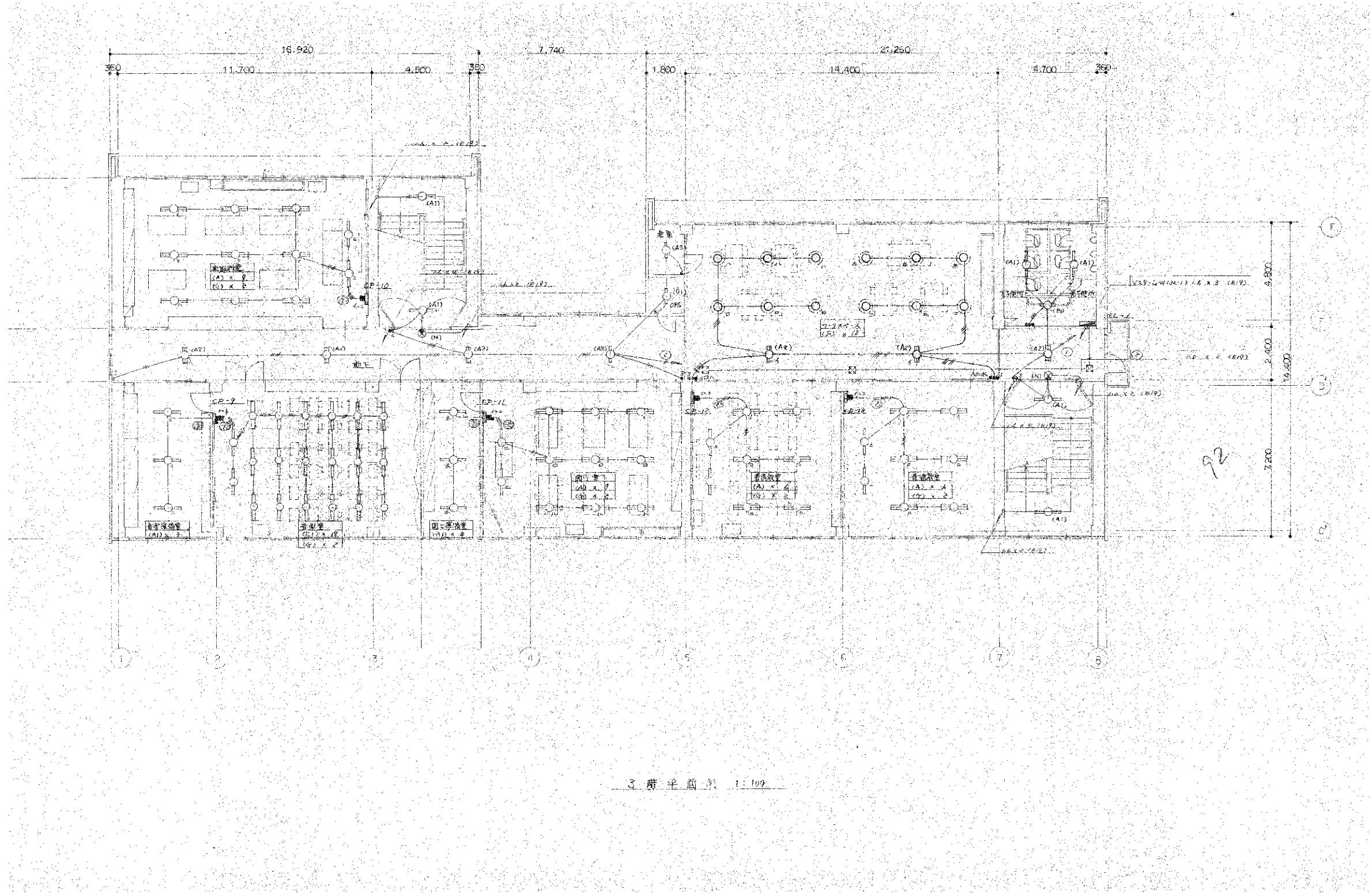


注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



2 階平面図 1:100

注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



3 階 平 面 図 1:100

注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025.12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

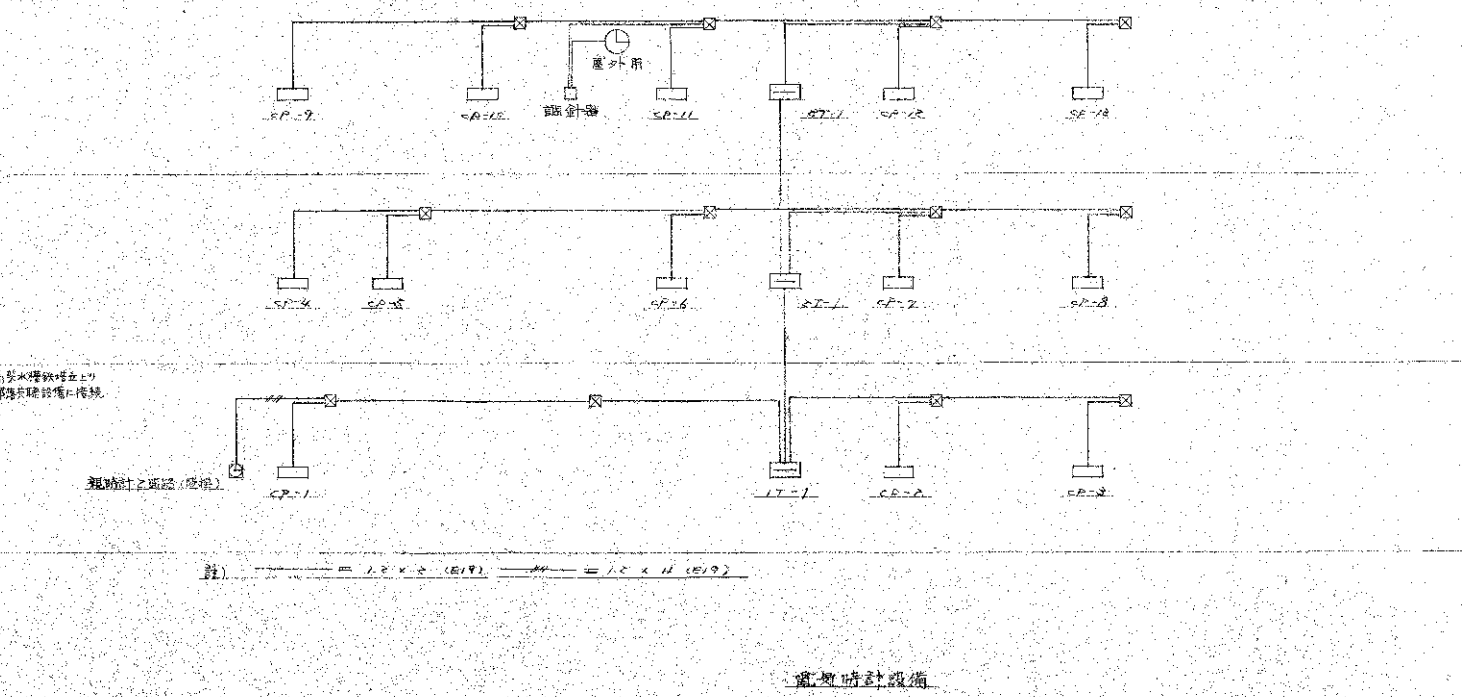
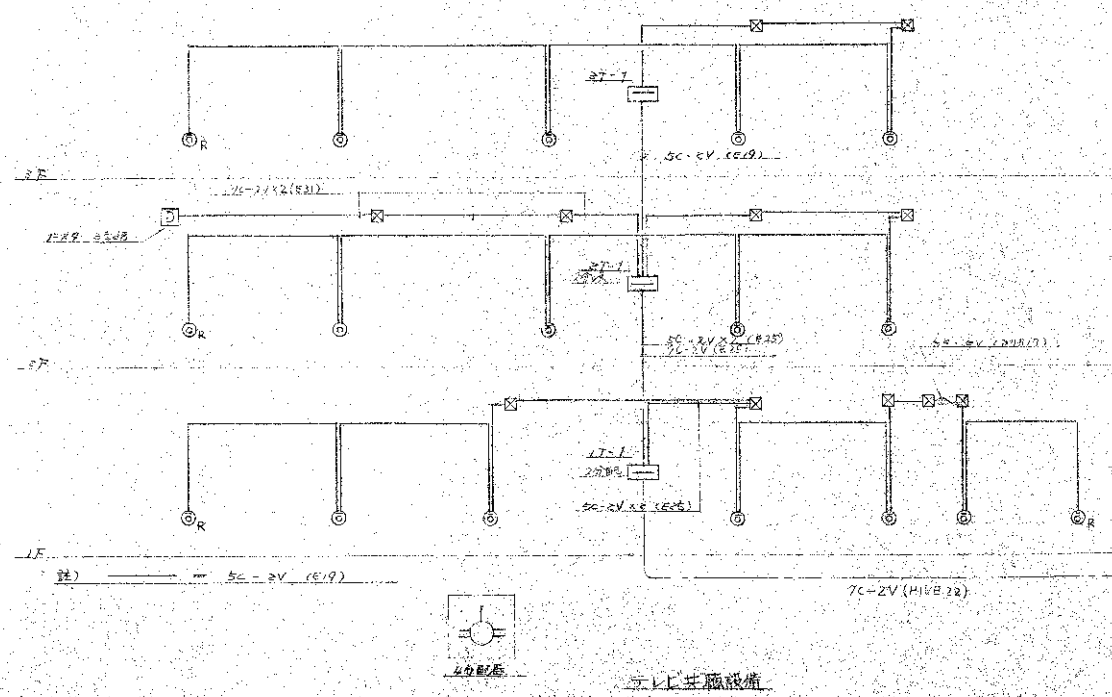
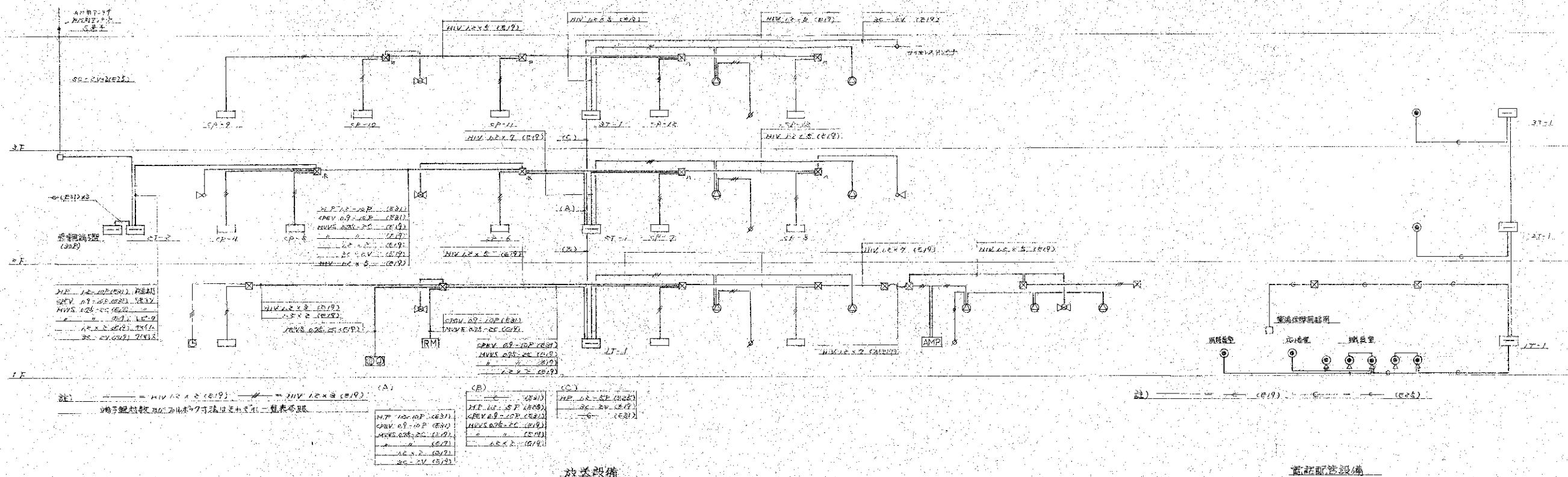
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

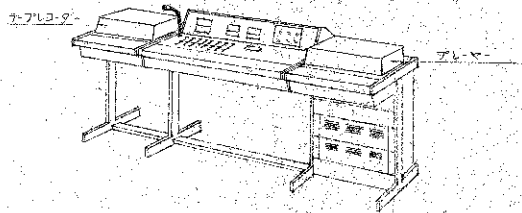
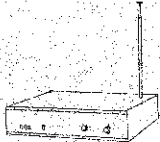
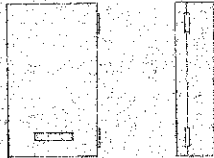

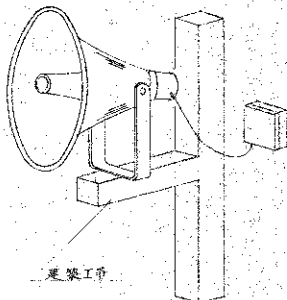

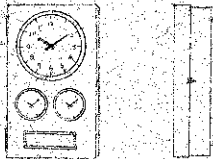

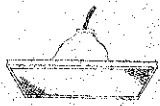



■図面名称/DRAWING-TITLE
校舎棟 撤去 照明設備 3階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E 115

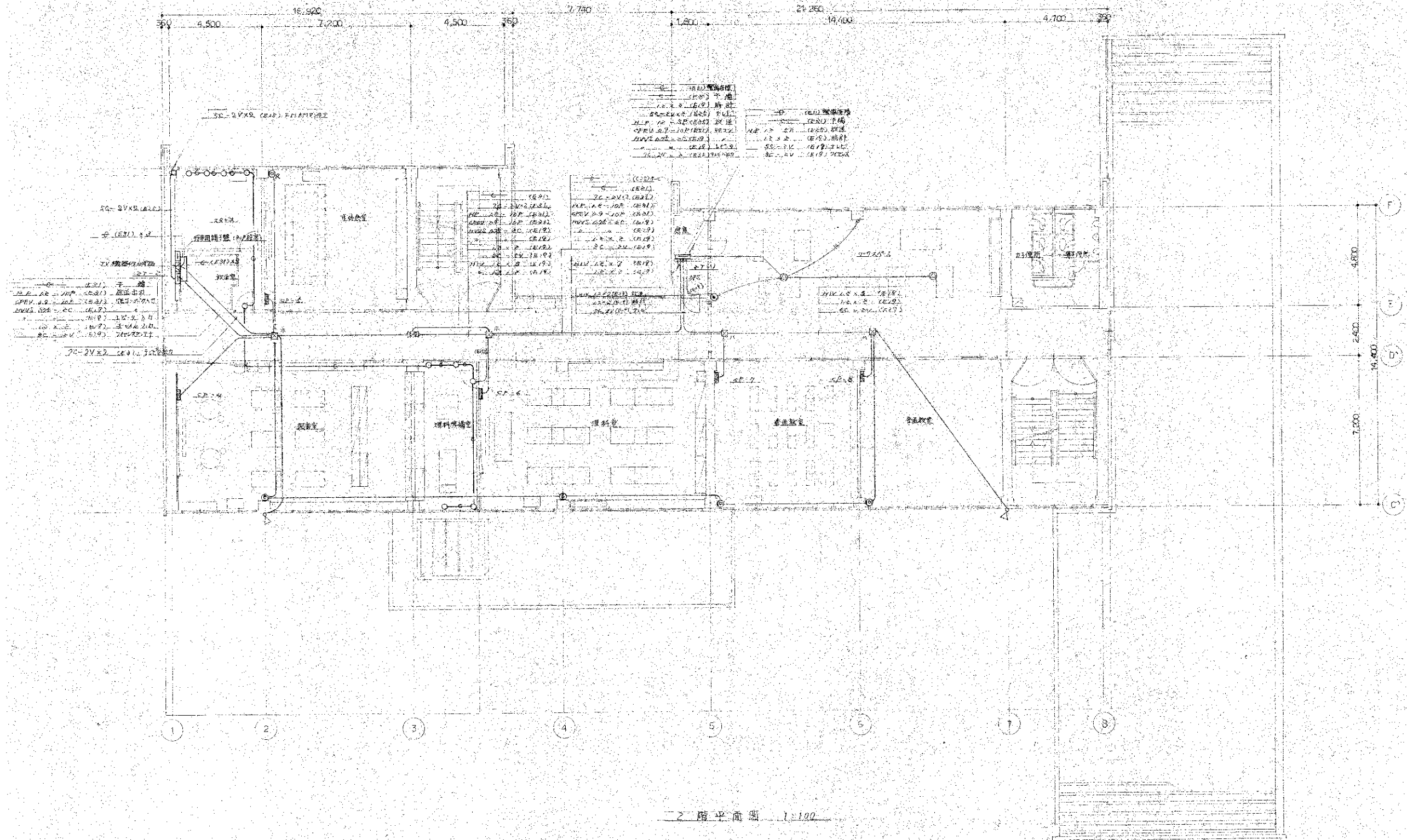


注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

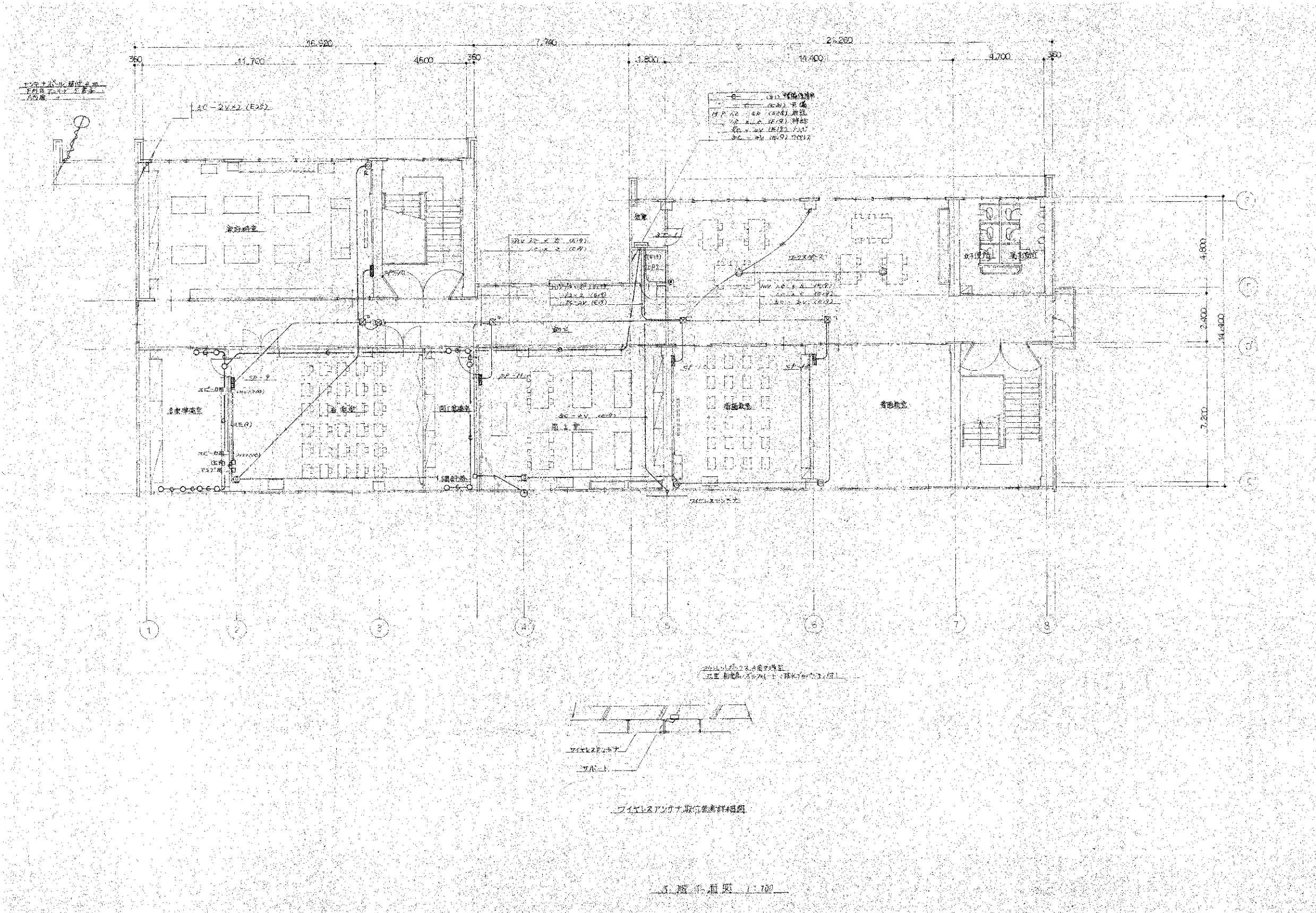
放送機器配置図				
音戸調整卓 2系統 240W (残務別途)	ワイヤレス受信機 2チャンネル	ミュージックチャイム	コンボネット組込用時計	
	ワイヤレスアンテナ 寸法 326×1600mm 受信周波数 40.5MHz 付属 スタンド (3歳止め)	ワイヤレス受信機 1台 入力インピーダンス 5kΩ 消費電力 5W	指針式 アナログ表示 顔面 白色 サイズ 310mm×310mm×65mm	
				
トランペットスピーカー (屋外)	ワイヤレスマイクロホン	壁掛け型2回路水晶時計	車上型アンテナ 15W	
	送信周波数 40.5MHz 電圧方式 水晶振動方式 送受信方式 2重T型722方式 使用電圧 標準型24V/220V/110V	定格電圧 AC100V 50/60Hz 電圧調整範囲 50/60Hz 時間精度 3.5秒/月 出力電圧 DC24V/400mA/300mA/150mA 予備電源 ニッケルカドミウム電池 (450mAh)	定格出力 15W 入力回路 マイクロ×2 ライン×2 ラジオ FM/AM付 非常切替スイッチ付	
				
天井埋込型スピーカー (標準型取付)	壁掛けスピーカー	両面スピーカー	壁取付丸型時計 (屋外防雨型)	
定格入力 3W 入力インピーダンス 5kΩ/10kΩ 周波数特性 100~10000Hz 出力音圧レベル 91dB以上 仕上 標準型ネット張り	定格入力 3W 入力インピーダンス 5kΩ/10kΩ 周波数特性 100~10000Hz 出力音圧レベル 91dB以上 仕上 標準型ネット張り	定格入力 6W 入力インピーダンス 20kΩ/5kΩ 周波数特性 100~10000Hz 出力音圧レベル 91dB以上 仕上 標準型ネット張り	仕様 標準型丸型 顔面 白色 顔面材料 白色樹脂 サイズ 630φ	
				

注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

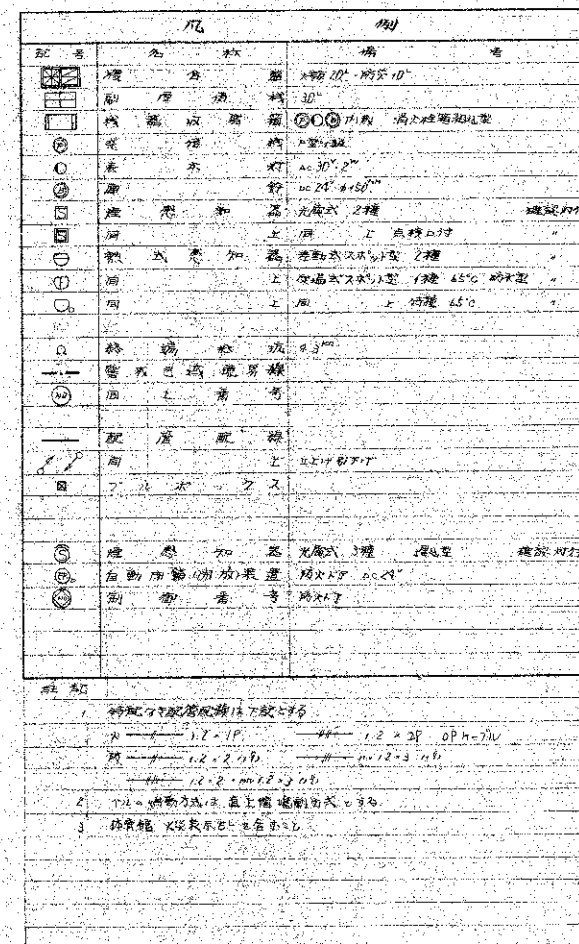




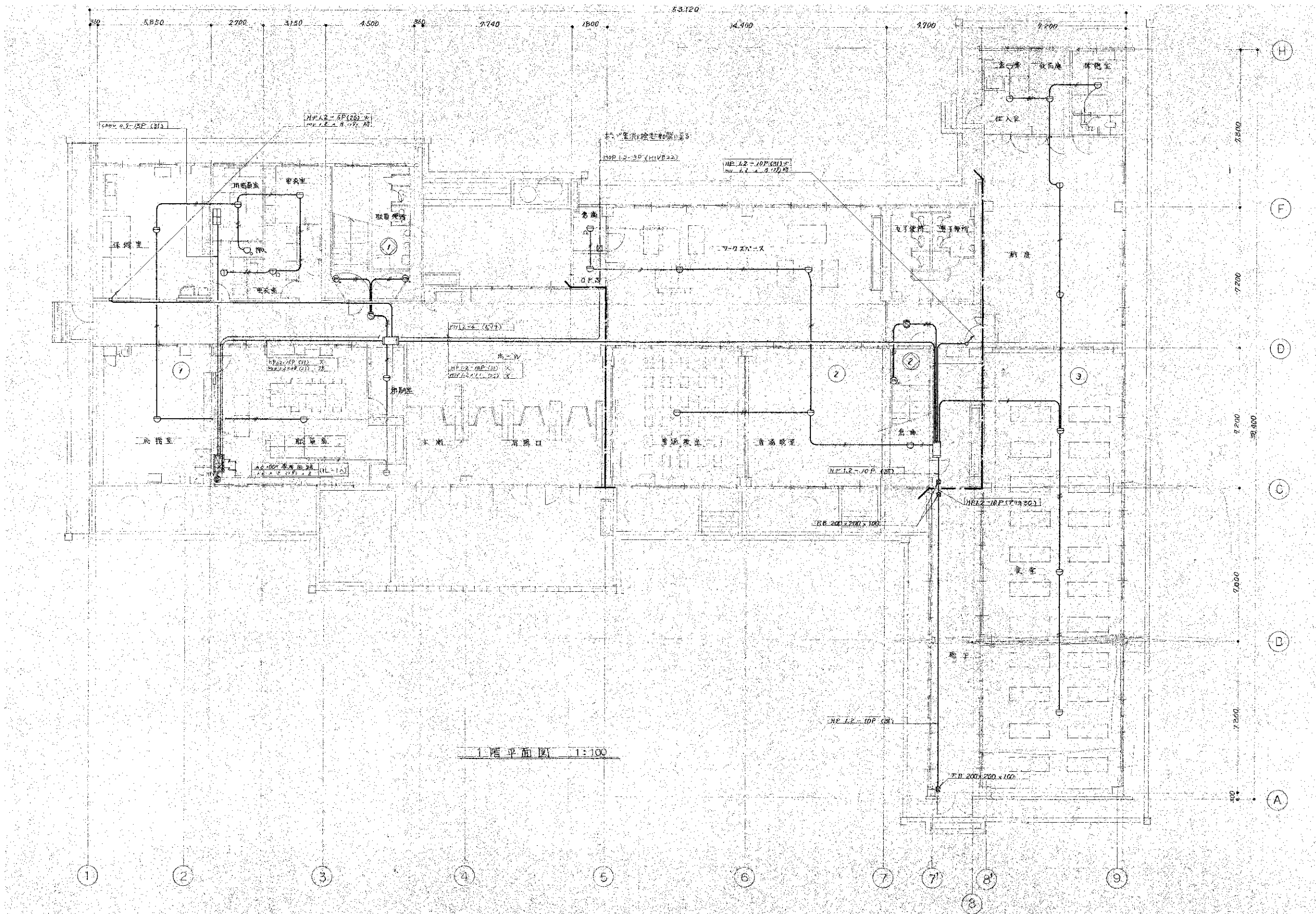
注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



■図番/No.
E — 121



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025.12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

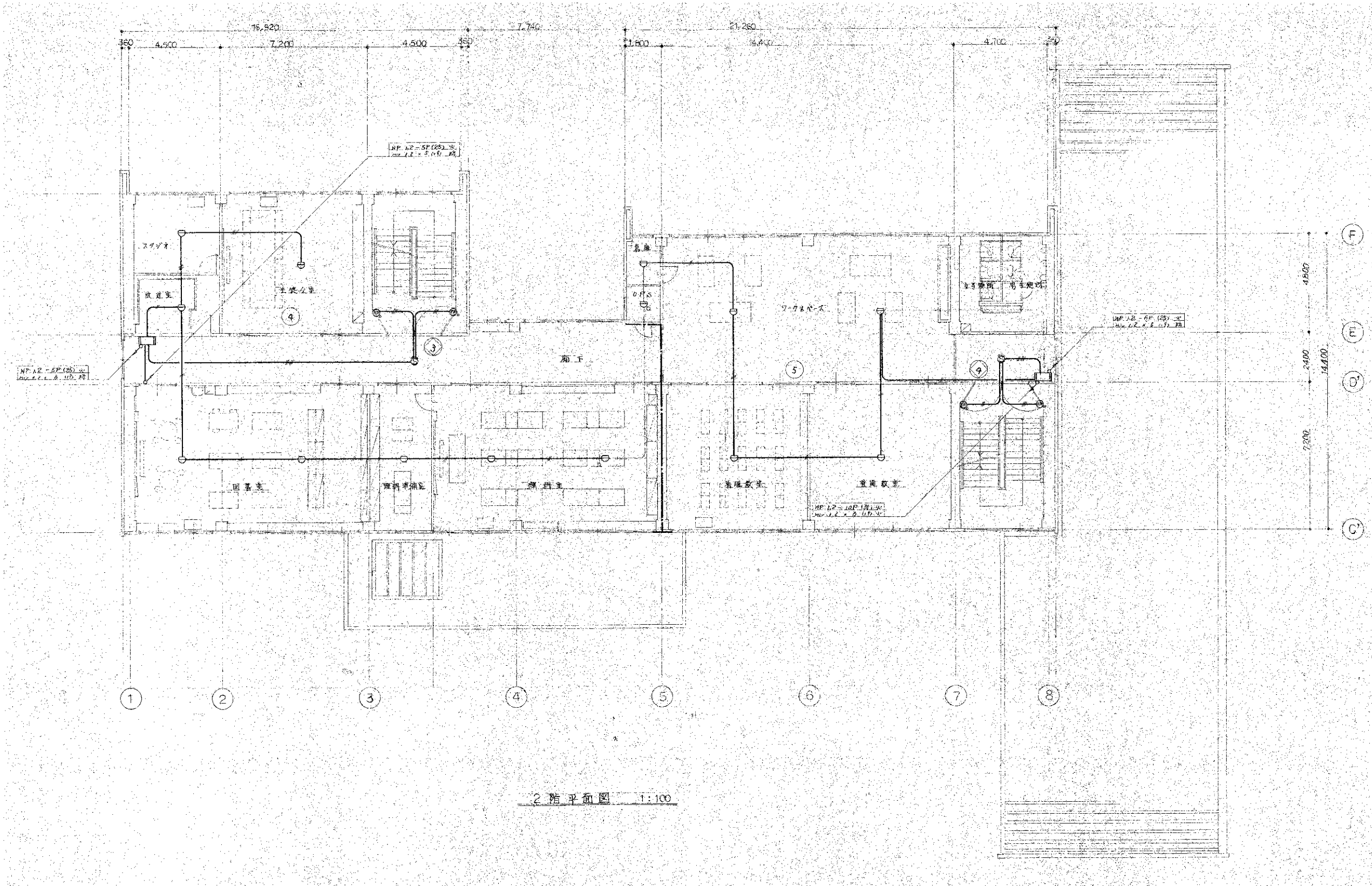
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
校舎棟 撤去 火災報知設備 1階平面図

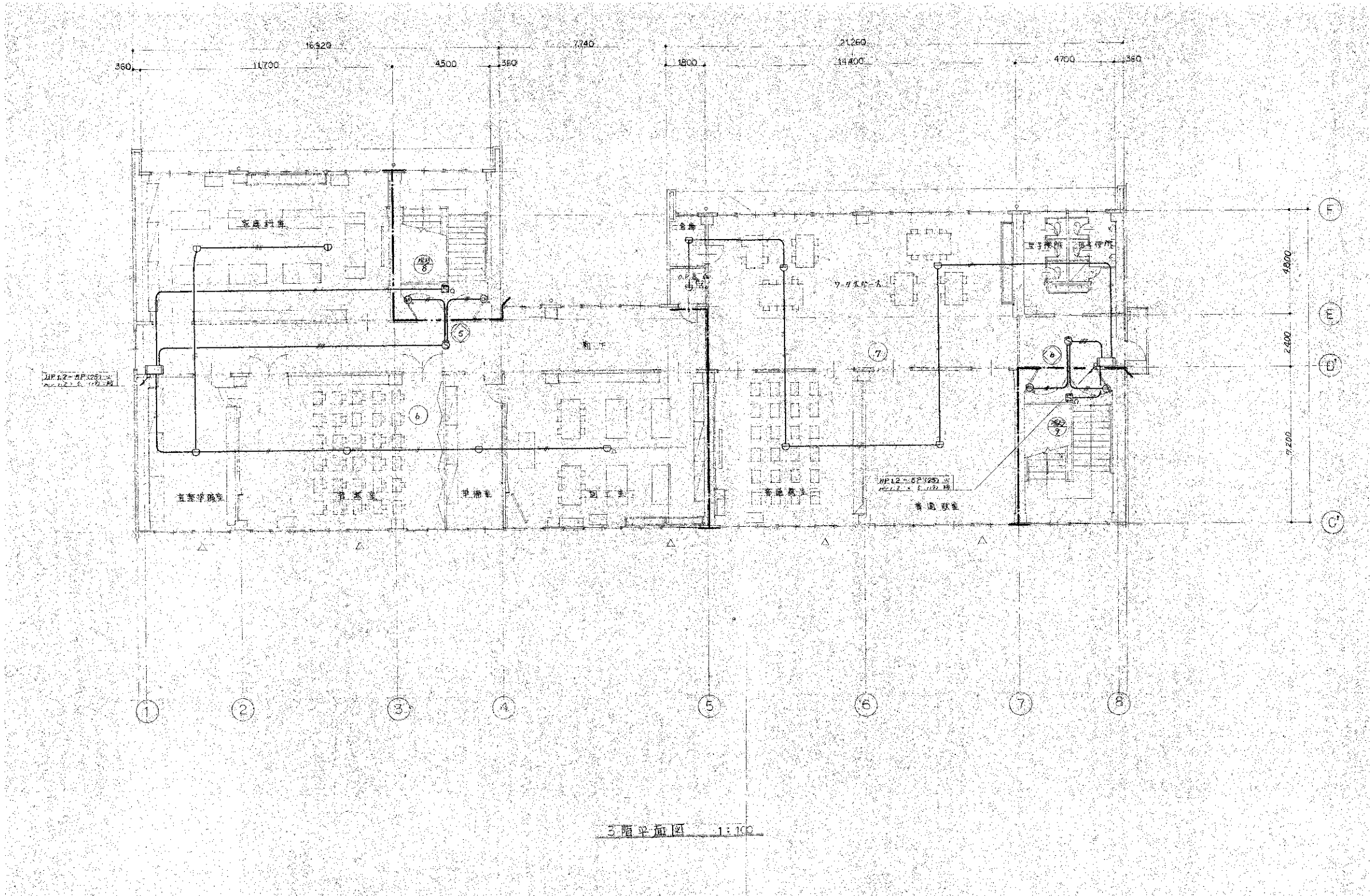
■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E - 122

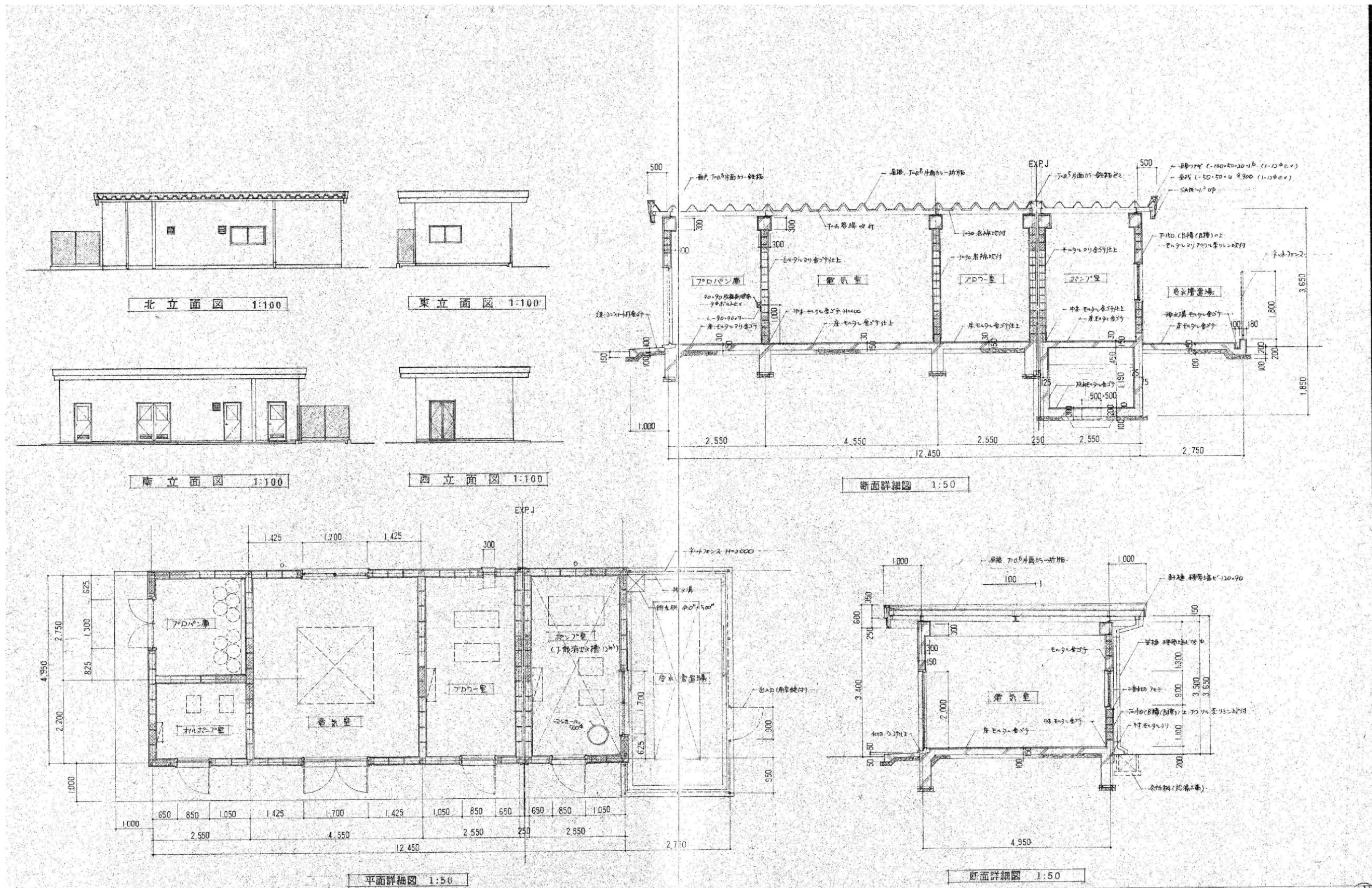


2階平面図 1:100

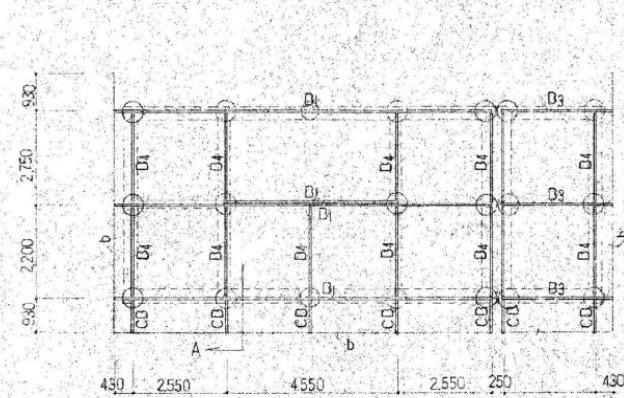
注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

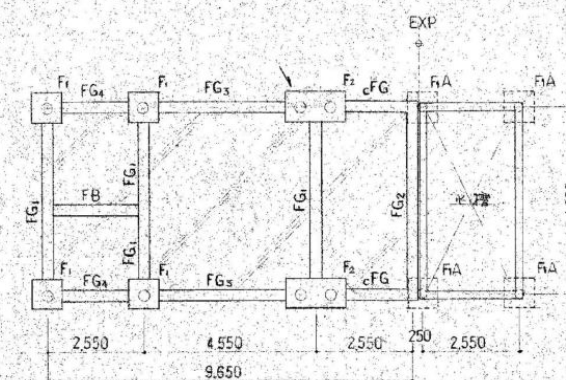


参考図

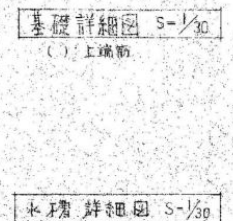
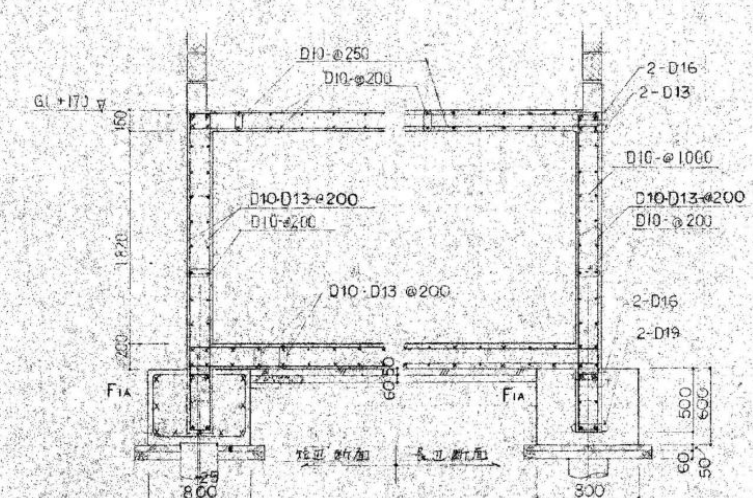
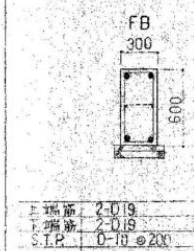
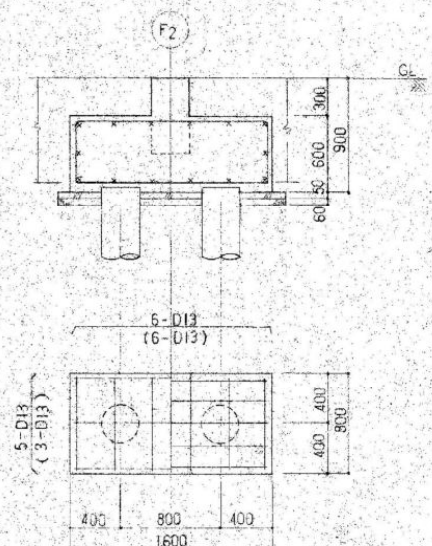
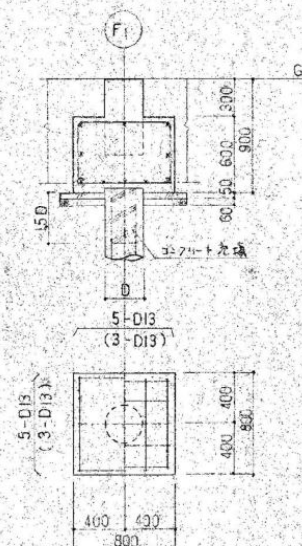
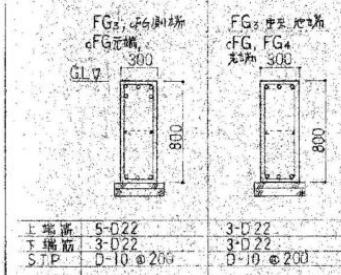
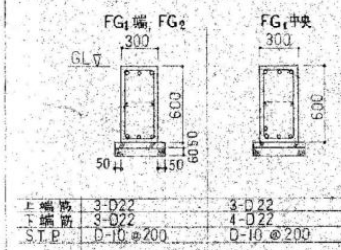
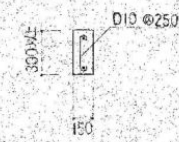
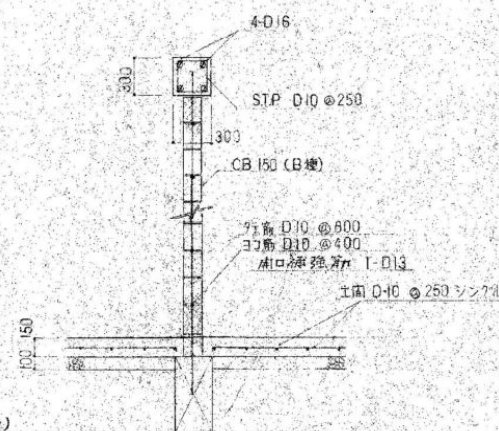
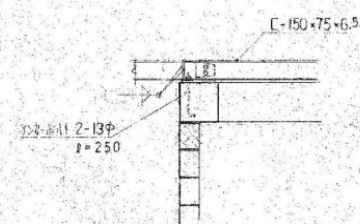


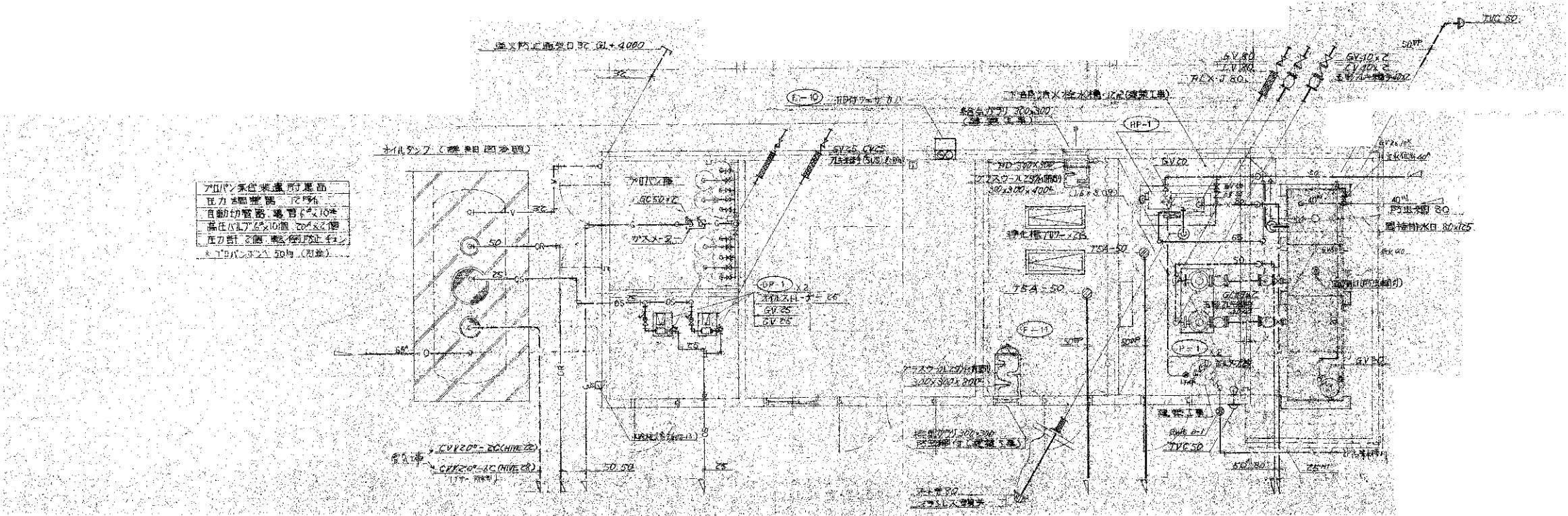
記号	サイズ	H.T.D.	R	備考
B1	C-150×75×6.5	2-M16 中出し	6	97年12月 ソケット150mm
B3	C-150×75×6.5	2-M16 中出し	6	
B4	C-150×75×6.5	2-M16 中出し	6	
CB	C-150×75×6.5	全周溶接		
b	C-100×50×20×2.3	2-12中出し	4.5	

○—アングーホルト位置 2-13中

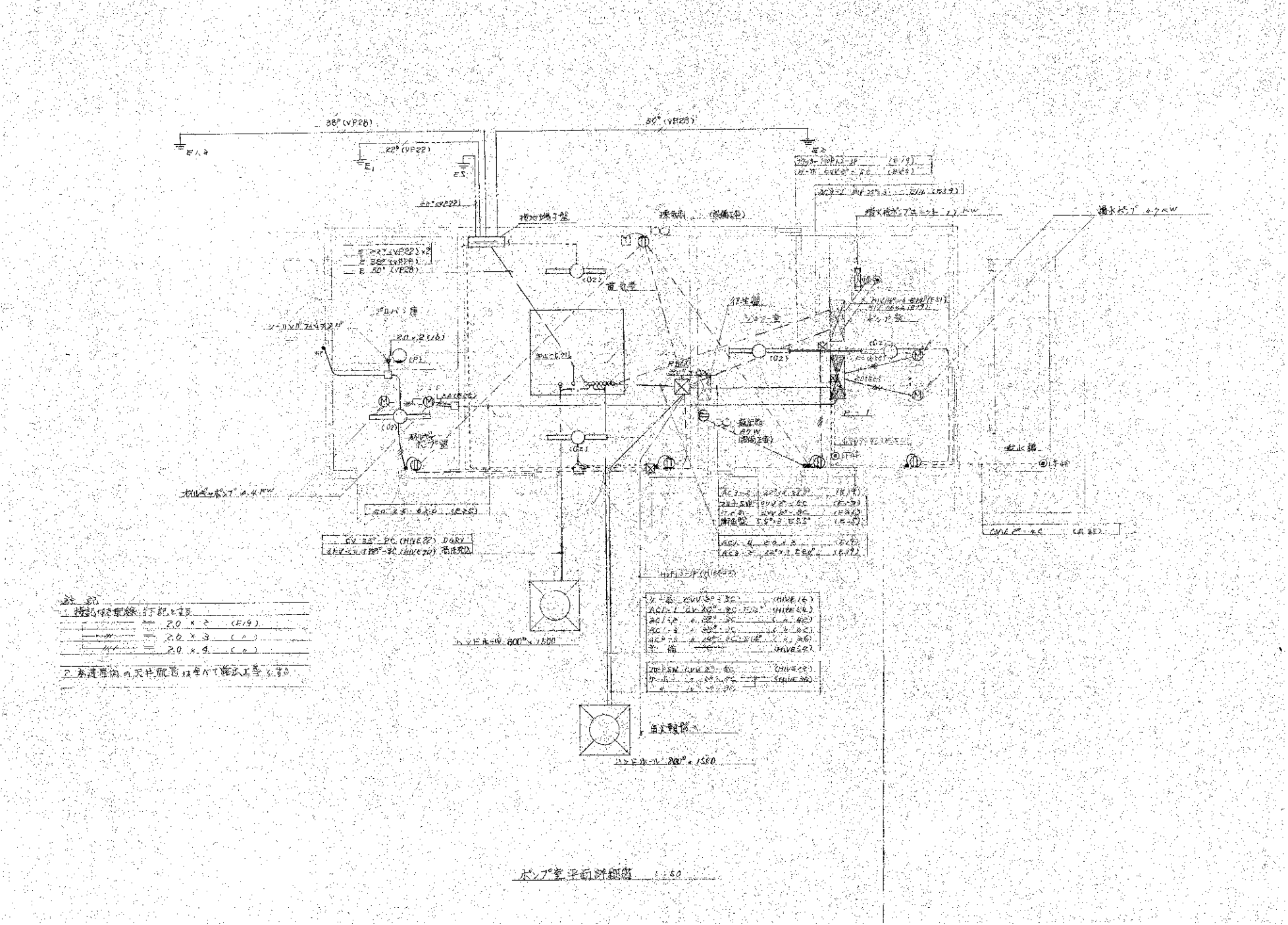


基礎伏図 $S=1/100$ 板 PC-300 ϕ (A種) $H=7.0$ $R_s=20\%$
鉄線板 $H=8.0$ \ 印





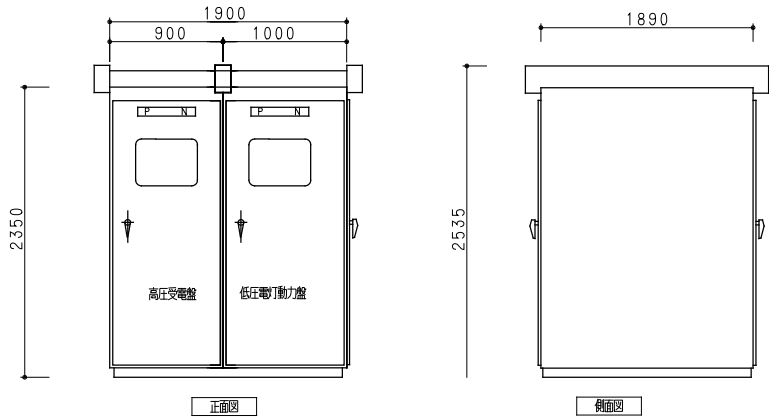
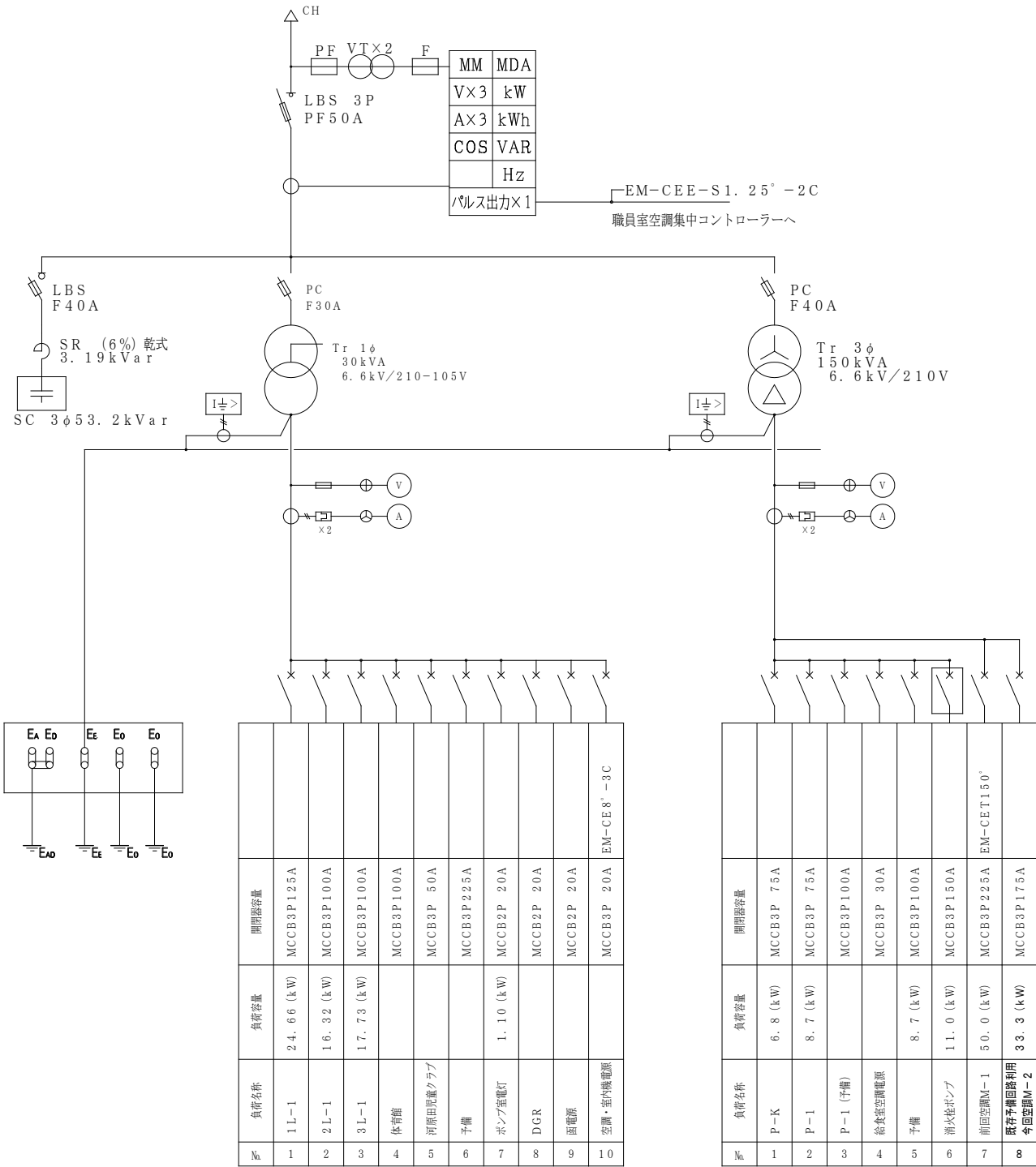
図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



注記1) 図中、機器の撤去を行うこと。

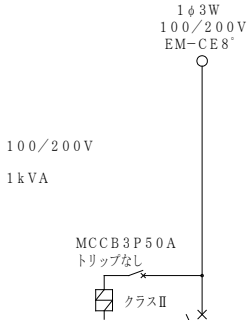


キュービクル単線結線図



盤 方 式 合計容量kW	結 線 回 路 番 号	負 荷 名 称	出 力 kW	電 圧 V	電 流 A	分岐開閉器			単位装置			現 地 盤			遠 方		連 動・備 考
						P	A	AT	始動 方式	操作 制御	制御 SW	押釦 (ランプ付)			表示 故障	切 断 操作	
												切替	始動	停止			
分電盤名称: M-2 設置・材質: 屋内銅板製 塗装: 指定色 電気方式 種別: 常用 相線: 三相3線 電圧: 200V 負荷容量: 33.3kVA 端子定格通過電流: 200A 幹線サイズ: EM-CET100" 入線方向: 上方 (ラック接続)																	

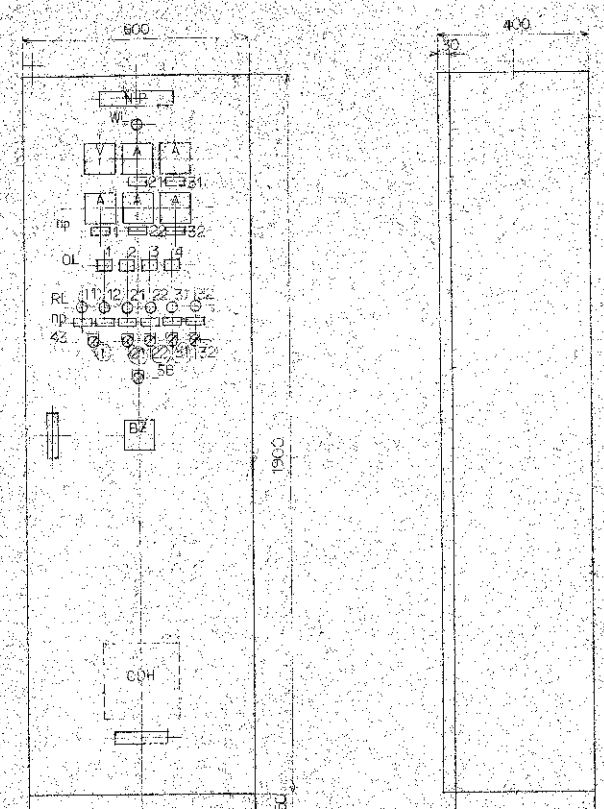
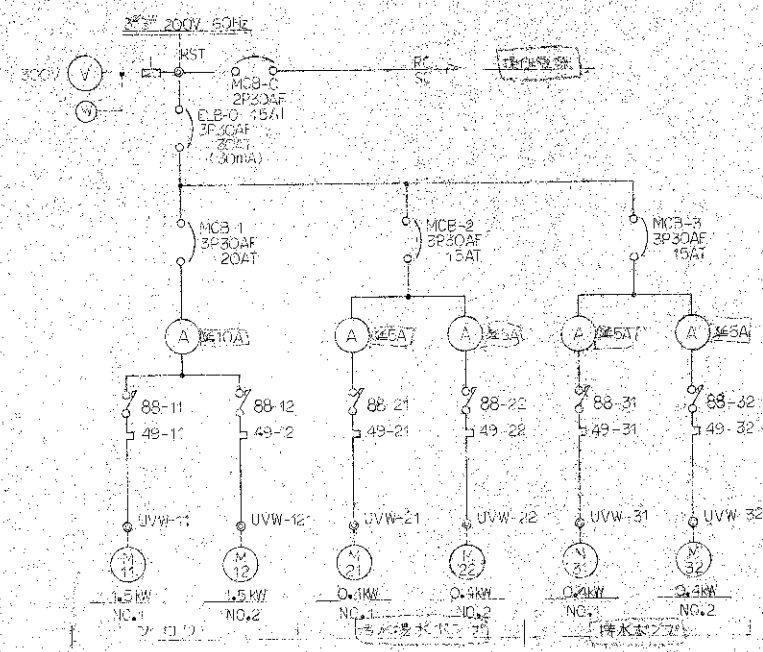
分電盤名称		既存LM-1（電灯）
キャビネット形式		動力盤（内蔵）
電気方式	種別	常用
	相線	単相3線
	電圧	
負荷容量		
主幹器具	種別	ELCB3P30A
	定格遮断電流	2.5kA
	幹線サイズ	8"
	入線方向	上方



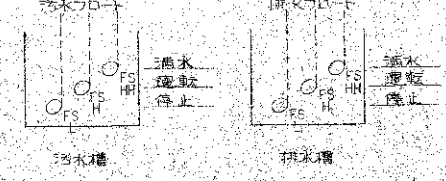
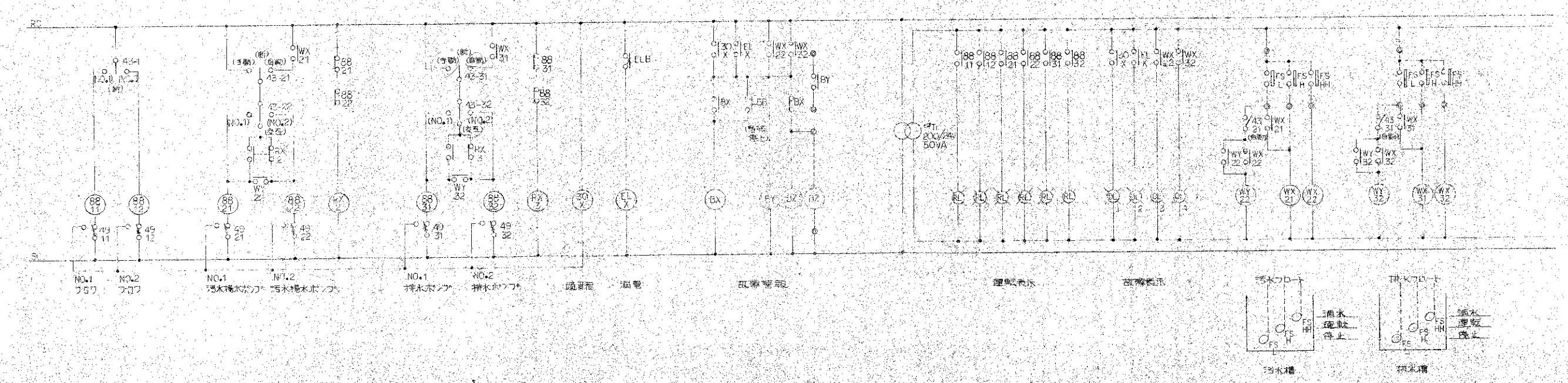
負荷容量 (VA)		電 圧 (V)	定格電流 (A)	遮断器	回 路 名 称	回路番号
コンセント	電 灯					
1705		200	20	MCCB	1期工事室内機電源	
		200	20	MCCB	予備-今回工事室内機電源	
					スペース	

回路番号	回 路 名 称	遮断器	定格電流 (A)	電 圧 (V)	負荷容量 (VA)	
					電 灯	コンセント
	職員室集中リモコン	MCCB	20	200		100
	予備	MCCB	20	100		
	スペース					

注記1) 図中、機器の搬去を行うこと。
注記2) 搬去変圧器はPCB調査を行い管理者へ報告すること。



図面 - 電気	
NO.1	汚水ポンプ
NO.2	汚水ポンプ
NO.3	汚水ポンプ
NO.4	汚水ポンプ
NO.5	汚水ポンプ
NO.6	汚水ポンプ
NO.7	汚水ポンプ
NO.8	汚水ポンプ
NO.9	汚水ポンプ
NO.10	汚水ポンプ
NO.11	汚水ポンプ
NO.12	汚水ポンプ
NO.13	汚水ポンプ
NO.14	汚水ポンプ
NO.15	汚水ポンプ
NO.16	汚水ポンプ
NO.17	汚水ポンプ
NO.18	汚水ポンプ
NO.19	汚水ポンプ
NO.20	汚水ポンプ
NO.21	汚水ポンプ
NO.22	汚水ポンプ
NO.23	汚水ポンプ
NO.24	汚水ポンプ
NO.25	汚水ポンプ
NO.26	汚水ポンプ
NO.27	汚水ポンプ
NO.28	汚水ポンプ
NO.29	汚水ポンプ
NO.30	汚水ポンプ
NO.31	汚水ポンプ
NO.32	汚水ポンプ
NO.33	汚水ポンプ
NO.34	汚水ポンプ
NO.35	汚水ポンプ
NO.36	汚水ポンプ
NO.37	汚水ポンプ
NO.38	汚水ポンプ
NO.39	汚水ポンプ
NO.40	汚水ポンプ
NO.41	汚水ポンプ
NO.42	汚水ポンプ
NO.43	汚水ポンプ
NO.44	汚水ポンプ
NO.45	汚水ポンプ
NO.46	汚水ポンプ
NO.47	汚水ポンプ
NO.48	汚水ポンプ
NO.49	汚水ポンプ
NO.50	汚水ポンプ
NO.51	汚水ポンプ
NO.52	汚水ポンプ
NO.53	汚水ポンプ
NO.54	汚水ポンプ
NO.55	汚水ポンプ
NO.56	汚水ポンプ
NO.57	汚水ポンプ
NO.58	汚水ポンプ
NO.59	汚水ポンプ
NO.60	汚水ポンプ
NO.61	汚水ポンプ
NO.62	汚水ポンプ
NO.63	汚水ポンプ
NO.64	汚水ポンプ
NO.65	汚水ポンプ
NO.66	汚水ポンプ
NO.67	汚水ポンプ
NO.68	汚水ポンプ
NO.69	汚水ポンプ
NO.70	汚水ポンプ
NO.71	汚水ポンプ
NO.72	汚水ポンプ
NO.73	汚水ポンプ
NO.74	汚水ポンプ
NO.75	汚水ポンプ
NO.76	汚水ポンプ
NO.77	汚水ポンプ
NO.78	汚水ポンプ
NO.79	汚水ポンプ
NO.80	汚水ポンプ
NO.81	汚水ポンプ
NO.82	汚水ポンプ
NO.83	汚水ポンプ
NO.84	汚水ポンプ
NO.85	汚水ポンプ
NO.86	汚水ポンプ
NO.87	汚水ポンプ
NO.88	汚水ポンプ
NO.89	汚水ポンプ
NO.90	汚水ポンプ
NO.91	汚水ポンプ
NO.92	汚水ポンプ
NO.93	汚水ポンプ
NO.94	汚水ポンプ
NO.95	汚水ポンプ
NO.96	汚水ポンプ
NO.97	汚水ポンプ
NO.98	汚水ポンプ
NO.99	汚水ポンプ
NO.100	汚水ポンプ



プール・プールサイド 附属設備仕上表	
プール 本 体	F R P 製
プールサイド 工 間	(工間) カラークリート仕上 伸縮目隠し (ノンスリップ)
足洗場・休憩場	(床・腰・階段) へ 防水モルタル金ゴテ押し (階段段鼻) へ ヒリ止メメタイル貼リ (笠木) へ 人 間 (テスリ) へ ステンレス製パイプ
フェンス 門 扉	完全覆形金網 2.5m×5.6m ステンレスネット カラーハダホ 織 H=1.5m
先取・水呑場	(階) モルタル金ゴテ押し (台 皿上り 笠木) へ 人 間
ラ ック 庫	ベニヤ壁材 コンクリート打放シ 見え掛り部分は木コシ打放しとする。
ア プロ ーチ	(土間) カラークリート (ノンスリップ)
昇降用階段	(床) へ モルタル金ゴテ押し (階) へ ベニヤ壁材 コンクリート打放シ 面材入り

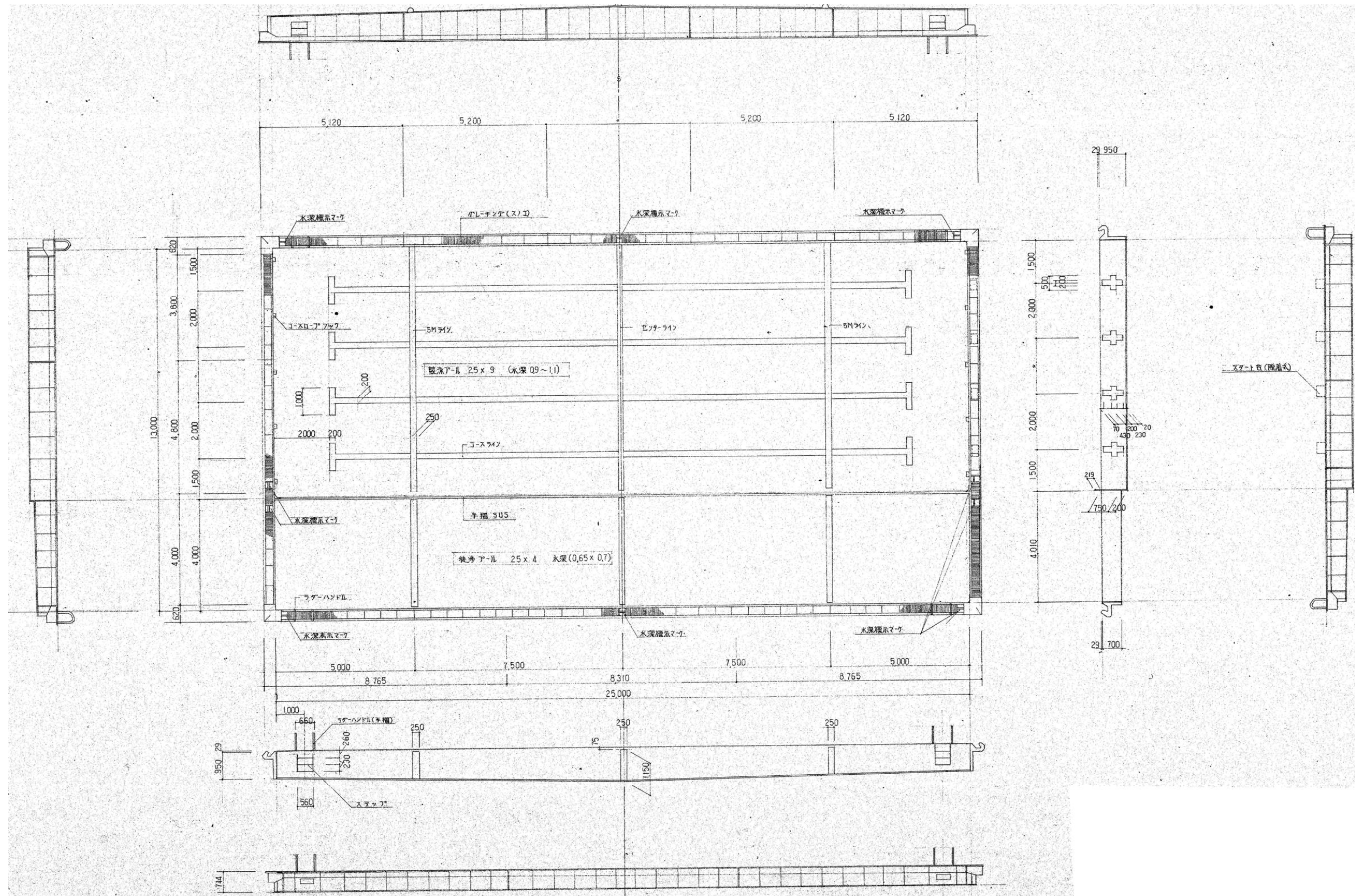
管理棟建築仕上表						
外 部 仕 上 表						
基 礎	外 壁	屋 根	臥 梁	施 工	金 具	備 考
コンクリート打放シ	①150% コンクリートブロック化粧目隠し仕様 アクリルシリン 成付	①150% 防水断熱断板が貼る所 断 葺 H=550 裏面 ②6% 木目エチレンフォーム 貼り	コンクリート 打 放 シ	硬質ビニール製 VP 張り	アルミ 製	
内 部 仕 上 表						
室 名	床	巾 木	腰	壁	天 井	備 考
管 理 室	カラークリート (ノンスリップ)	モルタル 壁 金ゴテ仕上 VP	←	←	竹 版 板エチレンフォーム さらし	カウンター、物置棚、行書板
機 械 室	カラークリート (ノンスリップ)	モルタル 壁 金ゴテ仕上	←	①150% コンクリートブロック化粧目隠し仕様	竹 版 板エチレンフォーム さらし	

参考図



アール・アールサイド 附帯設備仕上表	
アール 本 体	FRP 張
アールサイド 工 間	(工間) カラークリート 仕上 伸縮目地入 (ジョイント部)
足置場・坐体場	(床・腰・階段) へ 防水モルタル金ゴテ押エ (階段段鼻) へ シリコンメタル貼リ (室木) へ 人形 (サスリ) へ ステンレス製パイプ
フェンス・門 扉	完全反射金網 2.5% 55% スパリングネット カラーハガネ 縦 H=1.5m
先服・水呑場	(階段) モルタル金ゴテ押エ (台 皿上り 室木) へ 人形
ラ ウ 壁	ベニヤ型枠 コンクリート 打放シ 見え掛り部は木ココン 打放シとする。
アールローラ	(工間) カラークリート (ジョイント部)
昇降用階段	(床) へ モルタル埋金ゴテ押エ (階段) へ ベニヤ型枠 コンクリート 打放シ 面積入り

管理棟建築仕上表						
外 部 仕 上 表						
基 礎	外 壁	屋 根	臥 梁	施	造 具	施 要
コンクリート 打放シ	① 150% コンクリートブロック化粧目地補 アクリルラシン 吸付	① 100% 防水断熱防水板 防水スリ 断熱 厚=50mm 裏面 ② 6% ポリエチレンフォーム 貼付	コンクリート 打放シ	断熱ポリスチレン VP スリ	アルミ 製	
内 部 仕 上 表						
室 名	床	巾 木	腰	壁	天 井	施 要
管 理 室	カラークリート (ジョイント部)	モルタル 埋金ゴテ仕上 VP	→	→	竹 版 張りエチレンフォーム さらし	カウンター、鉄金網、竹島黒板
機 械 室	カラークリート (ジョイント部)	モルタル 埋金ゴテ仕上	→	① 150% コンクリートブロック化粧目地補	竹 版 張りエチレンフォーム さらし	



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

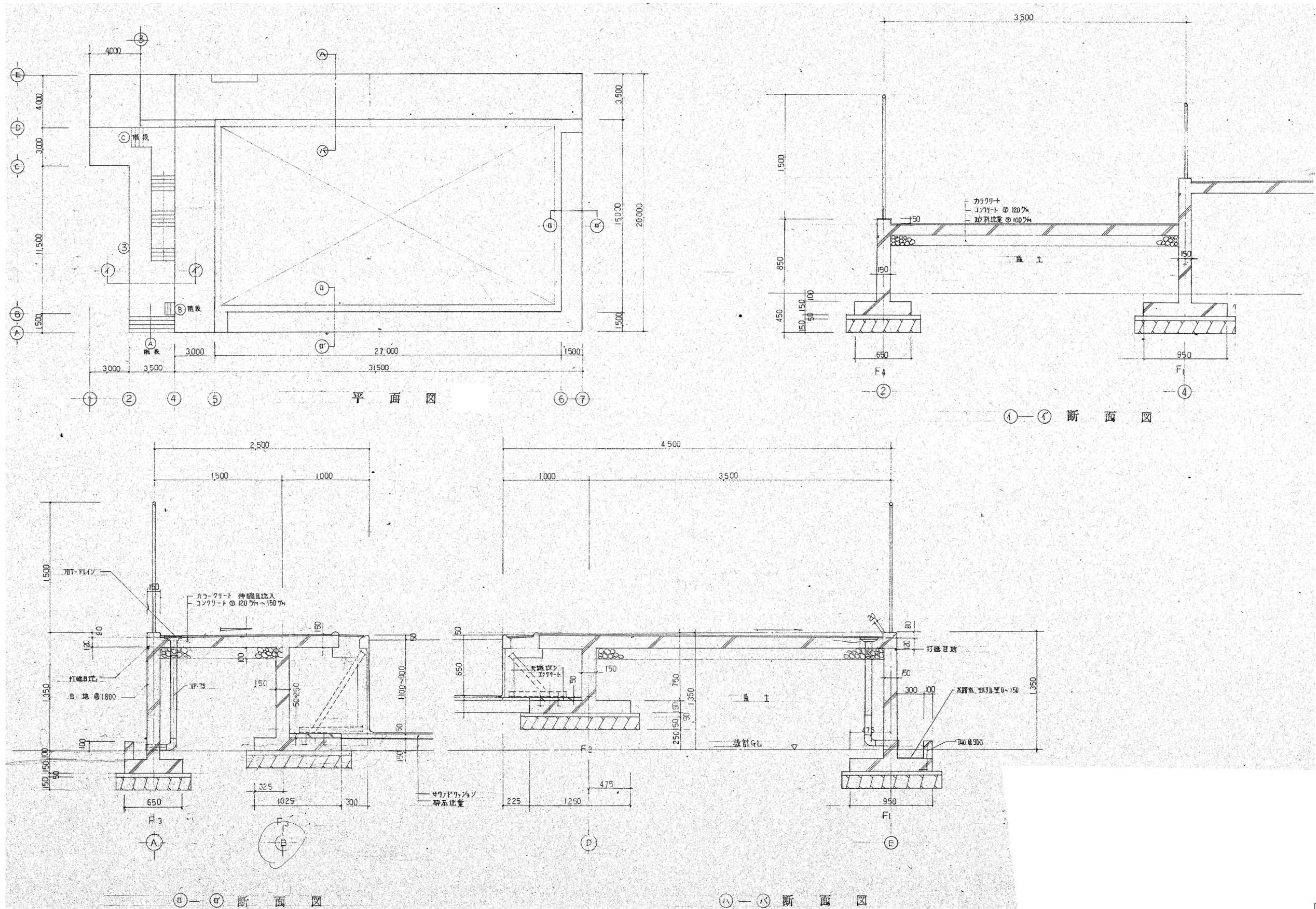
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
プール本体 平面図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 304



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

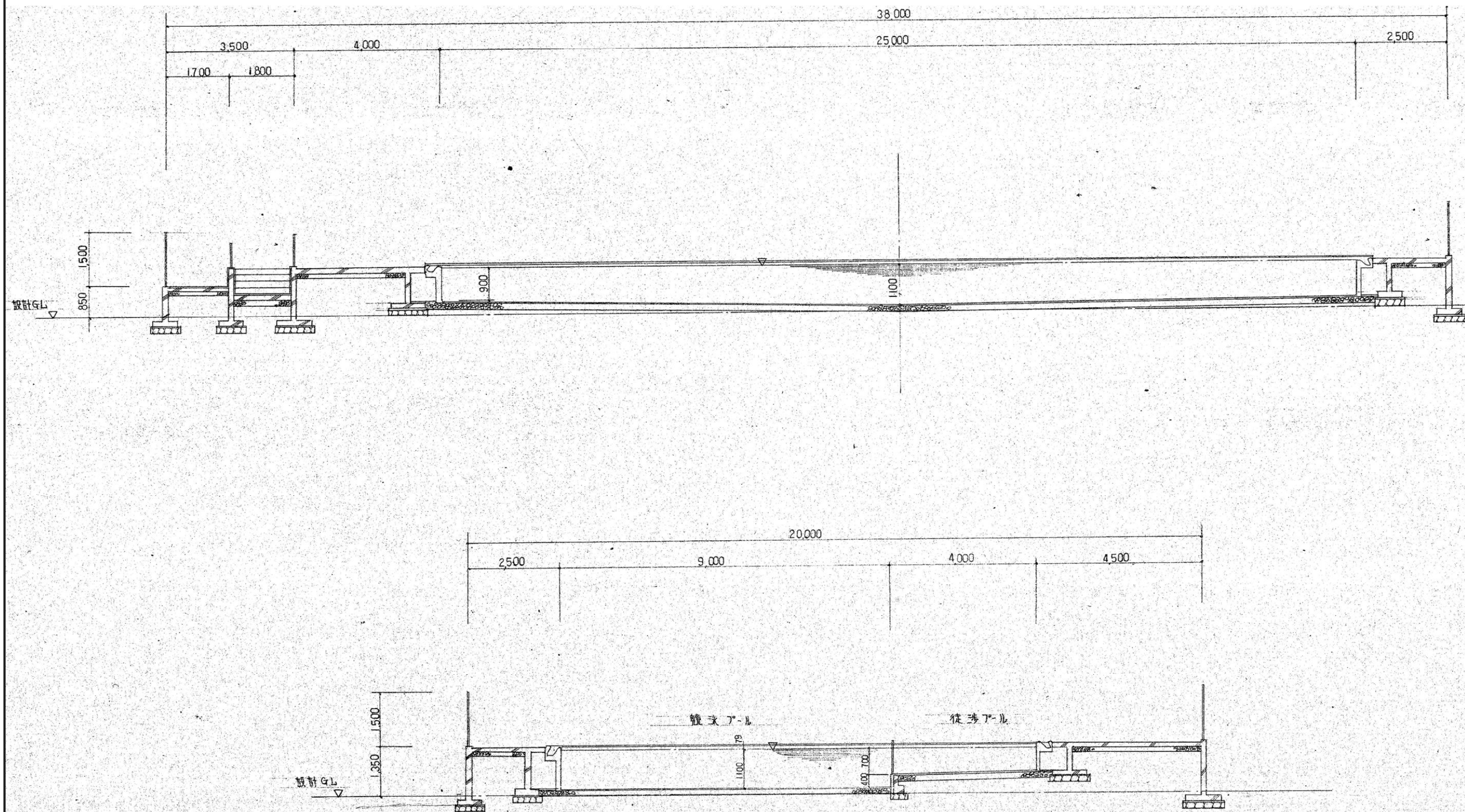
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

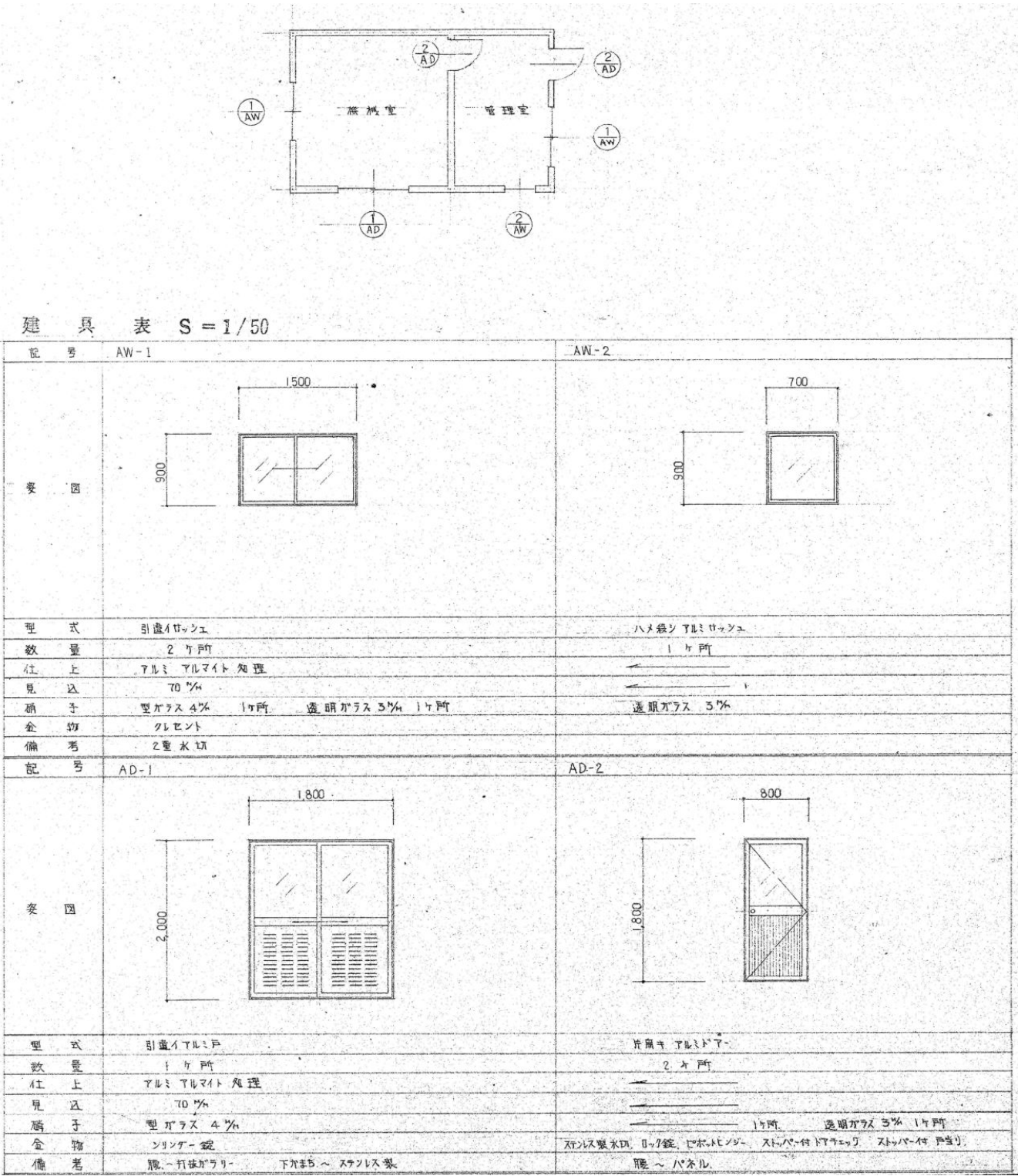
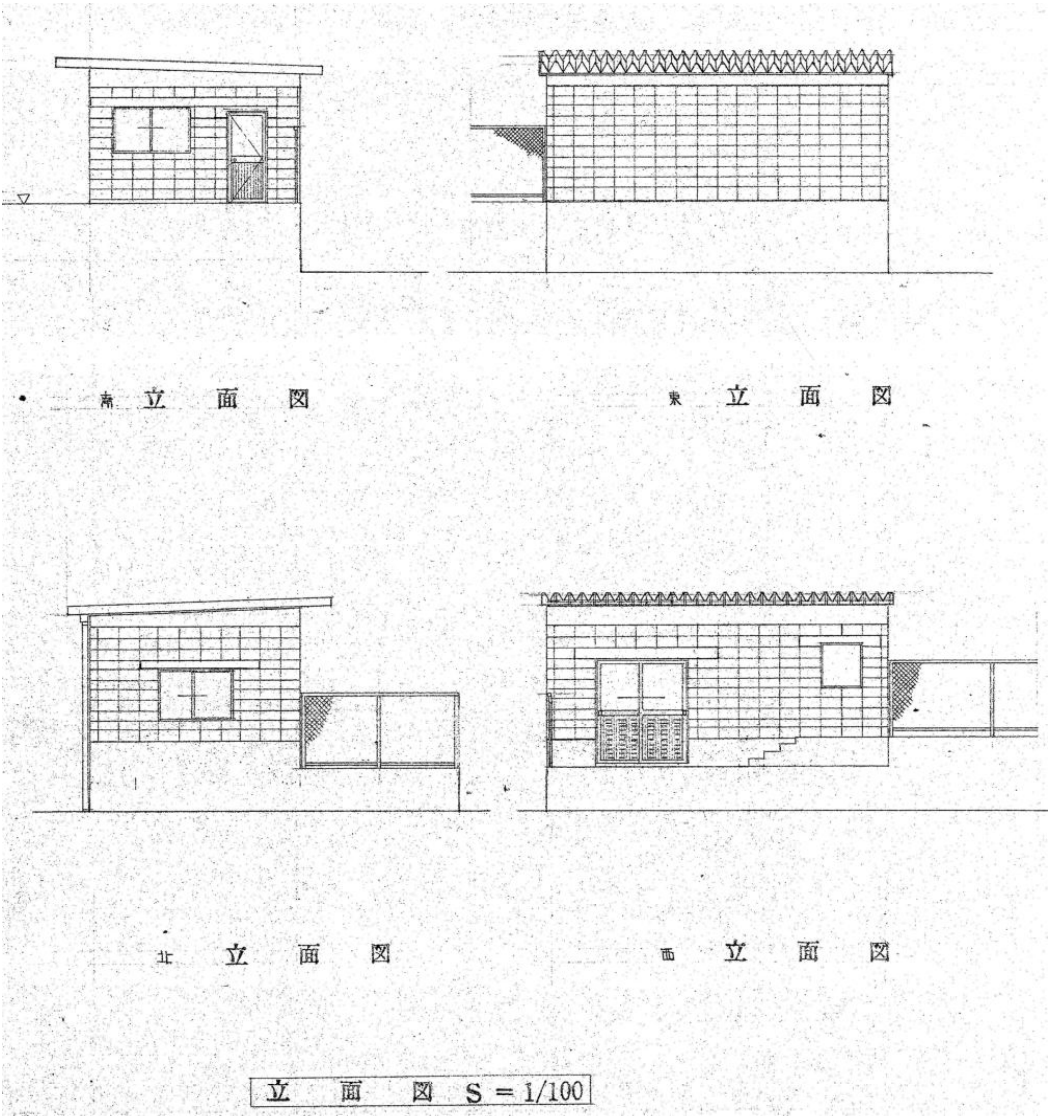
■図面名称/DRAWING-TITLE
プールサイド 平面図 断面図

■縮尺/SCALE
No scale

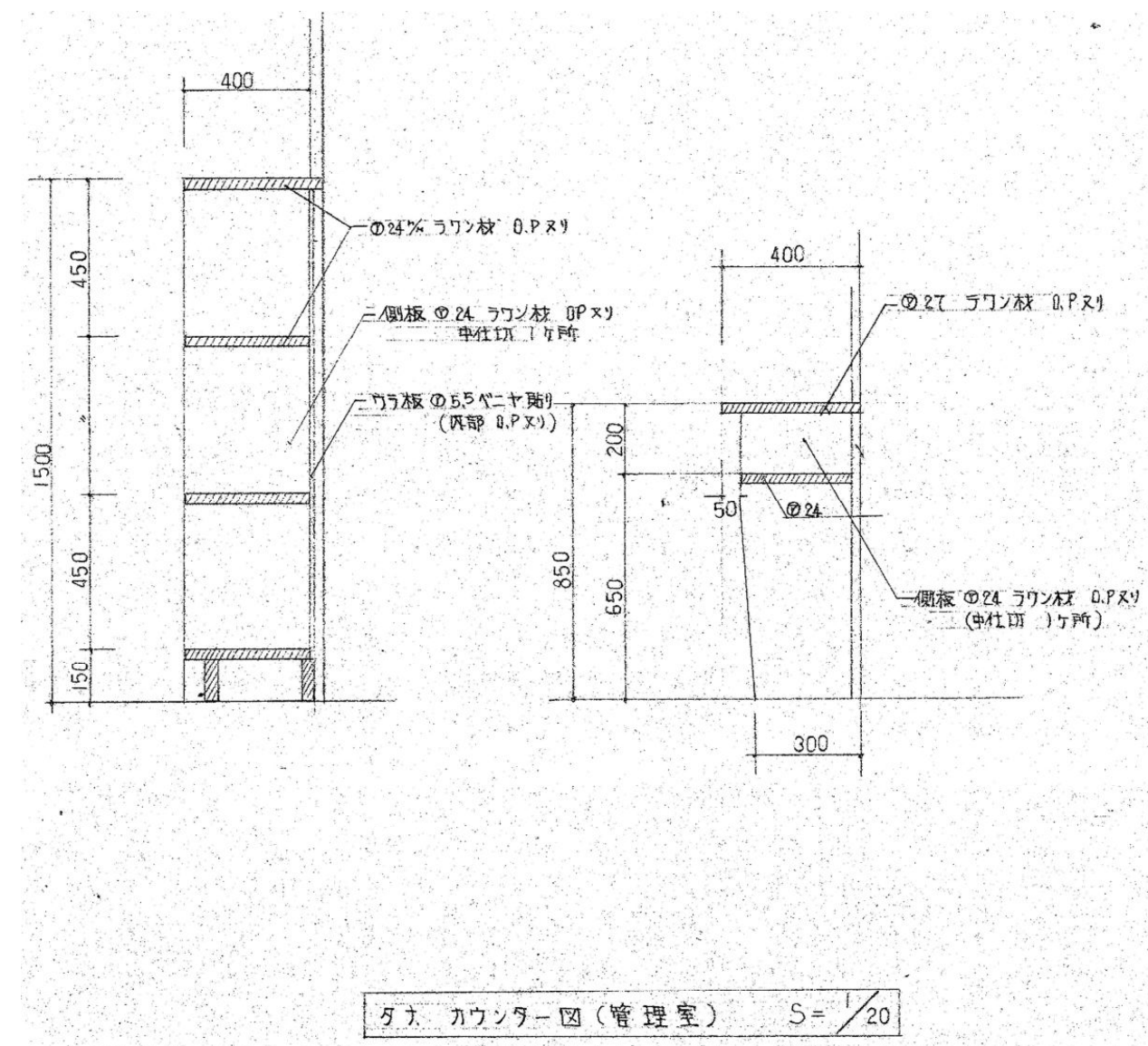
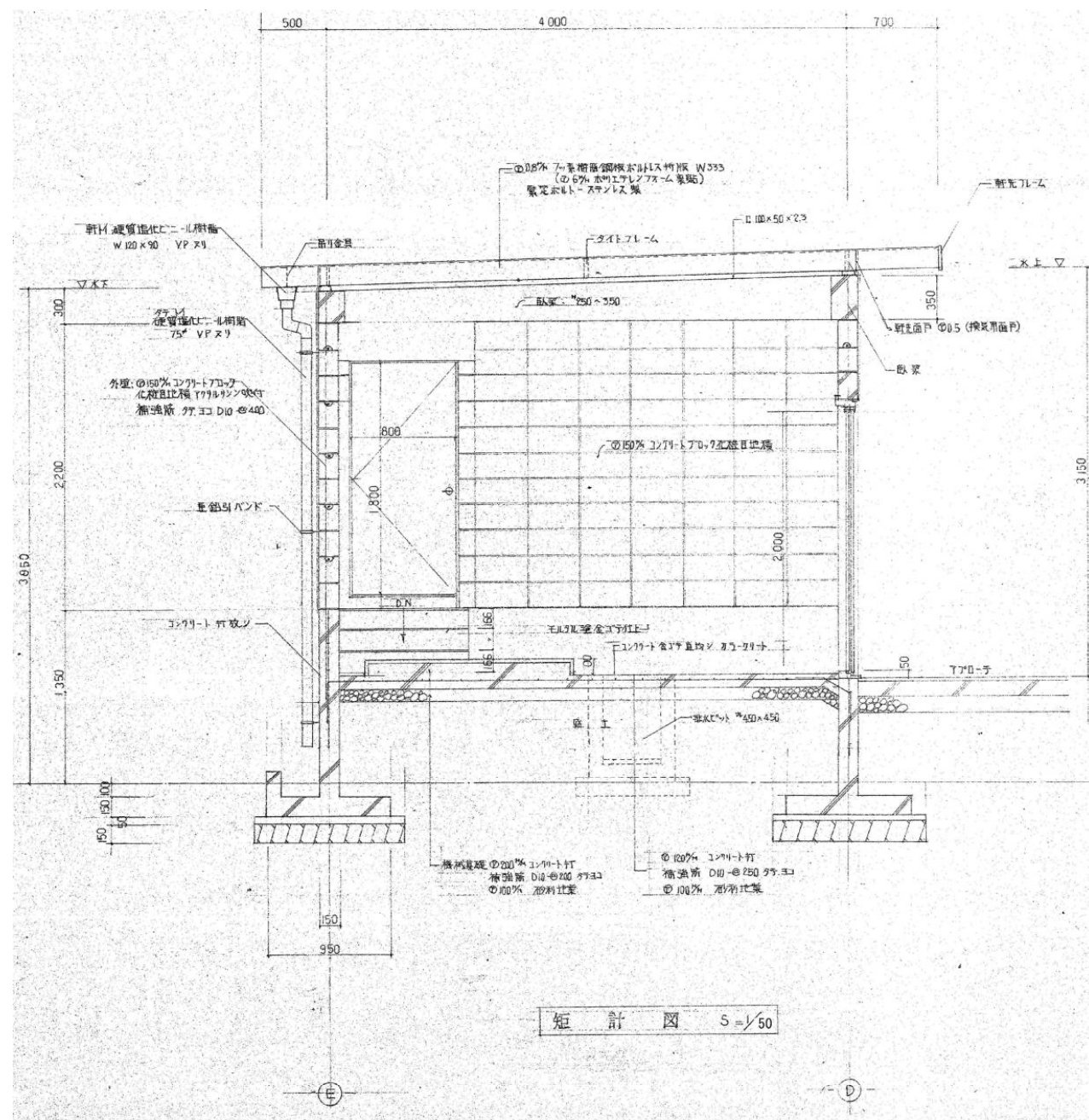
■図番/No.
A - 305



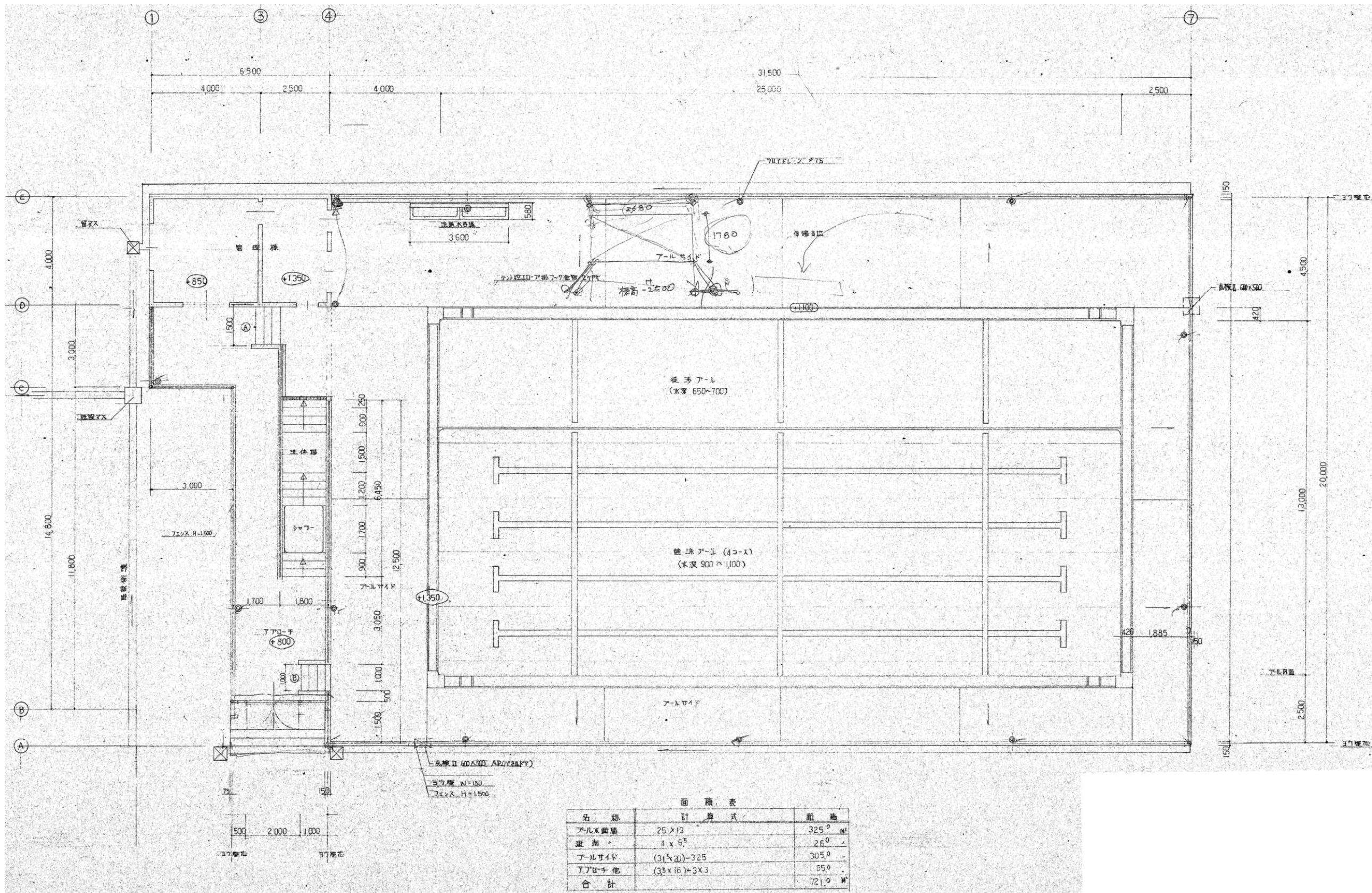
参考図



参考図

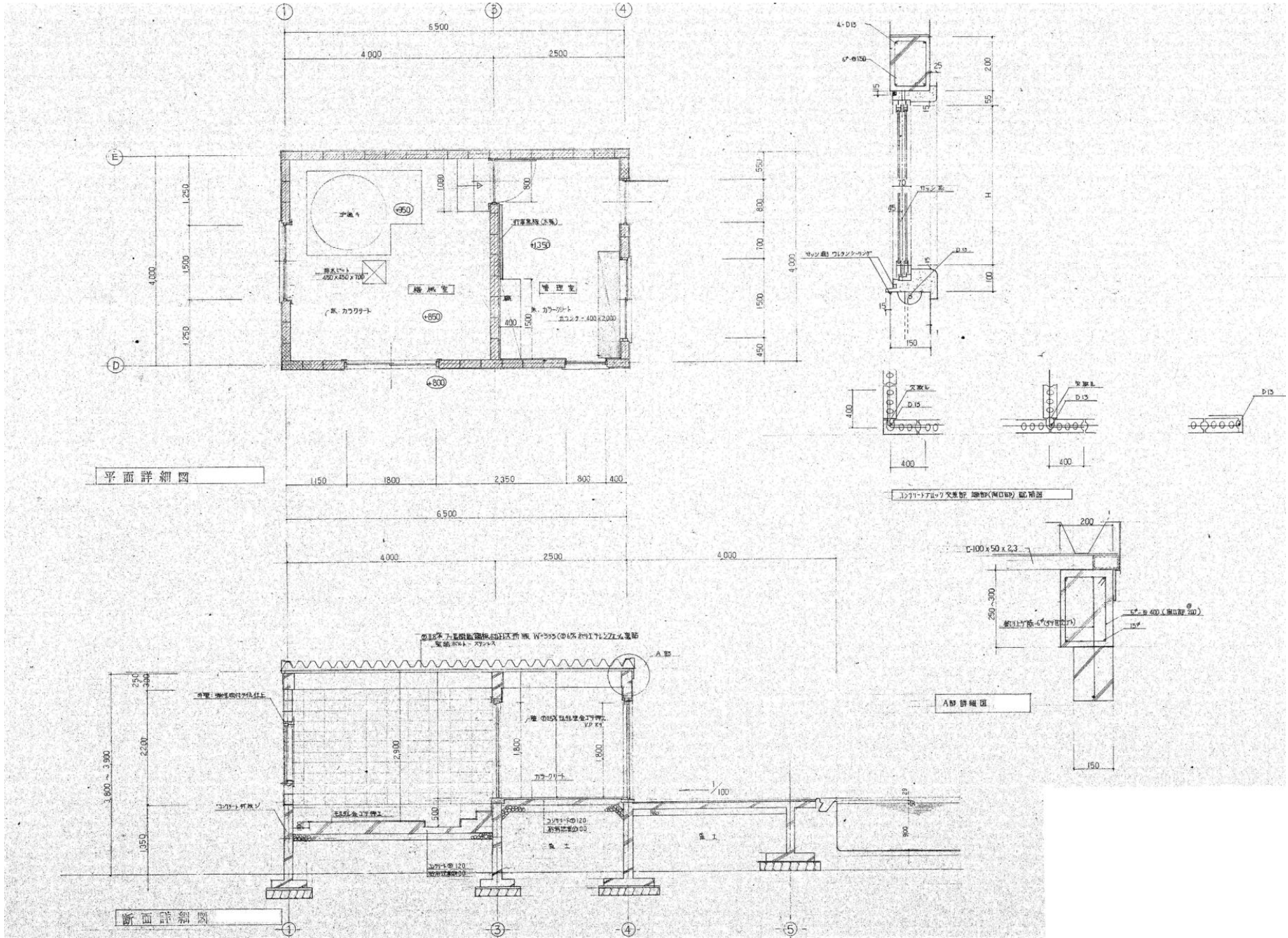


参考図



参考図





参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

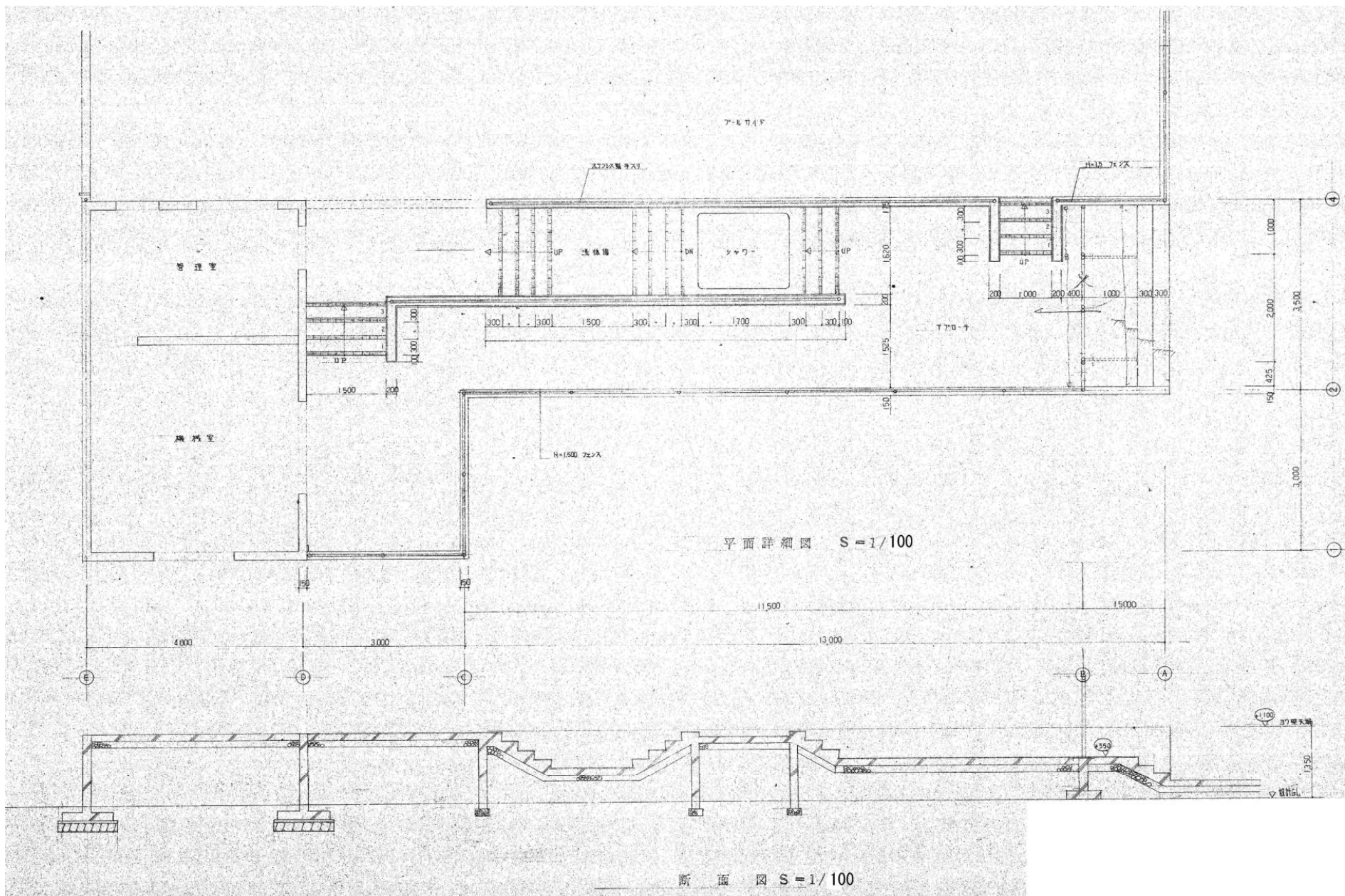
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

平面詳細図②・断面詳細図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 310



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

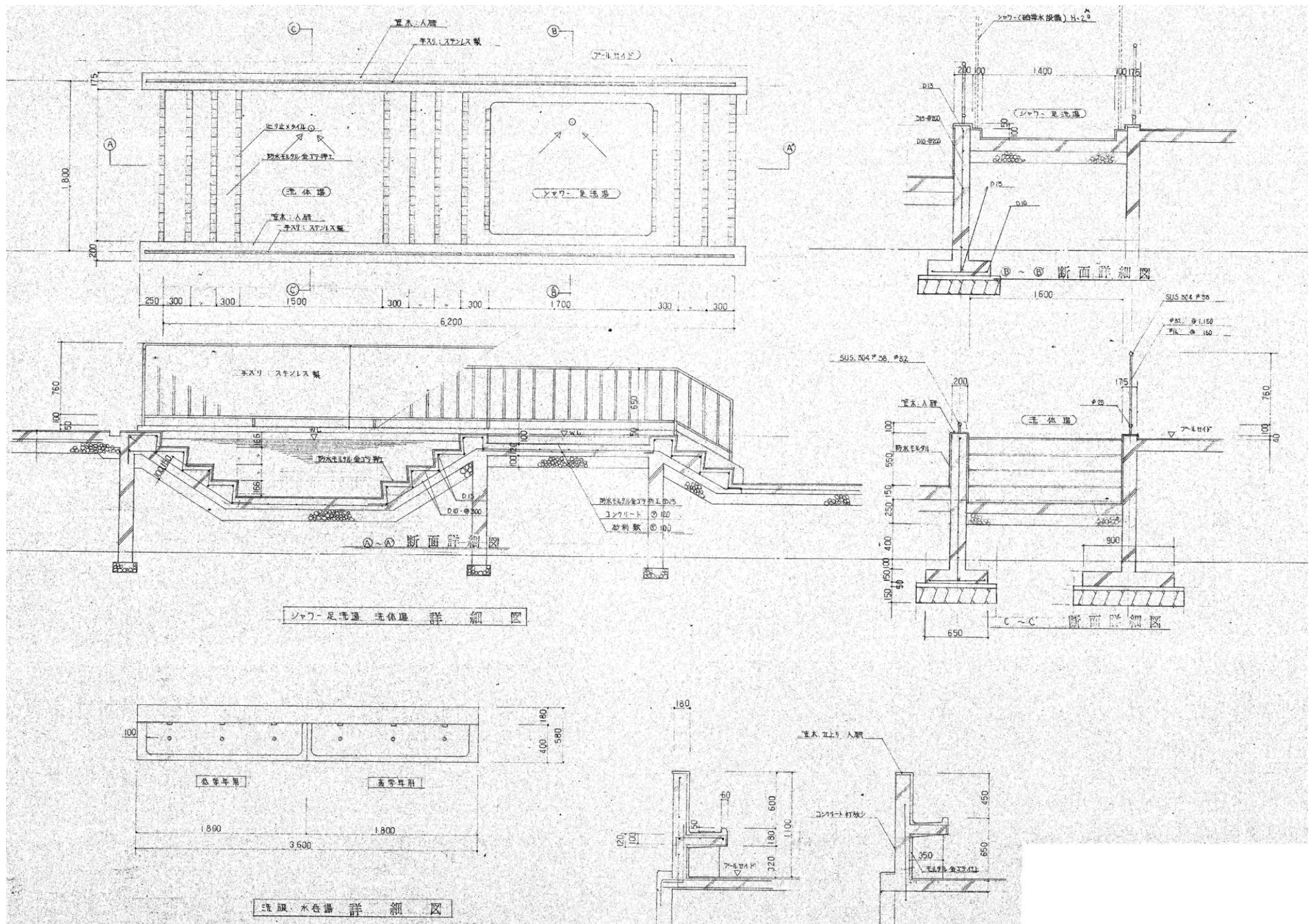
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
平面詳細図③・断面図

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 311



参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

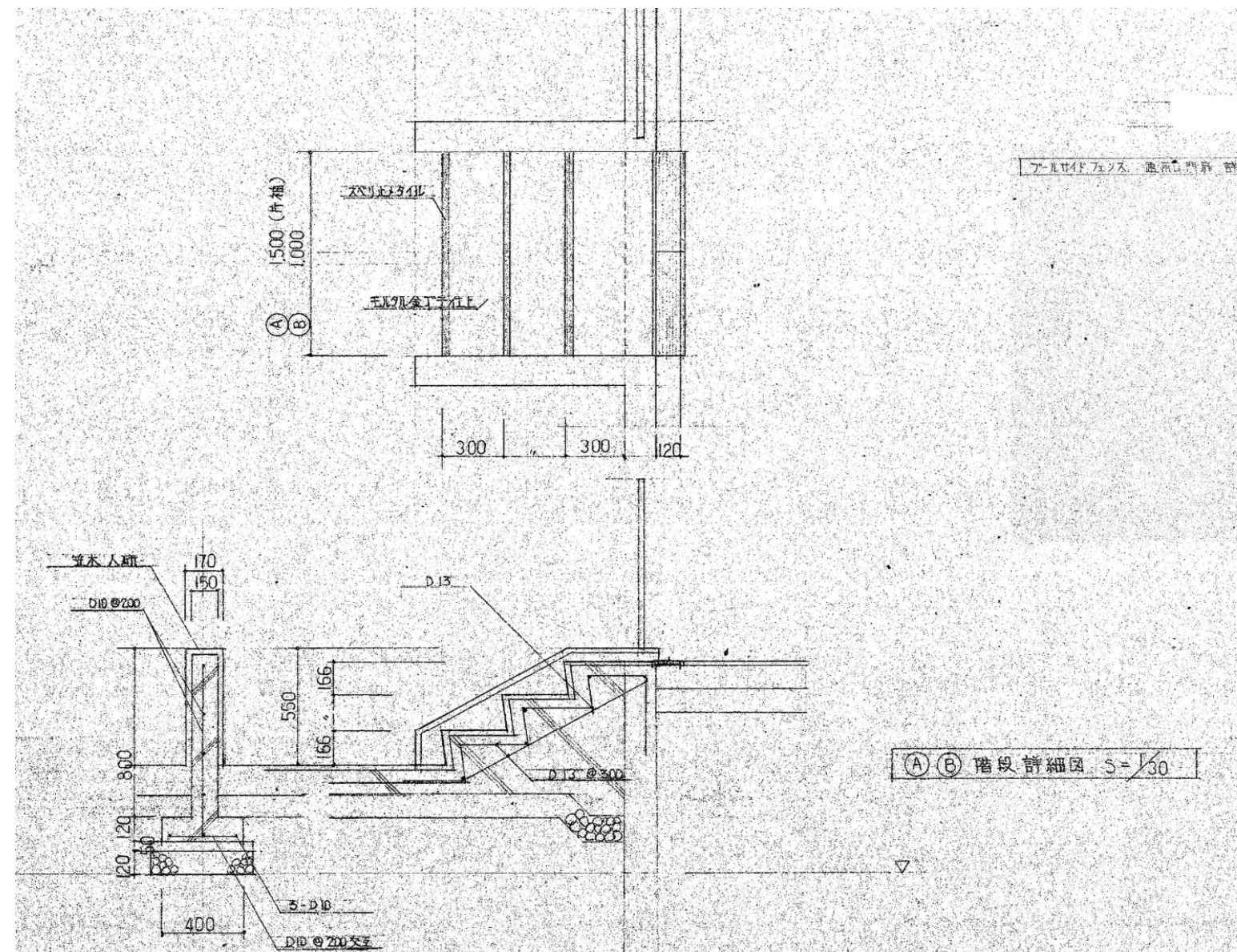
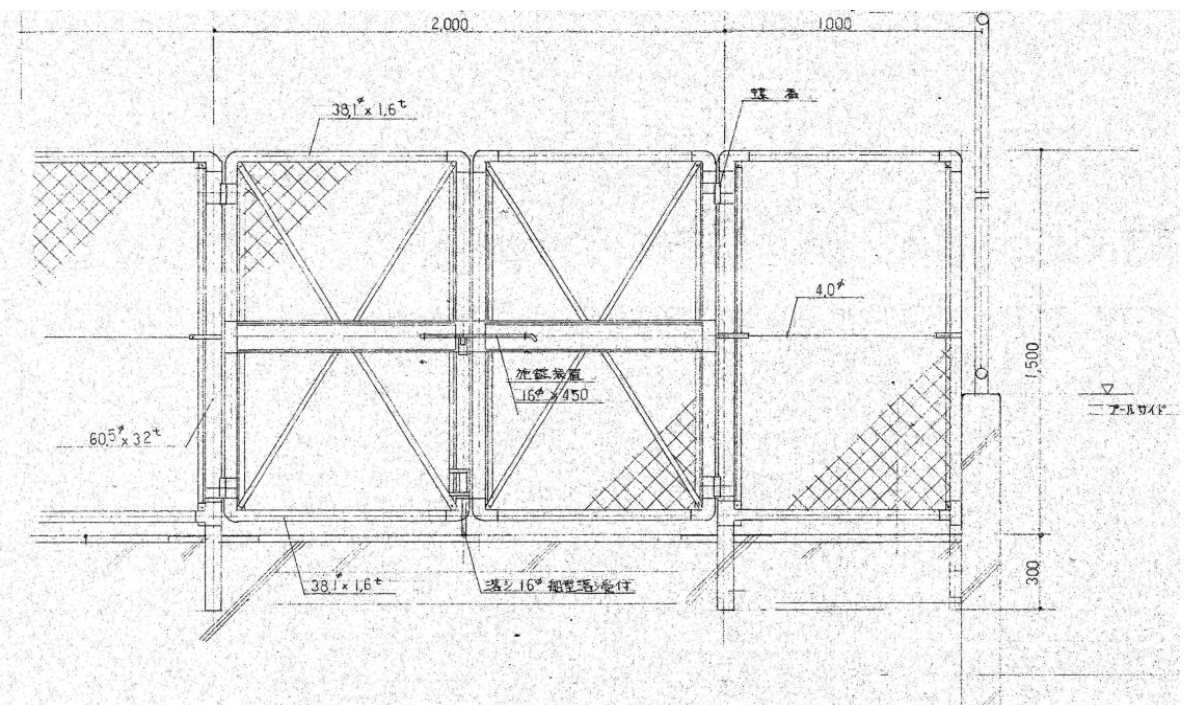
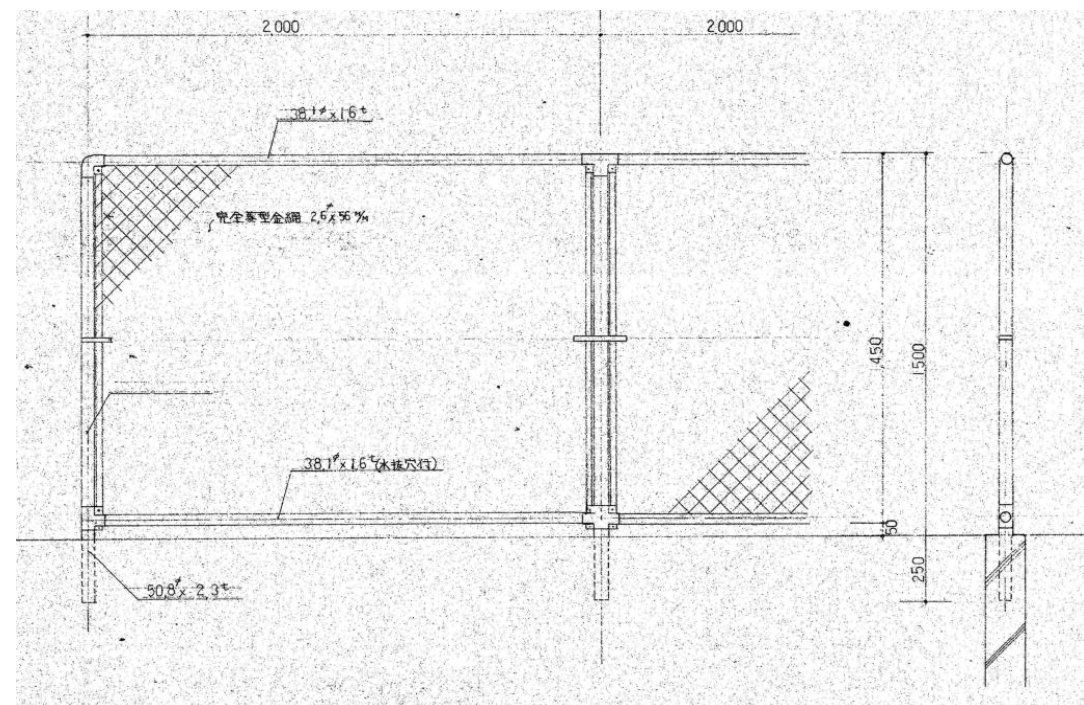
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

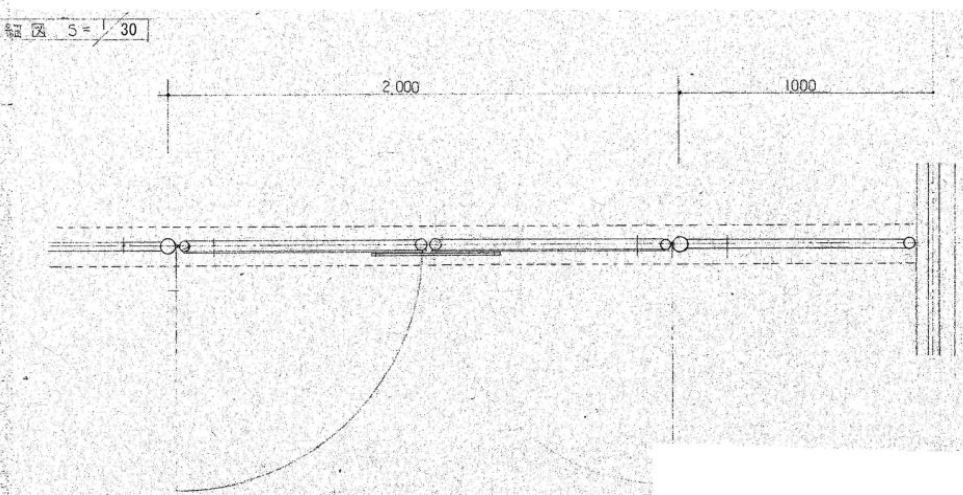
■図面名称/DRAWING-TITLE
詳細図①

■縮尺/SCALE
No scale

■図番/No.
A — 312



アルミパイプフェンス 通風口部 詳細図 S=1/30



① ② 階段 詳細図 S=1/30

参考図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

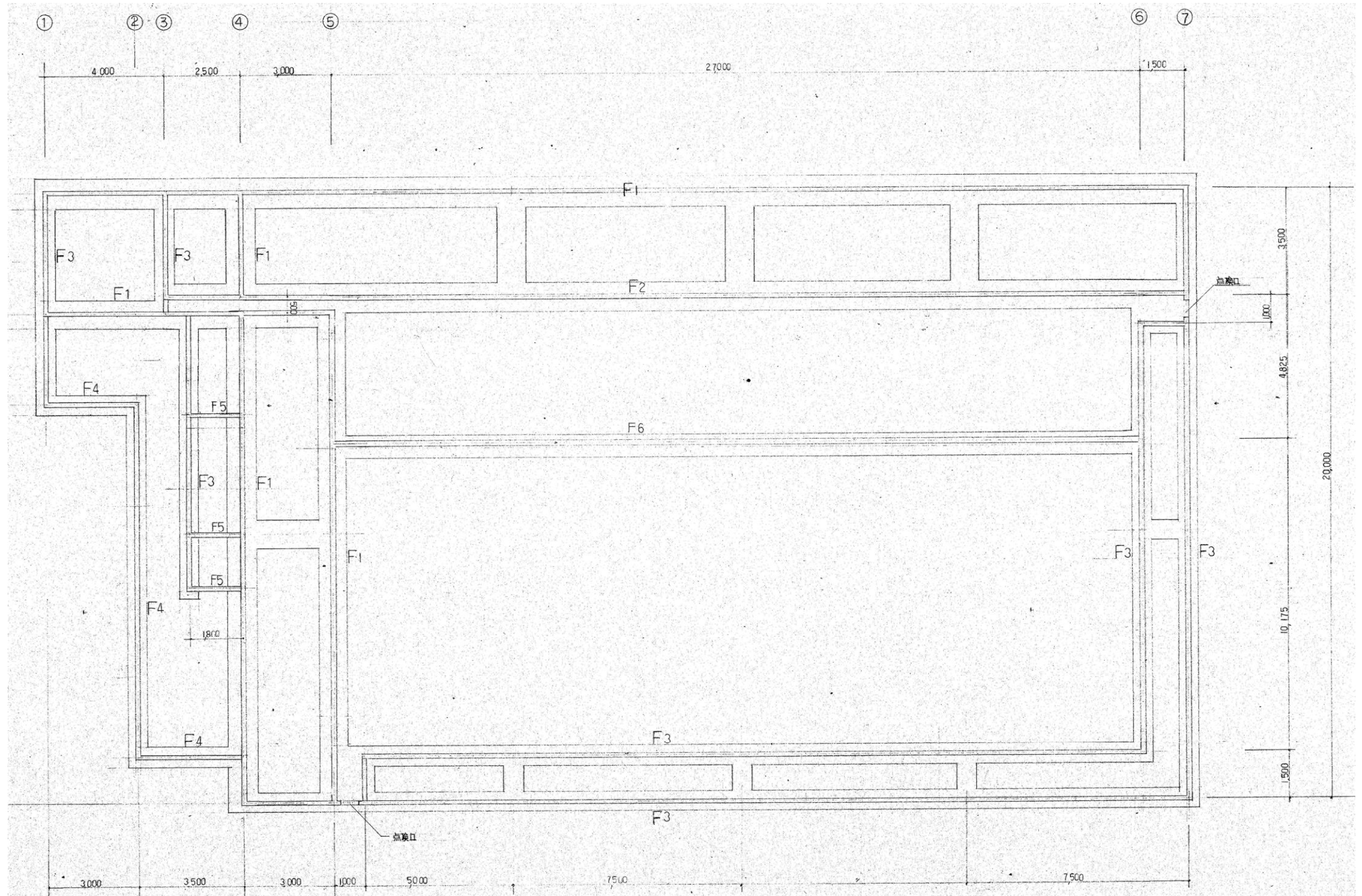
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

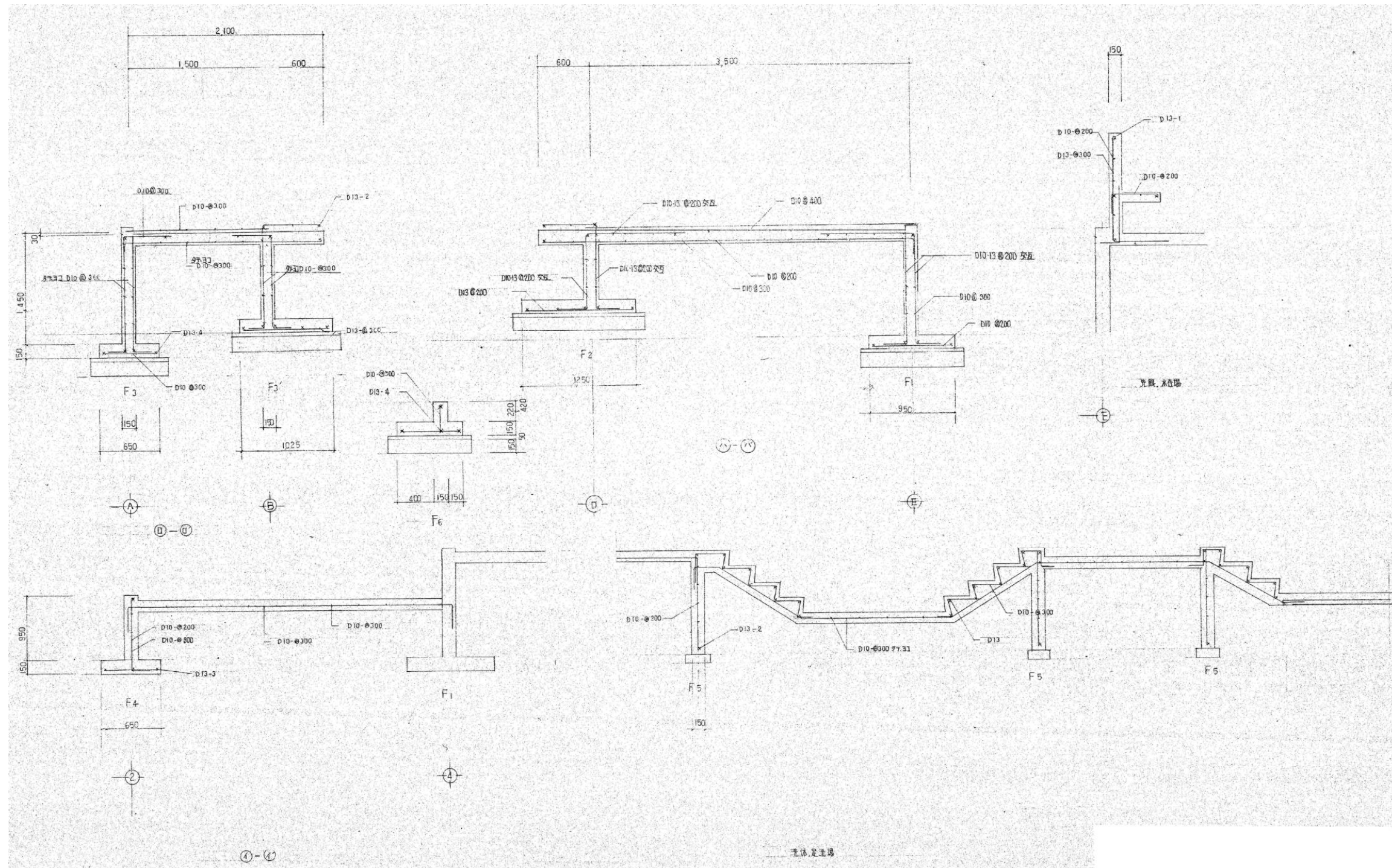
■図面名称/DRAWING-TITLE
詳細図②

■縮尺/SCALE
No scale

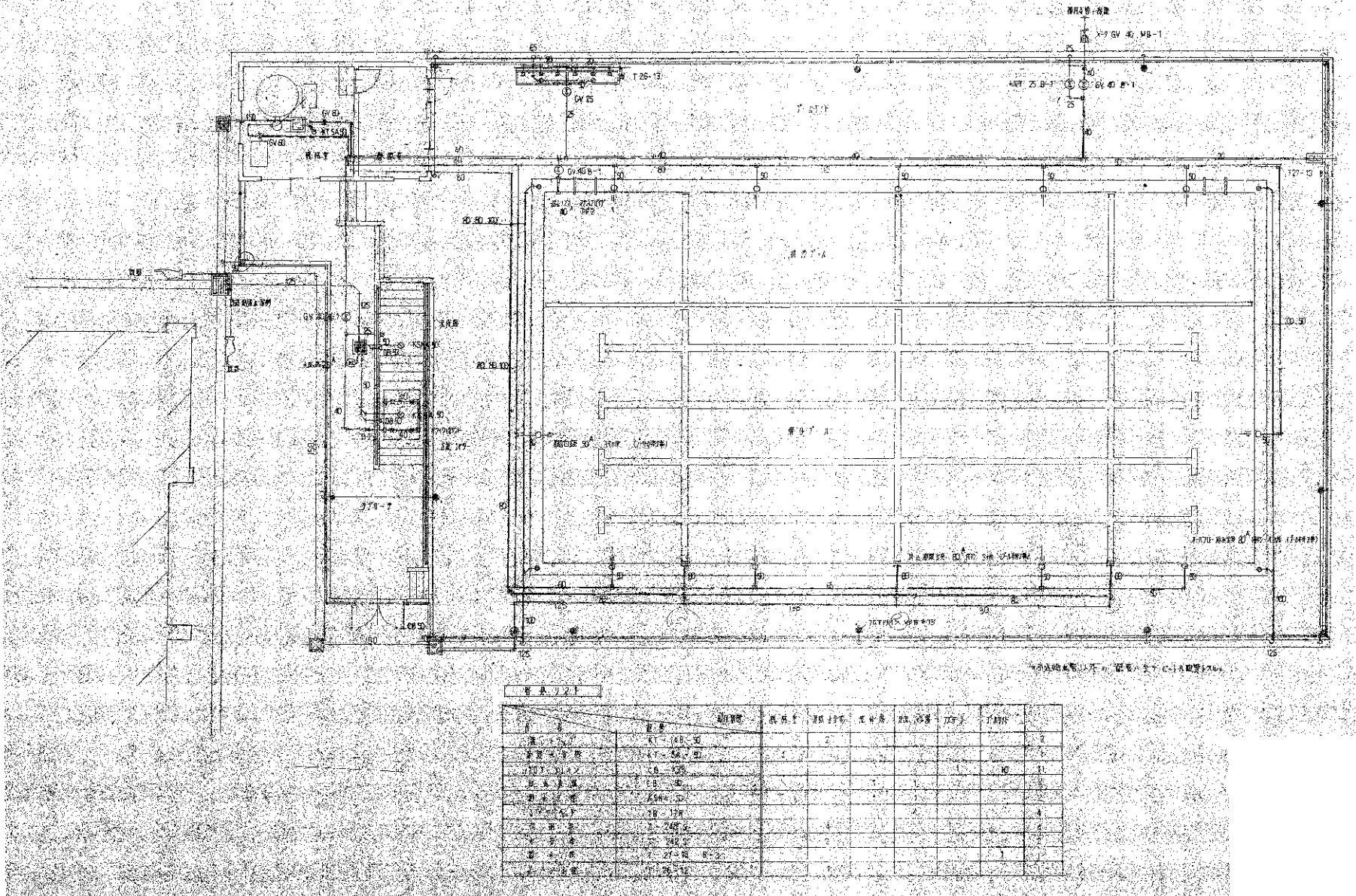
■図番/No.
A — 313



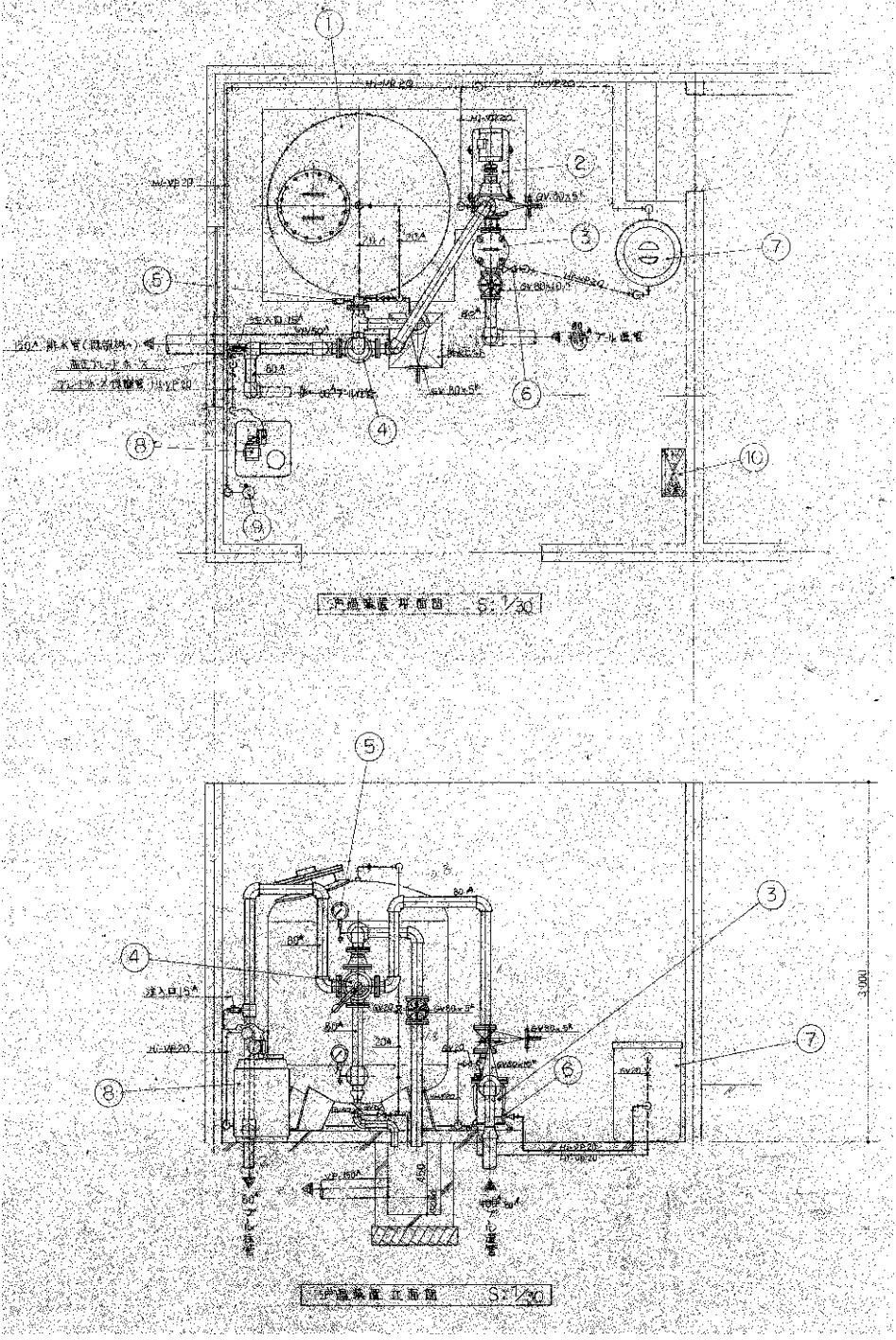
参考図



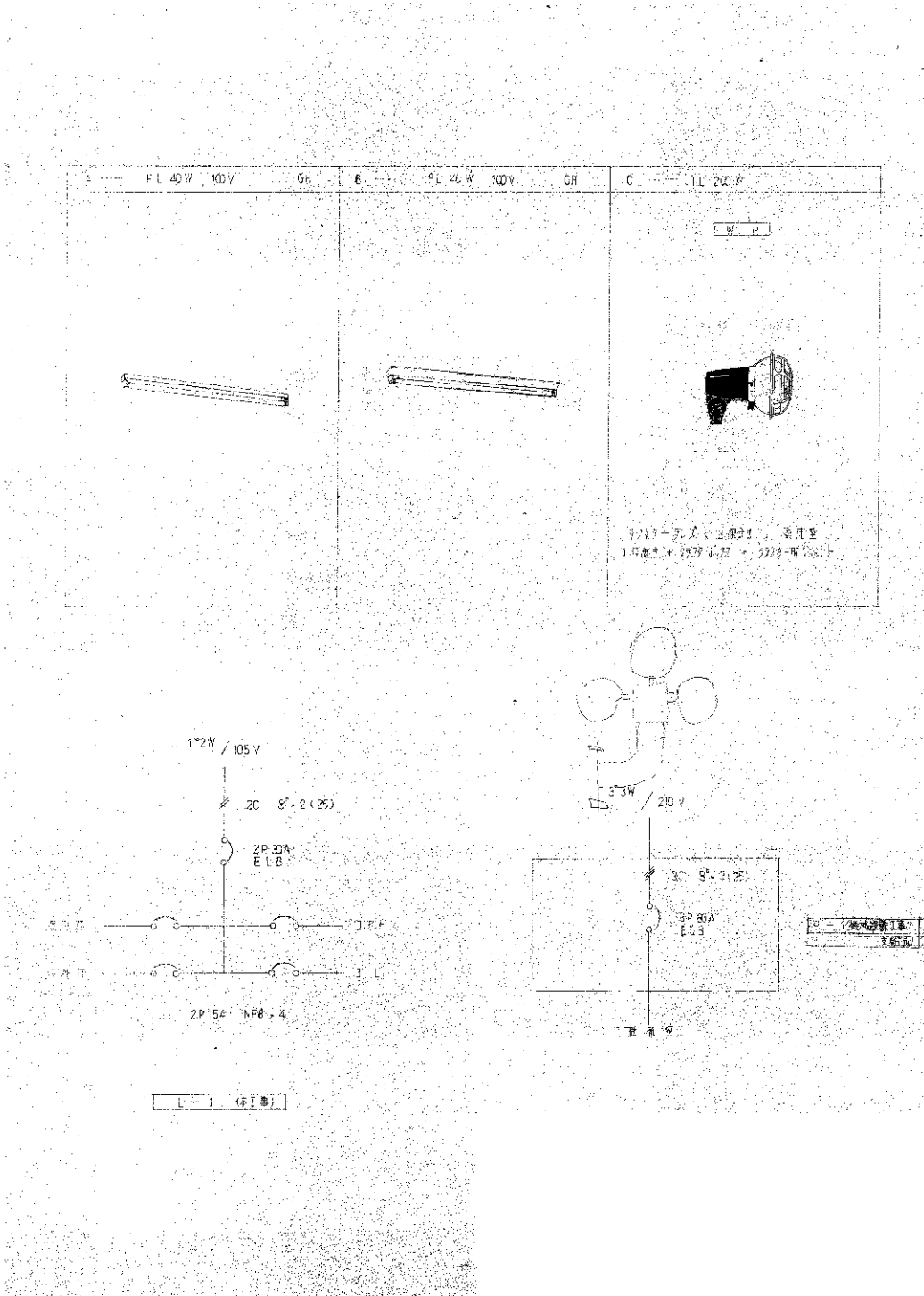
参考図



図番	名称	仕様	数量
1	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
2	圧入ポンプ	圧入ポンプ 1500mm (縦長) KR-45型	1
3	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
4	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
5	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
6	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
7	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
8	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
9	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1
10	圧入機	圧入機 1500mm (縦長) KR-45型	1



図中、機器・配管等の設備機器の撤去を行う



最終改訂 令和7年10月1日

建築改修工事仕様書

I 工事概要

1 工事名

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

2 工事場所

輪島市横地町地内

3 工事種目

エントランス棟増築工事、外部改修工事、内部改修工事、建具改修工事、解体工事、外構工事
電気設備改修工事、機械設備改修工事、残置物撤去、ピアノ等移設

4 完成期日

令和 年 月 日（概成工期 令和 年 月 日）
（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）
（積算工期：〇〇か月）

5 別契約関連工事

・ 屋外付帯工事

・ 植栽工事

・ 電気設備工事

・ 給排水衛生設備工事

・ 暖房設備工事

・ 冷房設備工事

・ 換気設備工事

・ 空調設備工事

・ 昇降機設備工事

・ 電話設備工事

・ 浄化槽設備工事

・

II 建築工事仕様

1 共通仕様

1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下「改修標仕」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」（以下「解体共仕」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」（以下「標仕」という。）による。
2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（ ）図、機械設備工事の工事仕様書は（ ）図による。

2 特記仕様
1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、「標仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。
4）（別図ー ）は、「標仕」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。
5）特記事項に記載の[]内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
6）[G]印は、「図等」による環境物品等の調達に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。
7）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、（ ）内は製品名を示す。
8）斜線で消去した章は適用しない。

1章 一般共通事項

① 適用基準等

設計図書の他に、下記の図書の該当事項を適用する。
○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版）
○建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官房営繕部 令和3年通知）のうち第3章
○営繕工事写真撮影要領（令和3年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）
○営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部令和3年度版）
・公共建築大造工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 令和4年版）
・屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修 平成29年版）
○鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
○壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修）
○鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修）
○石川県バリアフリー社会の推進に関する条例（施設整備の手引き）
○石川県公共事業景観形成ガイドライン

② 工事実績情報の登録

※登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）

③ 発生材の処理

1）産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。
また、処分の際には産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。
2）発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に引き渡す。
イ）引渡しを要するもの及び引渡し場所・引渡を要するもの・引渡し場所
ロ）特別管理産業廃棄物の有無 ○有 ・ 無
ハ）特別管理産業廃棄物の処理方法 ※図面 番 図参照
3）発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは下記による。
・現場で再利用を図るもの ・
・再資源化を図るもの ・
4）せっこうボードの処理（有害物質非含有のものに限る） [1.3.12]
○最終処分 ・ 再資源化
5）PCB含有シーリング材分析調査 ・する ※しない [1.3.12]
6）建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無 ・有 ・ 無

④ 電気保安技術者

※ 適用する [1.3.3]

⑤ 施工条件

・仮設住宅と隣接しているため安全には十分配慮すること [1.3.5]

6 施工調査

施工数量調査 [1.6.2]
調査範囲 ・
調査方法 ・
調査破壊部分の補修方法 ・

⑥ 建築材料等

1）本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものとす。
①「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料等品質性能評価事業建築材料評価名簿（最新年版）」（（社）公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承諾を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。
②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からへ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等以上を使用する場合は、監督員の承諾を受ける者とする。
イ）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
ロ）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
ハ）安定的な供給が可能であること。
ニ）法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。
ホ）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
ヘ）販売保守等の営業体制が整えられていること。
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出し承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合にはこの限りではない。
2）請負契約約款第6条の2第7項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出すること。
3）請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。
※杭 ・ 型枠類 ・ 防水材料 ・ 石材 ・ 木材 但し、杭以外のJIS規格品は除く。
4）請負契約約款第14条第1項に定める監督員等の立会いのうえ調合等を使用すべき工事材料は次のものとする。
※高強度コンクリート試し練り
5）請負契約約款第14条第3項に定める見本は次のものとする。
・金属製品 ・ 合成樹脂製品 ・ 木製建具 ・ 塗装
・家具及び家具の金物 ・ 量 ・ 内外装材料 ・ 屋根材料
なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。
6）本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないこと。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の令を改正する省令の施行等について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年8月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。

⑦ 特別な材料の工法

「標仕」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。

⑧ 技能士等

※ 技能士 [1.7.2]

通用工事種別

技能検定作業

仮設工事 ○とび作業

鉄筋工事 ○鉄筋組立て作業

コンクリート工事 ○型枠作業 ○コンクリート圧送工事作業

鉄骨工事 ○構造物鉄工作业 ○とび作業

ブロック・ALCパネル工事 ・コンクリートブロック工事作業 ○エーエルシーパネル工事作業

防水工事 ○アスファルト防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業
・改質アスファルトシートーーチ工法防水工事作業
・セメント系防水工事作業 ・FRP防水工事作業
・合成ゴム系シート防水工事作業 ・ウレタンゴム塗膜防水工事作業
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ○シーリング防水工事作業

石工事 ・石材加工作業 ・石張り作業 ・石積み作業

タイル工事 ○タイル張り作業

木工事 ・大工工事作業

屋根及びとい工事 ○内外装板金作業 ・かわらぶき作業

金属工事 ○鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業

左官工事 ・左官作業

建具工事 ○ビル用サッシ施工作業 ・自動ドア施工作業 ○ガラス工事作業

カーテンウォール工事 ・金属製カーウォール工事作業 ・ビームサッシ施工作業 ・ガラス工事作業

塗装工事 ○建築塗装作業

内装工事 ○プラスチック系床仕上げ工事作業
・カーペット系床仕上げ工事作業 ・木質系床仕上げ工事作業
○ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業

排水工事 ・建築配管作業

機軸工事 ・造園工事作業

・「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金沢城公園整備工事従事者の認定を受けた者。

⑨ 完成図等

※作成する [1.9.1~3][表1.9.1]
工事完成図は、A3版製本（※1部 ・ 2部 ・ 部）を提出する。
屋外付帯工事実測図 ※提出しない ・ 提出する（1部）
保全に関する資料 ※提出しない ・ 提出する（1部）
保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き（改訂版）」（（一財）建築保全センター）に建物の構造、機器、保安業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。
なお別契約の設備工事等がある場合は、連携の上作成する。

⑩ 工事写真等の記録

1）工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和3年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部）により整備し、下記により提出する。また、本仕様書の「第1章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。
各区分の写真は、A4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。

区分	分類	大きさ	撮影枚数	部数
着工前	※カラー	※100×148程度	※4景以上	※1部
工事中	※カラー	※85×115程度	「営繕工事写真撮影要領」による	※1部
完成時	※カラー	※100×148程度	※4景以上	※1部 ・

2）完成写真の撮影 ・専門業者の撮影（撮影者を明記） ・専門業者以外の撮影
3）原版の使用権を次の者に移譲すること。 ※発注者 ・ 設計者
移譲を受けた者は、写真を撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。
撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。
4）中間検査または、監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

⑪ 責任施工

特記事項中、責任施工の指示のあるものは、受注者及び下請負人の連帯責任とし、保証書を提出する。

⑫ 工事報告書

工事の進捗度表、作業員の出勤報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末毎に提出する。

⑬ 設備工事との取合い

1）設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。
2）設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。なお箇所等は、下記による。

位置／大きさ	100mm	125mm	150mm	175mm	200mm				
補強筋箇所数	梁								
	壁								
	床								

鉄骨部のスリーブ及び補強は本工事に含むものとする。
軽鉄下地で天井、壁等の補強は本工事に含むものとする。なお箇所数は、下記による。
イ）天井部分 箇所 〇 壁部分 箇所

他工事との取合い	建築工事	電気工事	機械工事	備考
機器の基礎、換気取付用枠			○	
梁、床、壁貫通部の補強		○		
梁、床、壁貫通部のスリーブ、型枠			○	○
外気取付ガリャー、床下水槽マンホール蓋	○			ガリャーは、立面図に図示
ステンレス流し台等	○			排水トラップ共
換気フード、レンジフードファン	○			建築図に図示
取付枠（鋼製）とも				ダクト接続は設備工事
天井、壁、床、点検口、プロパンボンベ庫	○			
下流し、足洗場の給水、排水、玄関の排水			○	
小便器仕切板（陶器製）、タオル掛（下地共）			○	
洗面所、手洗所等の鏡	○			特殊なものは、建築工事
ボイラーの煙突	○	○		鋼板製は、機械設備工事
実験台に付属する設備機器	○		○	○
実験台の配管等の接続			○	○
埋込み分電盤、端子盤等の壁補強	○			
埋込み分電盤、端子盤等の空枠		○		
天井、壁ボード類の下地補強	○			量出し、ギード類切り込みは、設備工事
簡易間仕切り（内装パネル）内の位置ボックス及び配管の取付	○			
屋内・屋外に設置する発電機、配電盤、制御盤、受水槽、ポンプ等の基礎、防油堤	○			
屋上に設置するテレビアンテナ・避雷針等の設備基礎	○			屋根伏図に図示
配線ヒット及び重	○			
照明器具幹線等の吊りボルト用インサート		○		
身体障害者用の手すり	○			
洗濯機用防水パン及びトラップ			○	
F F暖房機・クーラー等の配管用スリーブ	○			
電話・テレビ等の配線用スリーブ		○		
クーラー取付ボルト用インサート	○			建築図に図示
ユニットバス本体・付属品（シャワー金具・手すり・鏡・照明）	○			配管接続以降は設備工事
ユニットバス用換気扇			○	
消火器	○			公共住宅に適用
自動扉、電動S、電動ルーバー、	1 次側配線	○		機器は建築工事
防火設備の閉鎖制御機器、感知器	2 次側配線	○		
地下タンク室	○			

⑭ 設計GL

※図示 ・ 設計GL＝現状GL

⑮ 建築基準法に基づき指定する条件

・地区の区分に応じた風速（V（m/sec）） 30（県内全域）
・地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ○Ⅲ ・Ⅳ
・多雪地域の指定 垂直積雪量 1.0m

⑯ 工事現場の掲示板

工事現場には、下記掲示板を設置する。（記入例）

90cm	
工 事 名	
発注者 石川県土木部営繕課	
（監 修）	
設 計	
監 理	
上段の地色は、白色 文字は、青色	60cm（75cm）
下段の地色は、青色 文字は、白色	

（注意事項）
①（監 修）内は、監修を委託した場合。
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
③工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

⑰ 施工の検査等

監督員等の検査を受ける工種は次のものとする。 [1.7.5]
※根切り掘削完了時 ※主要構造部の配筋 ○型枠の組立て
その他監督員が指示するもの

⑱ 施工の立会い等

請負契約約款第14条第2項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。 [1.7.7]
※杭打ち ・コンクリートスランプ確認及び打込み ・屋外タイル圧着試験
その他監督員等の指示するもの

20 中間検査

中間検査の実施 ※有 ・ 無 [1.8.2]
実施時期 ※躯体工事完了時 ・

⑳ 公共事業労務調査等に対する協力

・受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
1）調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
2）調査票等を提出した事業所が発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
3）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
4）対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。
・本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。

㉑ 保 険

工事目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。
※建設工事保険又は組立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く）
加入期間 引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

23 室内空気汚染対策

室内空気汚染対策の実施 ※実施する ・ 実施しない [1.7.9]
1）測定の有無等
測定する場合は、下記の通り揮発性有機化合物について室内温度を測定し、厚生労働省の定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
イ）測定の有無 ※有 ・ 無
ロ）測定対象室
測定は原則として、内装仕上げ材料の仕様が大きく異なる居室毎に行う。ただし、居室の規模が著しく異なる場合は、それぞれ実施する。
内装改修等を行った居室について測定を行う。
ハ）1室当たりの測定箇所数

室の床面積 A（㎡）	A ≤50	50<A ≤200	200<A ≤500	500<A
測定箇所数	1	2	3	4

全ての測定箇所において、二）の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。
二）測定対象化学物質及び測定方法
測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びブチレンとし、同時に測定する。測定方法は、バッシュ型採取機器を用い、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長通知（平成24年4月5日官営整第4号）「官庁営繕部におけるホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。
ホ）測定時期
測定は下記の時期に行うものとする。
①測定対象化学物質が、関連工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度になった時期。
②別途工事又は家具の設置等が行われる前。
③内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
④中央式空調と設備のように換気を行いながら空調調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していること。
ヘ）測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置
測定結果が労務省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
ト）その他、採取、測定及び分析の方法は、上記二）の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。
2）施工中・施工後の通風、換気
接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分にに行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図るものとする。
3）引き渡し時
室内空気中に化学物質を放散するおそれのある建築材料等の使用状況の一覧表を提出する。
4）揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のイ）からホ）の事項を満たすものとする。
イ）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ロ）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びブチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ハ）接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシンを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ニ）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ホ）上記のイ）、ハ）、ニ）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
※「規制対象外」のもの
①JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJAS規格品
ア）非ホルムアルデヒド系接着剤使用
イ）接着剤等不使用
ウ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用
エ）ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
オ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
カ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
・「第3種」のもの
①JIS又はJASのF☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品
③旧JISのE0規格品

㉒ 名札の着帯

現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（但し、請求額1,000万円以上の工事）

17mm	7mm
15mm	40mm
10mm	6mm
13mm	91mm

（注意事項）
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（カラー写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

㉓ 施工体制台帳の作成等

当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げること。

設計

工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事
図面名 建築改修工事仕様書 その1 図面番号 CS-10

[illegible]

4

浮き部改修工法

モルタルを撤去しない場合

[4.1.4][4.3.5][4.3.11～16][表4.3.5～6]

改修工法の種類	7カペンの本数 (本/m ²)		注入口の箇所数 (箇所/m ²)		充填量 又は注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25
・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25
・アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※50
・注入口付アンカーピン ン部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25
・注入口付アンカーピン ン全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付アンカーピン ン全面 ポリマーセメントスリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※50

アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径 4 mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径 6 mm

4章－4

タイル張り仕上げ外壁改修工事

項 目 特 記 事 項

1

既存タイル張りの撤去

・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲
撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで

2

ひび割れ部改修工法

改修箇所 ※既存タイル張り面
・既存タイル撤去面（ ・コンクリート面 ・モルタル面）
※樹脂注入工法

[4.1.4][4.2.5][4.4.5～6]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注 入 量 (ml/m)
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3以下	※50～100	※40
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3超え～0.5以下	※100～200	※70
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5超え～1.0以下	※150～250	※130

注入材料 [4.4.5]
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A 6024低粘度形又は中粘度形）
検査（コア抜き取り） ※行わない [4.2.5]
・行う（抜き取り部の補修方法： ）
・リカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4][4.2.4][4.2.6]

充填材料	種 別	備 考
・シーリング材	※1 成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂	4.2.4による	

3

欠損部改修工法

・タイル部分張替え工法
張付け材料
※ポリマーセメントモルタル
・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化形の変成シリコン樹脂系）

・タイル張替え工法
張付け材料
・張付けモルタル（・現場調査 ・既調査）
・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化形の変成シリコン樹脂系）

4

浮き部改修工法

タイルを撤去しない場合

[4.1.4][4.4.5][4.4.9～15][表4.3.5～6]

改修工法の種類	7カペンの本数 (本/m ²)		注入口の箇所数 (箇所/m ²)		充填量 又は注入量 (ml/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部	
・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25			※25
・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25
・アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスリー注入工法	※13	※20	※12	※20	※50
・注入口付アンカーピン ン部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16			※25
・注入口付アンカーピン ン全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25
・注入口付アンカーピン ン全面 ポリマーセメントスリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※50
・注入口付アンカーピン ン全面 ポリ樹脂注入工法固定工法	※9	※16	※9	※16	※50

アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径 4 mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径 6 mm

4章－5

仕上塗材仕上げ外壁改修工事

項 目 特 記 事 項

1

既存塗膜等の除去及び下地処理

既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法

[4.5.4][4.5.4～7]

工 法	処 理 範 囲	ひび割れ部等の補修
※サンダー工法	※既存仕上げ面全体	・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体	・浮き部改修工法
・塗膜はく剝離工法	※既存仕上げ面全体	・欠損部改修工法
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体	

2

下地調整材

※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル

[4.5.4]

3

マスキング塗料塗り

種別及び仕上処理仕上げ

[4.6.2][表4.6.1]

種別	仕 上 げ	仕 上 材 塗 り
・A種	・凸面処理仕上げ	・アクリル樹脂エナメル
・B種	・	・つや有合成樹脂エマルションペイント

5章 建具改修工事

項 目 特 記 事 項

①

一般事項

①改修工法 ○かぶせ工法 ・撤去工法
新規建具周囲の補修工法及び範囲
②防犯建物部品 ※建具表による
③防火戸

[5.1.3]
[5.1.7]
[5.1.4]

防火性能	防火設備 (建具番号)		特定防火設備 (建具番号)		
	防火戸の閉鎖機構	・自動閉鎖機構 (建具番号)	・ヒューズ装置と連動 (建具番号)	・熱感知器と連動 (建具番号)	
		・自動閉鎖機構 (建具番号)	・ヒューズ装置と連動 (建具番号)	・熱感知器と連動 (建具番号)	
		・煙感知器と連動 (建具番号)			

②

アルミニウム製建具

④見本の製作等
・建具見本の製作（建具番号）
・特殊な建具の仮組（建具番号）
⑤建具回り等の充填モルタル
防水剤（モルタルに混入する防水剤の品質）
項 目 混合割合 凝結及び安定性（JIS R 5201） 曲げ及び圧縮強度（％） 吸水比（％） 透水性（％）
品 質 セメント質量の5％以下 始発1時間以上 終結10時間以内 そりがないこと

[5.1.5]
[6.15.3]

種 別	S	4	※A	3	※W	4	※70(注)共		
○B種	S	5							
○C種	S	6	A	4	W	5	100		

防音ドアセット ※適用は建具表による
断熱ドアセット ※適用は建具表による
耐震ドアセット ※適用は建具表による

表面処理 [5.2.4][表5.2.2]

施工箇所	種 別	色合い等
外部建具	※B	B－1種 無着色
	・B	B－2種 ※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）
	・	・
内部建具	※AC	1種又はBB－1種 無着色
	・AC	2種又はBB－2種 ※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）

3

網戸

防虫網
網の種類 ・合成樹脂製 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316）
形式 ※外部可動式 ・固定式

[5.2.3～4]

4

樹脂製建具

1）外部に面する建具の性能値等 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1]
種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み (mm) 施工箇所
・A種 S－4 ※W－4 ・60 ・80
・B種 S－5 A－4 W－5 ・100
・C種 S－6 W－5 ・125
2）表面色 ※白色（ ・ ） [5.3.4]
3）ガラス ※複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス [5.3.3]

5

鋼製建具

1）簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値 [5.4.2][表5.4.1]
※適用する（適用箇所は建具表による）
2）外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][表5.2.1]
・S－4 ・S－5 ・S－6
3）材料 ※JIS G3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
4）鋼板厚の厚さ（1枚の戸の有効開口幅 950mm、又は有効高さ 2,400mmを超える場合）
※下表以外は表5.4.2による [5.4.4][表5.4.2]

区 分		使 用 箇 所	厚 さ (mm)
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3
	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3
出入口	戸	中骨	2.3

・ 図示

6

標準型鋼製建具

簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.4.2][5.4.6]
※適用する（適用箇所は建具表による） [表5.4.1]
外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1]
耐風圧性 施 工 箇 所
・S－4
・S－5
・S－6

7

鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.5.2]

8

標準型鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.5.2][5.5.6]

9

ステンレス製建具

簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.4.2][5.5.6.2]
外部に面する建具の耐風圧性 [表5.4.1][表5.2.1]
耐風圧性 施 工 箇 所
・S－4
・S－5
・S－6

10

木製建具

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 [5.7.2]
※規制対象外 ・第三種
フラッシュ戸の表面材の種類
※天然木化粧合板
かまち戸の樹種 かまち（ ・ ） 鏡板（ ・ ） [16.7.2]
ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・鳥の子 [表5.7.3]
枠及び錠ずりの材料 [5.7.2]
枠 ※木製枠 ・鋼製枠
錠ずり ・木製 ・ステンレス製

①

建具金物

1）材質、形状及び寸法 [5.8.2][表5.8.1]
シリンダーサイド 外側 ・ ※シリンダー
内側 ※サムターン
軸吊りヒンジの自閉装置機能 ・適用する ・適用しない
ドアクローザーのディレードアクション ・適用する ・適用しない
戸当りのおとり止め付き ・適用する ・適用しない
レバー・ハンドルのバックセット ・ ※64mm
2）錠
マスターキー ・製作する ※製作しない（但し既設マスターキーに合わせる） [5.8.4]
3）錠箱 ・適用する

12

自動ドア開閉装置

自動ドアの開閉機構 [5.9.2][表5.9.4]
開閉方法 検出装置の種類
※スライディングドア ・電波センサー ・タッチスイッチ
・スイングドア ・熱線センサー ・音波センサー ・押しボタンスイッチ
・多機能トイレスイッチ ・光電センサー
凍結防止措置 ・行う（ ・ ） ・行わない [5.9.2]

13

重量シャッター

1）形式及び機構 [5.11.2][表5.11.1]
種 別 開閉機構 危害防止機構 シャッターネス
・管理用シャッター ※上部電動式 ※障害物感知装置 ※設ける
・外壁用防火シャッター（手動併用） ・（自動閉鎖型） ・設けない
・屋内用防火シャッター ・上部手動式
・防煙シャッター
外部に面するシャッターの耐風圧強度 ・耐風圧性能 N/m²

14

軽量シャッター

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） [5.12.2][表5.12.1]
外部に面するシャッターの耐風圧強度
耐風圧性能（ ） N/m² [5.12.2]
スラット 厚さ (mm) ※0.5 ・0.8 [5.12.3][表5.12.2]
材質 ※ JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鋼帯）
・ JISG3322（塗装溶融55%Zn-5%Al-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯）
形状 ※ インターロッキング形 オーバーラッピング形 [5.12.4]
ガイドレール 形 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm） [表5.12.2]

15

オーバヘッドドア

形式及び機構 [5.13.2～3][表5.13.1]
セクション材料 開閉方式 収納形式 ガイドレールの材料
※スチールタイプ ※バランス式 ・溶融亜鉛めっき鋼板
・アルミニウムタイプ ・チェーン式 ・ローヘッド形 ※ステンレス鋼板
・ファイバーグラスタイプ ・電動式 ・ハイルフト形（SUS304）
・パーチカル形
耐風圧性能（ ） N/m² [5.13.2]
ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。
・合わせガラス
特性による種類 ※Ⅱ－1類 ・（JIS R 3205）
・強化ガラス
材料板ガラスによる種類 衝撃特性による種類（JIS R 3206）
※フロート強化ガラス Ⅱ類（曲面は1類）
○型板強化ガラス
・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類 日射熱取得率 色 調
※熱線吸収フロート板ガラス 2種 ・ブルー ・グレー ・ブロンズ
・グリーン
・複層ガラス
種 別 断熱性、日射遮蔽性による区分
・断熱複層ガラス ※Ⅲ－1 ・Ⅲ－2 ・Ⅲ－1 ・Ⅲ－2
・日射熱遮蔽複層ガラス ・E 4 ・E 5
・熱線反射板ガラス
品 種 反射皮膜面 材料板ガラスの種類 色 調 映像調整
※熱線反射ガラス ※内面 ・外面 ・フロート板ガラス ・ブルー ※行わない
・高性能熱線反射内面 ・熱線吸収フロート板ガラス ・グレー ・ブルー
ガラス ・強化ガラス ・ブロンズ ・シルバー
・倍強度ガラス
材料板ガラスによる種類の名称 色 調
※フロート倍強度ガラス
・熱線吸収倍強度ガラス ・グレー ・ブルー ・ブロンズ

①

ガラス

ガラス留め材 [5.13.2][表3.7.1]
建具の種類 種 類
アルミニウム製 ※シーリング材 ・ガasket（F1X部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製 ※シーリング材
ステンレス製 ※シーリング材

③

ガラス溝

板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.14.3]
※「改修標仕」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等
が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。

19

ガラスブロック積み

ガラスブロック [5.14.5]
寸法 (mm) 表面形状 性能等
呼び寸法 厚さ 色 調 パターン 防火性能 耐火性能
※クリア ・ ※無し ・ ※無し
・
壁用金属枠及び補強材 [5.14.5]
壁用金属枠の種類 規格及び補強材等
※アルミニウム製 ※改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・
化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 [5.14.5]
シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1]
下表以外は改修標仕表3.7.1による
被着体の組合せ シーリング材の種類
記号 主成分による区分 耐久性による区分
ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。

20

ガラス用フィルム

名 称 記 号 張り面
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム GI
・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム GD ※内張り ・外張り
・
品質 JIS A 5759による

6章 内装改修工事

項 目 特 記 事 項

①

床改修一般事項

1）工法 [6.2.2]
(1)ビニル床シート等の除去
※仕上げ材のみ（接着剤とも） ・下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て）
合成樹脂塗布床材の除去工法
・機械的除去工法 ・目荒工法
(2)改修後の床清掃範囲 ※改修箇所の室内

②

壁改修一般事項

1）工法 [6.1.3][6.3.2]
(1)既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲
※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
(2)天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲
※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う
・図示の範囲
(3)間仕切壁撤去に伴う他の構造物の補修
※図示
・モルタル塗り
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置
・適用する（範囲は図示）
※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る
・図示
2）新設壁下地 ・木製壁下地 ・軽量鉄骨壁下地

3

天井改修一般事項

1）工法 [6.1.3][6.4.2]
(1)天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修
※既存のまま ・図示の範囲
2）新設天井下地 ・木製天井下地 ・軽量鉄骨天井下地

④

ビニル床シート張り

材料 [6.8.2]
種 別 JISの記号 色 柄 厚さ・高さ (mm)
※発泡層のないもの ※F S ※無地 ・マーブル柄 ※2.0 ・2.5
・発泡層のあるもの ・H S ※柄物 ・無地 ・
・ ・ ・
・ ・ ・
・ビニル幅木 ※60 ・
工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ） [6.8.3]

5

ビニル床シート張り

材料 [6.8.2]
ビニル床タイル
種 別 JISの記号 厚さ・高さ (mm)
※コンポジションビニル床タイル（半硬質） K T ※2 ・
・複層ビニル床タイル F T ・
・
・ビニル幅木 ※60 ・
視覚障がい者用床タイル
※塩化ビニル系 ※300×300 ブロックパターンは
・磁器又はセラミックス JIS T 9251による
帯電防止床タイル
種 別 厚 さ 性 能
・コンポジションビニル床タイル ※2.0 体積抵抗値（JIS K 6911による）
・ホモジニアスビニル床タイル ※4.0又は4.5 1.0×10⁹Ω以下、または、
・ 漏えい抵抗値（JIS A 1454による）
1.0×10¹⁰Ω未満

⑥

接着剤

木工事に使用する接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性とする。 [6.5.3～4][6.8.2][6.9.3]
壁紙施工用でん粉系接着剤、コリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種 [6.11.4～5][6.13.2][6.14.2][6.16.4]

⑦

床板張り用合板等

ホルムアルデヒドの放散量 [6.5.2]
※規制対象外 ・第三種
下張り用床板及び畳下床板の材料 [6.5.2][表6.5.8]
使用区分 材 料 厚 さ (mm)
下張り用床板の材料 ※合板 [G] ※12
畳下床板 ・パーティクルボード [G] ・
・繊維板（MDF） [G] ・

8

合成樹脂張り床

種 別 仕上げの種類
・弾性ウレタン樹脂系塗床材 ※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・エポキシ樹脂系塗床材 ※薄膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑）
・厚膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑）
・樹脂モルタル工法（※平滑 ・防滑）
薄膜型 ・エポキシ樹脂系塗床材 ※平滑仕上げ ・

9

フローリング張り

材料、工法 [6.11.2～6][表6.11.1～6]
品 名 樹 種 工 法 厚 さ (mm) 大きさ寸法 (mm) 種 別
・フローリングボード ・なら ・釘留め工法（根太張） ※2.0 ・巾75 長さ400以上
・ひのき ・釘留め工法（直張り） ・12以上 ・
・ふな ・接着工法 ・8以上 ・
・フローリングブロック ・能登ひば 緩衝材裏打 ・ ・
・複合フローリング ・ ・ A種 ・B種 ・C種

10

畳敷き

材料 [6.12.2][表6.5.8][表6.12.1]
下地の種類 畳の種類
「改修標仕」表6.5.8による床組 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種（畳床・）
タタミフローラム床下地 ※C種 ・D種（畳床・）

11

カーペット敷き

材料 [6.9.2～3]
防火性能は、消防法で定める防火性能を有し、登録されたものとする。
・織じゅうたん [6.9.3][表6.9.1]
織り方 種別 バイル形状 色 柄 帯電圧
・タタミカーペット ・A種 ・カットバイバル ※単一色（無地） 人体帯電圧
・タタミカーペット ・B種 ・ループバイバル ・柄物（標準色） ※3kV以下
・タタミカーペット ・C種 ・カット、ループ併用 ・ ・
・タタミカーペット [6.9.3][表6.9.2]
バイバル形状 バイル長 (mm) 工 法 帯電圧
・カットバイバル ※5～7 ・ ※全面接着工法 人体帯電圧
・ループバイバル ※4～6 ・ グリッパー工法 ※3kV以下
・レベルループバイバル ※4 ・
・カット、ループ併用 ・
・タタミカーペット [6.9.3][表6.9.2]
種別 バイル形状 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 帯電圧
※第一種 ※ループバイバル ※500×500 ※6.5 ・ 人体帯電圧
・第二種 ・カットバイバル ・ ※3kV以下
・カットループ バイル

12

木下地等

1）県産材の使用
能登ヒバ、杉は、県産材とし、代用樹種は認めない [6.5.2]
2）木材の品質 ※「改修標仕」6.5.2による ・市販品 [6.5.2]
保存処理木材の適用箇所は「改修標仕」6.5.6(1)(4)による [表6.5.2]
樹種
土台、水掛り枠類 見え掛り部分 見え隠れ部分 備 考
下地材 ・檜・能登ヒバ・草根 ・松 ・檜 ・杉 ・松 ・杉
（柱等を含む）
造作材 ・檜・能登ヒバ・草根 ・松 ・檜 ・杉 ・ラワン材
・能登ヒバ ・ラワン節 防虫処理
板 材 ・ ・ ・ ・
3）集成材 [6.5.2][表6.5.1]
造作用集成材
品 名 見付け材面の品質 樹 種 名
※1等 ・2等 ※たも ・なら ・しおじ ・
化粧ばり造作用集成材
品 名 見付け材面の品質 化粧薄板樹種名 化粧薄板の厚さ (mm)
※1等 ・2等
造作用単板積層材
品 名 表面の品質 防虫処理
・天然化粧化粧材 ・する
・塗装加工あり ・化粧加工なし（ 等） ・しない

設 計

工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事
図面名 建築改修工事仕様書 その3 図面番号 CS-12

[illegible]

7	完全溶込み溶接部の試験	1) 現場溶接 ※全て	(7.6.12)
		2) 工場溶接 A O Q L 検査水準 ※4.0% ※第6水準 ・2.5% ・図示 (7.6.12)(表7.6.2~3)	
8	耐火被覆	検査の種類	試験 箇所 試験方法
		・超音波探傷試験	※「標仕」7.6.12(イ)による ・図示
9	アンカーボルトの保持及び埋込み工法	・放射線試験	
		・マクロ試験	
10	柱底均しモルタル工法	(7.9.2~8)	
		種 別 所要性能及び適用構造区分	
11	溶融亜鉛めっき工法	・ラス張りモルタル塗り	
		・耐火材 吹付け ○乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール	
12	スカラップ	・耐火板張り	
		・耐火材巻付け	
13	溶接条件	・耐火塗料	
		・構造用アンカーボルト () ○埋方用アンカーボルト (・A種 ※B種 ・C種) (7.10.3)(表7.10.1)	
14	仮組	※A種 ・B種 (7.10.3)(表7.10.2)	
		・改良型スカラップ ・ノンスカラップ (7.6.7)	
15	錆止め塗装	1) 入熱、バス間温度の溶接条件 適用箇所 ・図示 ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部	
		2) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件	
16	危険物貯蔵所	鋼材の種類	溶接材料の規格 溶接材料の種類 入 熱 バス間温度
		400N級炭素鋼	JIS Z 3312 YGW-11, YGW-15 YGW-18, YGW-19 30kJ/cm以下 450℃以下 JIS Z 3313 T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U 30kJ/cm以下 350℃以下 JIS Z 3211 引張強さが570MPa以上のものを除く。 40kJ/cm以下 350℃以下 JIS Z 3214 引張強さが570N/mm2以上のものを除く。 40kJ/cm以下 350℃以下 JIS Z 3315 YGA-50W, YGA-50P 30kJ/cm以下 250℃以下
17	足場	400N級炭素鋼	JIS Z 3312 YGW-11, YGW-15 YGW-18, YGW-19 30kJ/cm以下 250℃以下 JIS Z 3313 T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U 30kJ/cm以下 350℃以下
		490N級炭素鋼 (STKR及びBCPに限る。)	JIS Z 3312 YGW-18, YGW-19 30kJ/cm以下 250℃以下 JIS Z 3313 T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U 30kJ/cm以下 250℃以下
18	危険物貯蔵所	・行方 ○行わない (7.3.10)	
		耐火被覆材の接着する面の塗装 ○行方 (※「標仕」18.3.2による ・ ・行わない (7.8.2)	
19	危険物貯蔵所	設計	工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事 図面名 建築工事仕様書 その2 図面番号 CS-15

[illegible]

16 章 建 具 工 事

項 目

1 見本の製作等

・特殊な建具の取組等（建具番号：（16.1.4））

2 防犯建物部品

※建具表による（16.1.6）

③ アルミニウム製建具

1）外側に面する建具の性能値等（16.2.2）（16.2.4）（表16.2.1）
種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み（mm） 施工箇所
・A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※70（注）共
・B種 S-5 ・
・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・100
（注）引違い、片引き、上げ下げ窓で複層ガラスの時は、100mmとする。
2）表面処理（16.2.4）（表14.2.1）
施工箇所 種 別 色合い等
外部建具 ※BB-1種 無着色
・BB-2種 ※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）
・
内部建具 ※AC-1種又はBB-1種 無着色
・AC-2種又はBB-2種 ※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）
3）防音ドアセット ※適用は建具表による
4）断熱ドアセット ※適用は建具表による
5）耐震ドアセット ※適用は建具表による

4 樹脂製建具

1）外側に面する建具の性能値等（16.3.2）（16.3.4）（表16.3.1）
種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み（mm） 施工箇所
・A種 S-4 ※W-4 ・60 ・80
・B種 S-5 ・A-4 ・W-5 ・100
・C種 S-6 ・125
2）表面色 ※白色 ・（ ）
3）ガラス ※複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス（16.3.3）
防虫網
イ）網の種類 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316）
ロ）形 式 ※外部可動式 ・固定式
6 鋼製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値
※適用する（適用箇所は建具表による）（16.4.2）（表16.4.1）
2）外側に面する建具の耐風圧性
・S-4 ・S-5 ・S-6
※施工箇所は建具表による（16.4.2）（表16.2.1）
3）鋼板類の厚さ（1枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,400mmを超える場合）
※下表以外は表16.4.2による。（16.4.4）（表16.4.2）
区 分 使用箇所 厚さ（mm）
窓 枠類 外部の下枠、水切り板 2.3
出入口 枠類 外部に面するスイングドアの建具 2.3
戸 中骨 2.3
・図示
7 標準型鋼製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値
※適用する（適用箇所は建具表による）（16.4.2）（表16.4.1）
2）外側に面する建具の耐風圧性
・S-4 ・S-5 ・S-6
※施工箇所は建具表による（16.4.2）（表16.2.1）
3）鋼板類の厚さ（1枚の戸の有効開口幅950mm又は有効高さ2,400mmを超える場合）
※下表以外は表16.4.2による。（16.4.4）（表16.4.2）
区 分 使用箇所 厚さ（mm）
窓 枠類 外部の下枠、水切り板 2.3
出入口 枠類 外部に面するスイングドアの建具 2.3
戸 中骨 2.3
・図示
8 鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による（16.5.2）
9 標準型鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット性能値の適用は建具表による（16.5.2）（16.5.6）
10 ステンレス製建具

1）簡易気密型ドアセット性能値
※適用する（適用箇所は建具表による）（16.4.2）（表16.4.1）
2）外側に面する建具の耐風圧性
・S-4 ・S-5 ・S-6
※施工箇所は建具表による（16.4.2）（表16.2.1）
3）表面仕上げ ※H.L仕上げ ・No8鏡面仕上げ ・（16.6.4）
4）曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（補強あり）（16.6.5）
11 木製建具

1）建物内部の木製建具に使用する表面剤及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種
2）フラッシュ戸の表面材の種類
※難燃合板 ・
3）かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ）
4）ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・鳥の子
5）枠及び靴ずりの材料
枠 ※木枠 ・
靴すり ※ステンレス ・木製
⑫ 建具用金物

1）マスターキー ※製作する ・製作しない（16.8.4）
2）建具用金物（表16.8.1）
金物の種類 製造所
シリンドー箱錠 シリンドー本締まり錠 「評価名簿」による
ドアクローザ、ヒンジクローザ、フロアヒンジ

13 自動ドア開閉装置

1）自動ドアの開閉機構（16.9.2～3）（表16.9.1～6）
開閉方法 検出装置の種類
※スライディングドア ※光線（反射）センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ
・スイングドア ・熱線センサー ・音波センサー ・押しボタンスイッチ
・多機能トイレスイッチ ・光電センサー
2）凍結防止措置 ※行わない ・行う（ ）
3）製造所 大型回転自動ドア機構のみ「評価名簿」による。（16.9.3）
14 自閉式上吊り引戸装置

製造所「評価名簿」による（16.10.2）

17 章 カーテンウォール工事

項 目

1 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。（17.2.2）
カーテンウォール材料の種類（17.2.2）
種 別 規格等
※アルミニウム製 ※「標仕」16.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・
カーテンウォール方式
・方立方式
・バックマリオン方式（・単純2辺支持構法 ・SSG構法）
・スパンドレル方式
・パネル方式
・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式 ・ユニット方式）
シーリング材及びガラス取付け材料
下記以外は「標仕」表9.7.1による。（17.2.2）（表9.7.1）
被着体の組合せ シーリング材の種別
記号 主成分による区分 耐久性による区分
金属 ガラス
石、タイル
ガラス
構造ガasket ※適用しない（17.2.2）
・適用する（施工箇所：）
断熱材 ※適用しない（17.2.2）
・適用する（種類： 厚さ（mm）：施工箇所※図示）
製品の寸法許容差 ※下記以外は「標仕」表17.2.1による。（17.2.3）（表17.2.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による。
アルミニウムの表面処理（17.2.3）（表17.2.1）
種 別 色合い等
・AB-1種 ・BB-1種 無着色
・AB-2種 ・BB-2種 ※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー
・着色塗膜 塗装材料（ ）焼付け方法（ ）コート（ ）ペーク
耐風圧性能（17.1.3）
性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧 N/㎡以上及び負圧 N/㎡以上に対して安全であること。
主要部材のたわみ
支点間距離（h） たわみ量 状 態
※4m以下 ※±（1/150）×h かつ絶対量20mm以下 ※各部の破損、残留変形
有害な変形が起らないこと
・4mを超える
耐震性能（17.1.3）
設計用震度 水平方向（K_H） ※1.0 ・
垂直方向（K_V） ※0.5 ・
構造種別 許容層間変位量（h=支点間距離） 変位後の状態
鉄骨造 ※±（1/100）×h以上 ※部材・ガラス等の損傷、破損及び
脱落が起らないこと
鉄筋コンクリート造 ※±（1/200）×h以上 ※主要部材に有害な歪みが起らないこと
鉄骨鉄筋コンクリート造 ・ シーリングの損傷は補修程度
水密性 ・W-4 ・W-5（17.1.3）（表16.2.1）
気密性 ・A-3 ・A-4（17.1.3）（表16.2.1）
耐火性能 ※適用しない ・適用する（ 時間、施工箇所：図示）
映像調整 ※行わない ・行う（建具表による）
2 PCカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。（17.3.2）
コンクリートの種類及び品質
※「標仕」17.3.2による。
・下表による。ただし下表以外は17.3.2による。
コンクリートの種類 設計基準強度（F_o） 所要スランブ（cm）
鉄筋 ※SD295
取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質
下記以外はカーテンウォール製作所の仕様による。（17.3.2）（表14.2.2）（表14.2.2）
金物種類及び部位 内 部 外 部
PC板打込み金物 ※E種 ・ ※A種 ・
PC板打込み取付けボルト ※E種 ・ ※ステンレスボルト
2次ファスナー ※E種 ・ ※A種 ・
取付けボルト ※E種 ・ ※A種 ・
レベル調整ボルト ※E種 ・ ※A種 ・
・
シーリング材料
下記以外は「標仕」表9.7.1による。（17.2.2）（表9.7.1）
施工箇所 シーリング材の種別
記号 主成分による区分 耐久性による区分
カーテンウォール板間目地
断熱材 ※適用しない（17.2.2）
・適用する（種類： 厚さ（mm）：施工箇所※図示）
製品の寸法許容差 ※下記以外は「標仕」表17.3.1による。（17.3.3）（表17.3.1）
・製造所標準製作規定寸法許容差による。
表面仕上げ（ ）
耐火材料
施工部位 種 別 規格等
・ファスナー部
・取付けブラケット
・パネル目地部
・層間ふさぎ
耐風圧性能（17.1.3）
性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。
・正圧 N/㎡以上及び負圧 N/㎡以上に対して安全であること。
耐震性能（17.1.3）
設計用震度 水平方向（K_H） ※1.0 ・
垂直方向（K_V） ※0.5 ・
構造種別 許容層間変位量（h=支点間距離） 変位後の状態
鉄骨造 ※±（1/100）×h以上 ※部材・ガラス等の損傷、破損及び
脱落が起らないこと
鉄筋コンクリート造 ※±（1/200）×h以上 ※シーリングの損傷は破損程度
鉄骨鉄筋コンクリート造

18 章 塗 装 工 事

項 目

① 材料

建物内部に使用するユリア樹脂等を用いたホルムアルデヒドの放散量（18.1.3）
※規制対象外 ・第三種
屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。
② 素地ごしらえ

木部の素地ごしらえ 不透明塗料塗り ※A種 ・B種（18.2.2）（表18.2.1）
透明塗料塗り ・A種 ※B種
鉄鋼面の素地ごしらえ ・A種 ・B種 ※C種（表18.2.2）
亜鉛めっき鋼面の素地ごしらえ ・A種 ・B種 ・C種（表18.2.3）
モルタル及びプaster面の素地ごしらえ ・A種 ※B種（表18.2.4）
コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ
・A種 ※B種（表18.2.5～6）
せつこうボード及びその他ボード面の素地ごしらえ
（素地処理方法の場合 ※A種 ・B種（表18.2.7）
その他の場合 ・A種 ※B種
③ 錆止め塗料塗り

錆止め塗料種別
・鉄鋼面 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種（18.3.2）（表18.3.1）
・亜鉛めっき鋼面 ・A種 ・B種 ・C種（表18.3.2）
錆止め塗料塗り（SOP、EP-Gの場合）
・鉄鋼面 見え掛り ※A種 ・B種（18.3.3）（表18.3.3）
見え隠れ ・A種 ※B種
・亜鉛めっき鋼面 鋼製建具 ※A種 ・B種（表18.3.5）
その他 ・A種 ※B種
4 合成樹脂調合ペイント塗り（SOP）

塗料の種別 ※1種 ・2種（18.4.2）
・鉄鋼面種別 ・A種 ※B種（18.4.3）（表18.4.2）
5 クリヤラッカー塗り（GL）

種別 ・A種 ※B種（18.5.2）（表18.5.1）
6 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（NAD）

種別 ・A種 ※B種（18.6.2）（表18.6.1）
7 耐候性塗料塗り（DP）

鉄鋼面及び亜鉛めっき鋼面（18.7.2～3）
等級 ・1級 ・2級 ・3級
コンクリート面及び押出成形セメント板面（18.7.4）（表18.7.3）
種別 ・A種 ・B種 ・C種
⑧ つや有合成樹脂エポキシペイント塗り（EP-G）

種別 ・A種 ※B種（18.8.2）（表18.8.1）
（18.8.4）（表18.8.3）
⑨ 合成樹脂エポキシペイント塗り（EP）

種別 ・A種 ※B種（18.9.2）（表18.9.1）
10 ウレタン樹脂ワニス塗り（UC）

種別 ・A種 ※B種（18.10.2）（表18.10.1）
11 木材保護着色塗料塗り（WP）

種別 ・A種 ※B種（18.12.2）（表18.12.1）

19 章 内 装 工 事

項 目

① 材料

（19.2.2）（19.3.2）（19.4.2）（19.5.2）（19.7.2）（19.8.2）（19.9.2）
壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤、塗料、フェノールフォーム保温材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種
※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
② ビニル床シート張り

（19.2.2）
種 別 J I S の記号 色 柄 厚さ（mm）
※発泡層のないもの ※FS ・ ※無地 ・マーブル ※2.0 ・2.5
・発泡層のあるもの ・HS ※柄物 ・無地
・
再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。（K S の場合を除く）
工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所：）（19.2.3）
③ ビニル床タイル張り

（19.2.2）
種 別 JISの記号 厚さ（mm） 寸法（mm） 備 考
※コンポジションビニル床タイル [接着形] K T ※2.0 ・300×300
・450×450
・複層ビニル床タイル [接着形] F T ※2.0 ・300×300
・450×450
再生ビニル樹脂系材料の合計重量が、製品の総重量比で15%以上使用されていること。
④ 帯電防止床タイル張り

（19.2.2）
種 別 厚さ（mm） 性 能
・コンポジションビニル床タイル ※2 体積抵抗値（JIS K 6911による）
・ホモジニアスビニル床タイル ※4.0又は5.0 1.0×10¹⁰Ω以下、または、
・ 漏洩抵抗値（JIS A 1454による）
・ 1.0×10¹⁰Ω未満
⑤ ビニル幅木

高さ（mm） ※60 ・（19.2.2）

設 計

工 事 名

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

図面名

建築工事仕様書 その4

図面番号

CS-17

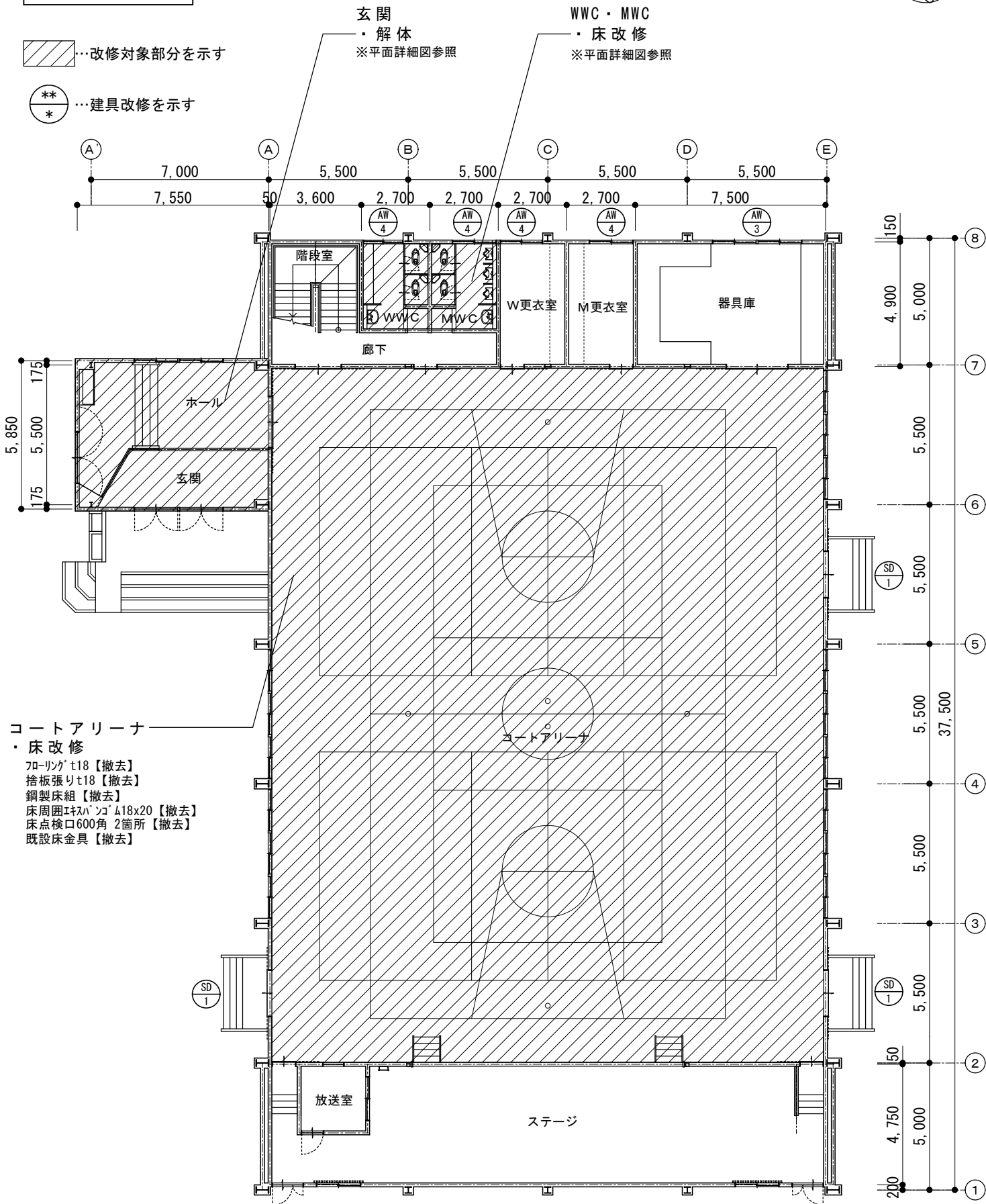
6	カーペット敷き ㊥	防火性能は、消防法で定める防火性能を有し、登録されているものとする。 (19.3.1) ・織じゅうたん (19.3.2～3) (表19.3.1)	⑬	せっこうボード その他のボード 張り	(19.7.2) (表19.7.1)	7	トイレブース	(20.2.5)				21	床点検口	本体の材質				目地の材質		適用箇所		寸法 (mm)		
		※アルミ製						※アルミ・ステンレス・黄銅		下記以外全て				※600×600										
		・ステンレス製																						
		品質及び性能等						品質・規格及び性能																
		材 質						JIS H 4100 A6063Siによる		表面処理														
		アルミ合金押出型材						JIS H 4000 A1100PH24による		A－1種又はA－2種による														
		アルミニウム板						JIS G 4305 (自地材はG 4308も含む) のSUS304による		表面処理 H L又はN o 2 B程度														
		ステンレス製																						
		寸法許容差 (mm)						受け枠寸法の許容差 ±0.5		蓋枠寸法の許容差 ±0.5														
		耐荷重性能						荷重P n＝1,000Nにおける蓋中央部の残留たわみ 耐破壊荷重		点検口有効径の0.08%以内														
														荷重値P nの2倍以上										
7	合成樹脂塗り床	(19.4.2～3) (表19.4.1～8)				19	吸音材	20	乾式耐火間仕切壁	21	誘導用及び注意喚起用床材	(19.2.2)	22	収納家具・書架・物品棚	品質				主要構造部材の材料		形状寸法 (mm)		備 考	
		・収納家具		JIS S1033 (ワ1用) 収納家具)による											・鋼製 ・木製		・図示							
		・書架		JIS S1039 (書架 物品棚)による											・鋼製 ・		・図示		JIS S1039による種類 ・1種 ・2種 ・3種					
		・物品棚													・鋼製 ・		・図示		JIS S1039による種類 ・5種 ・6種 ・7種					
		・移動式書架・物品棚													・図示 ・木製		・図示							
		ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外													・第三種									
		市販品													形式 式 ・30組用 ・60組用 ・120組用									
		市販品													材 質 ・塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製受枠) ・ビニル製 (ステンレス製受枠) ・硬質アルミニウム製 (受枠とも) ・ステンレス製 (受枠とも)									
		種 類													寸法 (L＝mm)		適用内容		規格・品質等					
		・流し台													※1200 ・1500 ・1800		トラップ付き		※優良住宅部品 (セリヤケツン1型)					
・コンロ台				※600 ・700		バックガード ※有り																		
・つり戸棚				※1200 ・900 ・800																				
・水切り棚				※1200 ・900		ステンレス製 ※1段式		※市販品																
12	ポリスチレンフォーム床下地材	最下地 厚さ (mm) ※40 ・65 ・80 フロアリング類下地 厚さ (mm) ※80 ・95	13	特殊合板等の種類	(19.7.2)	14	壁紙張り	(19.8.2)	15	断熱材 ㊥	(19.9.2) (19.9.3)	16	体育館のフロアリング張り	体育館のフロアリング張りは、下記による。 (イ) 材種 下張り (組床式の場合) ・1類ラン合板 (厚15) ・構造用合板 1類2級 (厚15) 上張り ・かば18mm (ロ) 工法 下張りとは、鋼製下地にタッピングビス止め。上張りとは、下張り材に接着剤と釘打ち併用とする。 上張り材と他の材料との取合いは、ネオブレングムとし、コートラインは、上塗り前に、監督員の指示により施工する。										
		市販品																						
		材 質												表面仕上げ		性 能		幅 (mm)		備 考				
		※アルミニウム製												※焼付け塗装品		準不燃品		※200		回り縁は焼付きとし、製造所の標準品とする。				
		・硬質塩ビ製												・アルマイト処理品				・100						
		・塗装製品												・木目調				※300		・100				
		設 計												工事名		旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事								
		輪島市教育委員会教育総務課												図面名		建築工事仕様書 その5 図面番号 CS-18								

36	リサイクル製品の 使用	(1)リサイクル製品は、「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品 ・使用する	5	アスファルト 舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.2)	7	芝張り	種類 ※こうらい芝 ・野芝 (23.4.2)																																	
		<table><tr><th>使用箇所</th><th>製 品</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table> <p>「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。 http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県 生活環境部 資源循環推進課） (2)その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。 (3)建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの） 看板の寸法は90cm×60cm程度とする。</p> <div><div><div>この建築工事ではリサイクル製品として ○○○○○○○○○、○○○○○○○○○ を使用しています。</div><div><div>R</div><div>石川県教育委員会教育総務課 建設副産物リサイクル シンボルマーク</div></div></div><p>（注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること</p></div>	使用箇所	製 品	備 考	・			・			・			6	コンクリート 舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	8	枯補償	※1年 ・ (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)																					
使用箇所	製 品	備 考																																							
・																																									
・																																									
・																																									
37	伝統産業工芸品 の使用	<table><tr><th>使用箇所</th><th>製 品</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table>	使用箇所	製 品	備 考	・			・			・			7	カラー舗装	カラー舗装の種類 (22.6.2-4) (表22.6.1-2)	9	吹付けは種	種子の種類 ※洋芝類又はクローバー（採取後2年以内） (23.4.2) 種子の量 ※発芽率80%以上																					
		使用箇所	製 品	備 考																																					
・																																									
・																																									
・																																									
21 章 排 水 工 事			8	透水性アスファルト舗装	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	10	屋上緑化 G	植栽基盤及び材料 (23.5.2-3) ・屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・図示 保水・排水層 ・軽量骨材 層の厚さ ・板状成型品 補込み用土 ※改良土 ・人工軽量土 樹木の材種、寸法、株立数、寸法等 ※図示 ・屋上緑化設置システム (23.5.3) 芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示 (23.5.4) 固定方法は、「建築基準法に基づき指定する条件」により。建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法を1.2.2（施工計画書）による品質計画で定める。 支柱 ・設置する（種類 ・図示 ） かん水装置 ・設置する（工事区分は図示による）																																	
項 目 特 記 事 項			9	ブロック系舗装	カラー舗装の種類 (22.6.2-4) (表22.6.1-2)	24 章 そ の 他																																			
①	排水管	排水管用材料 (21.2.1) (表21.2.1) 材 種 管の種類 管形状（接合方法） ※通心力鉄筋コンクリート管 ※外圧管（※1種 ・2種） B形（ゴム接合） ○硬質ポリ塩化ビニル管 ※V P ・V U ・野付硬質ポリ塩化ビニル管 G ※R S-V U	10	区画線	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	1	輪島市週休2日工事	工事現場において週休2日に取り組む「輪島市週休2日工事」（以下、「週休2日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休2日工事の定義（様式）等については、石川県土木部監理課技術管理室HPの「輪島市週休2日工事 実施要領」を参照すること。 （1）当初設計において、週単位の週休2日にかかる補正係数を乗じている。 （2）受注者は、工事現場に週休2日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （3）受注者は、現場着手前に休日取得〔計画〕表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （4）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得〔計画〕表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （5）受注者は、工期最終日までに、休日取得〔実績〕表を記入し、監督員に提出すること。 （6）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて1日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （7）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休2日に満たない場合は、月単位の週休2日（4週8休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休2日（4週8休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休2日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。																																	
②	排水枳及びふた	(21.2.1) 種 類 適用荷重 鍵 ○水封形 ・密閉形（テーパー・パッキン式） ・簡易気密形（パッキン式） ・中ふた付密閉形（テーパー・パッキン式） グレーチングふた 材 質 形 式 種 類 適用荷重 マン・ピツ 上面形状 ○鋼製 ・ステンレス製 ※受枠付き ・ボルト固定 ※無し ・図示 ○溝ふた用（横断） ○溝ふた用（縦断） ○樹ふた用 ・かき上げ用 ・U字溝用	11	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	2	余裕期間制度 試行工事	1）余裕期間制度対象工事の内容 （1）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （2）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （3）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （4）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （5）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （6）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （7）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （8）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （9）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （10）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限） 契約締結日から起算して〇ヶ月以内																																	
③	埋戻し土	※B種 ・建設汚泥から再生した処理土 G (21.2.1)	12	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	3	イメージアップ 看板	・設置する ・設置しない（別途工事で設置等） ※監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 <table><tr><td>野立型（大） H1400×W1100</td><td>野立型（小） H1400×W550</td><td>壁掛型 H750×W900</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>（注）看板のデザインは監督員に確認すること</p>	野立型（大） H1400×W1100	野立型（小） H1400×W550	壁掛型 H750×W900																														
野立型（大） H1400×W1100	野立型（小） H1400×W550	壁掛型 H750×W900																																							
22 章 舗 装 工 事			13	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	4	情報共有システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・利用する（発注者指定型） ※現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）																																	
①	盛土に用いる材料	・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 G (22.2.3) (表3.2.1)	14	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	改訂履歴																																			
②	凍上抑制層の材料	※再生クラッシュラン ・クラッシュラン ・切り込み砂利 (22.2.3)	15	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	平成10年4月1日 平成10年11月1日 平成12年4月1日 平成13年4月1日 平成14年4月1日 平成15年4月1日 平成15年7月1日 平成15年10月1日 平成16年4月1日 平成16年8月20日 平成17年4月1日 平成17年6月1日 平成19年10月1日 平成20年4月1日 平成21年4月1日 平成21年8月1日 平成22年4月6日 平成23年4月1日 平成24年4月1日 平成25年4月1日 平成26年4月1日 平成27年4月1日 平成28年4月1日 平成29年4月1日 平成29年7月1日 平成30年4月1日 令和2年4月1日 令和3年4月1日 令和3年5月1日 令和4年4月1日 令和5年4月1日 令和6年7月1日 令和6年10月1日 令和7年4月1日 令和7年10月1日																																			
③	路床	1）路床安定処理 (22.2.2-3) (表22.2.1) ※添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・フライアッシュセメントB種 ・高炉セメントB種 G ・生石灰（ ） ・消石灰（ ） 添加量 kg/m ³ （目標CBR ※5以上 ） ・ジオテキスタイルによる安定処理 ジオテキスタイルの品質 単位面積質量 60g/m ² 以上 厚さ（mm） 0.5～1.0 引張り強さ 98N/5cm（10kgf/5cm）以上 透水計数 1.5×10cm ³ /sec以上	16	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	設計																																			
④	路盤	2）透水性舗装に用いるフィルター層の厚さ (22.2.2) 車道部 ※150mm ・（ ） 歩道部 ※50mm ・（ ） 3）路床土の支持力比試験 ※行う（※乱した土 ・乱さない土） (22.2.5) 4）路床締固め度の試験 ※行う (22.2.5) 5）砂の粒度試験 ※行う (22.2.5) 1）材料 G (22.3.3) (表22.3.1) ※再生クラッシュラン（RC-40） ・クラッシュラン鉄鋼スラグ（CS-40） 2）路盤の厚さ (22.3.2) <table><tr><th rowspan="2">舗装の種類</th><th colspan="4">路盤の厚さ（mm）</th></tr><tr><th colspan="2">車道部</th><th colspan="2">歩道部</th></tr><tr><td>アスファルト舗装</td><td>・100</td><td>・150</td><td>・250</td><td>・300</td></tr><tr><td>コンクリート舗装</td><td>・150</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>カラー舗装</td><td>・100</td><td>・150</td><td>・250</td><td>・300</td></tr><tr><td>透水性アスファルト舗装</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>インターロッキングブロック舗装</td><td>・100</td><td>・150</td><td>・250</td><td>・300</td></tr></table> 3）路盤の締固め度試験 ※行う (22.3.5)	舗装の種類	路盤の厚さ（mm）				車道部		歩道部		アスファルト舗装	・100	・150	・250	・300	コンクリート舗装	・150				カラー舗装	・100	・150	・250	・300	透水性アスファルト舗装					インターロッキングブロック舗装	・100	・150	・250	・300	17	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	工事名 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事	
舗装の種類	路盤の厚さ（mm）																																								
	車道部		歩道部																																						
アスファルト舗装	・100	・150	・250	・300																																					
コンクリート舗装	・150																																								
カラー舗装	・100	・150	・250	・300																																					
透水性アスファルト舗装																																									
インターロッキングブロック舗装	・100	・150	・250	・300																																					
23 章 植 栽 工 事			18	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面名 建築工事仕様書 その6	図面番号 CS-19																																		
1	土壌の酸度、塩分量試験	※行う (23.1.5)	19	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	輪島市教育委員会教育総務課																																			
2	樹木の植栽基盤整備	芝及び地被類 (23.2.2-3) (表22.2.1-2) 適 用 有効土層の厚さ（cm） 工 法 整備範囲 ※行う ・行わない ※20 ・ ※B種 ・ ※補栽範囲 ・図示 樹木 (23.2.2-3) (表23.2.1-2) 樹木の樹高（m） 有効土層の厚さ（cm） 工 法 整備範囲 ・12以上 ※100 ・ ※A種 ※葉張り範囲 ・7以上～12未満 ※80 ・ ・B種 ただし、低木は補栽範囲 ・3以上～7未満 ※60 ・ ・C種 ・図示 ・3未満 ※50 ・ ・D種 工法D種以外の工法で現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで補込み用土で盛土を行う。	20	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面名 建築工事仕様書 その6																																			
3	補込み用土	※現場発生土の良質土 ・客土（※畑土 ・黒土） (23.2.3)	21	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面番号 CS-19																																			
4	土壌改良材 G	※適用する (23.2.3-4) 施工箇所 ※補栽範囲 ・図示 ・バークたい肥 有機物の含有量（乾物） : 70%以上 炭素窒素比（C/N比） : 35以下 陽イオン交換容量（乾物） : 70meq/100g以上 pH : 5.5～7.5 水分 : 55～65% 幼植物試験の結果 : 生育阻害その他の異常が認められない 窒素全量（現物） : 0.5%以上 りん酸全量（現物） : 0.2%以下 カリ全量（現物） : 0.1%以上 ・発酵下水汚泥コンポスト 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、補栽試験の調査の結果、害が認められないものとする。 ひ素 : 0.005%以下 カドミウム : 0.0005%以下 水銀 : 0.0002%以下 ニッケル : 0.03%以下 クロム : 0.05%以下 鉛 : 0.01%以下 有機物の含有量（乾物） : 35%以上 炭素窒素比（C/N比） : 20以下 pH : 8.5以下 水分 : 50%以下 窒素全量（現物） : 0.8%以上 りん酸全量（現物） : 1.0%以上 アルカリ分（現物） : 15%以下	22	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面番号 CS-19																																			
5	支柱材	※丸太又は間伐材 G ・竹 (23.3.2)	23	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面番号 CS-19																																			
6	幹巻き用材料	※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)	24	植栽工事	アスファルト舗装の構成及び厚さ (22.4.3) 再生加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4) (表22.4.4)	図面番号 CS-19																																			

改修前

…改修対象部分を示す

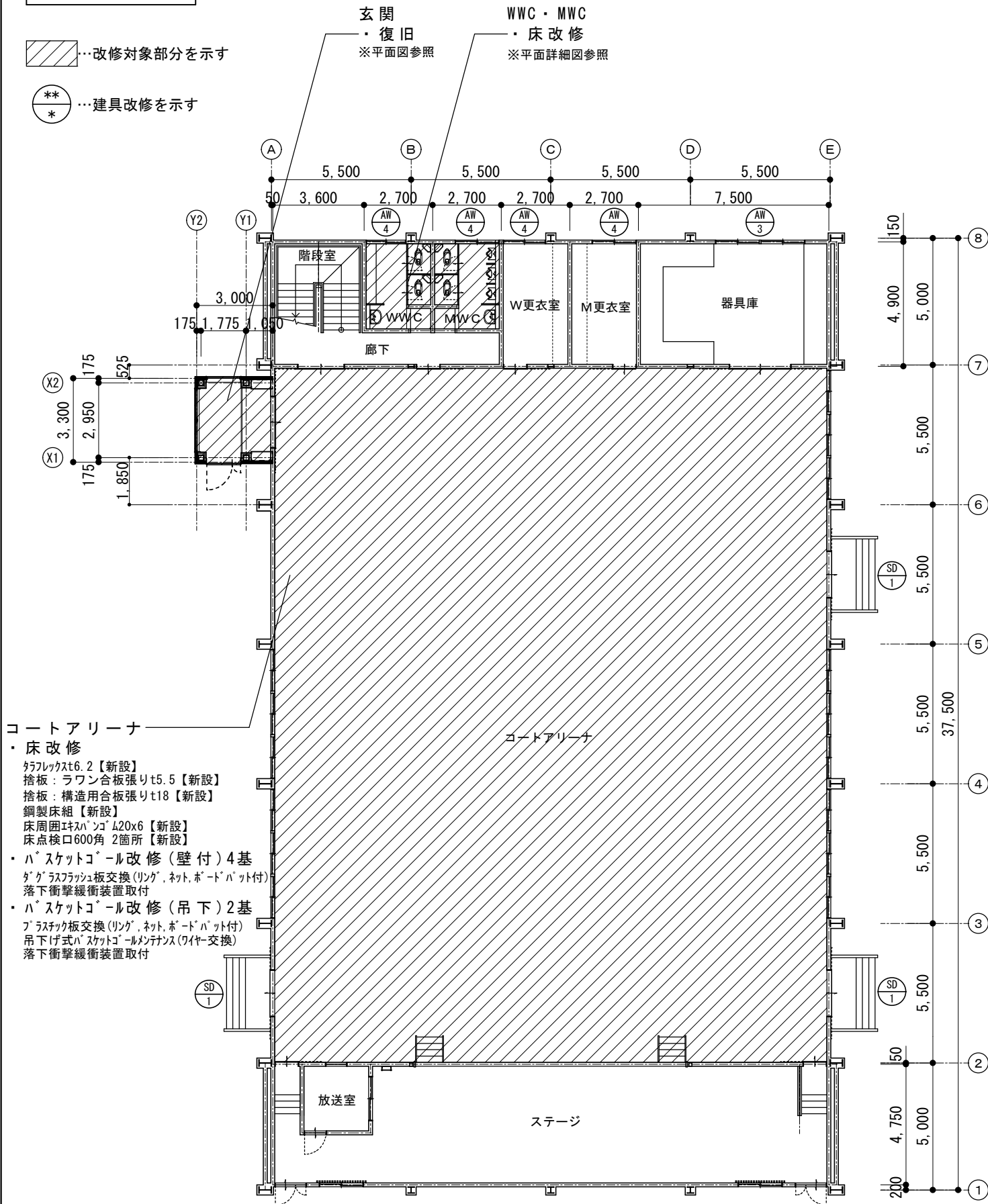
…建具改修を示す



改修後

…改修対象部分を示す

…建具改修を示す



株式会社 MAC建築研究所

管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE

2025. 12

■担当/CHECK

T. NAKAMURA

■製図/DRAWER

T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

1F平面図 (改修前・後)

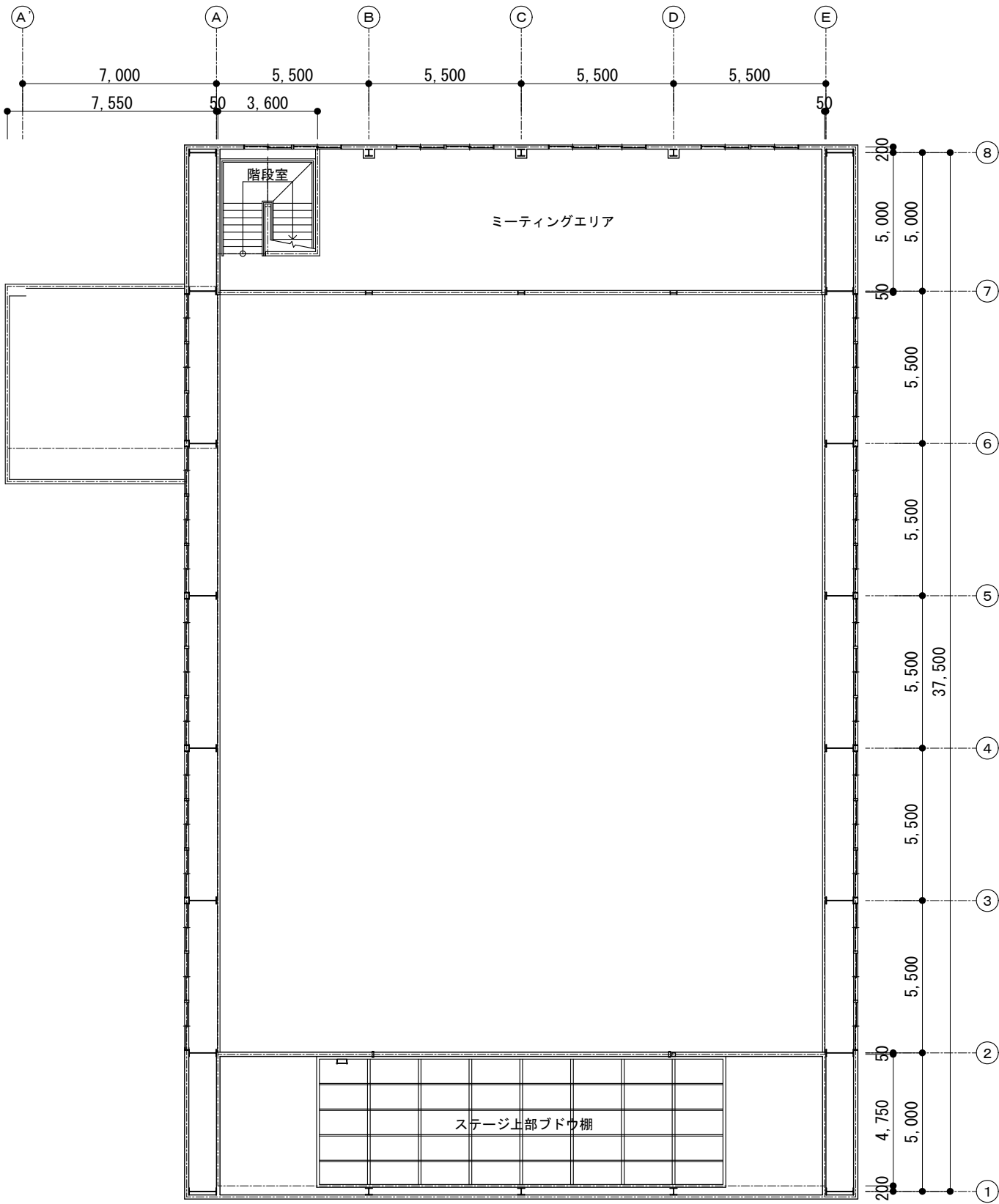
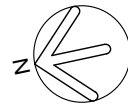
■縮尺/SCALE

A1:1/100
A3:1/200

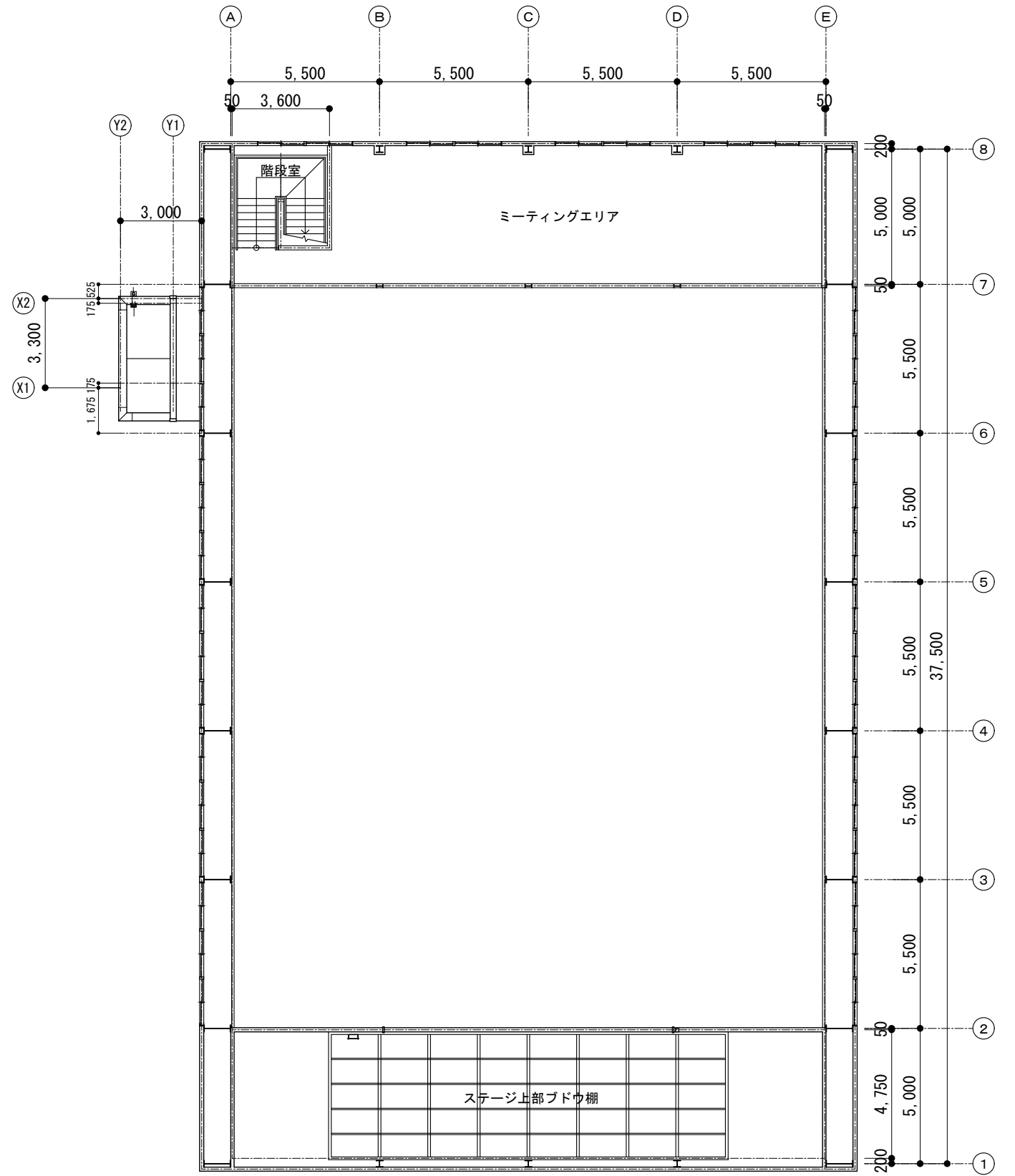
■図番/No.

A — 401

改 修 前



改 修 後



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

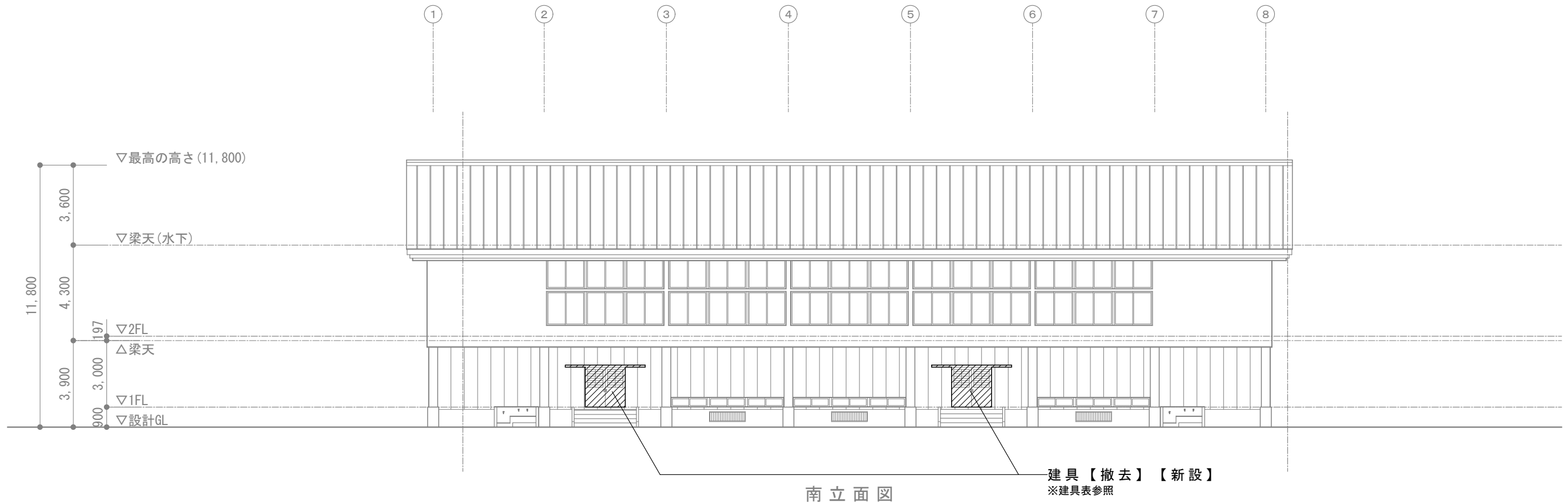
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

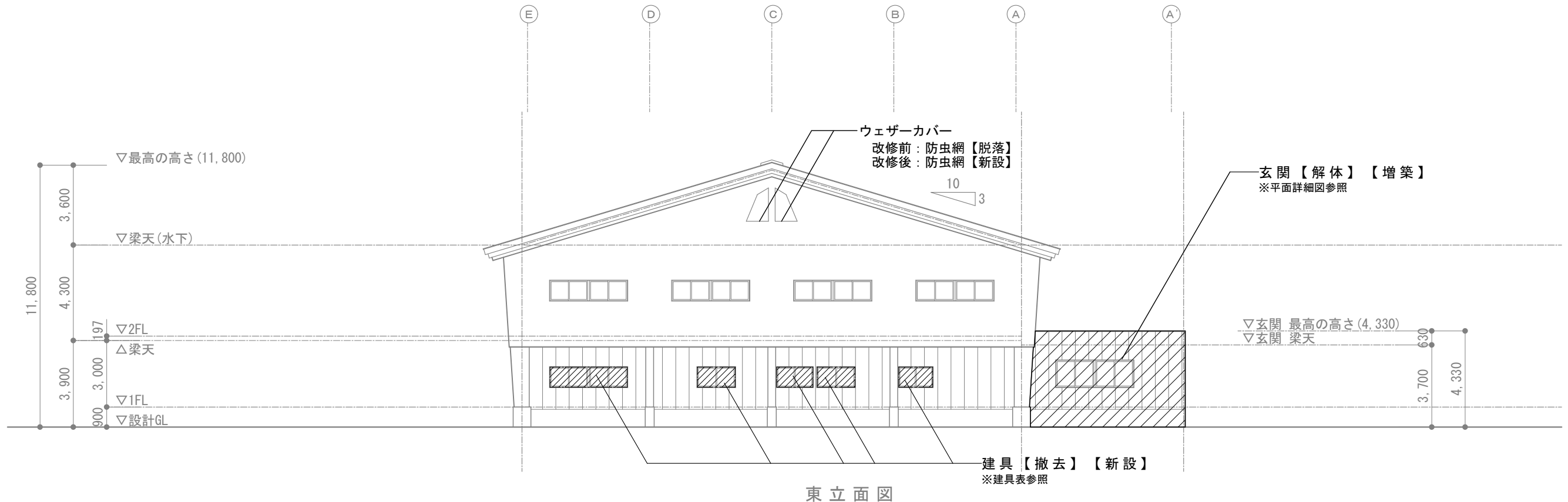
2F平面図 (改修前・後)

■縮尺/SCALE
A1:1/100
A3:1/200

■図番/No.
A — 402



南立面図



東立面図



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

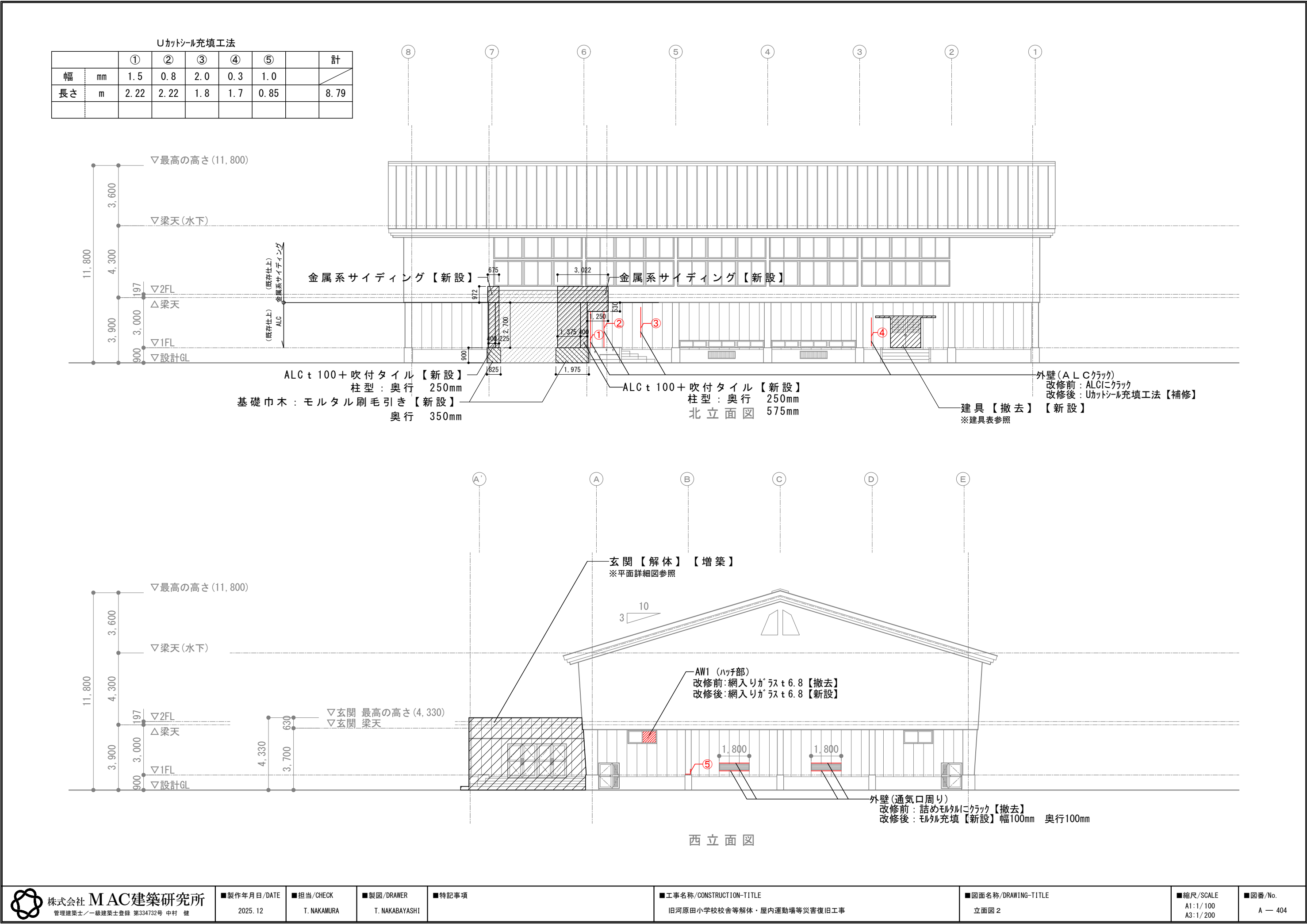
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

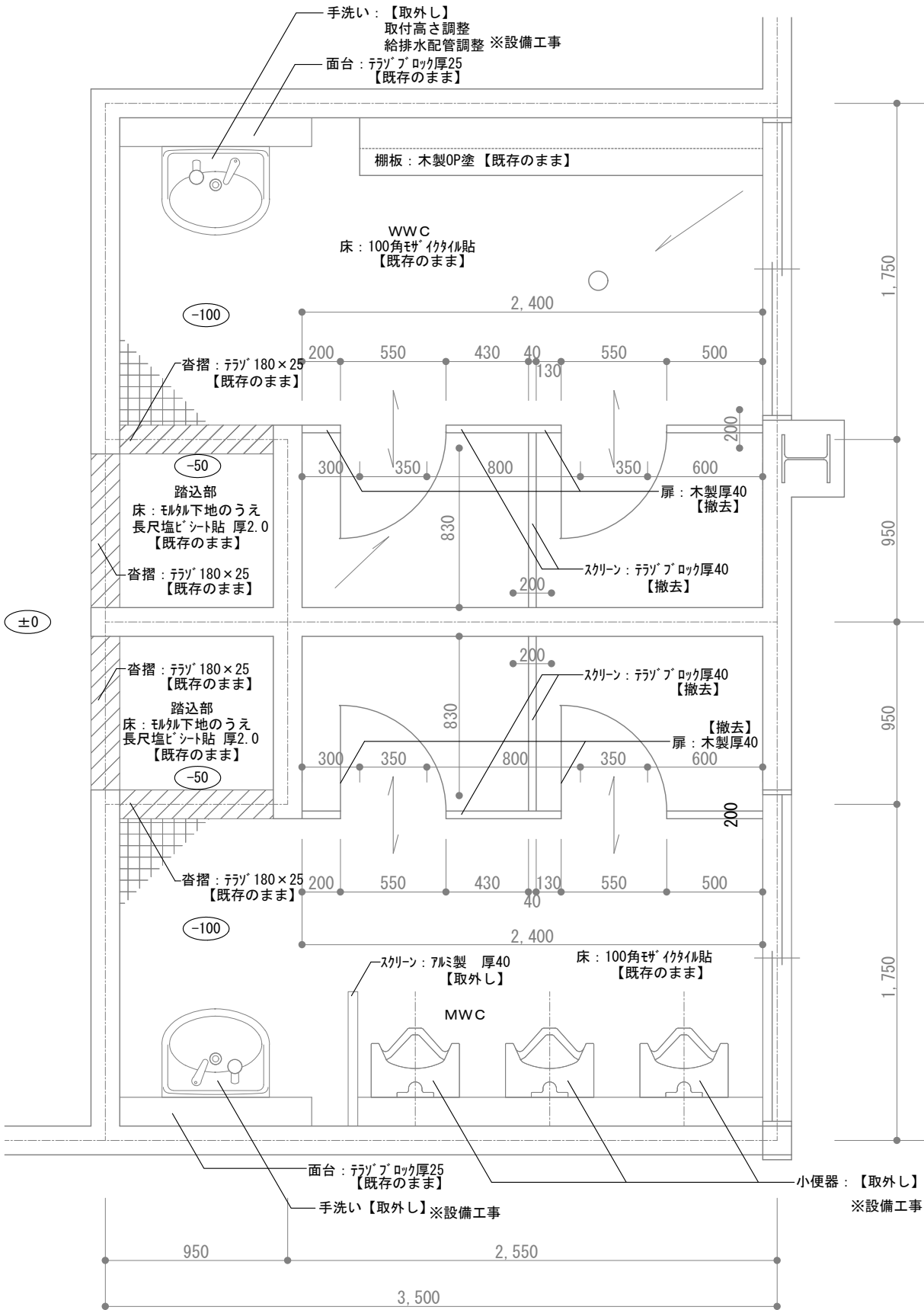
立面図 1

■縮尺/SCALE
A1:1/100
A3:1/200

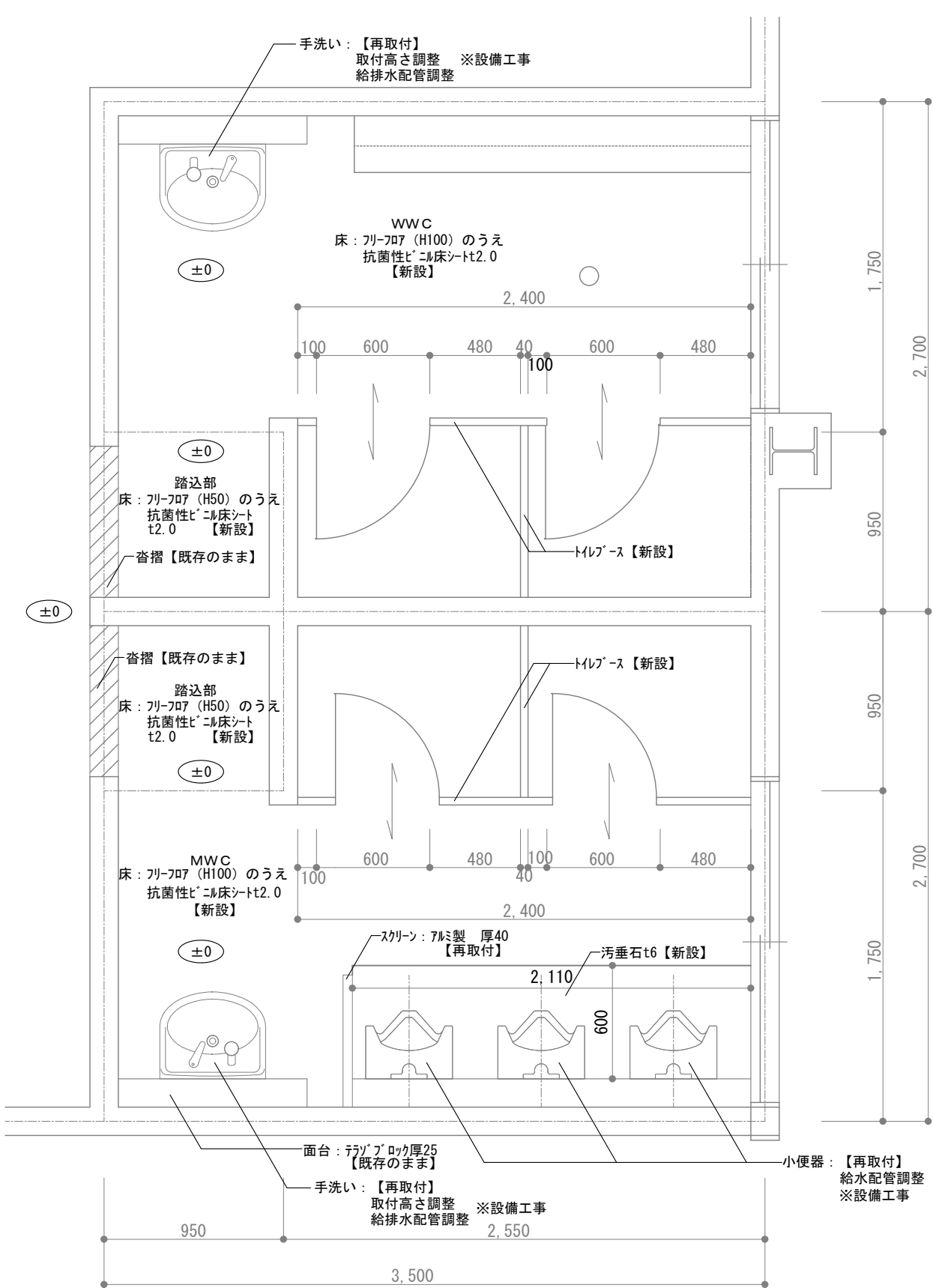
■図番/No.
A — 403



改修前

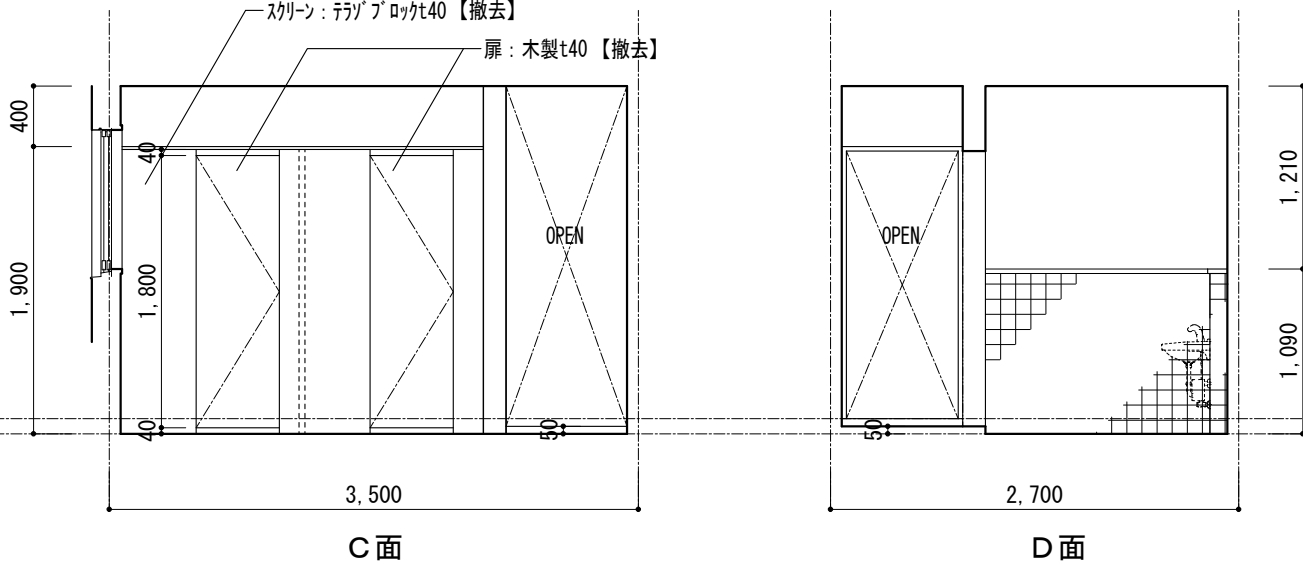
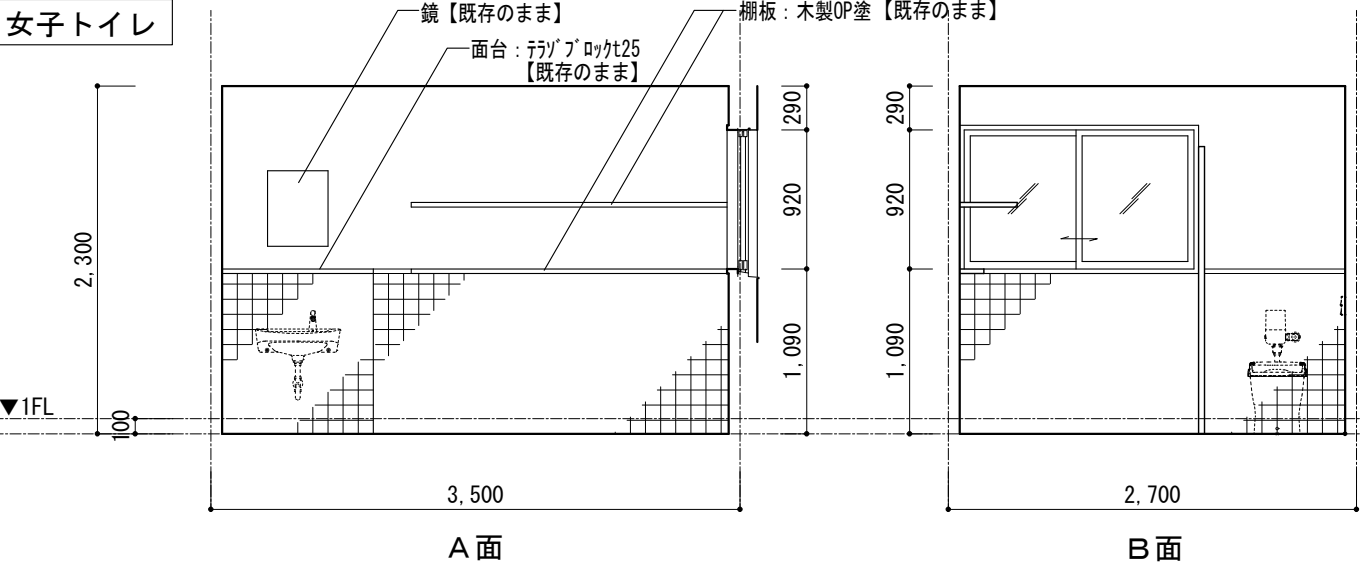


改修後

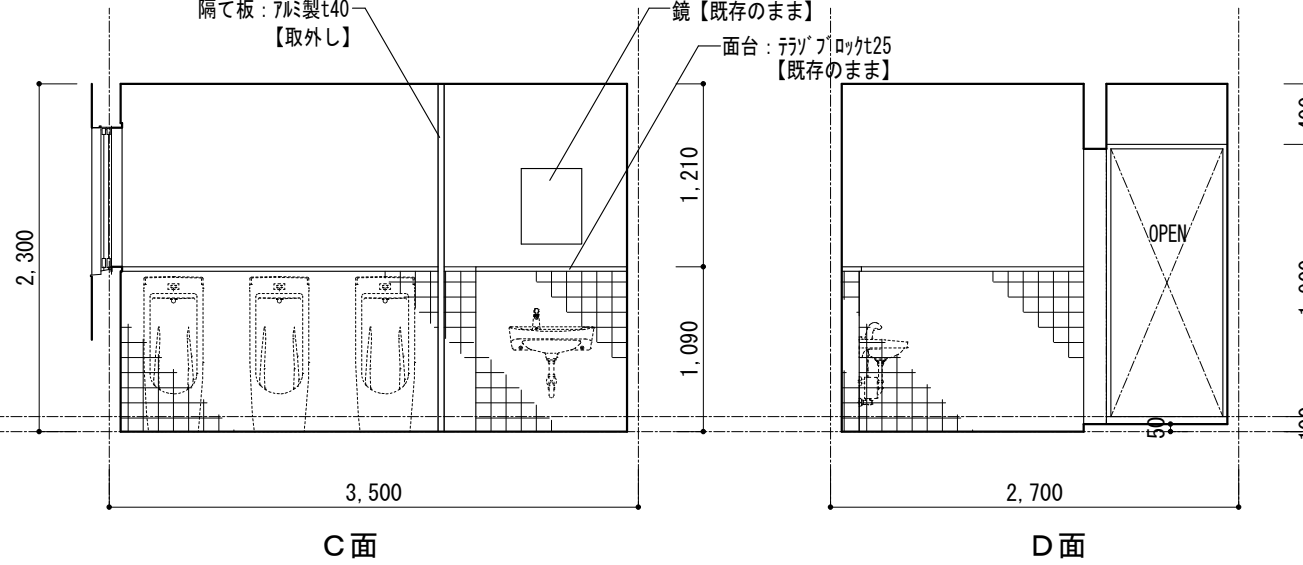
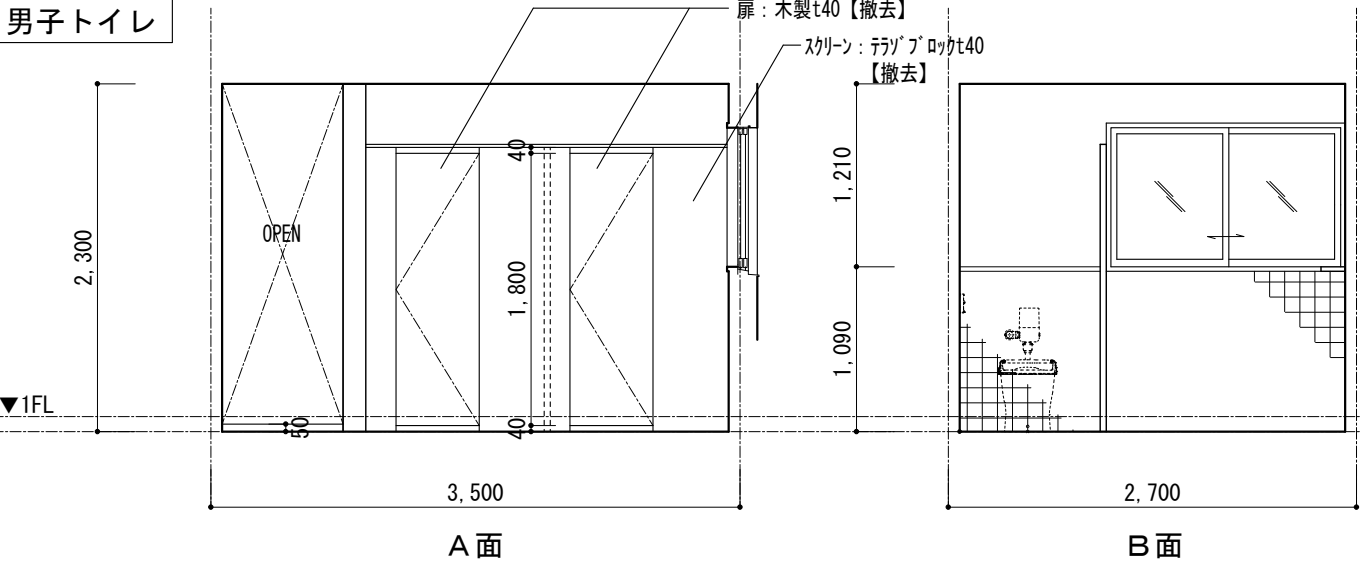


改修前

女子トイレ



男子トイレ



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

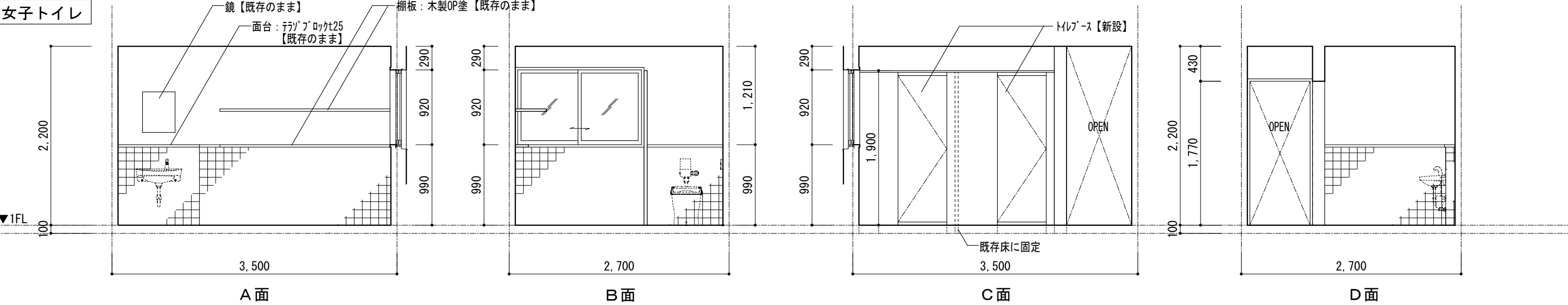
■図面名称/DRAWING-TITLE
便所 展開図 (改修前)

■縮尺/SCALE
A1:1/ 50
A3:1/ 100

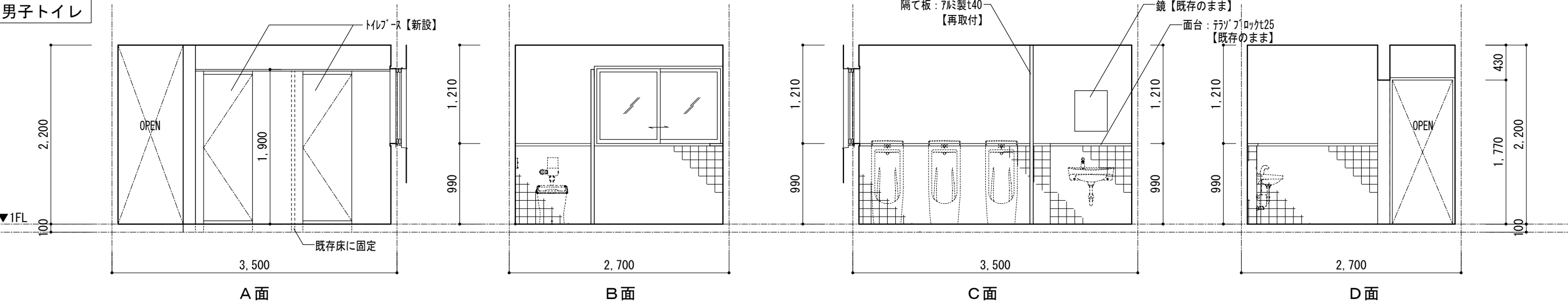
■図番/No.
A — 406

改修後

女子トイレ



男子トイレ

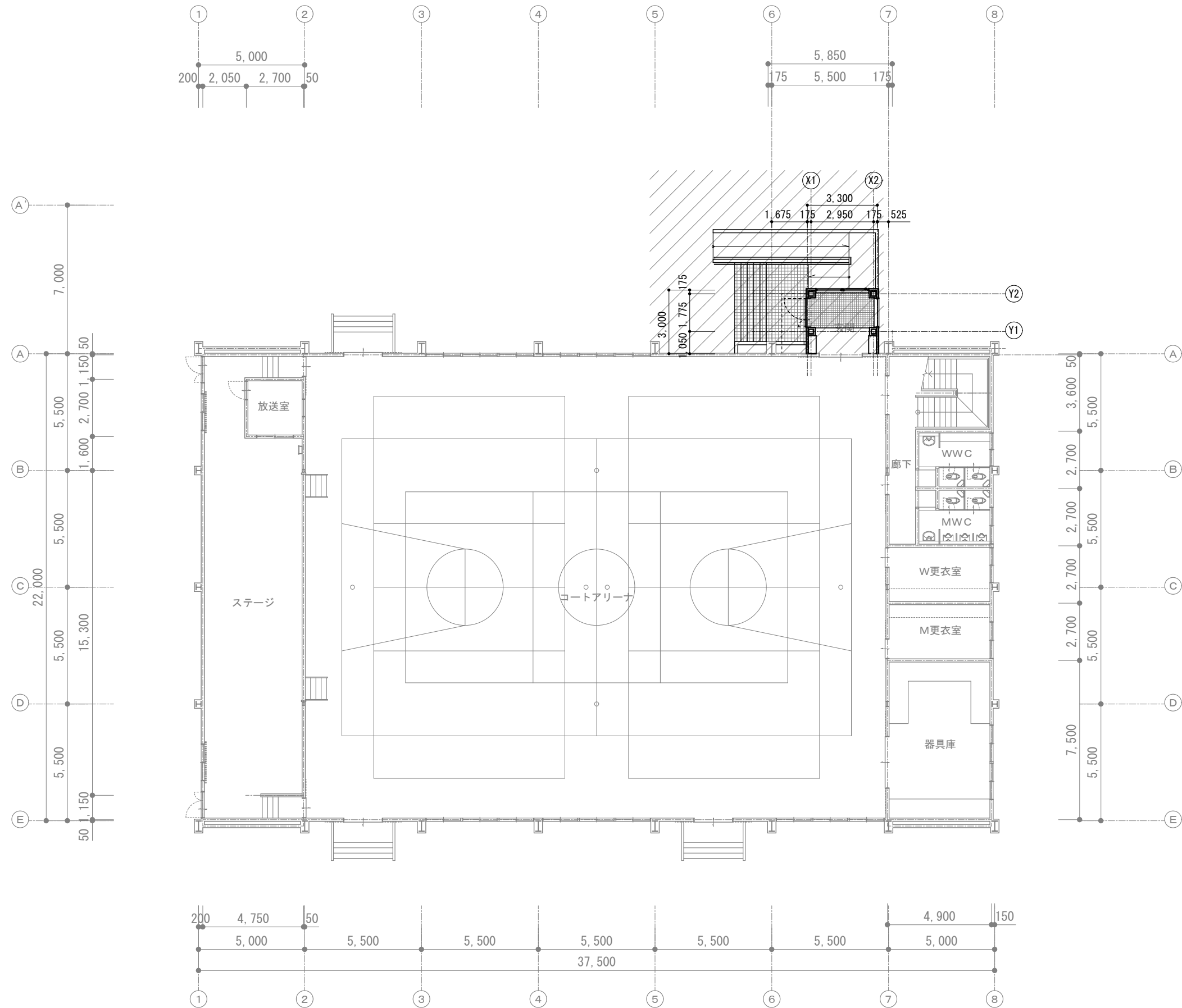


符号	数量	見込	型 式	数量	見込	型 式	改修内容
		ガラス	場 所		ガラス	場 所	
SD 1	3	40	引分ハガードア	3	40	引分ハガードア	3方枠：下地調整の上、DP塗装 巾250mm×厚25mm×長さ1800mm 吊レール：下地調整の上、DP塗装 巾100mm×高100mm×長さ3500mm 扉：撤去、新設 破壊侵入用小窓取付 W200mm×H200mm 強化ガラス 型 5mm 窓取付 W600mm×H750mm 強化ガラス 型 5mm カバープレート 金物一式：撤去、新設
		T(F)t5	1F体育館昇降口		T(F)t5	1F体育館昇降口	

符号	数量	見込	型 式	数量	見込	型 式	改修内容
		ガラス	場 所		ガラス	場 所	
AW 3	1	70	4枚引違窓	1	70	FIX窓×2	カバー工法 4枚引違窓→FIX窓×2に変更 W1715mm×H900mm 強化ガラス 型 5mm
		NFt6.8	器具庫		T(F)t5	器具庫	

符号	数量	見込	型 式	数量	見込	型 式	改修内容
		ガラス	場 所		ガラス	場 所	
AW 4	4	70	引違窓	4	70	FIX窓	カバー工法 引違窓→FIX窓に変更 W1700mm×H900mm 強化ガラス 型 5mm
		NFt6.8	男女トイレ、男女更衣室		T(F)t5	男女トイレ、男女更衣室	





株式会社 MAC建築研究所
管理建築士/一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

全体平面図

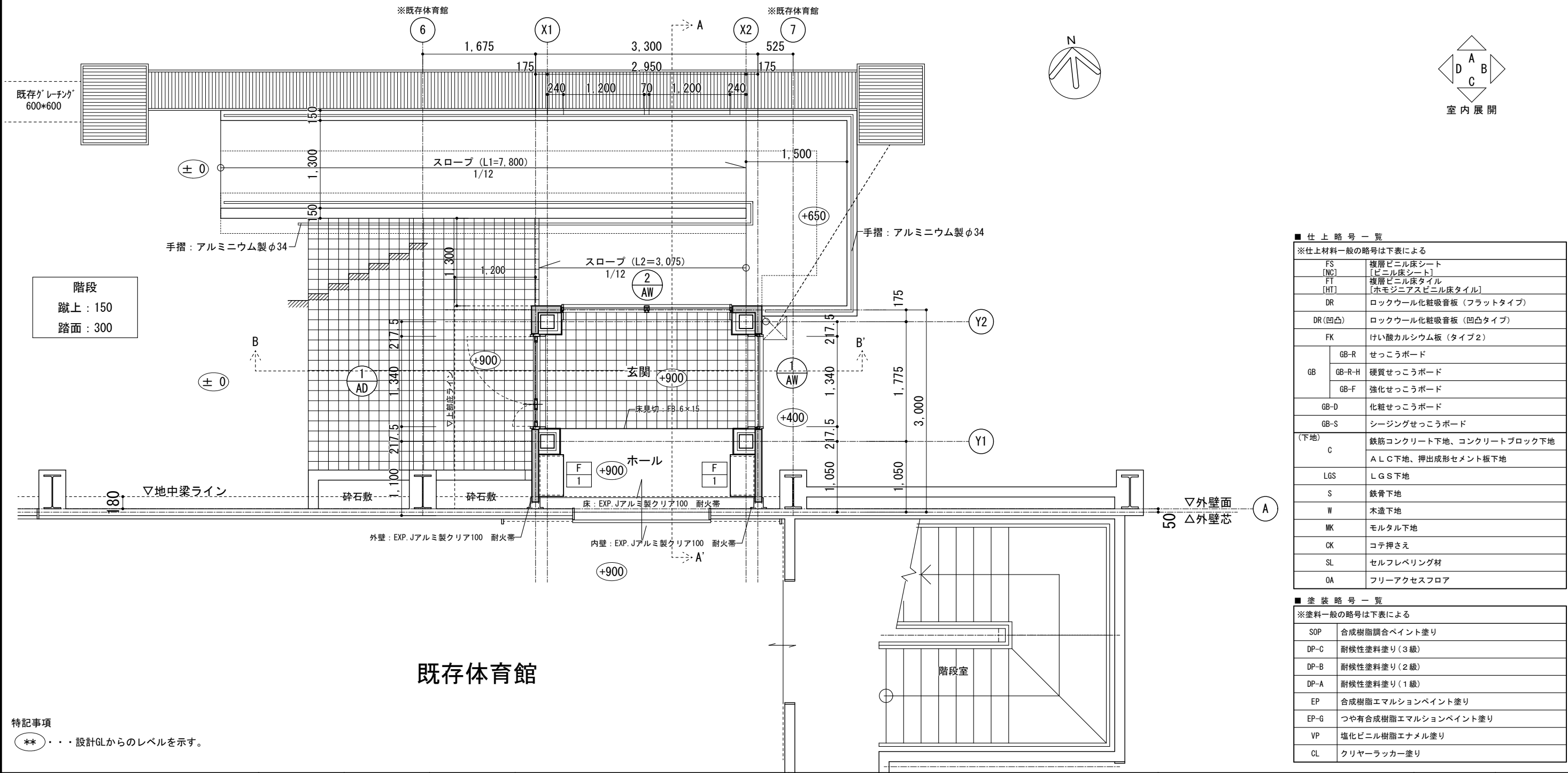
■縮尺/SCALE
A3 : 1/200

■図番/No.
A — 409

■ 仕 上 表

外 部			
屋 根	平面部：アスファルト防水D-1の上保護コンクリート t 80	擁 壁	コンクリート打放補修のうえカラークリア塗装
	立上部：アスファルト防水D-1	スロープ	刷毛引き仕上
外 壁	ALC版 t 100+防水形複層塗材E吹付	ポーチ	磁器質タイル150角
軒 天	EP-G+FK t6.0+LGS	階 段	磁器質タイル150角
笠 木	アルミ製 W300		
豎 樋	VP φ100 掴み金物@1200		
外部巾木	コンクリート打放補修のうえカラークリア塗装 H=575		
ルーフドレイン	SUS製φ100 横引き用		
EXP. J 金物	アルミ既製品 (クリアランス100用)	土間下	ポリスチレンフォーム t 100+防湿シート t 0.15

内 部								
室 名	床高	床	幅木	壁	天井	廻縁	その他	備考
	仕上高 躯体高	仕 上 下 地	仕 上 下 地	仕 上 下 地	仕 上 下 地	仕 上 天井付／壁付	天井高 窓廻り	
玄 関	±0	磁器質タイル150角	床同材	EP	GB-D t9.5	塩ビ 目透かし 天井付	2,400	
	-50	C	100	GB-R12.5+GL	LGS	天井付	-	
ホール	±0	FS t 2.0	軟V	EP	GB-D t9.5	塩ビ 目透かし 天井付	2,400	下足棚
	-50	C	60	GB-R12.5+GL	LGS	天井付	-	
断 熱	現場発泡ウレタン吹付 t 30							
耐火被覆	ロックウール吹付 t 25							

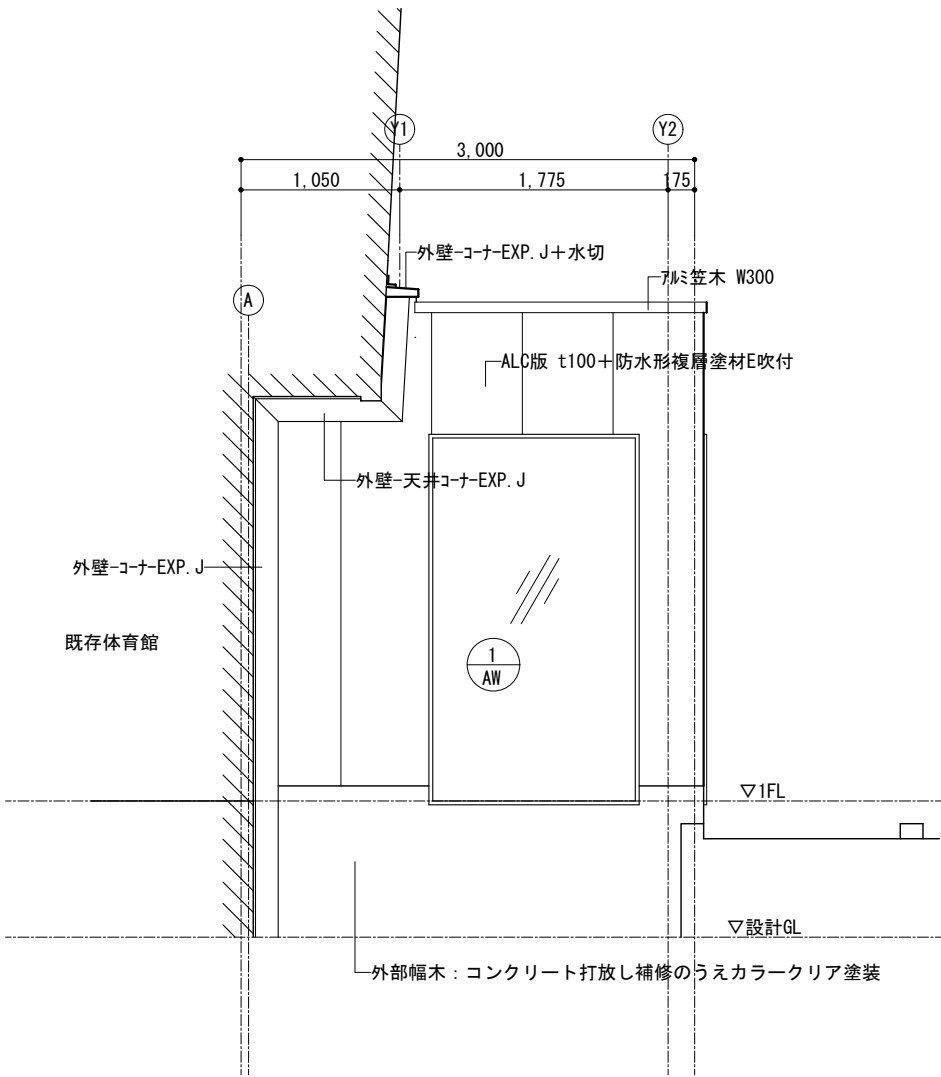


■ 仕 上 略 号 一 覧	
※仕上材料一般の略号は下表による	
FS [FG]	複層ビニル床シート
FT	[ビニル床シート]
HT	複層ビニル床タイル
HT	[ホモジニアスビニル床タイル]
DR	ロックウール化粧吸音板 (フラットタイプ)
DR (凹凸)	ロックウール化粧吸音板 (凹凸タイプ)
FK	けい酸カルシウム板 (タイプ2)
GB	GB-R せっこうボード
	GB-R-H 硬質せっこうボード
	GB-F 強化せっこうボード
GB-D	化粧せっこうボード
GB-S	シージングせっこうボード
(下地)	鉄筋コンクリート下地、コンクリートブロック下地
C	ALC下地、押出成形セメント板下地
LGS	LGS下地
S	鉄骨下地
W	木造下地
MK	モルタル下地
OK	コテ押さえ
SL	セルフレベリング材
OA	フリーアクセスフロア
■ 塗 装 略 号 一 覧	
※塗料一般の略号は下表による	
SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
DP-C	耐候性塗料塗り (3 級)
DP-B	耐候性塗料塗り (2 級)
DP-A	耐候性塗料塗り (1 級)
EP	合成樹脂エマルションペイント塗り
EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
VP	塩化ビニル樹脂エナメル塗り
CL	クリアラッカー塗り

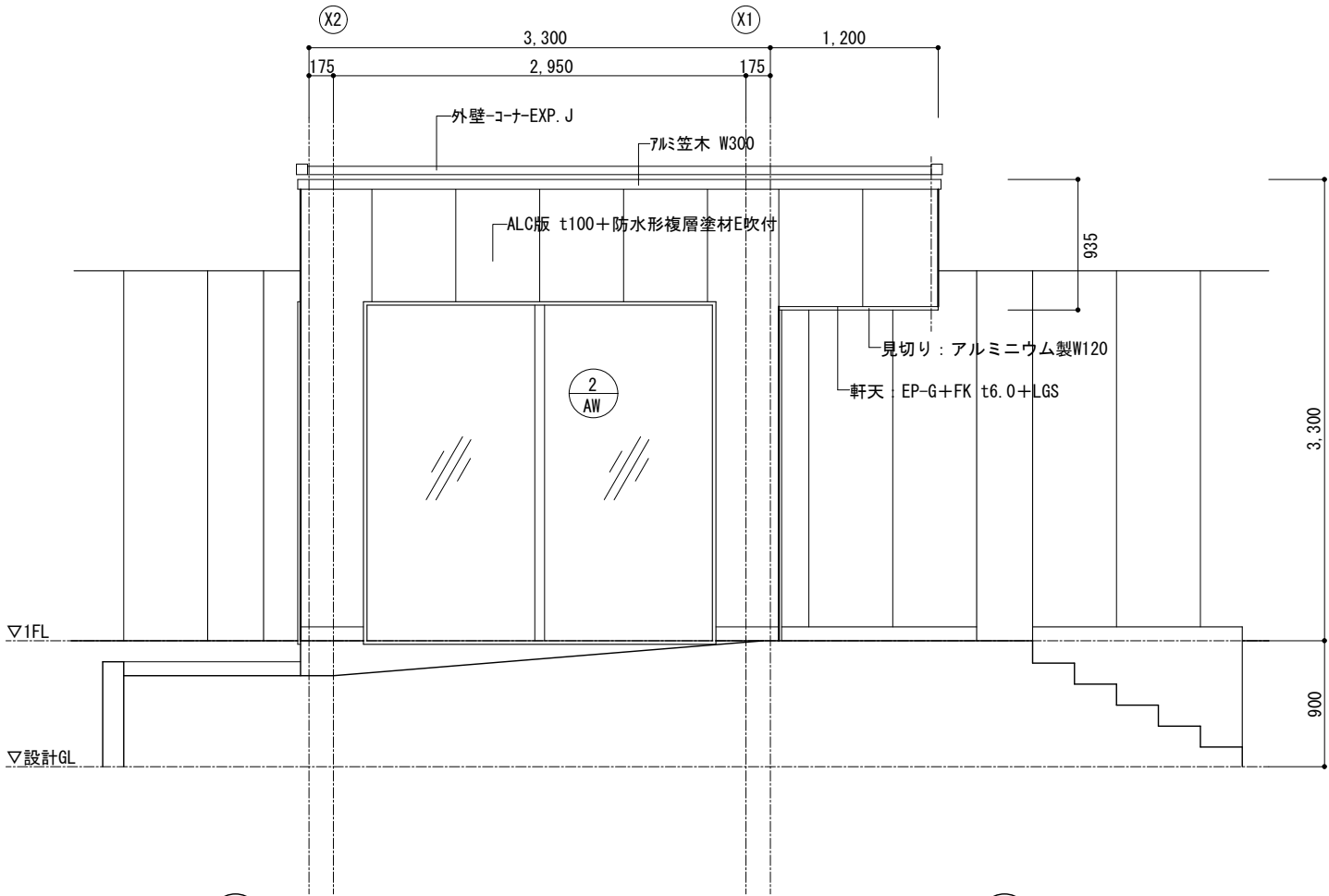
特記事項
**・・・設計GLからのレベルを示す。

■ 仕 上 表

外 部			
屋 根	平面部：アスファルト防水D-1の上保護コンクリート t 80	擁 壁	コンクリート打放補修のうえカラークリア塗装
	立上部：アスファルト防水D-1	スロープ	刷毛引き仕上
外 壁	ALC版 t 100+防水形複層塗材E吹付	ポーチ	磁器質タイル150角
軒 天	EP-G+FK t6.0+LGS	階 段	磁器質タイル150角
笠 木	アルミ製 W300		
縦 樋	VP φ100 掴み金物@1200		
外部巾木	コンクリート打放補修のうえカラークリア塗装 H=575		
ルーフトレイン	SUS製 φ100 横引き用		
EXP. J 金物	アルミ既製品 (クリアランス100用)	土間下	ポリスチレンフォーム t 100+防湿シート t 0.15



立面図1 S=1/50



立面図2 S=1/50



株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
立面図

■縮尺/SCALE
A3：1/50

■図番/No.
A — 411

構造設計標準仕様

適用は□●を記入する。

1. 建築物の構造内容

- | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|---------------------------------------|---|-----------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|--------------------------|--|--|
| (1) 工事名称 | 旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事 | | | | | | | | | |
| 建築場所 | 石川県輪島市河原地内 | | | | | | | | | |
| (2) 工事種別 | <input type="checkbox"/> 新築 | <input type="checkbox"/> 増築 | <input checked="" type="checkbox"/> 増改築 | <input type="checkbox"/> 改築 | | | | | | |
| (3) 構造種別 | <input type="checkbox"/> 木造 (W) <input type="checkbox"/> 補強コンクリートブロック造 (CB) <input checked="" type="checkbox"/> 鉄骨造 (S)
<input type="checkbox"/> 鉄筋コンクリート造 (RC) <input type="checkbox"/> 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
<input type="checkbox"/> 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) <input type="checkbox"/> 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
<input type="checkbox"/> プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC) <input type="checkbox"/> | | | | | | | | | |
| (4) 階 数 | 地下 ー 階 | | 地上 1 階 | | 塔屋 ー 階 | | | | | |
| (5) 主要用途 | 体育館 (玄関ホール) | | | | | | | | | |
| (6) 屋上付属物 | <input type="checkbox"/> 広告棟 | <input type="checkbox"/> 高架水槽 | KN | <input type="checkbox"/> | | | <input type="checkbox"/> | | | |
| | <input type="checkbox"/> 煙突 | <input type="checkbox"/> キュービクル | | | KN | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> | | |
| (7) 増築計画 | <input type="checkbox"/> 有 () | <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | | | | | | | |
| (8) 付帯工事 | <input type="checkbox"/> 門塙 | <input type="checkbox"/> 擁壁 | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> | | | |
| (9) 特別な荷重 | <input type="checkbox"/> エレベータ | | 人乗 (ロープ式) | | <input type="checkbox"/> リフト | KN | <input type="checkbox"/> クレーン | t | | |
| | <input type="checkbox"/> 倉庫積載床用 | S/㎡ | 用 | N/㎡ | | <input type="checkbox"/> 受水槽 | KN | | | |
| (10) 構造計算ルート | X 方向 | | ー (1-1) | | Y 方向 | | ー (1-1) | | | |

2. 使用構造材料

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	スランプcm	備考
捨コンクリート	普通	15	15	比重
外構コンクリート	普通	21	15	比重
基礎、基礎梁	普通	21	15	比重
柱、梁、床、壁	普通	21	15	比重
DPL床コンクリート	普通	21	15	比重
ラップ®コンクリート	普通	18	15	比重

- (2) コンクリートブロック (CB)
- A種 □B種 □C種 厚□100、 □120、 □150、 □190、
- (3) 鉄筋

	種 類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■ S D 295 A	D 10・13・16		■ 重ね継手
	□ S 295 B			
	■ S D 345	D 19・22・25		■ ガス圧接継手
	□ S D 390			
丸 鋼	□ S R 235			□ 特殊継手
溶接金網	□			()

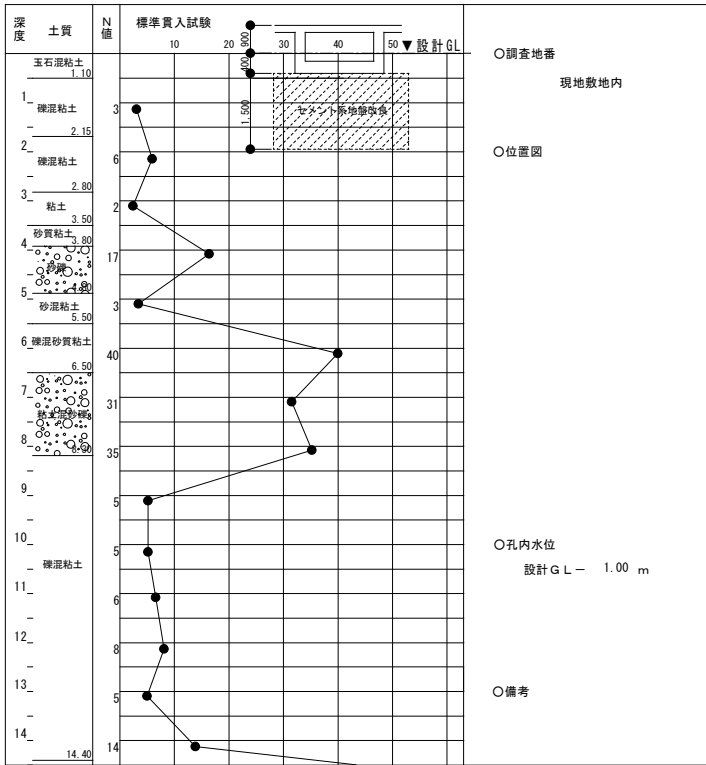
- | (4)鉄骨 | | 種 類 | 使用箇所 | 現場溶接 | 備 考 |
|-------|-------------------------|--------|-------|------|-----|
| 鋼 材 | ■ S S 400 □ S N 400 | 梁 | □有 ■無 | | |
| | ■ S N 490 C | ダイヤフラム | □有 ■無 | | |
| | ■ B C R 295 □ B C P 235 | 柱 | □有 ■無 | | |
| | ■ S S C 400 | 胴縁・間柱 | □有 ■無 | | |

- (5) ボルト
- | | | |
|--------------------|--------------|-------------------------------|
| ■ 高力ボルト □ 普通、F 8 T | ■ 特殊、S 10 T | 認定品 (□ M12、■ M16、■ M20、□ M22) |
| ■ 中ボルト M12 | M16 | 高力ボルトすべり係数試験 □ 要 □ 否 |
| ■ アンカーボルト | M12 (SS400) | L = 240 mm ナット (ダブル) |
| | M16 (ABR400) | L = 320 mm ナット (ダブル) |
| □ スタッダボルト | Φ = 16 | L = 80 mm |

- (6) 屋根、床、壁 使用箇所
- ☐ A L C 版
- ☐ 折 版 型式 馳式折版 SV2型 厚 0.8 mm
- ☒ デッキプレート 型式 QL99-50 厚 1.2 コンクリートS-80
- ☐ キーストンプレート 型式 厚
- ☐ 特殊デッキプレート

3. 地 盤

- (1) 地盤調査資料
☒有（☐敷地内 ☐近隣） ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定
 ☐液状化判定 ☐現場透水試験 ☐土質試験
- ☐無（調査予定） ☐有 ☐無
- (2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理探査 ☒平板載荷試験 ☐試験窓（支持層の確認）
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭径、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。
- (4) ボーリング標準貫入値、土質構成



4. 地業工事

- (1) 直接基礎 ■ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験堀 ●有 □無
長期許容支持力度 50 KN/m² 載荷試験 ●有 □無
- (2) 杭基礎 杭基礎仕様は、下段の仕様書に拠る。

杭 種	材 料	施 工 法	備 考
<input type="checkbox"/> RC <input type="checkbox"/> PC <input type="checkbox"/> PHC <input type="checkbox"/> H鋼 <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 摩擦杭 <input type="checkbox"/>	PC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) 鋼材 <input type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> STK400 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 打ち込み <input type="checkbox"/> 埋込み (<input type="checkbox"/> トミ工法) <input type="checkbox"/>	大臣認定 号 年 月 日
<input type="checkbox"/> 場所打ち <input type="checkbox"/> コンクリート杭	コンクリート Fc = スラブ セメント量 kN/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 掘底杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深基礎 { <input type="checkbox"/> 手堀 <input type="checkbox"/> 機械堀	掘底杭 日本建築学会-認 第 号 年 月 日

杭仕様 ☐ 施工計画書承認 ☐ 杭施工結果報告書
試験杭 (☐ 有・☐ 無) (☐ 打ち込み・☐ 載荷) 本

[illegible]

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
- ① コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5(1997)による。
- ② 耐久設計基準強度 F_d ■ 一般 □ 標準 □ 長期
- ③ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- ④ 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- ⑤ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- ⑥ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を1回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- ⑦ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5-T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
- また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおい3台の運搬車からその必要本数を採取する。なを、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4適用に3本を用いる。
- ⑧ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。
- なを、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。

- (2) 鉄筋
- 鉄筋はJISG3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(1997)による。
 - 高強度せん断補強筋はJISG3137に規定されるD種1号適合品とする。
 - 鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
 - D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 - ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は30箇所以上とする。
 - 外観検査●口有 □無、引張試験 □有 □無、超音波探傷試験 ●● □無
 - 材の帯筋(H00P)の加工方法は、●H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。
 - コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
- 試験機関名
代行業者名
- 代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

- (3) 型 枠
- 材料 合板厚 12mmを標準とする。 □施工はJASS5による。
- 型枠存置期間

種 類 部 位	せ き 板				支 柱			
	基礎、梁側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
	早強 [®] トラ ランド [®] セメント	普通 [®] トラ ランド [®] セメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強 [®] トラ ランド [®] セメント	普通 [®] トラ ランド [®] セメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強 [®] トラ ランド [®] セメント	普通 [®] トラ ランド [®] セメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強 [®] トラ ランド [®] セメント 普通 [®] トラ ランド [®] セメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	
	セメント の種類 有価期間の 平均気温							
コン クリ ートの 材 令 (H)	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コケラーの 圧縮強度	5.0 N/mm2			設計基準強度の50%		設計基準強度の 85% 100%		

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛かえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は支持のない限り下記による
☐日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☐鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工基準」
☐
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場 ☒製作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書
☒認定または登録工場（ R グレード 都登録 ランク）
 材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☐高力ボルト ☒特殊ボルト ☒頭付スタッフ
☒社内検査表 ☐ ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
☒口印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること
☐現況検査 ☒組立・開先検査 ☒製品検査
☒建方検査 ☐ ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
☒鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱（建築構造設計指針第12章）
☐日本建築学会「溶接施工規準、同解説」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☐日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

- (5) 接合部の検査
 ●接合部の検査（検査結果は後日工事監理者に報告すること）

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社 内	第三者	工事監理者	
●完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100 %	30 %	% %	
□	外観（目視）検査	%	%	%	
□	マクロ試験・その他	%	%	%	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。
注2) 現場溶接は超音波探傷試験を100%行うこと。
- ④高力ボルトは「JISB1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。
- ⑤高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。また、締付けは一次・二次締めとする。
- 締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。
- (6)防錆塗装
- ①防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面、及び亜鉛メッキ面以外の部分とする。錆止めペイントは、JISK5621、2回塗りを標準とする。
- ②現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は急に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。
- (7)耐火被覆の材料
-

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- 建築設備の構造強度は、建築基準法施行令第129条2の4の規定に適合する仕様とし、
- 給湯設備については、平成12年建設省告示1338号のい、の規定に適合する仕様とし、

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
 - 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
 - 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。
-



株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2026.

■担当/CHECK

■製図/DRAWER

寺記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舍等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

構造設計標準仕様

■縮尺/SCALE

■図番/No.

鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔１〕

１．共通事項

A．適用範囲

- この標準図は、各種構造（ＲＣ造、ＳＲＣ造、Ｓ造）の鉄筋コンクリート造部分に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事標準仕様書」（以下、標仕）による。
- 使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。
この標準図は、表１．１に示す鉄筋および溶接金網に適用する。
これ以外は特記による。

表１．１

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235, SR295 SD295A, SD295B SD345, SD390
JIS G3117	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	SDR295, SDR345
JIS G3551	溶接金網	

B．凡例

- d・・・鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
h・・・部材の内法高さ
l・・・部材の内法寸法
r・・・半径
@・・・間隔
℄・・・中心線

C．鉄筋の表示

- 鉄筋の表示記号は、表１．２による。

表１．２

表示記号	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋径	丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	29φ	32φ

- (１) 上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
(２) 上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

２．鉄筋の加工・組立て

A．加工・組立て

- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
- 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋は、使用しない。
- 鉄筋の切断は、シャークッターや電動カッター、または鉄筋冷間直角切断機等によって行う。ただし、圧接端面となる場合は、ガス切断を行ってはならない。
- 鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行わない。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とする。溶接技能者は、工事に相応した技量を有する者とする。
- 鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリート打放しの仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。
- 前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。
- 設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

B．末端部のフック

- 次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(１) 丸鋼
(２) 異形鉄筋
 - 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。
 - 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
 - 杭基礎のベース筋。
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

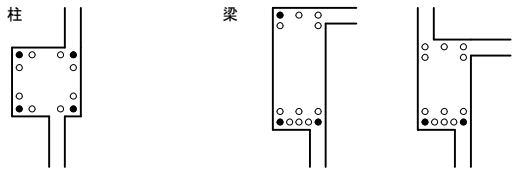


図２．１

C．折曲げ

- 鉄筋の折り曲げは、表２．１及び表２．２による。

表２．１ 鉄筋の折曲げ（末端部）



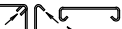


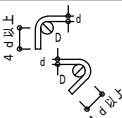
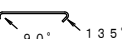



折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折 曲 げ 内 法 直 径 （ D ）			使 用 箇 所
		SD295A、SD295B SD345			
		D16 以下	D19 ～D38	D10 ～D38	
180°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	 T 形及び L 形 の 梁のあばら筋
135° 及び 90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	 幅止め筋

表２．２ 鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ 角 度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D）			使用箇所
		SD295A、SD295B SD345、SD390			
		D16 以下	D19 ～D25	D29 ～D38	
90° 以下		3d以上	4d以上	—	 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		4d以上 (5d以上)	6d以上	8d以上	その他の鉄筋

(注) () 内はSD390の場合を示す。

３．鉄筋の継手・定着

A．鉄筋の継手及び定着長さ

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第73条5項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表３．１による。

表３．１ 鉄筋の種類に応じた継手工法

種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
SD295A	D16以下	—
SD295B SD345 SD390	原則として、D16以下とする。 ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、D25以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、D32以下とする。	D19以上

- 重ね継手および定着の長さは、特記がなければ表３．２による。

表３．２ 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3		L1h	L2h	L3h	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	35d (40d)	30d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
SD345	18	50d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
	21	45d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	40d	35d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
SD390	21	50d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	45d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
		40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		

(注) １．() は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。

ただし、軽量コンクリートを除く。

２．L1, L1h: 3. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

３．L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。

４．L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。

５．L3h : 小梁下端筋のフックあり定着長さ。

６．フックあり定着の場合は、図３．１に示すよう「フック部分L'」を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

７．軽量コンクリートの場合は、表の() 内の値に10d、その他の値に5dを加えたものとする。

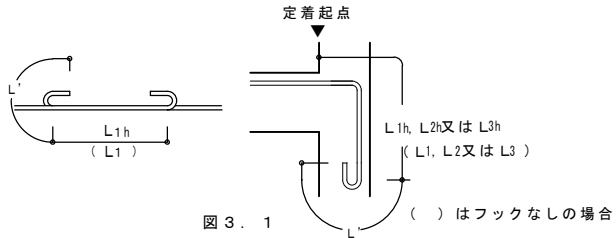


図３．１

- 定着方法は、標仕5.3.4(e)(2)による。

B．隣合う継手の位置

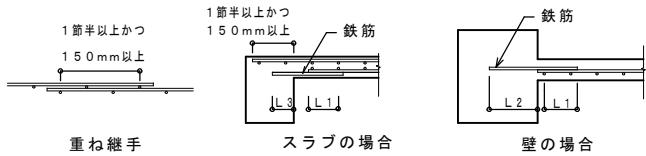
- 隣合う継手の位置は、表３．３による。ただし、スラブ及び壁の場合でD16以下は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表３．３ 隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックのある場合	
フックのない場合	
圧接継手及び機械式継手	

C．溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は、図３．２による。



スラブの場合

壁の場合

図３．２

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき

A．鉄筋のかぶり厚さ

- 設計かぶり厚さは、特記による。特記が無ければ、表４．１による。
但し柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表４．１ 鉄筋のかぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類				設計かぶり 厚さ	最少かぶり 厚さ
土に接し ない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり		3 0	2 0
		仕上げなし		4 0	3 0
	柱、梁、 耐力壁	屋内	仕上げあり	4 0	3 0
			仕上げなし	4 0	3 0
		屋外	仕上げあり	4 0	3 0
			仕上げなし	5 0	4 0
	擁壁、耐圧スラブ		5 0	4 0	
土に接す る部分	柱、梁、スラブ、壁		* 5 0	* 4 0	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		* 7 0	* 6 0	
煙突等の高熱を受ける部分				7 0	6 0

- (注) １．設計かぶり厚さ：鉄筋加工に用いる標準かぶり厚さ
最小かぶり厚さ：鉄筋組立後のかぶり厚さ
２．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
３．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
４．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
５．杭基礎ベース筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。
６．貫通孔部、及びびびわれ誘発目地の目地底に接する鉄筋について最小かぶり厚さを確保する。
７．塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、特記による厚さを表４．１の数値に加える。



鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕

4. 鉄筋のかぶり厚さ及びあき（続き）

B. 鉄筋の相互のあき

- 鉄筋相互のあきは図4. 1により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
 - 粗骨材の最大寸法の1. 25倍
 - 25mm
 - 隣合う鉄筋の平均径（呼名に用いた数値d）の1. 5倍

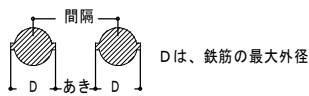


図4. 1

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは1. による。

C. 鉄筋の保護

- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ、位置及び間隔の保持に努める。

5. 基礎・基礎梁

A. 基礎

1. 基礎の配筋要領

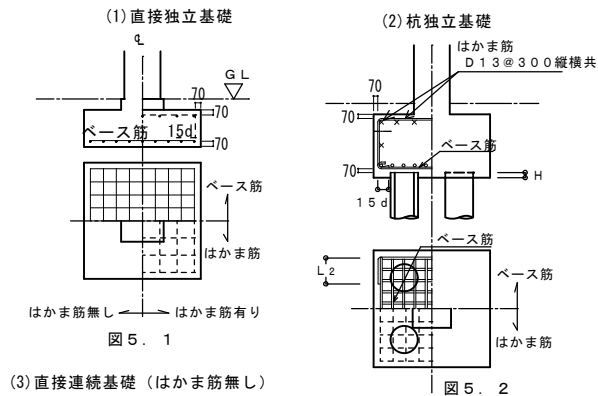


図5. 1

(3)直接連続基礎（はかま筋無し）

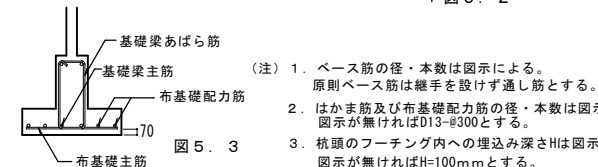


図5. 3

2. 杭頭の補強要領

杭頭補強の要領は図示による。PHC杭で図示が無い場合は図5. 4による。〔H≦300の場合〕〔H≧杭径かつ杭頭をカットしない場合〕

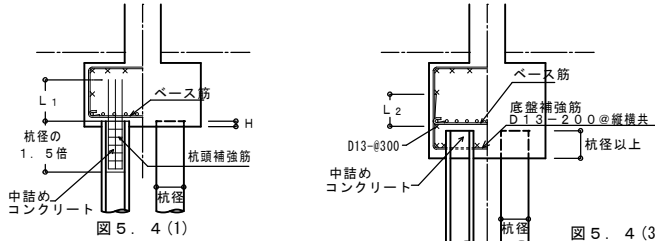
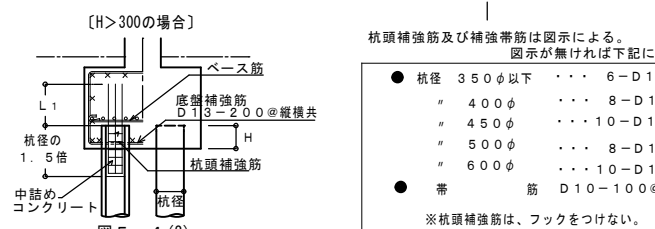


図5. 4 (1)

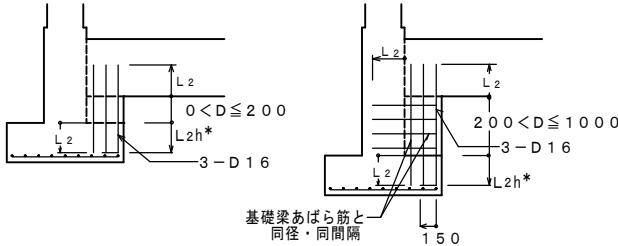
図5. 4 (2)



（注）1. 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用

C. 基礎接合部の補強

- 基礎接合部の補強は、特記による。特記が無ければ図5. 5による。



* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(e) (3)によることができる。

図5. 5

D. 基礎梁筋の継手及び定着

1. 一般事項

- 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図5. 6による。

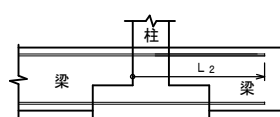


図5. 6

- 梁筋を柱内に定着する場合は、標仕5. 3. 4 (e) (2)による。
- 継手は原則として、コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。
- 継手は1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

2. 基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合

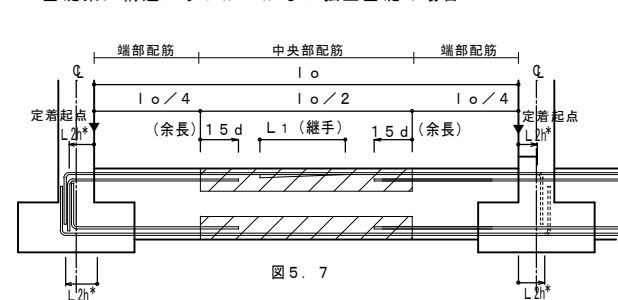


図5. 7

3. 基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合

※耐圧スラブが付く場合は、図5. 9に準ずる。

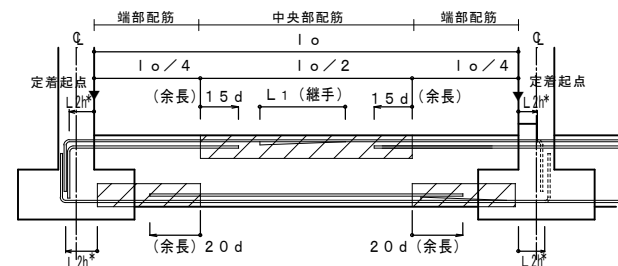
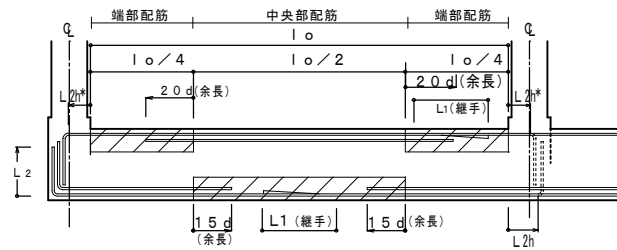


図5. 8

4. 連続基礎及びべた基礎の場合



* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(e) (2)によることができる。

図5. 9

- （注）
- 図示のない事項は、9. 「大梁」による。
 - 印は、継手位置を示す。
 - 破線は、柱内定着の場合を示す。
 - ハッチ部分は、望ましい継手位置を示す。

E. 基礎梁のあばら筋

1. 基礎梁のあばら筋

- 基礎梁のあばら筋の径及び間隔は、特記による。
- 基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、10. 「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1. 5m以上の場合は、図5. 10によることができる。

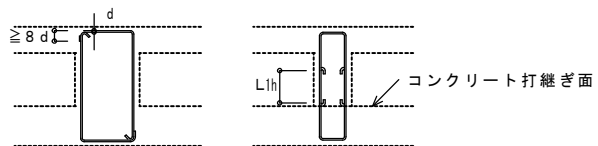


図5. 10

- 腹筋及び幅止め筋は、10. 「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1. 5m以上の場合は、特記による。
- あばら筋の割付は、10. 「あばら筋等」による。

F. 基礎梁の補強

- 打増し補強は、11. 「梁の打増補強」による。
- 土間スラブ等の打増補強は、13. 「スラブ」(3)スラブ等の補強による。

6. 柱

A. 柱の主筋

- 柱主筋の継手及び定着は、次による。

- 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3/4h_o（h_oは柱の内法高さ）以下とする。
- 重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は図6. 1による。ただし、柱頭定着長さL2が確保できない場合は、特記による。
- 電気設備の埋め込みボックス等は、柱の断面欠損となり、強度、耐久性の低下につながるため、原則として、埋め込まないこととする。やむを得ず埋め込む場合には、柱の打増し、乾式工法（軽鉄下地）等を検討する。また、配管についても1つの柱に集中させないようにするとともに、材軸方向と直交方向に配管する場合には柱の貫通は行わないこととする。
- 柱主筋にX形配筋を用いる場合は、「X形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。

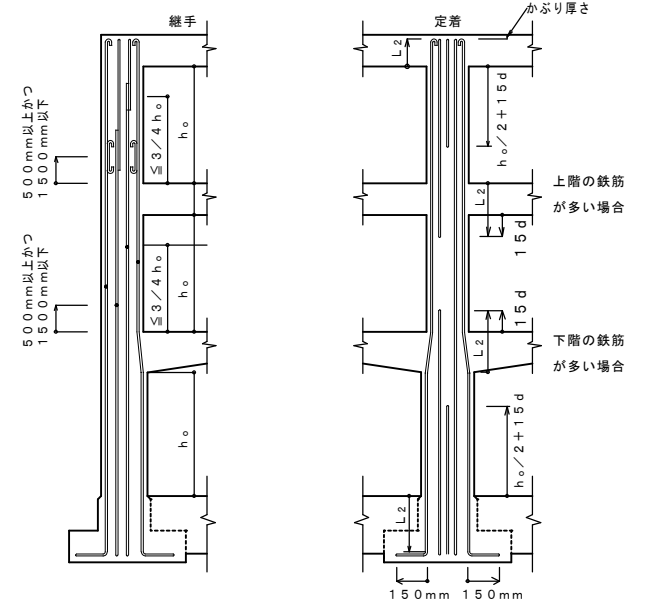


図6. 1

- （注）
- 2. 「鉄筋の組立・加工」で定めた鉄筋には、フックをつける。
 - 隣合う継手の位置は、表3. 3による。
 - 継手、定着は、すべての階に適用できる。

7. 帯筋

A. 帯筋

- 帯筋は、原則としてH形とする。ただし、構造上重要な柱、独立柱等で特記するものはスパイラル筋とする。やむを得ず上記以外の方法とする場合はb、cによる。

- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

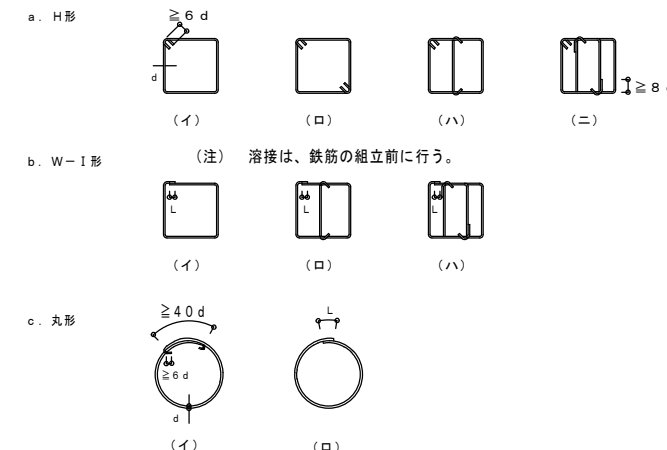


図7. 2

- 溶接する場合の長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。溶接は設備の整った工場で行うことを原則とする。やむを得ず現場で溶接しなければならない場合には、十分に溶接できる作業条件と有資格者によって行うこととする。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士ノ一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2026.

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕

■縮尺/SCALE

A3：NS

■図番/No.

S — 403

鉄骨構造標準図 [1]

1. 共通事項

A. 適用範囲

- この標準図は、鉄骨工事に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事共通仕様書」、「鉄骨設計標準図」（建設大臣官房庁営繕部監修）による。
- 使用する鋼材等は特記による。この標準図は、表1. 1～表1. 4に示す鋼材等に適用する。これ以外は特記による。

表 1. 1 鋼材の種類

規格番号	規格名称等	種類の記号
JIS G3101	一般構造用圧延鋼材	SS400, SS490, SS540
JIS G3106	溶接構造用圧延鋼材	SM400A, B, C, SM490A, B, C SM490YA, YB, SM520B, C
JIS G3114	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	SMA400AW, AP, BW, BP, CW, CP SMA490AW, AP, BW, BP, CW, CP
JIS G3136	建築構造用圧延鋼材	SN400A, B, C, SN490B, C
JIS G3138	建築構造用圧延棒鋼	SNR400A, B, SNR490B
JIS G3350	一般構造用軽量形鋼	SSC400
JIS G3353	一般構造用溶接軽量H形鋼	SWH400
JIS G3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400, STK490
JIS G3466	一般構造用角形鋼管	STKR400, STKR490
JIS G3475	建築構造用炭素鋼鋼管	STKN400W, STKN400B, STKN490B
_____	上記に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鉄鋼	_____

表 1. 2 高力ボルト

規格番号	規格名称等	セットの種類
	トルシア形高力ボルト	2種 (S10T)
JIS B1186	JIS形高力ボルト	2種 (F10T)
めっき後の機械的性質がJIS B1186の規定のセットと同等であること	溶融亜鉛めっき高力ボルト	1種 (F8T相当)

表 1. 3 普通ボルト

	規格名称等	種類
規格番号 規格名称	JIS B1180 (六角ボルト)	JIS B1181 (六角ナット)
種類	並形六角ボルト	並形六角ナット
材料区分	鋼製	鋼製
強度区分	4. 6 又は 4. 8 6 g	5 T 6 H
ねじの交差域クラス及び適用の規格	JIS B 0205-4 (一般用メートルねじー第4部：基準寸法) 及び JIS B 0209-1 (一般用メートルねじー公差ー第1部：原則及び基礎データ) による。	
仕上げの程度	中	中

- 普通ボルトの座金はJIS B1256 (平座金) によるみがき丸とし、ボルトに相応したものとする。
- アンカーボルトのボルト、ナット及び座金の材質は、特記による。特記がなければ、構造用アンカーボルトの材質はSNR400とする。

表 1. 4 溶接材料

規格番号	種類	規格名称
JIS Z3211 JIS Z3214	被覆アーク溶接棒	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 ・耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
JIS Z3312 JIS Z3313 JIS Z3315 JIS Z3320	ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ ・耐候性鋼用マグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ ・耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
JIS Z3313	セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
JIS Z3183 JIS Z3351 JIS Z3352	サブマージアーク溶接用材料	・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分 ・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ ・サブマージアーク溶接用フラックス
JIS Z3353	エレクトロスラグ溶接用材料	・軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
JIS B1198	スタッド溶接用材料	・頭付きスタッド

- ターンバックルはJIS A5540 (建築用ターンバックル) により、ターンバックル胴、ターンバックルボルトの種類、及びターンバックルボルトのねじの呼びは、特記による。特記がなければ、ターンバックル胴は割枠式、ターンバックルボルトは羽子板ボルトとする。
- 構造耐力上主要な部分である床版又は屋根版に使用するデッキプレートは国土交通省告示第326号 (平成14年制定、平成19年改正) に定める技術的基準に適合すること。
- 構造床として使用するデッキプレートは国土交通省国土技術政策総合研究所他「デッキプレート版技術基準解説及び設計・計算例」および(独)建築研究所監修「デッキプレート床構造設計・施工基準」により、材質、形状及び寸法は特記による。
- 合成スラブとして使用するデッキプレートは国土交通大臣認定品とし、材質、形状及び寸法は特記による。

B. 略語

- | | | | | | |
|------|-----|-----------|------|-----|-----------|
| ・AB | ・・・ | アンカーボルト | ・FR | ・・・ | フランジプレート |
| ・BH | ・・・ | 組立H形鋼 | ・GR | ・・・ | ガセットプレート |
| ・BR | ・・・ | ベースプレート | ・HTB | ・・・ | 高力ボルト |
| ・CHL | ・・・ | チェッカープレート | ・RL | ・・・ | リブプレート |
| ・CL | ・・・ | カバープレート | ・SL | ・・・ | スブライスプレート |
| ・DFR | ・・・ | ダイアフラム | ・TB | ・・・ | ターンバックル |
| ・FB | ・・・ | フラットバー | ・WR | ・・・ | ウェブプレート |

2. 溶接

A. 溶接技能資格者

- 溶接作業における技能資格者 (以下「溶接技能者」という。) は、工事に相応した次に示す試験等により (社) 日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
 - 手溶接の場合は、JIS Z3801 (溶接技術検定における試験方法及び判定基準)。
 - 半自動溶接の場合は、JIS Z3841 (半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)。
 - 自動溶接の場合は、(1) 又は (2) の基本級及び技量を証明する主な工事経歴
 - 組立溶接の場合は、(1) 又は (2) の基本級以上とする。
- 工事の内容により、1. の溶接技能者に対して、技量付加試験を行う場合は、特記による。
- 溶接技能者の技量に疑いが生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監督職員の承諾を受ける。

B. 部材の組立て

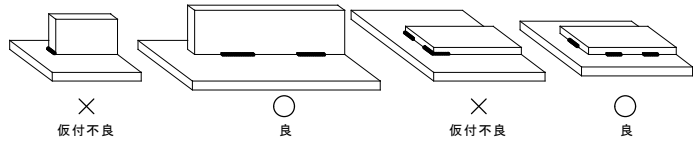
- 部材の組立は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。
- 組立て順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取り入れる。
- 高力ボルト接合と溶接接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先行い、溶接にあたってはボルト接合面の変形やボルトへの入熱を十分考慮して施工する。
- 組立溶接は、次による。
 - 組立溶接の位置は、継手の端部、隅角部、本溶接の始点及び終点等の強度上及び工作上支障がある箇所を避ける。
 - 組立て溶接で本溶接の一部となるものは最小限とし、欠陥を生じたものは全て削り取る。
 - 組立て溶接の最小ビード長さの有効長さは表2. 1により、その間隔は300～400mm程度とする。

表 2. 1 組立て溶接の最小ビード長さ (単位：mm)

板厚	手溶接、半自動溶接を行う箇所	自動溶接を行う箇所
6以下	30	50
6を超えるもの	40	70

(注) 板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

a. 仮付位置



b. 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

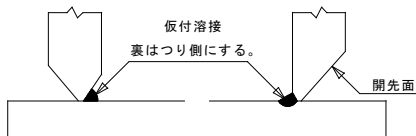


図 2. 1

C. 溶接施工

1. 溶接方法

- アーク手溶接 (MC)
- ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
- セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)
- アークエアーガウジング (AAG)

2. 溶接姿勢

- 溶接姿勢は、作業架台、ポジショナー等を利用して、できるだけ下向き溶接とする。

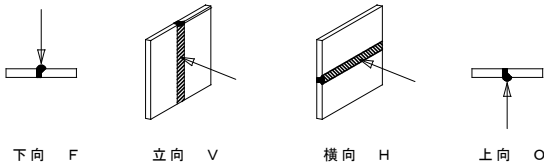


図 2. 2

3. エンドタブ

- エンドタブの材質、形状は特記による。特記が無い場合は、以下による。
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
- エンドタブの材質は、母材と同質とする。
- エンドタブの長さは、MC：35mm以上
NGC、CG：40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
- プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して監督職員の承諾を得る。

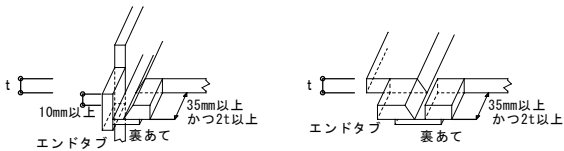


図 2. 3

4. 裏当て金、スカラップ、裏はつり

- 裏あて金の材質は特記による。特記が無い場合は以下による。
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- スカラップは改良型スカラップ、またはノンスカラップとする。



株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE

2026.

■担当/CHECK

T. NAKAMURA

■製図/DRAWER

T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

鉄骨構造標準図 [1]

■縮尺/SCALE

A3：NS

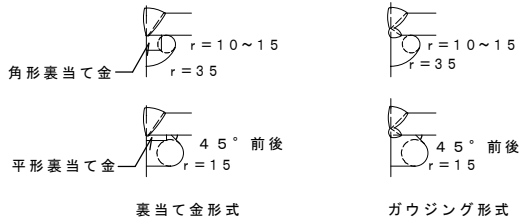
■図番/No.

S — 404

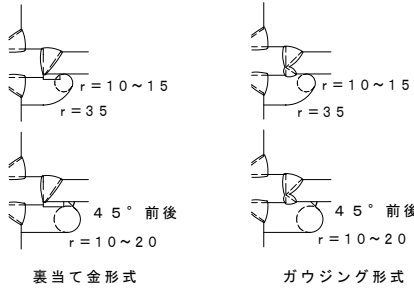
鉄骨構造標準図 [2]

2. 溶接 (続き)

a. 改良型スカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 4

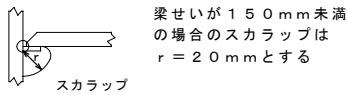
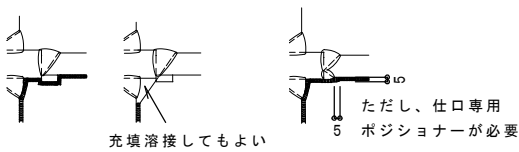


図 2. 5

b. ノンスカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 6

(4) 溶接継手の両面から溶接する場合は、表面より溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりをを行い、裏はつり後裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶け込みが得られると判断確認できる場合は、監督職員の承諾を受けて、裏はつりを省略することができる。

D. 溶接部の試験

1. 溶接部の試験は、特記によるが、現場溶接部分は原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

3. ボルト接合

A. 高力ボルト

1. 摩擦面は、すべり係数値が 0.45 以上確保できるよう、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の 2 倍以上の幅を除去した後、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラスト又はグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を $50\mu\text{mRy}$ 以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合には錆の発生を要しない。
2. 摩擦面は、摩擦力を低減させるものが発生又は付着しないように保護する。浮き錆、油、塗料、塵あい等が発生又は付着した場合は、組立てに先立ち取り除く。

B. 普通ボルト

1. ボルトの接合は、ゆるみ及びずれの無いように締め付ける。
2. ボルトには、有効な戻り止めを行う。
3. せん断ボルトは、座金を用いて、ねじがグリップに掛からないようにし、かつ、ナットの外に 3 山以上出るようにする。

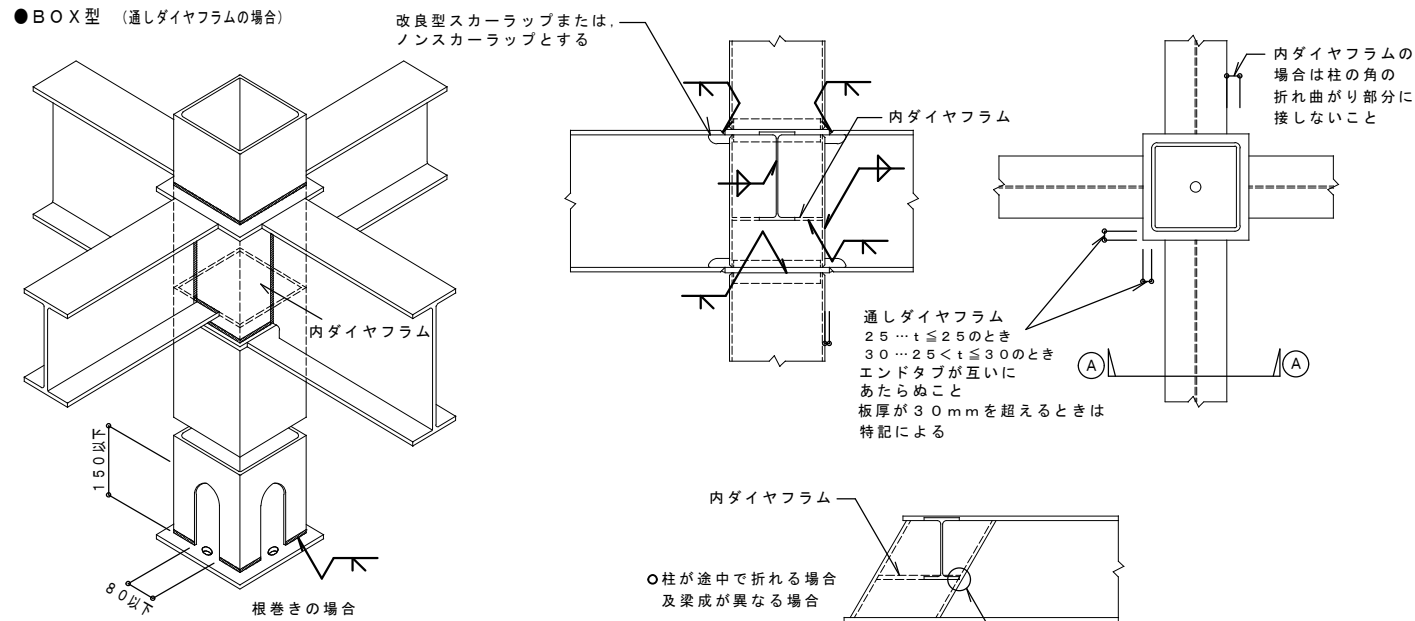
4. 錆止め塗装

A. 錆止め塗装

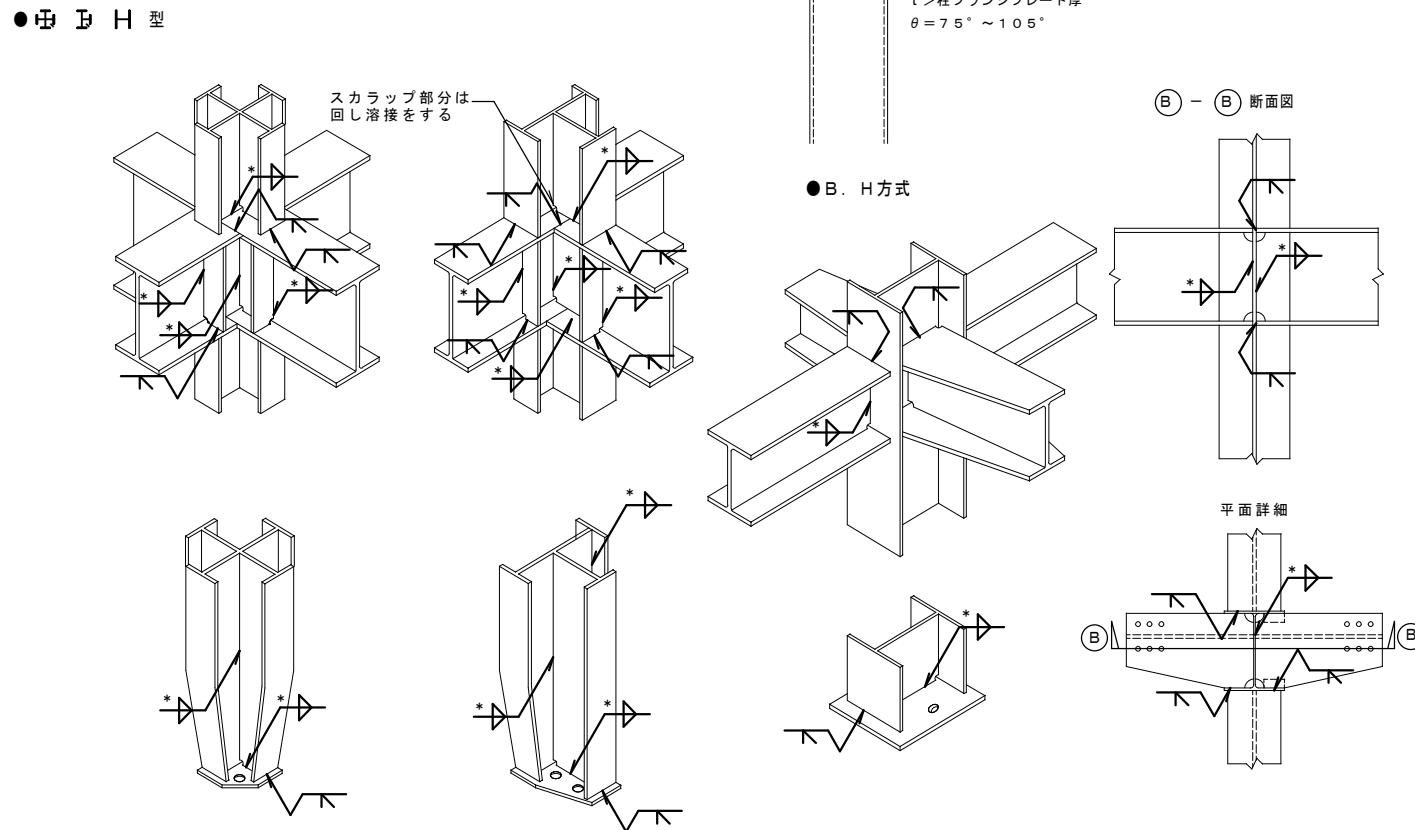
1. 錆止めの塗料の種別は特記による。
2. 次の部分には、塗装しない。
- (1) コンクリートに接触する部分及び埋め込まれる部分
- (2) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
- (3) 密閉される閉鎖形断面の内面
- (4) 耐火被覆材の接着する面
- (5) 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ 200mm の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
- ただし、工事現場溶接を行う部分でも、著しい錆を発生するおそれがある場合は、溶接に無害な適切な防錆処理を行うこと。

5. 接合部標準図

● B O X 型 (通しダイヤフラムの場合)






● B H 型



J F E 建材
株式会社

設		計	
デッキプレート		[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理	
デッキ	■ 1.2	□裏面防錆処理(一次塗装) Q.L.プライマー(P)	
■ 1.9	■ 1.2	■亜鉛めっき [■Z12 □Z27]	
■ 2.5	□ 1.6	□ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) [□K27 □K35]	
□ 3.2		□無し()	
■ 4.0		亜鉛めっき Z 2.7 限定	
■ 4.8			
■ 5.6			
■ 6.3			
■ 7.1			
■ 8.0			
■ 9.0			
■ 10.0			
■ 11.0			
■ 12.5			
■ 14.0			
■ 16.0			
■ 18.0			
■ 20.0			
■ 22.5			
■ 25.0			
■ 28.0			
■ 32.0			
■ 36.0			
■ 40.0			
■ 45.0			
■ 50.0			
■ 56.0			
■ 63.0			
■ 71.0			
■ 80.0			
■ 90.0			
■ 100.0			
■ 110.0			
■ 125.0			
■ 140.0			
■ 160.0			
■ 180.0			
■ 200.0			
■ 225.0			
■ 250.0			
■ 280.0			
■ 320.0			
■ 360.0			
■ 400.0			
■ 450.0			
■ 500.0			
■ 560.0			
■ 630.0			
■ 710.0			
■ 800.0			
■ 900.0			
■ 1000.0			
■ 1100.0			
■ 1250.0			
■ 1400.0			
■ 1600.0			
■ 1800.0			
■ 2000.0			
■ 2250.0			
■ 2500.0			
■ 2800.0			
■ 3200.0			
■ 3600.0			
■ 4000.0			
■ 4500.0			
■ 5000.0			
■ 5600.0			
■ 6300.0			
■ 7100.0			
■ 8000.0			
■ 9000.0			
■ 10000.0			
■ 11000.0			
■ 12500.0			
■ 14000.0			
■ 16000.0			
■ 18000.0			
■ 20000.0			
■ 22500.0			
■ 25000.0			
■ 28000.0			
■ 32000.0			
■ 36000.0			
■ 40000.0			
■ 45000.0			
■ 50000.0			
■ 56000.0			

アクセサリー

<p>フラッシング (Qデッキ割付の幅調整に用いる。)</p> 	<p>ハンガー金具 (Qデッキ下溝を利用する天井インサート用金具。)</p> 	<p>スぺーサー (ワイヤーメッシュの高さ確保用。)</p> 
--	---	---

注1) スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の間隔距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
 注2) スパンが3.4mを超える場合は、合成スラブと梁とは側面仕上がり（幅径16mm以上、ヒッチ300mm以下）で結合する。
 注3) 鉄骨梁の場合、梁との接合は溶接または栓接、打込み板、または鋼頭付キタックを用いる。
 注4) 梁の耐火被覆 梁に1、または3時間もの耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
 注5) 許容積載荷重W 算出式

[A] QL99-50		[B] QL99-75	
$W=5,400 \times \left(\frac{L}{2}\right)^2$ かつ $W=9,800 \text{ N/m}^2$ 以下	$W=5,400 \times \left(\frac{3}{2}\right)^2$ かつ $W=9,800 \text{ N/m}^2$ 以下		

※許容積載荷重は、床にかかると全荷重（仕上荷重も含む）から床荷重（デッキプレートとコンクリートの自重）を差し引いた値を示します。

付帯条件
 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとす。

スラブの配筋

コンクリート表面よりかぶり厚さが30mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

耐火仕様の配筋 QLデッキが単柱支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はASS5鉄筋コンクリート工事に準拠する。

- ・耐火補強筋、端部補強筋が必要な場合、QLデッキの各溝中央部にかぶり40mmで配筋する。
- ・耐火補強筋、端部補強筋、梁へ150mm以上で定着させる。梁上で定着が150mmとれない場合は、L型にて150mm以上を確保する。

A) 大梁・小梁共にS造の場合
QLデッキが単柱支持となる場合、耐火補強筋が必要。

B) 大梁・小梁共にRC又はSRC造の場合
QLデッキは単柱支持、耐火補強筋が必要。

C) 大梁がRC又はSRC造、小梁がS造の場合
QLデッキが連続支持となる場合、RC又はSRC造の大梁側では端部補強筋を配筋する。

[illegible]

1) 順付きスタッド
施工は、JAS38「教育工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する

焼抜きき

(1) 溶接機
交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 2
(2) 溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916に定める低水素系被覆アーク棒
棒径4mmのもの
(3) 標準溶接条件
溶接フランジ板厚: 6mm以上
溶接電流: 190~230A (標準210A)
(4) 溶接士の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841における基本級の有資格者
(5) 手順・要領
右の1~4の順に行う。

1) 順付きスタッド
施工は、JAS38「教育工事」による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する

焼抜きき

(1) 溶接機
交流アーク溶接機 AW250A以上 エンジン溶接機 2
(2) 溶接棒
JIS Z 3211のE4316、E4916に定める低水素系被覆アーク棒
棒径4mmのもの
(3) 標準溶接条件
溶接フランジ板厚: 6mm以上
溶接電流: 190~230A (標準210A)
(4) 溶接士の資格
JIS Z 3801、JIS Z 3841における基本級の有資格者
(5) 手順・要領
右の1~4の順に行う。

焼ばさぎ溶接 (SPW) 及び自動焼ばさぎ溶接 (A.P.W.)

□事前検査

SPW: 適正な溶接を行うため下記1)または2)の方法で

- 1) 様式計での計測
- 2) 溶接棒の消費量とよする確認 — 未使用の溶接棒の長さ約30mmに保持し、10mm程度の厚さの溶接棒の消費量が45〜53mmで

A.P.W. 試し溶接を行って溶接性を確認する。

□溶接後の外観検査

- 1) 溶接箇所の確認
- 2) 焼き切れ、余盛り不足の有無
- 3) 標準余盛り径 SPW: 18mm以上 A.P.W.: 25mm±3

□不良品の修繕

SPW の場合: スラッグ除去後、炭にデッキプレートを重ね箇所にて修繕する

A.P.W.の場合: 不具合溶接にて修繕する

【その他】

- 1) Q.L.溶接相互の嵌合状況
- 2) 溶接金網の敷込目状況

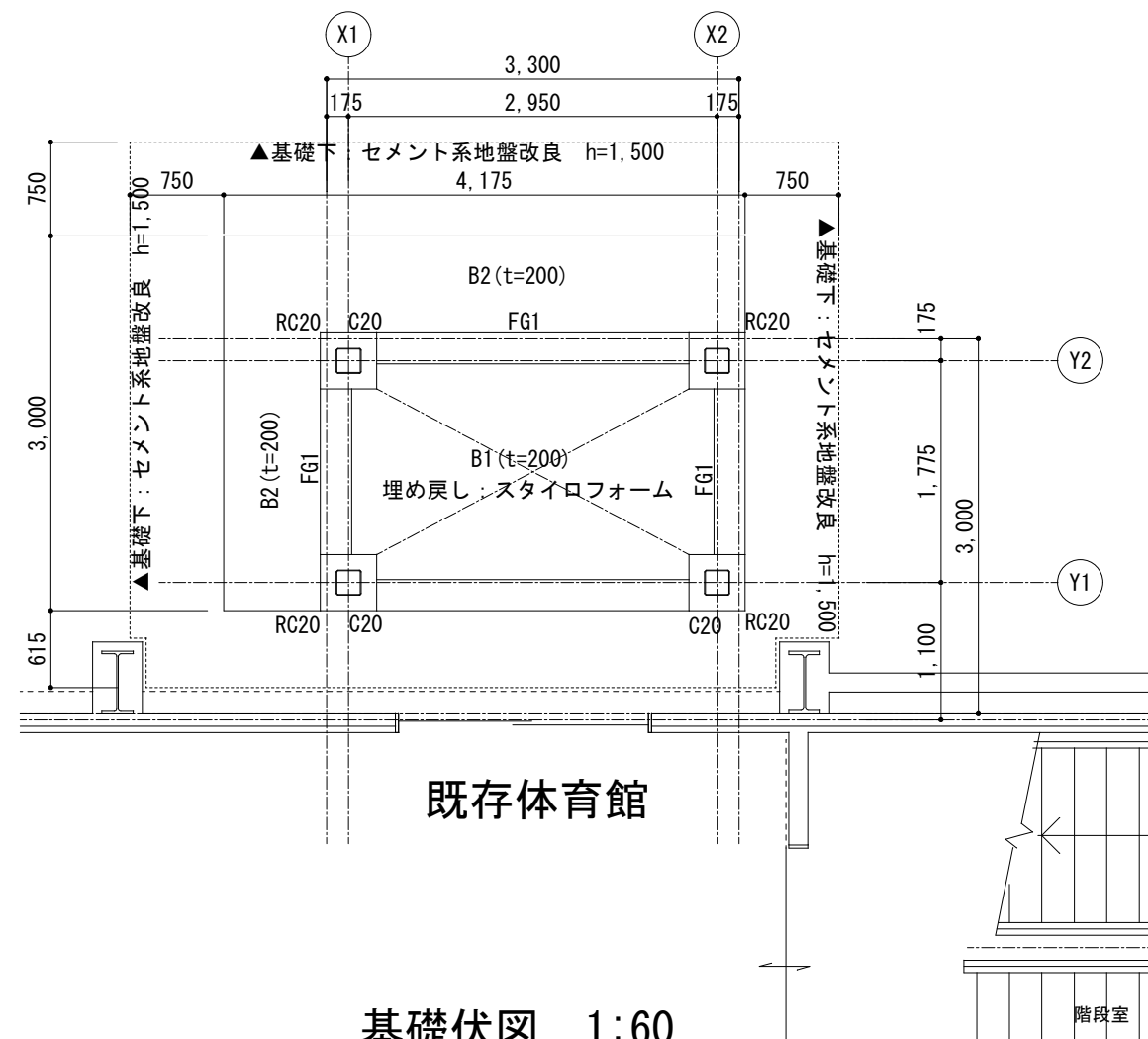
(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

[1] 設計上の留意点

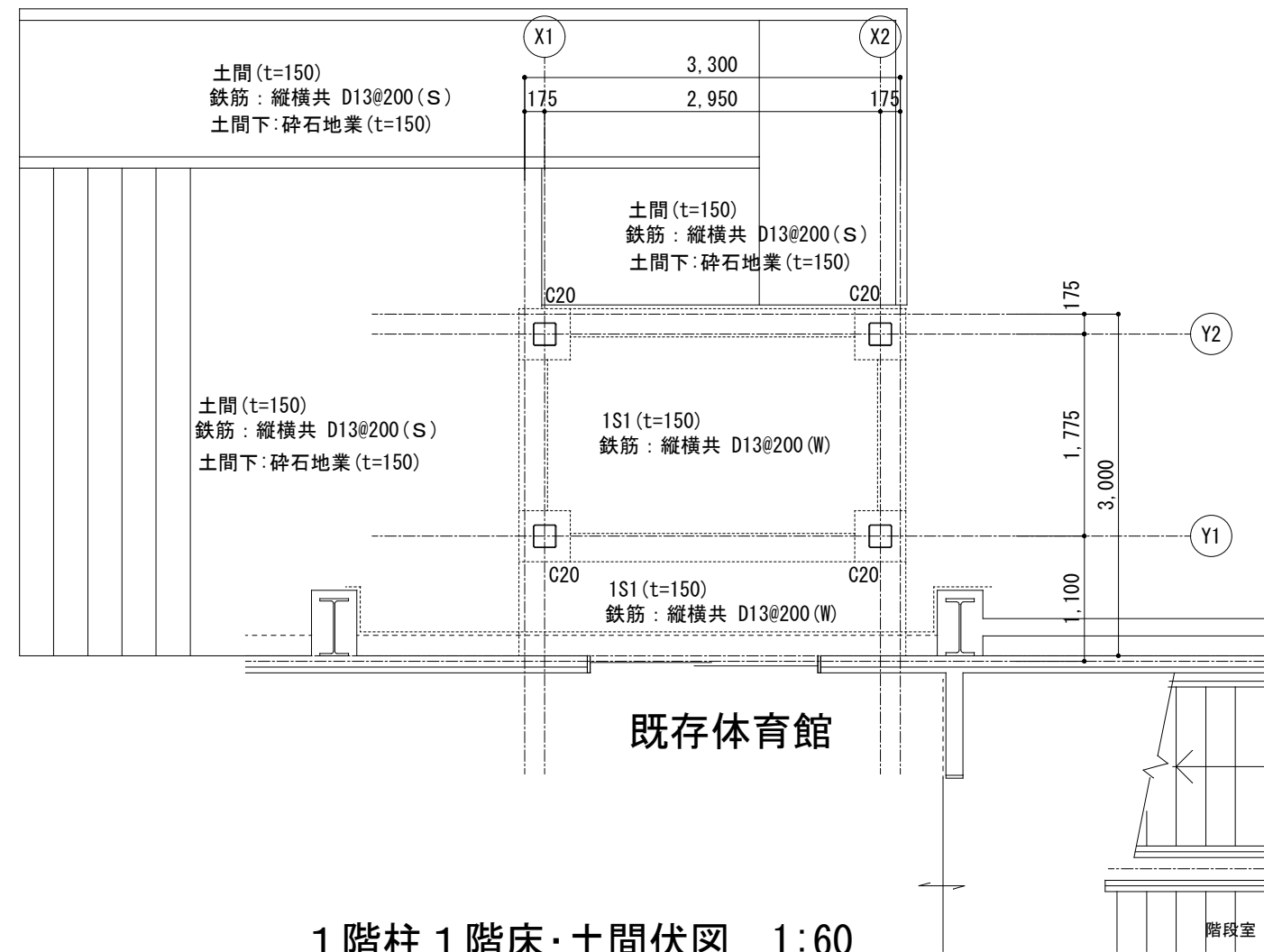
- 1) 小梁の剛性を大きくする
- 2) ひび割れ拡大防止のための補筋を打設する。(右図様例参照)
- 3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を多くする。
- 4) コンクリート厚さを ≥ 170 mmに山から 80~90mmに厚くする。
- 5) 2)・4)に適合しない場合は、次のように注意すること。
頭出しスラスト柱等の場合は、スラストプレートが全湾までアークスポット溶接するのが望ましい。

[2] 施工上の留意点

- 1) 水セメント比を小さくする。
単位水セメント比 175リットル/m³以下
ペーキングスラストスラブ [10cm] スラブ15cm
- 2) 高性能セメントと減水剤
- 3) 溶接金具の位置—からスラブ30mm—を確保する。(補筋は溶接金具)
- 4) コンクリート打込み後1週間以内は乾燥作業を行ない、歩行程度は可能とする。
- 5) 打込み後約1日に散水または撒布等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必要。
打込み後4~7日間スラストに補筋を付着をえ加えようとし、ス

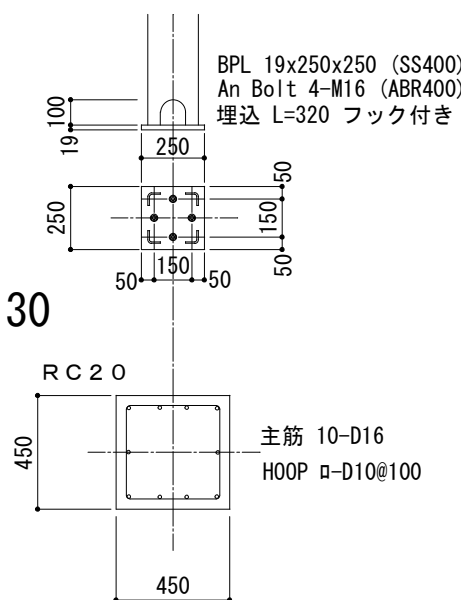


基礎伏図 1:60

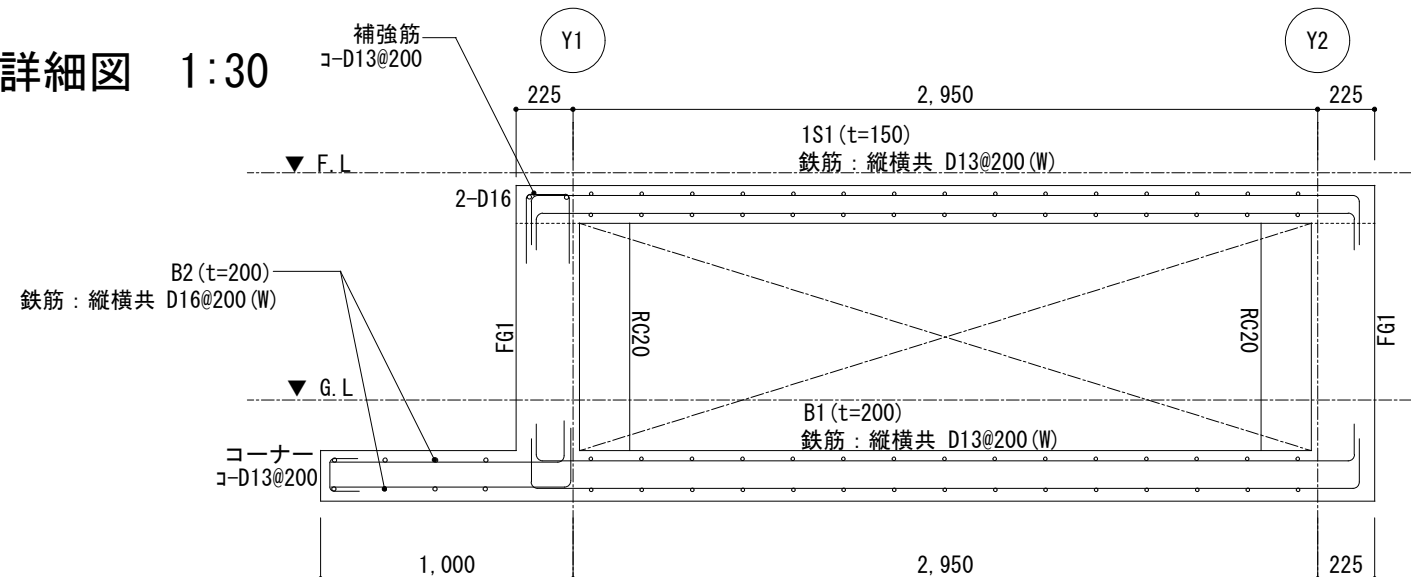
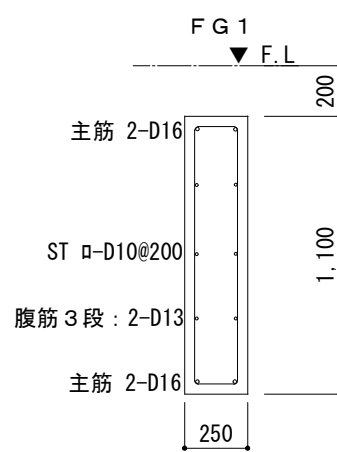


1階柱1階床・土間伏図 1:60

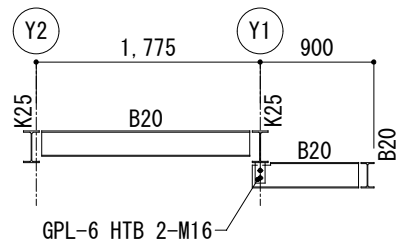
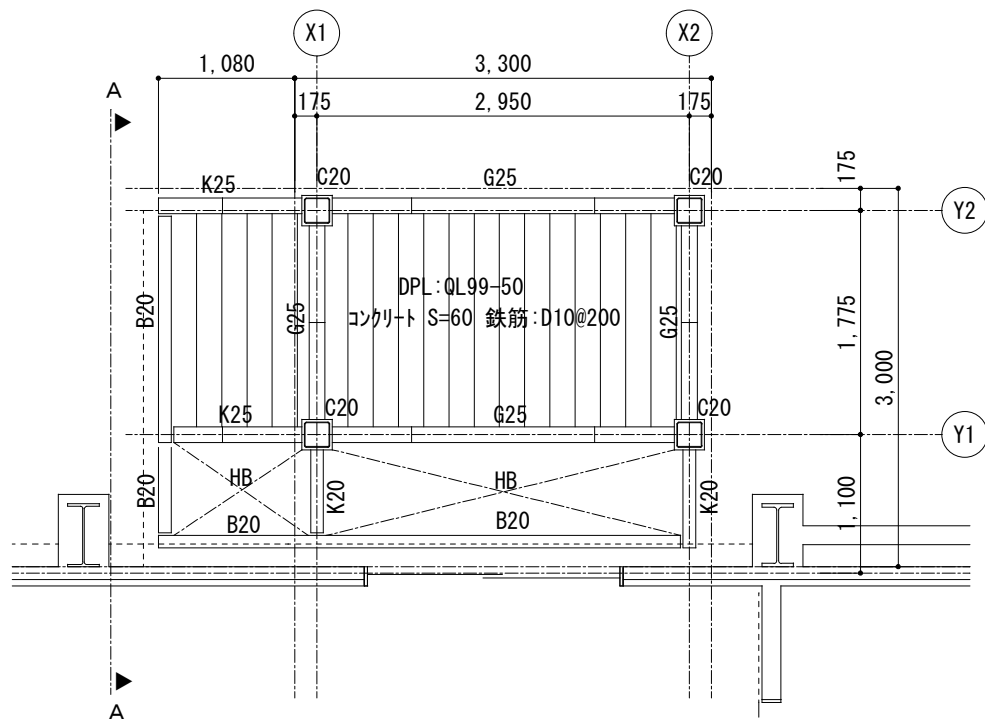
柱脚詳細図 1:30



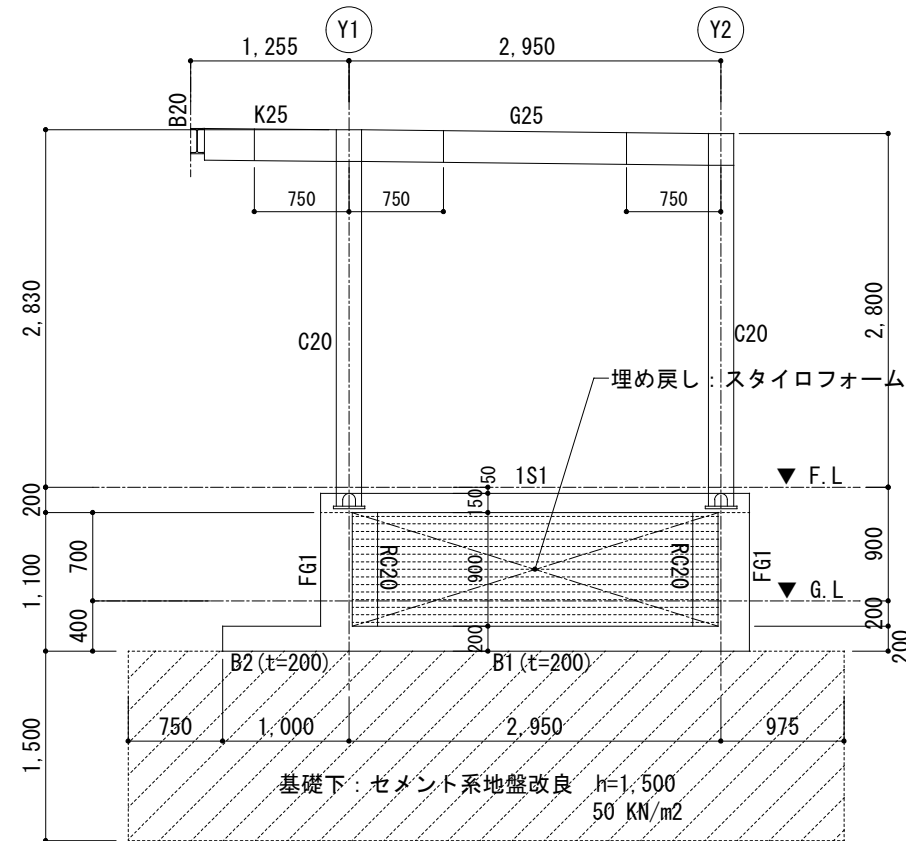
基礎・繫梁詳細図 1:30



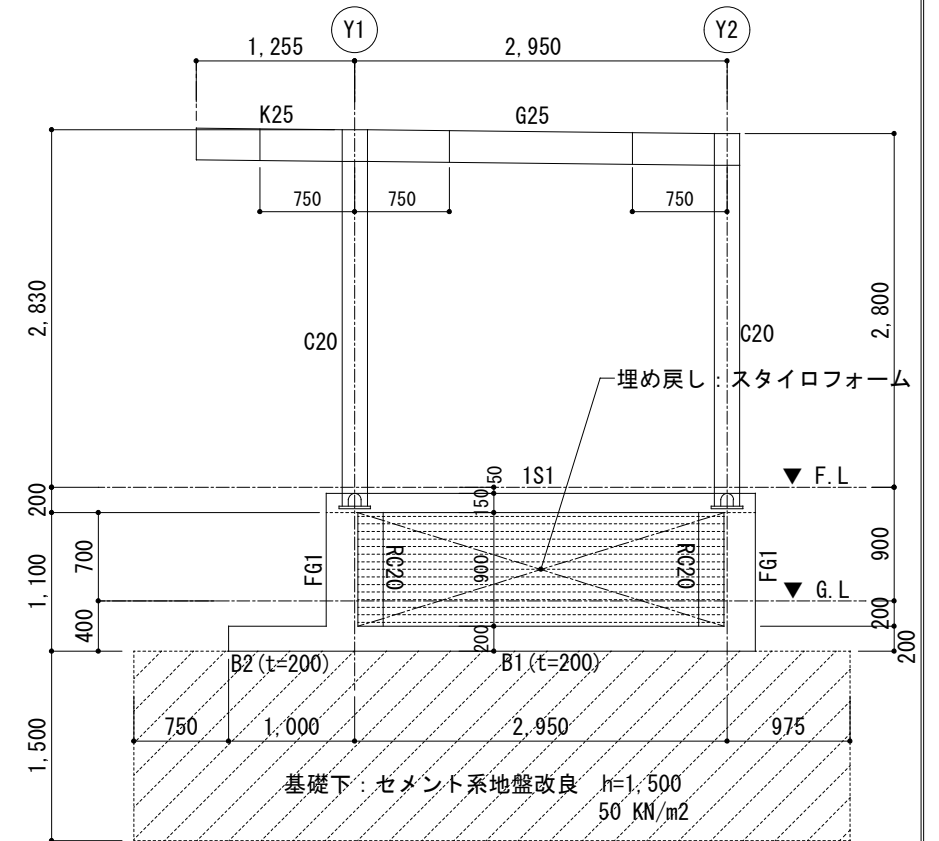
1 階柱屋根梁伏図 1:60



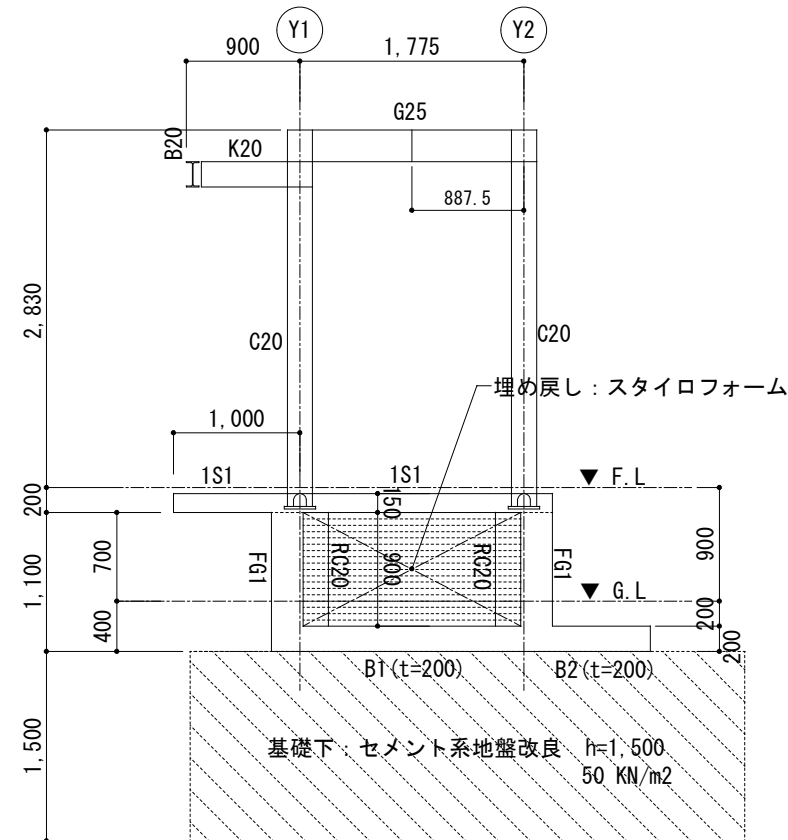
A-A 矢視小梁段差図 1:60



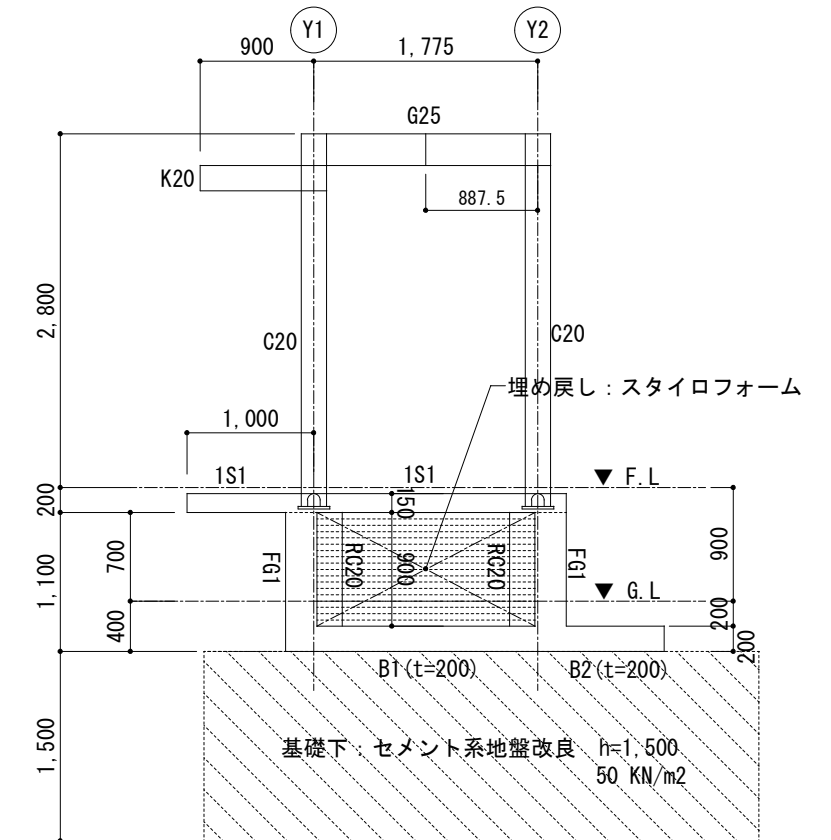
Y1通 軸組図 1:60



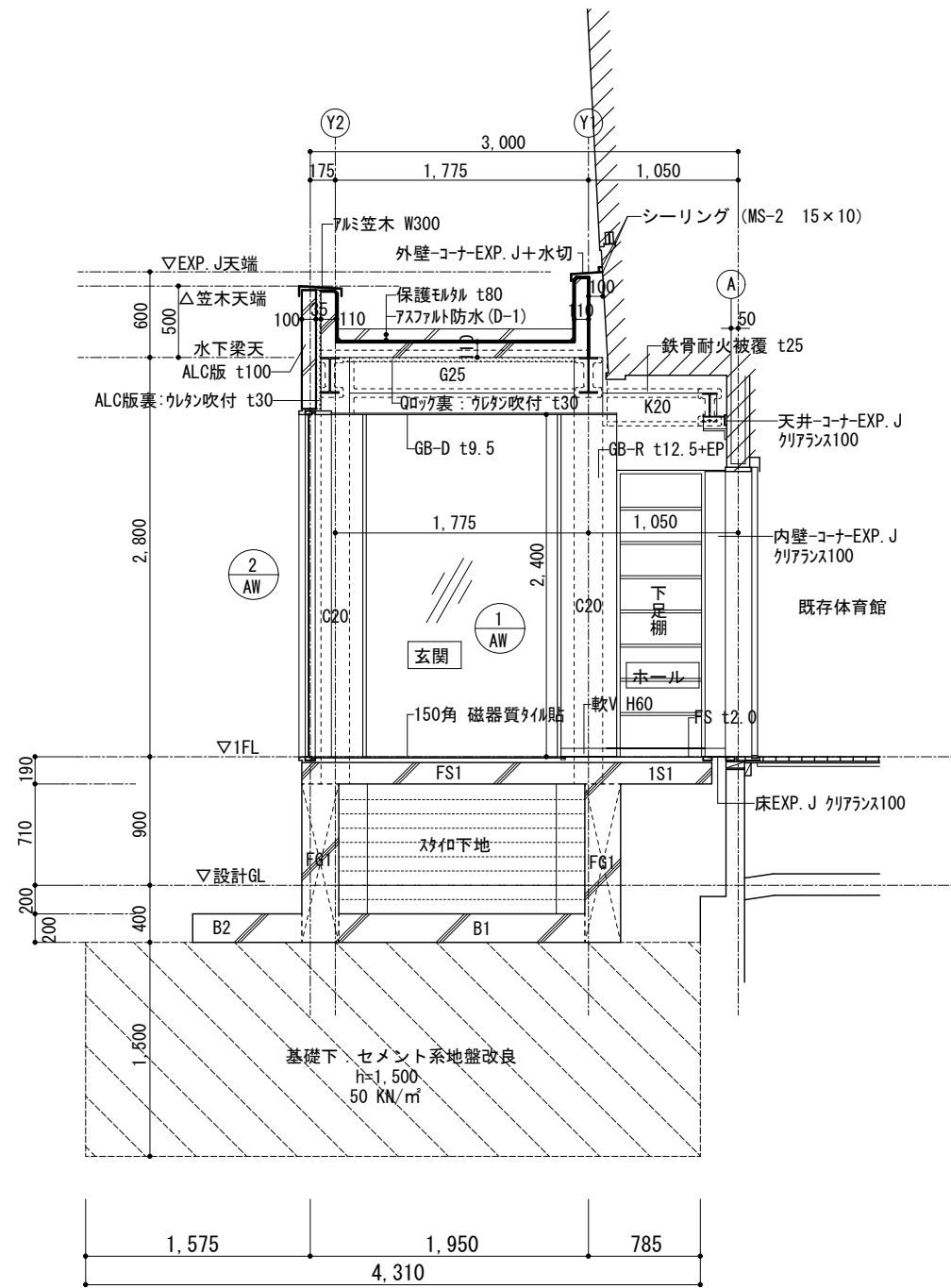
Y2通 軸組図 1:60



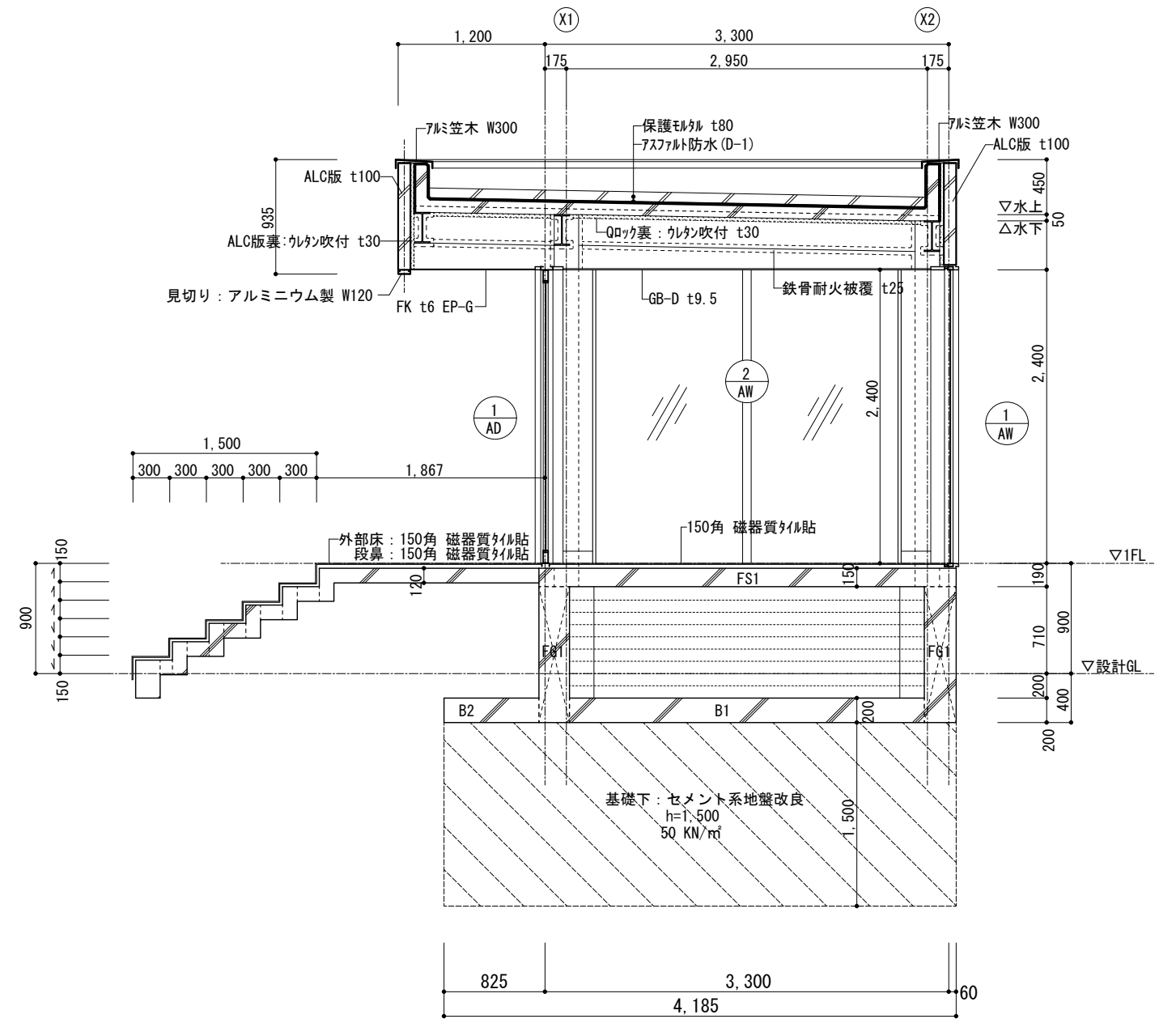
X1通 軸組図 1:60



X2通 軸組図 1:60



A-A' 断面図 S=1/50



B-B' 断面図 S=1/50



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

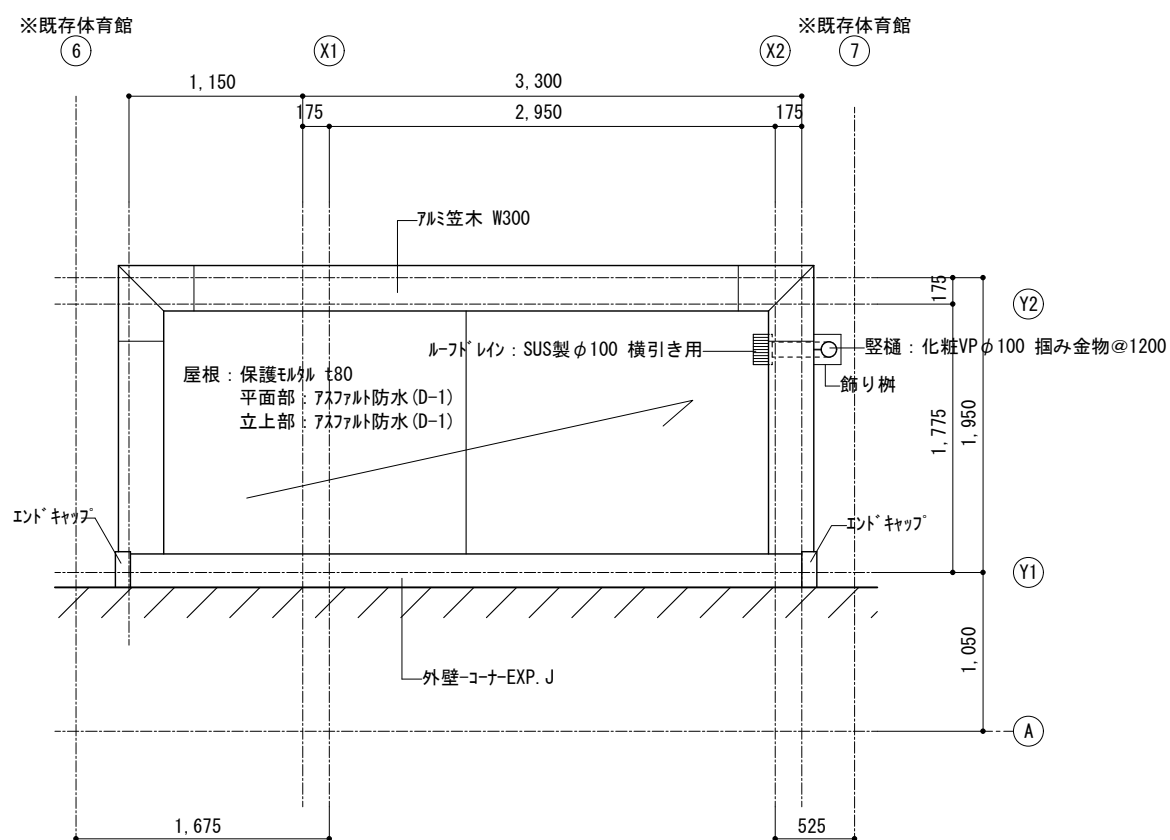
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

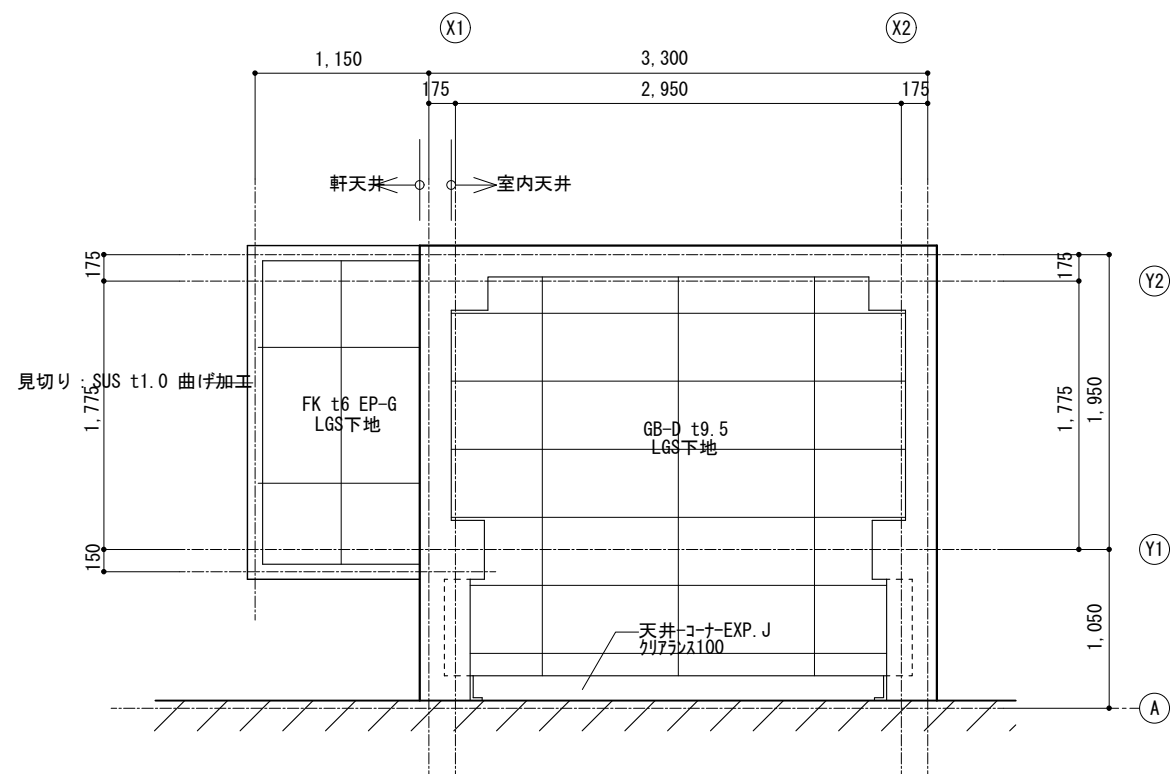
断面図

■縮尺/SCALE
A3 : 1/50

■図番/No.
A — 412



屋根伏図 S=1/50



天井伏図 S=1/50



株式会社 **MAC建築研究所**
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

屋根伏図・天井伏図

■縮尺/SCALE
A3 : 1/50

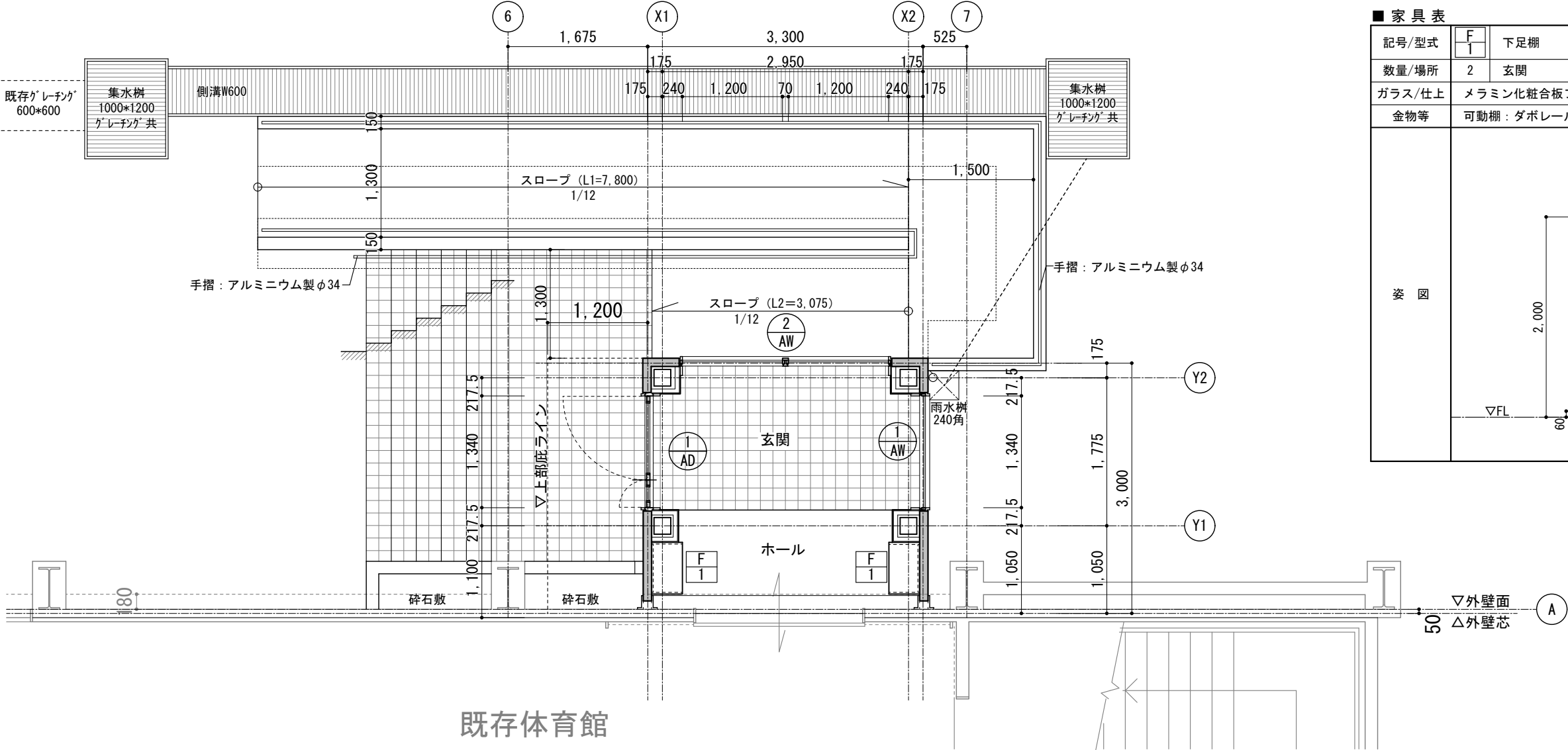
■図番/No.
A — 413

■ 建具表

記号・種類	<div>1 AD</div>	FIXスクリーン連窓	S=1/50	記号・種類	<div>1 AW</div>	FIXスクリーン窓	S=1/50	記号・種類	<div>2 AW</div>	FIXスクリーン連窓	S=1/50
姿 図				姿 図				姿 図			
材 種	アルミニウム製		枠見込 100	材 種	アルミニウム製		枠見込 70	材 種	アルミニウム製		枠見込 70
数 量・場 所	1	玄関	扉見込	数 量・場 所	1	玄関	扉見込	数 量・場 所	1	玄関	扉見込
ガ ラ ス	TP5			ガ ラ ス	TP5			ガ ラ ス	TP5		
金 物	シリンダー本締錠、押棒、ドアクローザー			金 物				金 物			
備 考	外額縁、額縁アングル、付属金物一式			備 考	外額縁、額縁アングル			備 考	外額縁、額縁アングル		

■ 家具表

記号/型式	<div>F 1</div>	下足棚	S=1/50
数量/場所	2	玄関	
ガラス/仕上	メラミン化粧合板フラッシュ		
金物等	可動棚：ダボレール		
姿 図			



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

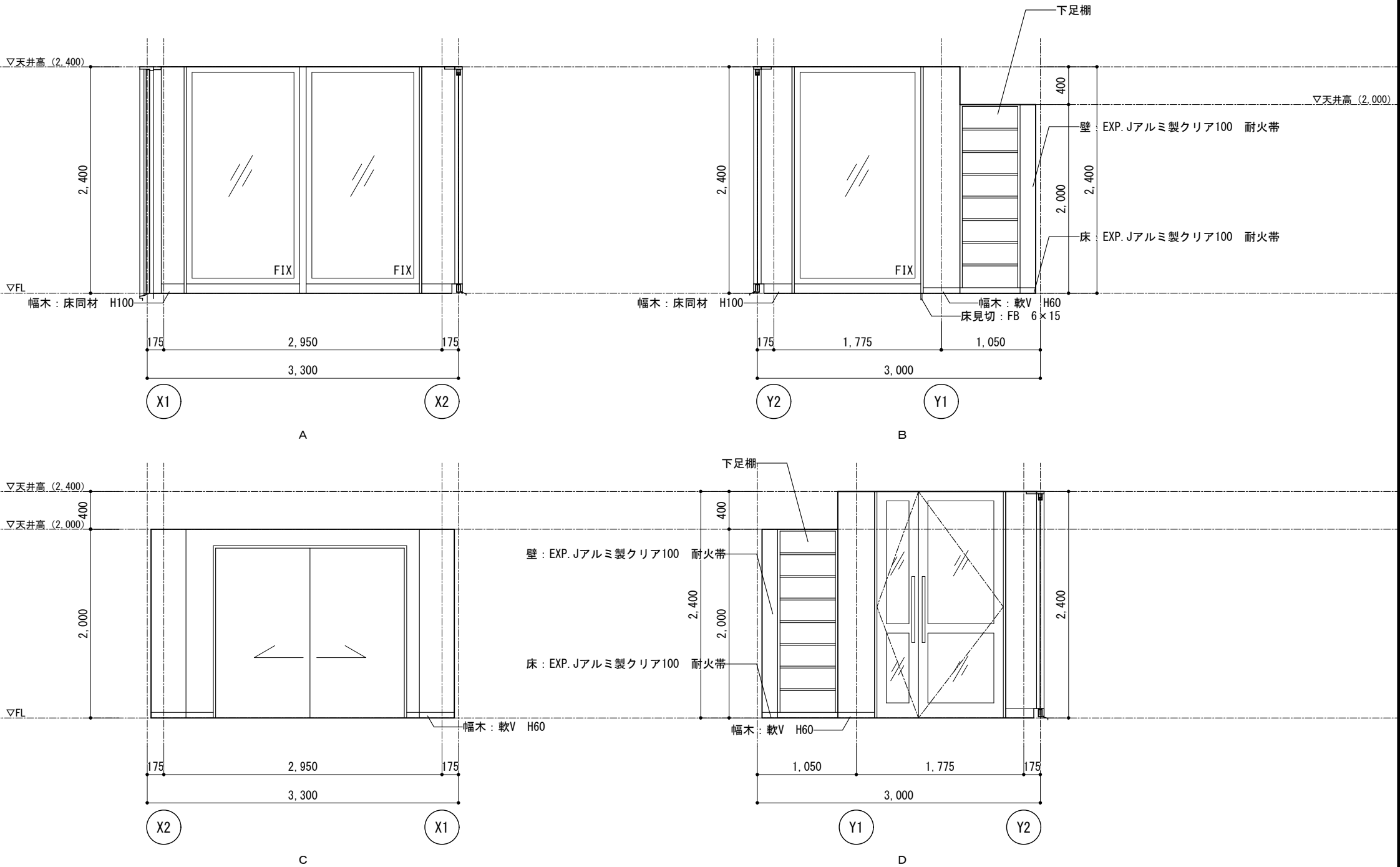
■図面名称/DRAWING-TITLE

建具・家具リスト図

■縮尺/SCALE
A3 : 1/60

■図番/No.
A — 414

室 名	玄関・ホール		種別	[非居室]	
床	玄関	磁器質タイル150角＋C	レベル	±0	
	ホール	FS t 2.0＋C			
巾木	玄関	床同材	高さ	玄関	ホール
	ホール	軟V	レベル	100	60
壁	A面	EP			
	B面	EP			
	C面	EP			
	D面	EP			
天井	GB-D t 9.5＋L G S				



鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔１〕

１．共通事項

A．適用範囲

- この標準図は、各種構造（ＲＣ造、ＳＲＣ造、Ｓ造）の鉄筋コンクリート造部分に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事標準仕様書」（以下、**標仕**）による。
- 使用する鉄筋、及び溶接金網は、特記による。
この標準図は、表１．１に示す鉄筋および溶接金網に適用する。
これ以外は特記による。

表１．１

規格番号	規格名称	種類の記号
JIS G3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SR235, SR295 SD295A, SD295B SD345, SD390
JIS G3117	鉄筋コンクリート用再生棒鋼	SDR295, SDR345
JIS G3551	溶接金網	

B．凡例

- d・・・鉄筋の直径（異形鉄筋では呼び名に用いた数値、丸鋼では径）
h・・・部材の内法高さ
l・・・部材の内法寸法
r・・・半径
@・・・間隔
℄・・・中心線

C．鉄筋の表示

- 鉄筋の表示記号は、表１．２による。

表１．２

表示記号	異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋径	丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	29φ	32φ

- (１) 上記の表示記号を使用しない場合は特記による。
(２) 上記の表示記号は、この配筋標準図には適用しない。

２．鉄筋の加工・組立て

A．加工・組立て

- 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。
- 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋は、使用しない。
- 鉄筋の切断は、シャークッターや電動カッター、または鉄筋冷間直角切断機等によって行う。ただし、圧接端面となる場合は、ガス切断を行ってはならない。
- 鉄筋には、点付け溶接、アークストライクを行わない。
- 鉄筋の溶接は、アーク溶接とする。溶接技能者は、工事に相応した技量を有する者とする。
- 鉄筋の組立は、鉄筋の交差部および継手部の要所を径0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスペーサー、うま、吊り金物等を使用して行う。
なお、スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとし、スラブのスペーサーは、原則として鋼製とする。また、コンクリート打放しの仕上げとなる箇所には、防錆処理を行ったスペーサーを使用する。
- 前に打設したコンクリートから出ている鉄筋の位置を修正する場合は、鉄筋の付け根で急に曲げないで、できるだけ長い距離で修正する。
- 設備配管、スイッチ等の設置により、設計図書に定める配筋が困難な場合は、設計者及び監督職員と協議する。

B．末端部のフック

- 次の場合、鉄筋の末端部にはフックを付ける。
(１) 丸鋼
(２) 異形鉄筋
 - 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。
 - 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両側にある場合（図２．１の●印で示す鉄筋）。ただし、基礎梁を除く。
 - 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）。
 - 杭基礎のベース筋。
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋。

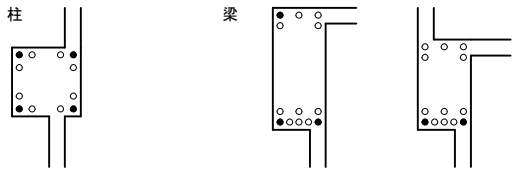


図２．１

C．折曲げ

- 鉄筋の折り曲げは、表２．１及び表２．２による。

表２．１ 鉄筋の折曲げ（末端部）




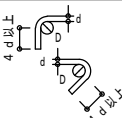



折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折 曲 げ 内 法 直 径 （ D ）			使 用 箇 所
		SD295A、SD295B SD345			
		D16 以下	D19 ～D38	D10 ～D38	
180°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	あばら筋、帯筋、 スパイラル筋 D13以下の鉄筋
90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	T 形及び L 形 の 梁のあばら筋
135° 及び 90°		3 d 以上	4 d 以上	5 d 以上	幅止め筋

表２．２ 鉄筋の折曲げ（中間部）

折曲げ 角 度	折曲げ図	折曲げ内法直径（D）			使用箇所
		SD295A、SD295B SD345、SD390			
		D16 以下	D19 ～D25	D29 ～D38	
90° 以下		3 d 以上	4 d 以上	—	 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
		4 d 以上 (5 d 以上)	6 d 以上	8 d 以上	その他の鉄筋

(注) () 内はSD390の場合を示す。

３．鉄筋の継手・定着

A．鉄筋の継手及び定着長さ

- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手又は特殊な鉄筋継手（建築基準法施行令第73条5項の規定に適合するもの。）とし、適用は特記による。特記がなければ、鉄筋の種類に応じた継手工法は、表３．１による。

表３．１ 鉄筋の種類に応じた継手工法

種類の記号	適用径の範囲	
	重ね継手	ガス圧接継手
SD295A	D16以下	—
SD295B SD345 SD390	原則として、D16以下とする。 ただし、基礎、耐圧版、土圧を受ける壁等の大断面部材の場合は、D25以下とする。また、場所打ちコンクリート杭の場合は、D32以下とする。	D19以上

- 重ね継手および定着の長さは、特記がなければ表３．２による。

表３．２ 鉄筋の重ね継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm2)	フックなし				フックあり			
		L1	L2	L3		L1h	L2h	L3h	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d (40d)	30d (40d)	10d	—
	21	40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	35d (40d)	30d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
SD345	18	50d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
	21	45d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	40d	35d (40d)			25d (40d)	20d (40d)		
SD390	21	50d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
	24, 27 30, 33, 36	45d	40d			35d (40d)	30d (40d)		
		40d	35d (40d)			30d (40d)	25d (40d)		

(注) １．() は、柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さを示す。

ただし、軽量コンクリートを除く。

２．L1, L1h: 3. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。

３．L2, L2h: 割裂破壊のおそれのない箇所への定着長さ。

４．L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く)。なお、片持小梁及び片持

スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。

５．L3h : 小梁下端筋のフックあり定着長さ。

６．フックあり定着の場合は、図３．１に示すよう「フック部分L'」を

を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

７．軽量コンクリートの場合は、表の() 内の値に10d、その他の

値に5dを加えたものとする。

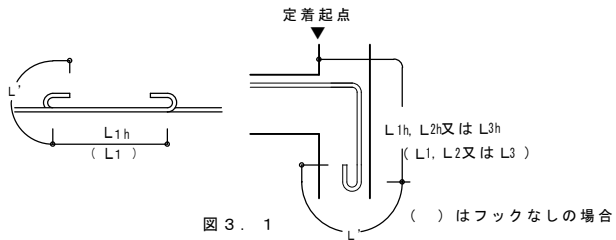


図３．１

- 定着方法は、標仕５．３．４(e) (２)による。

B．隣合う継手の位置

- 隣合う継手の位置は、表３．３による、ただし、スラブ及び壁の場合でD16以下は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

表３．３ 隣合う継手の位置（壁・床版を除く）

フックのある場合	
フックのない場合	
圧接継手及び機械式継手	

C．溶接金網の継手及び定着

- 溶接金網の継手及び定着は、図３．２による。

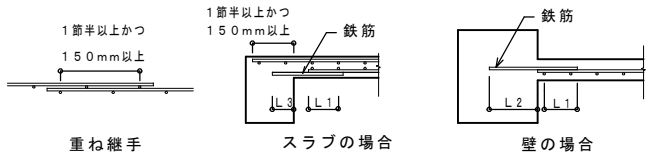


図３．２

４．鉄筋のかぶり厚さ及びあき

A．鉄筋のかぶり厚さ

- 設計かぶり厚さは、特記による。特記が無ければ、表４．１による。
但し柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。

表４．１ 鉄筋のかぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種類				設計かぶり 厚さ	最少かぶり 厚さ
土に接しない部分	スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり		30	20
		仕上げなし		40	30
	柱、梁、 耐力壁	屋内	仕上げあり	40	30
			仕上げなし	40	30
		屋外	仕上げあり	40	30
			仕上げなし	50	40
	擁壁、耐圧スラブ		50	40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		* 50	* 40	
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		* 70	* 60	
煙突等の高熱を受ける部分				70	60

- (注) １．設計かぶり厚さ：鉄筋加工に用いる標準かぶり厚さ
最小かぶり厚さ：鉄筋組立後のかぶり厚さ
２．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
３．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗装、吹付け又は塗装等の鉄筋の耐久性上有効でない仕上げのものを除く。
４．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
５．杭基礎ベース筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。
６．貫通孔部、及びびびわれ誘発目地の目地底に接する鉄筋について最小かぶり厚さを確保する。
７．塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、特記による厚さを表４．１の数値に加える。



鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕

4. 鉄筋のかぶり厚さ及びあき（続き）

B. 鉄筋の相互のあき

- 鉄筋相互のあきは図4. 1により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
 - 粗骨材の最大寸法の1. 25倍
 - 25mm
 - 隣合う鉄筋の平均径（呼名に用いた数値d）の1. 5倍

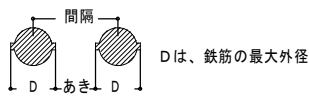


図4. 1

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは1. による。

C. 鉄筋の保護

- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特にかぶり厚さ、位置及び間隔の保持に努める。

5. 基礎・基礎梁

A. 基礎

1. 基礎の配筋要領

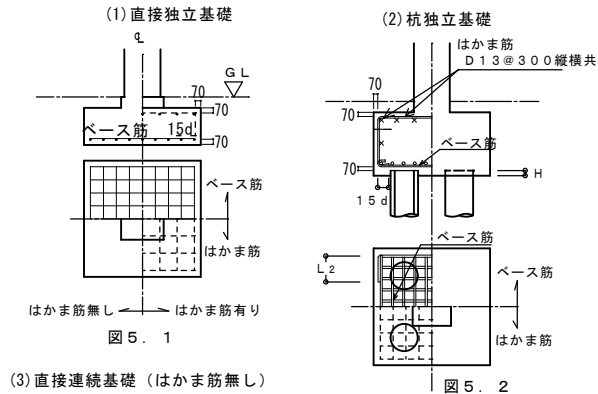


図5. 1

(3)直接連続基礎（はかま筋無し）

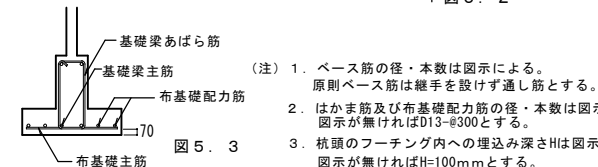


図5. 3

2. 杭頭の補強要領

杭頭補強の要領は図示による。PHC杭で図示が無い場合は図5. 4による。〔H≦300の場合〕〔H≧杭径かつ杭頭をカットしない場合〕

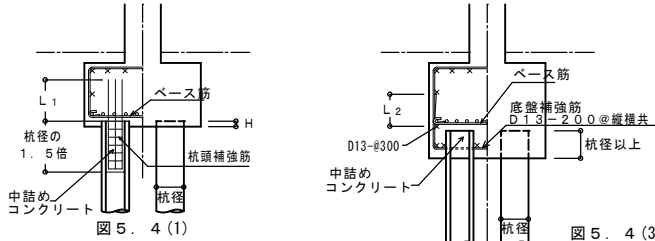
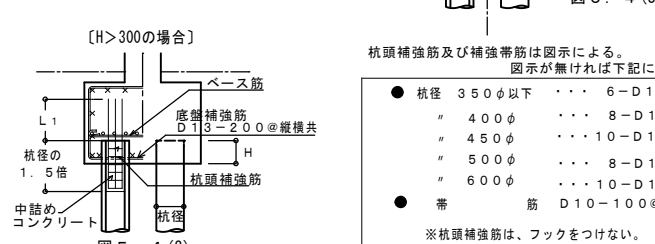


図5. 4 (1)

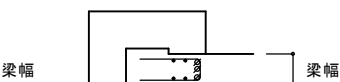
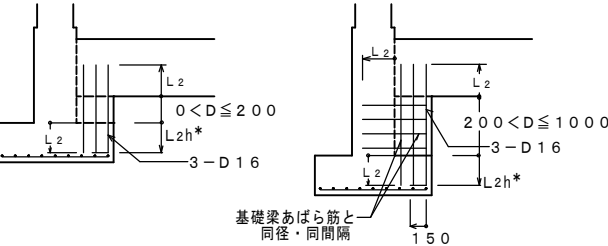
図5. 4 (2)



（注）1. 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用

C. 基礎接合部の補強

- 基礎接合部の補強は、特記による。特記が無ければ図5. 5による。



* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(e) (3)によることができる。
図5. 5

D. 基礎梁筋の継手及び定着

1. 一般事項

- 梁筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図5. 6による。

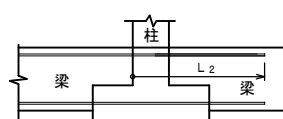


図5. 6

- 梁筋を柱内に定着する場合は、標仕5. 3. 4 (e) (2)による。
- 継手は原則として、コンクリートに常時圧縮応力が生じている部分、または応力の小さい部分に設ける。
- 継手は1か所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。

2. 基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合

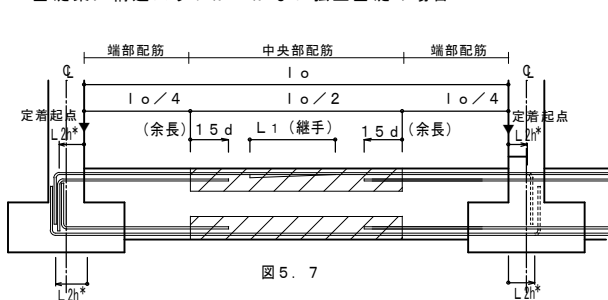


図5. 7

3. 基礎梁に構造スラブがつく独立基礎の場合

※耐圧スラブが付く場合は、図5. 9に準ずる。

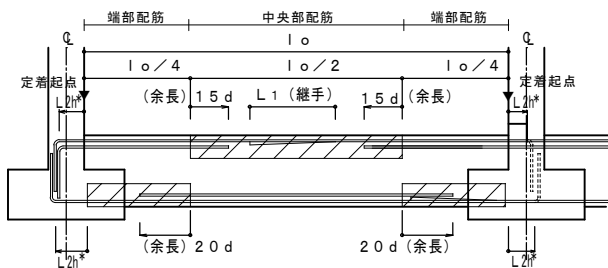
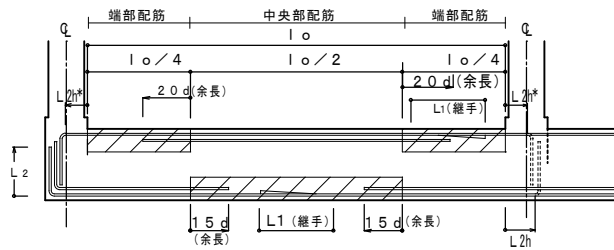


図5. 8

4. 連続基礎及びべた基礎の場合



* L2hを確保できない場合は、標仕5.3.4(e) (2)によることができる。

図5. 9

- （注）
- 図示のない事項は、9. 「大梁」による。
 - 印は、継手位置を示す。
 - 破線は、柱内定着の場合を示す。
 - ハッチ部分は、望ましい継手位置を示す。

E. 基礎梁のあばら等

1. 基礎梁のあばら筋

- 基礎梁のあばら筋の径及び間隔は、特記による。
- 基礎梁のあばら筋組立の形及びフックの位置は、10. 「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1. 5m以上の場合は、図5. 10によることができる。

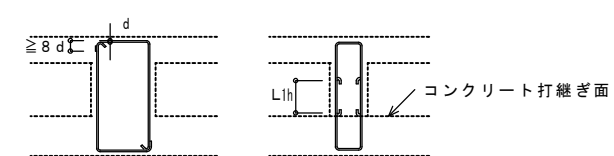


図5. 10

- 腹筋及び幅止め筋は、10. 「あばら筋等」による。ただし、梁せいが1. 5m以上の場合は、特記による。
- あばら筋の割付は、10. 「あばら筋等」による。

F. 基礎梁の補強

- 打増し補強は、11. 「梁の打増補強」による。
- 土間スラブ等の打継ぎ補強は、13. 「スラブ」(3)スラブ等の補強による。

6. 柱

A. 柱の主筋

- 柱主筋の継手及び定着は、次による。

- 継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下、かつ、3/4h_o（h_oは柱の内法高さ）以下とする。
- 重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は図6. 1による。ただし、柱頭定着長さL2が確保できない場合は、特記による。
- 電気設備の埋め込みボックス等は、柱の断面欠損となり、強度、耐久性の低下につながるため、原則として、埋め込まないこととする。やむを得ず埋め込む場合には、柱の打増し、乾式工法（軽鉄下地）等を検討する。また、配管についても1つの柱に集中させないようにするとともに、材軸方向と直交方向に配管する場合には柱の貫通は行わないこととする。
- 柱主筋にX形配筋を用いる場合は、「X形配筋部材の設計と施工（日本建築士事務所協会）」を参考にする。この場合、鉄筋の加工、組立は、特に精度よく行うこと。

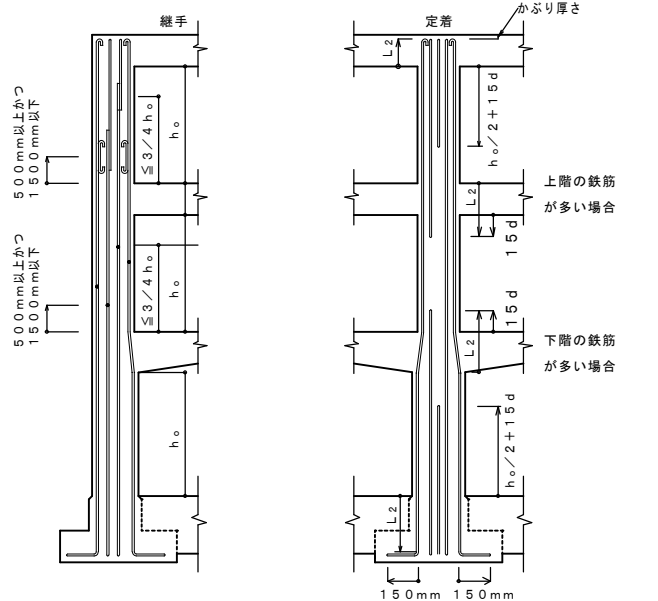


図6. 1

- （注）
- 2. 「鉄筋の組立・加工」で定めた鉄筋には、フックをつける。
 - 隣合う継手の位置は、表3. 3による。
 - 継手、定着は、すべての階に適用できる。

7. 帯筋

A. 帯筋

- 帯筋は、原則としてH形とする。ただし、構造上重要な柱、独立柱等で特記するものはスパイラル筋とする。やむを得ず上記以外の方法とする場合はb、cによる。

- H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1形とする。

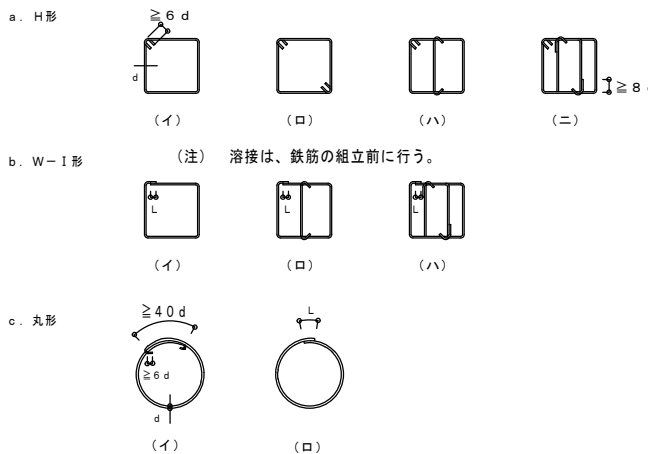


図7. 2

- 溶接する場合の長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。溶接は設備の整った工場で行うことを原則とする。やむを得ず現場で溶接しなければならない場合には、十分に溶接できる作業条件と有資格者によって行うこととする。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士ノ一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2026.

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

鉄筋コンクリート構造配筋標準図〔2〕

■縮尺/SCALE

A3：NS

■図番/No.

S — 403

鉄骨構造標準図 [1]

1. 共通事項

A. 適用範囲

- この標準図は、鉄骨工事に適用する。
- 設計図書、特記仕様書に記載してある事項以外は、この標準図による。この標準図に、記載されていない事項は、「建築工事共通仕様書」、「鉄骨設計標準図」（建設大臣官房庁営繕部監修）による。
- 使用する鋼材等は特記による。この標準図は、表1. 1～表1. 4に示す鋼材等に適用する。これ以外は特記による。

表 1. 1 鋼材の種類

規格番号	規格名称等	種類の記号
JIS G3101	一般構造用圧延鋼材	SS400, SS490, SS540
JIS G3106	溶接構造用圧延鋼材	SM400A, B, C, SM490A, B, C SM490YA, YB, SM520B, C
JIS G3114	溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材	SMA400AW, AP, BW, BP, CW, CP SMA490AW, AP, BW, BP, CW, CP
JIS G3136	建築構造用圧延鋼材	SN400A, B, C, SN490B, C
JIS G3138	建築構造用圧延棒鋼	SNR400A, B, SNR490B
JIS G3350	一般構造用軽量形鋼	SSC400
JIS G3353	一般構造用溶接軽量H形鋼	SWH400
JIS G3444	一般構造用炭素鋼鋼管	STK400, STK490
JIS G3466	一般構造用角形鋼管	STKR400, STKR490
JIS G3475	建築構造用炭素鋼鋼管	STKN400W, STKN400B, STKN490B
_____	上記に掲げるもののほか、建築基準法に基づき指定又は認定を受けた構造用鋼材及び鉄鋼	_____

表 1. 2 高力ボルト

規格番号	規格名称等	セットの種類
	トルシア形高力ボルト	2種 (S10T)
JIS B1186	JIS形高力ボルト	2種 (F10T)
めっき後の機械的性質がJIS B1186の規定のセットと同等であること	溶融亜鉛めっき高力ボルト	1種 (F8T相当)

表 1. 3 普通ボルト

	規格名称等	種類
規格番号 規格名称	JIS B1180 (六角ボルト)	JIS B1181 (六角ナット)
種類	並形六角ボルト	並形六角ナット
材料区分	鋼製	鋼製
強度区分	4. 6 又は 4. 8 6 g	5 T 6 H
ねじの交差域クラス及び適用の規格	JIS B 0205-4 (一般用メートルねじー第4部：基準寸法) 及び JIS B 0209-1 (一般用メートルねじー公差ー第1部：原則及び基礎データ) による。	
仕上げの程度	中	中

- 普通ボルトの座金はJIS B1256 (平座金) によるみがき丸とし、ボルトに相応したものとする。
- アンカーボルトのボルト、ナット及び座金の材質は、特記による。特記がなければ、構造用アンカーボルトの材質はSNR400とする。

表 1. 4 溶接材料

規格番号	種類	規格名称
JIS Z3211 JIS Z3214	被覆アーク溶接棒	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒 ・耐候性鋼用被覆アーク溶接棒
JIS Z3312 JIS Z3313 JIS Z3315 JIS Z3320	ガスシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用のマグ溶接及びミグ溶接ソリッドワイヤ ・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ ・耐候性鋼用マグ溶接及びミグ溶接用ソリッドワイヤ ・耐候性鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
JIS Z3313	セルフシールドアーク溶接用ワイヤ	・軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ
JIS Z3183 JIS Z3351 JIS Z3352	サブマージアーク溶接用材料	・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶着金属の品質区分 ・炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ ・サブマージアーク溶接用フラックス
JIS Z3353	エレクトロスラグ溶接用材料	・軟鋼及び高張力鋼用のエレクトロスラグ溶接ワイヤ及びフラックス
JIS B1198	スタッド溶接用材料	・頭付きスタッド

- ターンバックルはJIS A5540 (建築用ターンバックル) により、ターンバックル胴、ターンバックルボルトの種類、及びターンバックルボルトのねじの呼びは、特記による。特記がなければ、ターンバックル胴は割枠式、ターンバックルボルトは羽子板ボルトとする。
- 構造耐力上主要な部分である床版床又は屋根版に使用するデッキプレートは国土交通省告示第326号 (平成14年制定、平成19年改正) に定める技術的基準に適合すること。
- 構造床として使用するデッキプレートは国土交通省国土技術政策総合研究所他「デッキプレート版技術基準解説及び設計・計算例」および(独)建築研究所監修「デッキプレート床構造設計・施工基準」により、材質、形状及び寸法は特記による。
- 合成スラブとして使用するデッキプレートは国土交通大臣認定品とし、材質、形状及び寸法は特記による。

B. 略語

- | | | | | | |
|------|-----|-----------|------|-----|-----------|
| ・AB | ・・・ | アンカーボルト | ・FR | ・・・ | フランジプレート |
| ・BH | ・・・ | 組立H形鋼 | ・GR | ・・・ | ガセットプレート |
| ・BR | ・・・ | ベースプレート | ・HTB | ・・・ | 高力ボルト |
| ・CHL | ・・・ | チェッカープレート | ・RL | ・・・ | リブプレート |
| ・CL | ・・・ | カバープレート | ・SL | ・・・ | スブライスプレート |
| ・DFR | ・・・ | ダイアフラム | ・TB | ・・・ | ターンバックル |
| ・FB | ・・・ | フラットバー | ・WR | ・・・ | ウェブプレート |

2. 溶接

A. 溶接技能資格者

- 溶接作業における技能資格者 (以下「溶接技能者」という。) は、工事に相応した次に示す試験等により (社) 日本溶接協会が検定した技量資格を有する者とする。
 - 手溶接の場合は、JIS Z3801 (溶接技術検定における試験方法及び判定基準)。
 - 半自動溶接の場合は、JIS Z3841 (半自動溶接技術検定における試験方法及び判定基準)。
 - 自動溶接の場合は、(1) 又は (2) の基本級及び技量を証明する主な工事経歴
 - 組立溶接の場合は、(1) 又は (2) の基本級以上とする。
- 工事の内容により、1. の溶接技能者に対して、技量付加試験を行う場合は、特記による。
- 溶接技能者の技量に疑いが生じた場合は、工事に相応した試験を行い、その適否を判定し、監督職員の承諾を受ける。

B. 部材の組立て

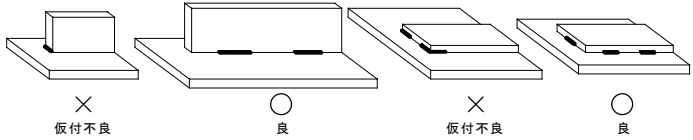
- 部材の組立は、適切な治具を用いて正確に行う。特にルート間隔及び密着部分に注意し、不良なものは修正する。
- 組立て順序は、溶接による変形及び拘束が少なくなるように定め、できるだけ逆ひずみ法を取り入れる。
- 高力ボルト接合と溶接接合を併用する場合は、高力ボルト接合を先行い、溶接にあたってはボルト接合面の変形やボルトへの入熱を十分考慮して施工する。
- 組立溶接は、次による。
 - 組立溶接の位置は、継手の端部、隅角部、本溶接の始点及び終点等の強度上及び工作上支障がある箇所を避ける。
 - 組立て溶接で本溶接の一部となるものは最小限とし、欠陥を生じたものは全て削り取る。
 - 組立て溶接の最小ビード長さの有効長さは表2. 1により、その間隔は300～400mm程度とする。

表 2. 1 組立て溶接の最小ビード長さ (単位：mm)

板厚	手溶接、半自動溶接を行う箇所	自動溶接を行う箇所
6以下	30	50
6を超えるもの	40	70

(注) 板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。

a. 仮付位置



b. 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。

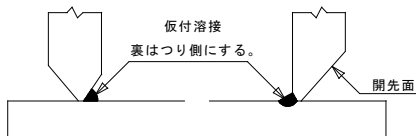


図 2. 1

C. 溶接施工

1. 溶接方法

- アーク手溶接 (MC)
- ガスシールドアーク半自動溶接 (GC)
- セルフ (ノンガス) シールドアーク半自動溶接 (NGC)
- アークエアーガウジング (AAG)

2. 溶接姿勢

- 溶接姿勢は、作業架台、ポジショナー等を利用して、できるだけ下向き溶接とする。

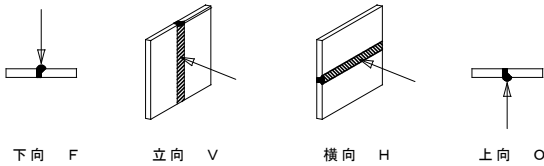


図 2. 2

3. エンドタブ

- エンドタブの材質、形状は特記による。特記が無い場合は、以下による。
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
- エンドタブの材質は、母材と同質とする。
- エンドタブの長さは、MC：35mm以上
NGC、CG：40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
- プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して監督職員の承諾を得る。

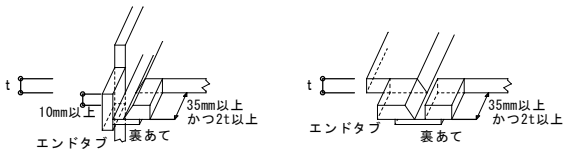


図 2. 3

4. 裏当て金、スカラップ、裏はつり

- 裏あて金の材質は特記による。特記が無い場合は以下による。
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- スカラップは改良型スカラップ、またはノンスカラップとする。



株式会社 **MAC** 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2026.

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE

鉄骨構造標準図 [1]

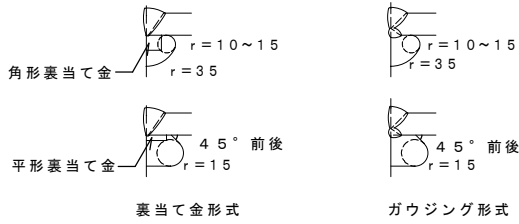
■縮尺/SCALE
A3：NS

■図番/No.
S — 404

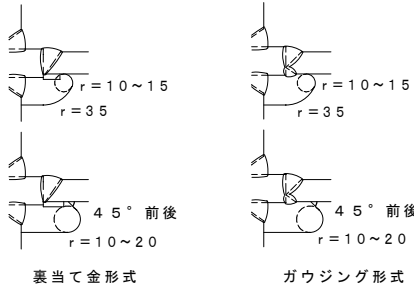
鉄骨構造標準図 [2]

2. 溶接 (続き)

a. 改良型スカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 4

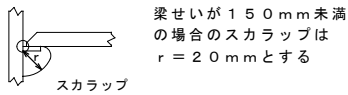
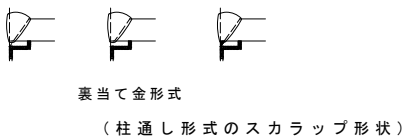
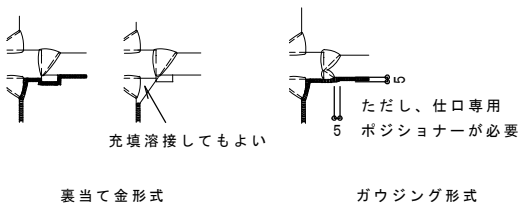


図 2. 5

b. ノンスカラップ



(柱通し形式のスカラップ形状)



(梁通し形式のスカラップ形状)

図 2. 6

(4) 溶接継手の両面から溶接する場合は、表面より溶接を行った後、健全な溶着部分が現れるまで裏はつりを行い、裏はつり後裏溶接を行う。ただし、サブマージアーク溶接で、溶接施工試験等により十分な溶け込みが得られると判断確認できる場合は、監督職員の承諾を受けて、裏はつりを省略することができる。

D. 溶接部の試験

- 溶接部の試験は、特記によるが、現場溶接部分は原則として全箇所について超音波探傷試験を行う。

3. ボルト接合

A. 高力ボルト

- 摩擦面は、すべり係数値が0.45以上確保できるよう、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の2倍以上の幅を除去した後、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラスト又はグリットブラストにより摩擦面の表面粗度を $50\mu\text{mRy}$ 以上確保でき、監督職員の承諾を受けた場合には錆の発生を要しない。
- 摩擦面は、摩擦力を低減させるものが発生又は付着しないように保護する。浮き錆、油、塗料、塵あい等が発生又は付着した場合は、組立てに先立ち取り除く。

B. 普通ボルト

- ボルトの接合は、ゆるみ及びずれの無いように締め付ける。
- ボルトには、有効な戻り止めを行う。
- せん断ボルトは、座金を用いて、ねじがグリップに掛からないようにし、かつ、ナットの外に3山以上出るようにする。

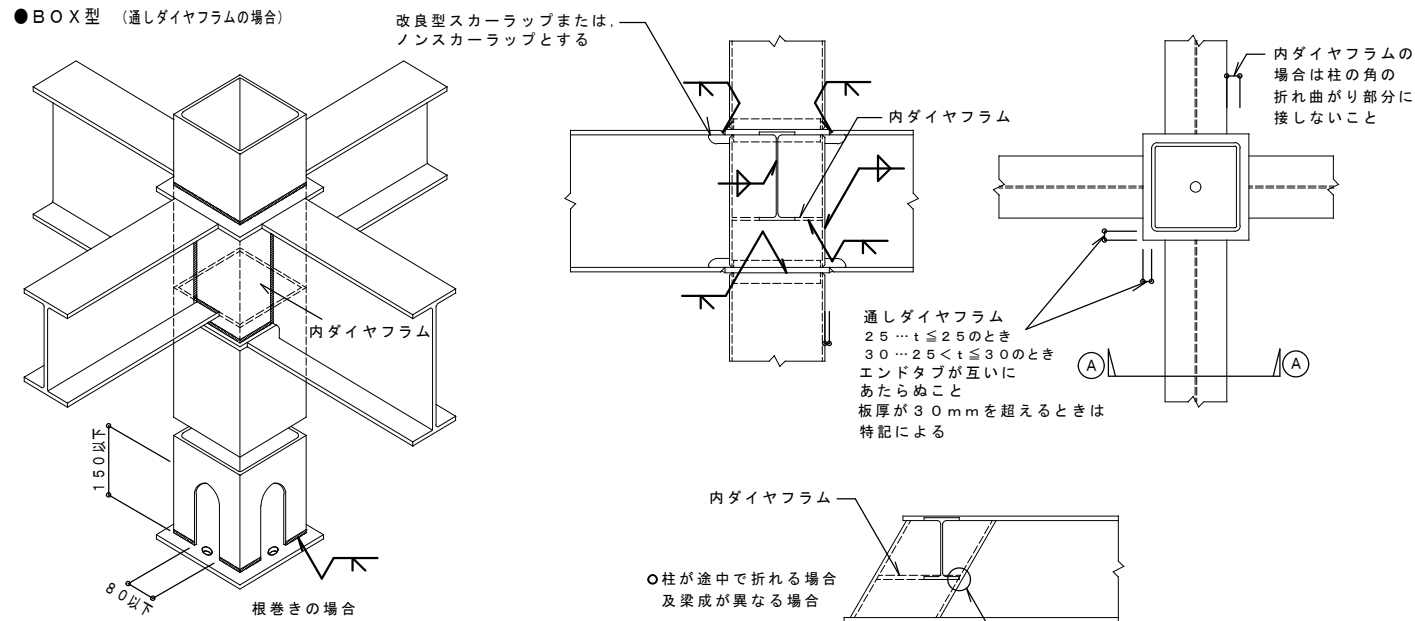
4. 錆止め塗装

A. 錆止め塗装

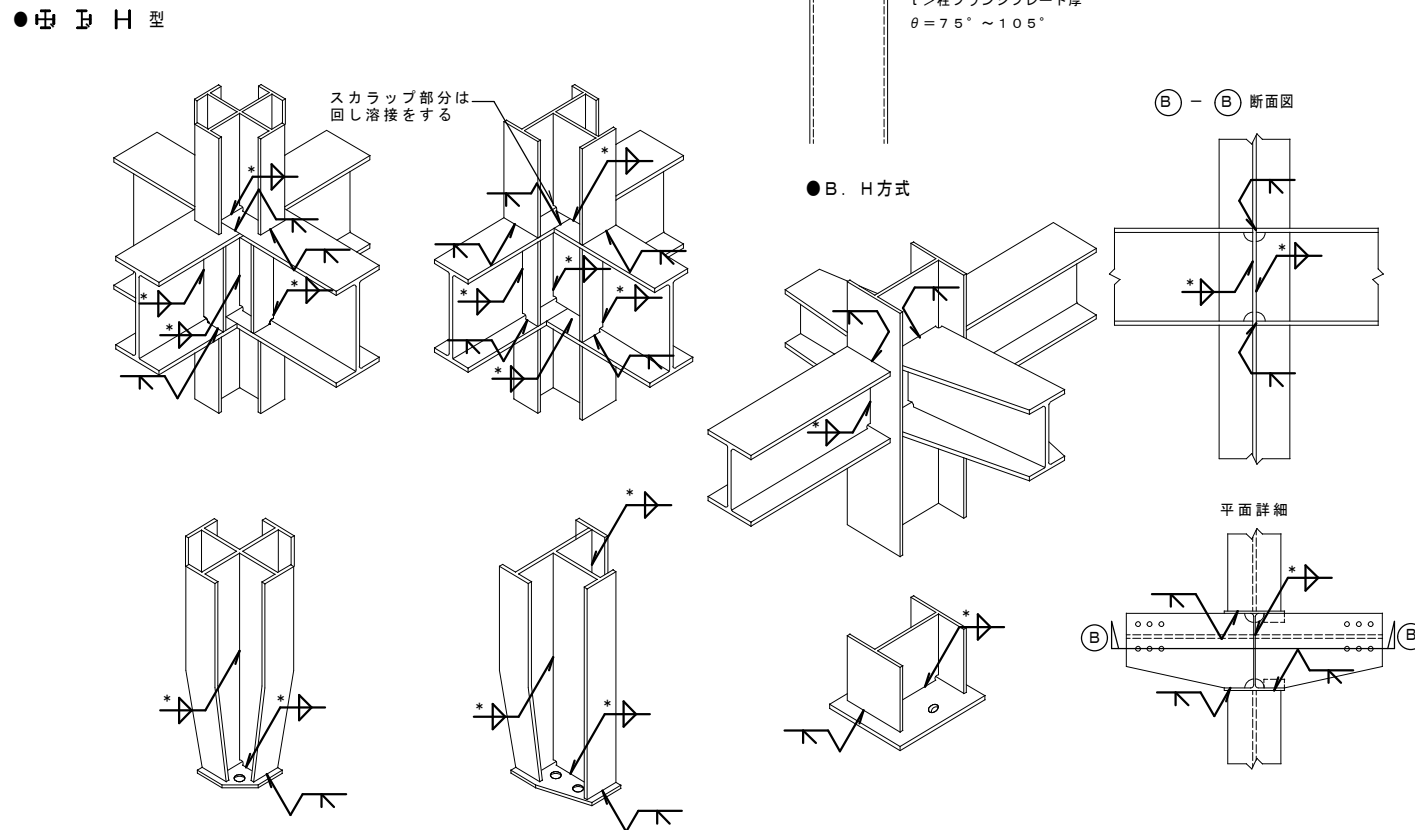
- 錆止めの塗料の種別は特記による。
- 次の部分には、塗装しない。
 - コンクリートに接触する部分及び埋め込まれる部分
 - 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
 - 密閉される閉鎖形断面の内面
 - 耐火被覆材の接着する面
 - 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ200mmの範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲ただし、工事現場溶接を行う部分でも、著しい錆を発生するおそれがある場合は、溶接に無害な適切な防錆処理を行うこと。

5. 接合部標準図

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



●BH方式



* : ウェブ厚が16mm以上のものについては完全溶け込み溶接とする。

J F E 建材
株式会社

設 計

設計

デッキプレート種類		板厚 (mm)	表 面 処 理	
Q L デッキ <input type="checkbox"/> Q L 9 9 - 5 0 <input type="checkbox"/> Q L 9 9 - 7 5	端部加工 <input type="checkbox"/> E ン 加 有 り <input type="checkbox"/> 無 し	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 2 <input type="checkbox"/> 1. 6	<input type="checkbox"/> 裏面防錆処理 (一次塗装) Q L プライマー (P) <input checked="" type="checkbox"/> 亜鉛めっき <input type="checkbox"/> Z 1 2 <input type="checkbox"/> Z 2 7 <input type="checkbox"/> Z A M (高耐食溶融めっき鋼板) <input type="checkbox"/> K 2 7 <input type="checkbox"/> K 3 5 <input type="checkbox"/> 無 し	
Q L セルラー <input type="checkbox"/> G K X - 5 0 <input type="checkbox"/> G K X - 7 5		<input type="checkbox"/> 1. 2 <input type="checkbox"/> 1. 6	亜鉛めっき Z 2 7 限定	
材 質	J I S G 3 3 5 2 に定める S D P 1 T、S D P 2、S D P 2 G			

材料／溶接金網・異形鉄筋			
□ 溶接金網	JIS G 3551	□ φ6-150×150	□ φ6-100×100
□ 異形鉄筋	JIS G 3112、3117	● D10-@200	□ ()

接合	
●焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□打込み鉋	接合箇所は特記による
□頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22各長さ・ピッチは特記による
□その他	

耐 火		1 時 間	2 時 間
連 続 支 持		□FP060FL-9095	□FP120FL-9107
単 純 支 持		●FP060FL-9101	□FP120FL-9113
そ の 他	□ ()		□ ()
□指定なし	□ ()		□ ()

特 記		その他：
支 保 工 有 無		
<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有		

焼抜き栓溶接
デッキプレート幅方向
QL99-50

大梁上

小梁上(リップ部分はメスリップ側を溶接)

QL99-75

大梁上

小梁上(リップ部分はメスリップ側を溶接)

デッキプレートスパン方向
「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

$A_w = \frac{1.5 Q_a}{Q_a} \times 100.0 \text{ mm}$ かつ 60.0 mm 以下

Q_a : 焼抜き接合接1個当たりの長期許容せん断力 (N)
 Q_a : 設計せん断力 (N) (表 4.9.0)
 A_w : 焼抜き接合接ヒッチ

厚さ	Q_a (N)
1.2	4,900
1.6	7,350 (SP), 6,860 (A.P.W.)

$A_w = (\quad 60 \quad) \text{ mm}$

(注) 接合に据け付スタッドを用いる場合、焼抜き接合は必要

アクセサリー

<p>フラッシング (GLデッキ割付の幅調整に用いる。)</p>	<p>ハンガー金具 (GLデッキ下溝を利用する天井インサート用金具。)</p>	<p>スぺーサー (ワイヤーメッシュの高さ確保用。)</p>
<p>クローサー (GLデッキの小口ふさぎに用いる。)</p>	<p>換気が必要ですので、 換気口と相対して下さい。</p>	

<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; font-size: 2em; font-weight: bold;">施</div>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 施工順序 </div>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 敷 込 み </div>	
	<div style="text-align: center;"> 墨 出 し ↓ 敷込み板止め溶接 </div>	鉄骨梁の場合 1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートは仮止留溶接した後、順次適当な枚数(5〜10枚)ごと仮止め溶接以上 2) 各大梁上にデッキプレートの溝部が乗るようになす。 <div style="text-align: center;"> </div>	1) 頭付キスタッド 施工は、JASS3「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁はアークスポット
	QLデッキと梁との接合 1) 頭付キスタッド 2) 打込み板 3) 焼接金溶接	デッキプレート幅方向のかり代は、50mm以上あることを確認する。 (頭付30mm以上) 2) デッキプレート長手方向の大梁のかり代は、50mm以上あることを確認する。	1) 溶接機 交流アーク溶接機 AW250A以上 2) 溶接棒 JIS Z 3210 E4316、E4916に定める低炭素4mmのもの
	溶接金網敷込み	標準溶接条件	溶接工法板厚：6mm以上 溶接電流：190〜230A
	コンクリート打設 <div style="text-align: center;"> 検 査 </div>	RC梁またはSRC梁の場合 1) デッキプレートは梁型枠に釘止めする。 2) デッキプレートの梁型枠へのみ込み代が幅方向10mm以上、長手方向が30mmあることを確認する。	4) 溶接士の資格 JIS Z 3801、JIS Z 3841にいう者による基本 5) 手順・要領 右の1〜4の順に行う。

支 持 梁：鉄骨(S)梁 及び 木梁：鉄筋コンクリート(RC)梁又は鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)梁、小梁：鉄骨(S)梁 コンクリート：設計基準強度 18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート(1種、2種)						
耐火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚	溶接金網又は異形鉄筋 (D10-@200)	許容積載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	3.0m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)B 参照
QL99-50		2.7m 以下	85mm 以上	D10-@200	算出式 注5)A 参照	
QL99-75		3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5)B 参照	
床、2時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5)B 参照
	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上	D10-@200	算出式 注5)B 参照

[illegible]

【単純支持合成スラブ】

支 持 梁 : 鉄骨(S)梁 コンクリート : 設計基準強度18N/mm²以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート(1種・2種)
 耐火補強筋 : D13 (デッキプレート各溝@300)

耐火時間	コンクリート種類	品名	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形筋部 (D10～φ200)	許容載荷重
床、1時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	80mm 以上	φ6-150×150	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下			算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照
床、2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	95mm 以上	φ6-100×100	算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下	90mm 以上		算出式 注5)B 参照
	軽量コンクリート	QL99-50	2.7m 以下	85mm 以上		算出式 注5)A 参照
		QL99-75	3.4m 以下			算出式 注5)B 参照

前火時間	コンクリート種類	品 名	支持スパン	コンクリート厚さ	接合部又は異形鉄筋 (D10×250)	許容積載荷重
1. 2時間耐火 FP60FL-9101	普通コンクリート	QL99-50 QL99-75	2.7m 以下 3.4m 以下	80mm 以下	φ6-150×150	算出式 注5) A 参照 算出式 注5) B 参照
2. 2時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	QL99-50 QL99-75	2.7m 以下 3.4m 以下	95mm 以下 90mm 以下	φ6-100×100	算出式 注5) A 参照 算出式 注5) B 参照

Figure 1 shows three cross-sectional diagrams of reinforced concrete (RC) beams illustrating different reinforcement details:

- (a) Reinforcement details for RC beams with stirrups or deformed bars (φ6-150x150 or φ6-100x100). The diagram shows a beam with stirrups or deformed bars, a concrete cover of 30mm, and a reinforcement ratio of 1.0% (D10以上, φ20以下) for the top reinforcement. The bottom reinforcement is labeled as "普通コンクリート" (Ordinary concrete).
- (b) Reinforcement details for RC beams with stirrups (φ6-150x150 or φ6-100x100). The diagram shows a beam with stirrups, a concrete cover of 30mm, and a reinforcement ratio of 1.0% (D10以上, φ20以下) for the top reinforcement. The bottom reinforcement is labeled as "普通コンクリート" (Ordinary concrete).
- (c) Reinforcement details for RC beams with stirrups (φ6-150x150 or φ6-100x100). The diagram shows a beam with stirrups, a concrete cover of 30mm, and a reinforcement ratio of 1.0% (D10以上, φ20以下) for the top reinforcement. The bottom reinforcement is labeled as "普通コンクリート" (Ordinary concrete).

注1) スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリート梁の場合梁内法寸法をいう。
 注2) スパンが3.4mを超える場合は、合成スラスト梁とは認めずスタッド（軸径16mm以上、ピッチ30.0mm以下）で補合する。
 注3) 鉄骨梁の場合、梁との接合は炭素径栓溶接、打込み溶接、または溶接付スタッドを用いる。
 注4) 梁の耐火被覆 梁に1、または3時間以上の耐火性能が要求される場合は、それらに耐火被覆を施す。
 注5) 許容軸荷重W 算出式

[A] QL99-50	[B] QL99-75
W=5,400x($\frac{2.7}{L}$) ² かつ 9,800 N/m ² 以下	W=5,400x($\frac{3.4}{L}$) ² かつ 9,800 N/m ² 以下

※許容積載荷重は、床にかかる全荷重(仕上り荷重も含む)から床荷重(デッキプレートとコンクリートの自重)を差し引いた値を示します。

連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

デッキプレートと梁との接合

2) 打込み板
施工は打込み板製造業者の施工要領による。
施工の仕様等については別途製造業者へ確認下さい。
日本ヒールテック(株)、日本ドライバット(株)

3) 焼抜き接溶接
国土交通省告示第326号(平成14年4月16日制定)及び国土
第2表合(ハ)焼抜き接溶接に基づき下記仕様による。(梁
等)で接合する。

焼抜き接溶接 [SPW] 工率手接合—

	エ ン ー	手 順 ・ 要 領
1	アーク発生	Q1デッキを梁上にのばしませ(隙間2mm以下)溶接棒をQ1デッキに垂直に引上げてアークを発生させること。
2	Q1デッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを弱し、径10mmの“○”の字を描いてQ1デッキを焼抜く。
3	押し込み・溶接	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるよう10mm中央へ2～3回引ながら溶接。
4	整 形	溶着金属を整え、中央部でつと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安：電流値210A(標準)の場合8秒程度

自動焼抜き接溶接 [A.P.]

(1) 一次側電圧の必要容量：仮設電圧の場合
発生電圧の電圧

(2) ワイヤの種類と直径：Y.GW 1

標準溶接条件：下表

Q1デッキ板厚	梁フランジ板厚	電	圧	速	度
1.2mm	6～9mm未満	30	30	30	30
	9mm以上	30	30	30	30
1.6mm	6～9mm未満	30	30	30	30
	9mm以上	30	30	30	30

注1. デッキプレート 板厚1.2、1.6、2.0、2.2、2.5mm
2. CO₂ガス溶着：20℃/分以下

標 準 納 ま り

デッキプレートと梁の納まり【S梁】

A部 外周梁 Q.Lデッキスパン方向 1

壁
溶接金綱又は異形鉄筋
コンクリート クローサー
※1
50mm以上
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
Q.Lデッキ
梁耐火被覆※1

A部 外周梁 Q.Lデッキスパン方向 2

壁
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
※1
Q.Lデッキ
梁耐火被覆

C部 外周梁 Q.Lデッキ幅方向

溶接金綱又は異形鉄筋
※1
Q.Lデッキ
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板

B部 Q.Lデッキを突き合わせた場合

溶接金綱又は異形鉄筋 D10@200以下
コンクリート
※1
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板

B・H部 Q.Lデッキを離した場合

耐火認定適用の場合は「耐火仕様の配筋」参照

Q.Lデッキ クローサー

※1
50mm以上
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
Q.Lデッキ
梁耐火被覆

B部 Q.Lデッキを連続にした場合

梁耐火被覆用面戸※1
※1
Q.Lデッキ
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板

D部 Q.Lデッキを離した場合

コンクリート
溶接金綱又は異形鉄筋
※1
Q.Lデッキ
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板

D部 梁との間に隙間がある場合

溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
200mm以上
50mm以上
※1
Q.Lデッキ
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
φ4-13 @600以下

E部 梁継手部 Q.Lデッキスパン方向

溶抜き栓溶接又は打込み板
※1
Q.Lデッキ受材 F B 65×6等 (APIの場合 F B 65×9等)
クローサー
梁耐火被覆

F部 梁継手部 Q.Lデッキ幅方向

(フラッシング) 現場切断
現場切断 (Q.Lデッキ)
※1
Q.Lデッキ受材 F B 65×6等 (APIの場合 F B 65×9等)
クローサー
梁耐火被覆
溶抜き栓溶接又は打込み板
φ4-13 @600以下
溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板

G部 柱廻り

溶抜き栓溶接、頂付きスタッド又は打込み板
※1
Q.Lデッキ受材
柱廻りQ.Lデッキ切欠き

Q.Lデッキ端部 小口塞ぎ

この部分の小口は塞がない!
※1
Q.Lデッキ受材
クローサー

<p>スラブの配筋</p> <p>コンクリート表面よりのかぶり厚さが30mmになるようベベル保持し、全面に配筋する。</p>	<p>耐火仕様の配筋・QLデッキが単純支持となる場合、耐火補強筋を配筋する。配筋はJASS5鉄筋コンクリート工事による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐火補強筋・端部補強筋が必要な場合、QLデッキの各端中央部にかぶり40mmで配筋する。 ・耐火火補強筋、端部補強筋共、梁へ150mm以上定着させる。梁上で定着が150mmとれない場合は、L型に曲げて150mm以上を確保する。
---	--

A) 大梁小梁共にS造の場合
QLデッキが単独支持となる場合、耐火補強筋が必要。
耐火補強筋 D13
150mm以上
連続支持
合成スラブ
溶接金網の重ね代 L1:メッシュと50mm以上
φ6-150×150は200mm以上
φ6-100×100は150mm以上

B) 大梁小梁共にRC又はSRC造の場合
QLデッキは単独支持、耐火補強筋が必要。
耐火補強筋 D13
QLデッキ(単独支持)
RC梁、SRC梁
スパン
150
150
QLデッキ(単独支持)

C) 大梁がRC又はSRC造、小梁がS造の場合
QLデッキが連続支持となる場合、RC又はSRC造の大梁側では端部補強筋を配筋する。
端部補強筋
D13、長さ1.0m
QLデッキ(連続支持)
RC梁、SRC梁
鉄骨梁
スパン
150 8.50 8.50 150
QLデッキ
150
スパン
QLデッキ(連続支持)

検 査			(参考) ひび割れ拡大防止の															
【焼抜き径溶接 (SPW) 及び自動焼抜き径溶接 (A.P.W)】			[1] 設計上の留意点															
<p>□ 事前検査</p> <p>SPW: 適正な溶接を行うため下記1) または2) の方法で電流値をチェックする。</p> <p>1) 板溶接での計測</p> <p>2) 溶接棒の消費長さによる確認 — 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約3mmに保持し、1.0mm程度の電を置いて10秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが4.5〜5.3mmであること。</p> <p>A.P.W: 試し溶接を行って溶接性を確認する。</p> <p>□ 溶接後の外観検査</p> <p>1) 溶接面所の確認</p> <p>2) 焼き切れ、余歪り不足の無</p> <p>3) 標準余歪り後 A.P.W: 18mm以下 A.P.W: 25mm±3</p> <p>□ 不良部の補修</p> <p>SPW の場合: スラグ除去後、梁にデッキプレートに密着させて再溶接する。</p> <p>不具合箇所には溶着金属が流し込む必要で補修。</p> <p>A.P.W の場合: 余歪り溶接にて補修する。</p> <p>【そ の 他】</p> <p>1) Q1, Q2 板相互の嵌合状況</p> <p>2) 溶着金属の散み状況</p> <p>3) 開口部の補強状況</p>																		
<p>省令第606号(平成19年6月20日改正)の</p> <p>シートの設置取組条件: 黒皮または一般鋼止め塗装</p> <p>— CO₂-アークスポット溶接 —</p> <p>18kVA以上 3相 200V</p> <p>35kVA以上 3相 200V</p> <p>12 φ1.2mm</p>			[2] 施工上の留意点															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>A)</th><th>電圧 (V)</th><th>アークタイム (秒)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 2 0</td><td>3 ~ 3.5</td><td>3.0 ~ 4.0 1度打ち</td></tr> <tr> <td>3 2 0</td><td>3 ~ 3.5</td><td>3.0 ~ 4.0 2度打ち</td></tr> <tr> <td>3 2 0</td><td>3 ~ 3.6</td><td>3.5 ~ 4.5 1度打ち</td></tr> <tr> <td>3 2 0</td><td>3 ~ 3.6</td><td>4.0 ~ 4.5 2度打ち</td></tr> </tbody> </table> <p>m 表面条件: Z12、Z27、裏面塗装</p>				A)	電圧 (V)	アークタイム (秒)	3 2 0	3 ~ 3.5	3.0 ~ 4.0 1度打ち	3 2 0	3 ~ 3.5	3.0 ~ 4.0 2度打ち	3 2 0	3 ~ 3.6	3.5 ~ 4.5 1度打ち	3 2 0	3 ~ 3.6	4.0 ~ 4.5 2度打ち
A)	電圧 (V)	アークタイム (秒)																
3 2 0	3 ~ 3.5	3.0 ~ 4.0 1度打ち																
3 2 0	3 ~ 3.5	3.0 ~ 4.0 2度打ち																
3 2 0	3 ~ 3.6	3.5 ~ 4.5 1度打ち																
3 2 0	3 ~ 3.6	4.0 ~ 4.5 2度打ち																

a部 建物外回り Q Lデッキスパン方向

普通コンクリート
30
150
30
Q Lデッキ
梁にのみ込み 30mm
※ 耐火補強筋
RC梁またはSRC梁

b部 内部大梁、小梁 Q Lデッキスパン方向

普通コンクリート
溶接金網又は異形鉄筋
※ 耐火補強筋
30
30
Q Lデッキ
RC梁又はSRC梁

c部 建物外回り Q Lデッキ幅方向

溶接金網または異形鉄筋
梁に定着
普通コンクリート
10
30
Q Lデッキ
※ 耐火補強筋²
RC梁またはSRC梁

d部 建物内部大梁 Q Lデッキ幅方向

すみぬ溶接又はドリルねじ
φ4-13 ※φ60以下
※ 耐火補強筋²
10
10
フラッシング
RC梁またはSRC梁

e部 柱廻り納まり

※ 耐火補強筋²
30mmのみ込み
梁幅
10mm以上
Q Lデッキ
Q Lデッキ柱廻り切り欠き柱へののみ込みなし

a部 左図内部詳細

釘
クローサー
30
30
梁型枠
Q Lデッキ
釘
クローサー

c部 ブラケット支持

アークボルト溶接 又は
打込み鉄 ※φ60以下
溶接金網又は異形鉄筋
梁に定着
Q Lデッキ
Q Lデッキ受け枠
30mm以上
SRC梁

e部 柱廻り (a-a断面)

すみぬ溶接又はドリルねじ
φ4-13 ※φ60以下
Q Lデッキ切断、柱へののみ込みなし
フラッシング
柱型枠
コンクリート止め 木枠等

開口部補強案

1) 開口がφ150程度の場合
 A) 開口間隔≧3×開口径 B) 開口間隔<3×開口径

開口部補強筋 D10
 開口部補強筋 D13
 開口部補強筋 D10
 耐力補強筋 2) に準ずる
 長型開口
 L
 W

⑦ 開口が連続している場合
 連続する開口の開口部(仮型開口)と見なし、その開口部の大さきにより、
 又2)又は3)に準じて補強筋を決定

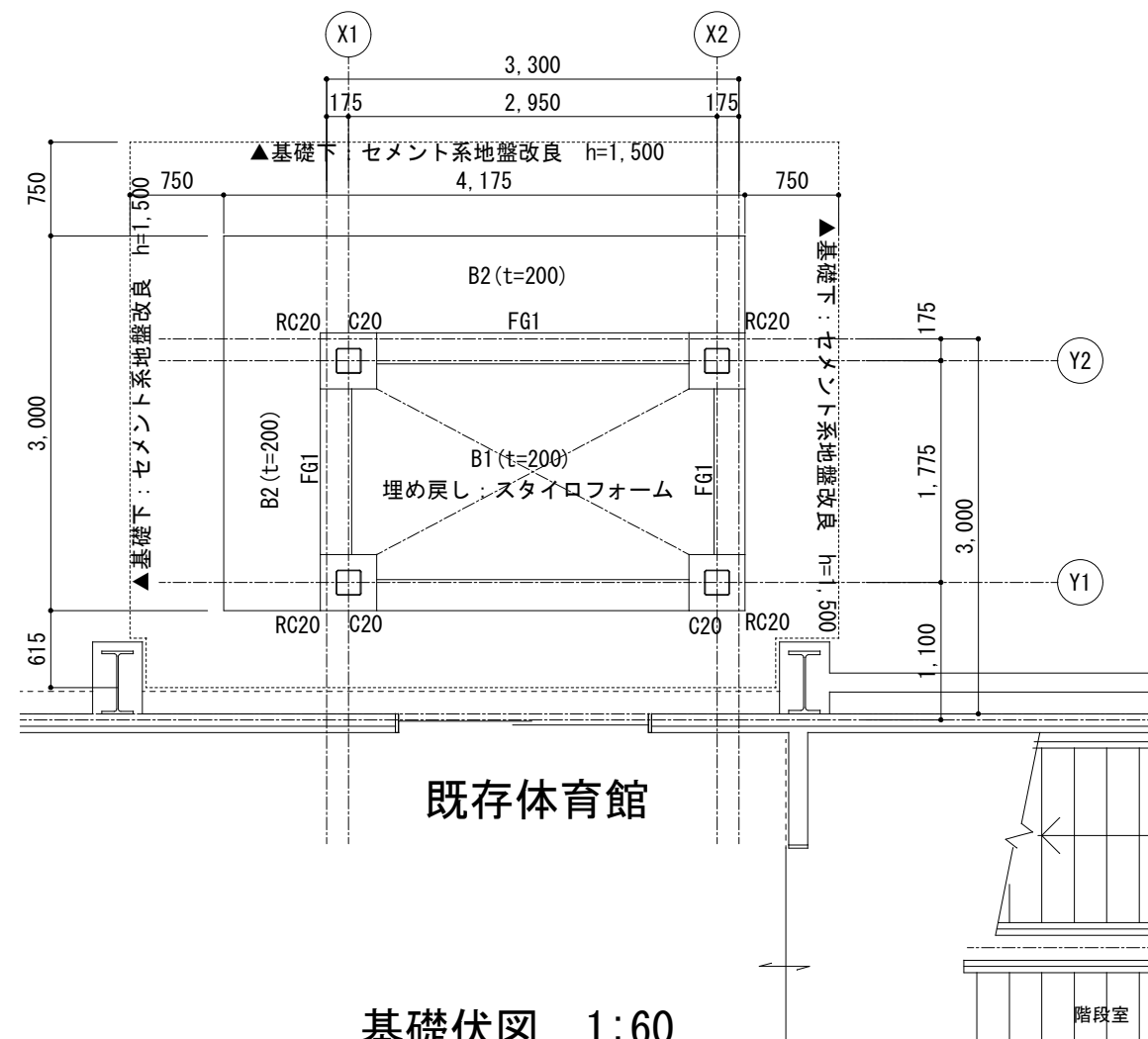
$E \times W$: 600mm以下 L : 900mm程度以下
 開口補強筋 D10
 $a = \frac{M}{f \times j}$ 耐力補強筋
 M : 開口によって生じる隣接スラブの増加曲げモーメント
 $a \times D$ は a の大きい方
 耐力補強筋 $a = 1.27 \times (1 + n) / 2 \text{ cm}^2$ (単独支持)
 耐力補強筋 $a = M / (f \times j) \text{ cm}^2$
 n : $PF000F-910$, $PF020F-9113$ の耐火仕様で
 要求される 910 分火時間補強筋が切斷
 場合の切斷された耐力補強筋の枚数
 3) $w > 600\text{mm}$ の場合
 小梁補強
 開口部
 開口補強筋 D13
 開口補強筋 D10
 耐力補強筋
 コンクリート箱梁または
 コンクリート強化後
 QLラックを切斷
 $\geq 40 \cdot D$
 L
 W


 株式会社 **MAC建築研究所**
 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

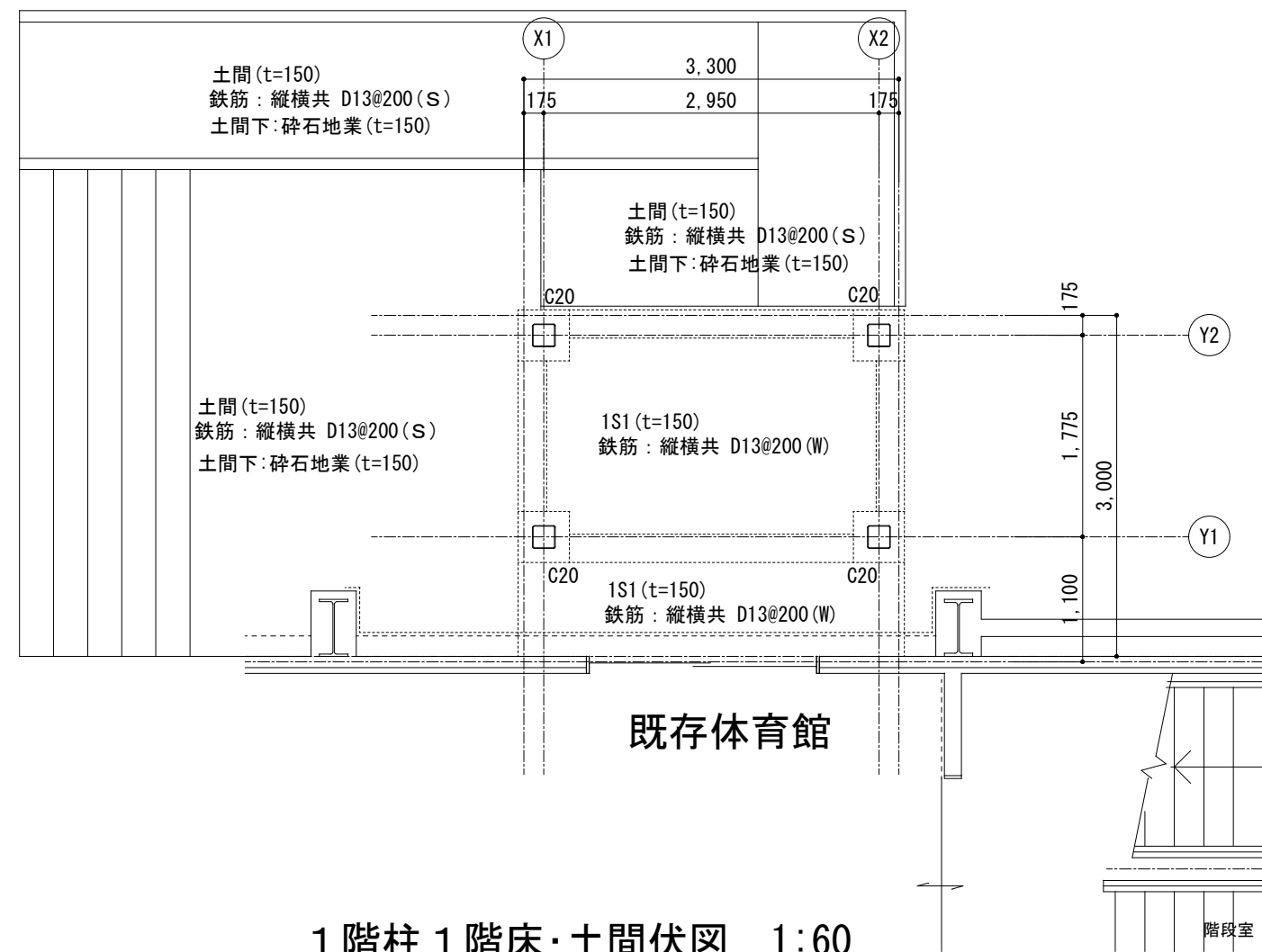
■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項
2026.	T. NAKAMURA	T. NAKABAYASHI	

旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準	A3 : NS	S - 407

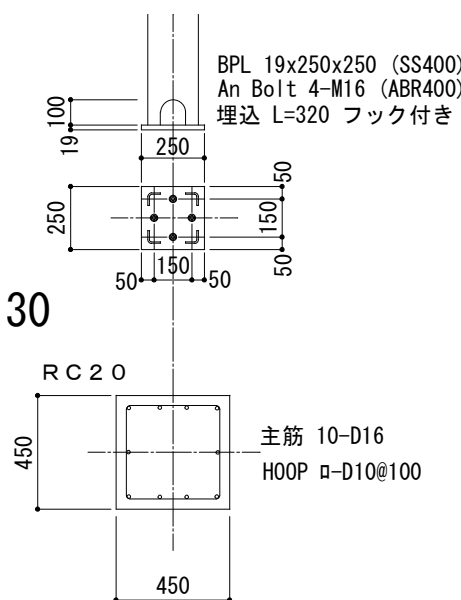


基礎伏図 1:60

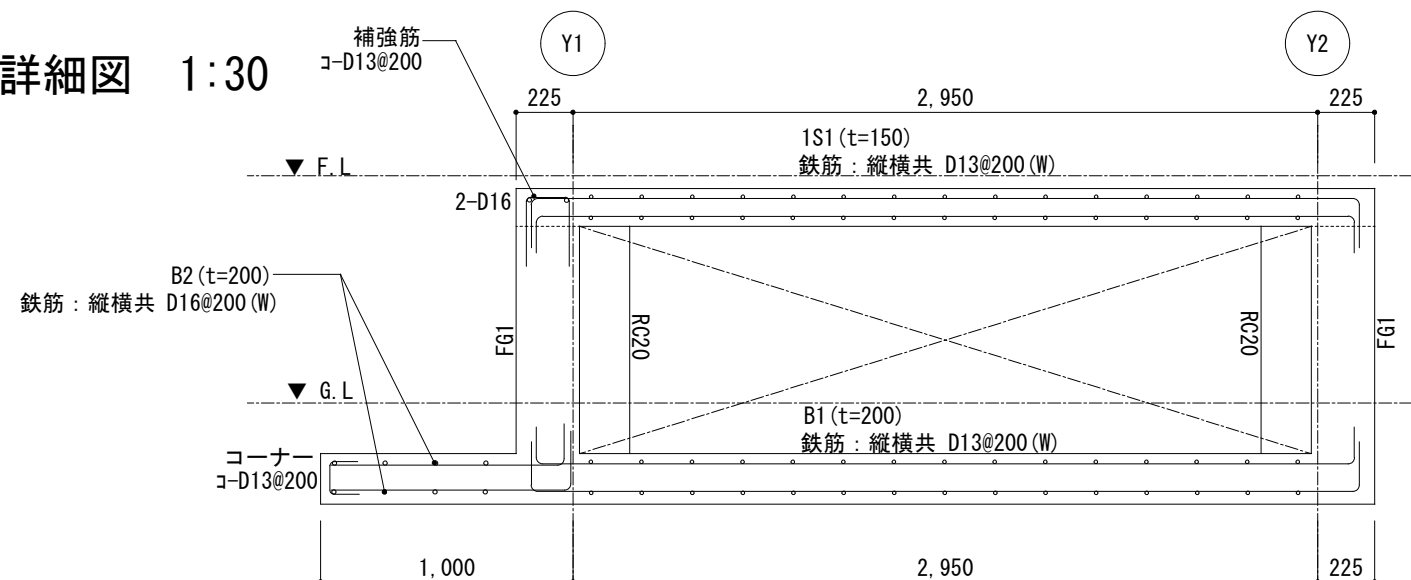
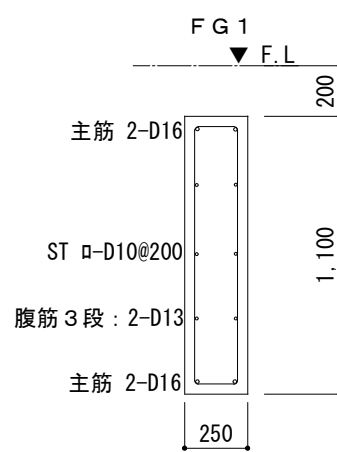


1階柱1階床・土間伏図 1:60

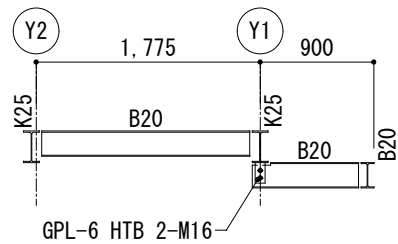
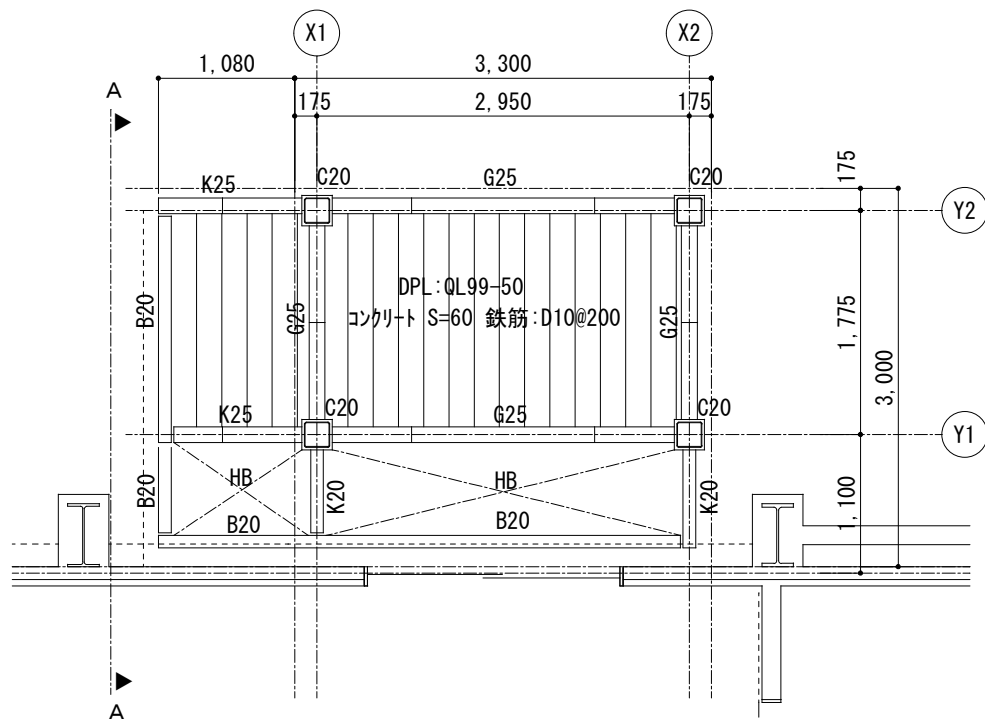
柱脚詳細図 1:30



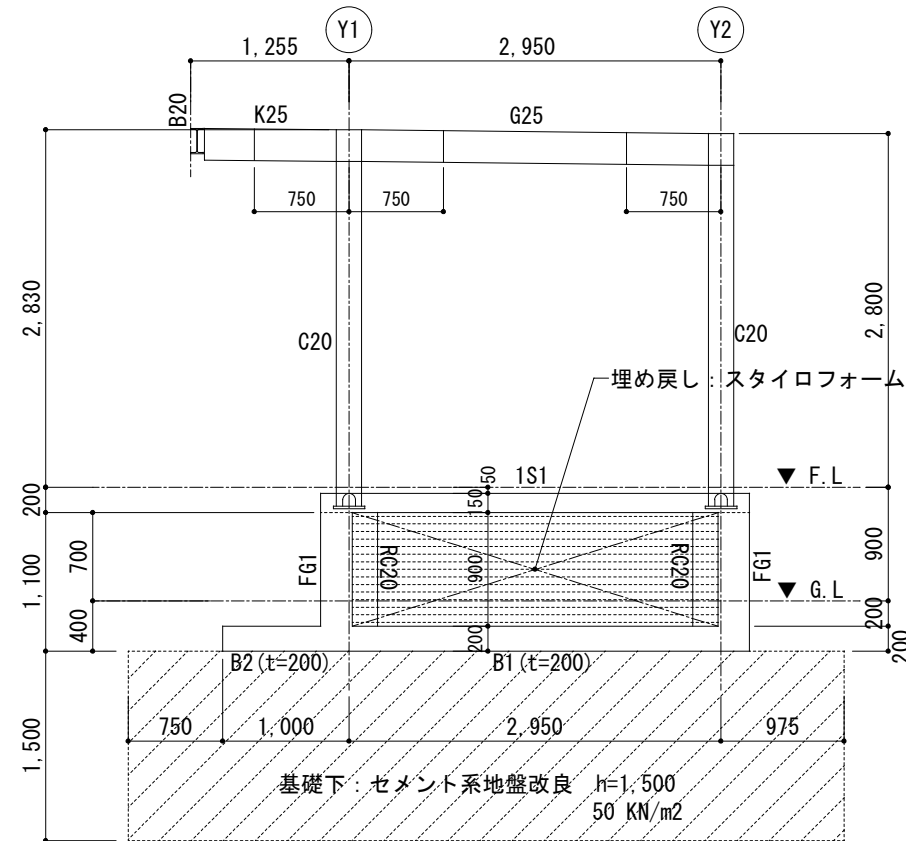
基礎・繫梁詳細図 1:30



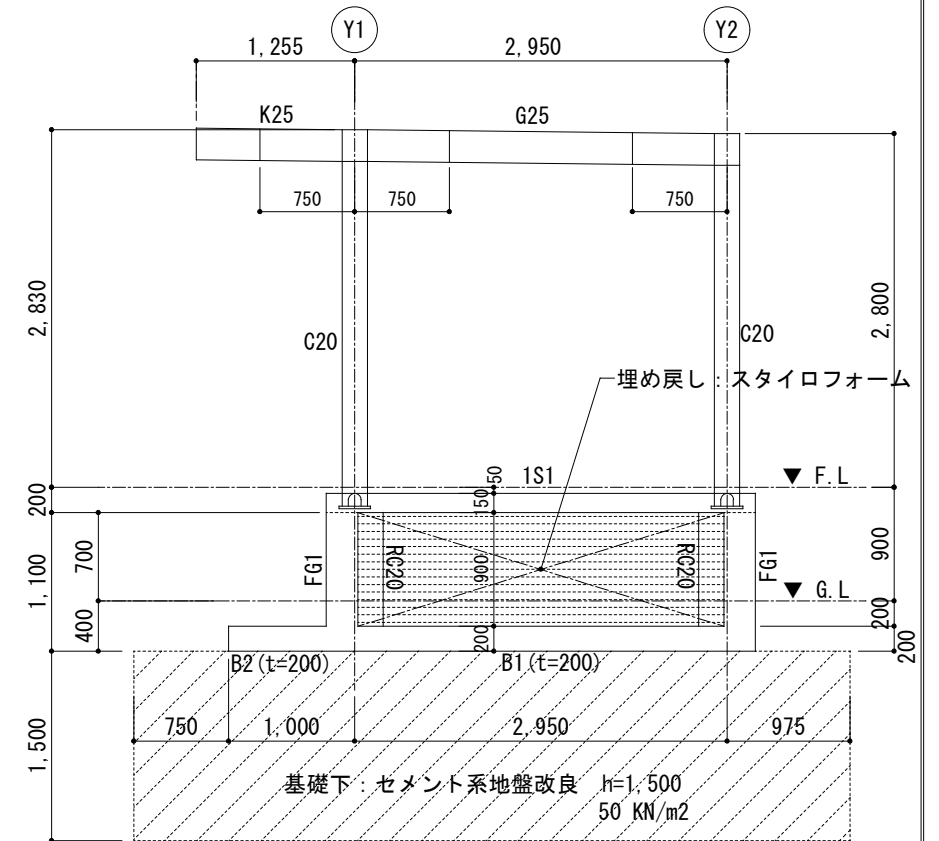
1 階柱屋根梁伏図 1:60



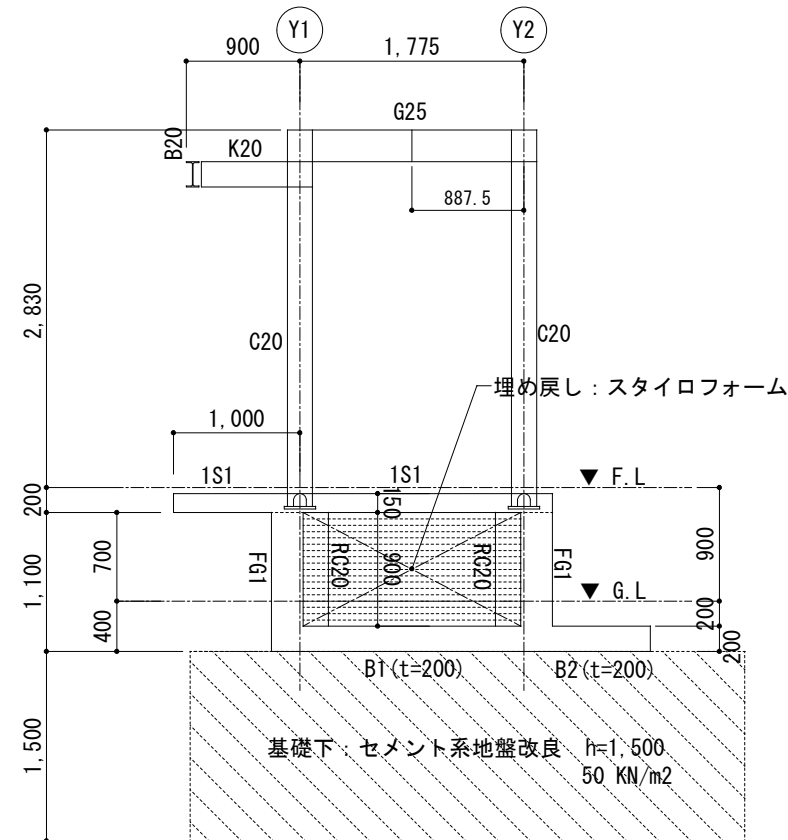
A-A 矢視小梁段差図 1:60



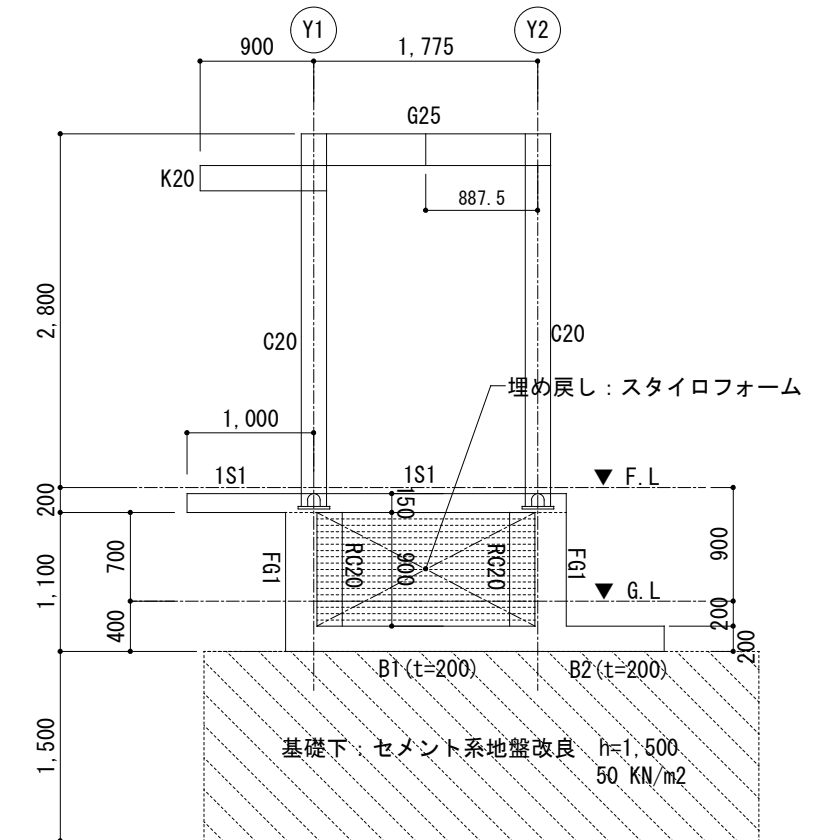
Y1通 軸組図 1:60



Y2通 軸組図 1:60



X1通 軸組図 1:60



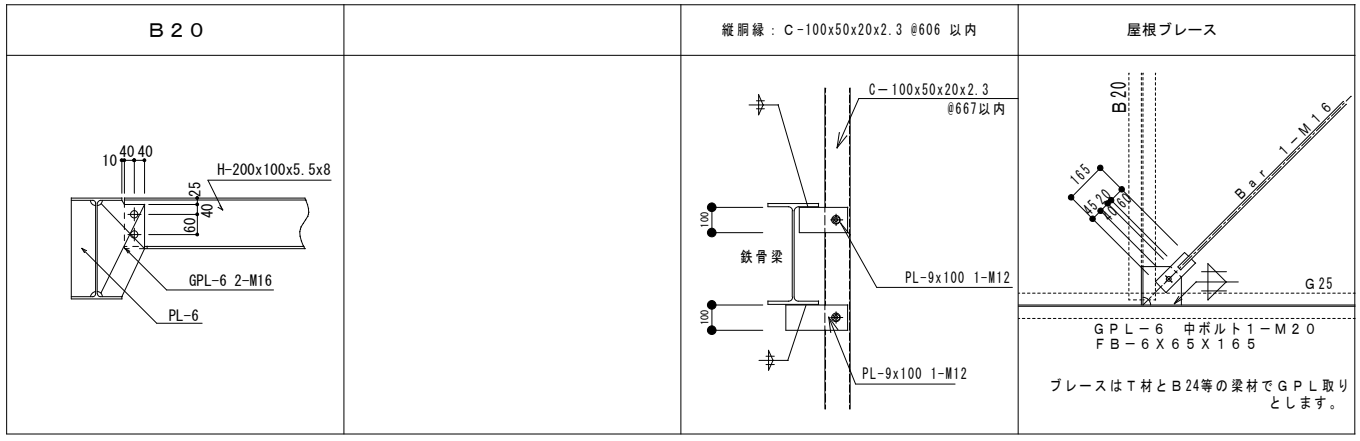
X2通 軸組図 1:60

鉄 骨 部 材 リ ス ト		柱・梁仕口部は、ノンスカーラップ工法とする。	
符 号	サ イ ズ	柱 脚	接 合 部 仕 口 備 考
柱 C 20	□ - 2 0 0 X 2 0 0 X 6 (STKR400)		
大 梁 G 25・K 25	全 断 面 H - 2 5 0 X 1 2 5 X 6 X 9		
K 20	全 断 面 H - 2 0 0 X 1 0 0 X 5.5 X 8		
小 梁			
B 20	H - 2 0 0 X 1 0 0 X 5.5 X 8	G P L - 6	H T B 2 - M 1 6
屋根 Q L デッキ	Q L 9 9 - 5 0 t - 1.2	コンクリート Fc=21 S=80 鉄筋：縦横共D10@200	
屋根ブレース：HB	M 1 6 ターンバックル締め	FB 6x65 GPL-6 中ボルト 1-M20	
外壁縦胴縁	C - 1 0 0 X 5 0 X 2 0 X 2.3 @ 6 0 6 以 内	P L - 9 X 1 0 0 中 B o l t - 1-M12 2 段	

鋼材：SS400・SSC400・BCR295 HTB S10T

小梁等仕口部詳細図 S = 1 / 3 0

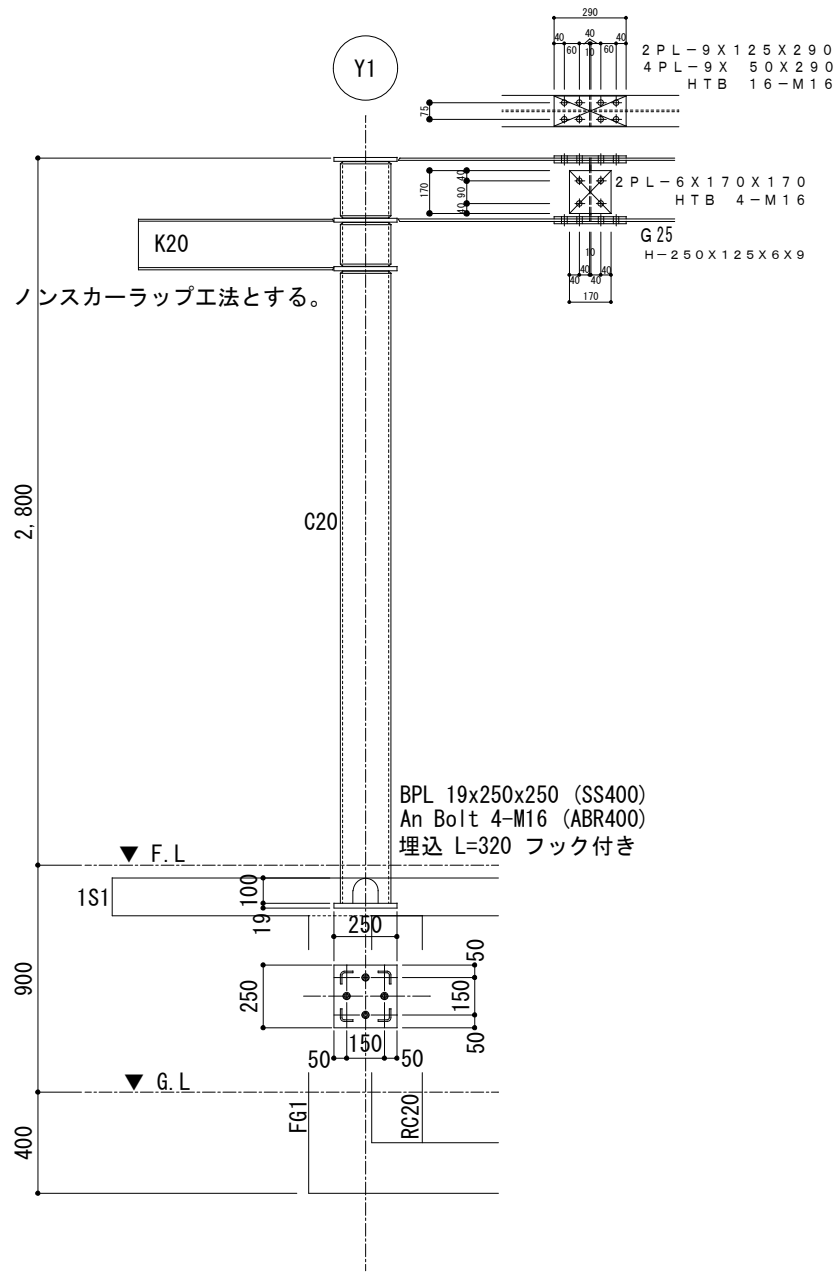
ボルト HTB S10T



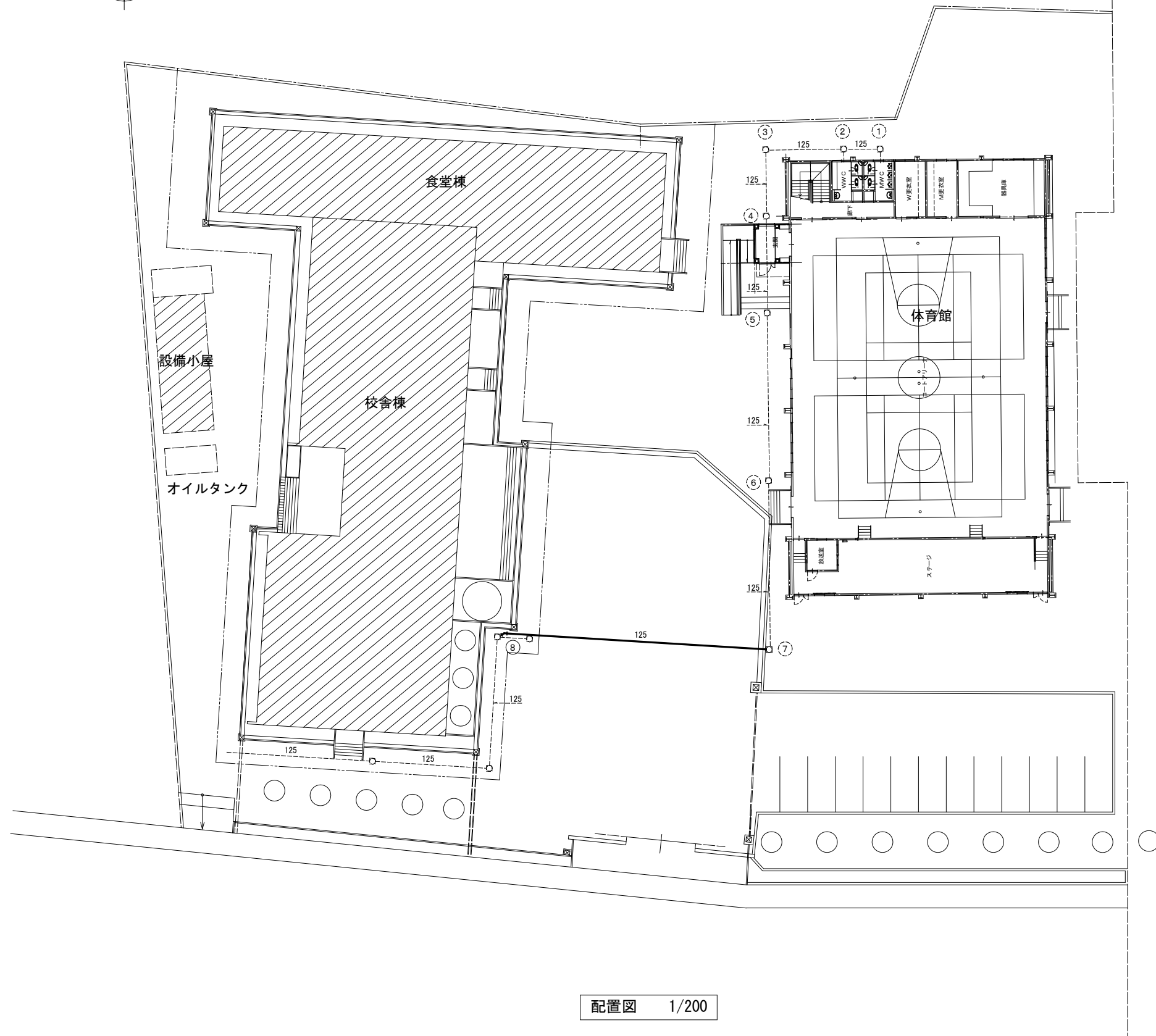
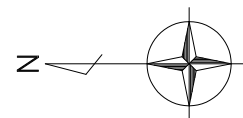
大梁接合部詳細図 S = 1 / 3 0

大梁符号		G 25
梁サイズ		H - 2 5 0 X 1 2 5 X 6 X 9
フランジ	添板 1	2 P L - 9 X 1 2 5 X 2 9 0
	添板 2	4 P L - 9 X 5 0 X 2 9 0
	ボルト	H T B 1 6 - M 1 6
ウェブ	添 板	2 P L - 6 X 1 7 0 X 1 7 0
	ボルト	H T B 4 - M 1 6

柱・梁仕口部は、ノンスカーラップ工法とする。



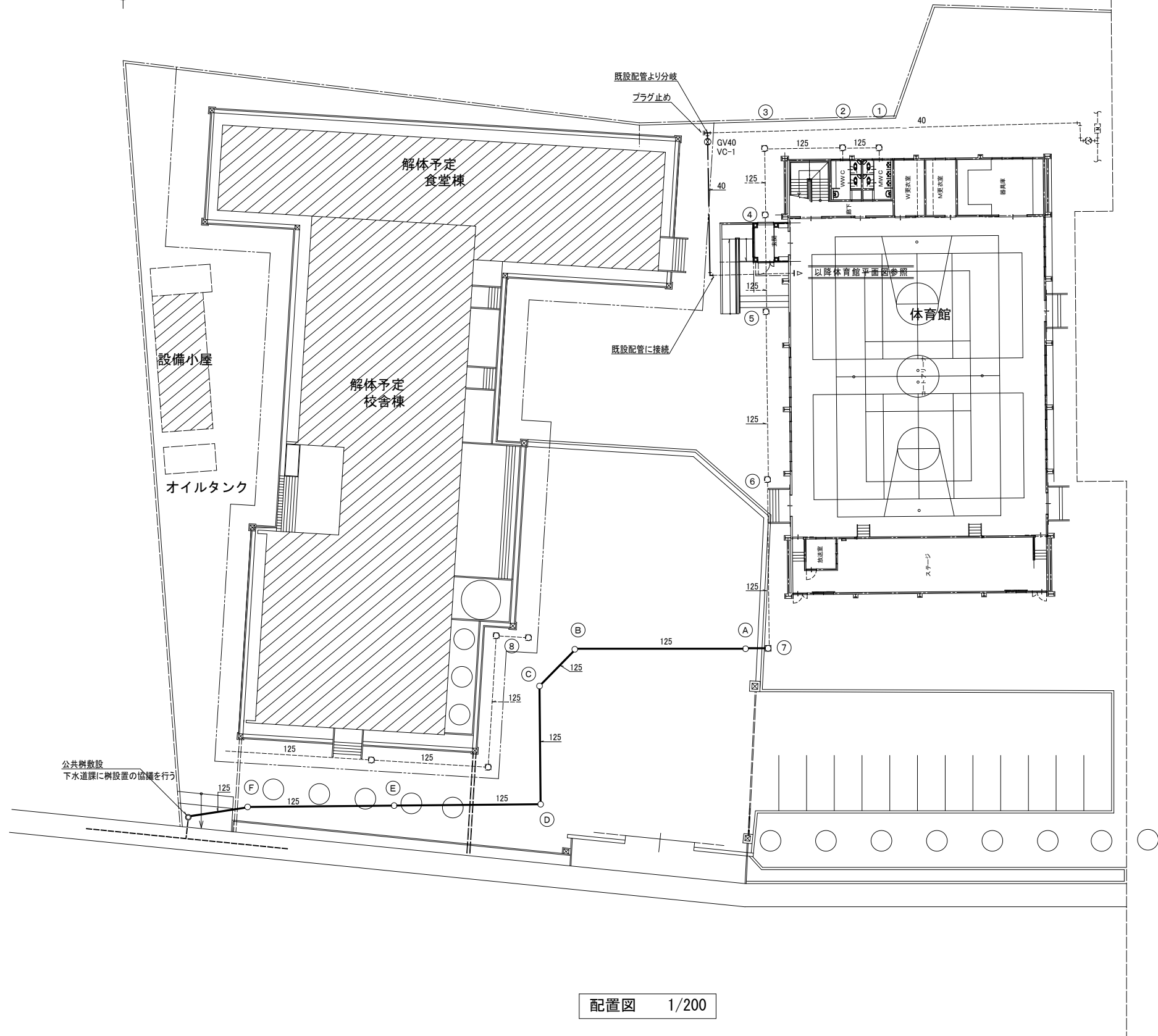
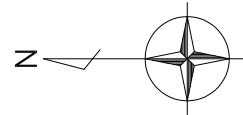
X2通 鉄骨詳細図 1:30



樹リスト				
No	種別	寸法	葺	深さ
1	汚水樹	450x450	MHA450	管底 GL-300
2				" " 350
3				" " 420
4				" " 480
5				" " 590
6		600x600	MHA600	" " 690
7				" " 980
8				" " 1050

太線部分の配管撤去を行う

配置図 1/200

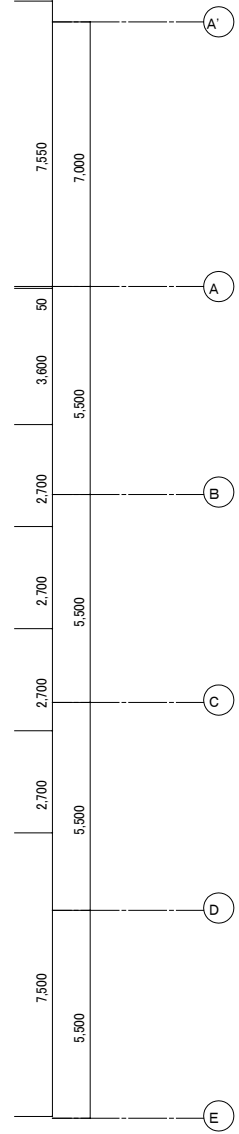
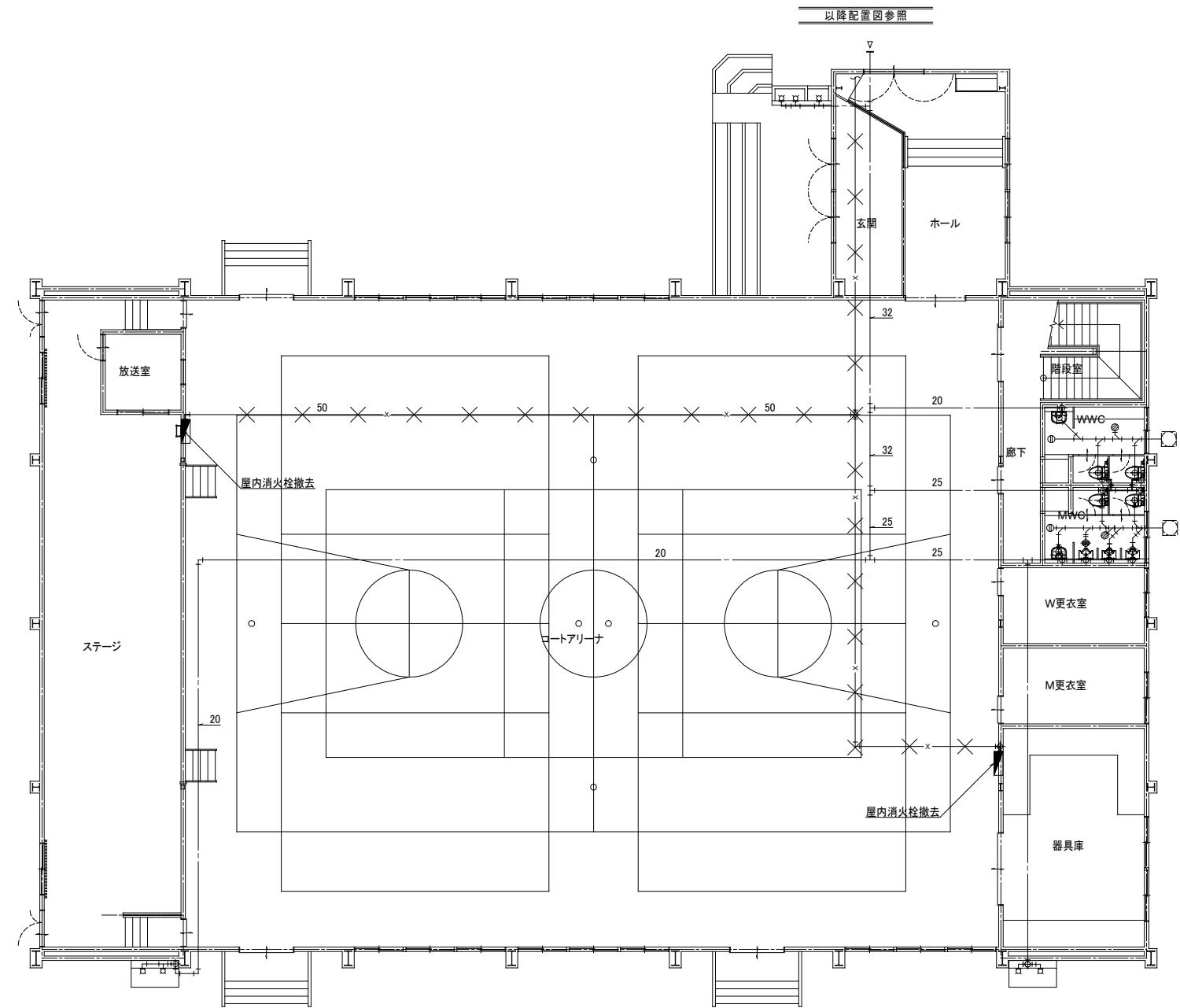
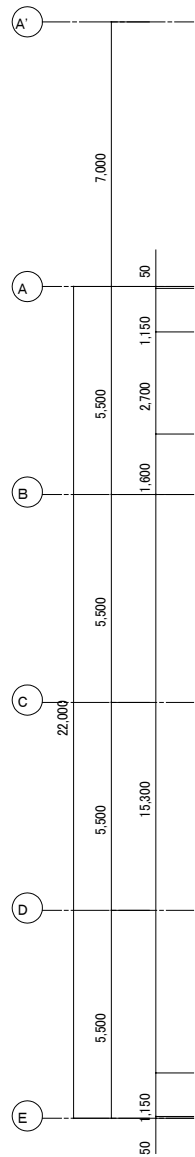
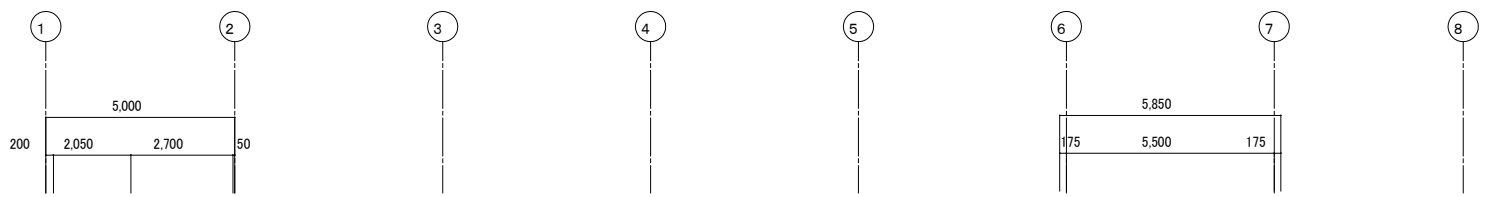


既設樹リスト

No	種別	寸法	蓋	深さ
1	汚水樹	450x450	MHA450	管底 GL - 300
2				" " 350
3				" " 420
4				" " 480
5				" " 580
6		600x600	MHA600	" " 690
7				" " 980
8				" " 1050

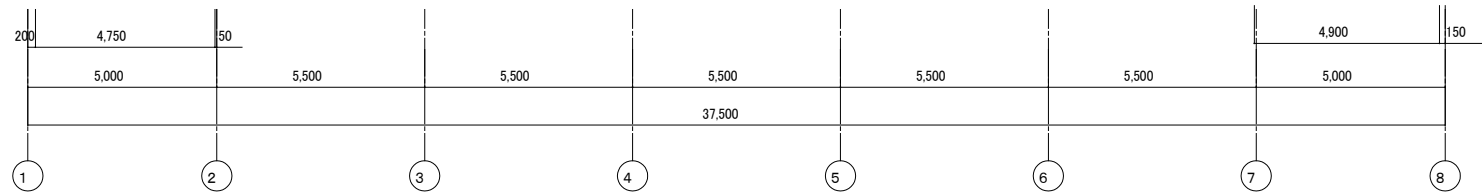
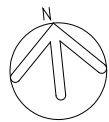
新設樹リスト

	名称	樹深さ	サイズ	蓋	備考
7		980			
A	小口径塩ビ樹	1020	ST -125A -200Φ	錆鉄防護蓋	
B	小口径塩ビ樹	1280	45L -125A -200Φ	錆鉄防護蓋	
C	小口径塩ビ樹	1370	45L -125A -200Φ	錆鉄防護蓋	
D	小口径塩ビ樹	1560	90Y -125A -200Φ	錆鉄防護蓋	
F	小口径塩ビ樹	1790	45L -125A -200Φ	錆鉄防護蓋	



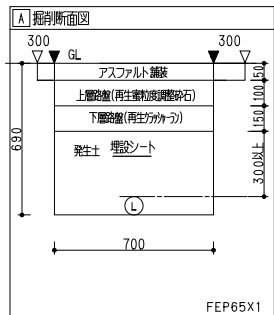
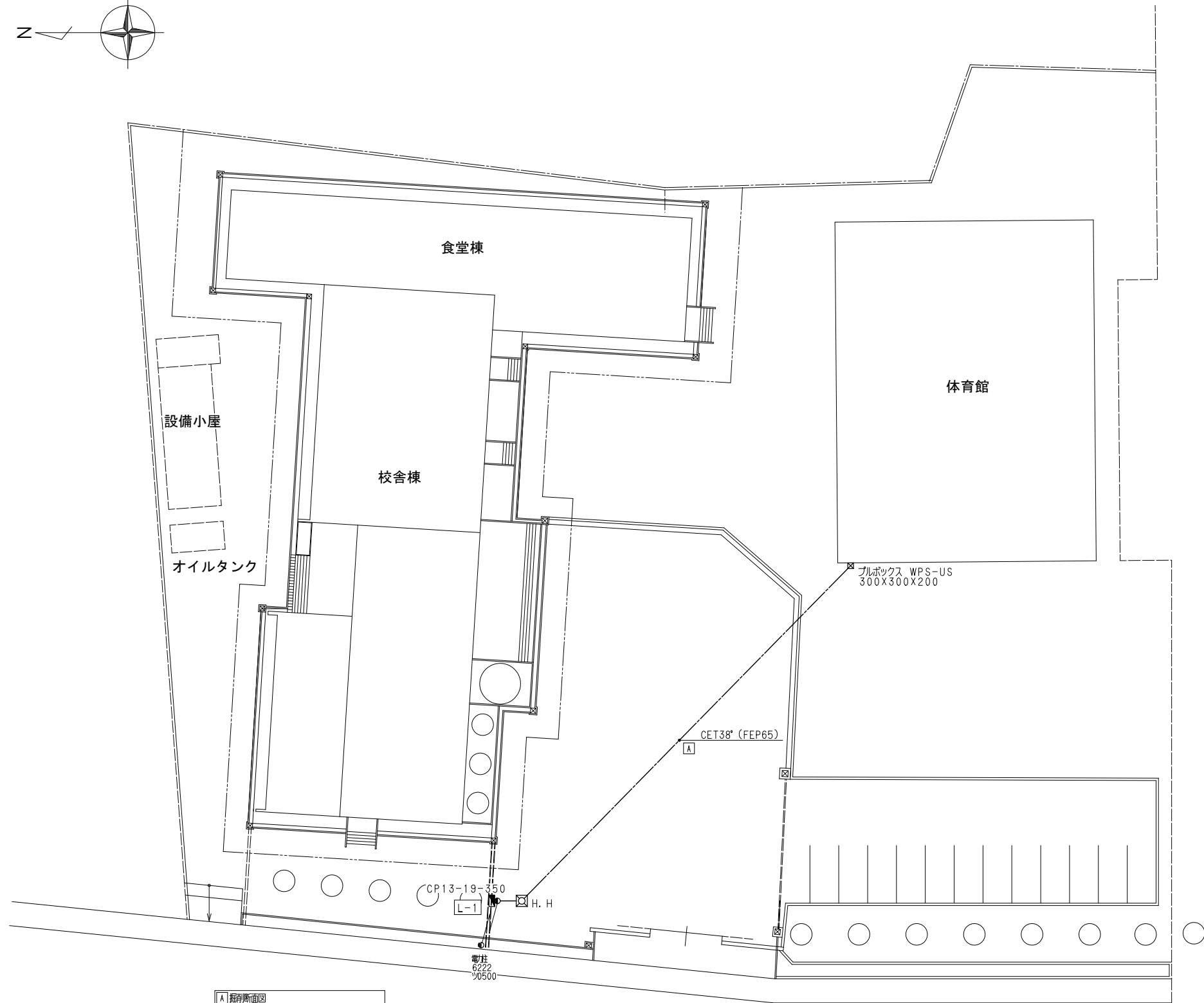
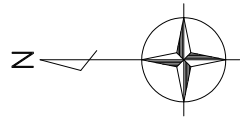
1階男子・女子便所			
器具名	品番	男子	女子
洋風大便器	CS465 自動FV	2	2
小便器	U307 感知FV	3	
洗面器	L230 自動水栓	1	1
床上掃除口	COB125	1	1
床排水金物	T5B50	1	1

取外し・再取付け
取外し・再取付け
撤去・新設
撤去・新設

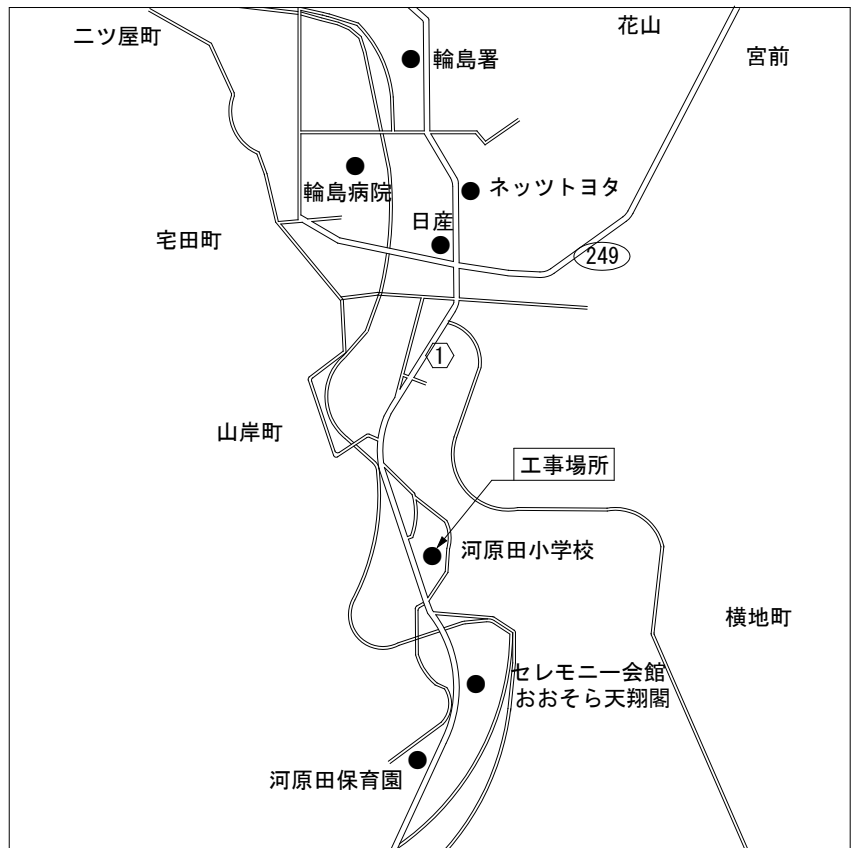


1階平面図 1:100

※給水配管は既設利用、消火配管は埋設残置とする。



配置図 1/200



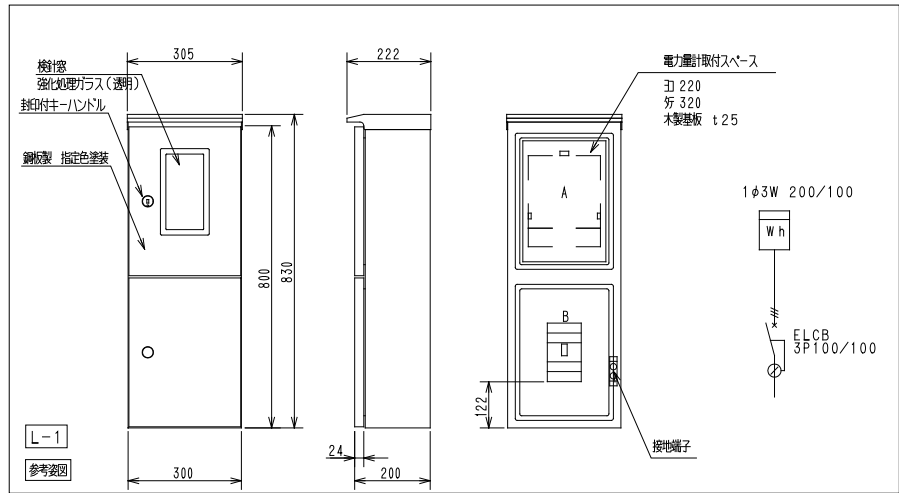
付近見取図

凡 例		
記 号	名 称	仕 様
	ハンドホール	900X900X900 数量50KN
	電柱	CP13-19-350 支線38"

注記1) 図中、特記なき配管・配線は下記とする。

埋設配管

注記2) 図中、露出立上配管はGLT管にて保護すること。



凡 例		
記 号	名 称	仕 様
	照明器具	天井付
	照明器具	高天井用
	スイッチ	1P15AX2+PLX1

注記1) 図中、特記なき配管・配線は下記とする。

立下保護管
VVF1. 6-3C 天井隠ぺい 隠設PF管
IV1. 6X4 天井隠ぺい 隠設管

注記2) 図中、太線は撤去を示す。

撤去 器具表

放送室			
FL40wX1	露出	撤去	1台
FL20wX1	露出	撤去	1台

※1 床下物置

ステージ			
FL40wX1	露出	撤去	3台
FL40wX2	露出	撤去	8台
FL20wX1	露出	撤去	1台

※1 床下物置

コートアリーナ			
誘導灯 B級	露出	撤去	4台

ポーチ			
IL100wX1	埋込	撤去	3台

玄関・ホール			
FL40wX2	埋込	撤去	4台
誘導灯 B級	露出	撤去	2台

階段室			
FL20wX1	露出	撤去	1台

廊下			
FL20wX1	露出	撤去	2台

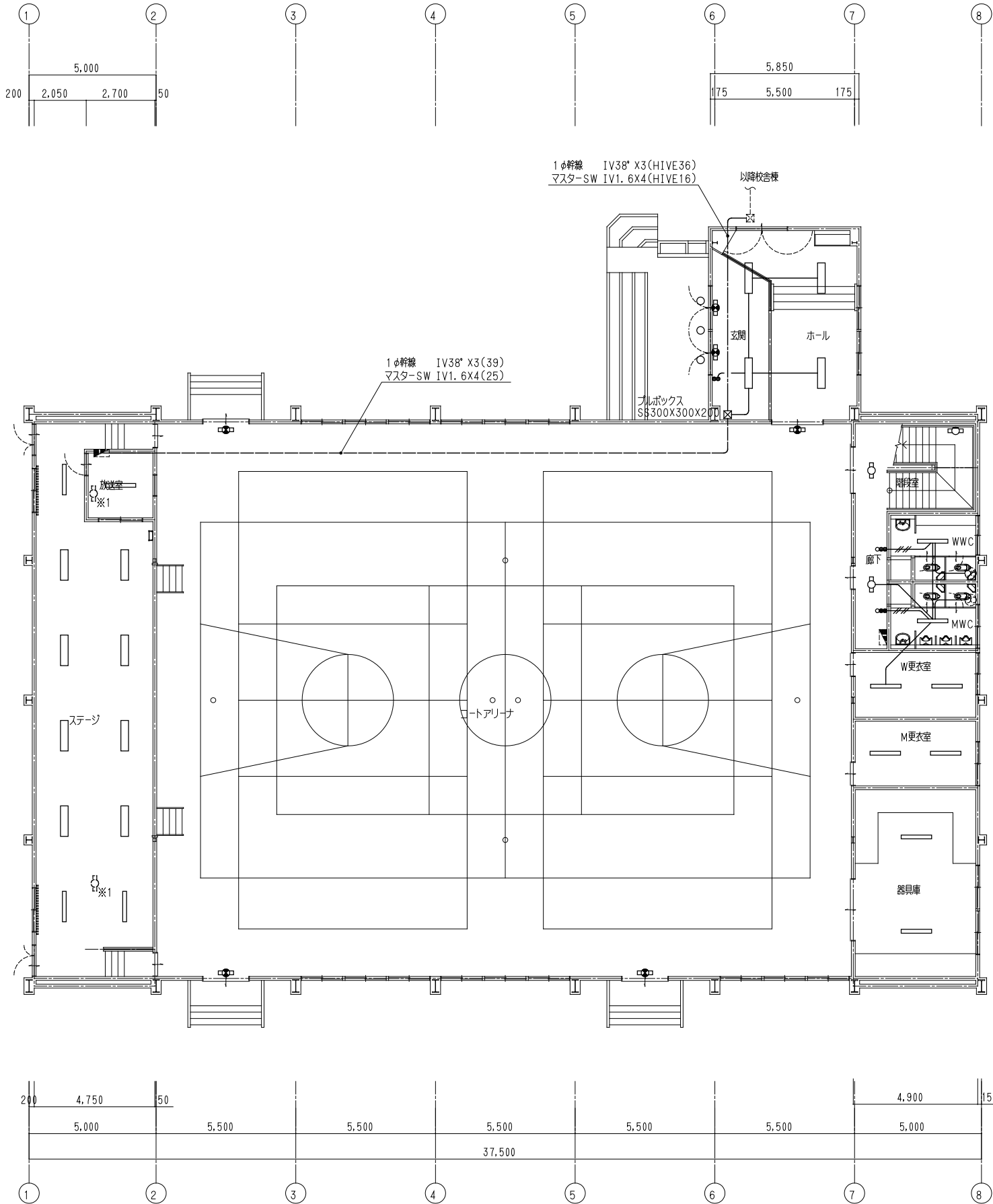
WWC			
FL40wX1	露出	撤去	1台

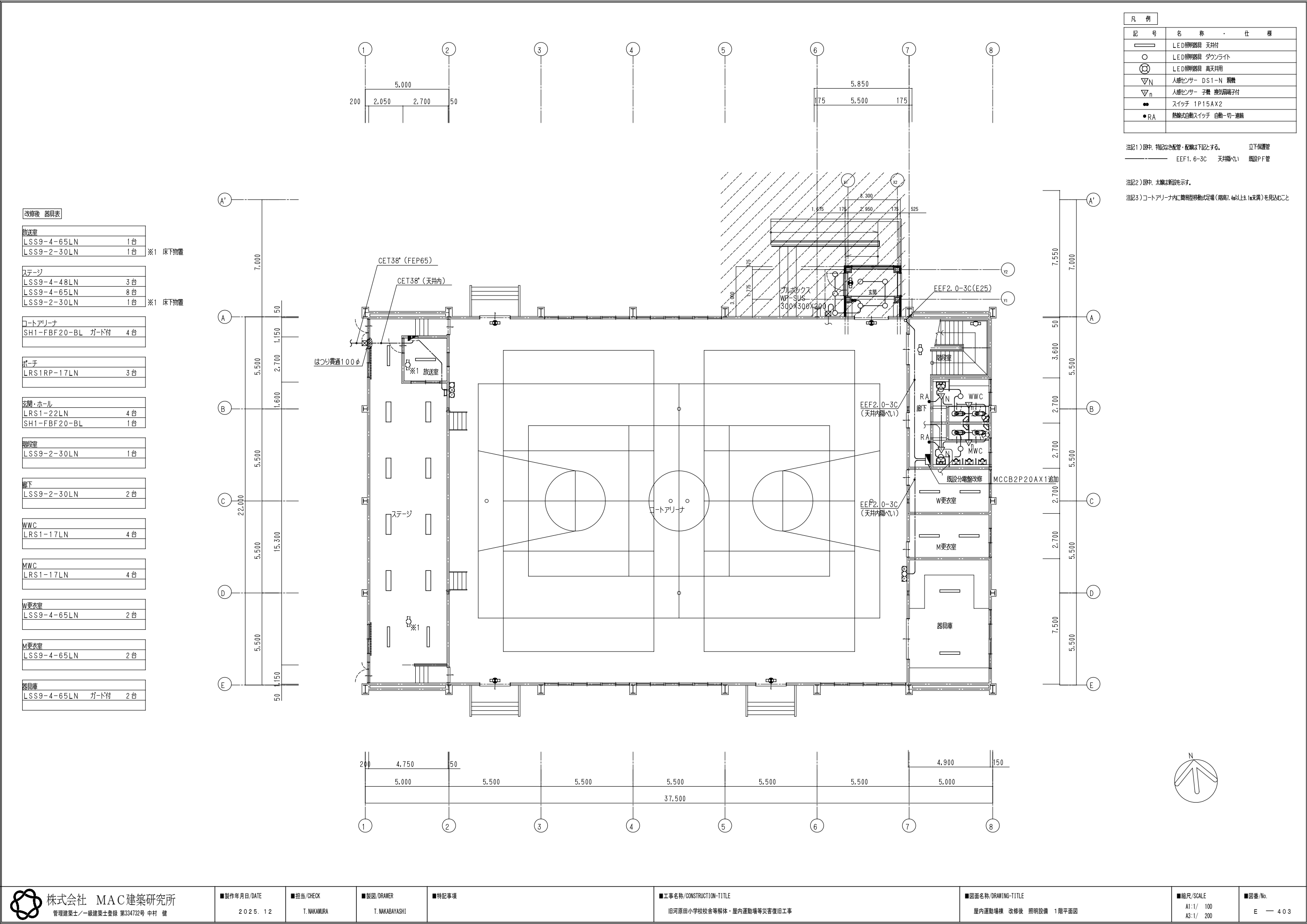
MWC			
FL40wX1	露出	撤去	1台

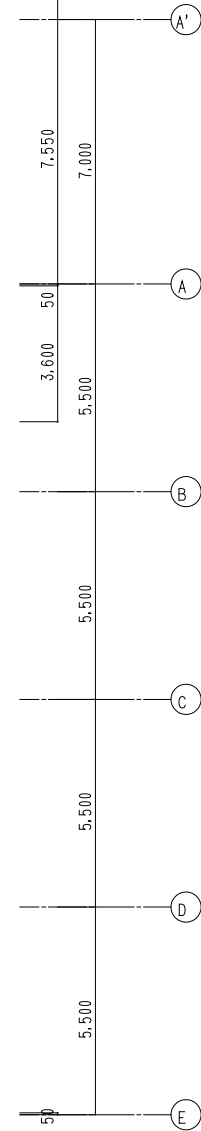
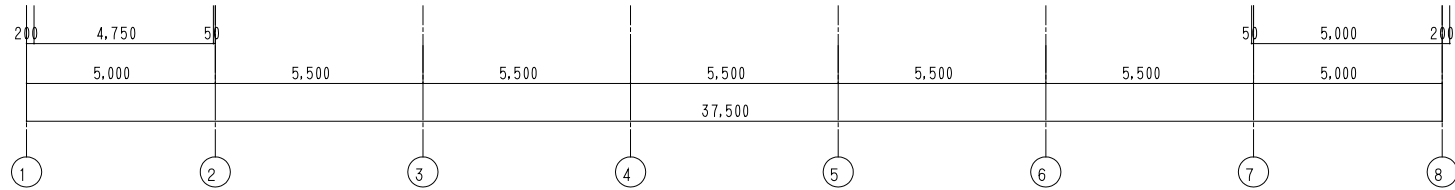
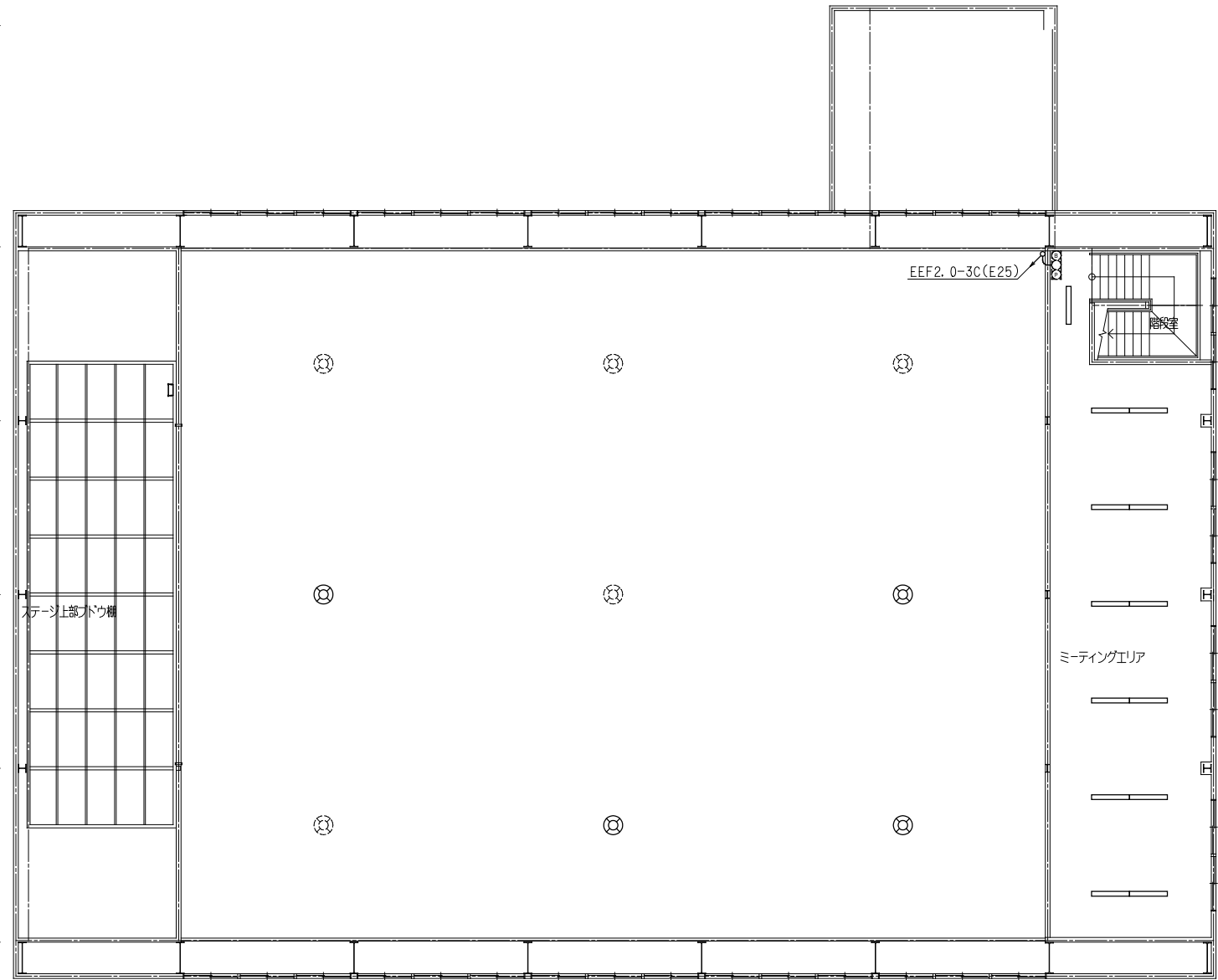
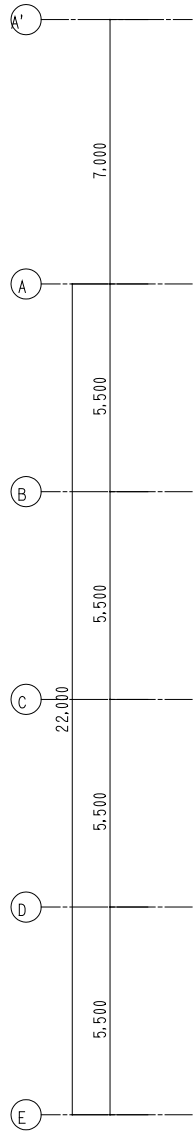
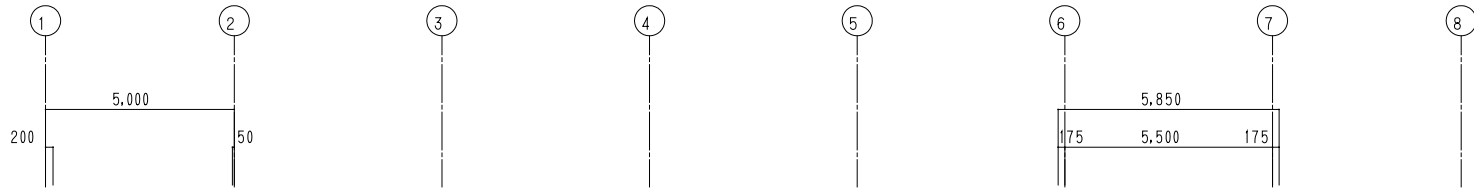
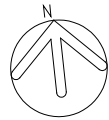
W更衣室			
FL40wX1	露出	撤去	2台

M更衣室			
FL40wX1	露出	撤去	2台

器具庫			
FL40wX1	露出	撤去	2台







撤去 器具表

ミーティングエリア			
FL40wX1	露出	撤去	13 台

体育館			
HID700wX1	露出	撤去	4 台

改修後 器具表

ミーティングエリア			
LSS9-4-65LN			13 台

体育館			
SP-1	ガード付		4 台

注記1) 図中、太線は撤去・新設を示す。

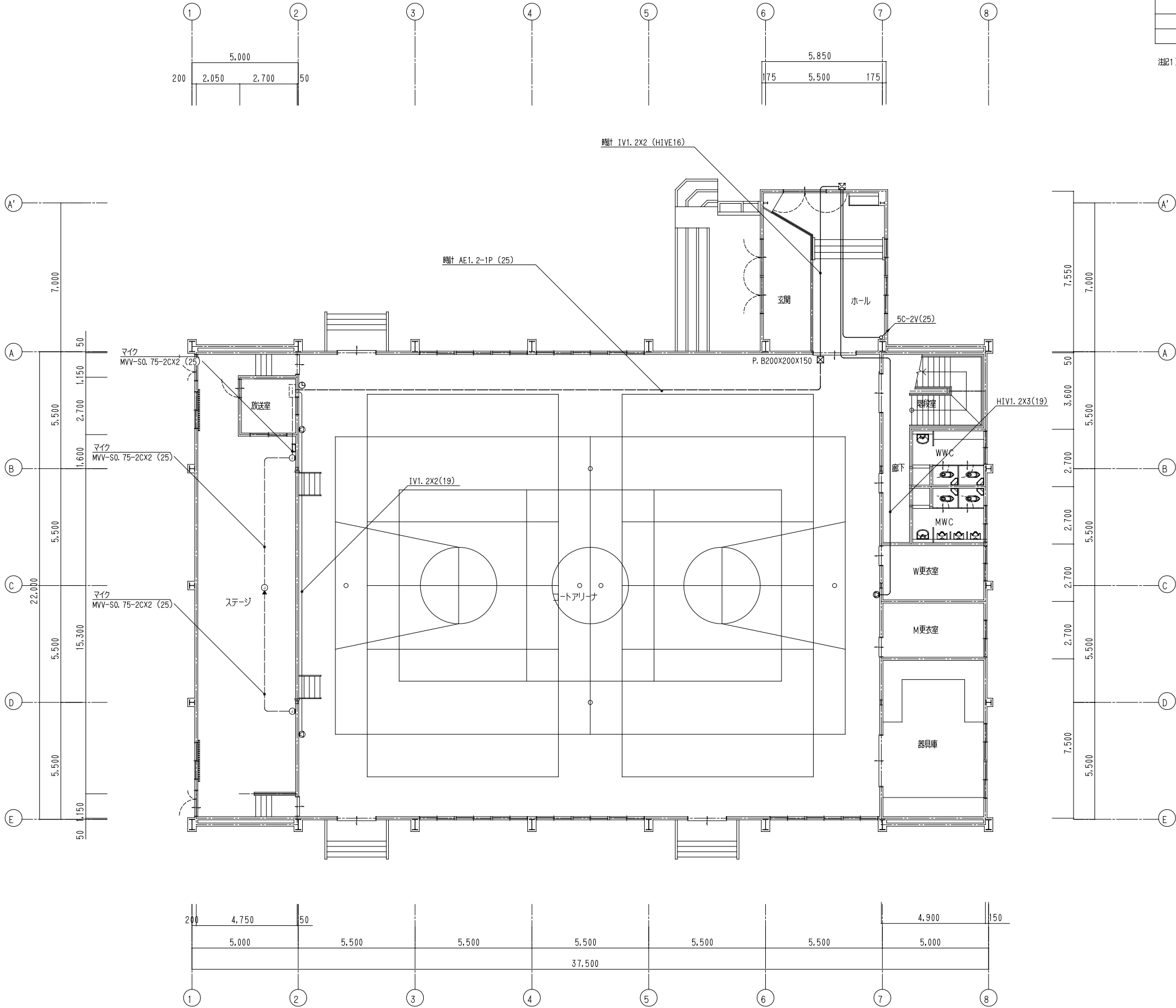
SP-1

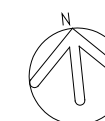
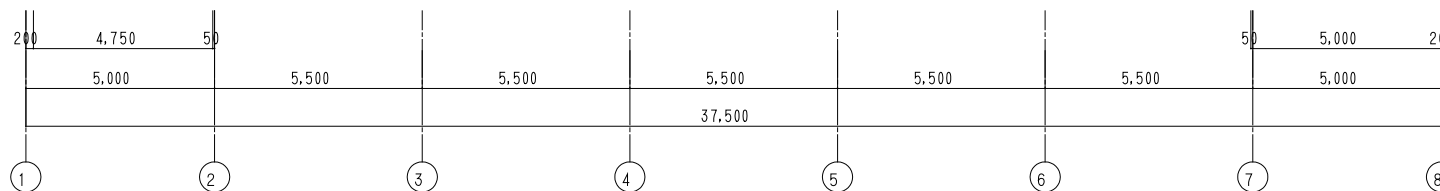
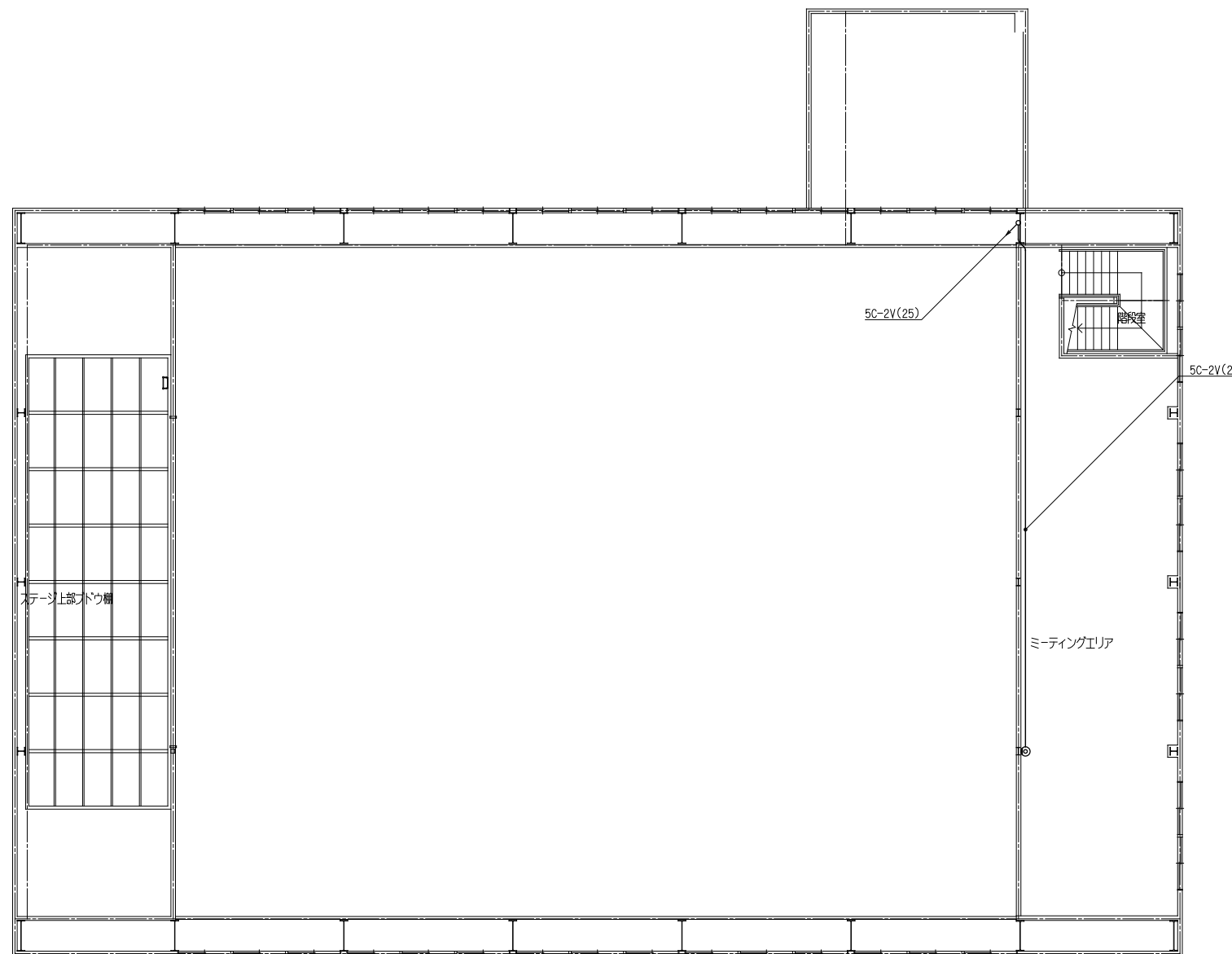
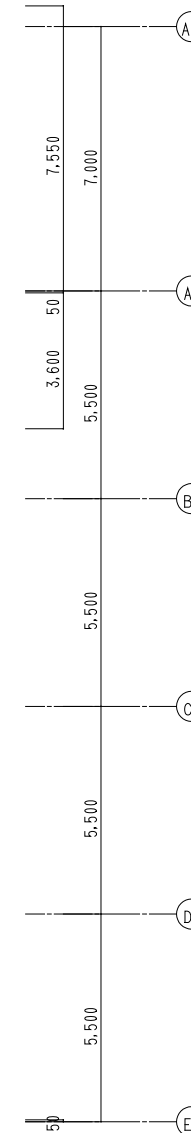
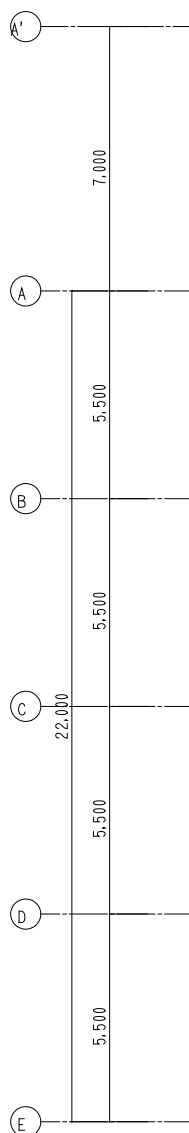
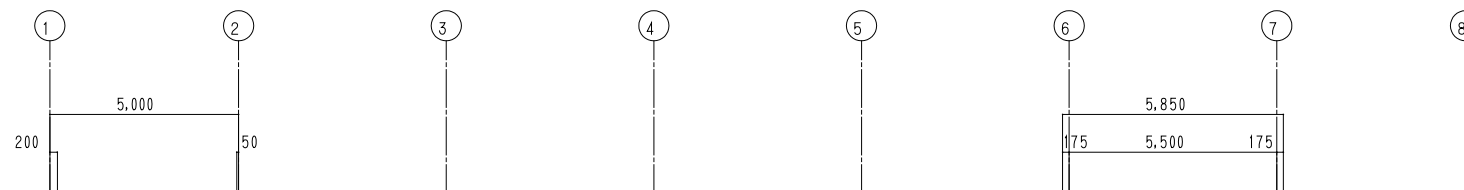
高天井用LED器具

光束31600lm、消費電力164.2W、電圧200~242V
色温度5000K、Ra70、光束タイプ、吊付型
光束維持時間40000時間(光束維持率95%)、電圧内減速
本体・アルミ・ガラス・ポリカーボネート(透明)、アーム:亜鉛めっき
おおよそ100%遮光設計、落下防止フイー付
器具本体(2.4kg)

凡 例		
記 号	名 称 ・ 仕 様	
㊦	子時計	
㊧	スピーカ 壁掛け	
㊨	テレビ端子	

注記1) 図中、太線は撤去を示す。





株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

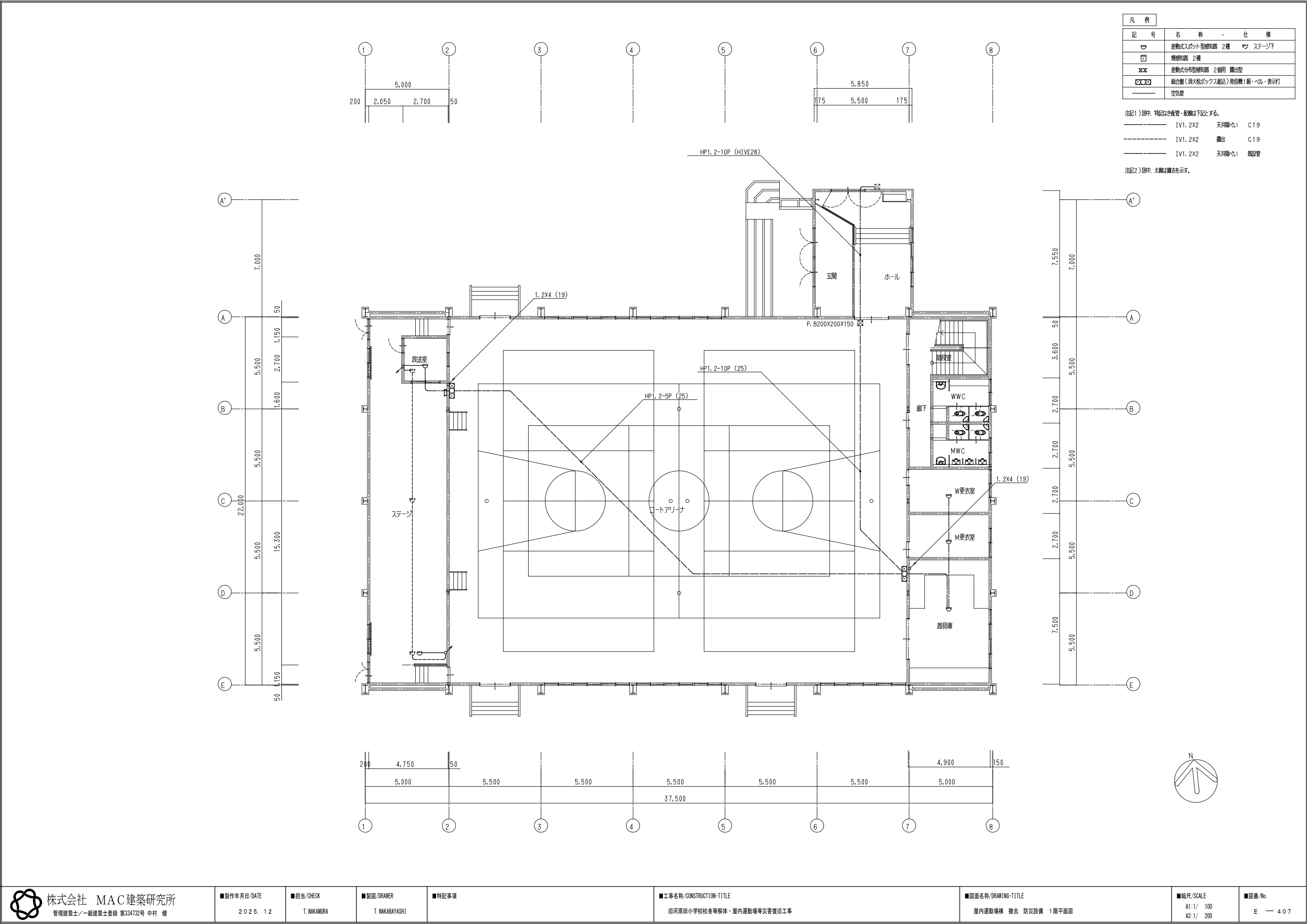
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
屋内運動場棟 撤去 弱電設備 2階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E — 406



凡 例

記 号	名 称 ・ 仕 様
☐	差動式入ボット型感知器 2種 ☐ ステージ下
☐	煙感知器 2種
XX	差動式分布型感知器 2種用 露出型
○○○	総合盤(消火栓ボックス組込) 発信機1級・ベル・表示灯
—	空気管

注記1) 図中、特記なき配管・配線は下記とする。

—	IV1. 2X2	天井隠ぺい	C19
---	IV1. 2X2	露出	C19
—	IV1. 2X2	天井隠ぺい	配設管

注記2) 図中、太線は欄干を示す。



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

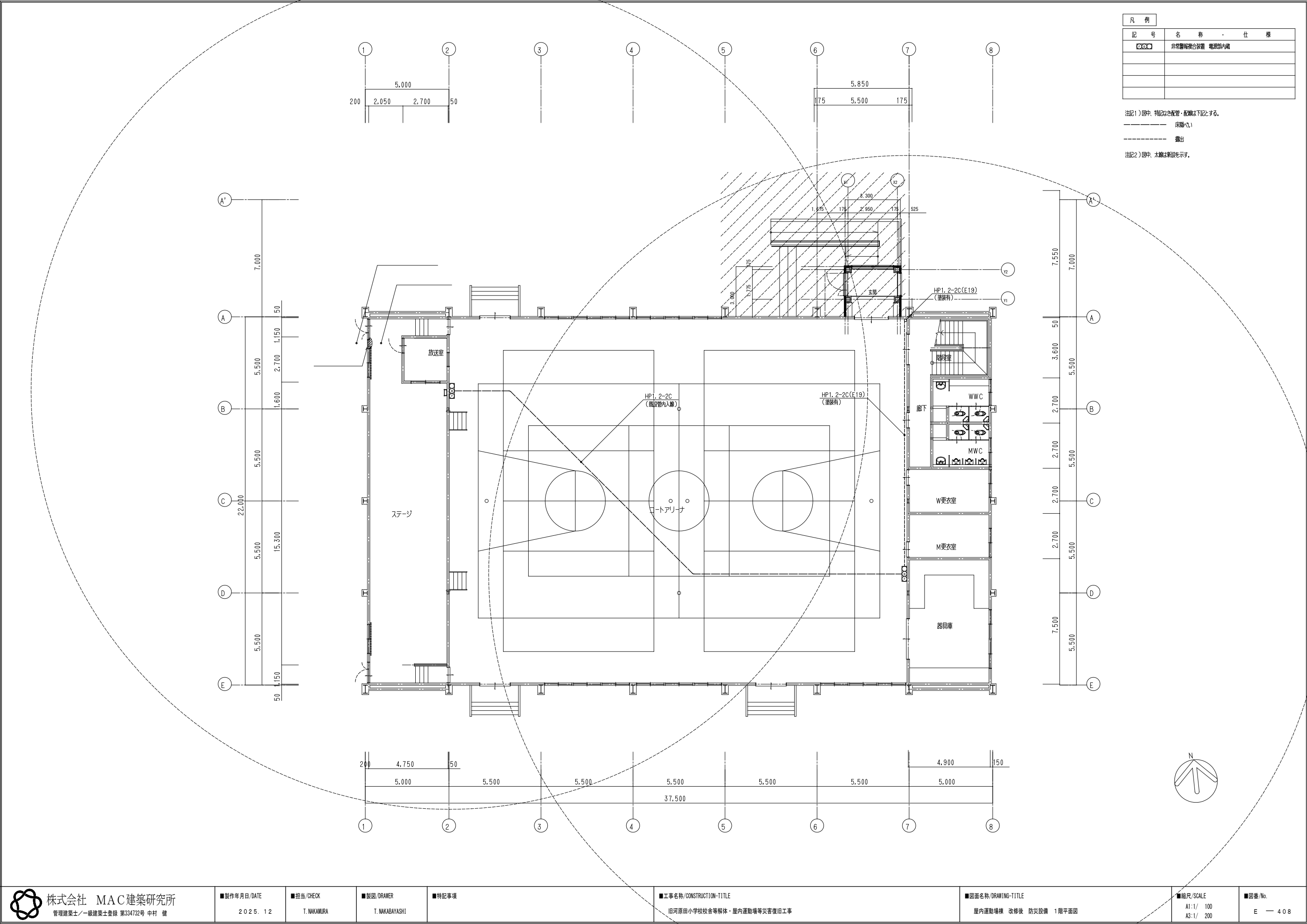
■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
屋内運動場棟 撤去 防災設備 1階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E — 407



株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

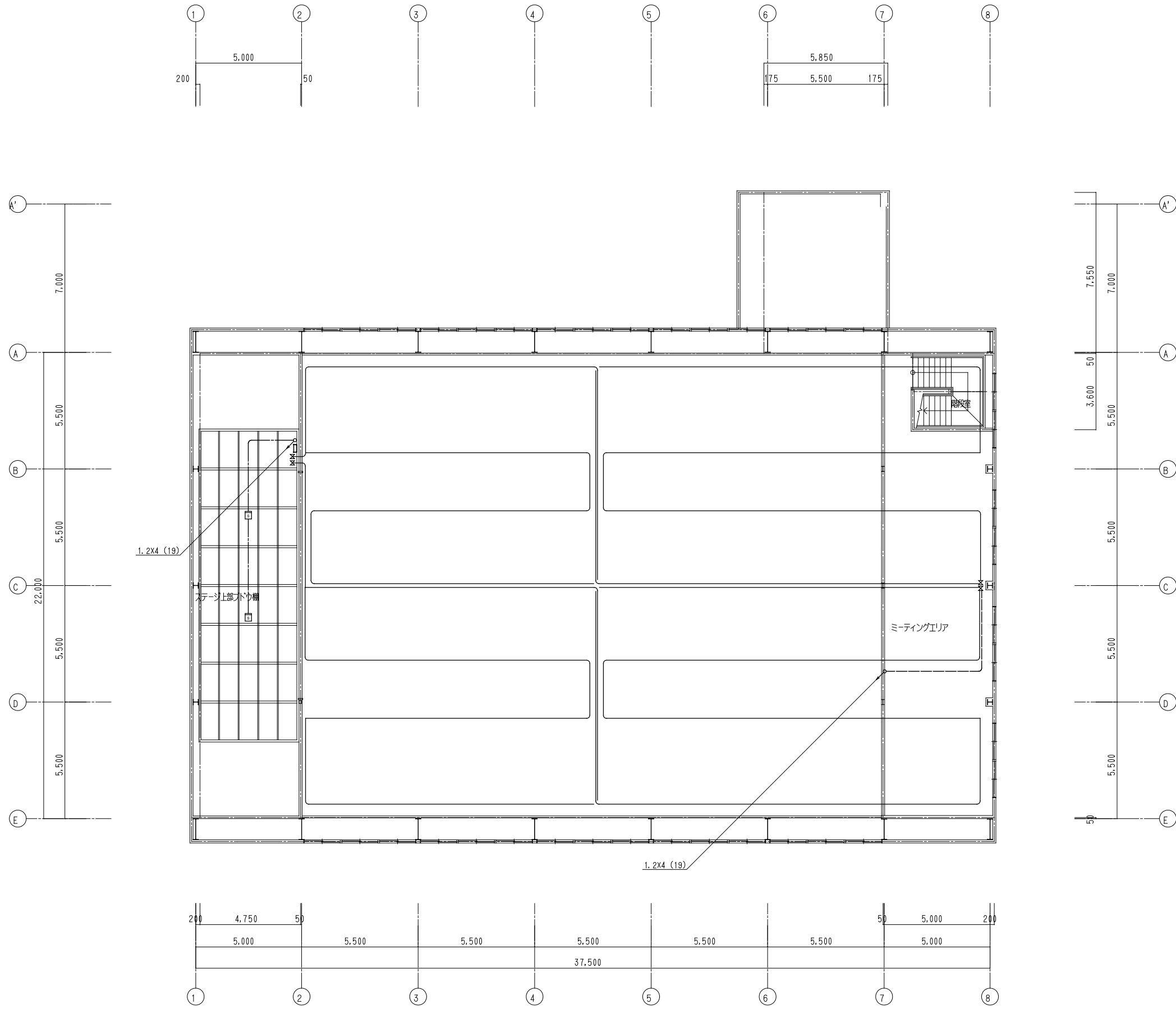
■特記事項

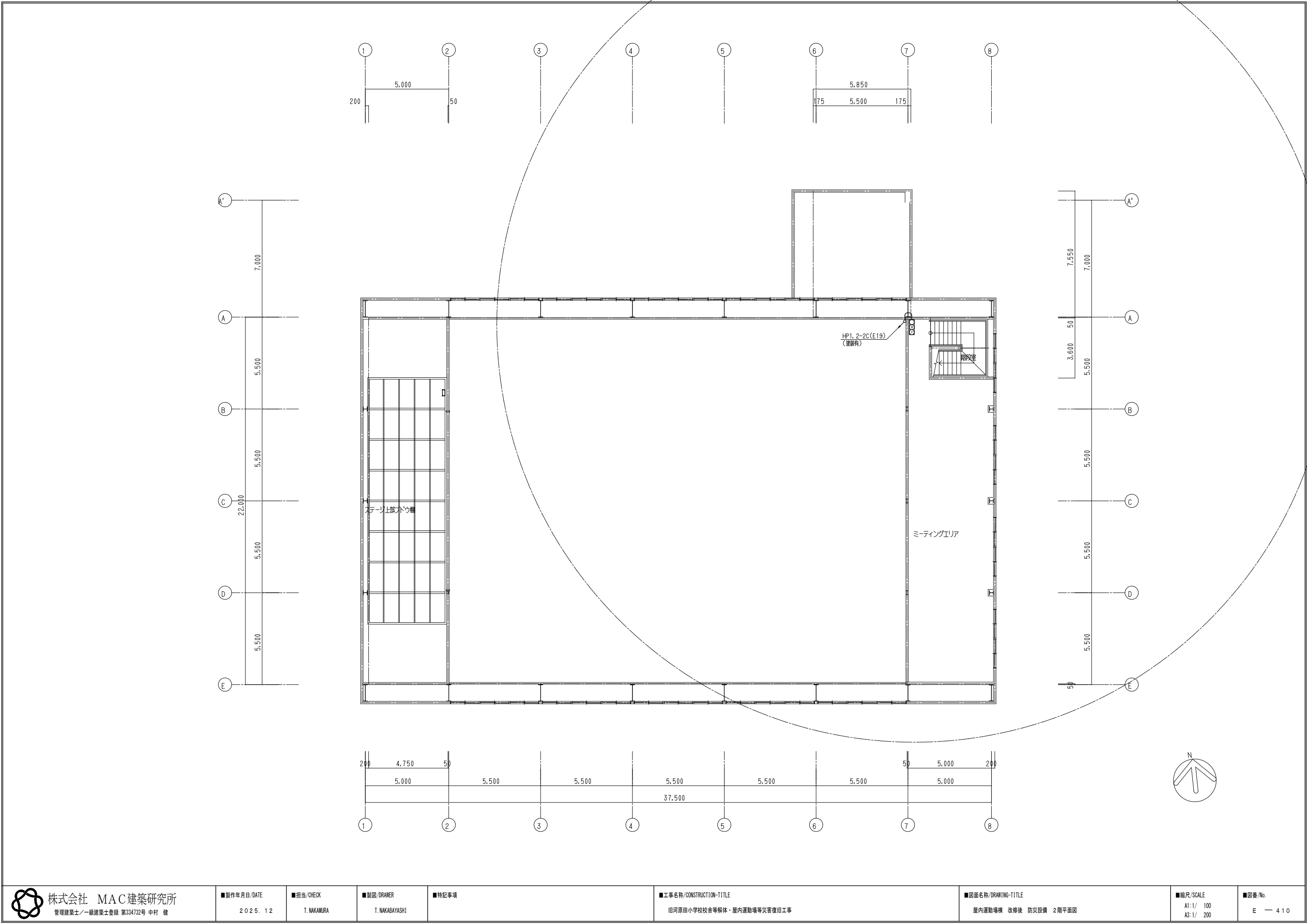
■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
屋内運動場棟 改修後 防災設備 1階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E — 408





株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE
2025. 12

■担当/CHECK
T. NAKAMURA

■製図/DRAWER
T. NAKABAYASHI

■特記事項

■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE
旧河原田小学校校舎等解体・屋内運動場等災害復旧工事

■図面名称/DRAWING-TITLE
屋内運動場棟 改修後 防災設備 2階平面図

■縮尺/SCALE
A1:1/ 100
A3:1/ 200

■図番/No.
E 410